愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第199集

東下地遺跡

２０１６

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第199集

東下地遺跡（ひがしじもいせき）

２０１６

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

東下地遺跡の所在する豊橋市石巻地区には、国史跡馬越長火塚古墳群をはじめ数多くの埋蔵文化財が知られています。また、遺跡の西方に隣接する県道31号「別所街道」は、かつて吉田城と遺跡の北方に所在する国道362号「姫街道」を結ぶ江戸時代の重要な街道でした。

発掘調査により、東下地遺跡は弥生時代中期終わり頃の水田と鎌倉時代を中心とする多量の陶器類がまとまって出土した河道跡、集石墓や土壙が重複する墓地、柱穴群を確認しました。

これらの調査成果を本書に掲載することが、地域誌研究の一翼を担い、多くの方々に活用され、ひいては埋蔵文化財保護に寄与することを願ってやみません。

最後になりましたが、東下地遺跡の発掘調査を実施するにあたり、各方面の方々にご配慮賜り、関係者および関係機関のご理解とご協力をいただきましたことに対して厚く御礼申し上げる次第です。

平成28年３月

公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団

理事長　伊藤　克博

例　言

1．本書は、愛知県豊橋市石巻本町に所在する東下地遺跡（県遺跡番号791299）の発掘調査報告書である。

2．東下地遺跡の発掘調査は、道路改良工事（主）東三河環状線にかかる事前調査として、愛知県教育委員会を通じて委託を受けた公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが実施した。

3．調査期間は平成23年５月から平成24年３月、平成24年６月から７月である。

4．調査面積は平成23年度が10,630㎡、平成24年度が274㎡で、計10,904㎡である。

5．調査担当者は、平成23年度が永井宏幸（調査研究専門員）・川添和暁（調査研究主任）、平成24年度が松田　訓（調査研究専門員）・永井邦仁（調査研究主任）である。

6．発掘調査にあたっては、愛知県埋蔵文化財センター運営協議会委員、同専門委員ならびに次の各関係機関のご指導とご協力を得た。（順不同）

愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、豊橋市教育委員会、愛知県建設部道路建設課東三河建設事務所、玉川校区自治会

7．発掘調査において、平成23年度は株式会社二友組、平成24年度は株式会社波多野組（土木掘削）ならびに株式会社フジヤマ（測量）より調査業務の支援を受けた。支援体制は以下の通りである。

平成23年度　鬼頭　彰（現場代理人）湯川善一・城前喜英（調査補助員）浅井茂樹・東江康拡（測量技師）

平成24年度　澤木智之（現場代理人）村松幸壽（測量技師）

8．報告書作成にかかる整理作業において以下の業務委託をした。

出土遺物の実測・トレース（株式会社イビソク）、報告書編集（新日本法規出版株式会社）、試料の放射性炭素年代測定・樹種および種実同定・プラントオパール分析（株式会社パレオ・ラボ）、金属製品の保存処理（東都文化財保存研究所）、地籍図編集（国際文化財株式会社）、出土遺物の写真撮影（金子和久：有限会社写真工房・遊）

なお、遺物の分類・接合・復元および実測の一部を阿部裕恵・瀧　智美・時田典子・山田友美子（センター整理補助員）が行った。

9．発掘調査および本書の作成において、次の方々のご教示、ご協力を得た。

贄　元洋　岩原　剛　青木　修　中野晴久　藤澤良祐　伊藤真央　森村知幸　森　まどか

10．本書の執筆は第４章（１）～（３）を株式会社パレオラボ小林克也ほか、（４）を鬼頭　剛（調査研究専門員）、それ以外を永井宏幸が担当した。第４章分析のうち、本書未掲載の図・表・写真を含めた分析結果と遺構一覧表、遺物取上単点一覧表、出土遺物観察表などは、本書付属のDVDに収録した。

11．遺構番号は原則として発掘調査時に付した番号を用いた。なお、使用する遺構記号は以下のとおりであるが、厳密な統一はない。

SB：掘立柱建物　SD：溝　SE：井戸　SK：土坑・土壙　SL：炉　SN：水田　SM：盛土　SP：柱穴・ピット　ST：墓・埋葬施設　SU：遺物集積　SX：その他　NR：自然流路

12．発掘調査および本書で用いた方位は、国土座標第Ⅶ系、基準高は東京湾平均海面（T.P.）に基づく。なお表記は

世界測地系である。

13. 本書で使用する土層および出土遺物の色調については、『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄編著）を参考に記述した。

14. 発掘調査の記録（実測図・写真など）は、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターで保管している。なお、遺跡の略記号は「4THS」である。

15. 出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

〒498-0017　愛知県弥富市前ケ須町野方802-24

16. 本書の編集は永井宏幸が担当した。

目次

第１章　調査の概要……1

（１）調査の経緯……1
（２）調査の経過……1
（３）調査の方法……3

第２章　周辺の環境……5

（１）地理的環境……5
（２）歴史的環境……5

第３章　調査の成果……8

（１）基本層序と遺跡の形成過程……8
（２）11A区……9
（３）11B区……33
（４）11C区……40
（５）11D区……40
（６）11E区……43
（７）12A区……45

第４章　分析……47

（１）放射性炭素年代測定……47
（２）樹種同定……49
（３）プラントオパール分析……52
（４）豊橋市北部、東下地遺跡における地下層序……53

第５章　総括……58

遺構図版
遺物図版
遺物観察表
写真図版
報告書抄録

第１章　調査の概要

（１）調査の経緯

東下地遺跡（県遺跡番号791299）は豊橋市街地の北東約５㎞、豊橋市石巻本町（北緯34度47分51秒・東経137度26分14秒）に所在する。現況は畑地、住宅地である。

発掘調査は道路改良工事（主要地方道）東三河環状線事業にかかる事前調査で、愛知県教育委員会を通じて委託を受けた公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが平成23年度、平成24年度に実施した。

調査期間と面積は、平成23年度の発掘調査が平成23年５月９日から平成24年３月16日で10,640㎡（調査担当：永井宏幸・川添和暁）、平成24年度の発掘調査が平成24年６月28日から平成24年７月27日で274㎡（調査担当：松田　訓･永井邦仁）である。調査総面積は10,904㎡である。発掘調査報告書作成にかかる整理等作業は平成26年度と平成27年度に実施し、平成28年３月に本書を刊行した。

発掘調査の手続きは以下の通りである。

平成23年度

発掘届出（23埋セ第1号・2011.4.1）

通知（23教生第214号・2011.4.20）

終了届・保管証・発見届（23埋セ第175号・2012.3.16）

鑑定結果通知（24豊教美21・2012.4.5）

平成24年度

発掘届出（24埋セ第1号・2012.4.4 ）

通知（24教生第289号・2012.4.27）

終了届・保管証・発見届（24埋セ第61号・2012.7.27）

鑑定結果通知（27豊教美53・2015.5.7）

東下地遺跡は、豊橋市教育委員会が平成10年度から平成15年度まで実施した市内遺跡詳細分布調査によって発見された新規の遺跡（市遺跡番号27-73）である。発掘調査にあたって、事前に範囲確認調査を実施した。範囲確認調査は平成22年４月19日から５月17日に事業予定地内における遺跡の範囲と性格の確認を目的におこなった。調査は公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター（担当者：鈴木正貴・永井邦仁）が担当した。調査の方法は、対象地内に計25地点の試掘坑（テストトレンチ）を適宜設定し、土層の堆積状況、遺構の有無、遺物の出土状況などを調査し、遺跡の範囲とその性格を確認した。調査は合計50㎡おこなった。

範囲確認調査の結果を受けて、県教育委員会生涯学習課文化財保護室、県埋蔵文化財調査センターおよび事業者である県建設部道路建設課との協議の上、事業用地内の発掘調査の計画が進められた。

発掘作業と整理等作業の体制は以下の通りである。

発掘調査は各年度に調査業務の支援を受けた。

平成23年度　株式会社二友組

鬼頭　彰（現場代理人）湯川善一・城前喜英（調査補助員）浅井茂樹・東江康拡（測量技師）

平成24年度　株式会社波多野組（土木掘削）・株式会社フジヤマ（測量）

澤木智之（現場代理人）村松幸壽（測量技師）

報告書作成にかかる整理作業等において以下の業務委託をした。

出土遺物の実測・トレース（株式会社イビソク）、報告書編集（新日本法規出版株式会社）、試錐調査（アーキジオ株式会社）、試料の放射性炭素年代測定・樹種および種実同定・プラントオパール分析（株式会社パレオ・ラボ）、金属製品の保存処理（東都文化財保存研究所）、地籍図編集（国際文化財株式会社）、出土遺物の写真撮影（金子和久：有限会社写真工房・遊）

なお、遺物の分類・接合・復元および実測の一部を整理報告担当者である永井宏幸のもと、阿部裕恵・瀧　智美・時田典子・山田友美子（センター整理補助員）が行った。

（２）調査の経過

調査の経過で記す調査概要の内容は、年報など既報告を基に一部改変して引用した（永井邦2011、永井宏・川添2012、永井邦2013）。

（ａ）範囲確認調査

範囲確認調査は、事業予定地内における遺跡の範囲と性格の確認を目的とし、平成22年４月19日から５月17日にかけて実施した。調査面積は50㎡である。

調査の方法は、調査対象地内に計25地点の試掘坑（テストトレンチ、以下T.T.と略す）を適宜設定し、土層の堆積状況、遺構の有無、遺物の出土状況などを調査し、遺跡の範囲とその性格を確認した。

T.Tの配置は図２に示した通りである。T.Tは２ｍ×１ｍとし、対象地内に10m間隔で配置するようにT.T.1からT.T.25の25地点を設定した。

作業手順としては、バックフォーを用いて表土部分を掘削後、人力で遺構・遺物の検出を行い、土層状況などの記録をしたのちに埋め戻した。

調査の結果、試掘坑はその内容からＡ～Ｅ群に分けられる。Ａ群T.T.の礫層は、神田川が現在の流路になりつつあった頃に形成されたものと考えられ、Ｂ～Ｅ群T.T.との間に、その端が推測される。また、Ｄ群では礫層検出深度が深いことから、神田川の旧流路がＤ・Ｅ群T.T.付近にあったこ

図１　豊橋市の位置

とが推測される。ただしそれも埋没が進み、その上層で中世段階の遺構が形成されたようである。

このことから、もともとの微高地でありかつ神田川現流路に影響を受けていないＢ群T.T.が最も遺構・遺物が濃密に展開する地点として理解される。また、T.T.11・12西方の柿畑は調査できなかったものの神田川と平行に同様な堆積状況が展開していることが推察されることから、遺構・遺物の検出が予想された。この範囲確認調査の時点では、本調査によって明らかになった弥生時代中期を中心とする水田跡は確認されていない。ちょうどT.T.のＣからＤ群にかけての範囲が水田域に相当する。

（b）2011年度の調査概要

2011年度の発掘調査は範囲確認調査の結果を受けて、平成23年5月９日から平成24年３月16日まで実施した。一部事業者側との調整により、2012年度に繰り越された対象地を除く10,640㎡を実施した。

A区　中世を中心とする遺構群が調査区全体にひろがり、弥生時代の水田跡が調査区北西側を中心に展開する。

水田跡の調査　水田跡は、A区の北西隅を中心に確認した。調査区全体に水田跡の確認できなかった理由として、古代以降の砂礫層をともなった洪水性の堆積による削平がある。したがって、低位部分に砂層と細礫層によって覆われたところが偶然残存したと想定できる。

畦畔の配置は、不定形で一面あたりの面積も３～８㎡で、小区画水田に相当する。

中世墓群の調査　Ab区東寄りに幅５m、長さ10mの範囲に密集した集石を伴う土壙群がある。当初は周辺の大礫層がシルト層の厚く堆積する上位に散在していると認識した。ところがこの土壙群の南端、すこし離れたところから不定形に広がる集石を検出した。大礫を除去すると短刀と山茶椀と山皿が重なって出土した。人骨は確認できなかったが、3.4×1.1mの礫敷土壙の上位に、1.5×0.5mの長楕円にシルト層があった。この大型土壙検出をきっかけに、拳大くらいの礫が集積した箇所を精査したところ、25基の土壙を確認した。さらに隣接する箇所に、礫のない土壙も多数あり、都合40基以上の墓壙群となった。

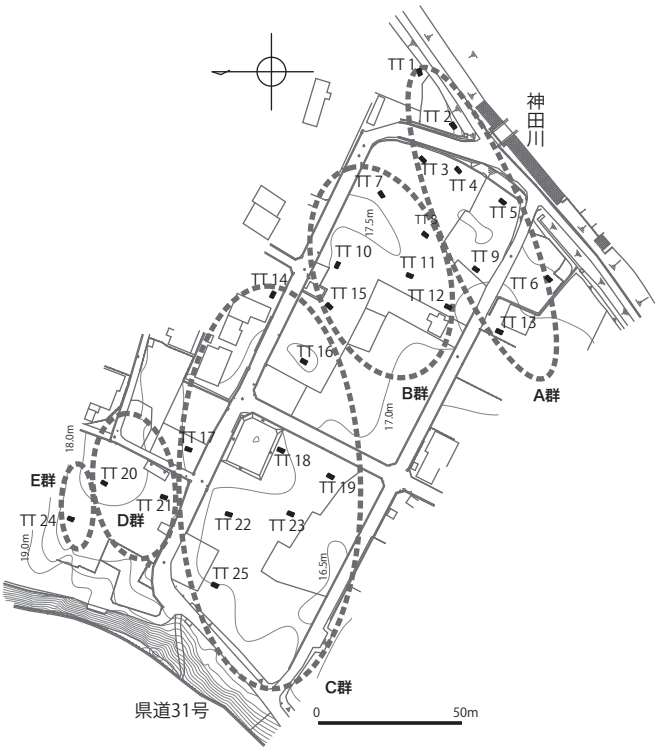


図２　範囲確認調査トレンチ配置図

柱穴群の調査　中世墓壙群の西側は細礫に覆われた柱穴を200箇所前後検出した。大きさは径20㎝前後、深さ50㎝ある比較的しっかりとした掘りかたの柱穴が多い。柱痕のあるもの（約60基）も含み、なかには柱の残欠と礎板を確認した柱穴もあった。

中世の河道　Aa区北東寄りに幅10m前後の蛇行する河道を確認した。検出時は土師器片などがほかの場所に比べて多い程度の認識であった。河道の深度を確かめるためトレンチを数カ所入れると、おもに河道西寄りから13世紀代を中心とする完形品の山茶椀をはじめ遺物の集中する所があった。全面掘削の調査段階では、数カ所に大量の遺物投棄があった。なかでも入り江状になった所は大礫が敷かれたように集中し、そこに隣接して山茶椀・桃の種子などがまとまって出土した。

河道の堆積は下位に砂礫層がひろがる。その上位にシルト層が堆積し、とくに河道の岸辺を中心に遺物が出土した。土師器皿が相当量あり、山茶椀より多い。椀皿類を中心に、完形品が多く、使用頻度の高くないものが多い。尾張型の椀・皿類が相当量ある。

中世末から近世の溝群　神田川に近いAa区東寄りは川の本流部分である。表土近くから中・大礫を中心とした礫層が厚く堆積する。この礫層が途切れる付近に１m前後の段差がある。この段差を利用した縁辺に、溝群がある。とくに下段の溝は幅５m前後ある大溝であった。遺物は15世紀代の土師器鍋がまとまっている所を除くとあまりない。

そのほか、Aa区で検出した400基近い土坑などは、ほとんど遺物を含まない浅い掘り込みの遺構であった。土色と土質の明確な差異はない。したがって、人工的な掘り込みではない遺構も相当量ある。そのなかでも土師器皿が20枚程度完形品で出土した土坑、水晶の数珠玉と人骨が出土した土坑はAb区の中世墓群との関連性が指摘できる。

B区　Ｂ区は、遺跡西端の段丘下に設定した調査区である。西接する段丘はやや舌状に張り出す形状を呈しており、Bb区中央部付近で最も張り出している。

Ba区の層序は、上から、表土（20～30cm）、黒褐色シルト（20～30cm）、砂礫層（最大70cm）、灰黄褐色シルト（約30cm）、にぶい黄色褐色シルト（５～10cm）、黄褐色シルトである。黒褐色シルト層は、調査区全面に広がりが確認できる。やや斑土状を呈する土壌で、ごくわずかに戦国期あるいは近世の陶器片が出土した。畑地など中近世の耕作土であったと考えられる。砂礫層は、調査区西側で特に厚い堆積を確認できたもので、西側に展開するにつれて層厚が著しく薄くなる。灰黄褐色シルト層は、後述するBb区の成果から、弥生後期以降の水田耕作土と考えられるが、この調査区では認識が至らず検出し得なかった。にぶい黄色褐色シルト層は黄褐色シルト層（基盤層）への漸位層である。この層で、灰黄褐色シルト層に存在した水田畦畔の擬似畦畔と、弥生時代前期の土器群が出土した。擬似畦畔は５×５m以下の小区画である。弥生時代前期の土器片は自然地形の凹地あるいは自然流路内に土器片が散在している状態で見つかった。

Bb区の基本層序はBa区と同様であるが、段丘縁の西側

区域とBa区から連続する東側区域とで、様相が大いに異なる。西側区域では、南北に走る大きな自然流路が見つかり、流路内の黒褐色シルト層相当層で、小規模な水田を検出した。また、砂礫層下の中洲状の低位の高まりで、地山直上で水田耕作土と考えられる均質なシルト層を確認した。これはＣ区の水田畦畔に対応するものと考えられる。一方、東側区域では、灰黄褐色シルト層上面で、極めて良好な状態で小区画水田を検出することができた。砂礫層の堆積が、水田畦畔をパックしていたためと考えられる。水田は構成配置の異なる２面の水田（上面・下面）を確認できた。上面の水田は３×３ｍ程度の小区画水田が東側区域全面で見つかった。畦畔内の耕作土からは弥生時代後期以降の土器片がまとまって出土した。一方、下面の水田は、自然流路際に展開しており、溝・大畦畔・導水路・小区画水田をセットで確認することができた。溝から出土した炭化物のAMS年代測定値は弥生時代中期末頃（前1世紀前半を中心とする値）であった。また、下面水田脇の黄褐色シルト層直上では、土坑状の落ち込みと馬蹄形を呈する溝が１セットとなった炉跡が３セット以上重複した状態で見つかった。

Ｃ区　遺跡北西端にあたる位置に設定した調査区である。台地直下にあたる調査区西側では、Bb区西側区域同様、南北方向に走る河道が見つかった。河道東側では、北東から南西方向に、地形の傾斜に沿って小区画水田群を確認した。水田は数回営まれているようであるが、配置の変換点にあたる大畦畔状の場所に、焼土および炭化物が集中して出土した。畦畔の残存状態が良好であったため、部分的に都合11回の検出を繰り返す結果となった。

Ｄ区　中世以降の堆積層は、全面にわたり礫層が覆う。何度も大量の礫をともなう流水性の堆積に削平された結果と考えたい。Ｃ区寄りの部分は畑地に相当する堆積があったものの、近代以降の遺物を含む堆積が下位にあった。弥生水田はこれら礫層の下位にある。南側に隣接するAb区の水田、西側に隣接するＣ区の水田と同一層序である。自然地形に沿った小区画水田が調査区西寄りに広がる。

Ｅ区　E区は市道と民地との境界に挟まれた調査区で、狭小な調査区であった。そのため、小型のバックフォーで掘削し、層序の確認を主目的とした。遺物・遺構ともに確認できなかった。

（Ｃ）2012年度の調査概要

2012年度の調査地点は2011年度調査区の北西隅にあたり、野添遺跡のある台地縁辺に近い地点である。南側と西側が既調査地であり、特に南側でみられた水田とそれに伴う溝の延長が予想され、調査区東端付近で水田と溝が検出された。溝は礫を多数含む水流の影響によって各所で抉られ不定形である。遺物は摩滅の激しい土師器小片が若干出土したのみで弥生時代後期以降の可能性が考えられる。溝の東側に水田が検出されたが出土遺物はなく時期不詳である。一方、調査区西半部は段丘崖の斜面にかかり、耕作地化などで削平されているため遺構は検出されなかった。

（ｄ）地元説明会

地元説明会は2011年度に実施した。平成23年９月３日に開催し、45名の参加者があった。説明会の内容としては、11Aa区の鎌倉時代を中心とする遺構群と11Ba区の弥生時代の水田跡、出土品を展示した。

（ｅ）整理等作業

整理等作業は、平成26年度と平成27年度に実施した。

平成26年度は出土遺物の分類と接合を行い、接合後に実測・トレースを株式会社イビソクに業務委託した。分析試料については、試料の選別後、放射性炭素年代測定・樹種および種実同定・プラントオパール分析については株式会社パレオ・ラボへ、金属製品の保存処理については東都文化財保存研究所、地籍図編集については国際文化財株式会社へそれぞれ委託した。

平成27年度は出土遺物の実測・トレースを株式会社イビソクに業務委託した。出土遺物の撮影は有限会社写真工房・遊（金子和久）に委託した。そのほか、平成26年度に引き続き出土遺物の分類・接合・復元作業を経て、収納した。報告書執筆と図版作成は平成26度から準備し、平成27年度から本格的作業に移った。報告書刊行にむけて編集作業の一部を新日本法規出版株式会社に委託した。平成28年３月に報告書を刊行し、関係諸機関へ発送し業務は完了した。

（ｆ）発掘調査後

東下地遺跡を含め、東三河環状線の関連調査は2006（平成18）年度の西浦遺跡の発掘調査を皮切りに断続的に行われ、2014（平成26）年度の野添遺跡の発掘調査まで終了した。引き続き整備工事が進行し、東三河環状線石巻工区の工事が完了、これらの事前調査部分の道路は2015年３月24日に開通した。

（３）調査の方法

発掘調査の方法は、『発掘調査のてびき（以下『てびき』とする）（文化庁文化財部記念物課監修2010）および『愛知県埋蔵文化財センター基本マニュアル2011（以下『マニュアル2011』とする）』に基づきおこなった。

（ａ）調査区とグリッドの設定

東下地遺跡の調査は、範囲確認調査の結果を受け、事業地内の市道部分を除く10,904㎡を対象に行われた。平成23年度の調査区は市道によって大きく５分割し、11Ａ区から11Ｅ区を設定した。平成24年度の調査区は11Ｃ区の北東部分に設定した。グリッドは『てびき』に基づき10ｍグリッドを採用した。ただし遺物が多量に出土した11A454SXの場合、蛇行する河道にトレンチとベルトを任意に設定し、都合16区画を別途設定した。

（ｂ）表土の掘削と遺構の検出

包含層はほとんどの調査区で削平されており、表土部分の掘削を終了すると遺構検出面に到達する。そのため、表土掘削はバックフォーを利用して掘削作業を進め、遺構検出面より数㎝上位から人力による掘削を開始し、遺構の検出を進めた。最初の遺構面から下位の遺構面までは洪水層など無遺物層が間層として認められたので、場合によってはバックフォーを利用して遺構検出の短縮を図った。遺構検出の時に出土した遺物は、上位の検出から順に、「検１」・「検２」……と付し10ｍグリッドで取り上げた。ただし、形の把握できるような大きな破片などは個別に番号（ｄ番号）を付け取り上げた。これは遺構出土の資料も同様に取り上げ、番号は調査年度ごとに通し番号を付けた。

（c）発掘作業

遺構の調査方法としては、１m前後以上の遺構について十文字あるいは長軸方向にベルトを残し、溝（SD）遺構については短軸方向にベルトを残し、土層を確認しながら掘削し、写真撮影および随時土層の記録作成をおこなった。柱穴などの場合は、柱痕を確認するため、半截し土層観察と写真撮影および記録作成をおこなった。検出・掘削遺構については、『てびき』に準じて各調査区の通り番号と遺構の性格を記号化した表記をおこなった。掘削途中あるいは調査後の検討によりSDをSKに変更、あるいは遺構認定を取り消した場合もある。その時は遺構番号を変更することなく、記号を変更、取消遺構を欠番とした。また、東下地遺跡では遺構面の判別が不安定であったので、調査区壁面に設定した標準トレンチの記録とあわせて、調査区内を10mグリッドに沿ってトレンチ掘削を各所でおこなった。さらに水田跡の堆積状況を示すため、例えば耕作土と畦畔の関係を示す断面図など、数多くの図面を作成した。これらについては調査内容の再検討する上で重要であると判断したので、報告書の頁数を大きく割いて掲載した。なお、ほとんどの図面作成は電子平板を活用し、掘削後すみやかに遺構図の編集をおこなえるよう努めた。

（d）写真撮影

写真撮影者は委託業務に組み込まれており、株式会社二友組の調査補助員湯川善一がおもに担当した。ただし、平成24年度の調査については愛知県埋蔵文化財センターの永井邦仁が担当した。空中撮影は11Ａ区の撮影時にラジコンヘリコプターを用いた撮影をした以外に、調査区の各面終了時点に高所作業車を用いた撮影を中心におこなった。作業工程写真は現場代理人鬼頭　彰がおもに撮影し、調査担当者である永井宏幸・川添和暁（平成23年度）、松田　訓・永井邦仁（平成24年度）も随時撮影し、工程管理と調査進行中の検討用として撮影した。各個別遺構の写真については、検出→掘削→断面観察→遺物出土状況→完掘を基本的な流れとして撮影した。標準土層の記録として、調査区壁面に設定した壁面トレンチも図面作成にあわせて撮影した。

写真記録に用いた撮影機材は主としてデジタル一眼レフカメラ（CanonEOS 5D Mark Ⅱ）を使用した。なお工程管理や調査進行を記録する写真は、別途汎用性の高いコンパクトデジタルカメラを採用した。

（e）自然科学分析

自然科学分析は、第４章に掲載したとおり、（４）「豊橋市北部、東下地遺跡における地下層序」の記述（愛知県埋蔵文化財センター鬼頭　剛）以外は業務委託である。ただし、発掘調査時の試料採取は専ら鬼頭　剛が、あるいは指示のもと委託業者がおこなった。

（f）整理等作業

整理等作業は、平成26年度と平成27年度に実施した。

平成26年度は出土遺物の分類と接合を行い、接合後に実測・トレースを株式会社イビソクに業務委託した。分析試料については、試料の選別後、放射性炭素年代測定・樹種および種実同定・プラントオパール分析については株式会社パレオ・ラボへ、金属製品の保存処理については東都文化財保存研究所、地籍図編集については国際文化財株式会社へそれぞれ委託した。

平成27年度は出土遺物の実測・トレースを株式会社イビソクに業務委託した。出土遺物の撮影は有限会社写真工房・遊（金子和久）に委託した。そのほか、平成26年度に引き続き出土遺物の分類・接合・復元作業を経て、収納した。報告書執筆と図版作成は平成26度から準備し、平成27年度から本格的作業に移った。

平成27年12月25日に、報告書作成のための指導として藤澤良祐（愛知学院大学教授）、中野晴久（愛知学院大学講師）、青木　修（瀬戸市文化振興財団）の３名を招聘し、とくに中世陶器の産地と時期比定を教示いただいた。

報告書刊行にむけて編集作業の一部を新日本法規出版株式会社に委託した。平成28年３月に報告書を刊行し、関係諸機関へ発送し業務は完了した。

資料の保管に際して、愛知県埋蔵文化財センターの『マニュアル2011』に準じ、報告書掲載資料（Ｂ）、重要遺構等資料（Ｃ１※）、遺構出土資料（Ｃ１）、その他出土資料（Ｃ２）とし資料にランクを付した。

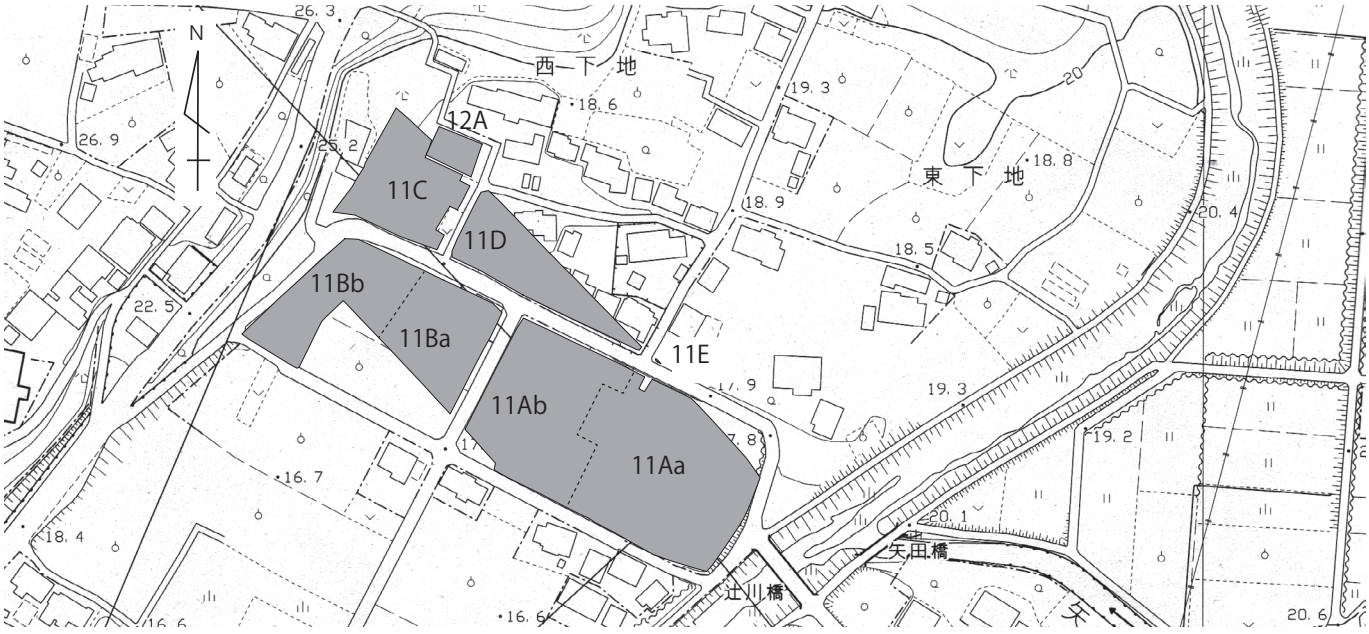


図３　東下地遺跡　調査区配置図（1:2,500）

第２章　周辺の環境

（１）地理的環境

豊橋市は愛知県と静岡県の県境に位置する。県境付近には弓張山地が南北に延び、その西側を中央構造線に沿って北東から南西に下降する豊川に挟まれたところに豊橋市はある。豊川の河口部から直線距離で約10㎞さかのぼると豊橋平野の北東端になる。ここから標高は高くなり、静岡県との県境につながる赤石山脈の支脈である弓張山地まで５㎞もない。豊橋市内は高い山がなく、弓張山地につながる石巻山（358m）が最も高く、豊川の河口部を横切る鉄道から眺望できるランドマークである。東下地遺跡から石巻山の山頂へは約4.5㎞、徒歩で２時間かからない距離である。

東下地遺跡は、愛知県の南東部、豊川の下流にあたる豊橋平野の中央部東端に位置する。豊橋平野を下降する豊川の左岸に形成された豊川左岸台地（木村ほか1981）を豊川の支流である神田川に開析された沖積地に立地する。現況の標高は17m前後、北西に隣接する野添遺跡がある台地「牛川面」の標高は28m前後で、比高差は約11mである。

遺跡の位置する沖積地は、神田川と石巻神郷地区から流れ込む矢田川の合流地点に近い。河川の護岸工事による整備がされるまで、たびたび氾濫する場所であったという。実際、東下地遺跡11A区の東端は氾濫によって削平された低い部分には、河川から押し出された礫群が堆積していた。

（２）歴史的環境

東下地遺跡の所在する石巻地区は古くから遺跡が多く知られる地区であった（木下1975）。豊橋市教育委員会は1998年度から2003年度にかけて市内遺跡詳細分布調査を実施した（岩瀬ほか2004）。このうち2001年度の分布調査によって石巻地区を中心に101ヶ所の新規の遺跡が確認された。東下地遺跡はこの調査によって発見された新規の遺跡である。

旧石器から縄文時代　旧石器時代の遺跡は知られていない。可能性のある石器は高井遺跡や大清水遺跡で出土している。東下地遺跡では剝片石器など数点出土しているが、縄文時代の所産であろう。縄文時代に入ると早期の遺跡がいくつかある。嵩山蛇穴遺跡（国史跡「嵩山の蛇穴」）をはじめ、東下地遺跡に隣接する多り畑遺跡は神田川をはさんで対岸の台地上にある。多り畑遺跡では、東三河環状線関連の調査によって新たに早期後半の押型文土器と同時期の竪穴建物２棟がみつかった。東下地遺跡では早期の遺構と遺物はないが、隣接する河岸段丘上の大清水遺跡では押型文土器が出土している。なお、神田川を挟んで南側の波ノ上遺跡では早期後半の押型文土器を中心とする時期の竪穴建物１棟と炉穴、集石遺構などがまとまって確認されている（芳賀ほか2010）。次いで、前期の中岡遺跡、中期の玉川変電所遺跡で遺物が採集されている以外に前期から中期の遺構・遺物は確認されていない。後期は多り畑遺跡と白石遺跡から遺物が出土している。東下地遺跡では後期前葉の土器が１点確認されている。神田川を挟んだ両岸に後期集落の存在が想定されるが、いずれも小規模な集落であろう。さらに晩期以降、東下地遺跡周辺に遺跡が点在するようである。特に白石遺跡と玉川変電所遺跡は、まとまった遺物が出土している（贄ほか1993）。なかでも白石遺跡は出土した土器の時期から、後晩期にかけて継続する集落の可能性がある。東下地遺跡では、晩期中～後葉の土器が出土している。

弥生時代　前期の環濠集落として著名な白石遺跡がある。東三河では数少ない遠賀川系土器を伴う集落である。東下地遺跡では、中期末の水田跡より下位からみつかった窪み状の遺構に、前期後葉の条痕文土器片がまとまって出土した。中期中葉以降は高井遺跡が後期・終末期にかけて継続する集落として注目できる。特筆すべき遺構としては中期後葉の方形周溝墓、後期中葉の寄道式を中心とする環濠がある（贄ほか1996）。東下地遺跡では台地縁辺を利用した中期末を中心とする水田跡が確認された。東三河では初見である。水田を営んだ集落遺跡は隣接する遺跡から高井遺跡が想定できる。

古墳時代　古墳時代前期の集落は波ノ上遺跡がもっとも充実している。古墳時代後期へと続く集落とこれに伴う古墳もある（芳賀ほか2003・2010）。なお、前期の前方後円（方）墳は東下地遺跡から北へ約３㎞の馬越地区に権現山１号墳、勝山１号墳、茶臼山１号墳などが集中する。中後期の集落と古墳は石巻地区の各所で確認されている。東下地遺跡では古墳時代の遺構と遺物が未見であるが、神田川を挟んで東側の台地には多り畑遺跡、白山Ⅰ・Ⅱ遺跡、西屋敷Ⅰ遺跡から、竪穴建物を含む小規模な集落が確認されている（贄ほか1986など）。東下地遺跡に隣接する台地上には40基以上の方墳と円墳によって構成される高井古墳群が台地西側縁辺を中心に営まれている。ただし、この台地上の集落構成は未確認である。さらに神田川を挟んで南側の台地にある挟間（森岡）遺跡、波ノ上遺跡では、円墳と方墳を含む古墳群と竪穴建物などによって構成される集落遺跡がある（北村1989・芳賀ほか2009など）。また前期の前方後円（方）墳群に引き続き馬越地区では、全長70mを測る馬越長火塚古墳（前方後円墳）に代表される６世紀後葉から７世紀にかけての首長墓群が形成される。これらの古墳は東三河に存在した穂国の国造らの墓とされている。もうひとつ注目しておきたいのは、石巻地区に100基を超える古墳が存在する一方で、石巻山のある山麓には古墳が希少である。信仰の対象とされていた付近の造墓を禁忌していたのであろうか。

奈良・平安時代　東下地遺跡では少量の遺物が確認されているが、河道以外に遺構はない。野添遺跡は、奈良・平安時代の竪穴建物が10棟近く確認された。ほかの隣接する遺跡としては、東下地遺跡に南接する西砂原遺跡と庄司ケ下遺跡から須恵器などがまとまって採集されている。

鎌倉・室町時代　東下地遺跡の中心となる時期である。東下地遺跡の調査成果としては、河道とその右岸に展開する集石墓や土壙が重複する墓地、その西側に隣接して展開する柱穴群が確認された。神田川を挟んで東側の台地上の白山Ⅰ・Ⅱ遺跡がある。調査成果より中世の豪族居館と指摘のある大溝や掘立柱建物、井戸などが報告されている（贄ほか2003ほか）。

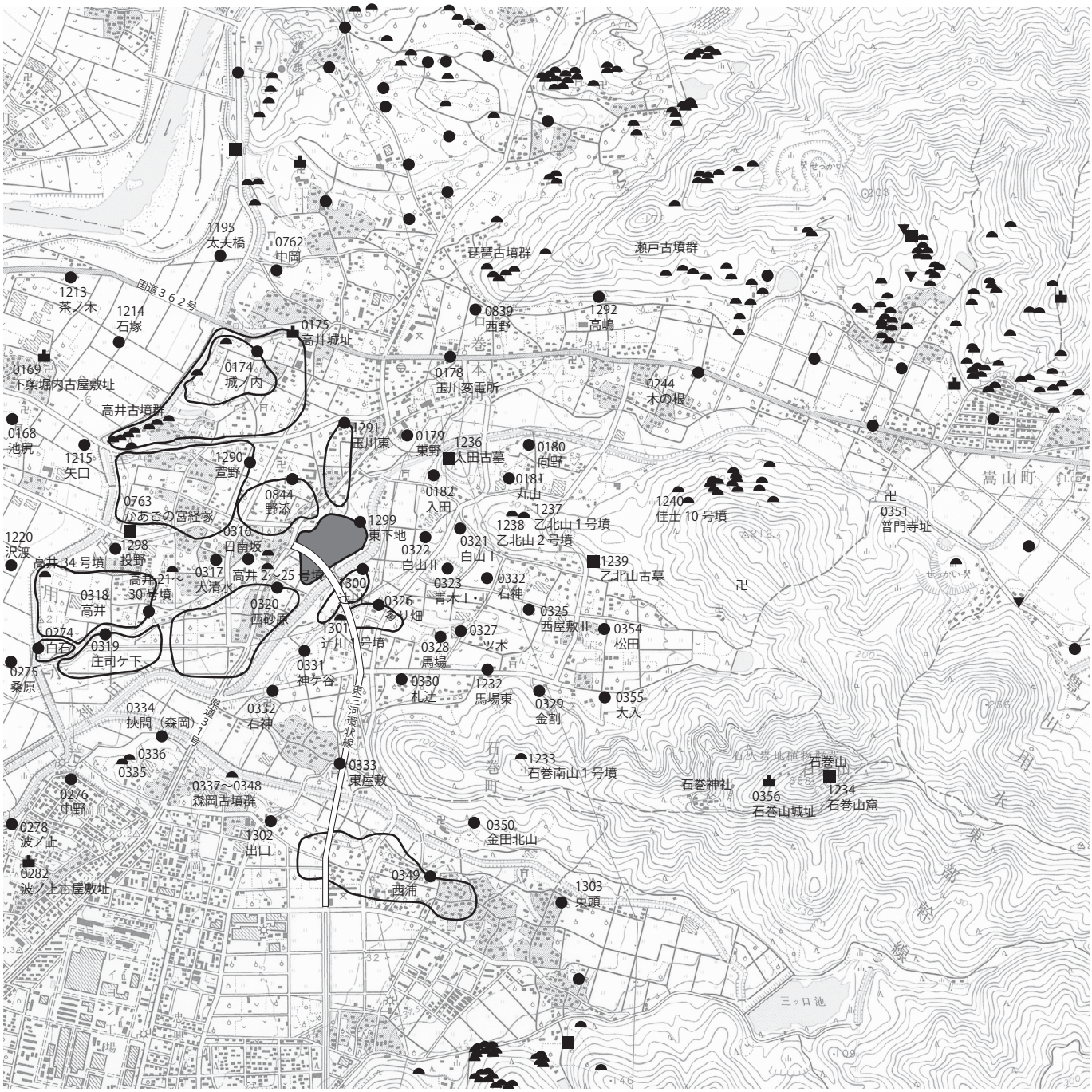


図４　東下地遺跡と周辺の遺跡分布図（国土地理院　1/2.5万地形図「豊橋」を改変）

写真１　東下地遺跡から石巻山方面をのぞむ

※調査区はアミフセした部分
地籍図の原図は南が上になっているので
図中の文字が上下逆で表記した。

図５　『明治17年地籍図』と東下地遺跡の調査位置図

第３章　調査の成果

（１）基本層序と遺跡の形成過程

東下地遺跡は遺構面が２面ある。範囲確認調査の時点では、古代と中世の２面調査を想定していた。ところが、２面調査を予定していた11Aa区と11Ab区の境界辺りは、堆積層が複雑であった。中世の遺構群は検出したが、古代以前の遺物を含む堆積層は面的に不安定であった。11A区では22ヶ所にトレンチを設定し、古代の遺構面を探った。その結果、11Aa区と11Ab区の境界辺りに南北方向の基盤層を削平する「大きな落ち込み」の存在を確認した。「大きな落ち込み」は古代以前の地形を大きく変動させ、古代以前の遺構面を削平していたと判断した。

まず、東下地遺跡の基盤層とした堆積層は、黄褐色シルト層である。この基盤層は、弥生水田の下位層に相当する。ただし、11Aa区と11Ab区の境界辺りから東側にはみられない。これは基盤層を削平する南北方向の「大きな落ち込み」があるためである。

つぎに、中世の遺構面について。11Aa区は中世遺構面が高い位置にある。中世の河道454SXと11Ab区の中世検出面を比較しても50㎝前後ある。この付近が高くなっている理由は、神田川沿いに発達した川岸の礫帯が考えられる。他の調査区では中世の遺構が認められなかった理由のひとつに、遺跡の西側にある豊川左岸台地縁辺に沿って、中世以降の頻繁な洪水性の堆積があったと考えられる。11B区や11C区にみられる「12A区から続く礫層」はその典型的な層序である。

最後に、11Ba区の調査によって判明した弥生時代の遺構面について。弥生水田は時期を確定できないが、ほぼ水田の全域を覆う「弥生水田直上礫層」の存在が鍵層となる。耕作土を削平する地点は擬似畦畔を残すこともある。水田は大きく２面に分かれ、上面水田は弥生時代後期から古墳時代、下面水田は弥生時代中期末と考えられる。

今回の調査は、台地縁辺部の複雑な堆積層を示すため、調査区壁面、調査区内のトレンチを図版として掲載した。各セクションの詳説はしていないが、調査記録を検証できるよう努めた。

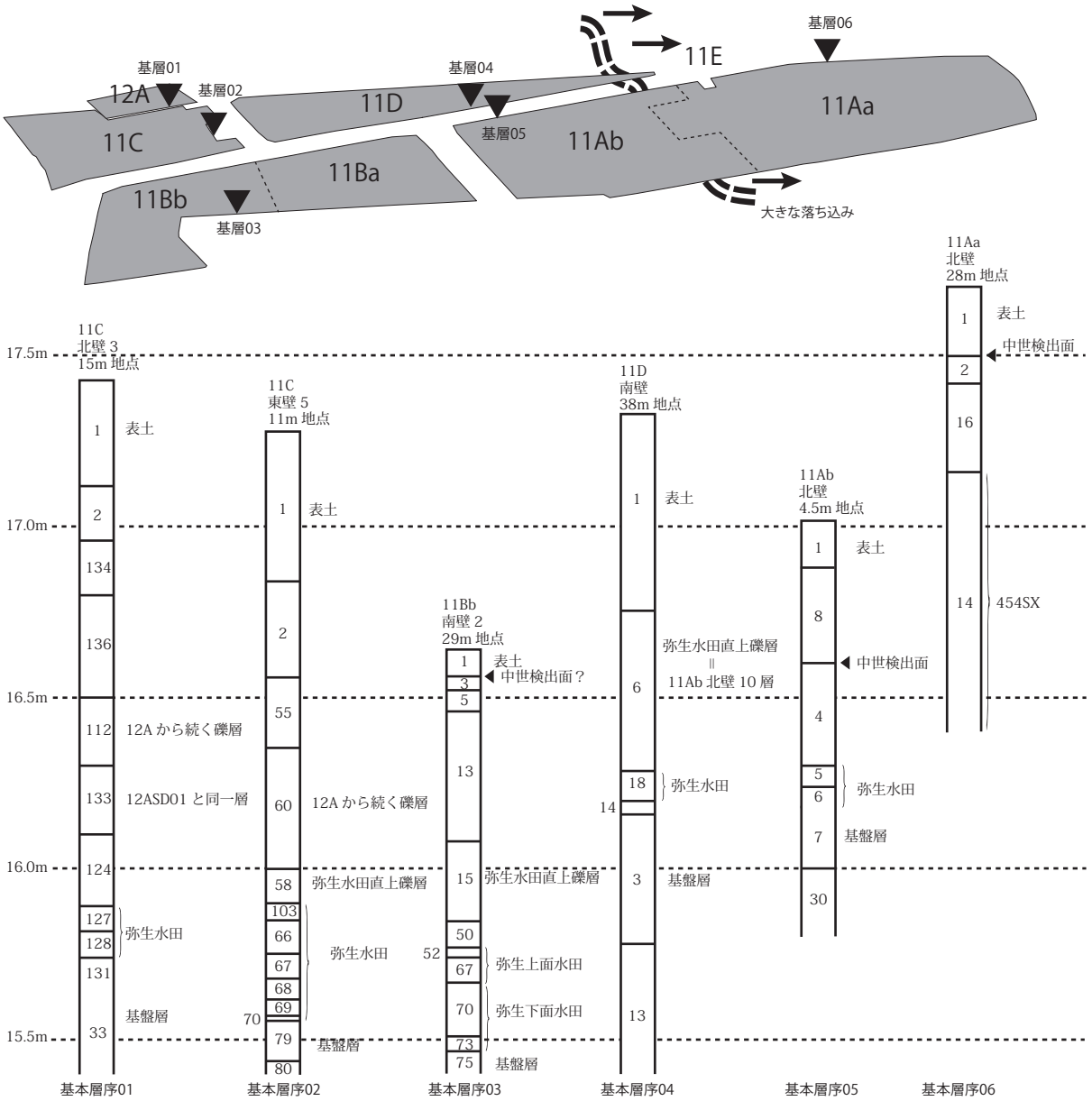


図６　基本層序柱状図

（2）11A区の調査

11A区は遺跡の東端に位置し、神田川に一番近い調査区である。ちょうど矢田川との合流地点にあたるので、かつて河川改修整備が十分でない頃に神田川はこの辺りでよく氾濫したと地区住民の方から聞いた。この話の通り、調査区東寄りは神田川の氾濫によって削平された凹地である。この凹地は幅10～20mあり、削平のない一段高い遺構面との比高差は1m近くある。

この段差に接して上段と下段に溝群が配置されている。まずはこの段差に構築された溝群の概要を示す。

調査区東寄りから南西寄りに「Ｊ」字状に一段下がる下段と上段とに大きく分けて説明できる。戦国期の溝群はこの下段と上段の段差のある周辺に集中して展開する。

下段では土師器内耳鍋がまとまって出土する箇所がある。ちょうど上位の353SDの途切れ、下位の463SDが重複する箇所にあたる。

463SDを含む下段の溝群は、複数回の洪水性堆積により浸食を受け、大礫を含む堆積層が溝を削平している。溝群は段差のある付近を中心に複数回の掘削が認められる。

001SX

調査区南東隅に位置し、南壁セクション２層、東壁セクション２層にそれぞれ対応する礫層であった。当初は敷石状の遺構を想定したが、断ち割って断面観察をしたところ、均質な配置ではなく、002SXと同様に河川の堆積の一部であると考えた。

002SX

調査区南東側に位置する。南壁セクション９・12層に対応する礫層であった。001SXと同様の見解で、河川堆積の一部と考えられる。

017SK

陶器片と長方形に整った自然石を組み合わせた集積が埋納された長軸0.59m･短軸0.37m･深さ0.5mの遺構である。11Aa北壁セクション図の７・８・９・10・11・33層に対応する。

調査区北壁際に、現地表面下約10cmのところで遺物集積がみつかった。その後調査区の標準トレンチ掘削時、トレンチの壁にかかった。当初の観察時は甕底部とおそらく同一個体の破片が10片以上まとまった遺物集積と認識していた。本文中の出土状態図は１～11まで概ね上位から下位の検出状況を示している。まず、井桁状に配置された角柱状の礫が最上位にある。この礫のかたまりの下位に、甕の底部片を上（12）下（14）に配し、その間に山茶碗（４）、小皿（１・２）、土師器皿（３）、壺（９）を周りに配し、角柱礫を包み込むように埋設していると考えた。調査時は上位を中心に斜めに崩れていたため、エレベーション図に示したように直立ではなく斜め上方へ広がっている。

303ST

454SX屈曲点の右岸西へ５m、ＢトレンチとＧトレンチがＴ字に交差する付近に位置する。集石墓など墓地が集中する地点から南東にやや離れた場所にある。検出中に骨片を確認した。長軸0.69m・短軸0.4m・深さ0.1mを測る楕円形の浅い土壙。埋土中に骨片３点（d-311,312,313）と水晶玉（S1）が出土した。

352SD

調査区東寄りの段差がある部分の落ち際に調査区北壁から南方向に位置する。11Aa北壁セクション図20層＋21層＋22層＋25層に相当する。出土遺物（29～39）は454SXと同時期の遺物が多い。むしろ352SDの時期に比定される近世陶器小碗（36）、内彎型内耳鍋（39）は少ない。

353SD

検出当初は複数の溝が下段に沿ってあると考えていた。ところが検出を進めるなかで、クランクする箇所が３ヶ所ある30m近く続く幅２m前後、深さ0.2～0.3mの352SDと並行して延びる溝と判明した。

354SX

長軸5.6m･短軸3.1m･深さ0.26mを測る不定形な楕円形。土師器鍋（42～45）が集中する箇所があった。ほぼ中央から東寄りまで002SXの礫が再堆積する。

362SP

やや口縁部を下位に傾けて、横位の状態で出土した。口縁部は欠けていた。

383SP

遺物出土状態について。柱痕の輪郭に沿って２枚の土師器皿が並んで埋まっていた。図化した２点（53・54）以外に同じサイズのものが１点と小型品が１点出土している。柱穴下位にある皿の上に少しまとまって炭化材がのっていた。その後、511SKが重複していることが判明した。したがって、これらの土師器皿は511SKの遺物である可能性が高い。

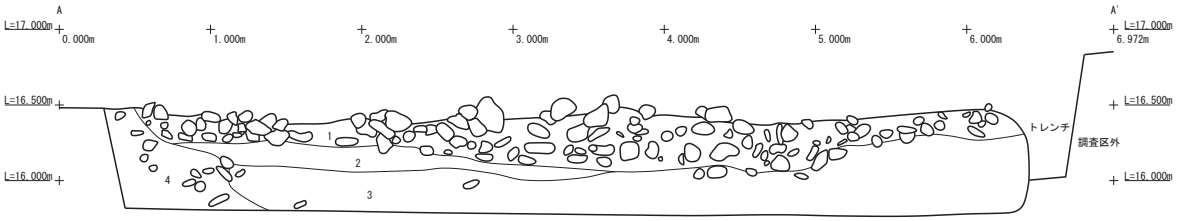
413SD

11Aa南壁セクション図21層に相当する。幅1.5m深さ10㎝前後の浅い溝。時期の決め手となる遺物は特になし。下位の19層＋20層は、流路の落ち込みと考えられる。19層上位には、中世前半の山茶碗が散在する箇所もあり。

428SD

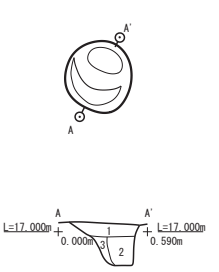
017SKが一部重複する溝で出土遺物（５・７・10）は古代末の資料で、一部017SKに混入するが、10の三河型甕は017SKから離れた428SDの溝出土である。017SKと428SDを調査途中で同一遺構と考えた時点があって、遺構と遺物の所属が混乱した。最終的に017SKを掘削終了した時点で、改めて土層観察した結果、別遺構と判断した。

001SX



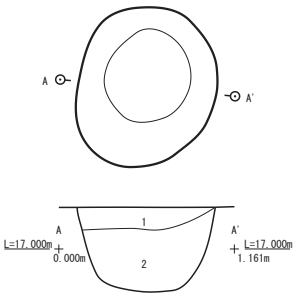
1. 10YR4/1 褐灰色大礫+シルト層 (001SX)
2. 10YR4/2 灰黄褐色細礫～中礫層
3. 10YR4/2 灰黄褐色中礫～大礫層 南壁3層につながる
4. 10YR4/2 灰黄褐色大礫層　細礫～中礫混じる

006SP



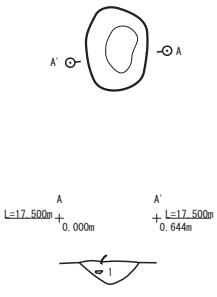
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 焼土 炭化物混じる
2. 10YR3/2 黒褐色シルト　焼土 炭化物混じる
3. 10YR3/2 黒褐色シルト

036SK



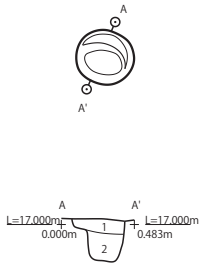
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 炭化物 焼土混じる 遺物あり
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 遺物少量あり

066SP



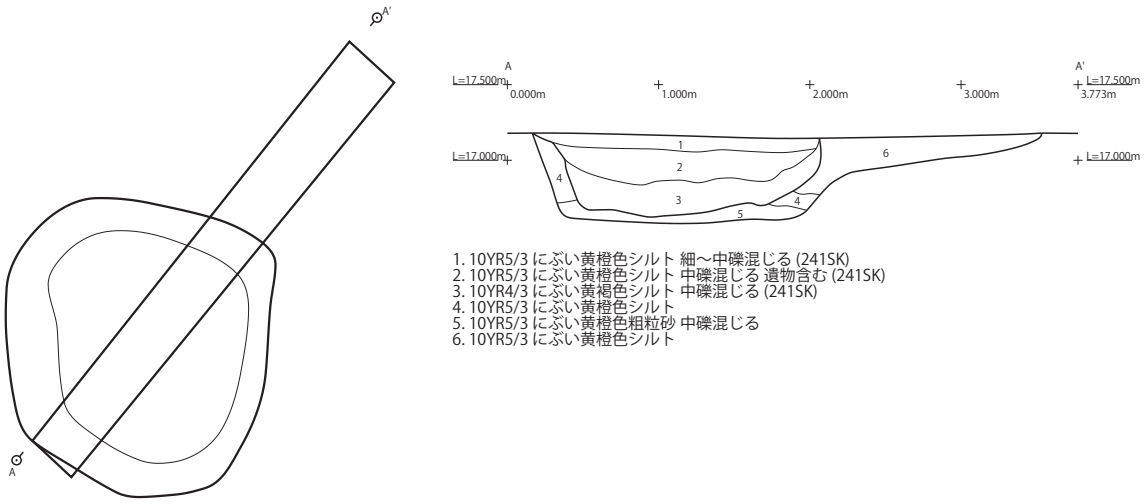
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 遺物多く含む

132SP



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
2. 10YR3/3 暗褐色シルト　中礫混じる

241SK



1. 10YR5/3 にぶい黄橙色シルト 細～中礫混じる (241SK)
2. 10YR5/3 にぶい黄橙色シルト 中礫混じる 遺物含む (241SK)
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる (241SK)
4. 10YR5/3 にぶい黄橙色シルト
5. 10YR5/3 にぶい黄橙色粗粒砂 中礫混じる
6. 10YR5/3 にぶい黄橙色シルト

017SK

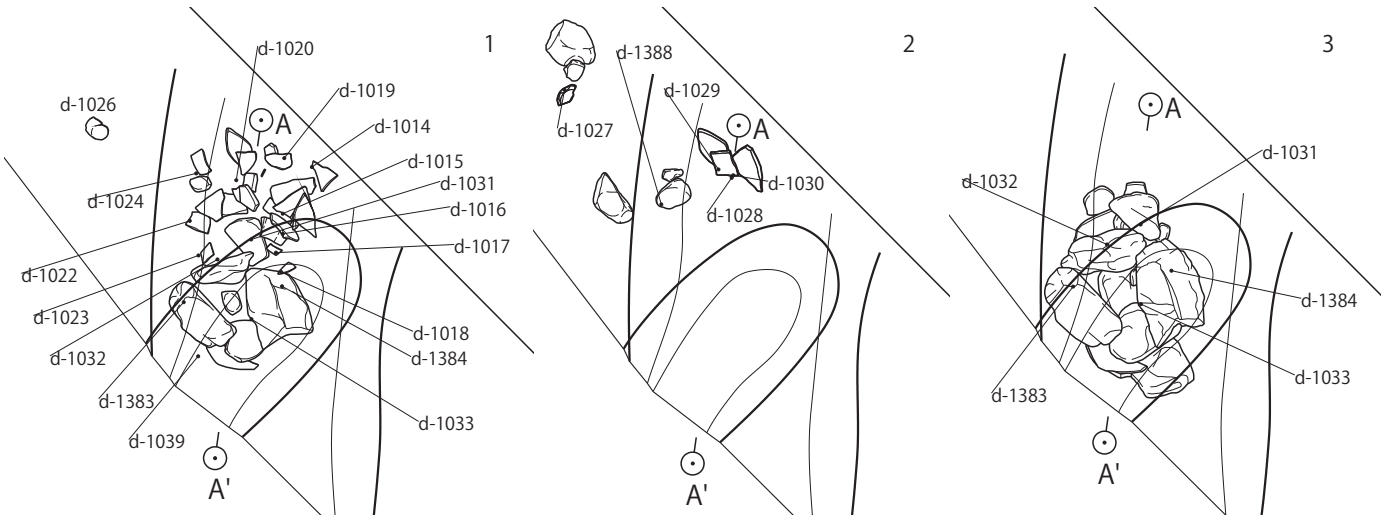
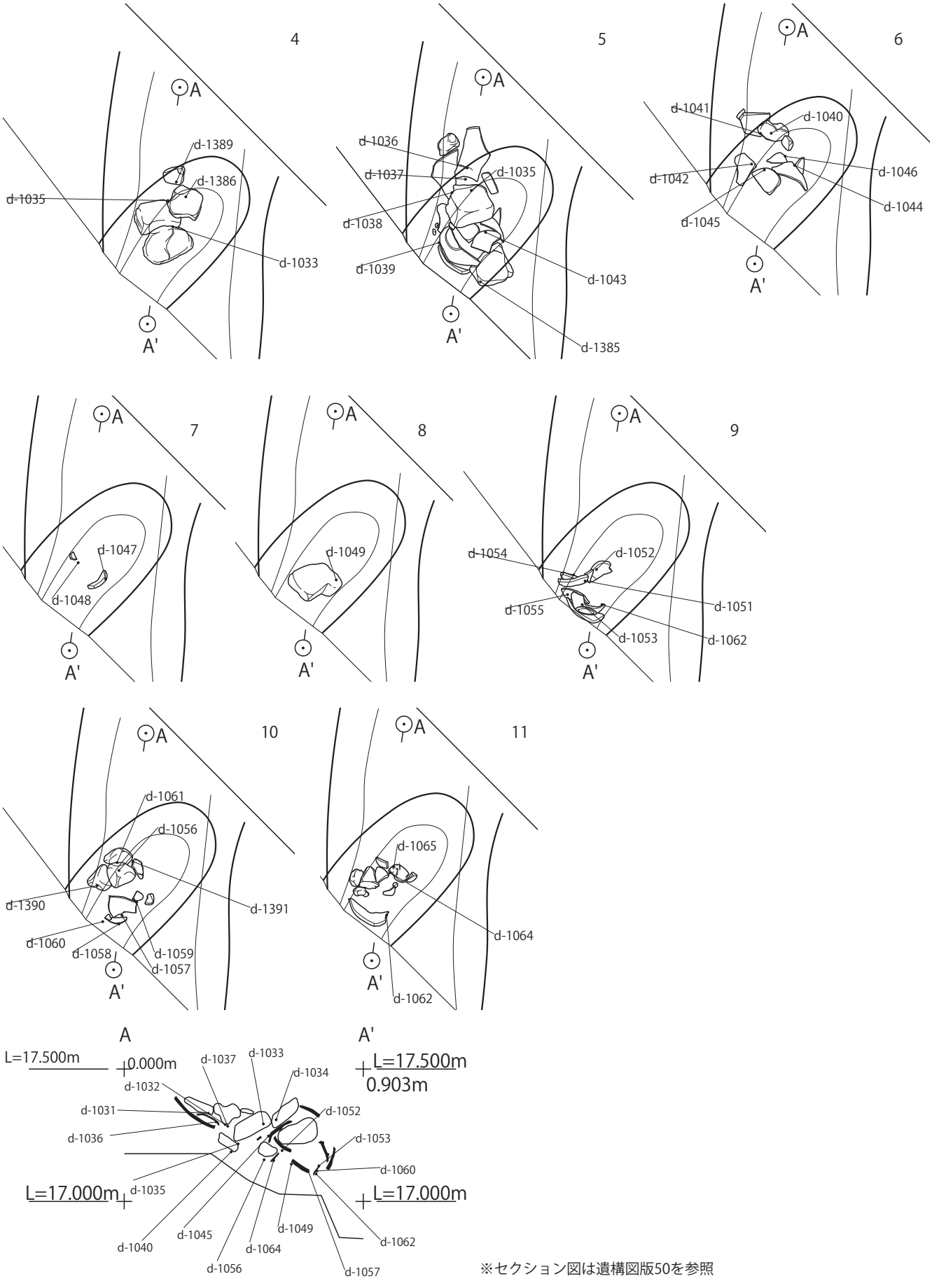


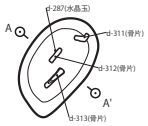
図7　11Aa遺構図　S＝1：50（1）

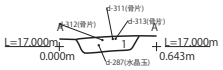


※セクション図は遺構図版50を参照

図8　11Aa遺構図　S＝1：50（2）

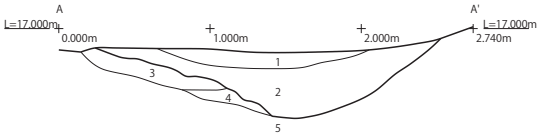
303ST





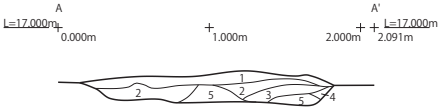
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂 炭化物混じる 遺物あり

352SD-A



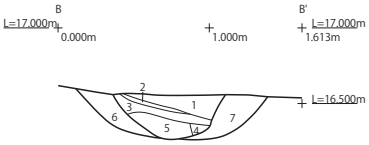
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂層 (352SD)
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂層 (352SD)
3. 10YR4/2 灰黄褐色中礫層
4. 10YR4/2 灰黄褐色シルト層
5. 10YR4/1 褐灰色細～中礫層

353SD-A



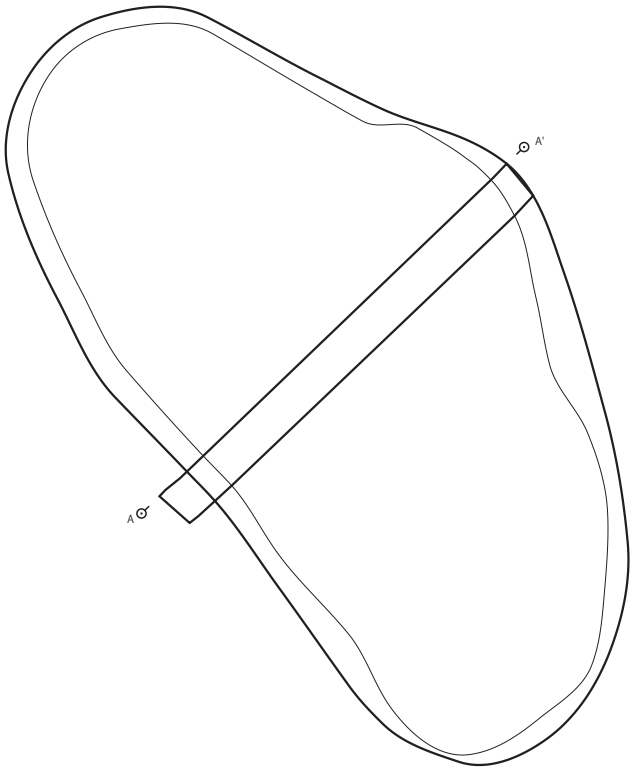
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂 細礫混じる (353SD)
2. 10YR4/2 灰黄褐色 細礫 (353SD)
3. 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂 (353SD)
4. 10YR4/2 灰黄褐色 細礫 (353SD)
5. 10YR4/1 褐灰色 細礫 中礫混じる (450SD)

353SD-B

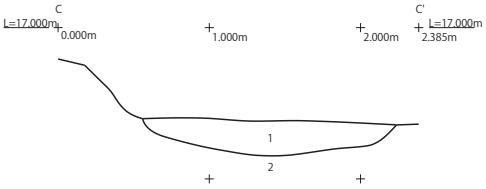


1. 10YR4/1 褐灰色細礫～中礫　(353SD)
2. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂　(353SD)
3. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂～細礫 (353SD)
4. 10YR4/2 灰黄褐色中礫　(353SD)
5. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂～細礫 (353SD)
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂
7. 10YR4/1 褐灰色中礫

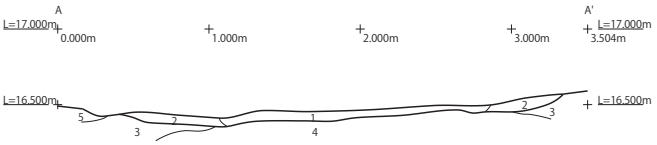
354SX



353SD-C

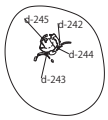


1. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 中礫混じる
2. 10YR4/2 灰黄褐色細礫　(南壁19層)

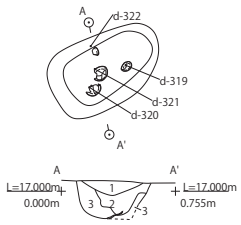


1. 10YR5/2 灰黄褐色中～大礫　(002SXからの流れ込んだ礫)
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂 (354SX)
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
4. 10YR4/1 褐灰色中礫
5. 10YR4/1 褐灰色細礫　　(南壁19層と同一層か)

382SU

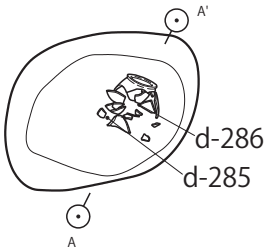


383SP



1. 10TR5/3 にぶい黄褐色シルト 遺物小片あり
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 土師器完器2個体が掘りかたに沿って出土

362SP



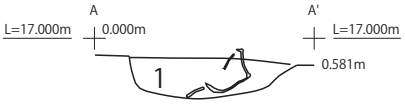
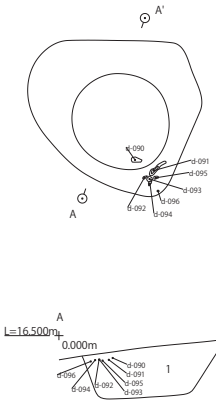
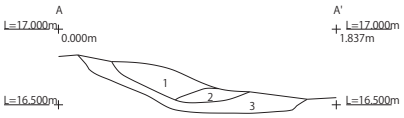


図9　11Aa遺構図　S＝1：50（3）

411SK

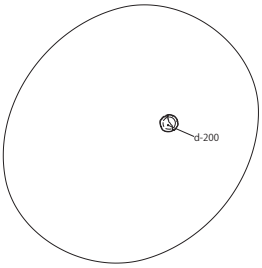


450SD

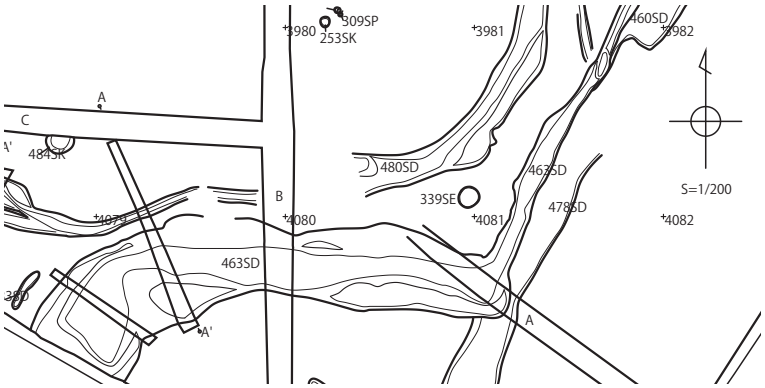


1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細粒砂混じる (450SD)
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト (450SD)
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色中礫 シルト混じる

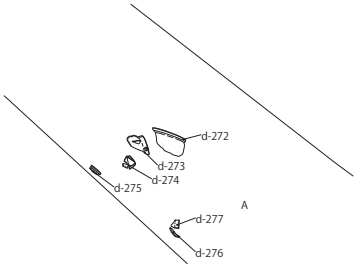
455SU



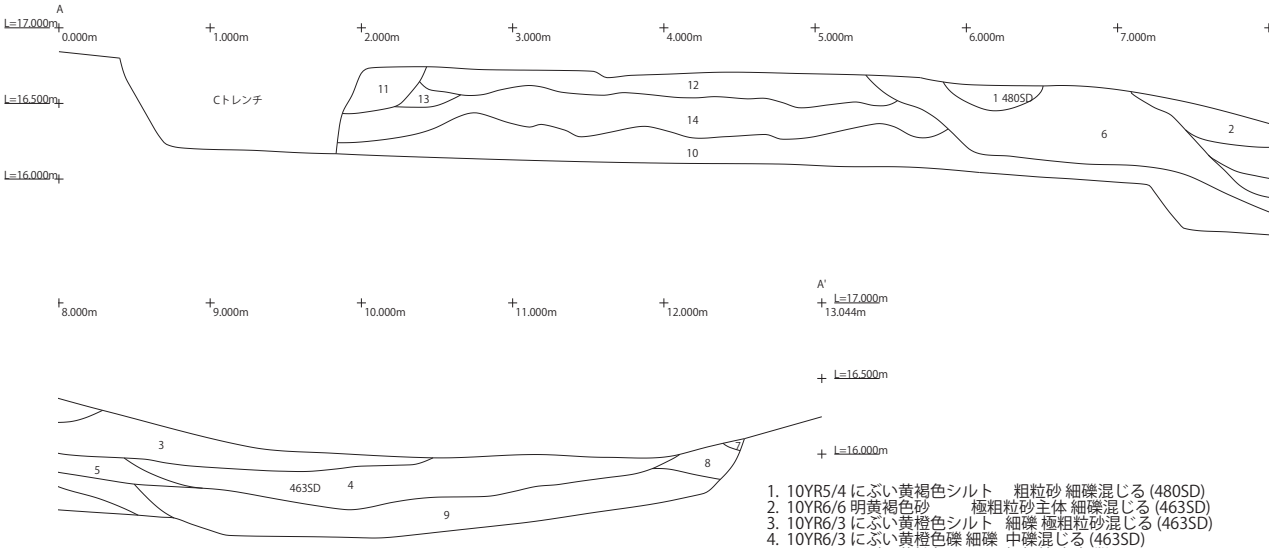
463SD遺構図



463SD



463SD-A



1. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 細礫混じる (480SD)
2. 10YR6/6 明黄褐色砂　極粗粒砂主体 細礫混じる (463SD)
3. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　細礫 極粗粒砂混じる (463SD)
4. 10YR6/3 にぶい黄橙色礫 細礫　中礫混じる (463SD)
5. 10YR4/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 中礫混じる (463SD)
6. 10YR3/2 黒褐色礫＋シルト　中礫 細礫主体 大礫混じる
7. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト
8. 10YR4/2 灰黄褐色砂　極粗粒砂主体 中礫混じる
9. 10YR5/6 黄褐色砂＋シルト　細粒砂主体
10. 10YR4/1 褐灰色中礫　粗粒砂～細礫混じる 10層上位に灰釉陶器DOTあげあり
11. 10YR4/1 褐灰色細～中礫　粗粒砂混じる
12. 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂　10YR6/6明黄褐色細礫混じる
13. 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂
14. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂　10YR6/6明黄褐色細礫混じる

図10　11Aa遺構図　S＝1：50（4）

454SXトレンチなど配置図

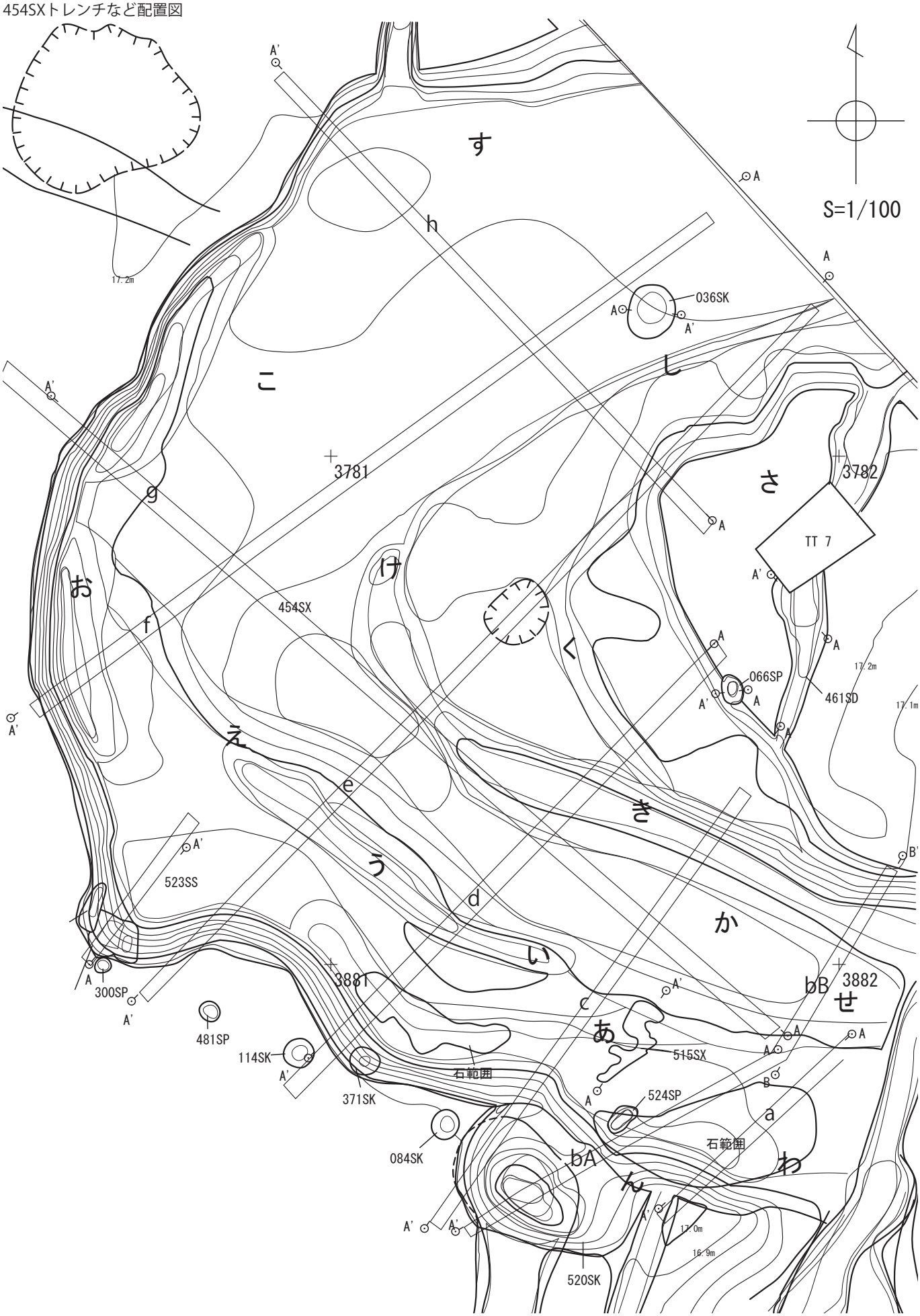
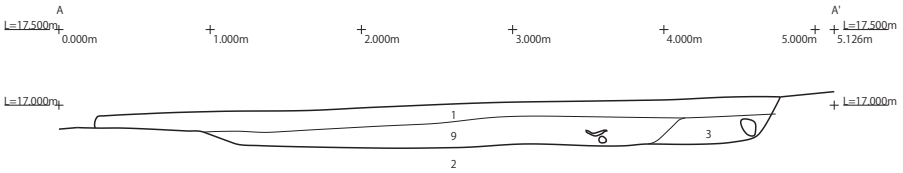


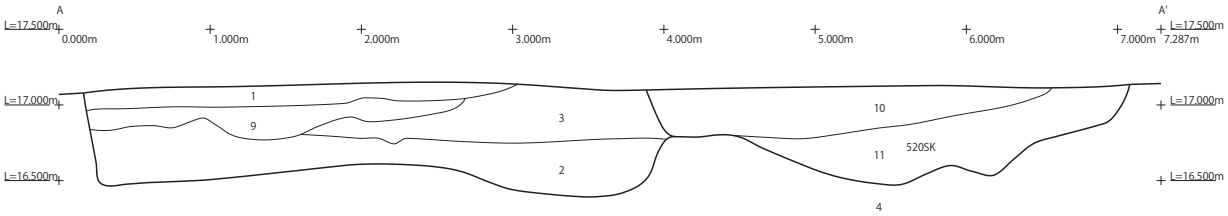
図11　11Aa遺構図　S＝1：100（5）

454SX-a



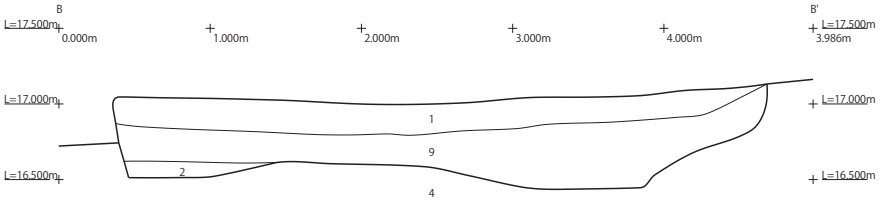
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる 細片化した遺物多く含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 炭化物 焼土多く含む 右岸寄りに形のわかる遺物多い
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる 遺物多く含む

454SX-bA



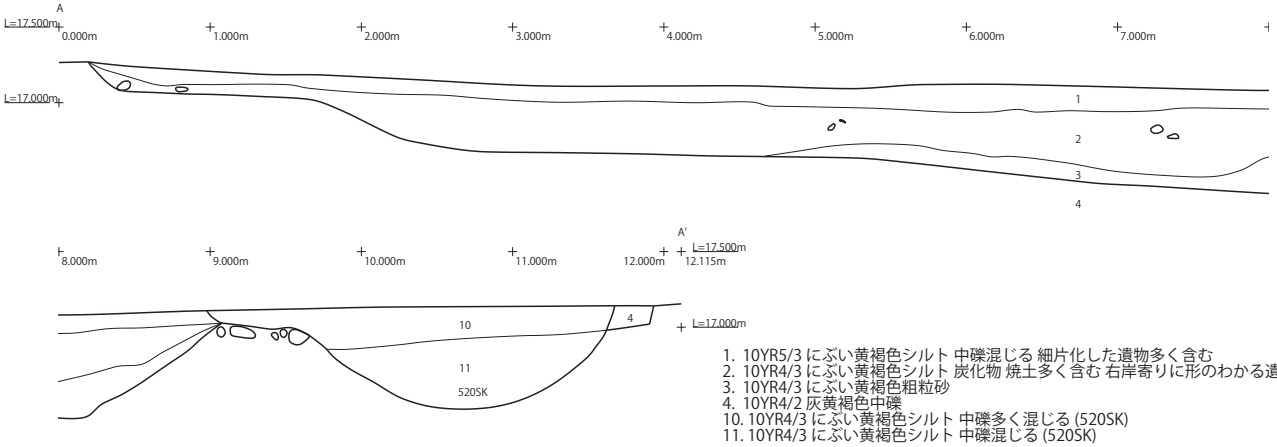
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる 細片化した遺物多く含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 炭化物 焼土多く含む 右岸寄りに形のわかる遺物多い
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂
4. 10YR4/2 灰黄褐色中礫
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる 遺物多く含む
10. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 中礫多く混じる (520SK)
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる (520SK)

454SX-bB



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる 細片化した遺物多く含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 炭化物 焼土多く含む 右岸寄りに形のわかる遺物多い
4. 10YR4/2 灰黄褐色中礫
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる 遺物多く含む

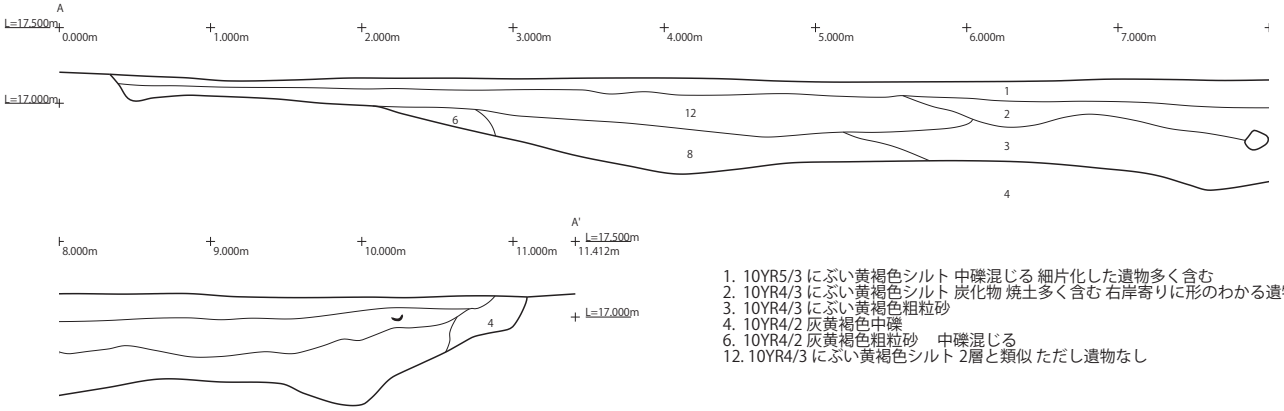
454SX-c



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる 細片化した遺物多く含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 炭化物 焼土多く含む 右岸寄りに形のわかる遺物多い
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂
4. 10YR4/2 灰黄褐色中礫
10. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 中礫多く混じる (520SK)
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる (520SK)

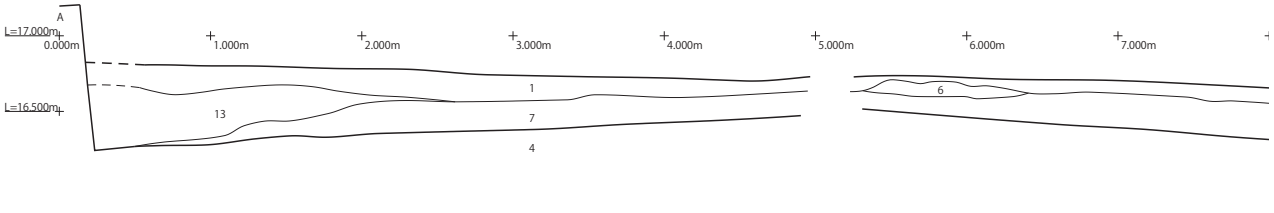
図12　11Aa遺構図　S＝1：50（6）

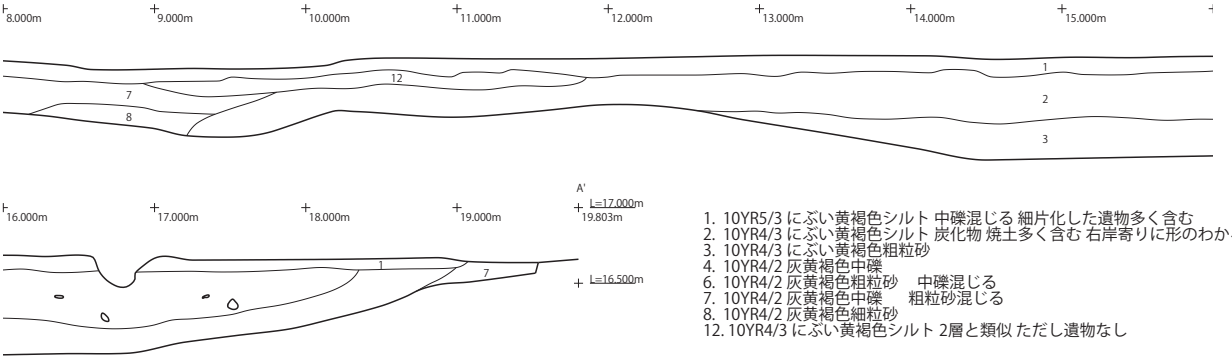
454SX-d



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる 細片化した遺物多く含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 炭化物 焼土多く含む 右岸寄りに形のわかる遺物多い
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂
4. 10YR4/2 灰黄褐色中礫
6. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂　中礫混じる
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 2層と類似 ただし遺物なし

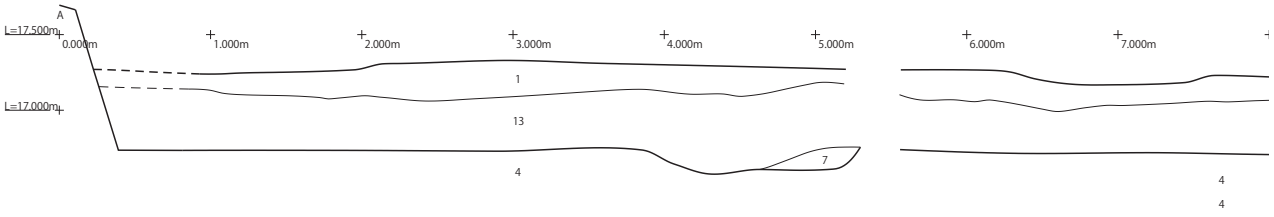
454SX-e

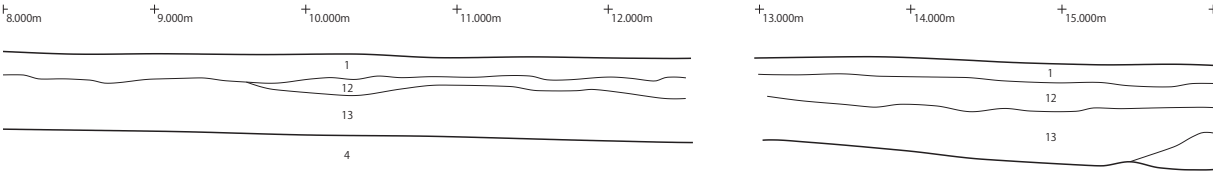


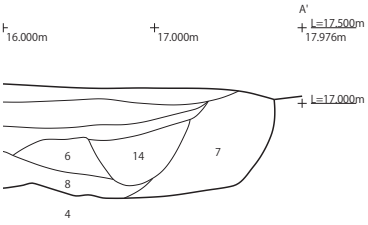


1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる 細片化した遺物多く含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 炭化物 焼土多く含む 右岸寄りに形のわかる遺物多い
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂
4. 10YR4/2 灰黄褐色中礫
6. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂　中礫混じる
7. 10YR4/2 灰黄褐色中礫　粗粒砂混じる
8. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 2層と類似 ただし遺物なし

454SX-f



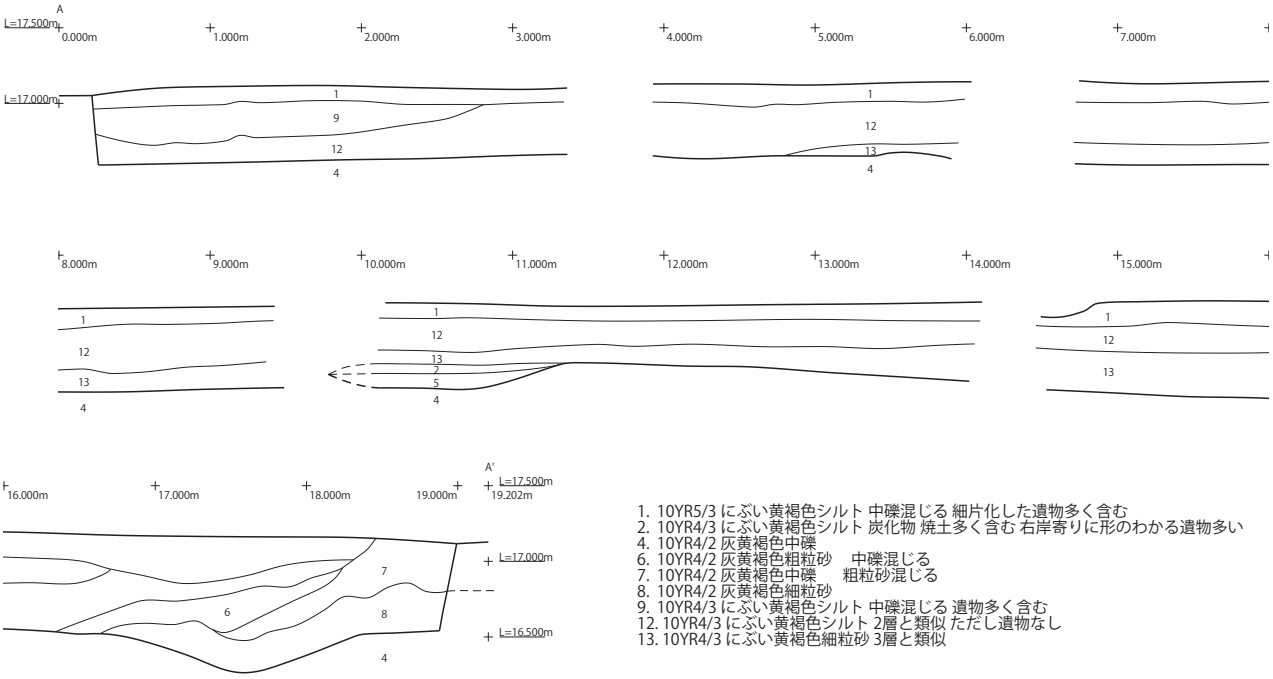




1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる 細片化した遺物多く含む
4. 10YR4/2 灰黄褐色中礫
6. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂　中礫混じる
7. 10YR4/2 灰黄褐色中礫　粗粒砂混じる
8. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 2層と類似 ただし遺物なし
13. 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 3層と類似
14. 10YR4/2 灰黄褐色シルト

図13　11Aa遺構図　S＝1：50（7）

454SX-g



454SX-h

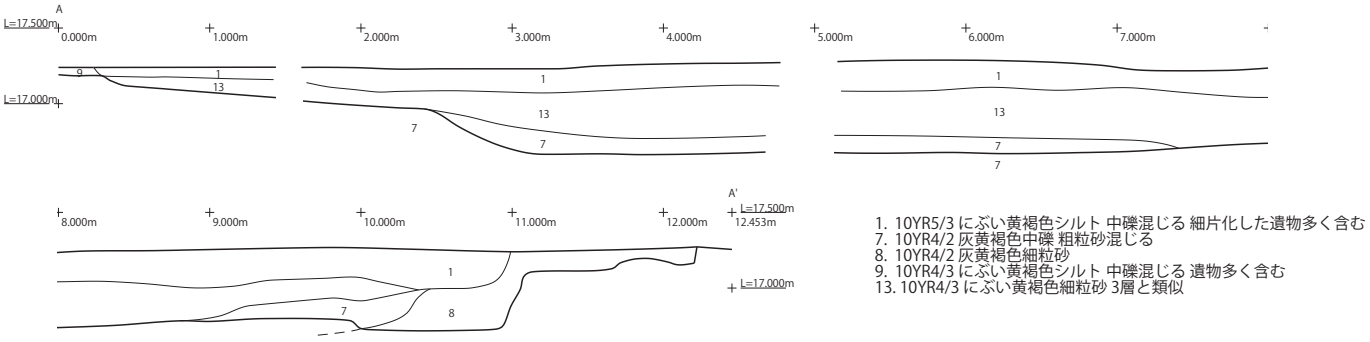


図14　11Aa遺構図　S＝1：50（8）

454SX

当初は遺構の輪郭がまったくつかめなかった。454SX認識にいたるまでの経過と調査手順をまとめておく。のちに取消遺構とした当初の検出遺構の相当数は454SX内であった。結果的にはこれらの取消遺構とした箇所は454SXの堆積層の一部と判断した。その後、再検出を繰り返す中で検出面に礫層がない大きな範囲を認識始めた。「おおきな落ち込み遺構」を確認するため横断するトレンチを設定。352SDの西側を精査したときに礫層の落ち際が判明し、礫を含まないレンズ状の落ち込みがわかった。「おおきな落ち込み遺構」の輪郭にサブトレンチを設定し、シルト層の立ち上がりからほぼ判明した。遺構検出が完了し、遺構番号「４５４SX」が決まる。掘削にあたり、当初は『てびき』に準拠し10mグリッドを設定していた。454SXの遺構を把握するタイミングが遅れたため、サブトレンチを設定し454SXの輪郭を探った。このサブトレンチに基づきベルトを設置し、任意のグリットを後出で設定した。したがって「あ～お・か～こ・さ～す・ん」の都合16区は454SXに設置したベルトにしたがった区分である。

454SXは352SDが沿う段差のあるところで途切れる。この延長を探るためＪトレンチを掘削した。454SXの堆積層は確認できなかった。352SD壁面に454SXの輪郭が確認できたことと、Ｊトレンチの掘削レベルが352SDの輪郭にみえる底面より下位にあることから、352SDより東側はすでに削平されていると判断した。

以上のように、454SXの範囲を把握し掘削を進めた。調査区内での遺構の形状は、調査区北壁から352SDに重複するあたりまで「し」の字状に屈曲する。調査区内の規模は長さ25m以上、幅10～15m前後、深度0.5～１m前後を測る。遺物の出土状況は、454SXの西側を帯状に集中する。取上の区割りで示せば、「い」・「う」・「え」区に集中して出土する。この付近は山茶碗・小皿・土師器皿を中心におびただしい数の土器類が出土した。これらの遺物は大多数が破片資料であった。また、土器類だけではなく、中～大礫も454SXの西側輪郭に沿って帯状に検出された。調査中は意図的に配置された礫群である可能性も考えられたので、記録に残した。礫群は「え」・「う」～「い」・「あ」～「わ」の３ヶ所に集中していた。

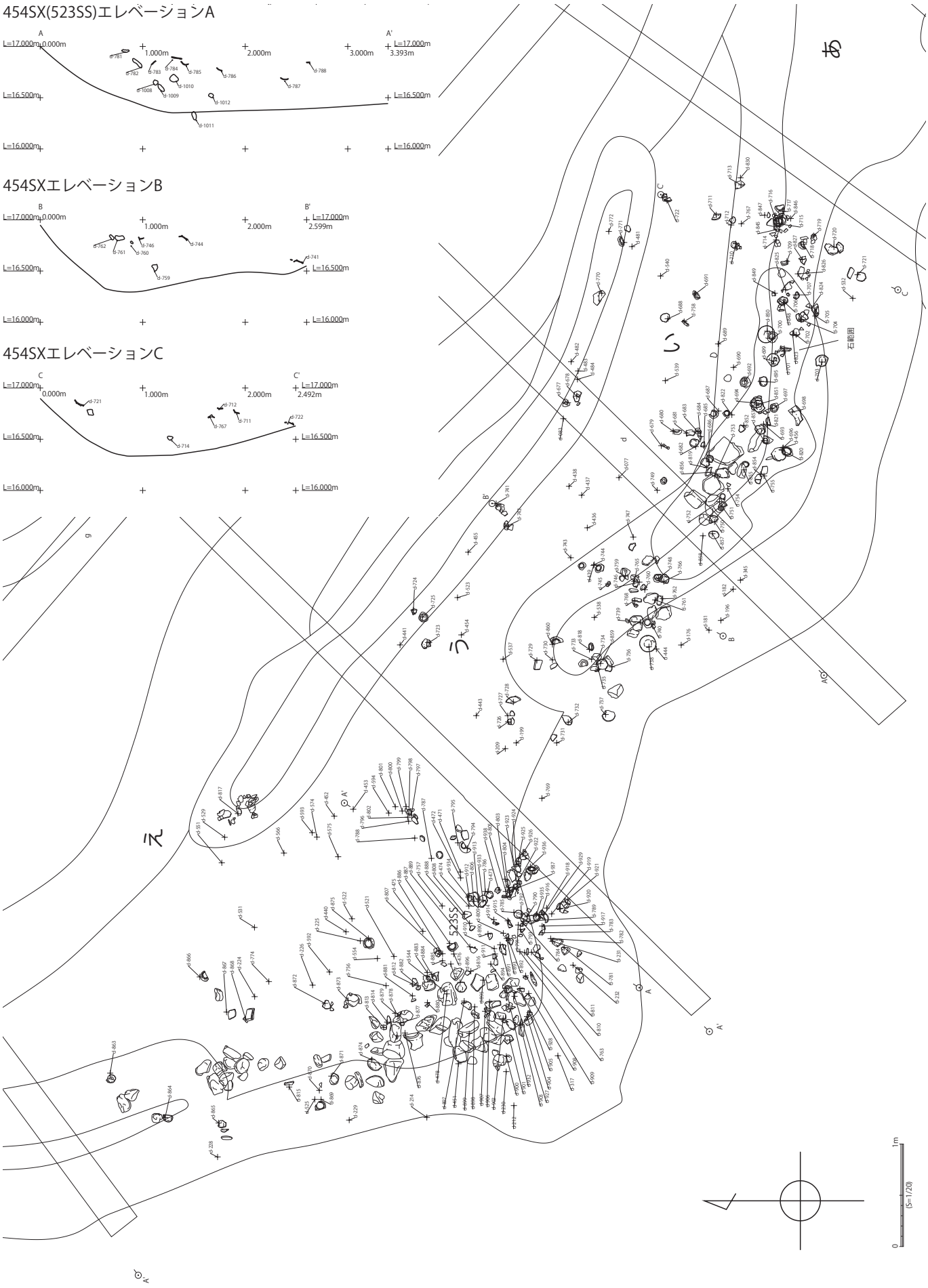


図15　11Aa遺構図　S＝1：50（9）

454SXから出土した遺物は東下地遺跡の中心となる遺物である。いくつかの特徴を指摘しておく。

まず、河道出土にもかかわらず、摩耗した遺物は少ない。水流で流され留まったとかんがえるより、この付近から投棄された可能性を想定したい。

つぎに、**土器類の組成**についてみていくと、非ロクロ土師器皿の数が群を抜いている。454SX出土資料のうち、山茶碗・小皿・土師器皿の３器種に限って集計を試みた。山茶碗と小皿は底部の残存する資料を中心に、土師器皿は口縁から底部まで残存する資料を中心に、それぞれ総破片数を集計した。山茶碗（698点）：小皿（249点）：土師器皿（1653点）を数えた。土師器皿は細片化しやすいことを勘案してもその数は多い。東下地遺跡の中心となる時期は13世紀前半である。東三河地域で土師器皿がまとまって確認されている遺跡は、豊川市郷中遺跡と新城市楠遺跡が知られる程度である。戦国期に下る城郭あるいは居館・寺社クラスの遺構に伴う特定の資料群、例えば豊橋市吉田城跡、豊川市牧野城跡などを除いても類例があまりない。土師器皿の出土量が多い点は同時期の東海地域における遺跡からみても注目される。土師器皿以外の組成についてもみておく。土師器煮炊具（実測資料）については伊勢型鍋（87点）：くの字内耳鍋（１点）：茶釜（１点）：羽付鍋（１点）を数えた。伊勢型鍋以外は後出時期のものとかんがえられる。甕（３点）：壺（３点）：片口碗（１点）：鉢（１点）はすべて渥美製品である。中国陶磁器は青磁（54点）：白磁（８点）を数える。器種は圧倒的に碗が多い。壺などいわゆる袋物はない。

続いて産地の判明した山茶碗と小皿の産地（実測資料）についてみてみる。碗は渥美産（180点）：尾張型（25点）、小皿・小碗は渥美産（56点）：尾張型（55点）を数える。

最後に、「**二次加工のある山茶碗**」について指摘しておく。今回の資料のうち、山茶碗の破片資料を縦覧すると、底部資料が目立った。山茶碗の底部は破片資料として残りやすく、この地域では取り分けめずらしいことではない。今回注目したいのは、体部をわざわざ打ち欠いて、底部片のみに加工する山茶碗である。見出す契機は454SXを掘削中に、城前喜英（二友組調査補助員）が山茶碗の底部資料で故意に打ち欠いた資料を指摘したことによる。城前は、この地域の山茶碗底部を意識的にみると体部を故意に打ち欠いて底部を残し、円盤状に加工する破片が見いだせるという。今回は454SX出土資料を中心に、底部片を円盤状に打ち欠いた痕跡の有無を抽出した。

底部を円盤状に加工する破片は４つに分類することができる。分類の基準は底部を全面残す山茶碗片のうち、体部を一部意図的に残すあるいは凹ませる、つまり持ち手部分を想定した分類を加えている。

A類　底部を残し打ち欠き、一部体部を残す。
B類　体部の底部近くを残し、１ヶ所のみ体部の一部を凹ませる。
C類　体部を２方向から大きく打ち欠き、口縁部まで残す箇所とその対方向を底部近くまで細かく打ち欠く。
D類　体部を残さず、底部まで打ち欠く。

底部付近まで打ち欠き加工するＤ類のみを抽出せずに、持ち手を想定した分類は投棄する行為、あるいは打ち欠く行為に意味があると考えたからである。器としての機能を停止させ、再加工する過程と新たな使用法を生み出す、この２つの行為を含ませた使用法として分類抽出した。

分類抽出したものの、具体的な使用法を導きだせる手立てはない。今後の比較検討するため、いくつかの事例をあげて課題としておきたい。

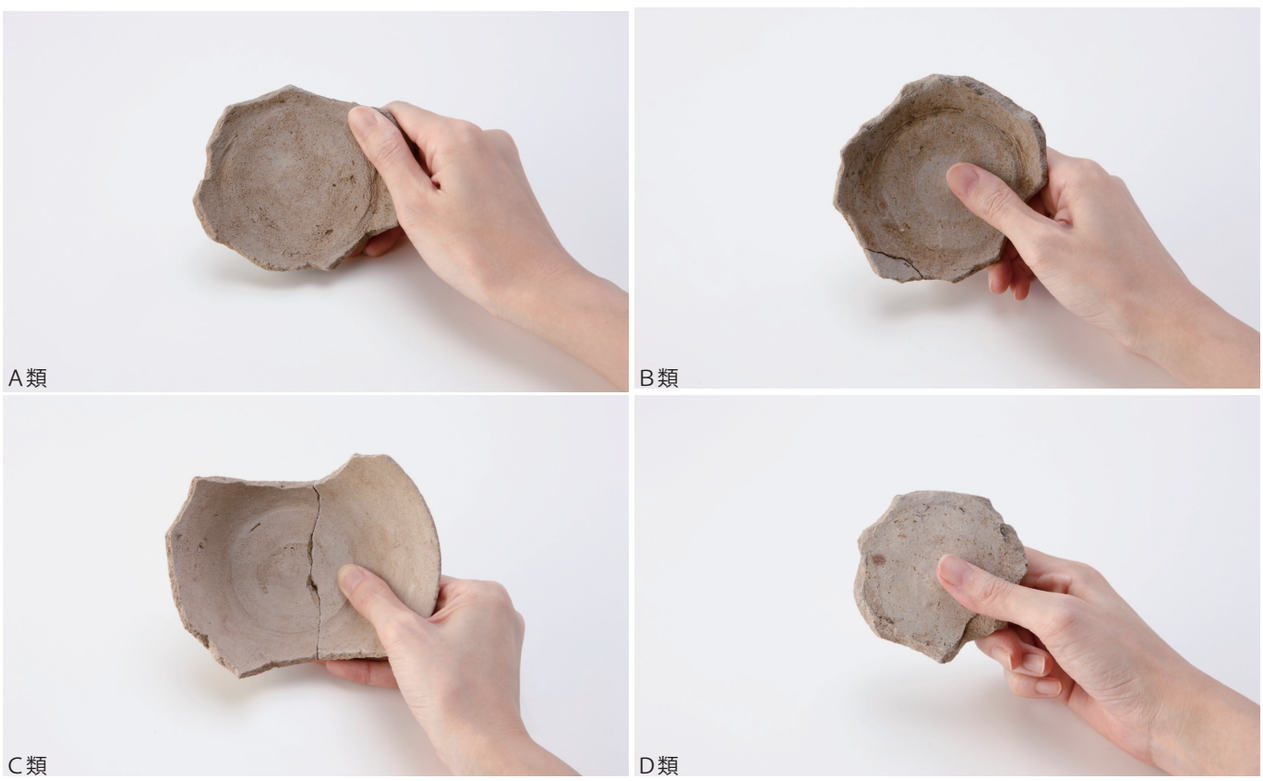


写真２　２次加工のある山茶碗

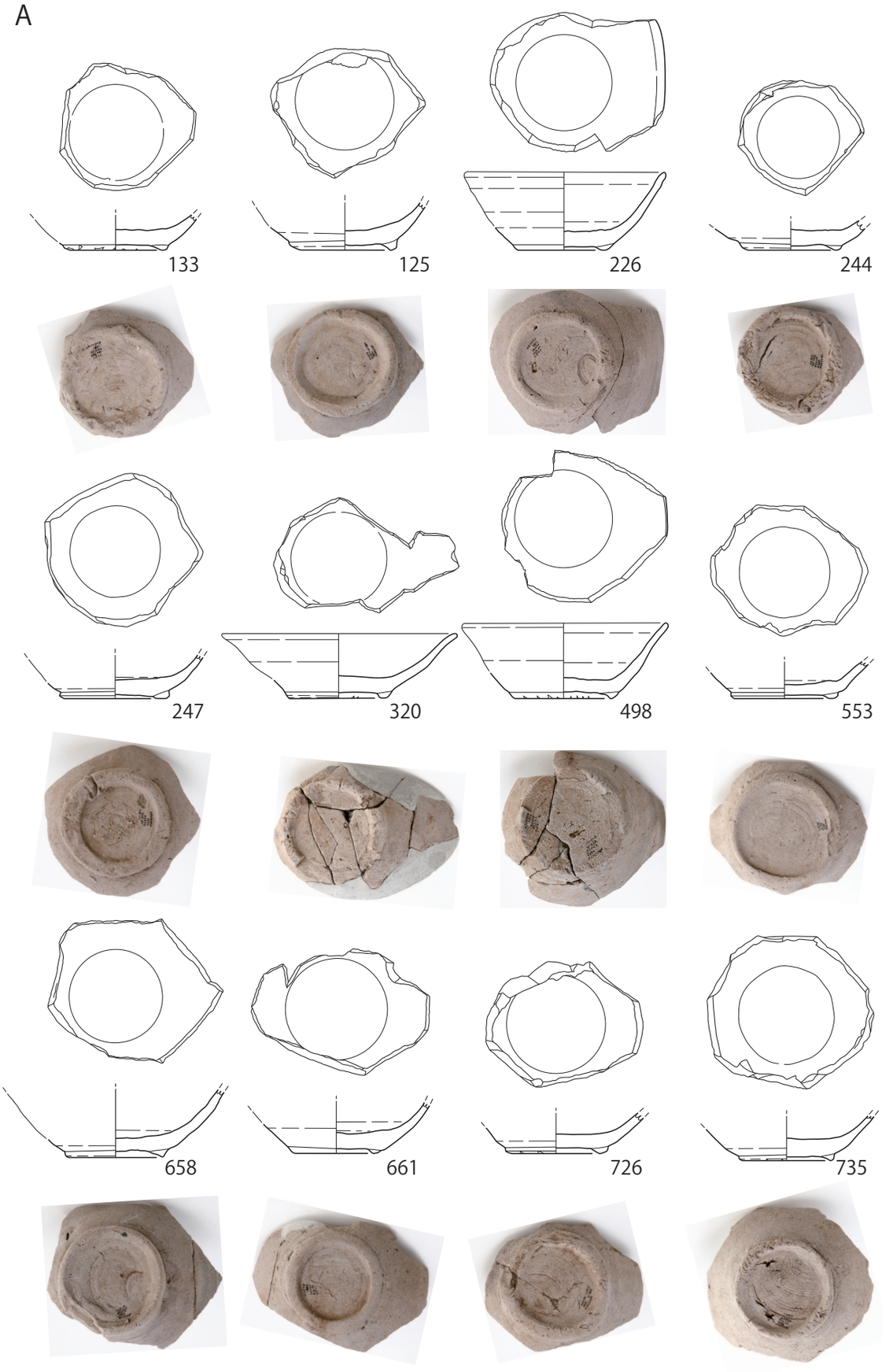


図16　２次加工のある山茶碗（１）

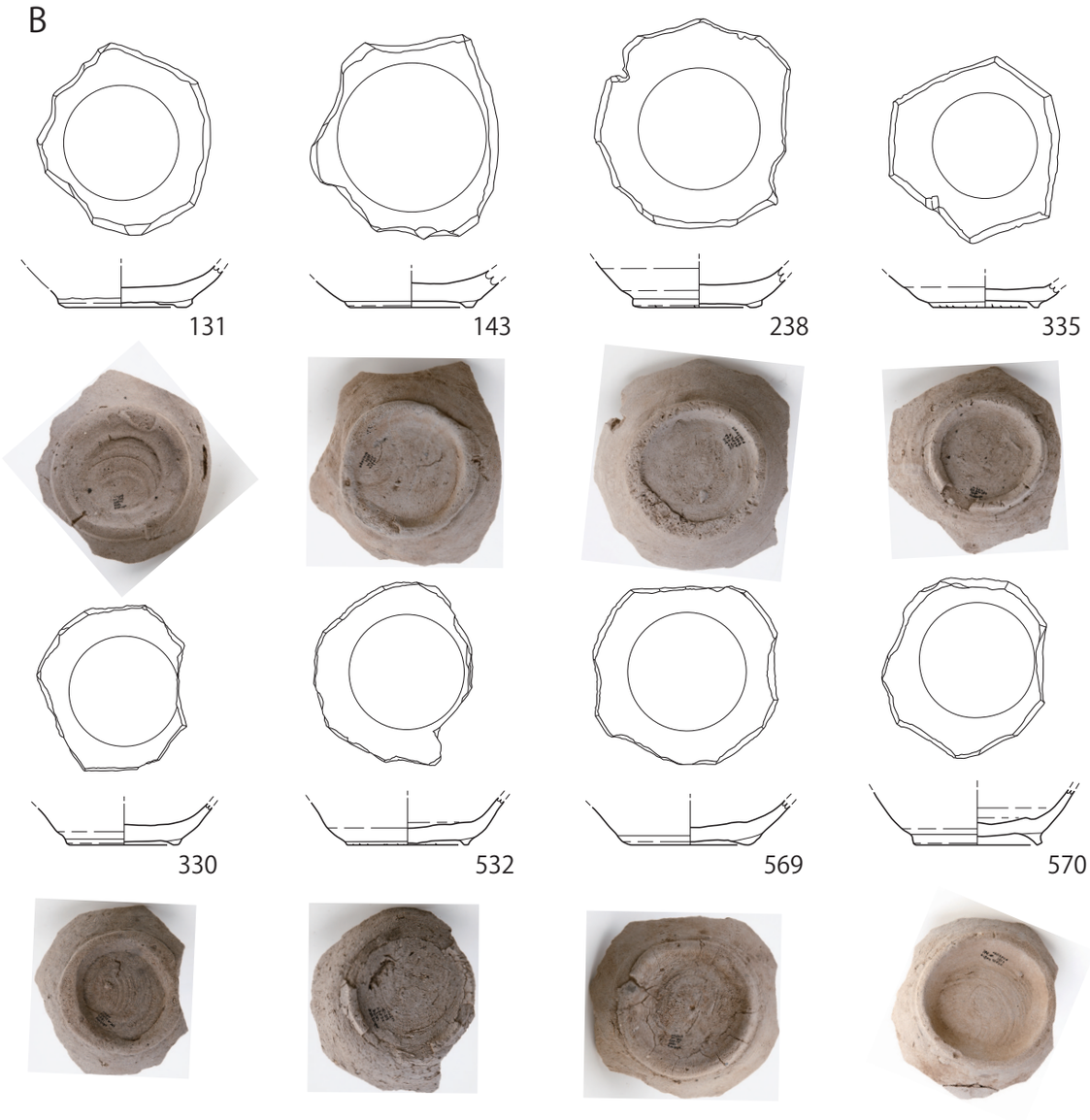


図17　２次加工のある山茶碗（２）

まず、同時期で同じような事例は「加工円盤」が思いつくであろう。飴谷　一は「伊勢湾周辺の中世遺跡から出土する加工円盤の多くは、この地域で盛んに流通していた灰釉系陶器（山茶碗）から転用されたものである。これらは集落において境界を示す場所から多く出土していることから、外界からの穢悪の進入を防ぐ除災のための祭祀具と考えられる」とした（飴谷1997）。ここで指摘している加工円盤は、「大きさ２～３㎝程度、重さもだいたい10g以下のものが最も多い。もっぱら集落遺跡及びその周辺でのみ出土することから、消費地で二次的に加工された転用品」とされ、山茶碗の底部を利用することが多い（飴谷1997）。

今回提示した「二次加工のある山茶碗」は加工円盤と同じ底部片を利用した加工品であるが、大きく異なる点は大きさにある。加工円盤は高台付き底部の一部を円盤状に加工しているのに対して、東下地遺跡の事例は底部全体を残している。さらに持ち手部分や体部を残していることから「加工円盤」と同じ名称にすることはできない。まずは「二次加工のある山茶碗」とし今後の類例を待ちたい。

では、今回提示した「二次加工のある山茶碗」はほかに類例があるのか。意外にも隣接する遺跡にあった。それは神田川を挟んで対岸に位置する多り畑遺跡である。数量的には10点に満たないがD類の「二次加工のある山茶碗」が提示されている（池本2016）。また、未報告資料ではあるが、豊橋市公文遺跡の池跡出土の山茶碗に底部のみの資料が多く出土していると教示を得た。今後、中世遺跡の出土資料を再検討すると未抽出であった「二次加工のある山茶碗」が存在する可能性もある。そうすると、再加工の分類を再検討する必要性もあるだろうし、出土事例が増加すれば使用法の検討も可能であろう。

最後に、今回は「二次加工のある山茶碗」が一回性の使用法を想定し提示した。今回の資料のなかに、明らかに破面が摩耗しているＤ類（138）、底部全面ではなく、半割の底部片（225）で一部破面が摩耗しているものもあった。これらの資料を含めて同類として扱うべきか、別の使用法も視野に入れて検討する必要がある。

C

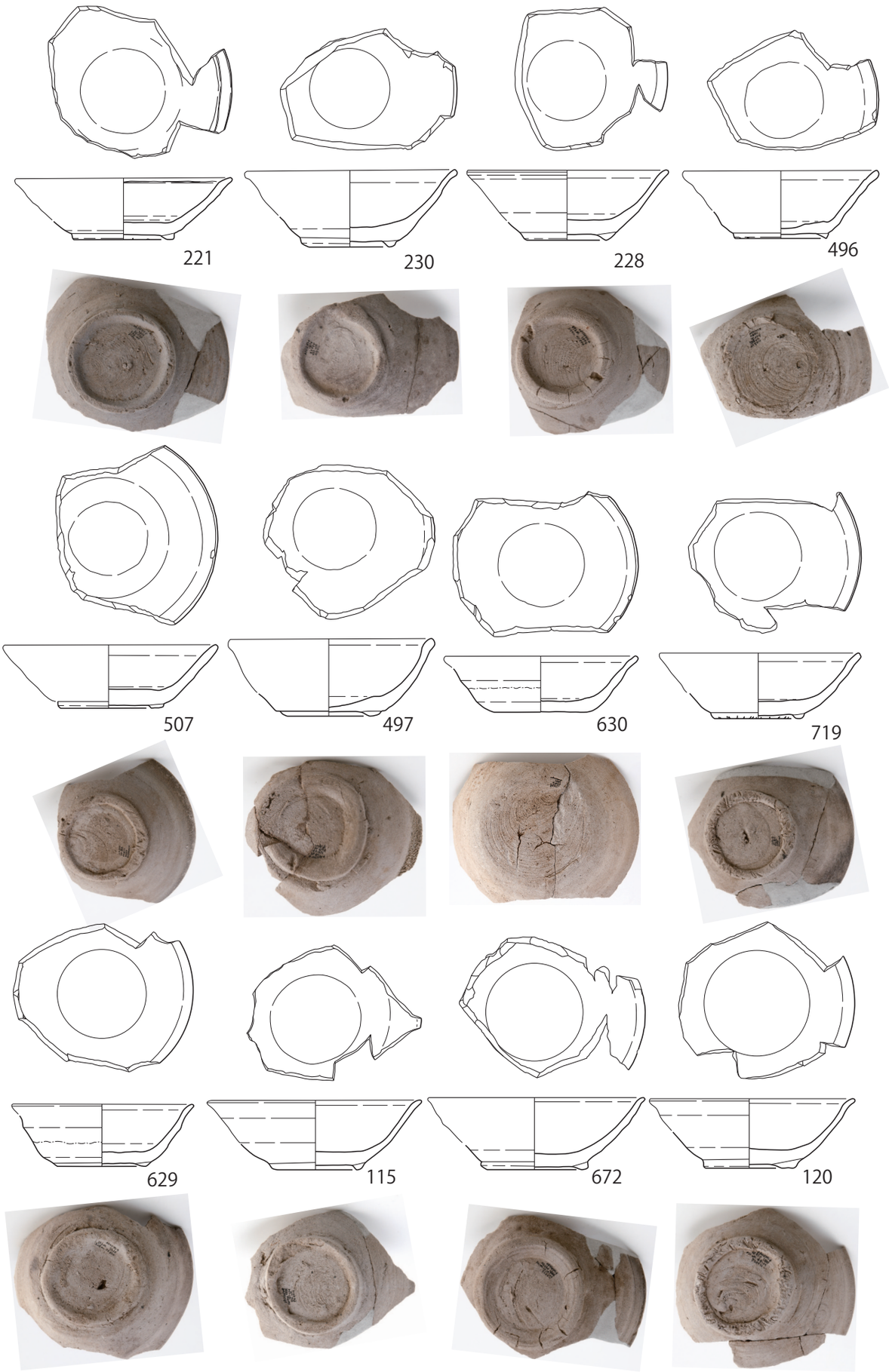


図18　２次加工のある山茶碗（３）

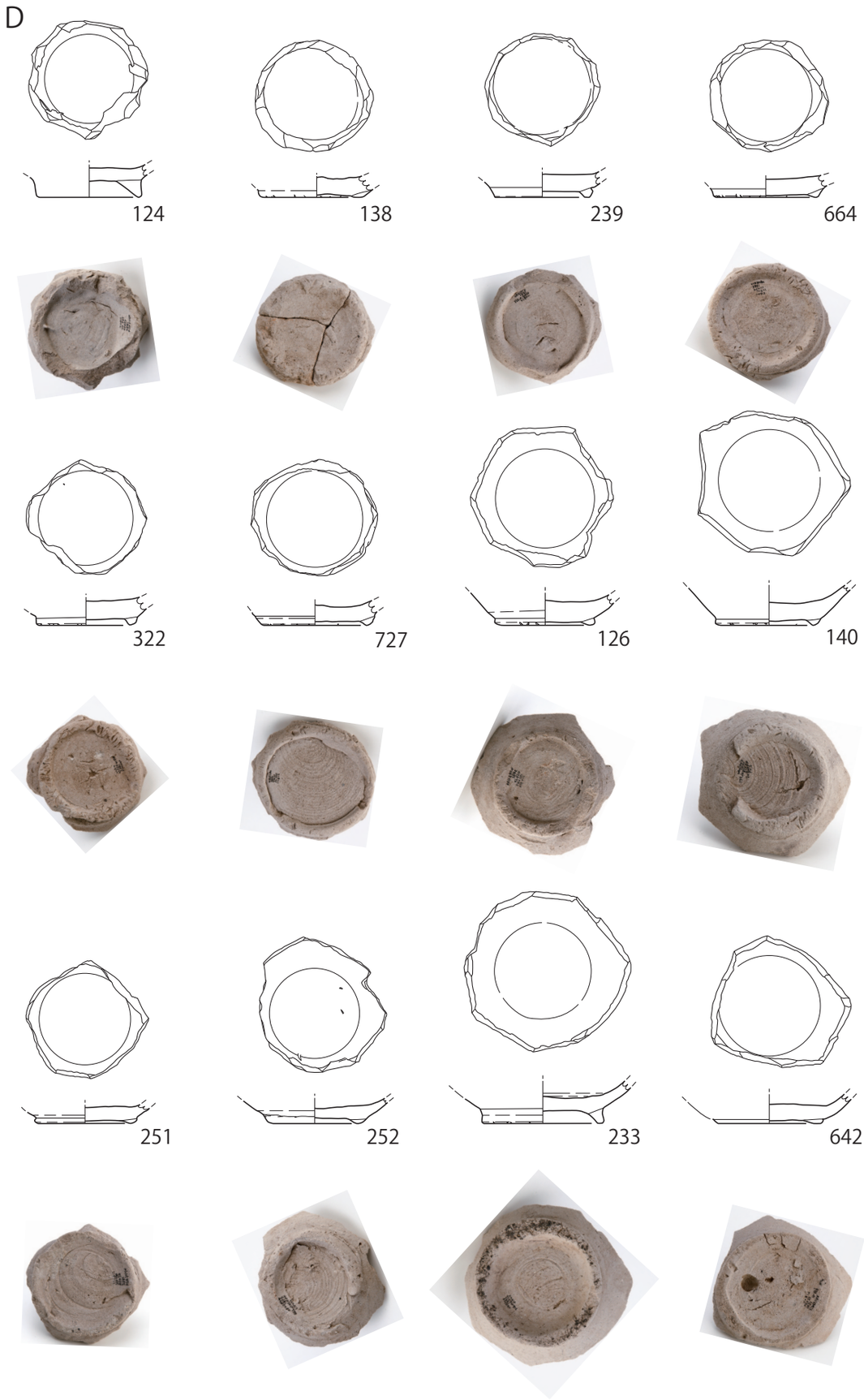
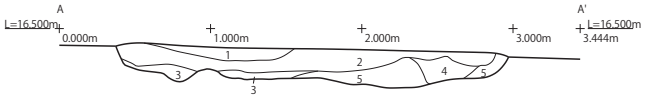


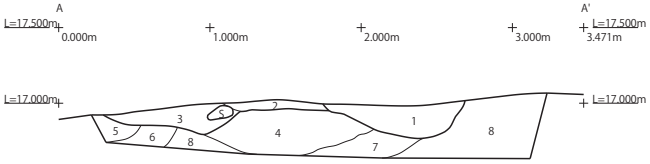
図19　２次加工のある山茶碗（４）

478SD



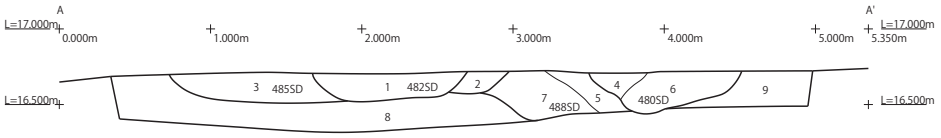
1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 細礫混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 細礫混じる
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 細礫混じる
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト＋礫 中礫 細礫混じる

480SD



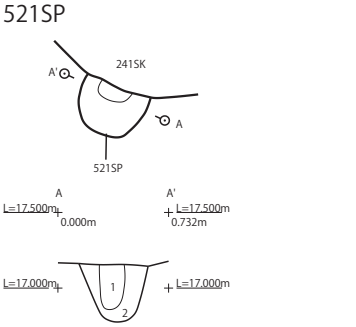
1. 10YR5/6 黄褐色シルト　中礫混じる
2. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 中礫混じる
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫 粗粒砂 巨礫混じる
4. 10YR4/2 灰黄褐色砂＋礫　中粒砂 中礫主体
5. 10YR5/2 灰黄褐色砂＋礫　粗粒砂 巨礫主体
6. 10YR4/2 灰黄褐色砂　粗粒砂 中粒砂主体
7. 10YR3/2 黒褐色砂　極粗粒砂主体 中礫混じる
8. 10YR3/3 暗褐色砂＋礫　中粒砂 中礫主体

482SD・480SD



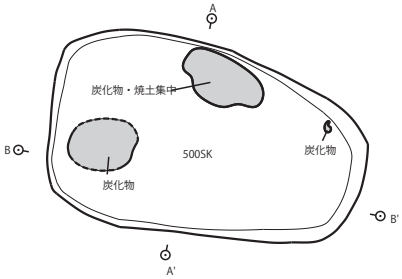
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 中粒砂 細粒砂多く混じる(482SD)
2. 10YR3/3 暗褐色砂　粗粒砂 中粒砂主体
3. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂＋礫 中礫 細礫 粗粒砂 中粒砂主体(古代の遺物を含む) (485SD)
4. 10YR3/2 黒褐色シルト　中粒砂混じる(480SD)
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 中粒砂混じる(488SD)
6. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中礫 細礫 極粗粒砂多く混じる(480SD)
7. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂混じる(488SD)
8. 10YR4/4 褐色砂＋礫　中礫 細礫 極粗粒砂主体
9. 10YR4/2 灰黄褐色礫＋シルト 大礫 中礫主体

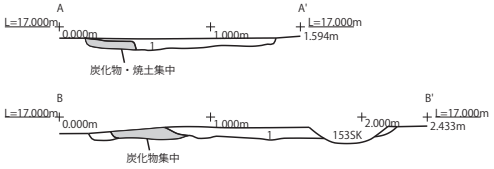
521SP



1. 10YR3/2 黒褐色シルト　中礫混じる 遺物含む
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる

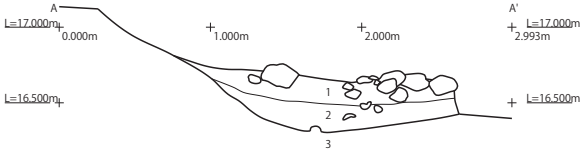
500SK





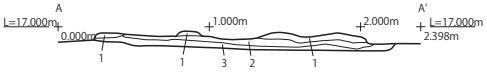
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 中礫混じる ところどころに焼土と炭化物集中する

523SS



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 集石の大礫と遺物含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細～中礫含む
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 細礫含む

515SK



1. 10YR5/2 灰黄褐色粘土
2. 10YR4/2 灰黄褐色～10YR3/2 黒褐色シルト 炭化物 焼土多く含む 土師皿 山茶椀片あり
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中礫混じる

図20　11Aa遺構図　S＝1：50（10）

463SD

東西方向に延び上位に重複する480SDより約２倍の幅を有し、トレンチＡの辺りで北西方向へ屈曲し、幅が1/2縮小する中礫層を掘り込む溝である。屈曲する地点で土師器鍋（748・749・752）がまとまって出土した。456SDと457SDは下段の459SDと並行する溝の可能性がある。Aa南壁セクション図19・20層に対応する。

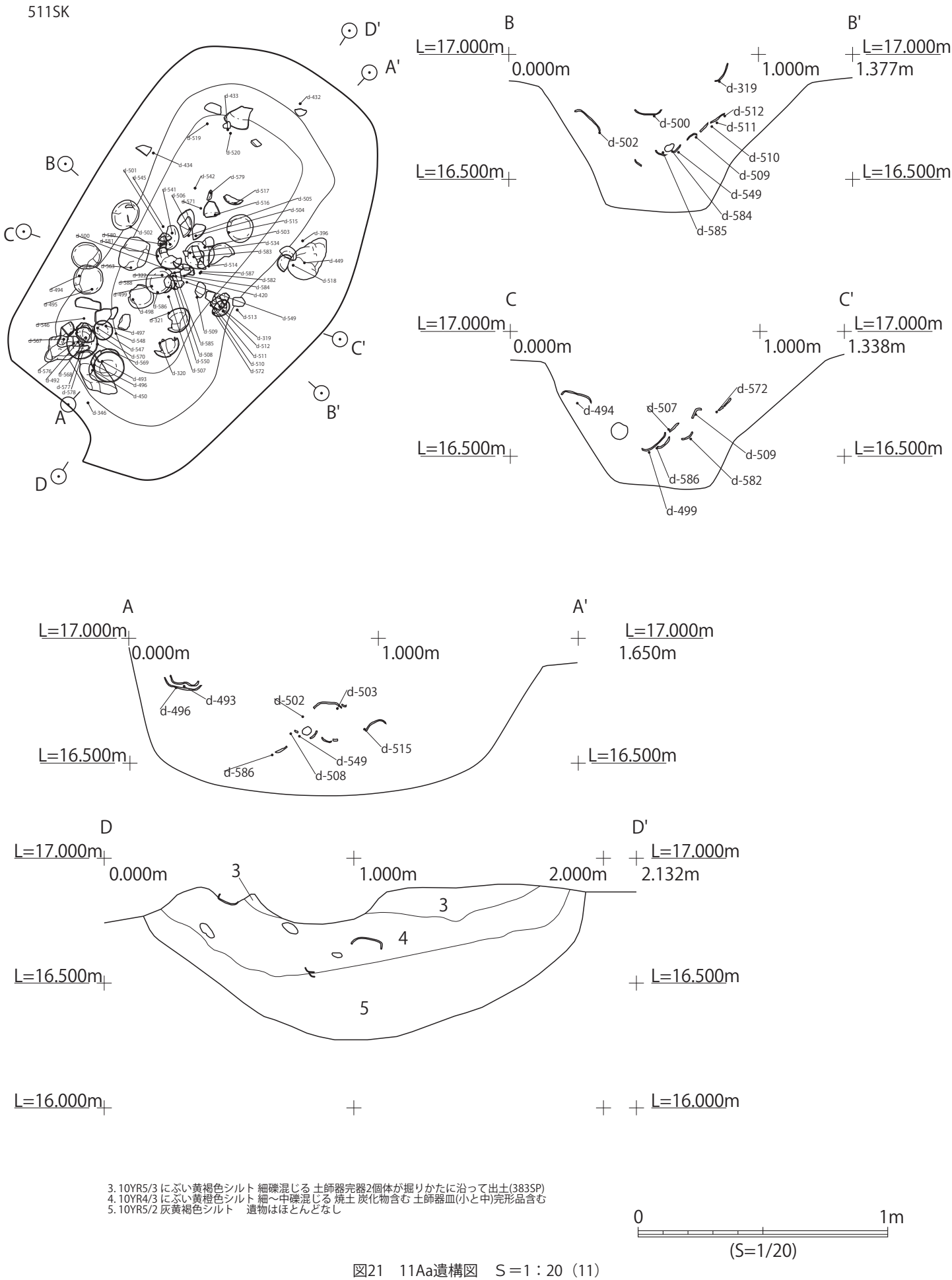
465SD

Aa南壁セクション図10・13層に対応する。Aa南壁セクション標準トレンチ内に土師器鍋（758～760）がまとまって出土した。

507SD

3679から3680グリッド周辺に展開するＢトレンチを挟んで東西に延びる流路である。上位には不定形な土坑が密集する。検出当初は溝として認識していた。

調査過程を踏まえて調査初見の溝として認識していたことから記述をはじめる。溝の両脇に中礫（径100mm前後）が薄く堆積する。南側の中礫は幅１m前後を保ちながら帯状に続く。当初はこの石列帯を意識しながら検出を進めた。トレンチＢの断面に大礫が数個まとまっていた。この辺りを断面観察により再検討した結果、礫に隣接し落ち込みが判明した。石列を拠り所として面的に掘り下げたところ、石列帯の北側にシルトが堆積する溝として確認する。トレンチ内において、北側の中礫が薄く堆積するところについて、南側と同様ではあるが、帯状ではなく、面的な広がりを持つ。中礫層の直下は、細礫層が10～20㎝堆積しており、中礫層が途切れる箇所は、細礫が溝の輪郭としてわかりやすかった。溝の深さはトレンチＢの断面で20㎝前後、さほど深くない。続いてトレンチＢより東側の検出である。西側より少し高い位置で中礫を検出した。中礫は列帯ではなく、面的に広がっていた。この中礫が途切れる部分を溝として認識できた。ただし中礫の下位にある細礫層と同様の細礫層が中礫層の上位に一部堆積しているようで、溝の上位には、上位細礫層がある。このため中礫の状況を手掛



3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 土師器完器2個体が掘りかたに沿って出土(383SP)
4. 10YR4/3 にぶい黄橙色シルト 細～中礫混じる 焼土 炭化物含む 土師器皿(小と中)完形品含む
5. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　遺物はほとんどなし

図21　11Aa遺構図　S＝1：20（11）

かりにしていた溝の認識が難航した。結果として、507SDは人工的な溝ではなく、流路454SXから分岐したあるいは合流する流路としてかんがえた。

511SK

周辺の遺構同様に、礫を含む層まで達してようやく遺構の掘りかたが判明した。平面プランは隅丸長方形、383SPを含む結果となった。断面を検討したところ、柱穴383SPは511SKに重複する遺構とかんがえた。383SPの下位層から完形品の土師器皿が複数個体出土し、都合25点（772～796）になった。出土状況は土層の中位から上位にやや南側に偏るものの、全体に広がっていた。ただし、土坑の最深部あたりには遺物はなかった。

515SK

454SX内にある粘土塊の広がる不定形な土坑。粘土塊下位に焼土と炭化物を含む層を確認した。

521SP

柱痕のある柱穴。小片の伊勢型鍋・土師器皿が出土した。

中世墓地

ここで取り上げる中世墓地とは、3677グリッドを中心に11Aa区と11Ab区の境界辺りに集中する土坑群を指す。そのなかでも集石を伴う長楕円形の平面形をなす遺構が中心である。

546ST

検出時に、炭化材を土坑の長軸方向に沿って確認する。これより下位に焼土と炭化物とともに焼人骨が炭化材とほぼ軸線をあわせて確認された。土坑の輪郭と炭化材の間は被熱した箇所が広がっていた。この時点で火葬施設とかんがえた。南北方向が長軸となる90cm×60cmの楕円形の小規模な火葬施設である。少し掘り下げると、土坑内に、80cm×20cmの輪郭部分に被熱箇所が強く、その内側に炭化物の沿う所があった。土坑の中央部分を掘り下げると、深さ10cm弱で中央部分底面ひろがる炭化物の上に、数点の骨が確認できた。土壙の深さは、南北端がやや浅く4cm、中央部が深く8cm、断面形は擂鉢形をなす。炭化材は南端で比較的良好に遺り、方形に棺材を組んだように想定できた。長軸方向双方に空気口の突出部分はなかった。中世火葬施設特有のプランではないが、炭化した木材が方形に組まれた棺材の可能性があること、その周辺が被熱している土で囲まれていること、人骨が散逸して遺ることから、火葬施設とした。

547SK

不定形な落ち込み上に拳大の礫が散漫に広がり、その合間に土師器皿や天目茶碗などの破片がうめる。周辺に礫が集中する箇所はなく、不自然な集石遺構である。これらの礫を取り除くと土師器皿や天目茶碗などの破片がうめる。これらを取り除いていくと、さらに楕円形の小土坑を確認した。人骨は未検出であるが、546SKと一石五輪塔の出土した集石群などが周辺で帯状に点在する。長軸が東西方向で隅円方形プランとなる。150cm×80cm、深さ10cmを測る。検出面に中礫が多く散在していた。南寄りの東西方向に沿って、幅30cm前後にわたり、礫が集中する。埋土内にあまり礫はない。遺物は、土師器鍋、土師器皿、天目茶碗が出土し、すべて破片であった。埋土中に炭化物、焼土を含んでいたが、特に集中する箇所はなかった。

578SK

検出当初は、南に隣接する一石五輪塔を含めた中礫が集中するところを輪郭とした。南側の礫を取り外し、再検出したところ、細片化した遺物および炭化物と焼土を含む、推定1m四方の方形土坑を再検出した。1/4ほど掘り進めたところ、上位から青磁片、深さ25cmくらいまでの擂鉢状の掘り込み部分では、山茶碗、土鍋の細片が多数出土した。さらに中心部は5cmくらい深くなり、一辺60cm（推定）の隅丸方形の掘り込みがある。この方形土坑の上に5cmほど浮いた状態で中礫が覆っている。

608ST

中世以前の河道が最終段階に埋まった堆積層（シルト＋礫層）上に検出した。ほかの集石墓群より南方5m近く離れた場所である。集石を伴う1m弱の楕円形をまず確認した。表土剥ぎ途中に重機で一部損傷したものの、南北方向に小刀が1振、その下に山茶碗1個体出土した。その後小皿2点も隣接して出土した。当初の検出段階で1m弱の楕円形の集石下に、シルト質埋土が確認でき、この部分を木棺に相当するとかんがえた。木棺と想定した箇所の上位には中礫が南北2m×東西1mの範囲にまとまっており、これらを除去中に小刀と山茶碗が出土した。上位の礫を除去後、シルト堆積の範囲が判明した。ほぼ南北軸に沿って、長軸1.8m×短軸0.5m、深さ10cm前後の長楕円形となるシルト堆積の土坑を検出した。シルト埋土に炭化物、焼土、および人骨はなく、中心よりやや北寄りに、小刀が南北方向、刃先を北に置き、その下に山茶碗と小皿が完器と半損した小皿が出土した。これらの配置は、椀＋皿＋皿の順で並ぶ。長楕円形の輪郭内は棺の痕跡が不明であった。シルト層を除去、周辺の掘り下げを進めたところ、シルトの上位にあった集石とは異なる礫床の広がりを確認した。皿状にくぼみながら長軸340cm短軸110cmの範囲にある平面形は、長軸の両端が狭く、胴張形になる。礫は整然と並ぶのではなく、皿状にくぼめた掘り方に、雑然と置いたようであった。周辺のシルト質堆積とは明らかに異なるこの礫直下には、細礫混の中～礫層がある。断面観察からも皿状のくぼみに敷かれた（置かれた）礫は直下の層（自然堆積層？）と明らかに違う。礫の大きさは様々で､中礫（10mm未満）～大礫が主体。遺物は、小刀と山茶碗、山皿の出土したシルト部分以外になかった。ということは、これらは主体部にともなう副葬品の可能性が高い。

825SK

中礫がプラン全体に広がる。遺物は土師器鍋片。炭化物あり。80×50cmの楕円形プラン。南北軸。

826SK

礫はプラン中央に大礫2個（26＋30cm）がある。中礫が数個大礫と同一レベルに散在する。遺物はなし。東西軸。100×70cmの楕円形。

830SK

中礫が南寄りに積んだように集中。814SKに切られる。80×60cm、楕円形、南北軸。

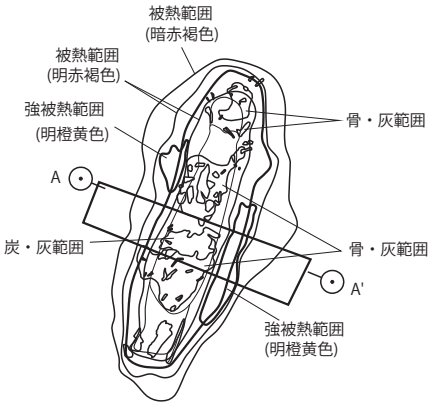
836SK

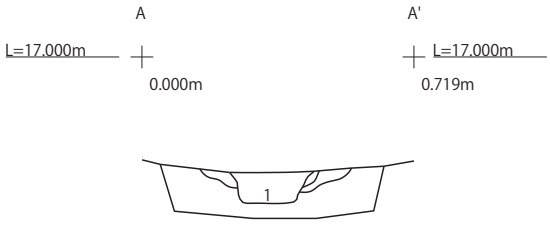
中～大礫がプランの中央やや高い位置、南北軸南寄りやや低い位置にある。炭化物あり。90×50cm、南北軸。

837SK

大礫と中礫が散在。礫の集中箇所は見られない。北寄りに甕片、中央やや西に土師器皿完形（882）、南端に土師

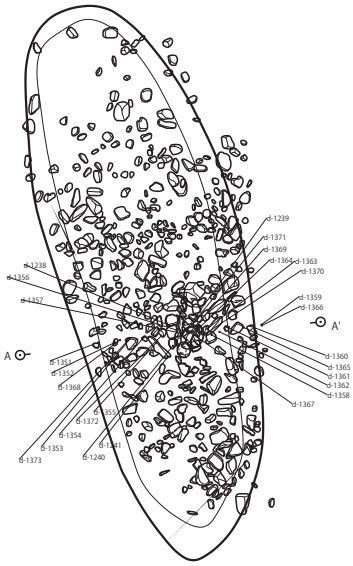
546ST

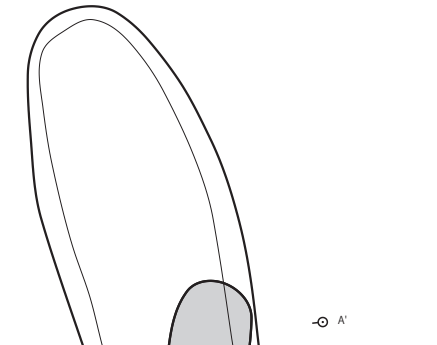


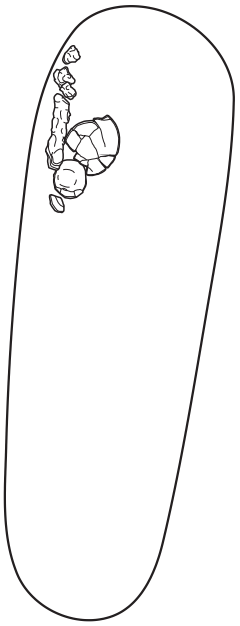


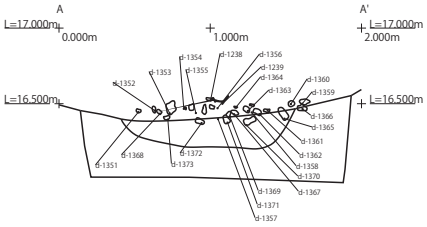
1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 細礫混じる 炭化物含む
掘方の側面は被熱著しい。
底面近くは、炭化した木材片が中央部分中心に広がる。
南端は掘方側面に沿うように炭化した板材が部分的に残存する。
骨片は、中央部分炭化材の上に残存する。

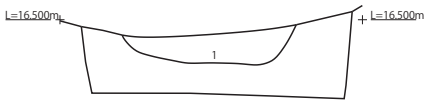
608ST





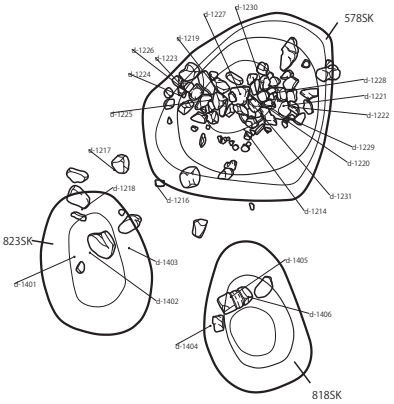




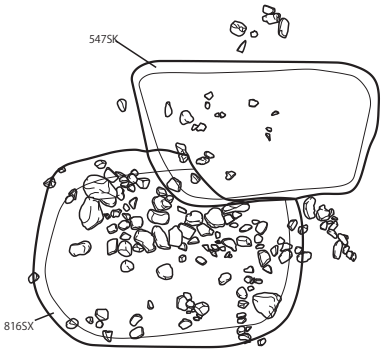


1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 細礫混じる 遺物あり

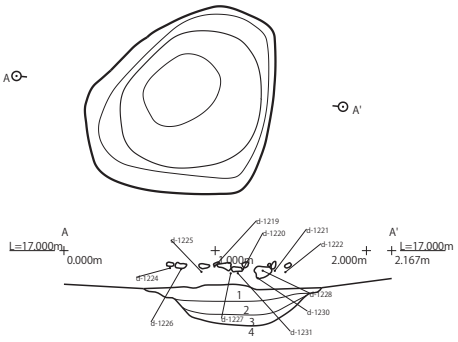
578SK・818SK・823SK



547SK・816SX



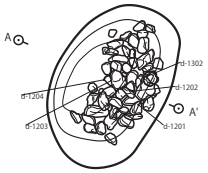
578SK



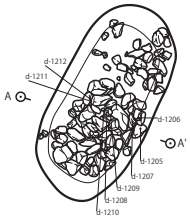
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色細礫 上位に中礫集中する
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 炭化物あり 遺物あり
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト

図22　11Ab遺構図　S＝1：20（546ST・608ST）　S＝1：50（その他）（12）

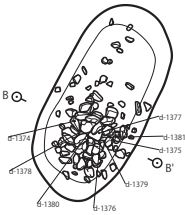
602SK



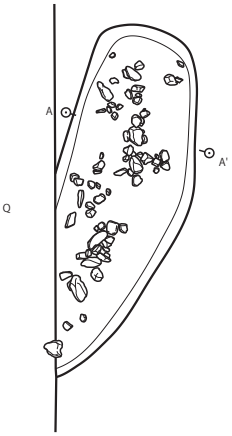
603SK-1



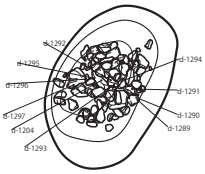
603SK-3

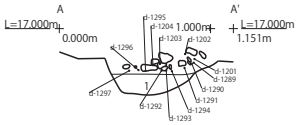


609SX



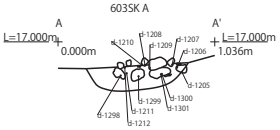
602SK-2



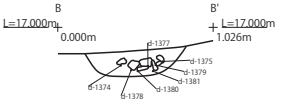


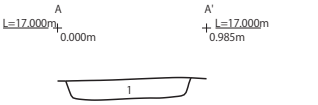
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中礫少量混じる

603SK A



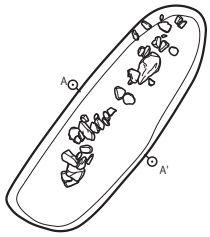
603SK B

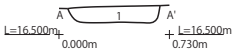




1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる

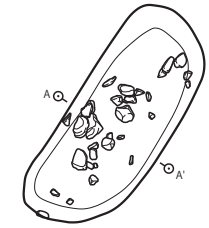
610SX





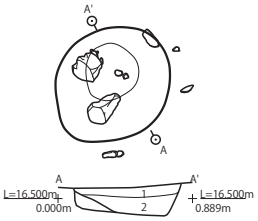
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる

814SK



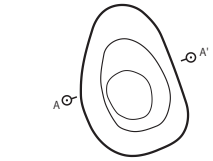
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 遺物あり

815SK



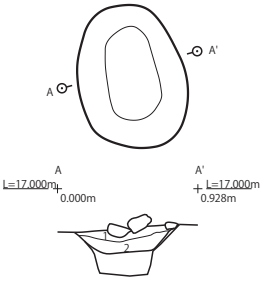
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト

818SK



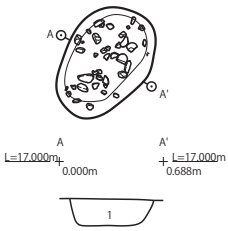
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 一石五輪塔など大礫が上位に集中
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 炭化物含む 遺物あり

823SK



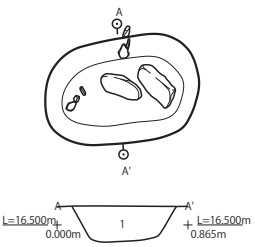
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 上位に大礫 中礫あり
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 10YR5/6 黄褐色細礫含む 炭化物含む 遺物あり

825SK



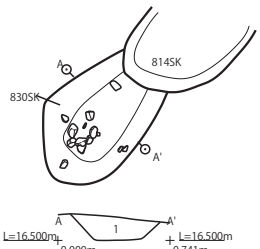
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 炭化物含む 遺物あり

826SK



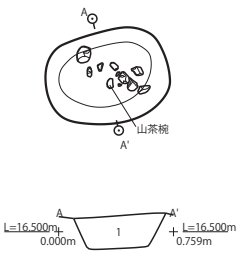
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 炭化物含む 遺物あり

830SK



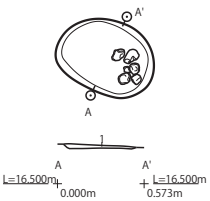
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト

835SK



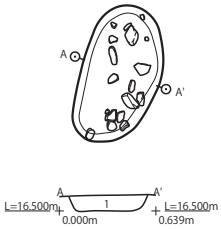
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる

840SK



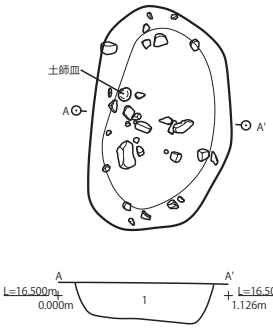
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト

836SK



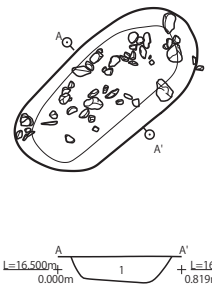
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト

837SK



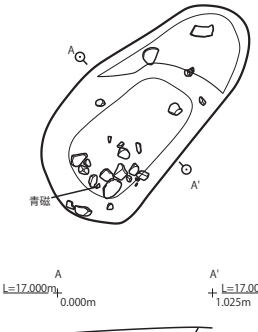
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 炭化物 焼土含む 遺物あり

838SK



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 炭化物含む 遺物あり

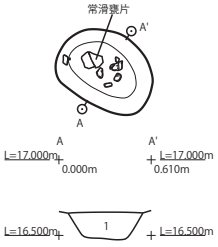
839SK



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 遺物あり

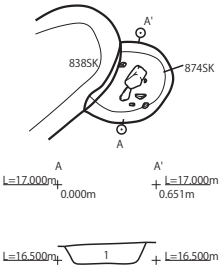
図23　11Ab遺構図　S＝1：50（13）

873SK出土状況図



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 遺物あり

874SK出土状況図

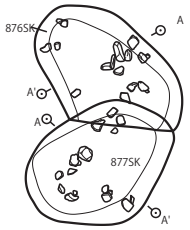


1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 層焼土 炭化物含む 遺物あり

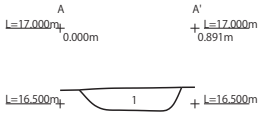
875SK出土状況図

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 焼土 炭化物含む 遺物あり

876SK・877SK出土状況図

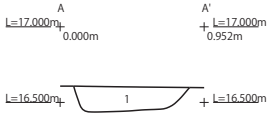


876SK



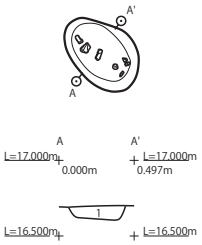
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 遺物あり

877SK



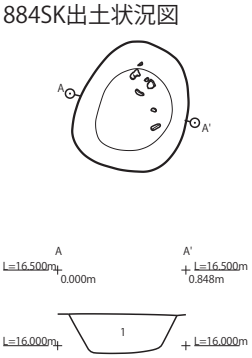
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる

883SK出土状況図



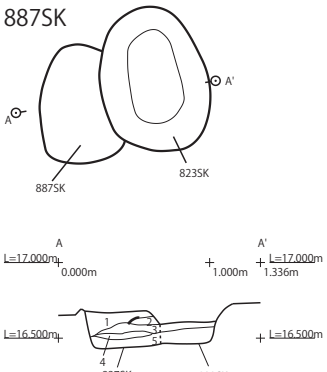
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる

884SK出土状況図



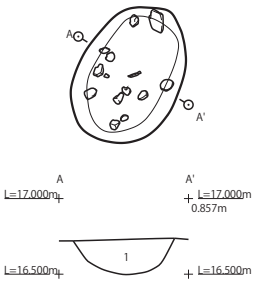
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 遺物あり

887SK



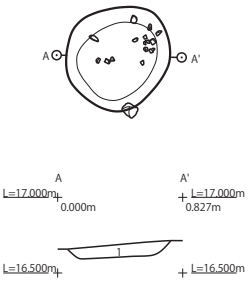
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 焼土含む 887SKに切り込む土坑
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫多く混じる 遺物あり2. 10YR5/
3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 焼土含む 土師鍋片あり
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 焼土含む

888SK出土状況図



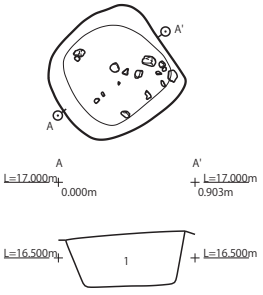
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 遺物あり

900SK出土状況図



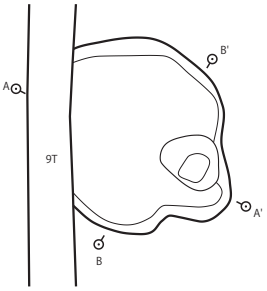
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂混じる 骨片あり

921SK出土状況図

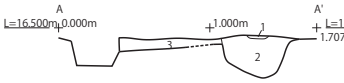


1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 細礫混じる 炭化物含む 中礫と遺物あり

961SX

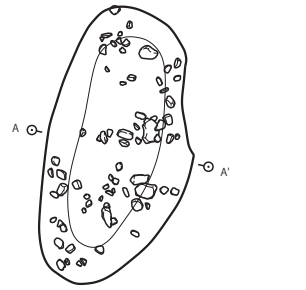


961SX-A



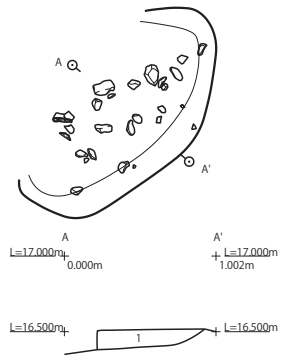
961SX-B

983SK出土状況図



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 中～大礫多くあり 遺物あり 炭化物含む

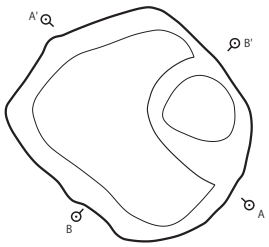
988SK出土状況図



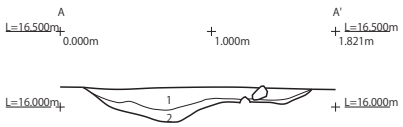
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 大礫あり 遺物あり 炭化物含む

1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 焼土 炭化物含む 上位にφ5～10mm焼土塊あり 下位にφ1mm前後の焼土塊散在する
3. 10YR5/2 灰黄褐色シルト

975SK



975SK-A



1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 10YR5/2 シルトブロック混じる

975SK-B

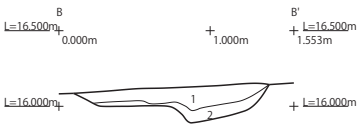


図24　11Ab遺構図　S＝1：50（14）

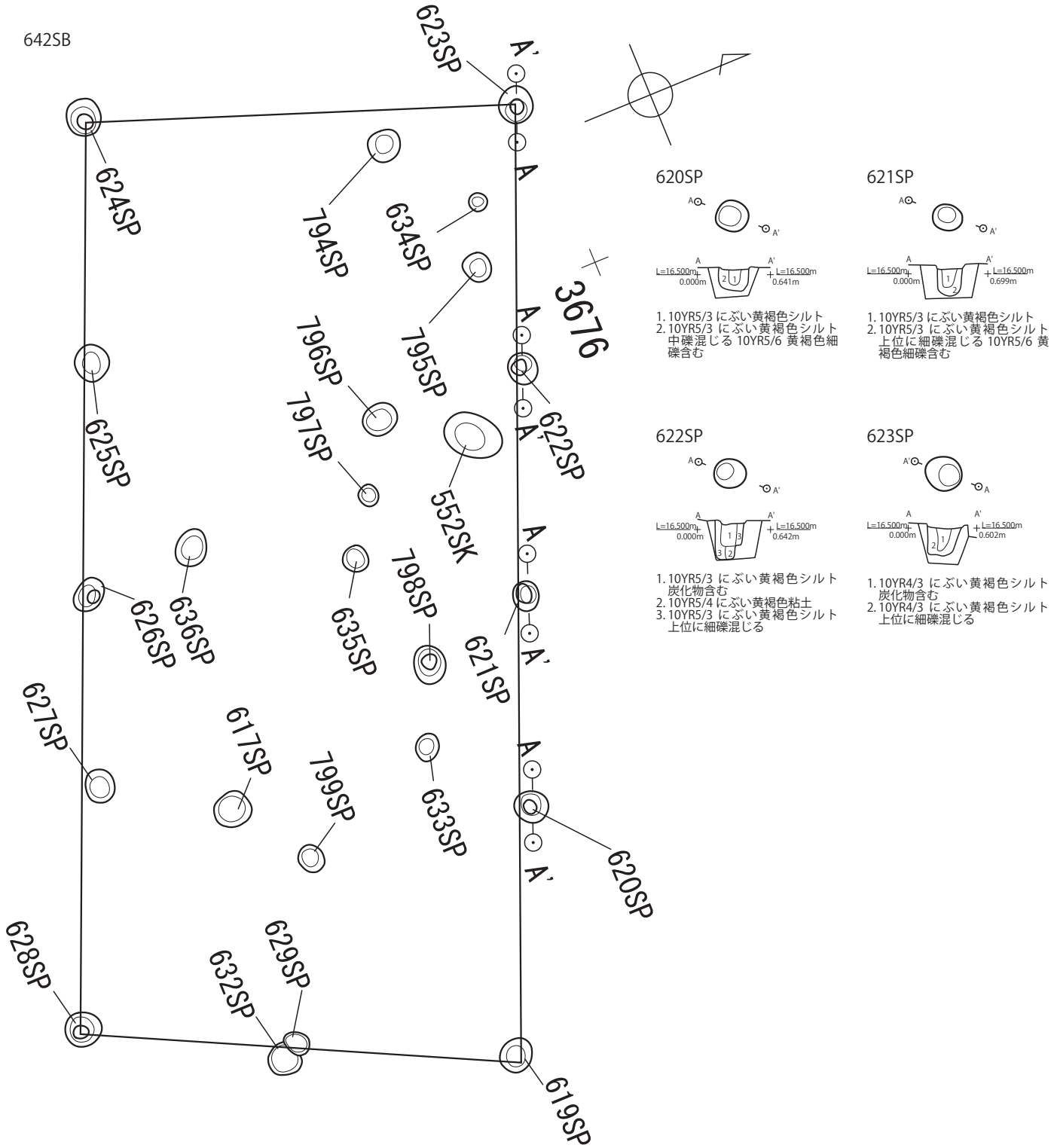


図25　11Ab遺構図　S＝1：50（15）

器鍋（883）が出土した。140×90cm、南北軸。検出面から-15cmのところで新たな集石がみつかる。中礫を中心とした集石で、一部密集した塊もある。全体の深さは25cm程度。中位くらいに集石があった。

838SK

中礫が西寄りに散在する。炭化物あり。中央付近と南端に山茶碗片（885～887）、土師器鍋片（884）が出土した。130×70cmの長楕円形、南北軸。

839SK

礫は南寄りに集中している。遺物は山茶碗片（890）と青磁片（1094）が出土した。140×80cmの楕円形プラン。南北軸。

840SK

中礫が東寄りに集中。深さ５cmほどの浅い掘り込み。遺物なし。

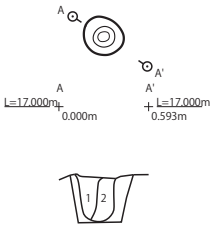
873SK

中礫がプラン中央に集中する。礫の数は少ない。常滑甕片が出土した。70×40cmの楕円形プラン。東西軸。

874SK

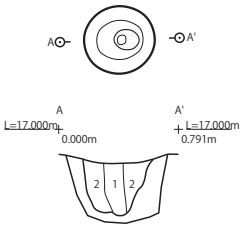
中央に大礫１個、中礫が数個。50×50cmの隅丸方形。

630SP



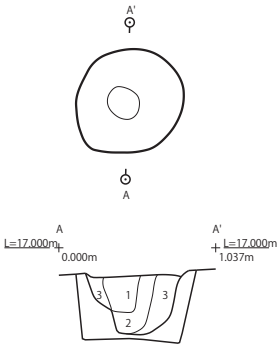
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる

656SP



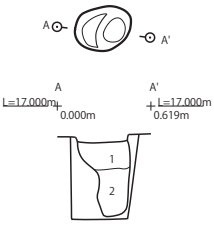
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる

698SK



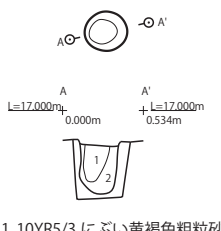
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色細礫　シルト混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる

710SP



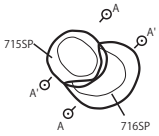
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト

711SP

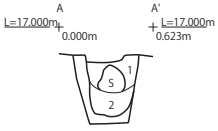


1. 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂 細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫含む
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト

715SP・716SP

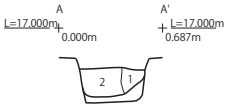


715SP



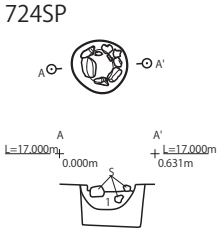
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 根石?あり
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる

716SP



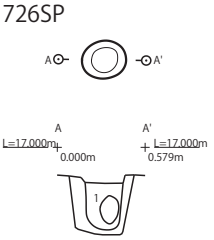
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR5/6 にぶい黄褐色細礫含む 焼土含む

724SP



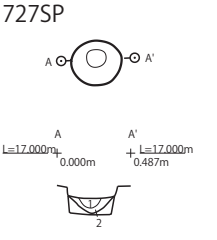
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色細礫 シルト混じる

726SP



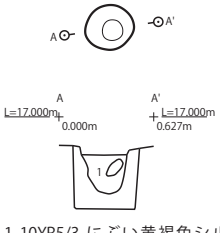
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫含む 根石あり

727SP



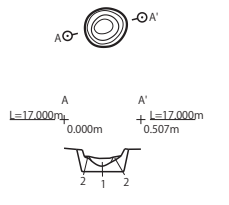
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫多く混じる 10YR5/6 黄褐色細礫含む
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト

734SP



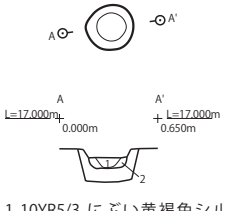
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫含む 大礫1ケあり

735SP



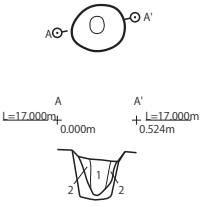
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト

741SP



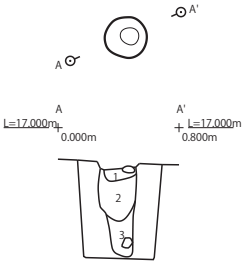
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫含む
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト

743SP



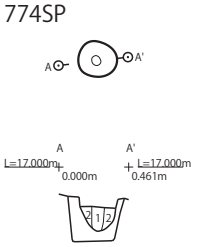
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫含む

748SP



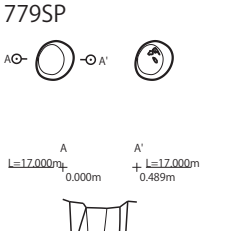
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂

774SP



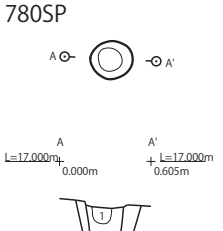
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト

779SP



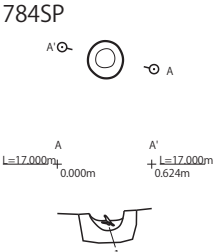
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫多く混じる 10YR5/6 黄褐色細礫含む
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト

780SP



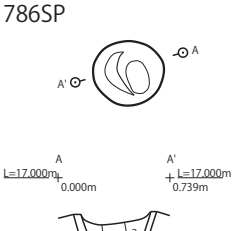
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫多く混じる 10YR5/6 黄褐色細礫含む
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる

784SP



1. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト 上位に細礫混じる 山茶椀片あり

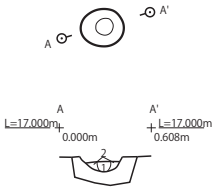
786SP



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 炭化物含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫含む

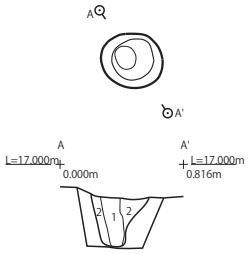
図26　11Ab遺構図　S＝1：50（16）

803SP



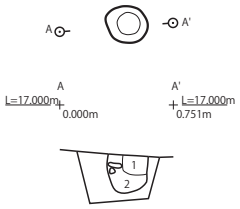
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫含む

806SP



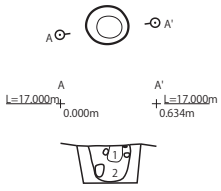
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 炭化物含む
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 遺物あり

861SP



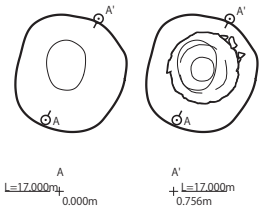
1. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト
2. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 中礫を詰める

863SP



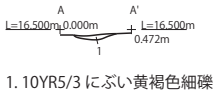
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 中礫詰める 遺物あり

841SK



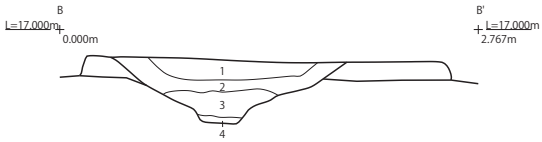
1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 中央に中礫詰め、その下に甕片あり

641SD-A



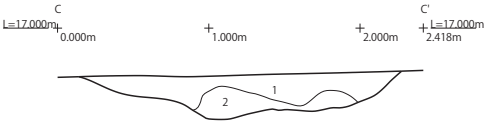
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色細礫 シルト混じる

641SD-B



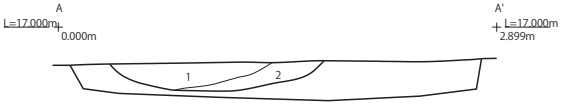
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫多く混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる (=C1層)
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色細～中礫 遺物(古墳前期か)あり (=C2層)
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂

641SD-C



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる (=B2層)
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色細～中礫 遺物(古墳前期か)あり (=B3層)

870SD



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂 中礫多く混じる
2. 10YR4/1 褐灰色シルト 細礫混じる

図27　11Ab遺構図　S＝1：50（17）

875SK

中礫が長軸方向中央に並んでいた。ほぼ中央に常滑甕片出土した。873SKと類似する土坑。

876SK

中礫が中央北寄りと西寄りに集中する。土師器鍋片と常滑甕片が出土した。110×60cm、東西方向軸、楕円形プラン。877SKに切られる。

877SK

中礫が散在する。南寄りに比較的多い。遺物はなし。遺構から南西20cm離れて土師器鍋が出土した。100×70cm、南北軸。

883SK

径５cm以下の中礫が散在する。炭化物、焼土は上位にある。深さ10cm程度。

884SK

中礫が散在する程度。土師器鍋片を含む。

983SK

長軸190cm、短軸90cmの長楕円形。深さは確認面から20cmある。中～大礫が底面から10～15cm浮いて散在する。遺物は土師器皿などが出土した。炭化物、焼土を少し含む。

984SK

長軸80～90cm、短軸50cm前後の楕円形。深さ20cm。角柱状に割れた？大礫ほか数個と山茶碗底部片が出土した。底面近くに遺物と礫がある。

988SK

長軸170cm、短軸80～90cmの長楕円形。掘り込みは検出面より高いが、現状で-10～15cm。中～大礫が10数個散在する。土師器鍋（895）、青磁片（1086）などが出土した。遺物および集積は底面より５～10cm浮いていた。

柱穴群

11Ab区西寄りを中心とした地区に柱痕をもつ柱穴（小土坑）群を含む小土坑がある。これらの遺構は調査段階の所見を列記していく。

ほとんどの柱穴は細礫が多く混入していた。なかには柱痕にのみ細礫が混入し、掘り方にはシルトが堆積する状況もあった。概ね柱穴の埋土には２種類あり、北東寄りの柱穴群（にぶい黄褐色シルトに細礫混＋黄褐色細礫含む）と南西寄りの柱群（にぶい黄褐色シルト細礫混）に分かれる。また、これら２群の柱穴から少し離れた3676グリッドの掘立柱建物642SBは唯一調査段階に柱穴の配置が認識できた。柱穴と認定した297基のうち、柱痕を確認したのは59基であった。柱を支えるための木製の礎盤や粘土敷き、根石なども確認できた。なかでも柱穴上位に中礫を柱の周辺に詰める「根巻石」が残る柱穴（742SP）なども注目できる。土器などが出土する柱穴は85基あった。その大部分は13世紀を中心とする時期の遺物であった。660SPと784SPと816SXから出土した山茶碗（863）は同一個体の破片が接合関係にあった特異な遺構であった。

そのほか柱材の残る柱穴（867SP）もあったが、脆弱な木質であり樹種不明であった。

11Ab区の水田

北西端はBb区の良好に残存した水田面と同様に、砂礫層（11Ab北壁セクション４層＝11Ab西壁セクション15層）で覆われていた。表土剥ぎおよび壁際の標準トレンチ設定の段階で、上面水田を削平した箇所は、下面と重複して検出した。検出面を一段高く残した南寄りは上面水田のみを検出した。上下二面の水田は畦畔が若干ずれるようだ。上面水田は比較的畦畔の幅が広い箇所がいくつかある。改めて調査区壁面を確認すると、幅広の畦畔は台形状に高くなる。砂礫に覆われた箇所は比較的畦畔の検出が容易であった。砂礫で覆われていない畦畔は、砂礫が混じるシルト層、あるいは黄褐色シルトが混じらない黒褐色系のシルトの場合があった。耕作土は砂礫を含まない場所が多かったので、砂礫の有無は畦畔と耕作土の見極めに有効であった。しかし、耕作土の上面は砂礫が畦畔より厚く堆積するし、砂礫がない箇所では畦畔に砂礫を含まないので、覆われた土層によって隣接する箇所でも状態が大きく違う。調査区南側には砂礫層がほとんど堆積していない。ここでは若干覆う砂質土を同一層序として認識した。

調査区南側の地区は、水田面を明確にする鍵層、砂礫層がない。黄褐色系シルトが東西帯にひろがるところを境に砂礫層がなくなる。黄褐色系シルト層は上位に砂礫層を含むものの、畦畔と耕作土の境を明確にできるものではなかった。面的に検出できなくなった辺りから10mグリッドに沿ってサブトレンチを設定して断面観察を試みた。マンガン斑の強い粘質の強いシルト層との境は認識できるが、耕作土層および畦畔は検出できなかった。

マンガン斑の強い11Ab西壁第４層上面に達している箇所は擬似畦畔に達していることを裏付ける。したがって、精査していく時点で擬似畦畔が検出できなかったので南側半分の水田は不明であった。

11Ab区全体のうち水田を検出した地区は1/3程度であった。検出できなかった地区は水田の検出ができたところより高位に相当、マンガン斑の強い西壁４層部分が検出面となっている。後世の削平により耕作土層および畦畔はなかった。西壁に黄褐色の砂礫層を含む、一段低くなって堆積層を形成する箇所がある。これより北側に水田が検出できた。おそらく、この地形の状況が水田有無を左右している。

北西地区水田の下位で擬似畦畔の確認を試みた。２回の検出作業を試みるも、明確な擬似畦畔はなかった。

11Ab区の北東部に確認した河道を精査した。Ab区南西で確認していた河道につながる層位関係を追跡するためにおこなった。その結果、Aa区とAb区の境界付近を南北に縦断する落ち込みをつかんだ。11Ab区北壁セクション20m付近、3578グリッドと3579グリッドラインの中間付近に相当する。北壁７層と30層に切り込む「大きな落ち込み」が確認できた。北壁17層から下位に28層まで堆積する層である。この落ち込みがAa区の水田を削平した堆積層に相当する。つまり、Aa区側に水田が検出できなかった理由はこの「大きな落ち込み」にある。

（３）11B区の調査

11B区は北側に市道を挟んで11C区、南側に柿畑、東側に市道を挟んで11Ab区、西側に市道を挟んで台地上には県道が位置する。排土処理の都合上、Ba区とBb区に分割して調査をおこなった。11Aa区454SXの掘削に時間を割かれてしまい、計画より遅れて７月下旬から始まった。まず、11A区に近い東寄りから調査を開始した。上位を大きく宅地造成による整地が進行しており、そのため中世の遺構面はほとんど削平されていた。このことがのちに弥生水田の検出面を捉える障害となった。つまり、上位面の遺構が捉えられなかったことで、下位にあった水田の耕作面を面的に確認することが困難になった。経過としてはバックフォーによる掘削を進め、安定した堆積層の上面を11Ba東壁セクション図32層＝11Ba北壁セクション図23層とし、遺構検出を開始した。結果としてはマンガンが強く残る擬似畦畔を検出し、水田の痕跡を比較的容易に確認することができた。と同時に、水田形成時に削平されたと思われる弥生時代前期の落ち込みを４ヶ所検出した。

001SD

11Ba南壁セクション図４～８層に対応する。層位的には中世にまで遡らない遺構と考えられる。時期を比定できる遺物がない。南壁37層が検出面なので、検出時にはすでに遺構の上位部分はなく、セクションから判断すると、弥生水田よりは上位からの掘り込みが認められる。したがって、弥生時代後期以降と推定しておく。ただし、遺構の配置からは擬似畦畔と方向が一致するので水田に関連する時期も否定できない。

082SP・027SP・028SP・029SP

調査区南東のピット列は擬似畦畔の方向と少しずれて並ぶ。001SDと同様に検出面より上位に存在していたと考えられる遺構である。柵列あるいは掘立柱建物の可能性もある。時期不明である。

080SD・087SK・088SK・089SK

11Ba調査区南西の南壁に位置する遺構群。掘削が４回あるいは大きく４層に分かれる遺構群で、単一遺構の可能性もある。径30㎝前後の巨礫が検出面にあった。遺物による時期比定はできなかった。弥生水田に関連する層位あたりからの落ち込みの可能性があり、弥生時代の遺構であろう。

083SX・084SX・085SX・086SX

いずれの遺構も不定形な落ち込みで、竪穴建物など人為的な掘り込みの可能性は低い。083SXは他の遺構に比べて深度が深く、遺物も多い。いずれも多少の炭化物は認められるが深度の浅い遺構で、上位の水田によって削平されていることを勘案しても各遺構の底面に柱穴もなく、自然の凹地とかんがえたい。出土遺物は比較的まとまりがあり、水神平式を中心とする条痕文系土器が出土している。

11Ba区の水田

水田は前記したとおり、マンガンが強い土質を探っていくと結果的に擬似畦畔が確認できた。11Ba区の調査時点では一体水田の時期はいつごろなのか、周辺の調査区に広がるのかは未知数であった。ただ、擬似畦畔が重複配置する箇所の存在から、畦畔の形成が複数回にわたって存在する可能性を見出せた。

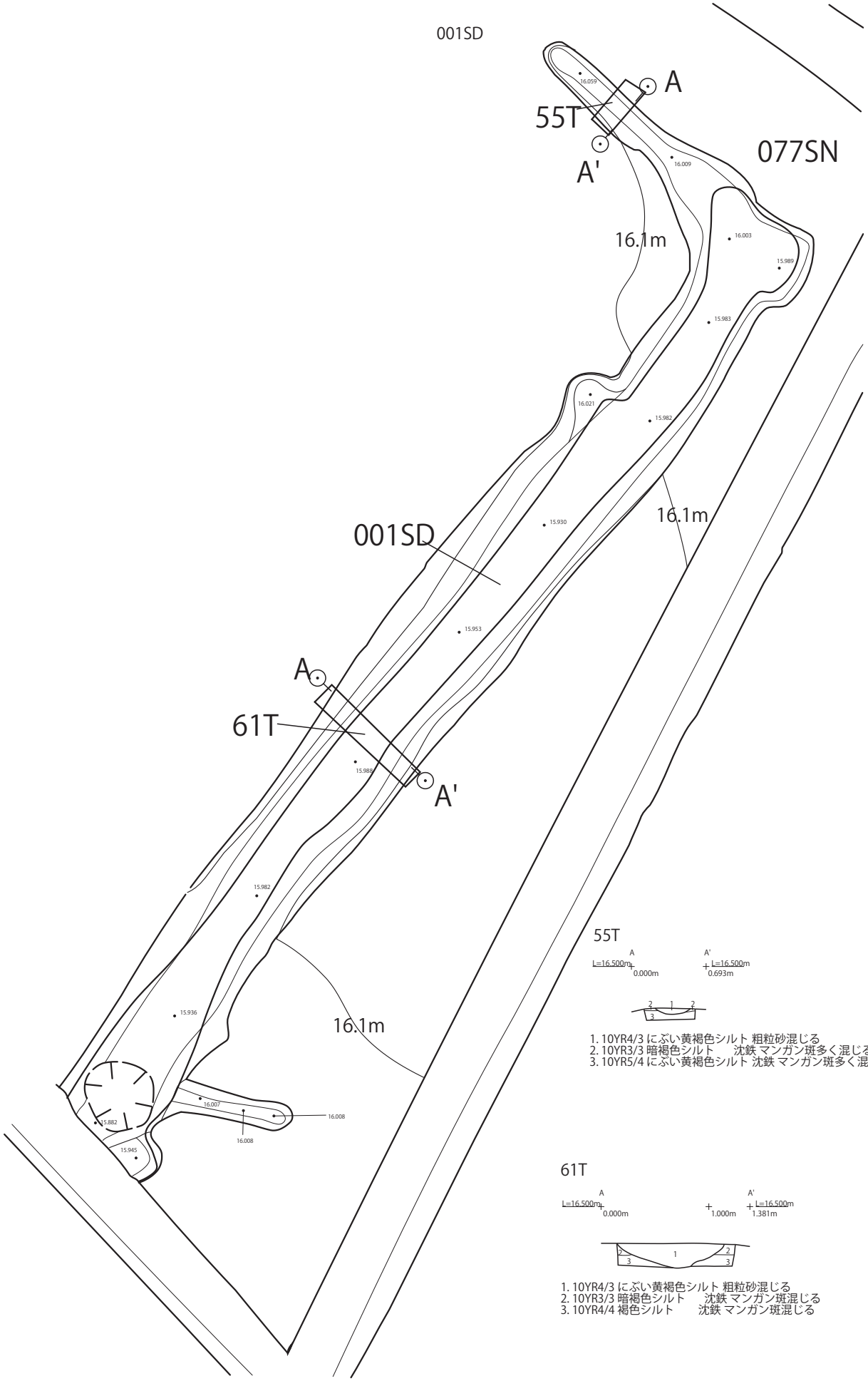
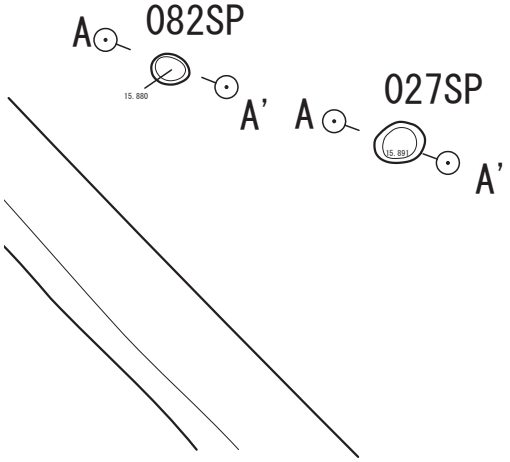
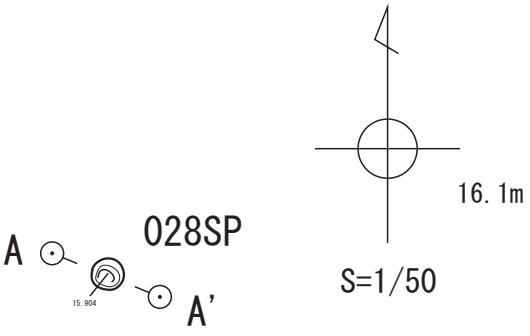
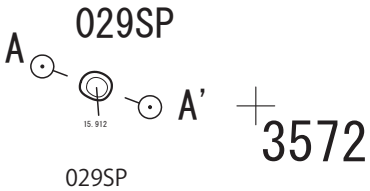


図28　11B遺構図　S＝1：50（1）

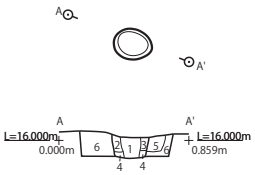
027SP～028SP・082SP





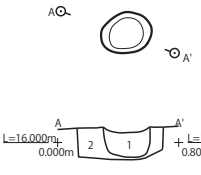


082SP



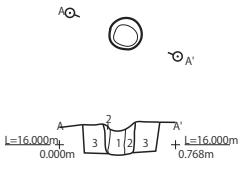
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 10YR5/1 褐灰色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR4/4 褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
4. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑混じる
5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
6. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑混じる

027SP



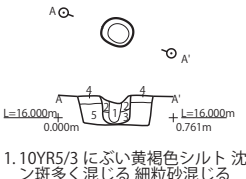
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

028SP



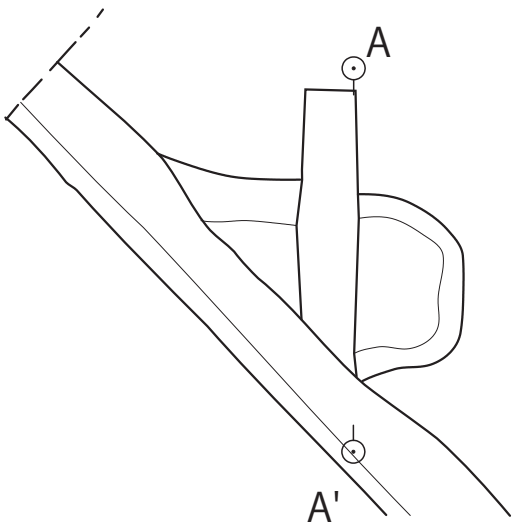
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

029SP

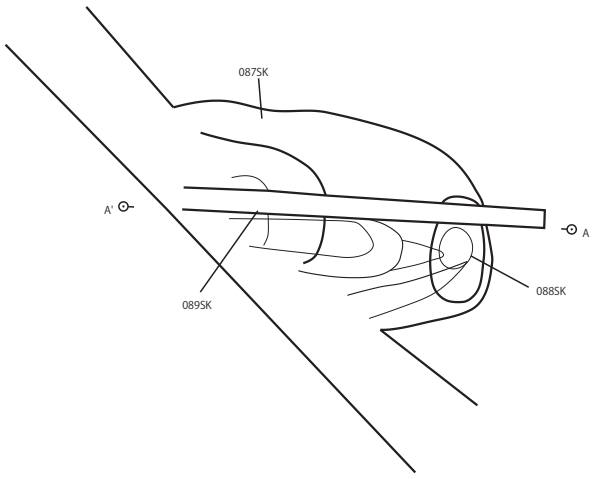


1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細粒砂混じる
2. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑混じる
3. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
4. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑混じる
5. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

081SD

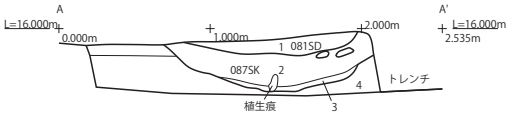


087SK・088SK・089SK



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫 極粗粒砂多量に混じる
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂混じる 炭化粒混じる
3. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる 炭化物多く混じる
4. 10YR6/6 明黄褐色シルト　粗粒砂混じる
5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる 粘土粒?混じる
6. 10YR4/1 褐灰色シルト　粗粒砂混じる 焼土? 炭化物含む
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂混じる 炭化物若干含む
8. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂混じる 炭化物若干含む
9. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂混じる 炭化物若干含む
10. 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト 炭化物若干含む

081SD・087SK



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫 極粗粒砂多量に混じる
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂混じる 炭化粒混じる
3. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる 炭化物多く混じる
4. 10YR6/6 明黄褐色シルト　粗粒砂 細礫 中礫混じる

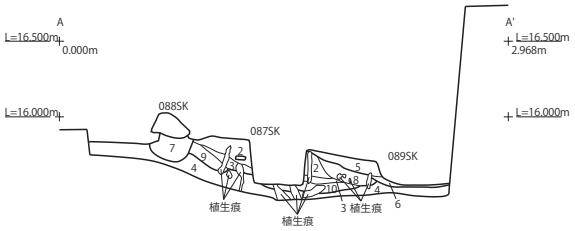
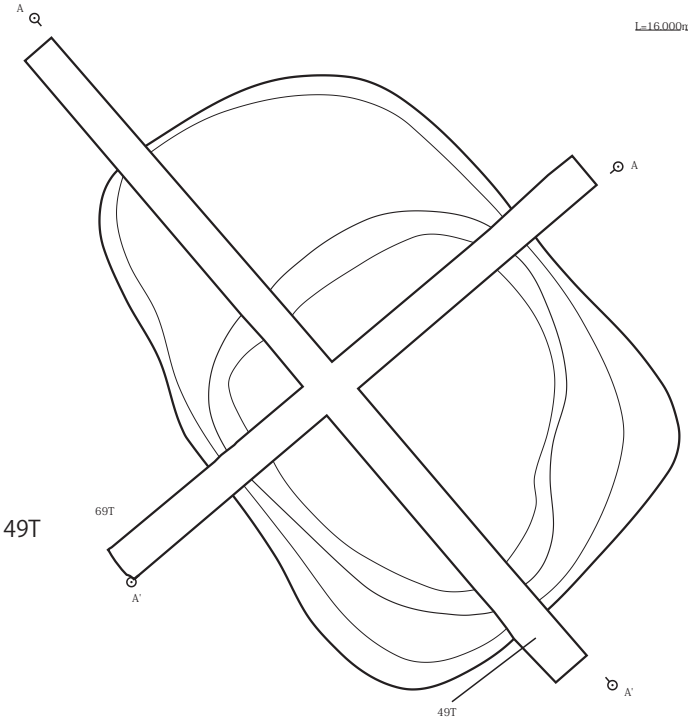
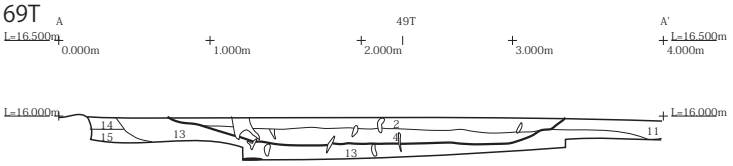


図29　11B遺構図　S＝1：50（2）

083SK

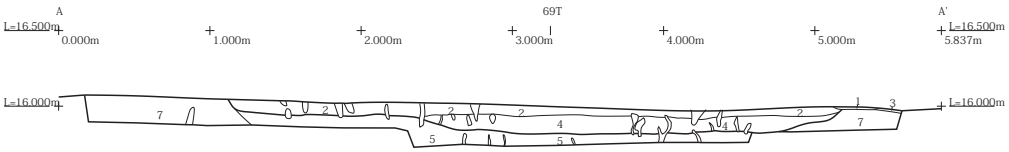


69T



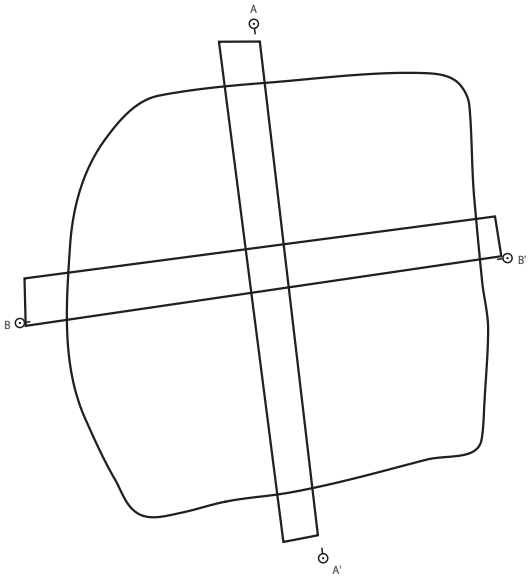
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 弥生前期土器片含む
4. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 炭化物粒少量含む 遺物混じる
8. 欠番
9. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑混じる 中礫混じる
10. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑混じる 粗粒砂混じる
11. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑混じる 粗粒砂混じる
12. 欠番
13. 10YR6/6 明黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑混じる 中礫混じる
14. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑混じる 粗粒砂混じる
15. 10YR6/6 明黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑混じる 粗粒砂混じる

49T

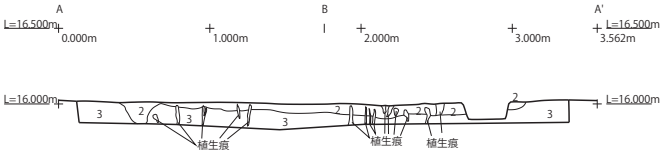


1. 10YR3/3 暗褐色シルト　　沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 弥生前期土器片含む
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
4. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 炭化物粒少量含む 遺物混じる
5. 10YR5/6 黄褐色シルト　　沈鉄 マンガン斑混じる 粗粒砂混じる
6. 欠番
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

084SX

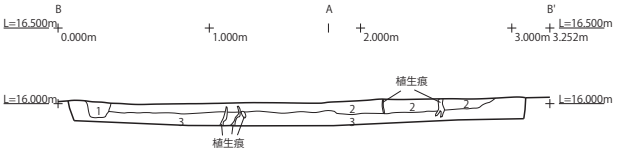


084SX A



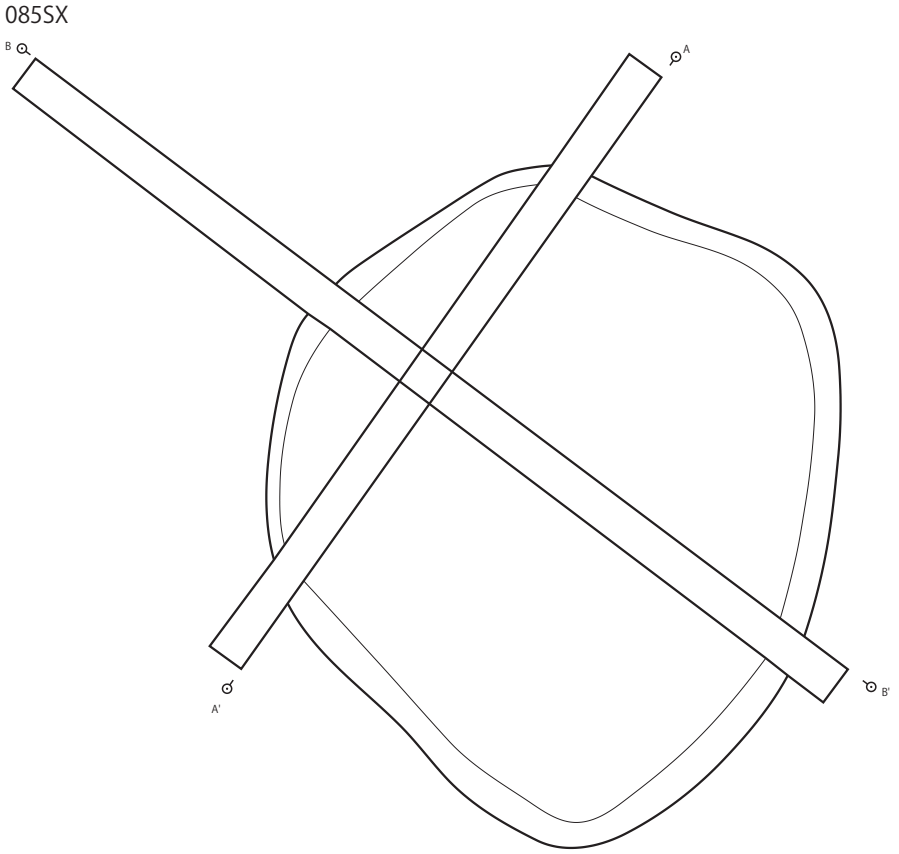
2. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑混じる 粗粒砂混じる
3. 10YR6/6 明黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑混じる 粗粒砂混じる

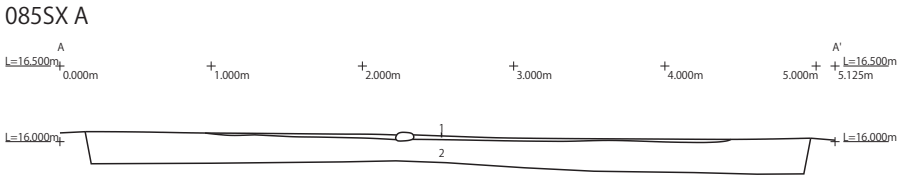
084SX B

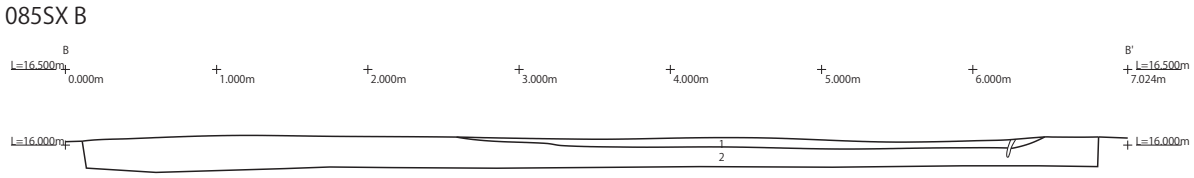


1. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑混じる 粗粒砂混じる
2. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑混じる 粗粒砂混じる
3. 10YR6/6 明黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑混じる 粗粒砂混じる

図30　11B遺構図　S＝1：50（3）







1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 炭化物をごく若干混じる
2. 10YR5/6 黄褐色シルト

図31　11B遺構図　S＝1：50（4）

11Bb区の概要

11Bb区は台地縁辺に近い調査区であったことも幸いして、Ba区のように宅地造成の削平を受けていなかった。したがって、近代の遺構も確認できた。遺構図版では都合６面を提示したが、部分的に残存する水田面を除くと近代を中心とする１面、弥生後期～古墳時代を中心とする２～３面、弥生時代中期末を中心とする４～６面の大きく３つの時期に分かれる。

097SB

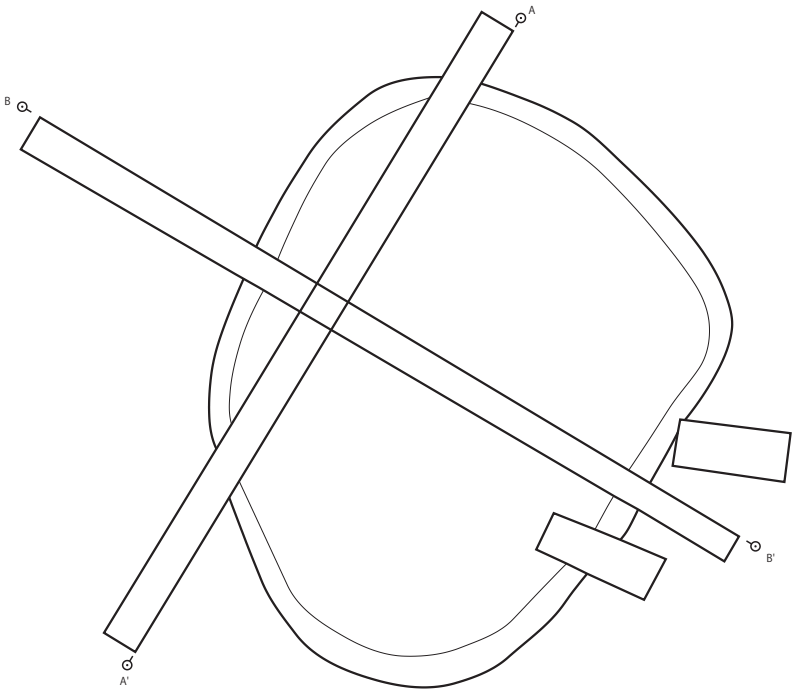
６つの柱穴（091SP～096SP）の配置が確認された掘立柱建物である。近代以降の磁器片が091SPから出土している。明治17年地籍図ではこの付近は畑地になっており、これ以前の建物と考えられる。

098SE

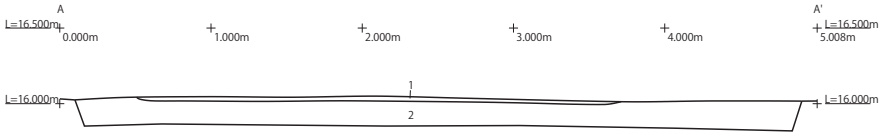
常滑焼の陶製井筒を５段以上積んだ井戸である。掘り方と井筒の間に中～巨礫を詰めている。井筒は明治30～40年代製であり、これ以前から構築された井戸の可能性もあるが、昭和年間に井戸があったことを地域住民から聞いており、比較的最近まで使用していた可能性のある野井戸である。

１面で検出した100SDに重複する溝群や同一方向に軸のある畦畔は097SBと同時期か少し遡る江戸後期以降で明治前半の可能性がある。明治17年以前は水田と建物があったと推定できる。

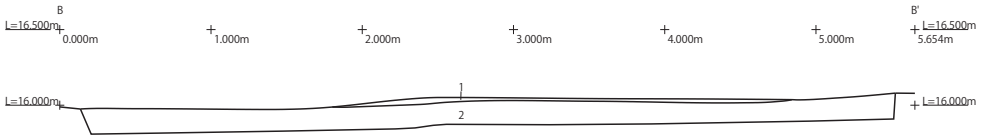
086SX



086SX A



086SX B



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂 細礫混じる 炭化物 粘土塊?をごく若干含む
2. 10YR5/6 黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる

図32　11B遺構図　S＝1：50（5）

11Bb区水田の調査

水田に関連する土層をここで検討しておく。11Bbセクション図南壁２からみていく。弥生水田の上位層に２度おおきな洪水性の堆積である中礫層がある。ひとつは南壁２の10層である。この洪水層は弥生水田を直接覆う中礫層より上位層から堆積する。一部深く削平がおよび弥生水田まで到達する。もう１つは南壁２の15層である。この中礫層は除去すると水田の畦畔が検出できる水田面を覆う堆積層である。水田面はこの南壁２から２面を指摘できる。上位の水田は南壁２の58層と67層を耕作土とする水田、58層と67層は上下関係にあり、67層が下位に堆積する。もう１つは11Ab西壁４層と同一層である59層と75層の基盤層とし、この上位に堆積する73層と70層を耕作土とする水田である。

この上下２面をもとに、弥生上面水田、弥生下面水田として記述を進めていく。いずれの水田も小区画水田である。いずれも10㎡に満たない。上下の水田の違いは、水田区画の方向に差異がある。上面水田は北東から南東の軸線を基本に区画が形成されているのに対し、下面水田は南北方向に延びる224Sを基軸に区画が形成されている。また、水田は上面下面ともに調査区北西側を11Bb北壁42＋54層を中心とする河道の細礫～中礫層によって大きく削平されている。上面水田はこの河道東側全面に水田を形成している。一方、下面水田は224SDの西側に水田を東側に複数の重複する炉跡がある。

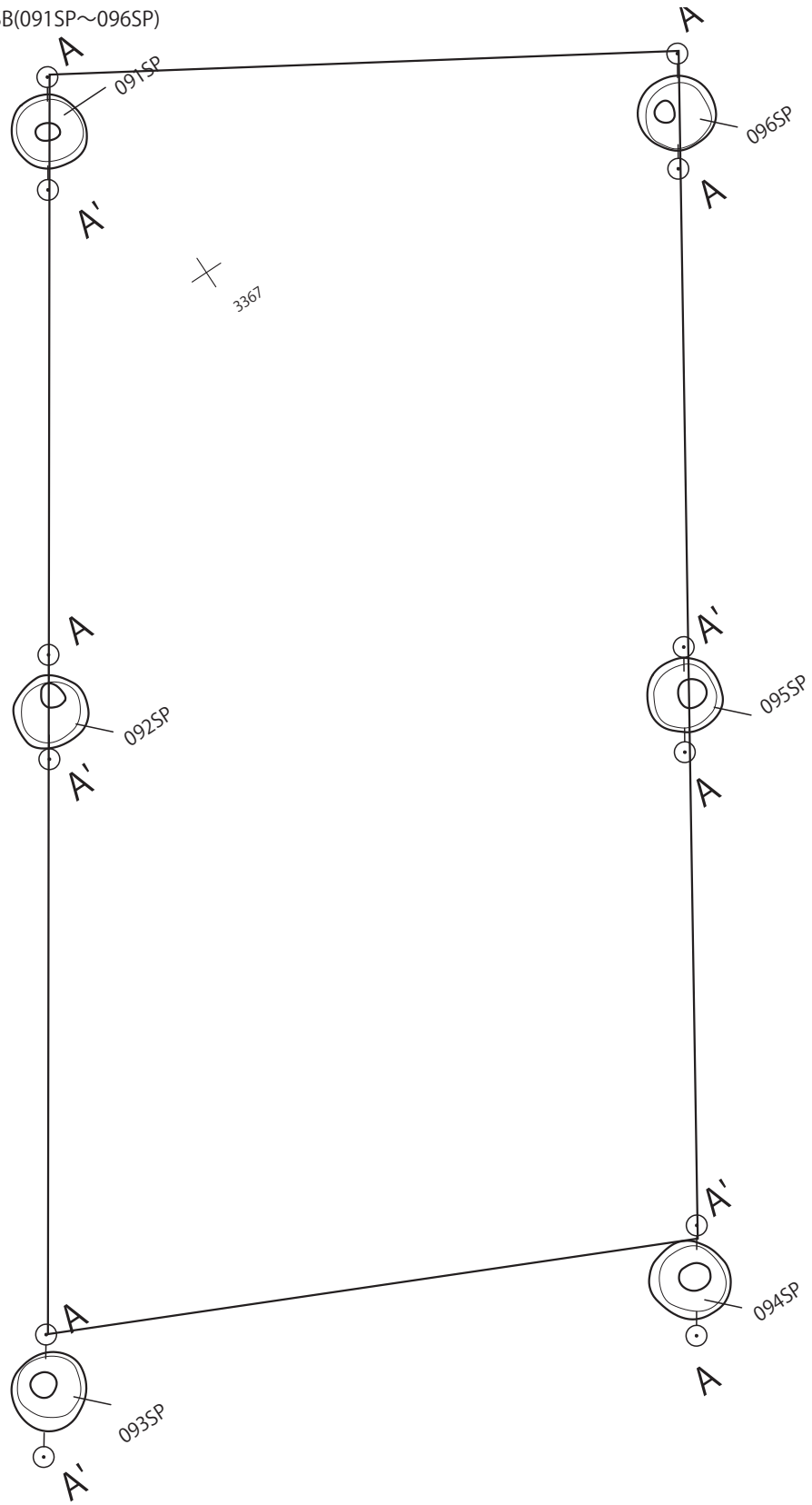
222SX・275SX・276SX・277SX

最上位に222SX、これより下位にU字形の溝を伴う３つの炉跡がある。222SXは炭化物が混じるものの焼土はない。一方下位に大きく３つ重複する炉跡は焼土と炭化物と焼土が重複する中心部に集中している。このように下面水田区画を避けて炉跡が構築されている。

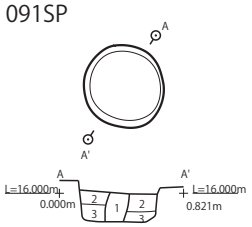
224SD・236SD

下面水田に伴う溝である。224SDは南北方向にまっすぐ延びる溝で、236SDは224SDから分岐する溝である。236SDと224SDには炭化物が散在していた。236SDの底面には径10㎝前後のピット列が続く。いずれも溝が分岐す

097SB(091SP～096SP)

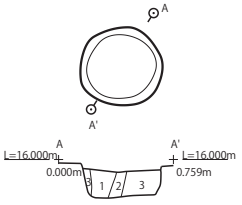


091SP



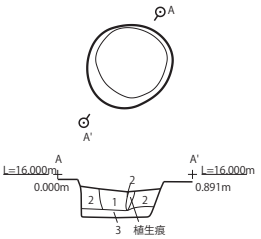
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　10YR5/2 灰黄褐色シルト混じる 極粗粒砂若干混じる(柱痕)
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 10YR4/1 褐灰色シルト斑状に混じる 極粗粒砂少量混じる
3. 10YR4/4 褐色シルト　極粗粒砂混じる

092SP



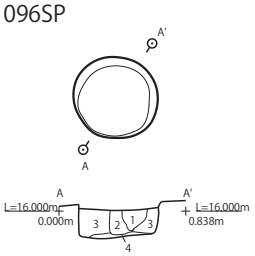
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 中粒砂混じる(柱痕)
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粗粒砂 細礫混じる(柱痕)
3. 10YR3/2 黒褐色シルト 中粒砂若干混じる 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト斑状に混じる

093SP



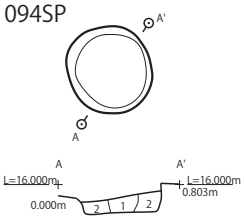
1. 10YR3/3 暗褐色シルト 極粗粒砂少量混じる(柱痕)
2. 10YR3/2 黒褐色シルト 粗粒砂少量混じる 10YR4/2 灰黄褐色シルト斑状に混じる
3. 10YR4/1 褐灰色シルト 極粗粒砂 粗粒砂混じる

096SP



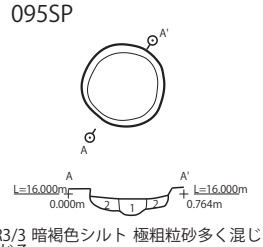
1. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 10YR3/2 黒褐色シルト斑状に混じる 極粗粒砂混じる
2. 10YR3/2 黒褐色シルト　極粗粒砂混じる
3. 10YR3/2 黒褐色シルト　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト斑状に混じる 極粗粒砂少量混じる
4. 10YR5/2 灰黄褐色シルト

094SP



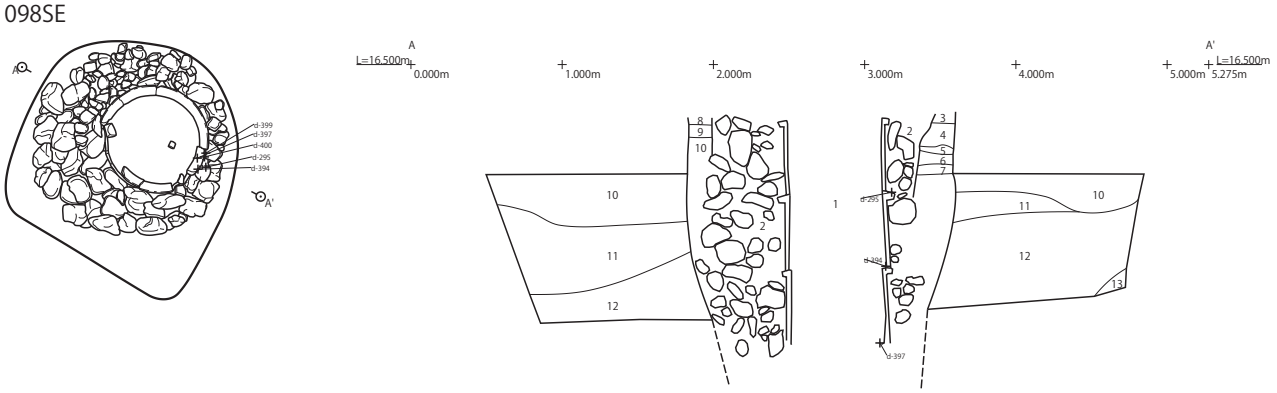
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト混じる 粗粒砂若干混じる(柱痕)
2. 10YR3/2 黒褐色シルト 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト斑状に混じる 粗粒砂若干混じる

095SP



1. 10YR3/3 暗褐色シルト 極粗粒砂多く混じる 細礫混じる
2. 10YR3/2 黒褐色シルト 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト斑上に混じる 極粗粒砂混じる

図33　11B遺構図　S＝1：50（6）



1. 10YR4/2 灰黄褐色礫＋砂　中礫 粗粒砂 中粒砂主体 使用後の埋土
2. 10YR4/1 褐灰色礫＋砂　巨礫 中礫が充填されている状態 礫の間に粗粒砂 中粒砂混じる
3. 10YR3/1 黒褐色シルト　中粒砂若干混じる 10YR6/2 灰黄褐色シルト混じる
4. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂若干混じる
5. 10YR4/1 褐灰色砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂主体
6. 10YR4/2 灰黄褐色シルト＋砂　中粒砂 細粒砂主体
7. 10YR4/1 褐灰色砂　極粗粒砂 粗粒砂主体
8. 10YR3/2 黒褐色シルト　極粗粒砂 若干混じる
9. 10YR5/1 褐灰色シルト＋砂　細粒砂主体 細礫混じる
10. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂＋シルト 粗粒砂 中粒砂主体 細礫多く混じる 10YR7/6 明黄褐色粘土塊多く混じる
11. 10YR5/1 褐灰色礫＋シルト　細礫主体 極粗粒砂混じる
12. 10YR5/2 灰黄褐色礫＋シルト　細礫主体 中礫多く混じる
13. 10YR7/6 明黄褐色シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる

図34　11B遺構図　S＝1：50（7）

る辺りに集中していることから、導水を調整する施設の可能性がある。

（4）11C区の調査

11C区は遺跡の北西に位置し、台地上は野添遺跡と接する。12A区は調査区の北東に接し、東は市道を挟んで11D区、南は市道を挟んで11Bb区に囲まれる。

表土剥ぎを北西隅から始めると巨礫を含む河道002NRと001NRが確認でき、中世以降の遺構面は削平されていることが判明した。これら河道のうち、002NRは位置関係から11Bb区の弥生水田西側を削平する河道につながると想定した。また、この段階で弥生水田面を覆う礫層まで１m以上あることも確認できた。バックフォーによる表土剥ぎはこれら河道の輪郭が明確になる褐色シルトで面的に広げた。調査区西側のこれらの河道とは別に、12A区および11C区の東側にかかる河道も上位堆積層であったので、11B区と上位堆積層を比較して整合性を図ろうとしても河道の堆積層は鍵層にできず苦慮した。結局、調査区壁に設置した標準トレンチを検討し、弥生水田下の基盤層を見出し、水田の耕作土層、この直上を覆う礫層を探ることで周辺の調査区と比較検討した。

調査区東側、11C北壁３セクション図の15m付近に堆積する123層＋132層は12ASD0 1 の堆積層であり、この上位を覆う112層（褐灰色礫＋砂層）は弥生水田を覆う礫層である。ここで確認できる129層と128層は弥生水田の耕作土層、この下に30～34層とした基盤層が堆積する。ただし、129層と128層がどの水田面に対応するか判断できなかった。畦畔の検出できた３-1面が北壁３付近まで延びるので、3-1面の可能性はある。

続いて東壁セクションの堆積層を検討する。東壁５のセクション図から、北壁３と同一層である112層＋111層＋60層によって形成された堆積層は大きく水田面を削平している。東壁５・６では112層より下位で水田面を覆う堆積層（58層：灰黄褐色礫＋砂層）が確認できる。おそらくB区の弥生水田を覆う最初の堆積層と対応すると考えられる。ここでは65～70層までの６層が耕作土層に相当する。

最後に南壁セクションの堆積層を検討する。南壁セクションでは表土剥ぎの時点で検出した河道001NRと002NRの堆積層が対比できる。001NRは35層＋36層が相当し、002NRは50層＋51層が相当する。これらの河道より東側に弥生水田が確認できる。層名は東セクションと同名であり、66～79層までが耕作土層に相当する。層番号は東壁より多いが、耕作土層としては同じく６層あると想定した。

ところで、平面として確認した水田面は９面ある。これらのうち、直接セクションと対比できるのは東壁５と南壁である。２面＝65＋66層、3-1面＝67層、3-2面＝68層、4-1面＝69層、4-2面＝70＋71層、5-1面＝79層、に相当する。

水田の区画は等高線に沿って弧状に配置されている。水田１面の面積は5㎡前後が最も多い。水田の比高差は0.4mで、上段と下段のまとまりに見えるが、これは間に幅２m前後等高線に沿って後世の河道による削平が進行した結果であって、本来は水田が続いていたと考えられる。

151SD

4-2面の水田の最上位に位置する150SDから分岐して南流する151SDに溝を横断するように中礫から大礫が並んできた。おそらく水流を調節する水口と考えられる。

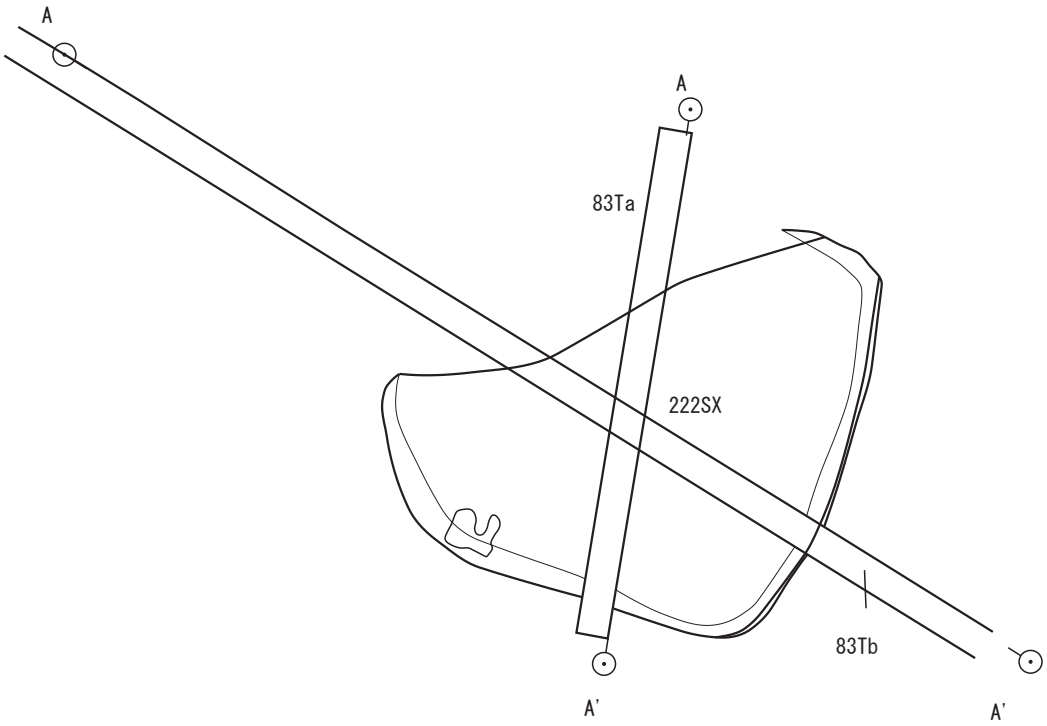
244SX

6-3面に水田形成以前とかんがえられる土坑が検出された。3.5×2.7mを図る三角形の土坑で、南側の低くなる位置に245SDが附設されている。湧水点の可能性もある。

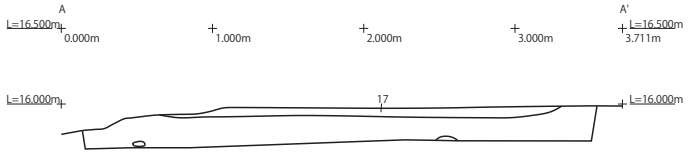
（5）11D区の調査

調査区は11C区の市道を挟んで東側に位置する。北側は宅地と畑地が隣接する。他の３方は市道に囲まれた調査区である。現況の地形は、12A区・11C区は台地縁辺から緩

222SX

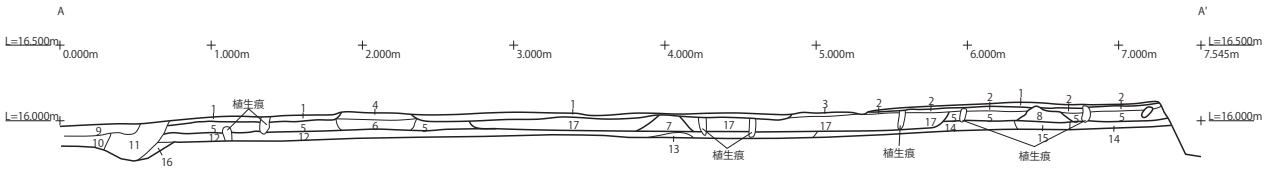


222SX(83Ta)



17. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 炭化物混じる (222SX)

83Tb



1. 10YR4/2 褐灰色シルト＋礫　細礫主体 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる (Bb区東壁2 1層)
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる (Bb区東壁2 2層)
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 中粒砂若干混じる 細礫混じる (アゼ)
5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (Bb区東壁2 4層)
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
8. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
9. 10YR5/2 灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂 細粒砂主体 (自然流路)
10. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂シルト 中粒砂 細粒砂主体 極粗粒砂混じる (自然流路)
11. 10YR5/1 褐灰色砂　中粒砂主体 極粗粒砂混じる (自然流路)
12. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 炭化物 焼土塊を含む
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　焼土塊 炉の存在か
14. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　細礫 粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (Bb区東壁2 13層)
15. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる (14層と同一層)
16. 10YR6/6 明黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
17. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 炭化物混じる (222SX)

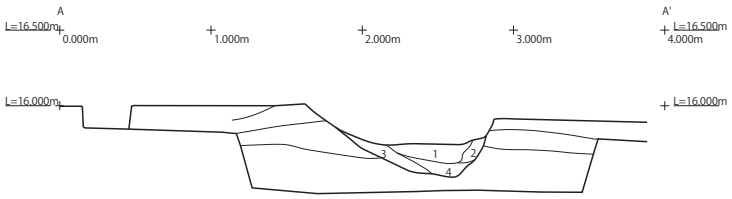
図35　11B遺構図　S＝1：50（8）

やかに傾斜の残る調査区であったが、11D区にいたると、ほぼ平坦な地表面（標高7.5m）となる。

表土を除去すると、南壁6層（にぶい黄褐色細～中礫）と同一層の24層、これに類似する北壁9層（灰黄褐色細礫）と17層（灰黄褐色中礫）が水田面を覆っている。調査区の東半分は礫層を中心とした洪水層が厚く堆積し、この洪水層は市道を挟んで南接する11Ab区北壁8～13層の細～中礫層と対応する。11Ab区の北西寄りに展開する水田を覆う層でもあり、層位的に対応する。

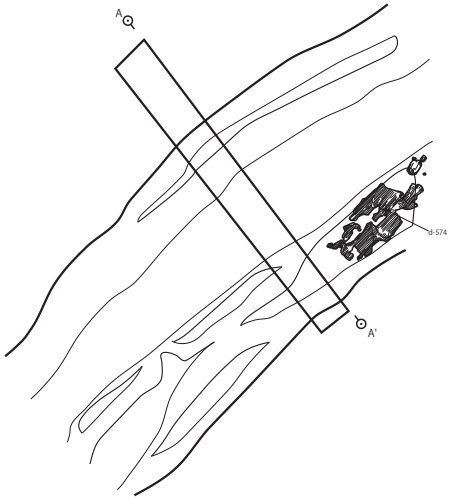
11D区は中世に相当する検出面が確認できなかった。これは、水田面を覆う南壁6層とこれに類似する細～中礫層によって削平されていると考えられるからである。仮に11Ab区と11C区の中世検出面が同一レベル（標高6.8m前後）だとしても、11D区南壁6層によって削平されている位置関係となる。したがってこの6層から判断すると、11D区の調査区内は中世以降の洪水層によって中世遺構面

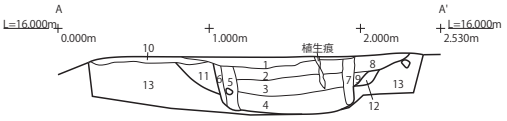
224SD(95T)



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物混じる (224SD)
2. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる (224SD)
3. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる (224SD)
4. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる (224SD)

236SD出土状況図





1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物少量混じる
2. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
3. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物混じる
4. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物若干混じる
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物若干混じる
6. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
8. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化材混じる
9. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
10. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (大アゼ)
11. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
12. 10YR6/6 明黄褐色シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
13. 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる

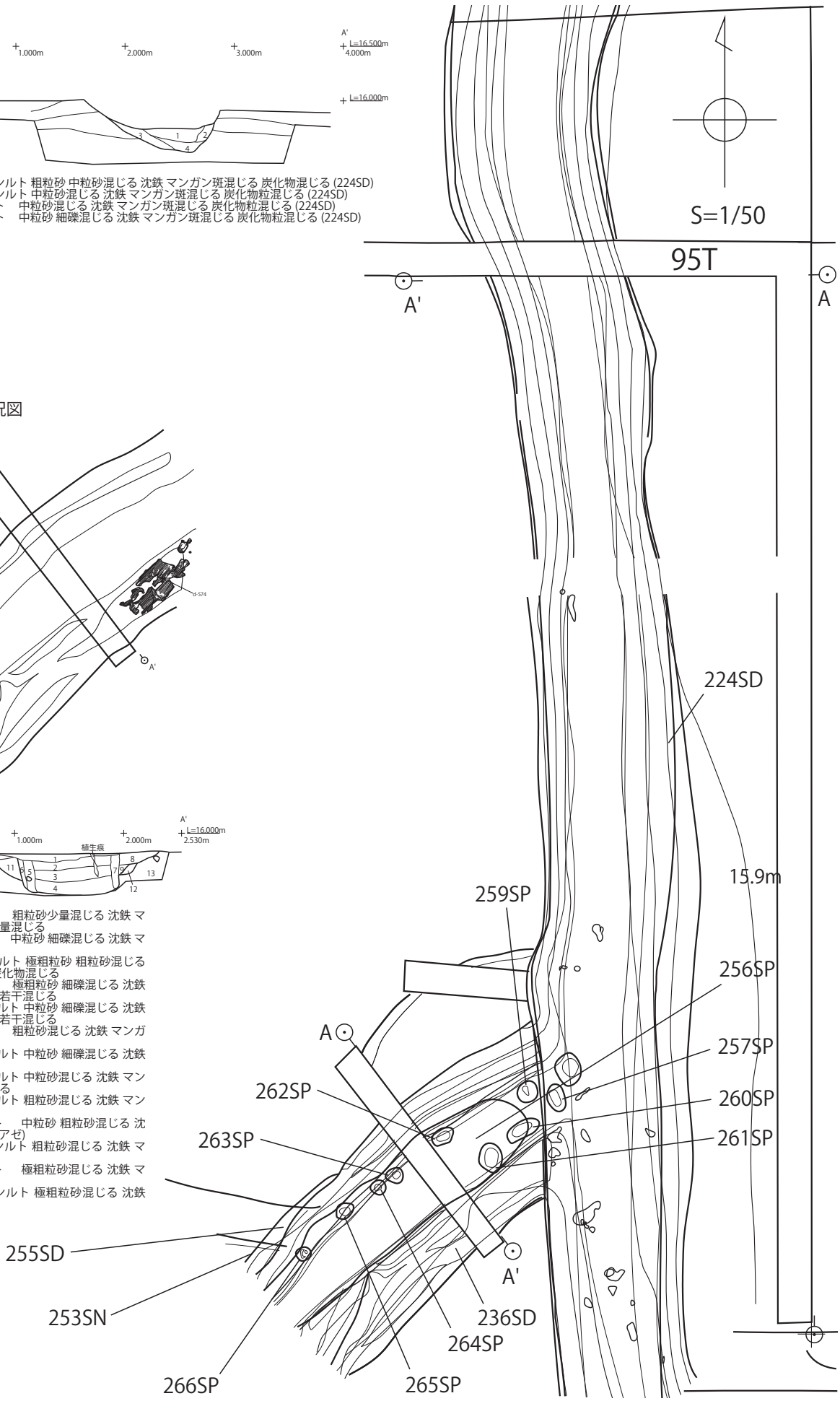


図36　11B遺構図　S＝1：50（9）

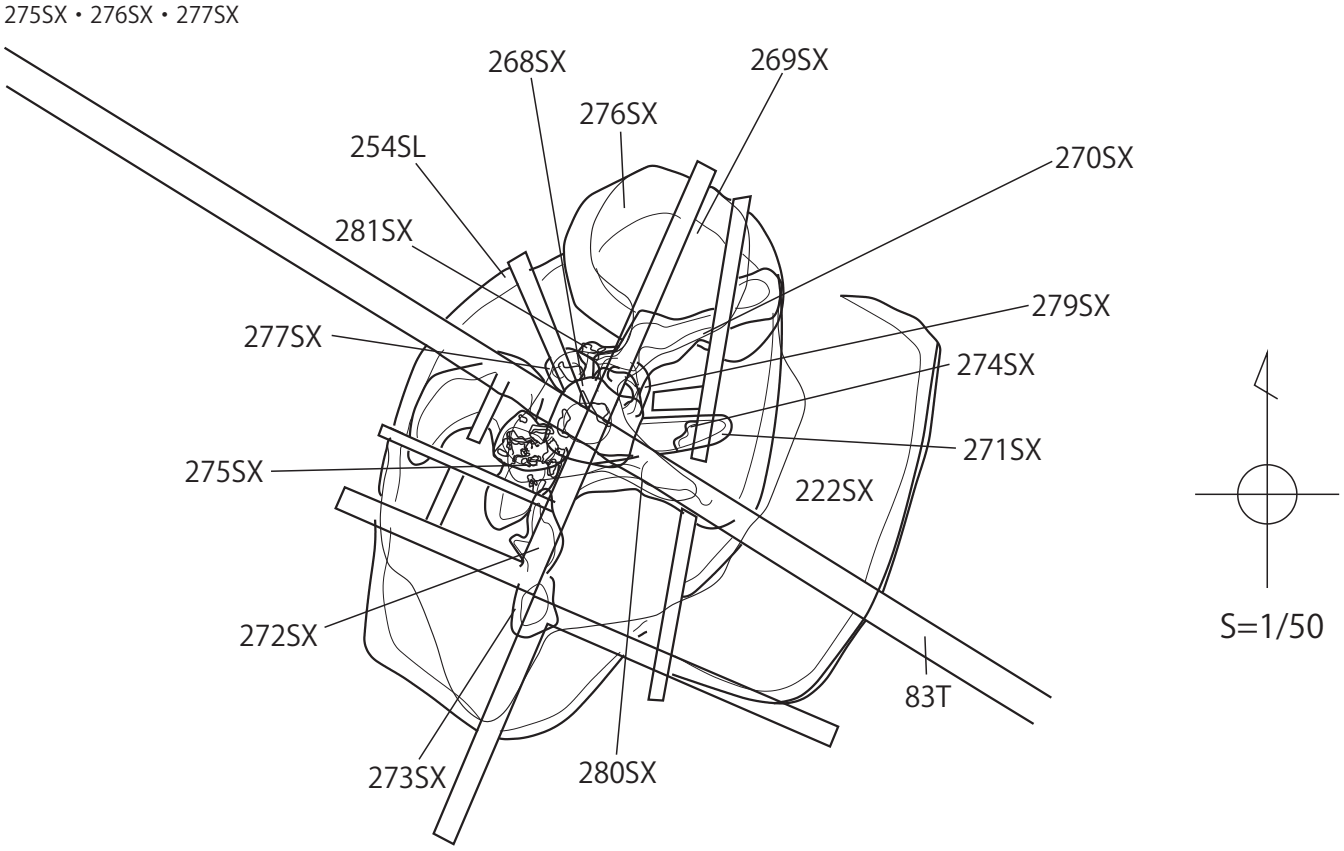


図37　11B遺構図　S＝1：50（10）

は削平されていると考えられる。

洪水層の下位に弥生時代中期末を中心とする水田が調査区の西側で確認できた。11Ab区はじめ11B区、11C区で検出された一連の水田である。

11D区で検出した水田は、南壁６層に大きく削平を受けており、一部の耕作土が南壁寄りに残存する程度であった。マンガンを多く含む畦畔状の痕跡は擬似畦畔で、断面観察するとマンガン斑が強く土質が堅くなっている高まりが観察できる。本来はこの直上に耕作土や畦畔が確認できる。この南壁６層直下の面を丹念に検出すると、堅く締まった不定形な帯が小区画水田の畦畔状に検出される。これら擬似畦畔が面的に広がるちょうど中央部分、北西から南東方向に幅５～10m前後にわたって擬似畦畔の確認できなかった部分が帯状に認められた。検出の方法に問題があったのかもしれないが、この擬似畦畔が途切れる部分は凹んでいる。おそらく、南壁６層による浸食が擬似畦畔も削平したと考えられる。

個々の水田の大きさをみると、025SNの1.89㎡が最小、073SNが９㎡とばらつきがある。ただし、傾向として２～３㎡前後と５～７㎡前後にまとまりがある。さらに後者の面積の広いグループは１区画ではなく、1/2になる畦畔が本来存在し２区画あったと考えると、擬似畦畔が残存しなかったため大きく見える区画だった可能性もある。

水田面の高さは、面的な確認はできない。一部に残る南壁セクション図18層が耕作土、これに隣接する16層と43層が畦畔と考えられる。耕作土である南壁18層の底面は16.2m、畦畔である16層の上端は16.43mを測る。この南壁セクションに一番近い擬似畦畔のある水田は077SN（16.165m）であり、比高差0.035mとなる。擬似畦畔の検出であるため参考程度となるが、調査区東寄りの067SN（16.363m）が高く、調査区西壁近くの016SN（15.716m）が低い。調査区内の比高差は65cmある。傾向として、調査区の東が高く、西に向かって低くなる。

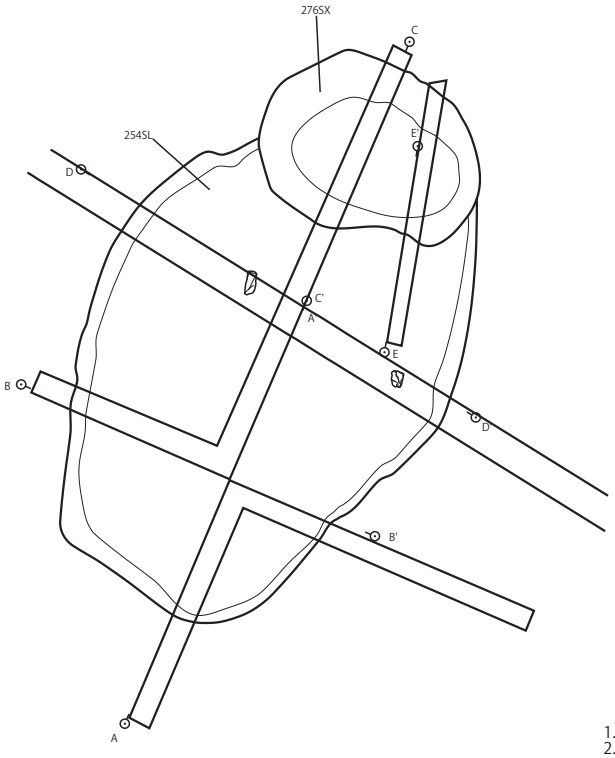
水田に関連する遺構は、027SNと080SNの擬似畦畔が途切れる箇所の水口と同じく080SNと039SNの水口にそれぞれ集石が検出された。おそらく水口を閉じるための施設であると考えられる。

擬似畦畔の遺構面より下位で検出した遺構のうち、089SXは不定形に凹んだ焼土ブロックと炭化物が散在する遺構である。図の中に破線で囲った部分はセクション図１層に相当し、炭化物と焼土ブロックが広がる範囲である。直接水田と関連のある施設かは判断できなかった。水口に集石がある039SNの東に隣接する、ちょうど水田が削平されている場所にあたる。類似する遺構としては、11B区254SLと11C区244SXがある。いずれも水田に隣接して設置された焼土と炭化物が集中する遺構である。

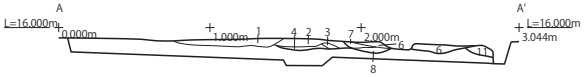
（６）11Ｅ区の調査

11Ｅ区は宅地と市道に挟まれた狭小の調査区であった。調査にあたって、宅地所有者の進入路の妨げにならないように、協議しながらおこなった。その結果、平成24年２月８日の一日を調査日として設定し、着手した。安全のため法面を十分確保する必要から、約２㎡を対象として掘削した。

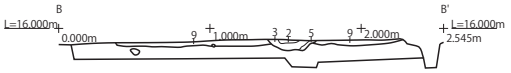
254SL



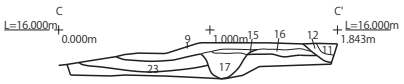
254SL A



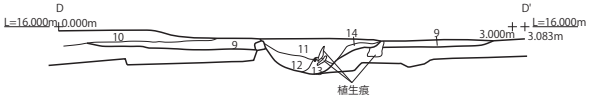
254SL B



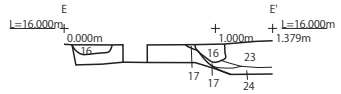
254SL C



254SL D

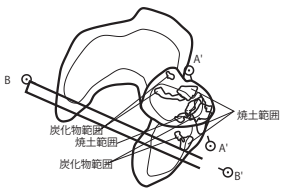


254SL E

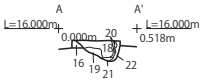


1. 10YR 4/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂少量混じる 焼土 炭化物粒少量混じる
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂少量混じる 炭化物粒多く混じる 径1cm程度の焼土塊斑状に混じる
3. 10YR 4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる 炭化物粒多く混じる 径1~2cm程度の焼土塊混じる
4. 10YR 4/4 褐色シルト　　径1cm未満の焼土塊を斑状に多く混じる 炭化物粒混じる
5. 10YR 5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂若干混じる 炭化物粒若干混じる
6. 10YR 5/4 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂若干混じる 炭化物 焼土塊極若干混じる
7. 10YR 6/6 橙色シルト　　焼土塊が蜜に集まる状態
8. 10YR 5/4 にぶい黄褐色シルト 焼土塊を斑状に混じる 炭化物粒混じる 赤色化を呈する (被熱か)
9. 10YR 5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂若干混じる 炭化物 焼土塊若干混じる
10. 10YR 5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂混じる 002NR(自然流路)埋土
11. 10YR 5/3 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 焼土塊炭化物粒混じる
12. 5YR 6/6 橙色シルト　　10YR 6/3 にぶい黄橙色シルトを斑状 焼土塊極めて多く混じる
13. 10YR 5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂少量混じる 焼土塊少量混じる 炭化物ブロック多く混じる
14. 10YR 5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細かい炭化物粒 焼土塊多く混じる
15. 10YR 5/3 にぶい黄褐色シルト 焼土塊 細かい炭化物粒混じる
16. 10YR 5/3 にぶい黄褐色シルト 5YR6/6 橙色シルト(焼土塊)斑状に多く混じる 細かい炭化物粒混じる
17. 10YR 5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物混じる 焼土塊を斑状に集中に混じる部分あり

275SX

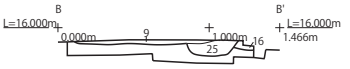


275SX A



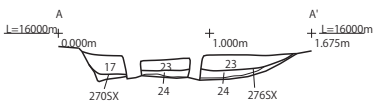
16. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 焼土 炭化物粒斑状に混じる
18. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 炭化物多く混じる 焼土魂斑状に混じる
19. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 焼土魂多量に多く混じる 炭化物粒混じる
20. 5YR6/6 橙色シルト　　焼土魂帯状に展開する
21. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 炭化物をブロック状に多量混じる
22. 5YR6/4 にぶい橙色シルト　炭化物 焼土魂を細かい斑状に混じる 被熱部分

275SX B



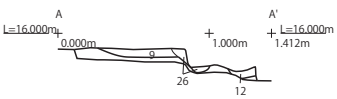
9. 10YR 5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂若干混じる 炭化物 焼土塊若干混じる
16. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 焼土 炭化物粒斑状に混じる
25. 7.5YR5/3 にぶい褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 炭化物 焼土魂斑状に多く混じる

276SX



17. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物混じる 焼土塊を斑状に集中に混じる部分あり
23. 10YR6/2 灰黄褐色シルト 焼土塊 炭化物粒ブロック状に混じる
24. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 焼土塊 炭化物粒わずかに混じる

277SX



9. 10YR 5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂若干混じる 炭化物 焼土塊若干混じる
12. 5YR 6/6 橙色シルト　　10YR 6/3 にぶい黄橙色シルトを斑状 焼土塊極めて多く混じる
26. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂若干混じる 炭化物粒少量混じる

図38　11B遺構図　S＝1：50（11）

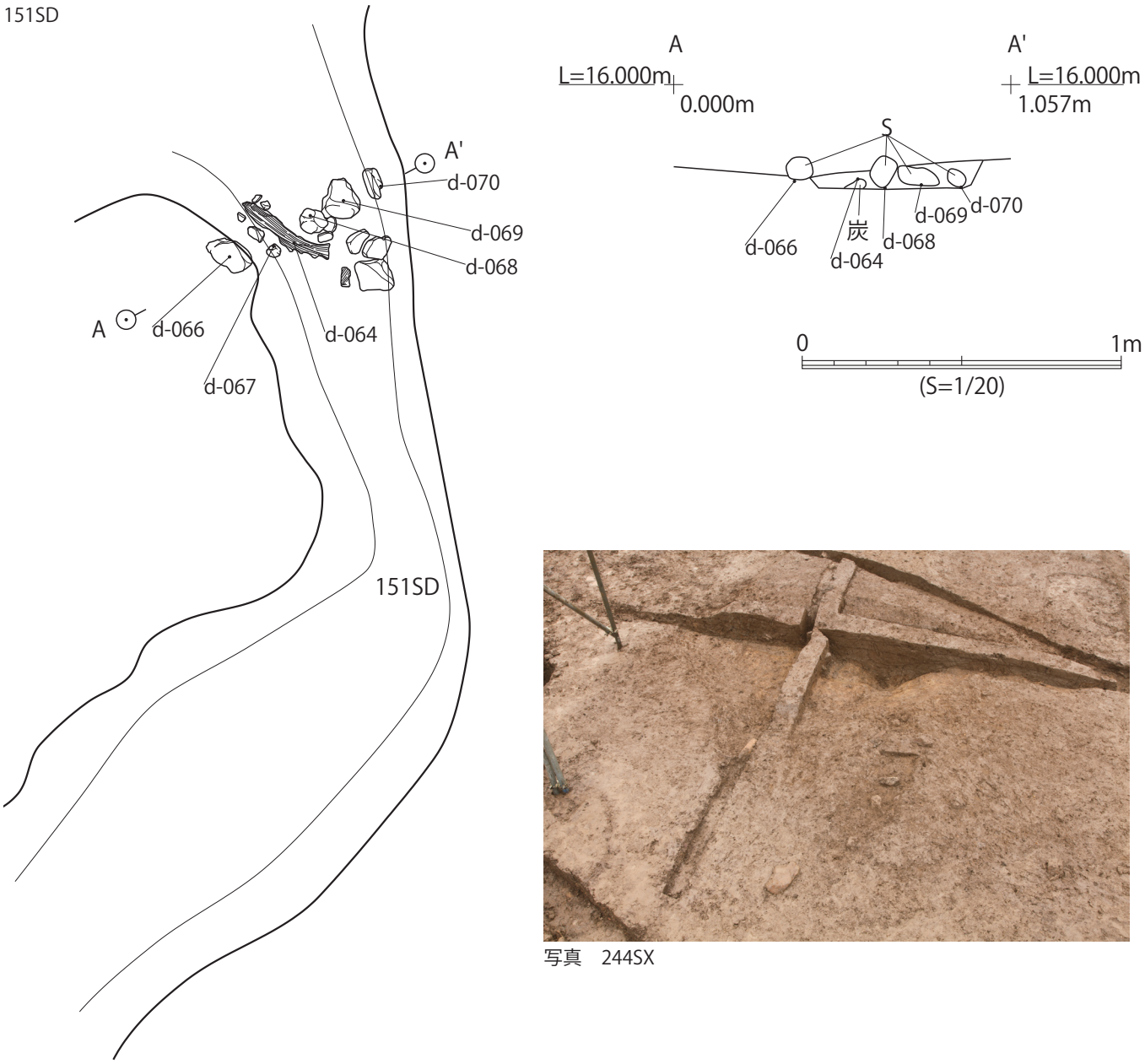


写真　244SX

図39　11C遺構図　S＝1：20（1）

造成土を除くと黄褐色系のシルト層（10YR5/4にぶい黄褐色シルト中礫混）が50㎝以上堆積する。本来、中世の遺構面は造成土除去すると確認できる。黄褐色系のシルト層は中世遺構の基盤層に相当する。この基盤層上面に遺構は確認できなかった。掘削深度は１mほどに達した時点で安全確保のため終了した。この時点までに遺物も認められなかったので、平面および断面観察と測量、写真撮影を終了し、埋め戻す。

（7）12A区の調査

調査区は11C区の北西隅にあたり、野添遺跡のある台地縁辺に近い地点である。南側と西側が11C区であり、とくに南側でみられた水田とそれに伴う溝の延長が予想された。調査の結果、調査区東端付近で水田002STと溝001SDが検出された。溝は礫を多数含む水流の影響によって各所で削平され不定形である。遺物は摩滅の激しい土器小片が若干出土したのみで弥生時代後期以降の可能性が考えられる。溝の東側に水田が検出されたが出土遺物はなく時期不詳である。一方、調査区西半部は段丘崖の斜面にかかり、耕作地化などで削平されているため遺構は検出されなかった。以下、堆積層の説明を基軸に水田の時期などについて、隣接する11C区の層位と対比しながら進める。

南接する11C区との層位関係を示すと、12A001SDは11C区北壁１・東壁１セクション図の132層（黄褐色砂層）に相当する。この溝は11C区では面的に確認できなかった。その原因は、北壁１・東壁１の132層の上位に112層（褐灰色礫層＋砂層）が覆い調査区の東寄りを削平しているからである。この112層は12A区では確認できなかった。

002STに相当する水田は、11C区では未検出であった。001SDから出土する遺物は弥生時代後期以降の土器である。摩耗が激しく時期決定にはいたらない。では層位的にはどうであろうか。001SDの上位に12A南壁セクション７層（黒褐色シルト）が確認されており、002STの耕作土

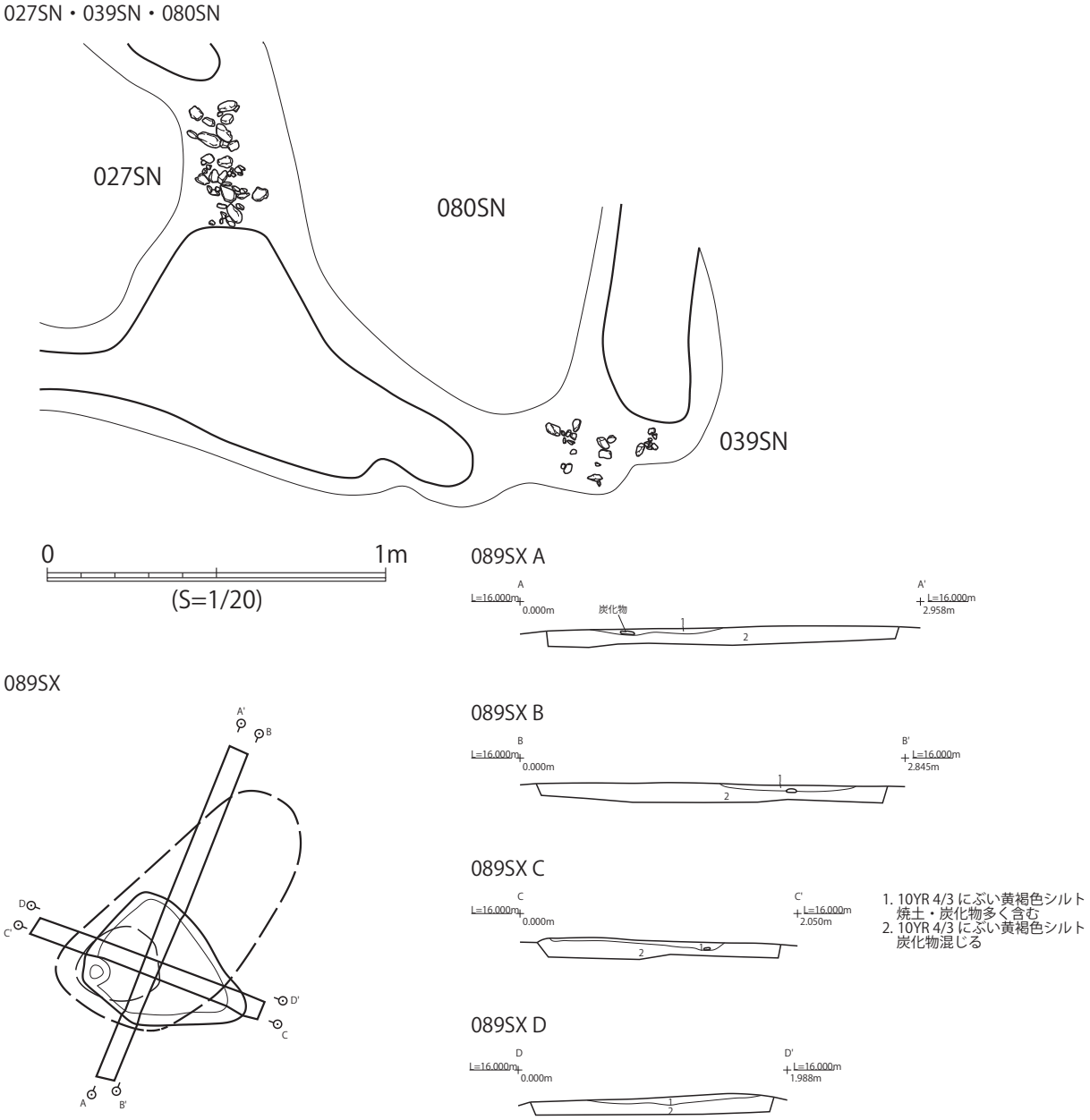


図40　11D遺構図　S＝1：20（023SN・033SN・080SN）1：50（089SX）

と考えられる。この７層は001SDの埋土である南壁セクション６層（黒色極粗粒砂）より上位に堆積する。北壁セクション11層（黒褐色シルト）も耕作土と考えられる層で、やはり001SDより上位に堆積する。直接の層位関係は得られないが、001SDの切り込む東壁16層（黒褐色粘土）、南壁10層、北壁13層は同一層であり、かつこれらの層は間層を挟んで上位に002STの耕作土が認められる。よって、001SDより002STの耕作土の方が新しい時期としてもよかろう。ところで、他の調査区で確認されているもっとも新しい時期の水田は11Bbの中近世以降である。一方、12Ａ区の遺物は中世以降の遺物は表土などに含まれているが、002STおよび001SDを検出した層位では中世以降の新しい時期に含まれる遺物の出土はない。11Bb区では弥生時代中期末を中心とする水田が面的確認された。その上位に部分的ではあるが、弥生時代後期から古墳時代前期に相当する水田が一部確認された。したがって、南接する11Ｃ区では確認できなかった弥生時代後期以降の水田が一部12Ａ区では確認できたと考えられる。弥生時代後期以降の水田の検出は、11Ｃ区を南北方向に縦断する002NRや11Ｃ区の東寄りに堆積する北壁・東壁112層層などの洪水による削平がおよばなかった地点と考えられる。当然、その下位に展開する弥生中期末の水田を削平している地点もある。12Ａ区の場合、基盤層と考えられる東壁セクション18～20層と南壁セクション11～14層が堆積する。これより下位の深堀確認では礫層が累々と続くようで、水田はない。直接これら12Ａ区の基盤層と対応する11Ｃ区北壁セクションの層位はないが、北壁セクション30～34層が弥生中期末の水田耕作土下の基盤層であり、34層（にぶい黄褐色礫＋砂）はこれより下位に１m以上堆積する。

第４章　分析

（１）放射性炭素年代測定

(a) 2011年度分析

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
伊藤茂・安昭炫・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎

はじめに

愛知県豊橋市に位置する東下地遺跡の11Bb区より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

試料と方法

測定試料の情報、調製データは表１のとおりである。

試料は、水田に関わる溝である224SDから採取された炭化材５点（試料No. １～５：PLD-20266、20268～20271）と水田造成以前の炉跡222SXから採取された有機物１点（試料No. ６：PLD-20272）および炭化材２点（試料No. ７、８：PLD-20273、20267）の計８点である。炭化材の部位は、全て不明である。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

結果

表２に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代を、図１と２に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±１σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.1（較正曲線データ：IntCal09）を使用した。なお、１σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に２σ暦年代範囲は95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

考察

以下、２σ暦年代範囲（確率95.4％）に着目して遺構ごとに結果を整理する。弥生土器編年との対応関係については、山本（2007）、赤塚（2009ab）、小林（2009）を参照した。

水田に関わる溝である224SDから採取された炭化材５点（試料No. １～５：PLD-20266、20268～20271）は、いずれも355～１ cal BCに収まる暦年代範囲を示した。この範囲は弥生時代中期に相当する。

水田造成以前の炉跡である222SXから採取された有機物１点（試料No. ６：PLD-20272）および炭化材２点（試料No. ７、８：PLD-20273、20267）は、396～56 cal BCに収まる暦年代範囲を示した。この範囲は弥生時代中期に相当する。

ただし木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死・伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると最終形成年輪であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の試料では、炉跡222SXから採取された試料No. ６（PLD-20272）以外の試料がすべて、最終形成年輪を欠く部位不明の炭化材であり、年代測定の結果が古木効果の影響を受けている可能性、すなわち木材が実際に枯死・伐採された年代よりも古い年代を示している可能性がある。

参考文献

赤塚次郎（2009a）朝日遺跡標準層序の暦年代．朝日遺跡Ⅷ，134-137，愛知県埋蔵文化財センター．

赤塚次郎（2009b）弥生後期から古墳中期（八王子古宮式から宇田式期）の暦年代．日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集，14-20.

Bronk Ramsey, C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.

Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.

小林謙一（2009）近畿地方以東の地域への拡散．西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代」：55-82，雄山閣.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の14C年代編集委員会編「日本先史時代の14C年代」：3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, 1111-1150.

山本直人（2007）東海・北陸における弥生時代の開始年代．西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第2巻 縄文時代から弥生時代へ」：35-44，雄山閣.

(b) 2014年分析

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
伊藤　茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一・Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・小林克也

はじめに

愛知県豊橋市に位置する東下地遺跡で出土した試料につ

いて、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、一部の試料については樹種同定も行われている（樹種同定の項参照）。

試料と方法

試料は合計64点で、炭化材が55点、炭化種実が１点、土器付着炭化物が８点である。

炭化材の試料は、221SDと224SDから各３点、275SX、546ST、838SKから各２点である以外は、すべて１遺構につき１点である。試料No. ５は最終形成年輪が残っていたが、その他の試料は最終形成年輪が残っていなかった。なお樹種同定の結果、試料No. ４、12、13、16、18、19、28はマツ属複維管束亜属、試料No.1はヒノキ、試料No.9、29はクマシデ属イヌシデ節、試料No.2がクリ、試料No.37がスダジイ、試料No.15、42がコナラ属アカガシ亜属、試料No. 22、35、39、44、45、46、55がコナラ属コナラ節、試料No.17、25、32、33、34、36がクワ属、試料No.3がツバキ属、試料No.10がモモ、試料No. ５、26がクマノミズキ類、試料No. ６、41が広葉樹、試料No.11、21がタケ亜科、試料No.38が同定不可であった。

炭化種実の試料は、825SKの試料No.14（PLD-29123）である。

土器付着炭化物は、352SDから出土した鍋（0375）の胴部外面付着炭化物（PLD-29168）、454SXから出土した鍋（0255）の胴部外面付着炭化物（PLD-29166）、463SDから出土した鍋（0371）の胴部外面付着炭化物（PLD-29167）、478SDから出土した鍋（0802）の胴部外面付着炭化物（PLD-29170）、746SKから出土した鍋（E-598）の胴部外面付着炭化物（PLD-29172）と胴部内面付着炭化物（PLD-29173）、990SKから出土した鍋（0883）の胴部外面付着炭化物（PLD-29171）、Ａトレンチから出土した鍋（0389）の胴部外面付着炭化物（PLD-29169）である。測定試料の情報、調製データは表１のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

結果

表２に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代を、図１～３にマルチプロット図を、図４～11に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.2（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、１σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に２σ暦年代範囲は95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

考察

以下、２σ暦年代範囲（確率95.4％）に着目して、遺構出土試料の測定結果と土器付着炭化物の測定結果に分け、結果を整理する。なお、土器編年と暦年代との対応関係は、縄文時代については工藤（2012）と千葉（2008）、弥生時代は小林（2009）と山本（2007）、古墳時代は赤塚（2009）を参照した。

・遺構出土試料の年代測定

217SKの試料No.30（PLD-29139）は2018-1995 cal BC（7.4%）および1981-1883 cal BC（88.0%）となった。これは、縄文時代後期中葉に相当する。

082SXの試料No.56（PLD-29165）、277SXの試料No.42（PLD-29151）、233、234SN畔間の試料No.38（PLD-29147）、254SLの試料No.40（PLD-29149）、123SNの試料No.47（PLD-29156）、275SXの試料No.45（PLD-29154）、試料No.44（PLD-29153）、171SNの試料No.50（PLD-29159）、268SXの試料No.41（PLD-29150）、122SNの試料No.49（PLD-29158）、281SXの試料No.43（PLD-29152）は、紀元前４世紀～紀元前１世紀の暦年代を、236SDの試料No.39（PLD-29148）、209SNの試料No.53（PLD-29162）、150SDの試料No.52（PLD-29161）、151SDの試料No.51（PLD-29160）、108SNの試料No.48（PLD-29157）、221SDの試料No.34（PLD-29143）、試料No.33（PLD-29142）、試料No.32（PLD-29141）、215SNの試料No.54（PLD-29163）、224SDの試料No.37（PLD-29146）、試料No.36（PLD-29145）、試料No.35（PLD-29144）、220SXの試料No.31（PLD-29140）、003SXの試料No.55（PLD-29164）は、いずれも紀元前2世紀～紀元前１世紀の暦年代を示した。これらは、弥生時代中期に相当する。

121SNの試料No.46（PLD-29155）は、157-136 cal BC（4.2%）および114 cal BC-4 cal AD（91.2%）で、紀元前２世紀中頃～紀元後１世紀初頭の暦年代を示した。これは弥生時代中期～後期に相当する。

669SPの試料No.9（PLD-29118）は134-256 cal AD（88.3%）および299-318 cal AD（7.1%）で、２世紀前半～４世紀前半の暦年代を示した。これは、弥生時代後期～古墳時代前期に相当する。

454SXの試料No.1（PLD-29110）は1016-1050 cal AD（53.5%）、1083-1126 cal AD（33.6%）、1136-1151 cal AD（8.3%）で、11世紀前半～12世紀中頃の暦年代を示した。これは、平安時代中期～後期に相当する。

511SXの試料No.2（PLD-29111）は1191-1264 cal AD（95.4%）で、12世紀末～13世紀後半の暦年代を示した。これは、平安時代末～鎌倉時代に相当する。

921SKの試料No.25（PLD-29134）は1314-1357 cal AD（62.6%）および1388-1412 cal AD（32.8%）、837SKの試料

No.17（PLD-29126）は1320-1350 cal AD（29.9%）および1391-1427 cal AD（65.5%）で、14世紀前半～15世紀前半の暦年代を示した。これは、鎌倉時代～室町時代に相当する。

578SKの試料No.4（PLD-29113）は1419-1448 cal AD（95.4%）、823SKの試料No.13（PLD-29122）は1429-1463 cal AD（95.4%）、698SKの試料No.10（PLD-29119）は1430-1468 cal AD（95.4%）で、いずれも15世紀代の暦年代を示した。これは、室町時代に相当する。

905SKの試料No.24（PLD-29133）、620SPの試料No.7（PLD-29116）、882SKの試料No.21（PLD-29130）、816SXの試料No.12（PLD-29121）、836SKの試料No.16（PLD-29125）、625SPの試料No.8（PLD-29117）、814SKの試料No.11（PLD-29120）、898SPの試料No.23（PLD-29132）、989SKの試料No.28（PLD-29137）、830SKの試料No.15（PLD-29124）、887SKの試料No.22（PLD-29131）、990SKの試料No.29（PLD-29138）、873SKの試料No.20（PLD-29129）、988SKの試料No.27（PLD-29136）、838SKの試料No.5（PLD-29114）、試料No.18（PLD-29127）、546STの試料No.6（PLD-29115）、試料No.3（PLD-29112）、986SKの試料No.26（PLD-29135）では、いずれも15世紀中頃～17世紀中頃の暦年代を示した。これは、室町時代～江戸時代前期に相当する。

825SKの試料No.14（PLD-29123）は1525-1558 cal AD（18.1%）、1631-1665 cal AD（75.3%）、1785-1794 cal AD（2.0%）で、16世紀前半～18世紀末の暦年代を示した。これは、室町時代～江戸時代後期に相当する。

841SKの試料No.19（PLD-29128）は1694-1728 cal AD（25.9%）および1812-1919 cal AD（69.5%）で、17世紀末～20世紀前半の暦年代を示した。これは、江戸時代中期～大正時代に相当する。

・土器付着炭化物の年代測定

990SKから出土した鍋（0883）の胴部外面付着炭化物（PLD-29171）は1165-1251 cal AD（95.4%）で、12世紀後半～13世紀中頃の暦年代を示した。これは、平安時代後期～鎌倉時代に相当する。

454SXから出土した鍋（0255）の胴部外面付着炭化物（PLD-29166）は1219-1267 cal AD（95.4%）で、13世紀代の暦年代を示した。これは、鎌倉時代に相当する。

352SDから出土した鍋（0375）の胴部外面付着炭化物（PLD-29168）は1425-1465 cal AD（95.4%）で、15世紀代の暦年代を示した。これは室町時代に相当する。

463SDから出土した鍋（0371）の胴部外面付着炭化物（PLD-29167）は1447-1515 cal AD（78.8%）および1598-1618 cal AD（16.6%）、478SDから出土した鍋（0802）の胴部外面付着炭化物（PLD-29170）は1446-1522 cal AD（73.3%）、1578-1583 cal AD（0.7%）、1591-1620 cal AD（21.4%）、Aトレンチから出土した鍋（0389）の胴部外面付着炭化物（PLD-29169）は1466-1529 cal AD（42.1%）および1552-1634 cal AD（53.3%）で、15世紀後半～17世紀前半の暦年代を示した。これは、室町時代～江戸時代前期に相当する。

746SKから出土した鍋（E-598）の胴部内面付着炭化物（PLD-29173）は1664-1684 cal AD（19.8%）、1736-1806 cal AD（52.8%）、1934 cal AD以降（22.8%）で、17世紀後半～19世紀初頭および20世紀前半以降の暦年代を示した。これは、江戸時代前期～後期または昭和時代以降である。746SKから出土した鍋（E-598）の胴部外面付着炭化物（PLD-29172）は1668-1696 cal AD（15.5%）、1726-1782 cal AD（42.5%）、1796-1815 cal AD（11.7%）、1836-1844 cal AD（1.6%）、1851-1877 cal AD（4.5%）、1917-1945 cal AD（19.5%）で、17世紀後半～20世紀中頃の暦年代を示した。これは、江戸時代前期～昭和時代に相当する。なおPLD-29173とPLD-29172は同一土器の内面および外面から採取した土器付着炭化物であるが、共にほぼ同じ頃の年代を示しており、測定結果は調和的である。

参考文献

赤塚次郎（2009）弥生後期から古墳中期（八王子古宮式から宇田式期）の暦年代．日本文化財科学会第26回大会実行委員会編「日本文化財科学会第26回大会研究機発表要旨集」：14-20，日本文化財科学会．

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

千葉　豊（2008）縁帯文土器．小林達雄編「総覧縄文土器」：642-649，アム・プロモーション．

工藤雄一郎（2012）旧石器・縄文時代の環境文化史―高精度放射性炭素年代測定と考古学―．373p，神泉社．

小林謙一（2009）近畿地方以東の地域への拡散．西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第４巻弥生農耕のはじまりとその年代」：55-82，雄山閣．

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の^{14}C年代編集委員会編「日本先史時代の^{14}C年代」：3-20，日本第四紀学会．

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

山本直人（2007）東海・北陸における弥生時代の開始年代．西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第2巻　縄文時代から弥生時代へ」：35-44，雄山閣．

（２）樹種同定

(a) 東下地遺跡出土の炭化植物遺体の同定（2011年）

黒沼保子（パレオ・ラボ）

１．はじめに

東下地遺跡は、豊橋市石巻本町に所在し、神田川右岸の低地に立地する。水田跡の溝などから採取された炭化材の樹種同定を行った。なお、同試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の報告参照）。

２．試料と方法

試料は、水田に関わる溝である224SDから出土した炭化材５点（No.523～527）、水田造成以前の時期の炉跡222SXから出土した炭化材３点（No.528～530）である。しかし、224SDからの試料のうち１点（No.527）と、222SXからの試料３点（No.528～530）は、試料を全て放射性炭素年代測定に使用し残らなかったため、残試料があった224SDの４点（No.523～526）のみについて樹種同定を行った。

なお、放射性炭素年代測定により、水田に関わる溝であ

る224SDから採取された炭化材は弥生時代中期、水田造成以前の時期の炉跡である222SXから採取された有機物および炭化材も、弥生時代中期の値が得られている（放射性炭素年代測定の報告参照）。

各炭化材について、手あるいはカッターナイフを用いて３断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、同定用の試料を作製した。これらを直径１cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、銀ペーストを塗布して乾燥させた後、金蒸着して、走査型電子顕微鏡（日本電子㈱製　JSM-5900LV型）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

３．結果

広葉樹のコナラ属コナラ節とニレ属の2分類群が確認された。No.523とNo.525はコナラ属コナラ節であった。No.524はニレ属であった。また、No.526は状態が悪く、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡での観察が行えなかったため、不明とした。結果の一覧を表1に示す。

コナラ属コナラ節とニレ属は、温帯から暖帯に分布する落葉高木の広葉樹である。炭化材は破片であったため、元の形状および用途は不明である。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

（１）コナラ属コナラ節　*Quercus sect. Prinus*　ブナ科
　　図版１　1a-1c（No.523）、2a-2c（No.525）

大型の道管が年輪のはじめに１列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の２種類がある。

コナラ節は温帯下部および暖帯に分布する落葉高木で、カシワ、ミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は、全体的に重硬で加工困難である。

（２）ニレ属　*Ulmus*　ニレ科　図版１　3a-3c（No.524）

大型の道管が年輪のはじめに１列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜めに配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、３～６列幅程度である。

ニレ属は温帯から暖帯に分布する落葉高木で、アキニレ、ハルニレ、オヒョウの３種がある。ハルニレの材は、硬さはやや重硬から中庸でやや粘り気があるが、狂いが出やすく保存性もよくない。

(b) 東下地遺跡出土の炭化植物遺体の同定（2014年）

小林克也（パレオ・ラボ）

１．はじめに

神田川右岸と豊川左岸の河岸段丘に挟まれた低地に立地する東下地遺跡から出土した炭化植物遺体の同定を行った。なお、一部の試料については、放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

２．試料と方法

試料は、221SDと224SDから各３点、546ST、275SX、838SKから各２点、003SX、121SN、233SNおよび234SNの　畔　間、236SD、268SX、277SX、454SX、511SK、578SK、669SP、698SK、814SK、816SX、823SK、830SK、836SK、837SK、841SK、882SK、887SK、921SK、986SK、989SK、990SKから各１点の計36点の出土炭化材と、825SKから１点出土した炭化種実１点の、合計37点である。

放射性炭素年代測定の結果、221SDの試料No.32、33、34、224SDの試料No.35、36、37、233SNおよび234SNの畔間の試料No.38、236SDの試料No.39、268SXの試料No.41、277SXの試料No.42、275SXの試料No.44と45、003SXの試料No.55は弥生時代中期、121SNの試料No.46は弥生時代中期～後期、669SPの試料No. ９は弥生時代後期～古墳時代前期、454SXの試料No. １は平安時代中期～後期、511SXの試料No. ２は平安時代末～鎌倉時代、837SKの試料No.17、921SKの試料No.25は鎌倉時代～室町時代、578SKの試料No. ４、698SKの試料No.10、823SKの試料No.13は室町時代、546STの試料No. ３と６、838SKの試料No. ５と18、814SKの試料No.11、816SXの試料No.12、830SKの試料No.15、836SKの試料No.16、882SKの試料No.21、887SKの試料No.22、986SKの試料No.26、989SKの試料No.28、990SKの試料No.29は室町時代～江戸時代前期、825SKの試料No.14は室町時代～江戸時代後期、841SKの試料No.19は江戸時代中期～大正時代となった。

炭化材の樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（日本電子（株）製　JSM-5900LV）にて検鏡および写真撮影を行なった。

３．結果

同定の結果、針葉樹ではマツ属複維管束亜属とヒノキの２分類群、広葉樹ではクマシデ属イヌシデ節（以下イヌシデ節と呼ぶ）、クリ、スダジイ、コナラ属アカガシ亜属（以下アカガシ亜属と呼ぶ）、コナラ属コナラ節（以下コナラ節と呼ぶ）、クワ属、ツバキ属、モモ、モモ炭化核、クマノミズキ類、種不明の広葉樹の11分類群、単子葉ではタケ亜科が１分類群の、計14分類群がみられた。

マツ属複維管束亜属とコナラ節が各７点、クワ属が６点、イヌシデ節とアカガシ亜属、クマノミズキ類と広葉樹が各２点、ヒノキとクリ、スダジイ、ツバキ属、モモ、モモ炭化核が各１点みられた。また材組織の劣化が激しく、同定が行えなかった試料が１点あった。

次に、同定された特徴を記載し、図版に実体顕微鏡写真および走査型電子顕微鏡写真を示す。

（１）マツ属複維管束亜属　*Pinus* subgen. *Diploxylon*　マツ科　図版１　1a-1c（No.13）、2a-2c（No.18）

仮道管と放射仮道管、放射組織、水平及び垂直樹脂道で構成される針葉樹であるが、横断面では垂直樹脂道を確認できなかった。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列のものと、水平樹脂道を含む多列のものがみられる。分野壁孔は窓状で、放射組織の水平壁は内側に向かって鋸歯状に肥厚する。

マツ属複維管束亜属には、アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し、クロマツは海の近くに、アカマツは内陸地に生育する。どちらも材質は重硬だが、切削等の加工は容易である。

（２）ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl.　ヒノキ科　図版１　3a-3c（No.1）

付表１　東下地遺跡出土灰化材の樹種同定結果一覧

試料No.	調査区名	番号	出土遺構	樹種	年代測定番号
1	11Aa	575	454SX	ヒノキ	PLD-29110
2	11Aa	578	511SK	クリ	PLD-29111
3	11Ab	1261	546ST	ツバキ属	PLD-29112
4	11Ab	1408	578SK	マツ属複維管束亜属	PLD-29113
5	11Ab	1435	838SK	クマノミズキ類	PLD-29114
6	11Ab		546ST	広葉樹	PLD-29115
9	11Ab		669SP	クマシデ属イヌシデ節	PLD-29118
10	11Ab		698SK	モモ	PLD-29119
11	11Ab		814SK	タケ亜科	PLD-29120
12	11Ab		816SX	マツ属複維管束亜属	PLD-29121
13	11Ab		823SK	マツ属複維管束亜属	PLD-29122
14	11Ab		825SK	モモ炭化核	PLD-29123
15	11Ab		830SK	コナラ属アカガシ亜属	PLD-29124
16	11Ab		836SK	マツ属複維管束亜属	PLD-29125
17	11Ab		837SK	クワ属	PLD-29126
18	11Ab		838SK	マツ属複維管束亜属	PLD-29127
19	11Ab		841SK	マツ属複維管束亜属	PLD-29128
21	11Ab		882SK	タケ亜科	PLD-29130
22	11Ab		887SK	コナラ属コナラ節	PLD-29131
25	11Ab		921SK	クワ属	PLD-29134
26	11Ab		986SK	クマノミズキ類	PLD-29135
28	11Ab		989SK	マツ属複維管束亜属	PLD-29137
29	11Ab		990SK	クマシデ属イヌシデ節	PLD-29138
32	11Bb	491	221SD	クワ属	PLD-29141
33	11Bb	493	221SD	クワ属	PLD-29142
34	11Bb	507	221SD	クワ属	PLD-29143
35	11Bb	542	224SD	コナラ属コナラ節	PLD-29144
36	11Bb	550	224SD	クワ属	PLD-29145
37	11Bb	559	224SD	スダジイ	PLD-29146
38	11Bb	564	233、234SN畔間	不明	PLD-29147
39	11Bb	574	236SD	コナラ属コナラ節	PLD-29148
41	11Bb	589	268SX	広葉樹	PLD-29150
42	11Bb	593	277SX	コナラ属アカガシ亜属	PLD-29151
44	11Bb	604	275SX	コナラ属コナラ節	PLD-29153
45	11Bb	608	275SX	コナラ属コナラ節	PLD-29154
46	11C	24	121SN	コナラ属コナラ節	PLD-29155
55	11C	107	003SX	コナラ属コナラ節	PLD-29164

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ１～８列となる。分野壁孔はトウヒ～ヒノキ型で、１分野に２個みられる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

（３）クマシデ属イヌシデ節　*Carpinus* sect. *Eucarpinus*　カバノキ科　図版１　4a-4c（No.29）

小型の道管が単独ないし２～７個放射方向に複合してやや疎らに散在する散孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、１～４列のものと集合放射組織がみられる。

クマシデ属イヌシデ節は温帯から暖帯の山林などに分布する落葉高木の広葉樹である。材はやや重くて硬く、割裂しにくい。切削加工は中庸である。

（４）クリ　*Castanea crenata* Siebold. et Zucc.　ブナ科　図版１　5a-5c（No.2）

年輪のはじめに大型の道管が１～３列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で単列となる。

クリは北海道の石狩、日高以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

（５）スダジイ　*Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatus. ex T.Yamaz. et Mashiba　ブナ科　図版１、２　6a-6c（No.37）

年輪のはじめに大型の道管が断続的に数列並び、晩材部では徐々に径を減じた、薄壁で角張った道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で単列となる。

スダジイは暖帯から亜熱帯に分布する常緑高木の広葉樹である。重さと強さは中庸で、やや耐朽性があるが、切削加工は困難ではない。

（６）コナラ属アカガシ亜属　*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*　ブナ科　図版２　7a-7c（No.42）

大型の道管がほぼ単独で、放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属アカガシ亜属は、材組織の観察では道管の大きなイチイガシ以外は種までの同定ができない。したがって、本試料はイチイガシ以外のアカガシ亜属である。アカガシ亜属にはアカガシやツクバネガシなどがあり、暖帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材は重硬、強靭で耐水性があり、切削加工は困難である。

（７）コナラ属コナラ節　*Quercus* sect. *Prinus*　ブナ科　図版２　8a-8c（No.22）、9a-9c（No.46）

年輪のはじめに大型の道管が１～２列並び、晩材部では急に径を減じた、薄壁で角張った道管が、火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属コナラ節にはコナラやミズナラなどがあり、温帯から暖帯にかけて広く分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なミズナラの材は、やや重く強靭で、切削加工はやや難しい。

（８）クワ属　*Morus*　クワ科　図版２、３　10a-10c（No.32）、11a-11c（No.33）

年輪のはじめに大型の道管が数列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が多数複合して、斜め方向に断続的に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端１～３列が直立する異性で、１～５列となる。

クワ属にはヤマグワやマグワなどがあり、温帯から亜熱帯に分布し、日本全国の山中にみられる落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で保存性が高いが、切削加工はやや困難である。

（９）ツバキ属　*Camellia*　ツバキ科　図版３　12a-12c（No.3）

小型の道管がほぼ単独で密に散在する散孔材である。道管は10～20段程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端１～３列が直立する異性で、幅１～４列となる。

ツバキ属にはヤブツバキやサザンカなどがあり、ヤブツバキは本州、四国、九州の温帯に、サザンカは山口県以南の温帯南部から亜熱帯に分布する常緑小高木の広葉樹である。材は重硬で、切削加工は困難である。

（10）モモ　*Prunus persica* (L.) Batsch　バラ科　図版３　13a-13c（No.10）、14（No.14）

炭化材：年輪のはじめにやや大きな道管が並び、晩材部では単独ないし２～数個斜め方向に複合した道管が散在す

る、半環孔材である。道管は単穿孔を有し、内壁には明瞭ならせん肥厚がみられる。放射組織は平伏、立方、直立細胞が混在する異性で、幅１～６列となる。

炭化核：１/２以下の破片である。完形ならば両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面に深く不規則な皺がある。また、片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。

モモの原産地は中国北部で、平安時代には果実を食用や薬用として利用するために日本列島でも栽培されていた樹木である。材は重硬で、切削加工等は困難である。

（11）クマノミズキ類　*Cornus* cf. *macrophylla* Wall.　ミズキ科　図版３　15a-15c（No.26）

小型の道管がほぼ単独でやや密に散在する散孔材である。道管は10段程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端１～３列が直立となる異性で、幅１～５列となる。

クマノミズキ類にはクマノミズキとヤマボウシが含まれるが、材組織が類似しており、区別は困難である。そのため、両種を括ってクマノミズキ類とした。クマノミズキおよびヤマボウシは、温帯から暖帯に分布する落葉中高木である。材はやや硬いが、一般に加工は容易である。

（12）広葉樹　Broad leaf wood　図版３　16a（No.6）

道管の径が徐々に減じて、疎らに散在するが、２年輪をまたぐ試料が得られず、環孔材か散孔材かは確認できなかった。よって、広葉樹までの同定とした。

（13）タケ亜科　Subfam. *Bambusoideae*　図版３　17a（No.21）

向軸側の原生木部とその左右の２個の後生木部、背軸側の篩部の三つで構成される維管束が散在する、単子葉植物の稈である。維管束の配列は不整中心柱となる。維管束鞘の細胞は厚壁であり、向・背軸部に関わりなく厚くなる。

タケ亜科はいわゆるタケ・ササの仲間で、日本には12属ある。

（14）同定不可　Unknown　図版３　18a（No.38）

材組織が確認できず、同定が行えなかった。

４．考察

同定の結果、マツ属複維管束亜属とコナラ節が各７点と最も多く、クワ属が６点、イヌシデ節とアカガシ亜属、クマノミズキ類、広葉樹が各２点、ヒノキとクリ、スダジイ、ツバキ属、モモ、モモ炭化核が各１点であった。いずれの炭化材も、燃料材の残渣などである可能性があるが、用途は不明である。また、いずれも遺跡の周辺に生育しやすい樹種である（伊東ほか，2011）。

時期別にみると、弥生時代～古墳時代頃にはスダジイやアカガシ亜属、コナラ節などのブナ科とクワ属が、そして室町時代～江戸時代頃には、マツ属複維管束亜属がやや多くみられた。遺跡周辺の樹木を利用していたと考えると、遺跡周辺の森林構成樹種がブナ科からマツ属複維管束亜属へと変化し、利用樹種の構成が変化した可能性や、用材の選択性がブナ科からマツ属複維管束亜属へと変化した可能性などが考えられる。

なお、室町時代頃の暦年代を示したモモの炭化材、室町時代～江戸時代後期の暦年代を示したモモ炭化核が各1点みられた。モモの原産地は中国で、日本では自生していない（平井，1996）。室町時代頃の遺跡周辺ではモモが栽培されていた可能性があり、室町時代～江戸時代後期頃にはモモの果実が食され、その核が炭化した可能性などがある。

参考文献

平井信二（1996）木の大百科－解説編－．642p，朝倉書房．
伊東隆夫・佐野雄三・安部　久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌，238p，海青社．
伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学．449p，海青社．

（３）プラント・オパール分析

森　将志（パレオ・ラボ）

１．はじめに

愛知県豊橋市に所在する東下地遺跡では、古代以前や古墳時代の水田耕作土が検出されている。以下では、東下地遺跡で採取された試料について行ったプラント・オパール分析の結果を示し、イネ科植物相について検討した。

２．分析試料および方法

分析試料は、Ab区の北側トレンチ北西角とBb区のP-1、P-2から採取された計19試料である（表１）。Ab区北側トレンチ北西角では分析No.18が古代以前の水田耕作土、Bb区のP-1では分析No. ６が弥生時代中期後葉～古墳時代終末期の水田耕作土、Bb区のP-2では分析No.9,10が弥生時代中期後葉～古墳時代終末期の水田耕作土と考えられている。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約１g（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ（直径約0.04mm）を加える。これに30％の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが300個に達するまで行った。また、保存状態の良好な植物珪酸体を選んで写真を撮り、図版１に載せた。

３．結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料１ｇ当りの各プラント・オパール個数を求め（表２）、分布図に示した（図１）。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は、試料１ｇ当りの検出個数である。

検鏡の結果、19試料からイネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ササ属型機動細胞珪酸体、他のタケ亜科機動細胞珪酸体、ヨシ属機動細胞珪酸体、シバ属機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の８種類の機動細胞珪酸体の産出が確認できた。このうち、産出が目立つのがイネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体である。イネ機動細胞珪酸体は全ての試料から産出しており、1,000個～43,000個である。特に分析No.14では43,000個と最も高い値を示す。また、分析No.5,8,11,13,14ではイネ機動細胞珪酸体と共にイネ穎破片の産出も見られた。ネザサ節型機動細胞珪酸体は分析No.18では産出していないが、それ以外の試料から産出が見られ、3,600～30,200個である。キビ族機動細胞珪酸体とウシクサ族機動細胞珪酸体は全ての試料で産出が見ら

れ、キビ族機動細胞珪酸体が2,100個～39,600個、ウシクサ族機動細胞珪酸体が10,300個～114,200個の産出量である。

4．考察

まず、イネ機動細胞珪酸体に注目すると、いずれの地点においても水田耕作土と想定される試料以外からも産出が確認できた。イネ機動細胞珪酸体の産出量については、試料1g当り5,000個以上検出された地点の分布範囲と、実際の発掘調査で検出された水田址の分布がよく対応する結果が得られており（藤原，1984）、試料1g当り5,000個が水田土壌か否かを判断する目安とされている。この目安に照らし合わせてみても、イネ機動細胞珪酸体の産出量は試料によって様々であり、特に水田耕作土に限って多く産出しているような状況はない。分析No.14の例のように、水田とは思われない細～中礫主体の層で多く産出しており、イネ機動細胞珪酸体の供給については、水田稲作によるものの他に、何らかの営力によってもたらされた可能性なども考えられる。

その他の分類群では、ネザサ節型機動細胞珪酸体やキビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の産出が目立つ。ネザサ節型機動細胞珪酸体については、遺跡周辺の陽のあたる明るい場所に生育していたネザサ節のササ類から供給されたと思われる。ウシクサ族機動細胞珪酸体については、遺跡周辺の湿地的環境に生育する種（オギなど）や遺跡周辺の乾燥的環境に生育する種（ススキやチガヤなど）由来の珪酸体が含まれている可能性がある。また、キビ族機動細胞珪酸体については、栽培種と野生種の両方に由来する機動細胞珪酸体が含まれている可能性があるが、機動細胞珪酸体の形態で種を区別するのは難しい。稲作が行われていた耕作層という点を考慮すると、水田耕作土とされているBb区の分析No. 6やNo. 9、No.10、Ab区の分析No.18には、稲作にともなう雑草類（タイヌビエなど）由来の機動細胞珪酸体が含まれている可能性が考えられる。

引用文献

藤原宏志（1984）プラント・オパール分析法とその応用－先史時代の水田址探査－．考古学ジャーナル，227，2-7

（4）豊橋市北部、東下地遺跡における地下層序

鬼頭　剛

はじめに

豊橋市北部、石巻本町の東下地遺跡にて地下層序を観察する機会を得た。その層序解析、放射性炭素年代測定および火山灰分析の結果を報告する。

試料および分析方法

調査地点の地下層序を解析するため11Bb区では試錐（ボーリング掘削）調査を、12A区では深掘を実施し分析試料を採取した（図1）。分析方法の詳細を以下に記す。

地下層序解析のため調査区において遺構検出面からバックホーにより掘削し、層序断面を露出させ、層序断面図の作成と試料採取を行なった。層序断面図の作成にあたり、層相・粒度・色調・堆積構造・化石の有無などの特徴を詳細に記載した。層序断面からは火山灰分析の試料を採取した。

試錐調査は2012年（平成24年）1月、株式会社アーキジオに依頼し、油圧式ロータリー型試錐機を使用し、コアパックスリーブ内蔵型サンプラー（φ66mm）により資料採取を行なった。調査深度は11.0mのオールコアで実施した。

テフラ分析の試料は古澤（2003）の方法を基本に前処理を行なった。はじめにナイロン製＃255メッシュシート（糸径43μm、オープニングワイド57μm）を用い、流水中で洗浄した。残渣を＃125メッシュシート（糸径70μm、オープニングワイド133μm）を用い水中で篩い分けした。これにより極細粒砂サイズ（1/8～1/16）に粒度調整した試料を超音波洗浄器を用いて洗浄し、表面に付着した粘土分などを洗い流した。薄片作成は、鉱物観察用スライドグラスの上に硬化後屈折率が1.545程度となる光硬化樹脂をのせ、この樹脂に洗浄・篩い分けを行なった試料を撹拌・封入させ、カバーガラスで覆い粒子組成観察用薄片を作成した。樹脂の屈折率を1.545とする目的は石英や長石類の識別にある。前処理・プレパラート封入した粒子を偏光顕微鏡（100倍）を用いて観察し、テフラ純層の場合300粒子（1000粒子の平均値）を古澤（2003）の区別手法にしたがって区分した。また、テフラ固有で含有率の低い粒子の産出層準を特定するため3000粒子（10000粒子の平均値）の粒子組成分析も行なった。屈折率の測定には、浸液の温度を直接測定しつつ屈折率を測定する温度変化型測定装置" MAIOT "を使用した。測定精度は火山ガラスで±0.0001、斜方輝石および角閃石で±0.0002程度である（古澤, 1995）。火山ガラスの主成分分析についてSEMはHITACHI製SU1510を使用し、エネルギー分散型X線マイクロアナライザー（EDX）はHORIBA製EMAX ENERGY EX-270を用いた。分析は古澤地質株式会社に依頼した。

放射性炭素年代測定は加速器質量分析（AMS）法により測定を行なった。加速器質量分析法は125μmの篩により湿式篩別を行ない、篩を通過したものを酸洗浄し不純物を除去した。石墨（グラファイト）に調整後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS: NEC製 1.5SDH）にて測定した。測定された^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した^{14}C濃度を用いて^{14}C年代を算出した。^{14}C年代値の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。^{14C}年代の暦年代への較正にはOxCal4.1（較正曲線データ：INTCAL13）を使用した。なお、2σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して産出された放射性炭素年代誤差に相当する95.4%信頼限界の暦年代範囲であり、カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。測定は株式会社パレオ・ラボ（Code No.; PLD）に依頼した。

分析結果

試錐層序

11Bb区南東端において深度11mの試錐調査を行なった（図1・図2）。下位層より順に記す。標高5.73m～5.83mは橙色(新版標準土色帖によるカラーチャートで 7.5YR6/8 ; 以下ではカラーチャート記号のみを記す)の細礫混じり粘土層である。礫は淘汰不良な亜角礫よりなる。礫の量に比べて基質である粘土の量が多く、地層全体に塊状を呈する。本層の下部（標高5.75m）より火山灰分析の試料（A8）を採取した。標高5.83m～6.89mは明黄褐色（2.5Y7/6）の粘土層からなる。塊状・均質で堆積構造はみられない。本層の下部（標高5.85m : A7）と上部（標高6.84m : A6）よ

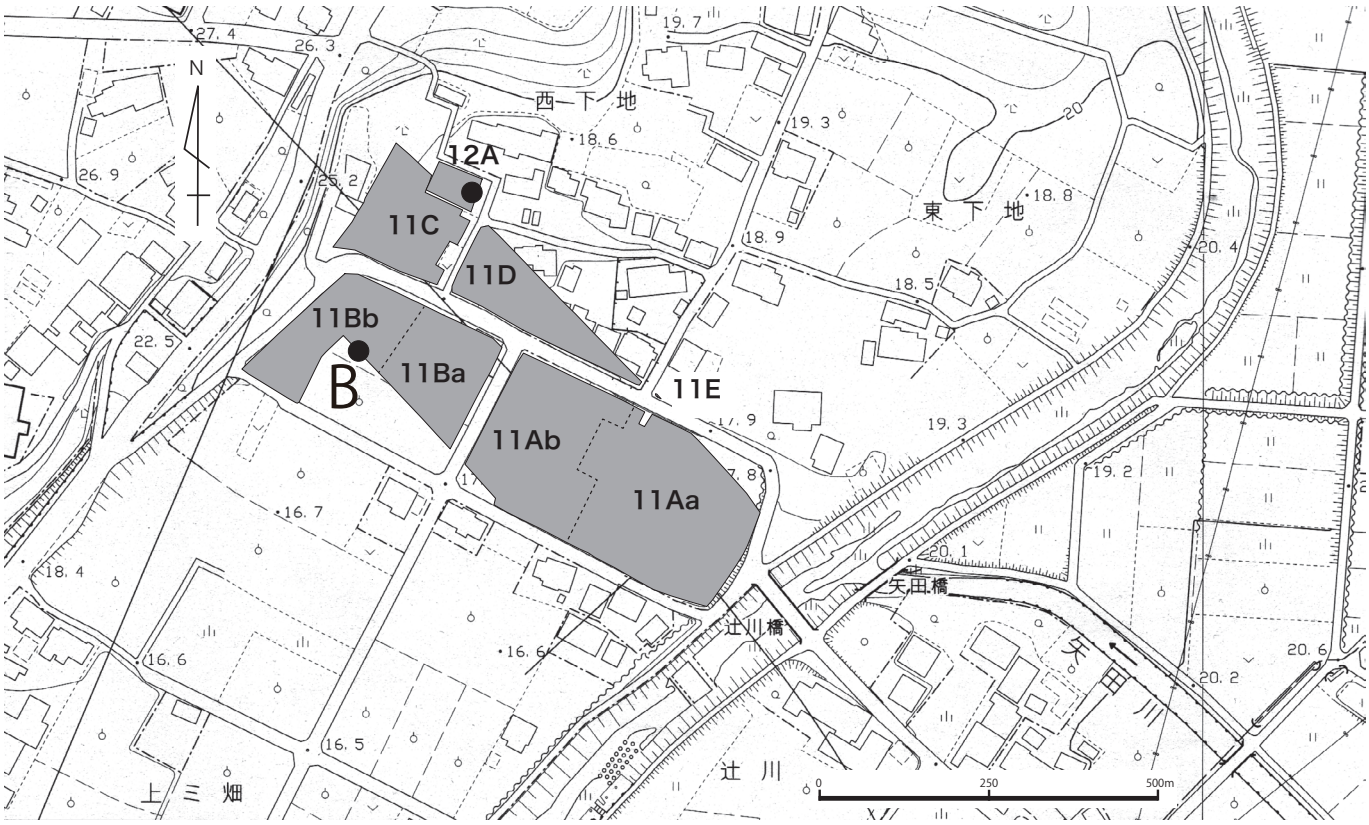


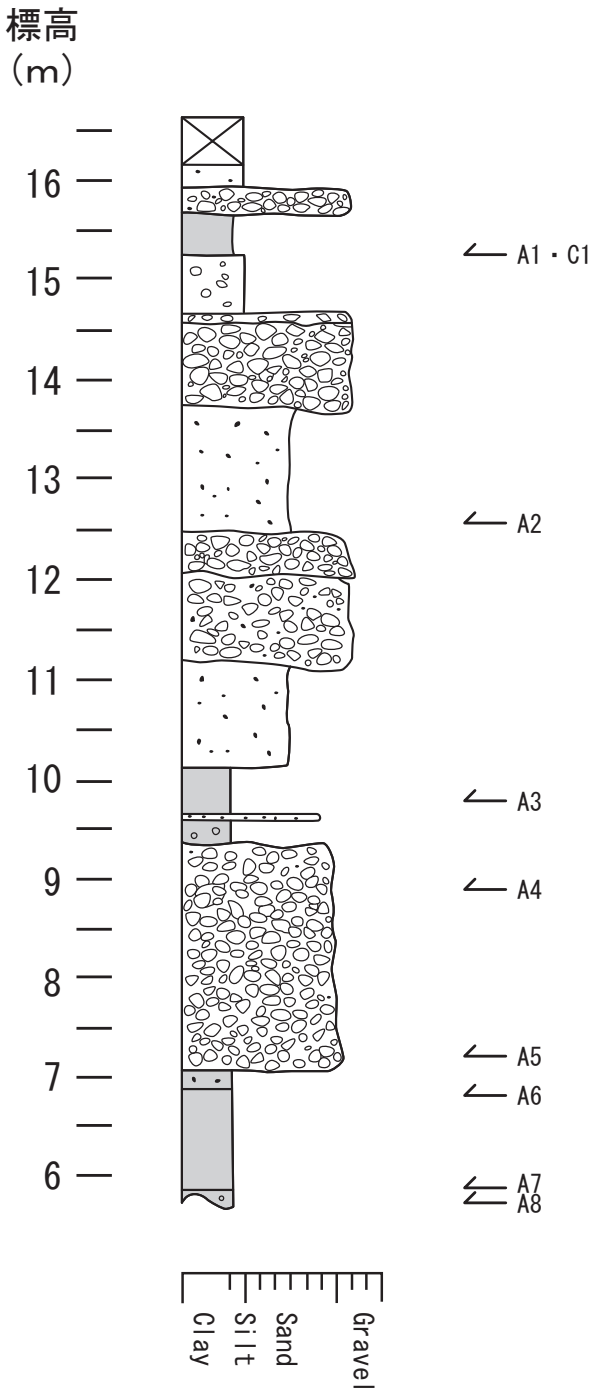
図１　東下地遺跡における分析試料採取地点
黒丸は採取地点を示し、Ｂを付けたものはボーリング掘削地点

り火山灰分析用の2試料を採取した。標高6.89m～7.09mは明黄褐色（10YR7/6）の砂混じり粘土層である。塊状・均質で堆積構造はみられない。標高7.09m～9.30mは浅黄橙色（10YR8/4）のシルト質細礫層からなる。礫は淘汰不良な角礫～亜角礫からなる。まれに径10mmほどの礫が含まれる。本層の下部（標高7.23m：A5）と上部（標高8.89m:A4）で火山灰試料を採取した。標高9.30m～9.61mは明黄褐色（10YR6/6）の中礫混じり粘土層である。堆積構造はみられず、全体に塊状である。標高9.61m～9.69mはにぶい黄橙色（10YR7/4）の粘土質な極粗粒砂層からなる。標高9.69m～10.13mは黄橙色（7.5YR7/8）の粘土層である。塊状・均質で堆積構造は認められない。本層の下部（標高9.79m）で火山灰分析試料（A3）を採取した。標高10.13m～11.19mは浅黄色（2.5Y7/4）のシルト質砂層である。堆積構造は認められず、全体に塊状である。標高11.19m～12.09mはにぶい黄橙色（10YR7/4）のシルト質中礫層である。礫の量に比べてシルト成分が多い。礫は角礫を主体とし、地層は全体に塊状を呈する。標高12.09m～12.49mはにぶい黄橙色（10YR7/2）の中礫層である。礫は角礫を主体とし淘汰は悪い。礫種は石灰岩やチャートからなる礫支持礫層である。標高12.49m～13.81mはにぶい黄橙色（10YR6/3）のシルト質中粒砂層である。堆積構造は認められず､地層全体に塊状を呈する。本層の下部（標高12.59m）で火山灰試料（A2）を採取した。標高13.81m～14.59mはにぶい黄橙色（10YR7/3）の中礫層からなる。基質にシルトを若干含む礫支持礫層である。礫は角礫を主体とし淘汰は悪い。標高14.59m～14.69mはにぶい黄橙色（10YR6/3）のシルト質中礫層である。下位の礫層と同様に礫は角礫を主体として淘汰は悪い。層理面がみられるため下位層と区分される。標高14.69m～15.29mはにぶい黄褐色（10YR4/3）の細礫から中礫の混じる粘土質シルト層である。礫の量に比べてシルト成分が多く、礫は地層中に分散する。標高15.29m～15.69mは暗褐色（10YR3/3）のシルト質粘土層である。塊状・均質で堆積構造はみられない。本層の下部（標高15.33m）で火山灰試料（A1）を、同じ層準から草本植物類の破片を採取して放射性炭素年代測定用の試料（C1）とした。標高15.69m～15.95mはにぶい黄橙色（10YR6/3）の中礫層である。礫は角礫を主体とし淘汰は悪い。礫種として石灰岩やチャートからなる礫支持礫層である。標高15.95m～16.19mは灰黄褐色（10YR6/2）の細礫～中礫の混じるシルト層である。礫の量に比べてシルト成分が多い。堆積構造はみられない。標高16.19m～16.69mは灰黄褐色（10YR5/2）のシルト質中礫層である。本層は現代の人工的な盛土であり、頂部（標高16.69m）が現在の地表面となる。

深掘層序

12A区にて深度約1.4m、南北方向に約５mの長さで遺構検出面からバックホーによる掘削を実施した（図３･図4）。地層の特徴を以下に述べる。

堆積物は全体に礫勝ちであり、礫層の間にレンズ状に砂層を挟む。単層それぞれの層理面は不明瞭であり、地層断面に近づいて観察しない限りその判別は難しい（図３）。そのため補助的に層序区分したものを図４に示す。堆積物の粒度を基に地層は下位より大きく５層に分けられる。地層からは堆積年代を得るために火山灰分析用の試料を採取した。地層は下位より、径10cm程度の大礫を主体として基質に粘土を含む大礫層がみられる。地層全体は褐色を呈する。礫は角礫～亜角礫を主体とし、礫種として石灰岩、チャート、変成された玄武岩からなる。含まれる礫は新鮮



☒: 人工的盛土
A : 火山灰分析試料
C : 放射性炭素年代測定試料

図2　東下地遺跡ボーリング地点の地質柱状図

で、植物片などの生物遺体を含まない。堆積構造や礫の定向配列は認められない。礫の量に対して基質である粘土が多い基質支持礫層である。火山灰分析用の試料を本層の下部（試料No. 1）、中部（試料No. 3）、上部（試料No. 4）で採取した。大礫層の中にはレンズ状に挟まれて灰色を呈する極粗粒砂層と細礫層との互層がみられる。細礫層の礫の淘汰は悪く、角礫～亜角礫を主体とする。礫種として石灰岩、チャート、変成された玄武岩からなり、含まれる礫は新鮮である。本層の下部で火山灰分析用の試料を採取した（試料No. 2）。褐色の大礫層を層厚約10cmの極粗粒砂層がレンズ状に覆う。砂層中には細礫が含まれる。堆積構造はみられず、基質に若干の粘土を含む。本層より火山灰分析用の試料No. 7を採取した。さらにこの砂層を礫径10cm程度の褐色を呈する大礫層が覆う。基質に粘土を含み、礫の量に対して基質である粘土が多い基質支持礫層である。堆積構造や定向配列はみられず、礫の淘汰は悪い。礫種として石灰岩、チャート、変成された玄武岩からなり、含まれる礫は新鮮である。植物片などの生物遺体を含まない。本層の下部（試料No. 8）と上部（試料No. 9）で火山灰分析用の試料を採取した。上の各地層を北側でチャネル状に覆い、黄褐色を呈する中礫混じりの粘土層が覆う。堆積構造は認められず、地層全体に塊状である。地層に含まれる礫は定向配列を示さず、無秩序に地層の中に含まれる。本層の下部（試料No. 5）と上部（試料No. 6）で火山灰分析用の試料を採取した。本層と本層の南側で接する大礫層を覆う礫層の頂部が考古遺構の検出面となる（標高15.548m）。

火山灰分析

11Bb区の南東端で実施した試錐調査において下位層より計8試料（A1～A8）を採取した（表1）。12A区で実施した深掘の地層断面からは計9試料を採取した（表2）。試錐の1試料（A1）から火山ガラスを検出することができたが、残念ながら他の試料（A2～A8）からは火山ガラスが検出されなかった（表1）。火山ガラスを検出できた試料（A1）は地表に近い標高15.29m～15.69mのシルト質粘土層の標高15.33m（試錐深度1.36m）から採取したもので、バブルウォールタイプ（Bw）の火山ガラスが検出され、カワゴ平（Kg）火山灰と姶良Tn（AT）火山灰が同定された。

12A区の深掘地層断面でも火山ガラスがすべての試料において少ないが、遺構検出面に近い黄褐色を呈する中礫混じりの粘土層上部から採取した試料（試料No. 6）からバブルウォールタイプ（Bw）の火山ガラスが3000粒子中に0.5、同じく遺構検出面に近い褐色を呈する大礫層上部から採取した試料（試料No. 9）からもバブルウォールタイプが3000粒子中に0.9と、きわめて少量ではあるが含まれた（表2）。このことから試料6には伊豆カワゴ平火山灰（Kg）と鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）が混在しており、試料9では姶良Tn火山灰（AT）と鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）が混在していることがわかった。

放射性炭素年代測定

11Bb区の南東端で実施した試錐調査では、放射性炭素年代測定試料は1点のみしか得られなかった（表3）。標高15.29m～15.69mのシルト質粘土層の標高15.33mから採取した草本植物が3182―3023 cal yrs BP（PLD-29241）の値であった。

考察

東下地遺跡の地下層序

東下地遺跡において深掘と試錐調査を実施した。特に試錐調査で得られた地下層序を観察すると、地表から深度約11m（標高5.73m）までの間には約1.0mから2.5mまでの層厚をもつ細礫層や中礫層が認められ、礫層は大きく4つのユニットに分けることができる。東下地遺跡の考古遺構

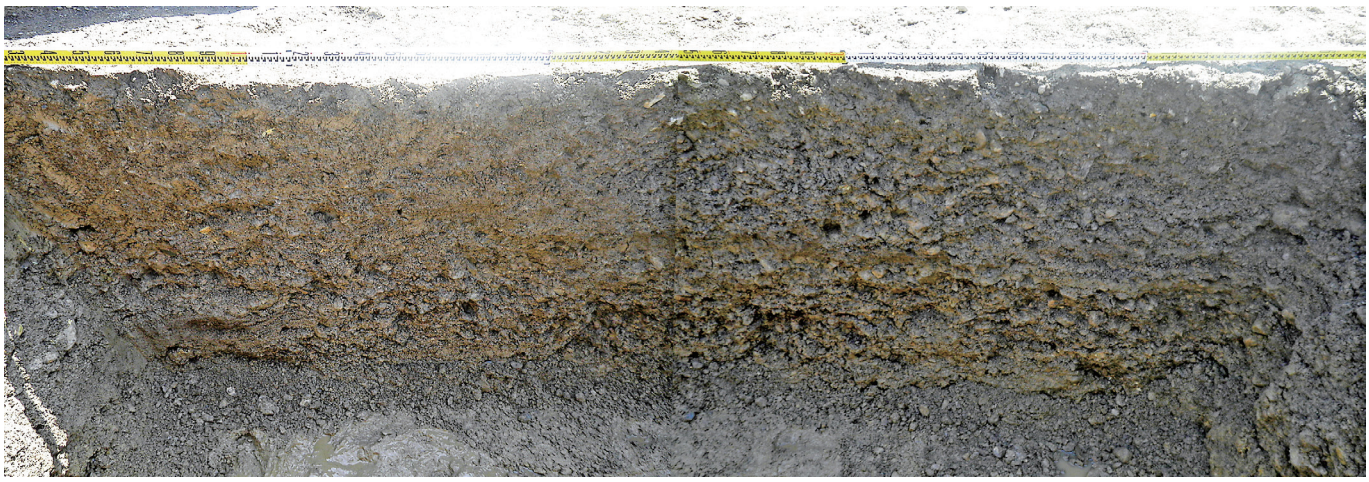


図３　東下地遺跡12A区の深堀による地層断面写真
西から撮影
北と南でそれぞれ個別に撮影した断面写真を中央付近で合成した。

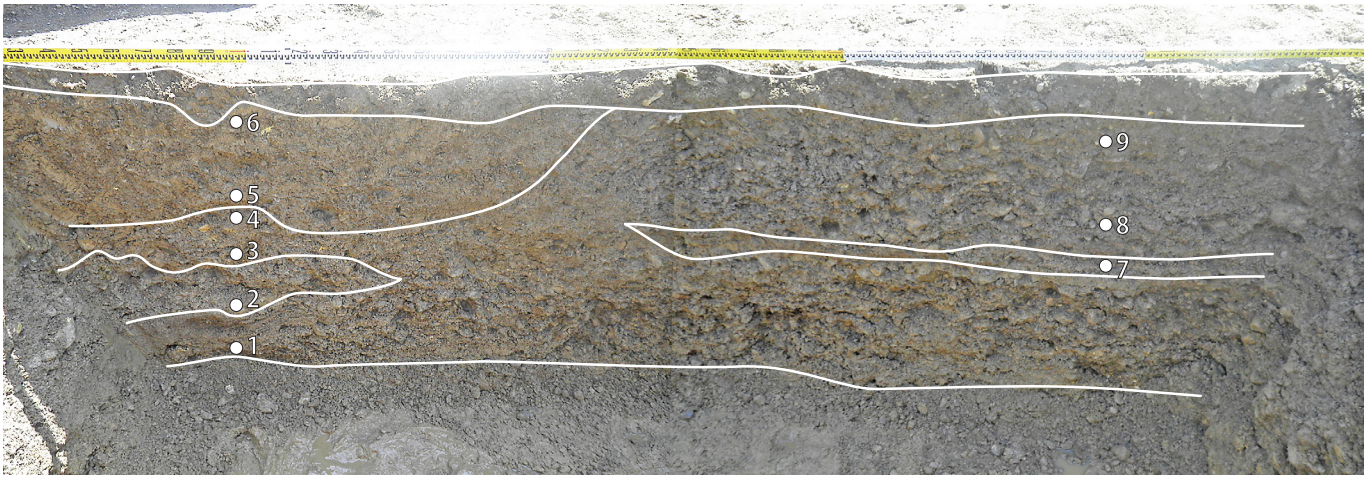


図４　東下地遺跡12A区の深堀による地層断面の層序区分と火山灰分析試料の採取層準

や遺物は礫層の上位を覆うシルト層で検出されている（鈴木・永井, 2011; 永井・川添, 2012; 松田・永井, 2013）。この考古遺跡の基盤層をなす礫層は、たとえば12A区で実施した深掘の地層断面でみられるように、角礫～亜角礫を主体とする不淘汰な礫層から形成され、深度1.4m（標高14.148m）まで地下へ連続することがわかった。また、11Bb区の試錐層序でも標高13.81m～14.59mに中礫層がみられ、標高14m付近の層準には礫層が卓越することがわかる。試錐調査の結果を基にすれば、発掘調査でみられた礫層の下位にはさらに標高11.19m～12.09mにシルト質中礫層、標高12.09m～12.49mに中礫層が、標高7.09m～9.30mにはシルト質細礫層が堆積していることがわかった。調査地点の地下でみられるこれらの礫層は不淘汰な角礫～亜角礫を主体とし、基質にはシルトや粘土の細粒な堆積物を含んでいた。これらの礫層には堆積粒子がつくる配列にみられる方向性､専門的に言えばファブリック（fabric）は認めれず、淘汰度も悪く、礫と礫とが不規則に分散していた。このような礫の堆積の仕方は多量の降雨があったときに泥流となって礫を下流へ運ぶ土石流などで形成されたものである。これらの礫層の堆積年代について検討をするために試錐調査では下位層から上位層へ計８試料の火山灰分析を行なったが､残念ながら火山ガラスの検出は難しく、標高15.29m～15.69mの暗褐色粘土層の標高15.33mで採取した試料のみから火山ガラスが1.2/3000の含有量で検出された（表１）。検出された火山ガラスの主成分は姶良Tn火山灰（AT）および伊豆カワゴ平火山灰（Kg）の特徴と一致した。姶良Tn火山灰（AT）の噴出年代が約２万9000年前～２万6000年前（町田・新井, 2003）、伊豆カワゴ平火山灰（あるいは天城カワゴ平火山灰）（Kg）が約3100年前（町田・新井, 2003）と見積もられている。また、火山灰試料を採取した同じ層準から採取した草本植物の放射性炭素年代測定では3182 — 3023 cal yrs BP（PLD-29241）の値を示し、火山灰分析から予想される年代と調和的な値であった。したがって、標高15.29m～15.69mでみられるシルト質粘土層は少なくとも伊豆カワゴ平火山灰（Kg）の噴出時期以降の、約3100年前代よりも後に堆積した地層であることがわかった。なお、一緒に検出された姶良Tn火山灰（AT）は調査地点の上流側ないしは調査地点周辺の標高の高い場所から二次的に運搬されてきたものである。

ところで、上で述べてきた大きく４つのユニットに分けられる礫層以外の堆積物、つまり砂層やシルト層、粘土層は、標高10m付近を境として試錐層序下部では粘土層を主とする細粒な堆積物が卓越し、上部では砂層を主とするようになり、調査地点の地下層序全体は上方に粗粒化する。これは標高10m以下では河川の本流である活動

表１　東下地遺跡ボーリング地点における火山灰分析結果
検出されたテフラ名（記号）の欄に記入のないものは火山灰が検出されなかったことを示す。

試料名	深度(m)	火山ガラスの形態別含有量(/3000)			重鉱物の含有量(/3000)			β石英	検出されたテフラ名(記号)
		Bw	Pm	0	Opx	Gho	Cum	(/3000)	
A1	1.36	1.2	0.0	0.0	0.5	2.0	0.0	0.2	カワゴ平(Kg)と姶良Tn(AT)が混在
A2	4.10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	
A3	6.90	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	
A4	7.80	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
A5	9.46	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	
A6	9.85	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	
A7	10.84	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0	0.0	0.0	
A8	10.94	0.0	0.0	0.0	0.0	32.0	0.0	0.0	

Bw：バブルウォールタイプ　　Opx：斜方輝石　Gho：緑色普通角閃石　Cum：カミングトン閃石
Pm：パミスタイプ
0：低発泡タイプ

表２　東下地遺跡12A区の深堀による地層断面の火山灰分析結果
検出されたテフラ名（記号）の欄に記入のないものは火山灰が検出されなかったことを示す。

試料No,	火山ガラスの形態別含有量(/3000)			重鉱物の含有量(/3000)			β石英	検出されたテフラ名　(記号)
	Bw	Pm	0	Opx	Gho	Cum	(/3000)	
1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.1	
2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	
3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.1	
4	0.1	0.0	0.0	0.3	0.8	0.0	0.0	
5	0.1	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	
6	0.5	0.0	0.0	0.2	2.2	0.0	0.1	カワゴ平(Kg)と鬼界アカホヤ(K-Ah)が混在
7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	カワゴ平(Kg)降灰層準付近
8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	
9	0.9	0.0	0.0	1.0	5.5	0.0	0.1	姶良Tn(AT)と鬼界アカホヤ(K-Ah)が混在

Bw：バブルウォールタイプ　　Opx：斜方輝石　Gho：緑色普通角閃石　Cum：カミングトン閃石
Pm：パミスタイプ
0：低発泡タイプ

表３　東下地遺跡ボーリング地点における放射性炭素年代測定結果

調査区	標高	堆積物	試料の種類	^{14}C年代	δ^{13}C PDB	2σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲	Lab code
(区)	(m)			(yrs BP)	(‰)	(AD/BC, probability)	(cal yrs BP, probability)	No.(method)
11Bb	15.33	暗褐色シルト質粘土層	生の草本類	2954 ± 23	-24.54 ± 0.23	1233 - 1074 BC (92.7 %)	3182 - 3023 (92.7 %)	PLD - 29241 (AMS)
						1258 - 1247 BC (1.7 %)	3207 - 3196 (1.7 %)	
						1065 - 1057 BC (1.0 %)	3014 - 3006 (1.0 %)	

的流路が調査地点を流下する頻度が少なかったことを意味し、粘土層に挟まれる標高7.09m～9.30mのシルト質細礫層の時にのみ調査地点に活動的流路が存在していたことを示す。対して標高10mよりも標高の高い層準では砂層が卓越するようになることから活動的流路は調査地点の近傍に近づいたことがわかり、標高11.19m～12.09mのシルト質中礫層や標高12.09m～12.49mの中礫層、さらにその上位の標高13.81m～14.59mの中礫層の認められる層準では調査地点を活動的流路が流下していたことがわかる。それら活動的流路の側方への変遷時期は、残念ながら火山灰分析による火山ガラスが検出されなかったため不明である。だが、試錐層序の最上部に近い標高15.69m～15.95mに中礫層が認められ、礫層直下のシルト質粘土層からは約3100年前の伊豆カワゴ平火山灰が検出されるとともに、放射性炭素年代も3182―3023 cal yrs BP（PLD-29241）とほぼ同じころの数値年代を示した。この結果から、少なくとも約3100年前以降には調査地点に活動的流路が流れており、流路の側方への移動がはじまってシルト層といった細粒な堆積物が上位を覆うようになり、その後人為活動が速やかに始まったことがわかった。

謝辞

本論を作成するにあたり、試錐調査では株式会社アーキジオに、火山灰分析では株式会社古澤地質にお世話になった。放射性炭素年代測定では株式会社パレオ・ラボAMS年代測定グループの伊藤　茂氏・安昭炫氏・佐藤正教氏・廣田正史氏・山形秀樹氏・小林紘一氏・Zaur Lomtatidze氏・小林克也氏にお世話になった。分析試料の整理・保管と原図の作成では整理補助員の前田弘子氏・鈴木好美氏にお手伝いいただいた。記して厚くお礼申し上げます。

文献

古澤　明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定・形態分類とその統計的な解析, 地質学雑誌, 101, 123-133.

古澤　明, 2003, 洞爺火山灰降下以降の岩手火山のテフラの識別, 地質雑, 109, 1-19.

町田　洋・新井房夫, 2003, 新篇　火山灰アトラス［日本列島とその周辺］, 東京大学出版会 , 336.

松田　訓・永井邦仁, 2013, 東下地遺跡, 平成24年度年報, 愛知県埋蔵文化財センター, 30.

永井宏幸・川添和暁, 2012, 東下地遺跡, 平成23年度年報, 愛知県埋蔵文化財センター, 37-42.

鈴木正貴・永井邦仁, 2011, 東下地遺跡, 平成22年度年報, 愛知県埋蔵文化財センター, 51-52.

第５章　総括

（１）東下地遺跡は豊橋市の北東部、市街地から６㎞ほど離れた石巻本町（北緯34度47分51秒・東経137度26分14秒）に所在する。現況は畑地と住宅地であり、調査後の地区は現在東三河環状線の一部である。

（２）調査期間と面積は、平成23年度の発掘調査が平成23年５月９日から平成24年３月16日で10,640㎡、平成24年度の発掘調査が平成24年６月28日から平成24年７月27日で274㎡である。調査総面積は10,904㎡である。出土遺物の総量は497.776kgである。

（３）2011年度の調査はＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅの５調査区に分けておこなった。

11A区　13世紀代を中心とする中世の遺構群が調査区全体にひろがり、弥生時代と考えられる水田跡が調査区北西側を中心に展開する。

水田の調査　水田は、Ａb区の北西隅を中心に確認した。調査区全体に水田跡の確認できなかった理由として、古代以降の砂礫層をともなった洪水性の堆積による削平がある。したがって、砂層と細礫層によって覆われたところが偶然残存したと想定できる。11Ab区の水田は擬似畦畔を中心に検出しているので、最下面の弥生下面水田と同一面である可能性が高い。

畦畔の配置は、不定形で一面あたりの面積も３～８㎡で、小区画水田に相当する。畦畔が弧線を描くように緩やかに曲がるありかたが、地形を活かした配置になっている。

中世墓群の調査　Ab区東寄りに幅５m、長さ10mの範囲に密集した集石を伴う土壙群がある。この土壙群の南端、すこし離れたところから不定形に広がる集石を検出した。大礫を除去すると短刀と山茶椀と山皿が重なって出土した。人骨は確認できなかったが、3.4×1.1mの礫敷土壙の上位に、1.5×0.5mの長楕円にシルト層があった。短刀などもこの堆積層から出土していることから、棺を想定した。この大型土壙608ST検出をきっかけに、拳大くらいの礫が集積した箇所を精査したところ、25基の土壙を確認した。さらに隣接する箇所に、礫のない土壙も多数あり、都合40基以上の墓壙群となった。特徴を整理すると、拳大の礫が集石する土壙を中心に、北東から南東に幅５m前後、長さ15mにわたって帯状に集石墓が重複・密集する地区、ここから東へ10m離れて東西10m、南北５mの範囲に隣接する遺構の重複する土坑群がある。これら土壙が集中する地区から離れた場所に、大型土壙608STや火葬施設546STがある。

柱穴群の調査　中世墓壙群の西側は細礫に覆われた小土坑を200箇所前後検出した。大きさは径20㎝前後、深さ50㎝ある比較的しっかりとした掘りかたの柱穴が多い。柱痕のあるもの（約60基）も含み、なかには柱の残欠と礎板を確認した柱穴もあった。642SB以外は建物配置の柱穴を見出せなかった。今後再検討の余地を残す。また、東方に展開する墓地との関連性も含めて13世紀代を中心とする遺構群の性格を河道454SXの大量廃棄された土師器皿、山茶碗、小皿などの意味をあわせて検討するべきであろう。

中世の河川跡　Aa区北東寄りに幅10m前後の蛇行する河道454SXを確認した。検出時は土師器片などがほかの場所に比べて多い程度の認識であった。河道の深度を確かめるためトレンチを数カ所入れると、おもに河道西寄りから13世紀代を中心とする完形品の山茶椀をはじめ遺物の集中する所があった。全面掘削の調査段階では、数カ所に大量の遺物投棄があった。なかでも入り江状になった所は大礫が敷かれたように集中し、そこに隣接して山茶椀・桃の種子などがまとまって出土した。河道の堆積は下位に砂礫層がひろがる。その上位にシルト層が堆積し、とくに河道岸辺を中心に遺物が出土した。土師器皿が相当量あり、山茶椀より多い。椀皿類を中心に、完形品が多く、使用頻度の高くないものが多い。今回「**二次可能のある山茶碗**」とした山茶碗底部は454SXから出土した資料が大多数である。尾張型の椀・皿類が相当量含まれていた。

中世末から近世の溝群　神田川に近いAa区東寄りは川の本流部分である。表土近くから中・大礫を中心とした礫層が厚く堆積する。この礫層が途切れる付近に１m前後の段差がある。この段差を利用した縁辺に、溝群がある。とくに下段の溝は幅５m前後ある大溝であった。遺物は15世紀代の土師器鍋がまとまっている所を除くと少ない。

そのほか、Aa区で検出した400基近い土坑などは、ほとんど遺物を含まない浅い掘り込みの遺構であった。土色と土質の明確な差異はない。したがって、人工的な掘り込みではない遺構も相当量ある。そのなかでも土師器皿が20枚程度完形品で出土した土坑511SK、水晶の数珠玉と人骨が出土した土壙303STはAb区の中世墓群との関連性が指摘できる。

11B区　B区は、遺跡西端の台地下に設定した調査区である。西接する台地はやや舌状に張り出す形状であり、Bb区中央部付近で最も張り出している。

Ba区の層序は、上から、表土（20～30cm）、黒褐色シルト（20～30cm）、砂礫層（最大70cm）、灰黄褐色シルト（約30cm）、にぶい黄色褐色シルト（５～10cm）、黄褐色シルトである。黒褐色シルト層は、調査区全面に広がりが確認できる。やや斑土状を呈する土壌で、ごくわずかに戦国期あるいは近世の陶器片が出土した。畑地など中近世の耕作土であったと考えられる。砂礫層は、調査区西側で特に厚い堆積を確認できたもので、西側に展開するにつれて層厚が著しく薄くなる。

弥生水田の擬似畦畔検出　灰黄褐色シルト層は、Bb区の成果から、弥生中～後期の水田耕作土と考えられるが、この調査区ではにぶい黄褐色シルト層は黄褐色シルト層（基盤層）への漸位層である。この層で、水田畦畔の擬似畦畔を検出し、弥生時代前期の土器群が出土した。擬似畦畔は５×５m以下の小区画である。弥生時代前期の土器片は自然地形の凹地あるいは自然流路内に土器片が散在している状態で見つかった。

上面水田と下面水田　Bb区の基本層序はBa区と同様であるが、台地縁辺の西側区域とBa区から連続する東側区域とで、様相が大いに異なる。西側区域では、南北に走る大きな河道が見つかり、河道内の黒褐色シルト層で、小規模な水田を検出した。また、砂礫層下の中洲状の高まりで、基盤層直上で水田耕作土と考えられる均質なシルト層を確認

した。これは11C区の水田畦畔に対応するものと考えられる。一方、東側区域では、灰黄褐色シルト層上面で、極めて良好な状態で小区画水田を検出することができた。砂礫層の堆積が、水田畦畔をパックしていたためと考えられる。水田は配置の異なる２面の水田（上面水田・下面水田）を確認した。上面水田は３×３m程度の小区画水田が東側区域全面で見つかった。畦畔内の耕作土からは弥生時代後期から古墳時代前期の土器片がまとまって出土した。一方、下面水田は、河道近くに展開しており、溝・大畦畔・導水路・小区画水田をセットで確認することができた。下面水田に関連する遺構群から採取した試料からAMS年代測定をおこなった。弥生時代中期末（紀元前１世紀前半代）の値が最も多い。また、下面水田脇の黄褐色シルト層直上では、土坑状の落ち込みと馬蹄形の溝が１組となった炉跡が３組以上重複した状態で見つかった。

C区　遺跡北西端にあたる位置に設定した調査区である。段丘直下にあたる調査区西側では、Bb区西側区域同様、南北方向に走る河道が見つかった。河道東側では、北東から南西方向に、地形の傾斜に沿って小区画水田群を確認した。水田は数回営まれているようであるが、配置の変換点にあたる大畦畔状の場所に、焼土および炭化物が集中して出土した。畦畔の残存状態が良好であったため、部分的に都合11回の検出を繰り返す結果となった。

D区　中世以降の堆積層は、全面にわたり礫層が覆う。何度も大量の礫をともなう流水性の堆積に削平された結果と考えたい。Ｃ区寄りの部分は畑地に相当する堆積があったものの、近代以降の遺物を含む堆積が下位にあった。弥生中期末の水田はこれら礫層の下位にある。南側に隣接するAb区の水田、西側に隣接するＣ区の水田と同一層序である。ただし、ここでの検出は一部耕作土が残存するものの、基本的には擬似畦畔であった。自然地形に沿った小区画水田が調査区西寄りに広がる。

E区　Ｅ区は市道と民地との境界に挟まれた調査区で、狭小な調査区であった。そのため、小型のバックフォーで掘削し、層序の確認を主目的とした。遺物・遺構ともに確認できなかった。

（4）2012年度の調査地点12A区は2011年度調査区の北西隅にあたり、野添遺跡のある台地縁辺に近い地点である。調査区東端付近で水田と溝が検出された。溝は礫を多数含む水流の影響によって各所で抉られ不定形である。遺物は摩滅の激しい土師器小片が若干出土したのみで弥生後期から古墳時代前期の可能性が考えられる。溝の東側に水田が検出されたが出土遺物はなく時期不詳である。一方、調査区西半部は段丘崖の斜面にかかり、耕作地化などで削平されているため遺構は検出されなかった。

（5）東下地遺跡は以上のように大きく２つの成果を得ることができた。

１つは、**弥生水田の発見**である。遺物を伴った遺構はほとんどなかったが、AMS年代測定と堆積層序の検討から、弥生時代中期末ごろであると考えられる。台地縁辺の自然地形を利用した水田は、初期水田の類例に近い。

ところで、この水田を営んでいた集落はどの辺りに推定できるのか。東下地遺跡では竪穴建物など居住地の遺構は確認されていない。西に隣接する台地上では、野添遺跡がある。野添遺跡は弥生時代後期あるいは終末期に比定できる竪穴建物がある。東下地遺跡の水田は弥生時代中期末が中心となる。さらに西南に目を向けると、豊川左岸台地が神田川によって一旦途切れる南端に弥生時代後期を中心とする環濠をもつ高井遺跡（県遺跡番号0318）がある。高井遺跡は弥生時代中期末の方形周溝墓やさらにさかのぼる時期の遺物が出土している、この地区を代表する弥生集落遺跡である。高井遺跡の位置する台地南端下に庄司ケ下遺跡（県遺跡番号0319）と西砂原遺跡（県遺跡番号0320）がある。これら台地縁辺から沖積地に立地する遺跡は、東下地遺跡と同様に初期水田を営む条件が整っている。つまり弥生水田がこの近辺にも広がり、さらに高井遺跡の集落を支える生産基盤が台地縁辺沿いに続いている可能性もある。今後の調査成果を期待したい。

もう１つは、**中世の墓地を中心とする遺構群**である。河道に大量廃棄された遺物群、集石を伴う土壙群と集石を伴わない土壙群、そして柱穴群地区、それぞれがまとまって集中する状態も注目すべきである。しかもこれらがほぼ13世紀代前半を中心とする短期間の遺構群である観点から、隣接する遺跡との比較検討をすべきであろう。神田川を挟んで対岸に位置する多り畑遺跡から「二次加工のある山茶碗」がまとまって確認されていることや、白山Ⅱ遺跡では掘立柱建物をはじめとする中世居館と推定される遺構群は、東下地遺跡と同時期に近い集落である。

東下地遺跡の所在する石巻山周辺は、式内社石巻神社や普門寺など寺社が現存する地区である。石巻山が古代中世にさかのぼる時期に信仰の対象であったことはほぼ間違いないであろう。13世紀代の東下地遺跡が石巻山の信仰に関連する遺構群であったか、さらに検討をしていく必要がある。

参考文献

木下克己『愛知県八名郡の先史遺跡』豊橋石巻地区文化財保存会1975年12月30日

木村一朗・荒巻敏夫・大澤正吾・池田芳雄「豊川中流および下流の段丘と更新統（その1・段丘面）」『愛知教育大学研究報告（自然科学編）』30愛知教育大学1981年３月10日

前田清彦ほか『郷中・雨谷』豊川市教育委員会1989年３月18日

愛知県教育委員会文化財課『平成５年度愛知県歴史の道調査報告書Ｘ－伊奈街道・別所街道－』愛知県教育委員会1994年３月30日

贄　元洋ほか『石巻神郷地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』豊橋市教育委員会1986年3月31日

贄　元洋『白石遺跡』（豊橋市埋蔵文化財調査報告書第15集）豊橋市教育委員会1993年3月31日

贄　元洋ほか『高井遺跡』（豊橋市埋蔵文化財調査報告書第26集）豊橋市教育委員会1996年2月29日

鈴木隆司『楠遺跡発掘調査報告書』（新城市埋蔵文化財調査報告書第10集）新城市教育委員会1996年３月31日

飴谷　一「加工円盤について」『考古学フォーラム』９考古学フォーラム1997年３月

贄　元洋ほか『高井遺跡（Ⅱ）・荒木２号墳・下角庵遺跡』（豊橋市埋蔵文化財調査報告書第57集）豊橋市教育委員会2001年3月28日

沢田　考ほか「1990年度の調査」「1991年度の調査」『市内試掘調査報告』（豊橋市埋蔵文化財調査報告書第67集）豊橋市教育委員会2002年３月28日

贄　元洋ほか『白山Ⅰ・Ⅱ遺跡　西南代遺跡　城戸中遺跡　大蚊里遺跡』（豊橋市埋蔵文化財調査報告書第72集）豊橋市教育委員会2003年３月31日

岩瀬彰利ほか『市内遺跡詳細分布調査報告書』（豊橋市埋蔵文化財調査報告書第78集）豊橋市教育委員会2004年３月31日

岩原　剛「東三河の中世土師皿・試論」（三河考古学談話会東三河部会７月定例会）当日資料2004年７月８日

藤澤良祐ほか『愛知県史』別編窯業２中世・近世瀬戸系　愛知県2007年３月31日

鈴木正貴「土器生産：シンポジュウムⅢ東海地方の窯業生産」『日本考古学協会2008年度愛知大会研究発表資料集』愛知大会実行委員会2008年11月８日

芳賀　陽ほか『波ノ上Ⅰ』（豊橋市埋蔵文化財調査報告書第100集）豊橋市教育委員会2009年３月31日

芳賀　陽ほか『波ノ上Ⅱ』（豊橋市埋蔵文化財調査報告書第112集）豊橋市教育委員会2010年３月31日

早野浩二「多り畑遺跡・辻川１号墳・辻川遺跡」『年報平成21年度』財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2010年３月

池本正明「多り畑遺跡」『年報平成21年度』財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2010年３月

永井邦仁「東下地遺跡」『年報平成22年度』公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2011年３月

中野晴久ほか『愛知県史』別編窯業３中世・近世常滑系　愛知県2012年３月

永井宏幸・川添和暁「東下地遺跡」『年報平成23年度』公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2012年３月

永井邦仁「野添遺跡」『年報平成24年度』公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2013年３月

永井邦仁「東下地遺跡」『年報平成24年度』公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2013年３月

増山禎之ほか展示図録『渥美窯　国宝を生んだその美と技』田原市博物館2013年10月19日

贄　元洋ほか『渥美窯編年の再構築』東海土器研究会2013年11月２日

松田　訓ほか『野添遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第205集）公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2016年３月31日

池本正明ほか『多り畑遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第206集）公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2016年３月31日

遺構図版目次

遺構図版 1　11A戦国～近世
遺構図版 2　11A戦国～近世
遺構図版 3　11A 1面
遺構図版 4　11A 1面
遺構図版 5　11A 1面
遺構図版 6　11A 1面
遺構図版 7　11A 1面
遺構図版 8　11A 1面
遺構図版 9　11A 2面
遺構図版10　11B 1面
遺構図版11　11B 1面
遺構図版12　11B 2面
遺構図版13　11B 2面
遺構図版14　11B 3面・4面
遺構図版15　11B 5面・6面
遺構図版16　11B 6面
遺構図版17　11B 6面
遺構図版18　11C 2面
遺構図版19　11C 3面
遺構図版20　11C 4面
遺構図版21　11C 5面
遺構図版22　11C 2面・6面・12A 2面
遺構図版23　11D 2面
遺構図版24　11D 2面
遺構図版25　11D 3面
遺構図版26　11D 3面
遺構図版27　11Aトレンチ配置図
遺構図版28　11Aセクション（1）
遺構図版29　11Aセクション（2）
遺構図版30　11Aセクション（3）
遺構図版31　11Aセクション（4）
遺構図版32　11Aセクション（5）
遺構図版33　11Aセクション（6）
遺構図版34　11Aセクション（7）
遺構図版35　11Aセクション（8）
遺構図版36　11Aセクション（9）
遺構図版37　11Aセクション（10）
遺構図版38　11Aセクション（11）
遺構図版39　11Aセクション（12）
遺構図版40　11Aセクション（13）
遺構図版41　11Aセクション（14）
遺構図版42　11Aセクション（15）
遺構図版43　11Aセクション（16）
遺構図版44　11Aセクション（17）
遺構図版45　11Aセクション（18）
遺構図版46　11Aセクション（19）
遺構図版47　11Aセクション（20）
遺構図版48　11Aセクション（21）
遺構図版49　11Aセクション（22）
遺構図版50　11Aセクション（23）
遺構図版51　11Aセクション（24）
遺構図版52　11Aセクション（25）
遺構図版53　11Bトレンチ配置図
遺構図版54　11Bセクション（1）
遺構図版55　11Bセクション（2）
遺構図版56　11Bセクション（3）
遺構図版57　11Bセクション（4）
遺構図版58　11Bセクション（5）
遺構図版59　11Bセクション（6）
遺構図版60　11Bセクション（7）
遺構図版61　11Bセクション（8）
遺構図版62　11Bセクション（9）
遺構図版63　11Bセクション（10）
遺構図版64　11Bセクション（11）
遺構図版65　11Bセクション（12）
遺構図版66　11Bセクション（13）
遺構図版67　11Bセクション（14）
遺構図版68　11Bセクション（15）
遺構図版69　11Bセクション（16）
遺構図版70　11Bセクション（17）
遺構図版71　11Bセクション（18）
遺構図版72　11Bセクション（19）
遺構図版73　11Bセクション（20）
遺構図版74　11Bセクション（21）
遺構図版75　11Cトレンチ配置図
遺構図版76　11Cセクション（1）
遺構図版77　11Cセクション（2）
遺構図版78　11Cセクション（3）
遺構図版79　11Cセクション（4）
遺構図版80　11Cセクション（5）
遺構図版81　11Cセクション（6）
遺構図版82　11Cセクション（7）
遺構図版83　11Cセクション（8）
遺構図版84　11Cセクション（9）
遺構図版85　11Cセクション（10）
遺構図版86　11Cセクション（11）
遺構図版87　11Dセクション（1）
遺構図版88　11Dセクション（2）
遺構図版89　11Dセクション（3）
遺構図版90　11Dセクション（4）
遺構図版91　11Dセクション（5）
遺構図版92　11Dセクション（6）
遺構図版93　11Dセクション（7）
遺構図版94　11Dセクション（8）
遺構図版95　11Dセクション（9）
遺構図版96　112Aセクション

図版凡例

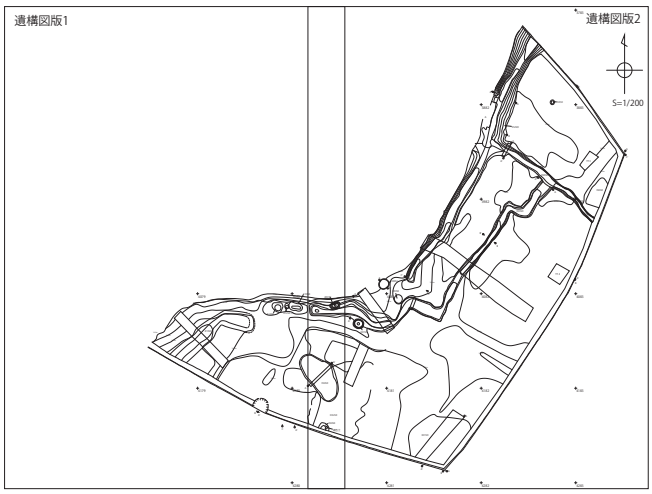
（1）図版は遺構図版と遺物図版の順に掲載した。
（2）遺構図版は11A・11B・11C・11D・12Aの各調査区の全体図を調査時の検出面に合わせて掲載した。
（3）遺構図版の通し番号下、括弧付けのタイトルは調査区と検出面を表わす。
（4）1ページで収まらない場合は、割付図を付してある。全体図の縮尺は全て1:200である。
（5）全体図のつぎに掲載したセクション図は11A・11B・11C・11D・11E・12Aの順に、掲載した。
（6）各調査区のトレンチ配置図を調査区毎に付けた。調査区壁面セクション図は始点辺りに名称を記した。
（7）セクションはA－A'、B－B'などで始点－終点を表記した。
（8）セクション図の縮尺は1:50である。ただし、12A区は1:100である。
（9）遺物図版は11A・11B・11C・11Dの順に掲載した。
（10）遺物図版の番号は遺物登録番号と一致している。番号に冠したSは石製品、Mは金属製品、Xはガラス製品である。
（11）遺物実測図の縮尺は概ね1:3である。大きな遺物については番号に続き、括弧付けで縮尺を記した。
（12）遺物番号のあとに括弧付けで記した番号は調査時の取上番号である。遺構図版のなかに記したd-●と一致する。

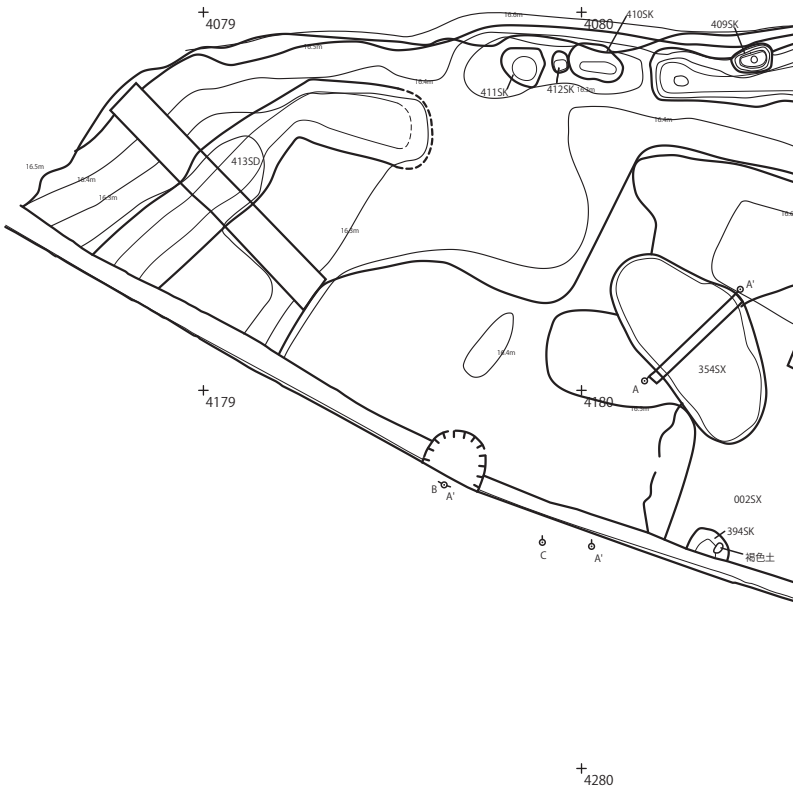
遺物図版目次

遺物図版 1　11A区017SK
遺物図版 2　11Aa区066SP,114SK,241SK,152SK,183SK,218SK,249SK,256SK,266SK,267SK,287SD,294SK,297SK・454SXあ,316SP,303ST,325SD
遺物図版 3　11Aa区352SD・354SK,353SD,354SK,362SP,376SK,382SP,383SP,413SD
遺物図版 4　11Aa区413SD,401SJ,454SXあ①
遺物図版 5　11Aa区454SXあ②
遺物図版 6　11Aa区454SXあ③
遺物図版 7　11Aa区454SXあ④,11Aa454SXい①
遺物図版 8　11Aa区454SXい②
遺物図版 9　11Aa区454SXい③
遺物図版10　11Aa区454SXう①
遺物図版11　11Aa区454SXう②
遺物図版12　11Aa区454SXえ①
遺物図版13　11Aa区454SXえ②
遺物図版14　11Aa区454SXえ③
遺物図版15　11Aa区454SXえ④
遺物図版16　11Aa区454SXえ⑤
遺物図版17　11Aa区454SXえ⑥
遺物図版18　11Aa区454SXお,か
遺物図版19　11Aa区454SXき,く,け,こ,し
遺物図版20　11Aa区さ,す,せ
遺物図版21　11Aa区わ,を,ん①
遺物図版22　11Aa区454SXん②
遺物図版23　11Aa区455SX,TT7,463SD,465SD
遺物図版24　11Aa区478SD,480SD
遺物図版25　11Aa区482SD,511SK,Aトレンチ,Bトレンチ,Cトレンチ
遺物図版26　11Aa区トレンチ3,検出 1
遺物図版27　11Ab区547SK,578SK・660SK,581SK,548SK,602SK,606SK,603SK,608ST,641SD,612SK,644SK,663SP,659SP,661SP,670SD,697SP,670SP,698SK,794SK,795SP,732SP
遺物図版28　11Ab区806SP,818SK,816SX,825SK,835SK,837SK,838S
遺物図版29　11Ab841SK,839SK,887SK,888SK,921SK,984SK・990SK,988SK,991SP,992SP,990SX,北壁トレンチ,921SD,936SN,939SN,940SN,949SN,953SN,957SN,960SN
遺物図版30　11Ab区Nトレンチ,Oトレンチ,Pトレンチ,Rトレンチ,Gトレンチ,Hトレンチ,3T,'t,12T,14T,北壁トレンチ
遺物図版31　11Ab区検出 1 ①
遺物図版32　11Ab区検出 1 ②
遺物図版33　11Ba区002NR,083SX,085SX,086SX,64T,検出1,検出2
遺物図版34　11Bb区098SE,100SD,104SD,103NR,171SN
遺物図版35　11Bb4区226SN,177SN,224SD,北壁トレンチ,南壁トレンチ,検出2,検出1,表土,002NR,235SD
遺物図版36　11C区002NR,191SN,096SN,西壁トレンチ,東壁トレンチ,表土,検出1,検出1,検出10
遺物図版37　11D区003SN・004SN,079SN,073SN,088SU,北壁トレンチ,西壁トレンチ,検出1,表土
遺物図版38　11D区表土,北壁トレンチ

遺構図版 1

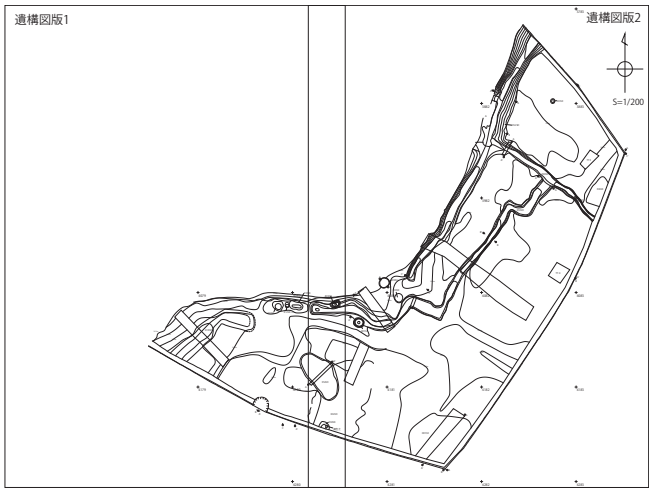
（11A戦国～近世）





遺構図版 2

（11A戦国～近世）

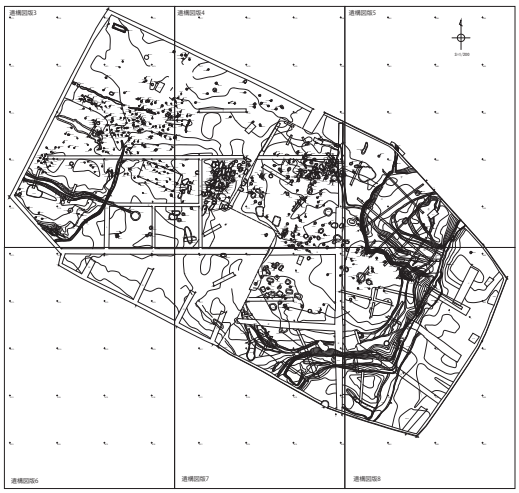


S=1/200

3783
3882
3883
3982
3983
4081
4082
4083
4181
4182
4183
4281
4282
4283
453SX
352SD
450SD
353SD
396SE
TT 3
TT 4
338SJ
339SE
401SJ
409SK
354SX
002SX
394SK
褐色土
001SX

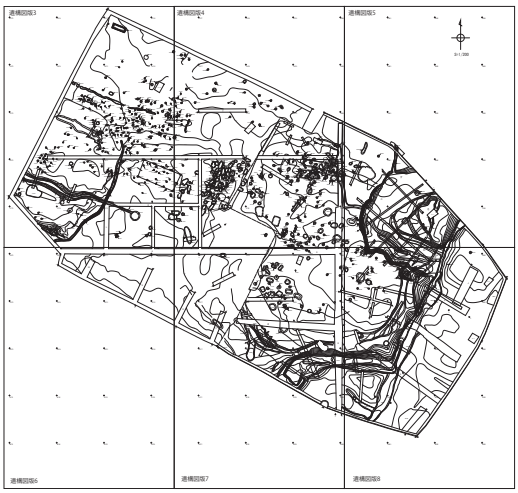
遺構図版３

（11A1面）



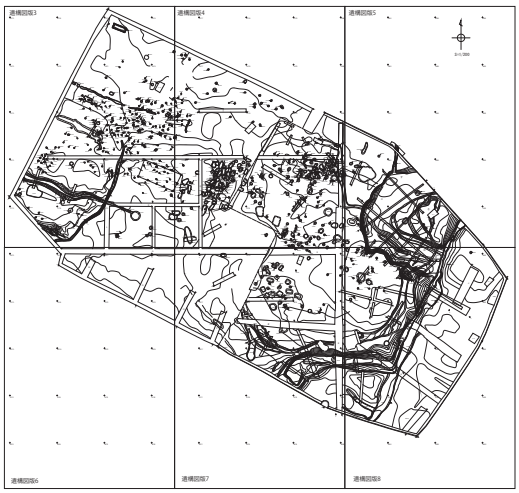
遺構図版４

（11A1面）

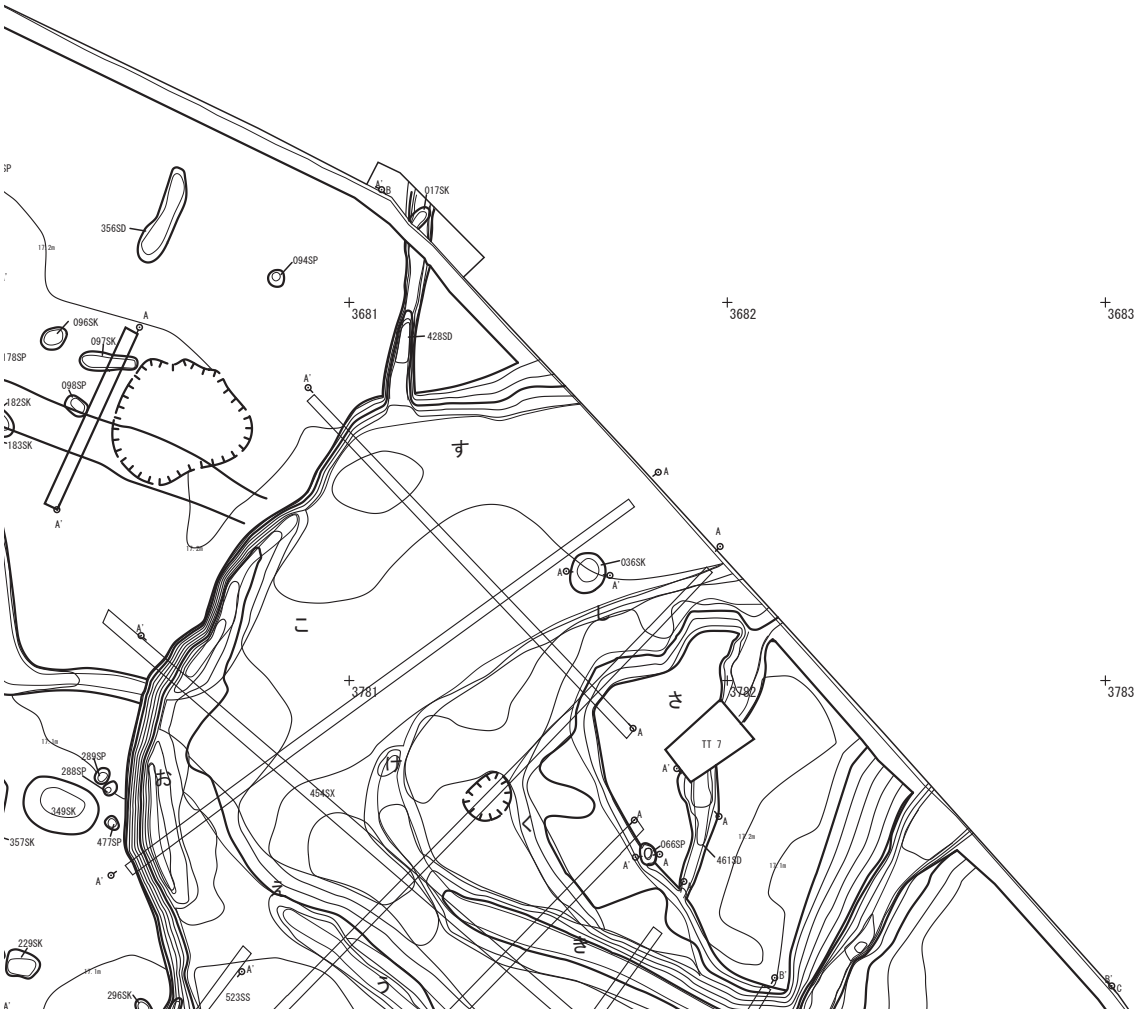


遺構図版 5

（11A1面）

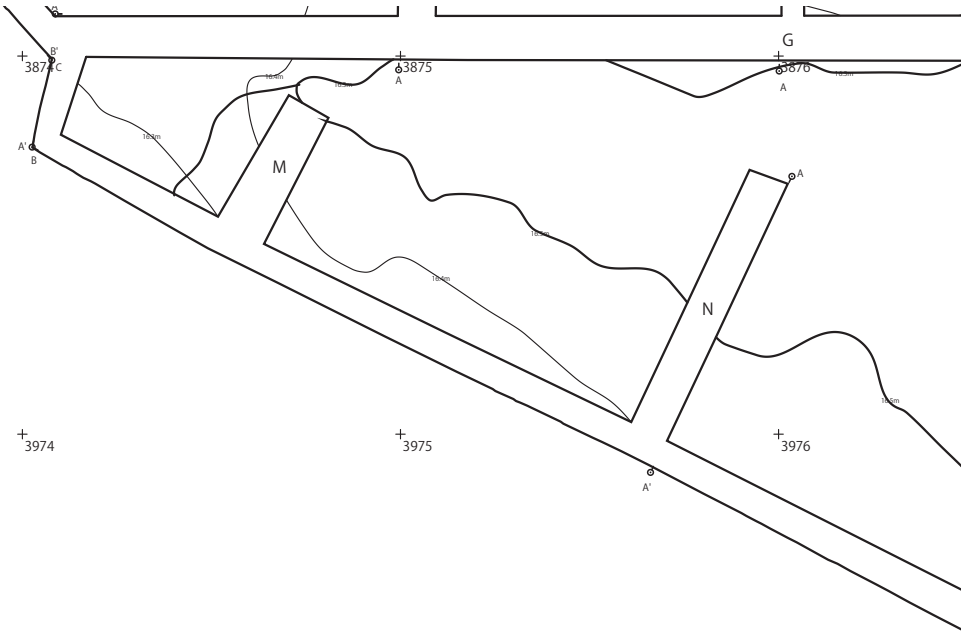


S=1/200



遺構図版６

（11A1面）

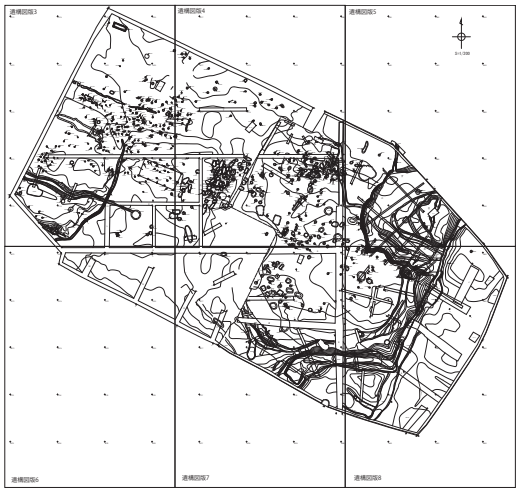


3873 3874 3875 3876

3973 3974 3975 3976

4073 4074 4075 4076

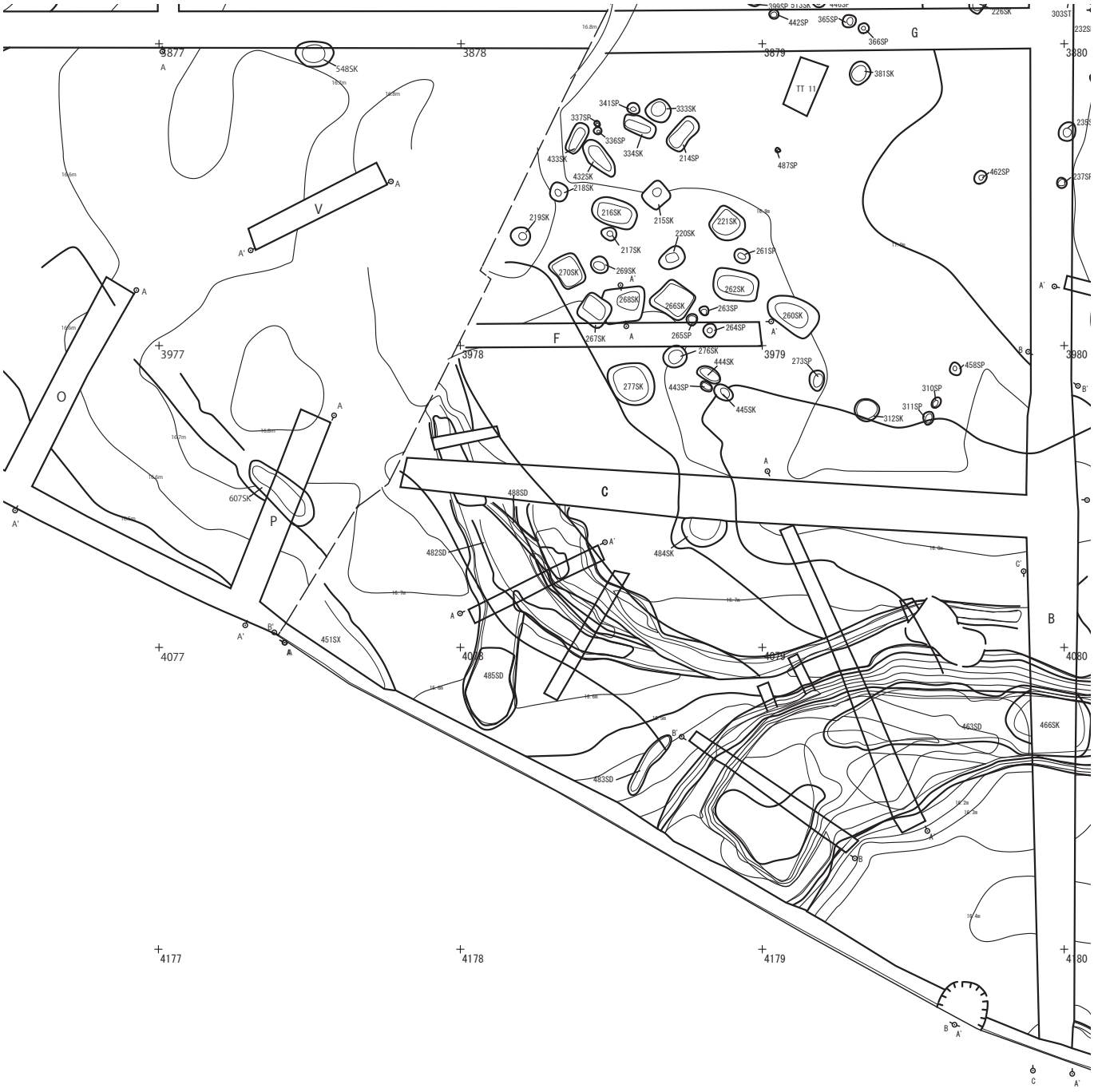
4173 4174 4175 4176

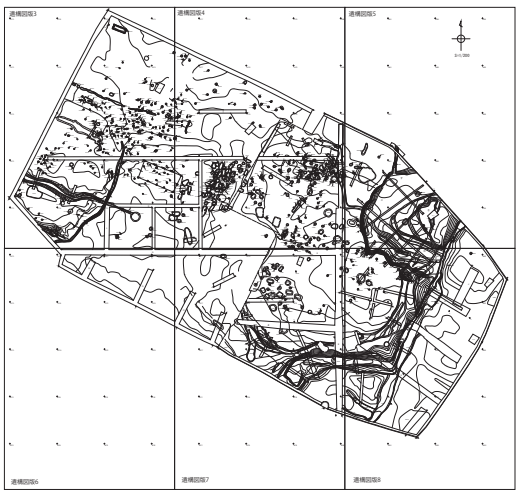


4275 4276

遺構図版７

（11A1面）

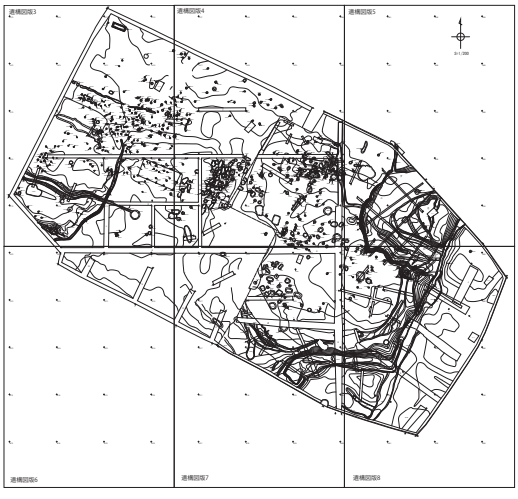

3877
3878
3879
3880
3977
3978
3979
3980
4077
4078
4079
4080
4177
4178
4179
4180
4278
4279
4280
548SK
381SK
341SP
333SK
337SP
336SP
334SK
214SP
433SK
432SK
2185K
487SP
462SP
219SK
216SK
215SK
221SK
220SK
217SK
261SP
270SK
269SK
262SK
268SK
266SK
263SP
260SK
267SK
265SP
264SP
276SK
444SK
273SP
458SP
277SK
443SP
445SK
310SP
311SP
312SK
607SK
488SD
482SD
484SK
451SX
485SD
463SD
466SK
483SD
V
F
C
O
P
G
B
TT 11



遺構図版８

（11A1面）

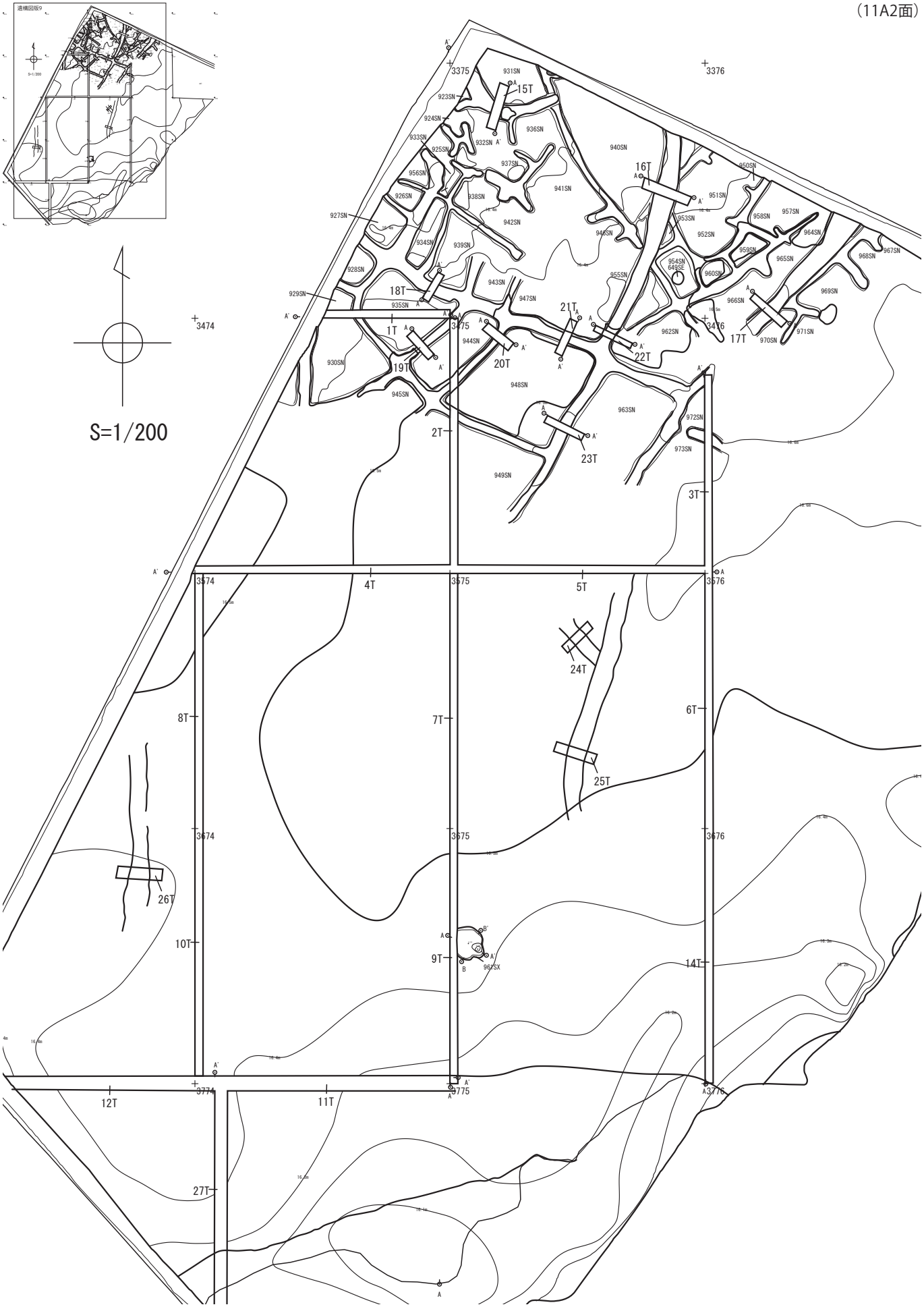
か
き
く
け
こ
せ
3882
3883
3981
3982
3983
4081
4082
4083
4181
4182
4183
4281
4282
J
K
D
E
TT 3
TT 4
396SE
309SE
297SK
302SP
301SK
249SK
298SK
300SP
481SP
114SK
371SK
515SX
524SP
453SX
352SD
234SP
233SP
119SP
118SP
236SK
117SP
084SK
474SP
305SP
306SP
239SP
241SK
475SP
496SK
521SP
520SK
461SD
463SD
464SP
476SP
307SP
522SP
308SP
309SP
253SK
460SD
480SD
463SD
478SD
478SD
479SD
465SD
001SX



遺構図版９

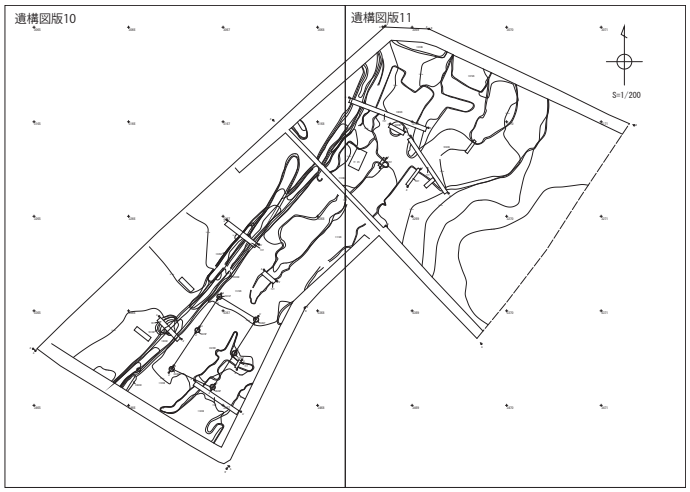
（11A2面）

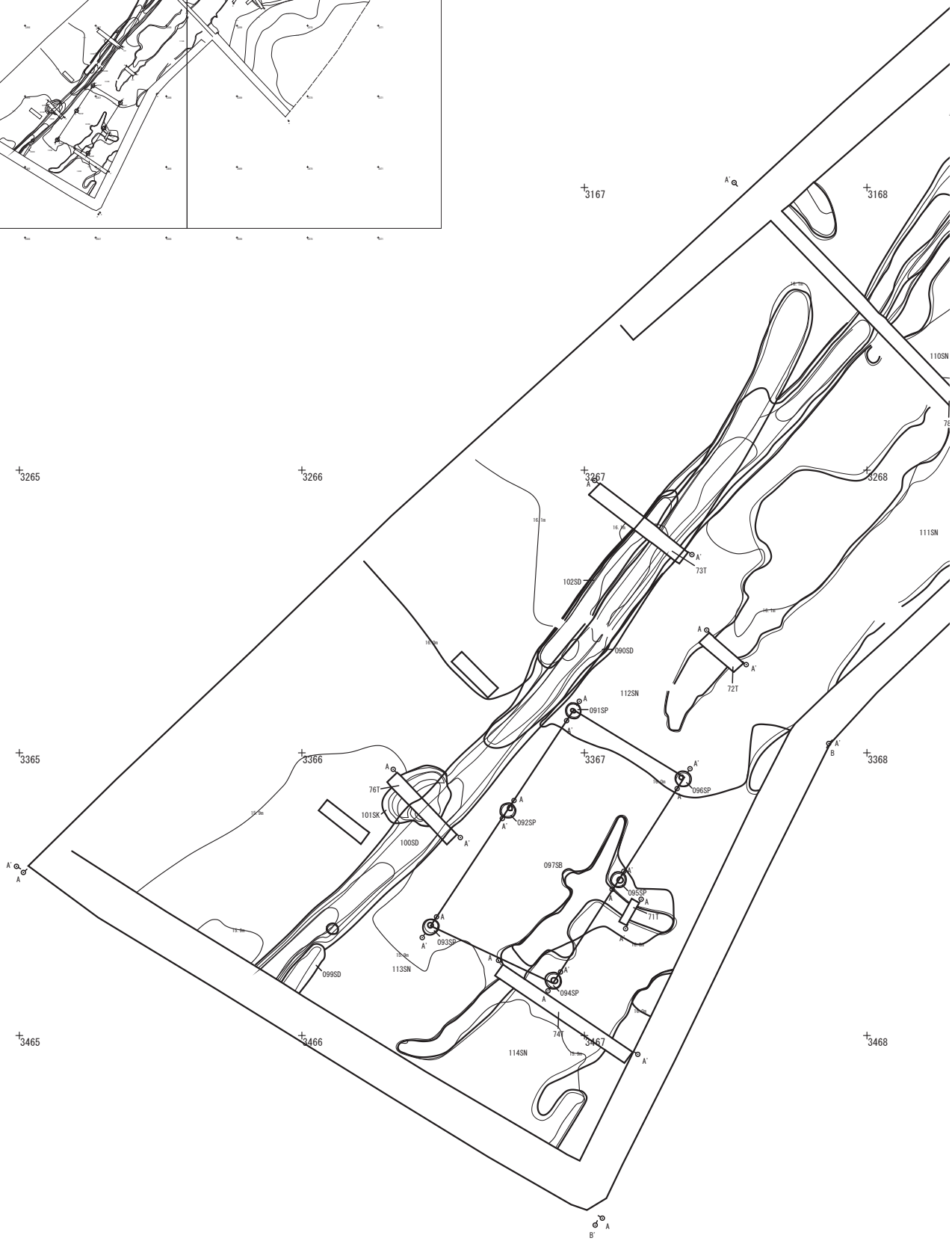
S=1/200



遺構図版10

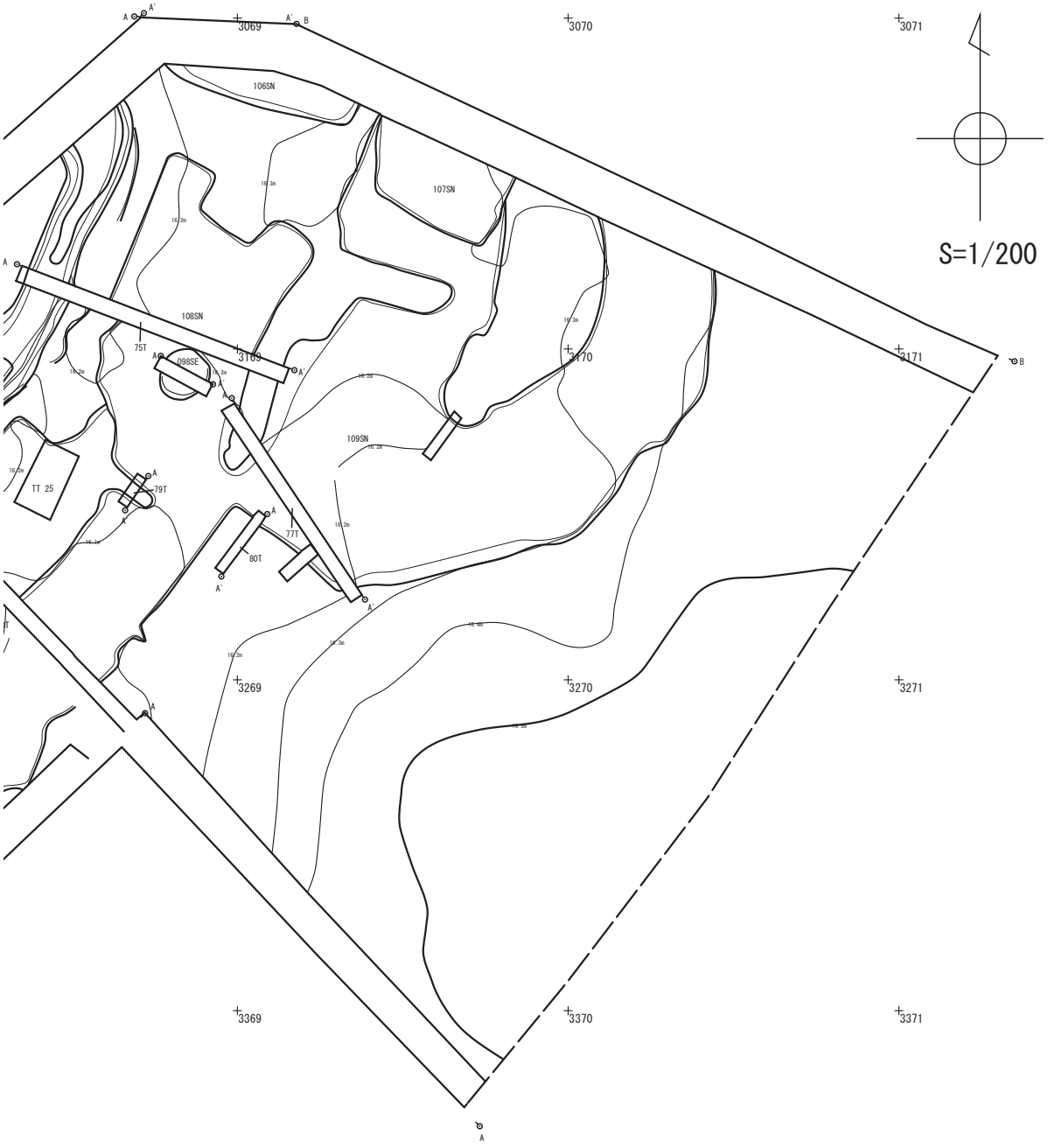
（11B1面）

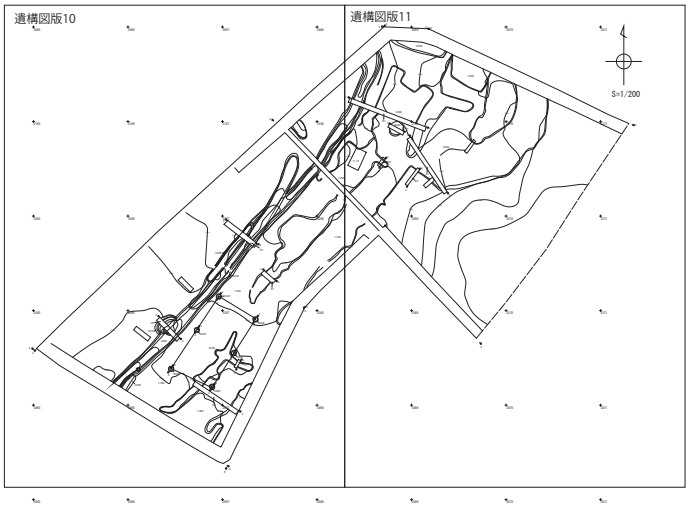




遺構図版11

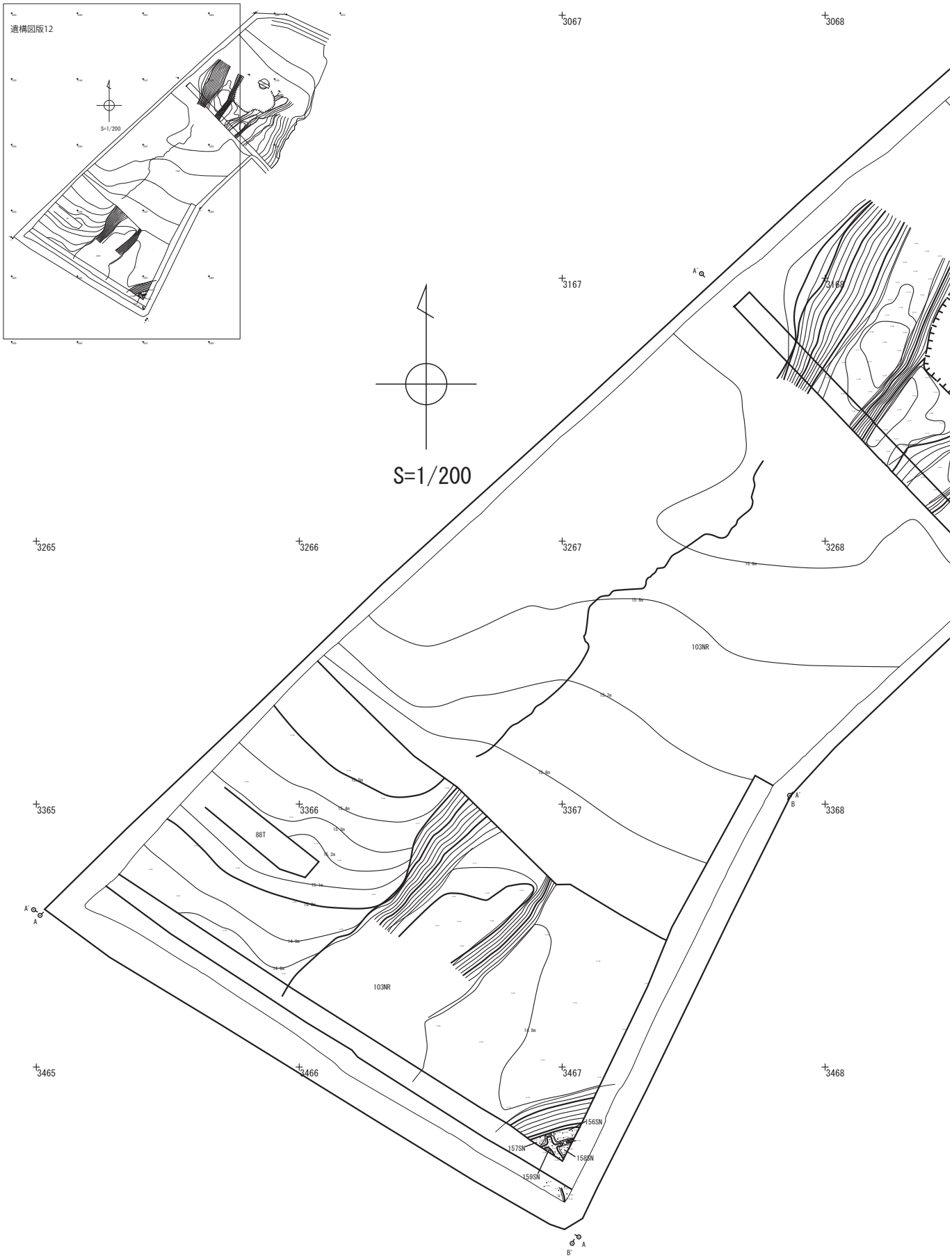
（11B1面）





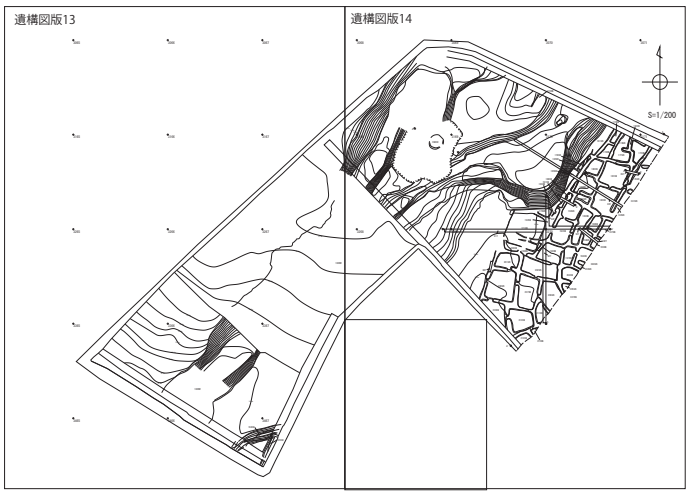
遺構図版12

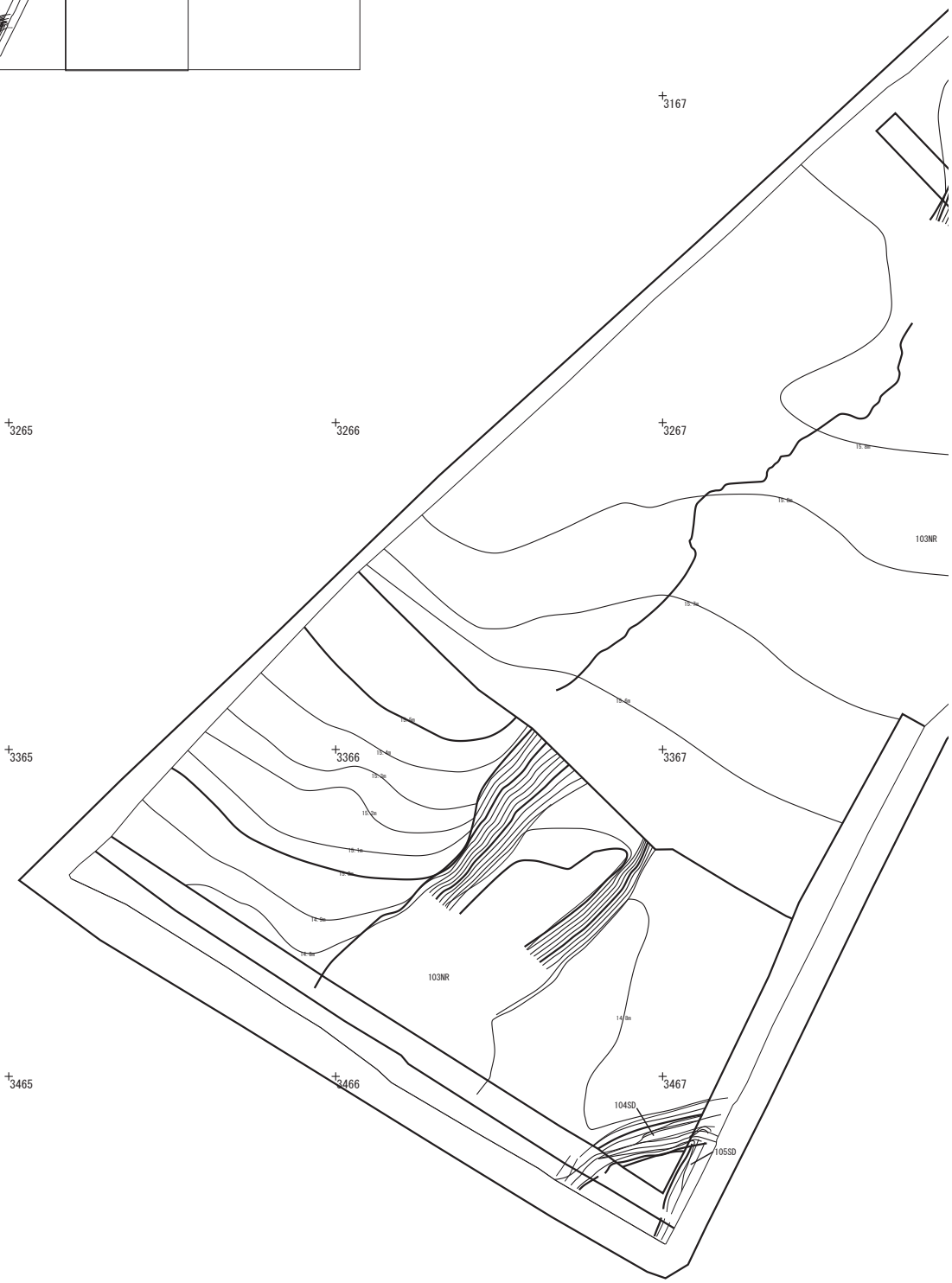
（11B2面）



遺構図版13

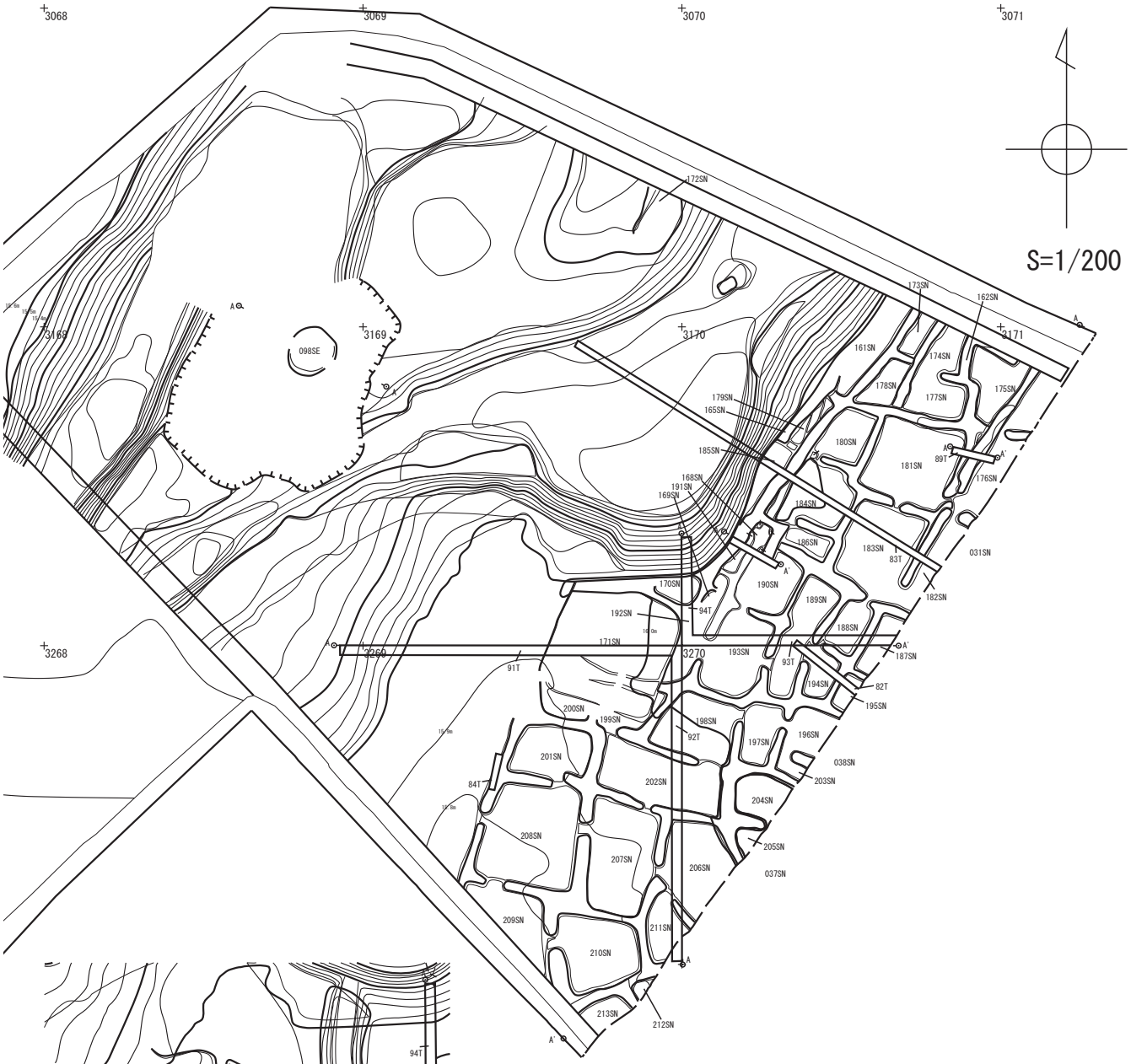
（11B3面）

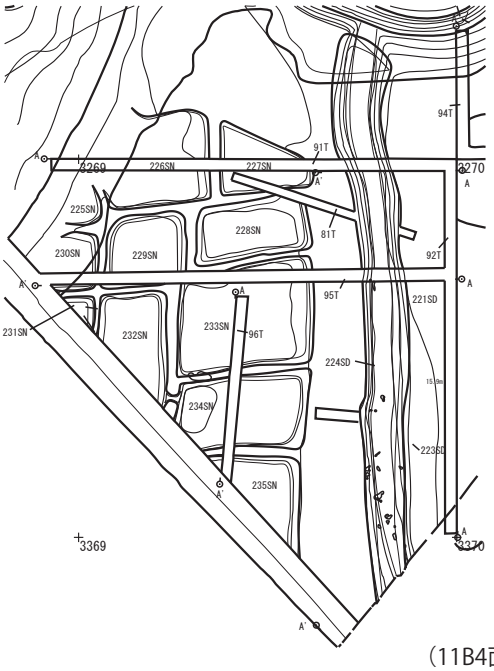


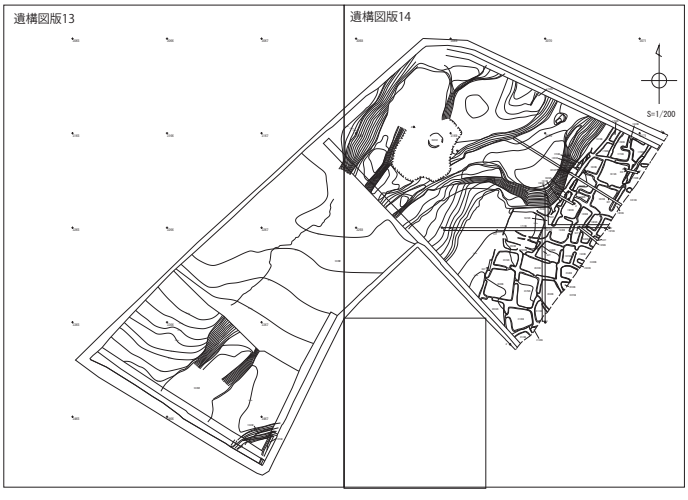


遺構図版14

（11B3面）



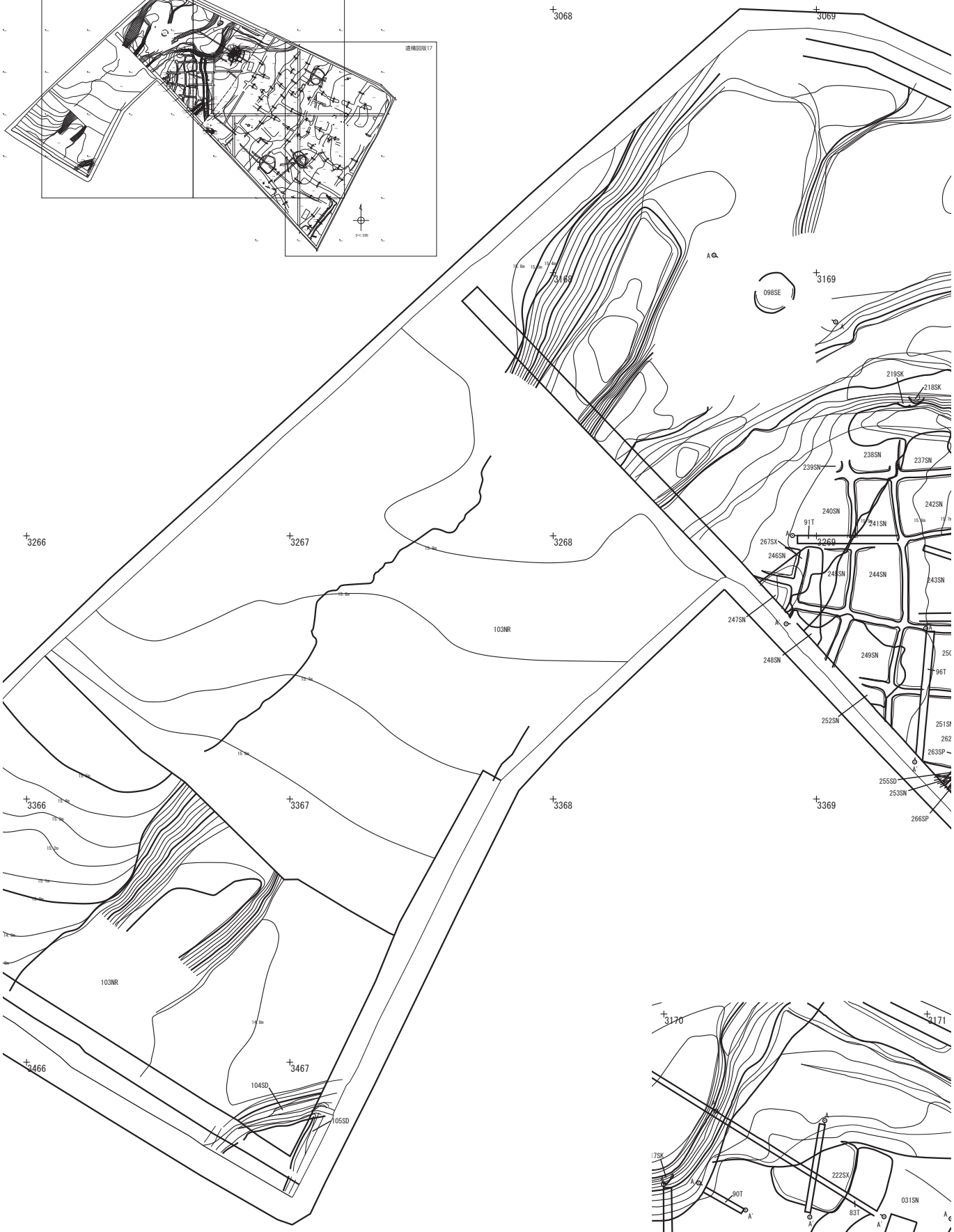


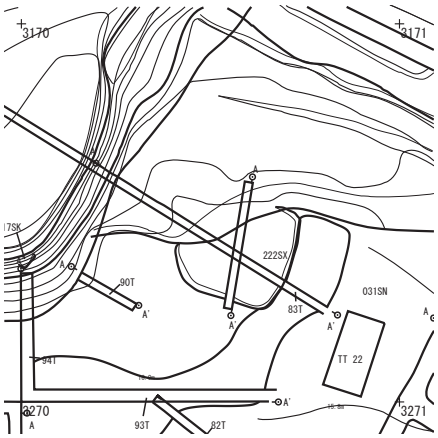


（11B4面）

遺構図版15

（11B6面）

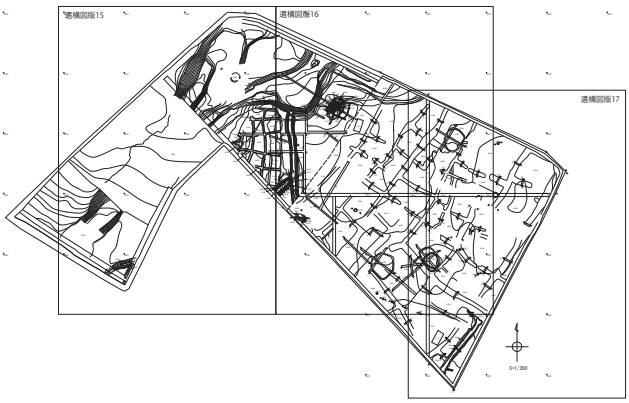




（11B5面）

遺構図版16

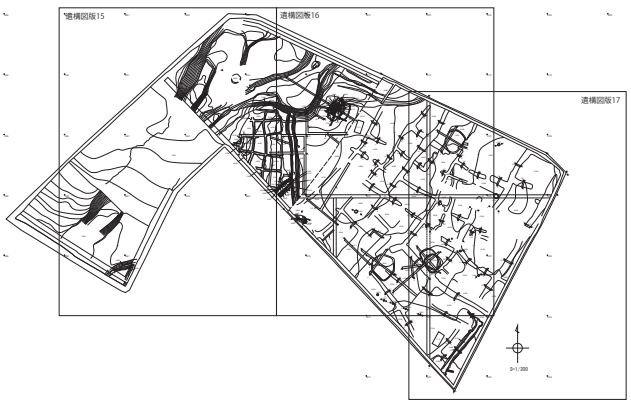
（11B6面）



遺構図版17

（11B6面）

S=1/200



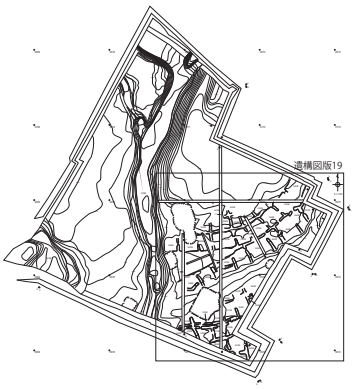
遺構図版18

（11C2面）

S=1/200

遺構図版19

（11C3面）

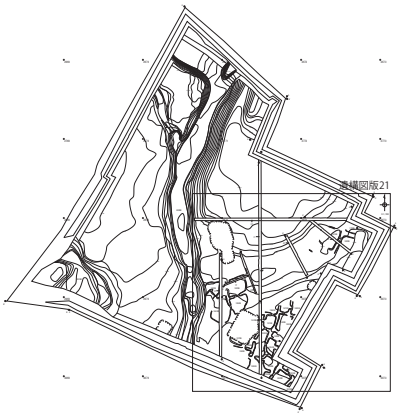


遺構図版20

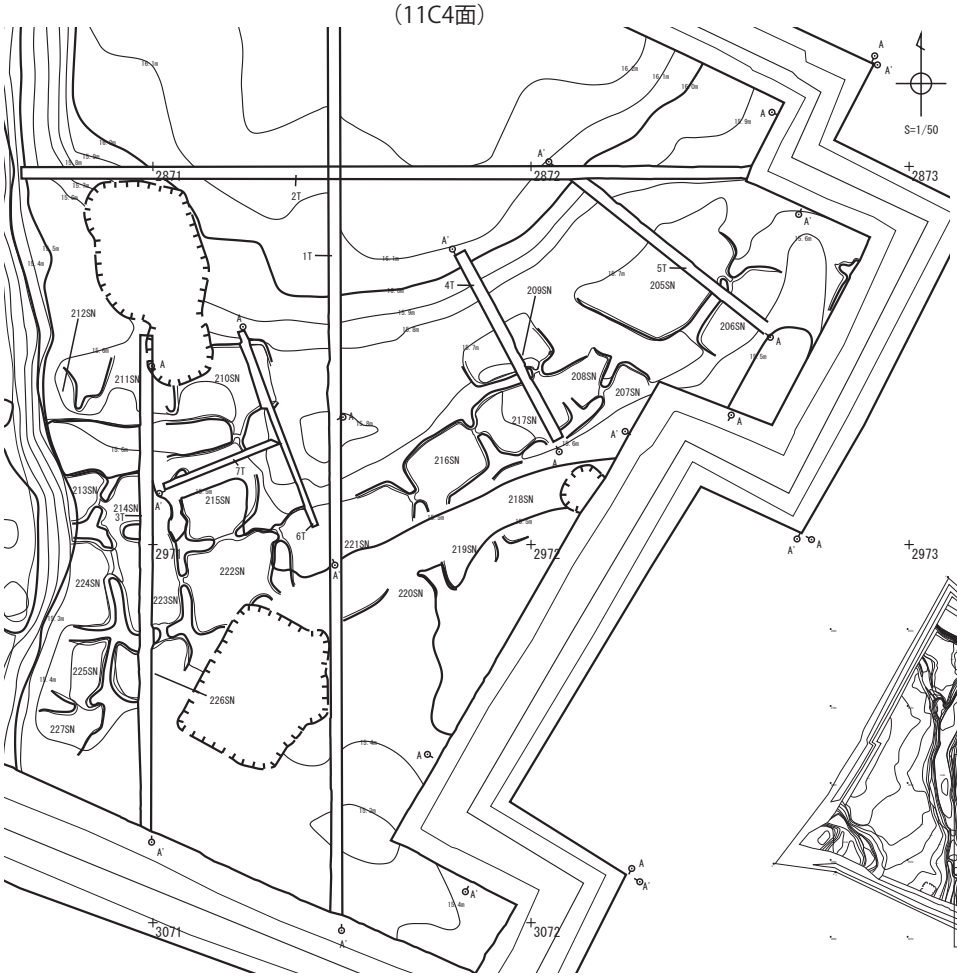
（11C4面）

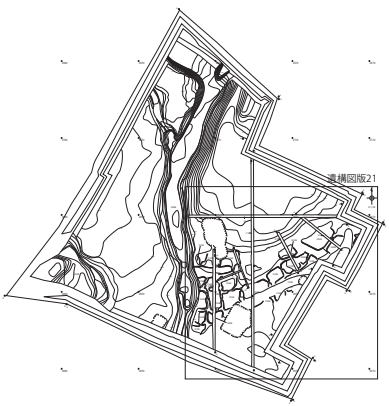
遺構図版21

（11C5面）



（11C4面）

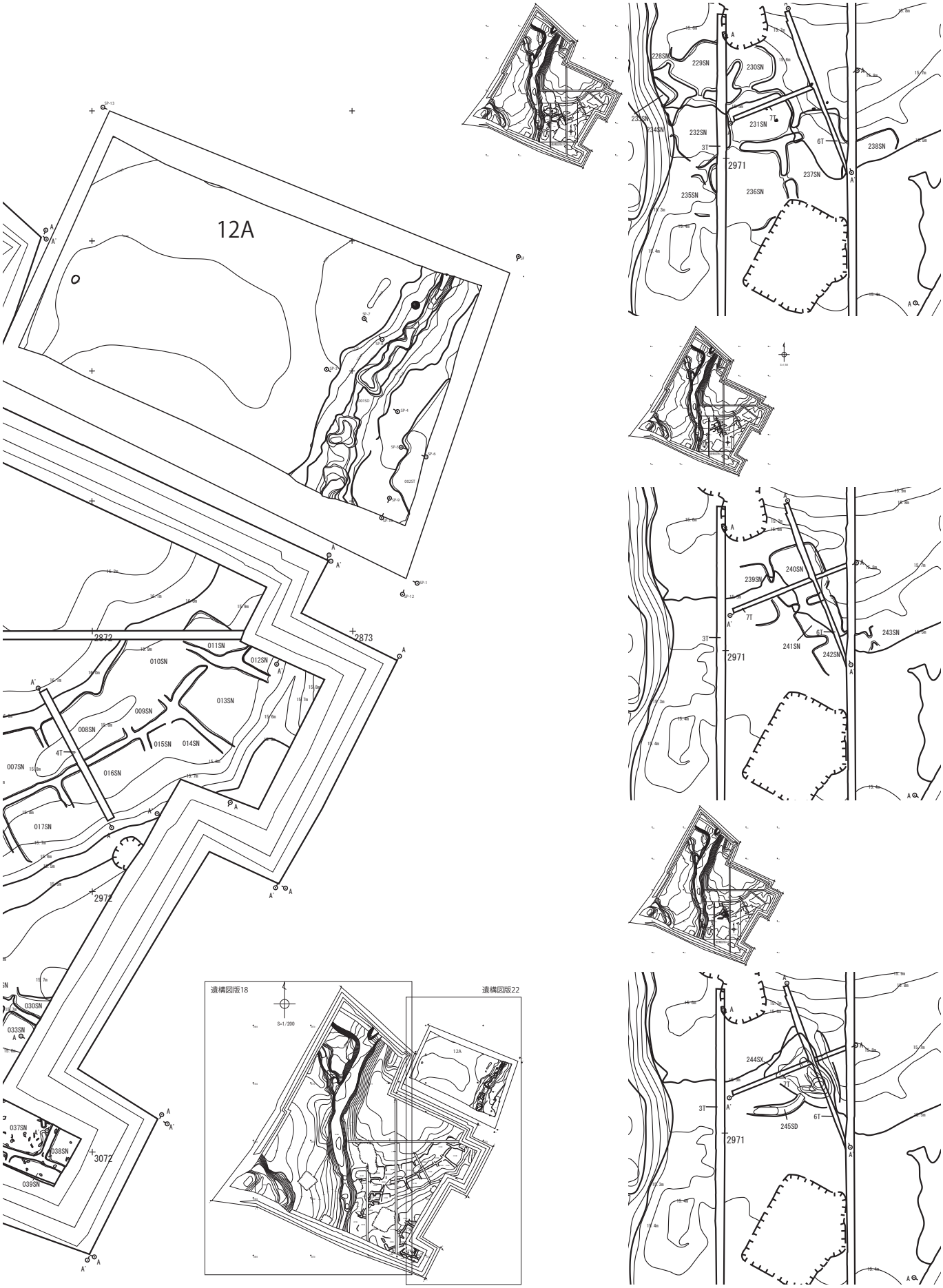




遺構図版22

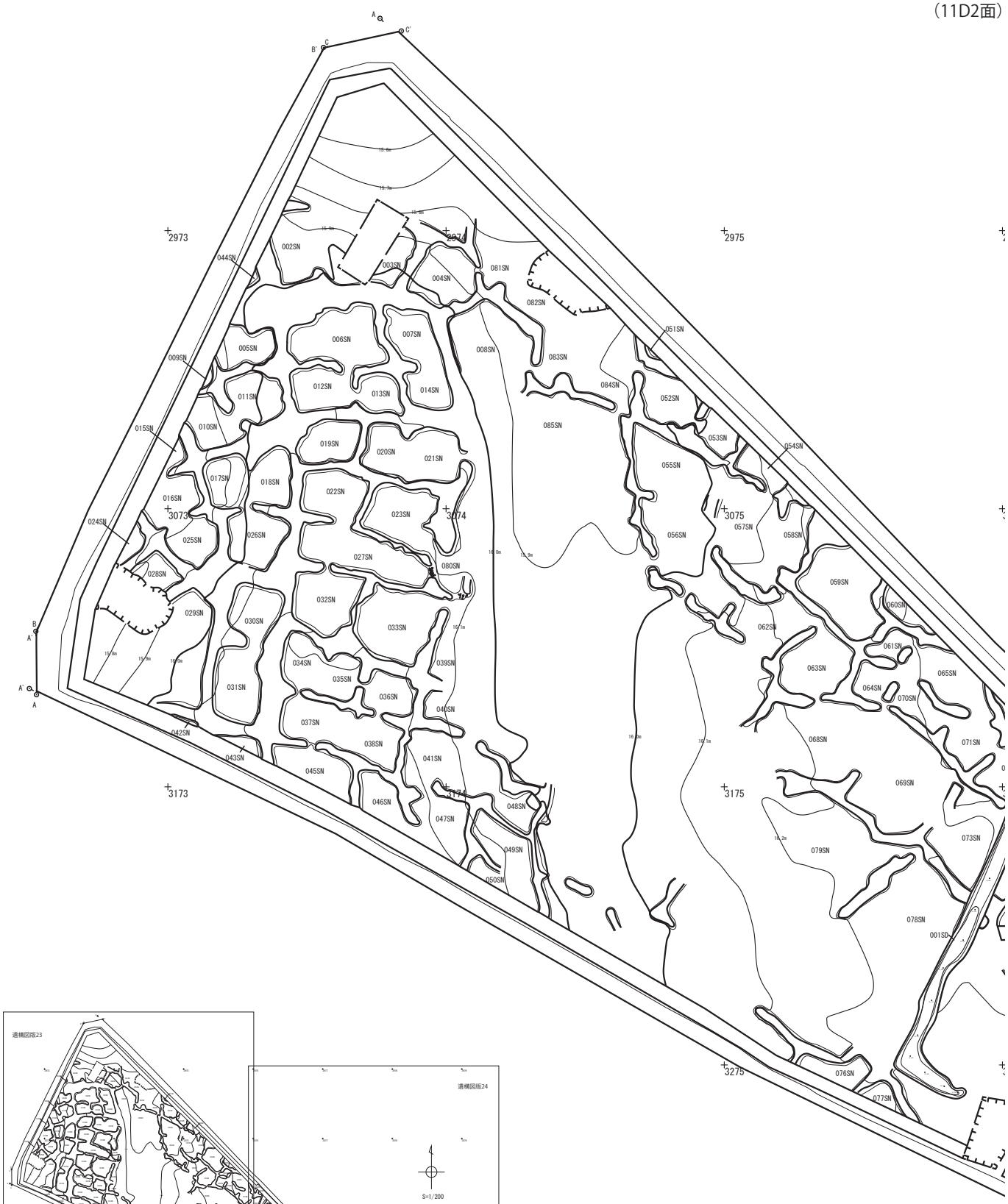
（11C2面・12A2面）

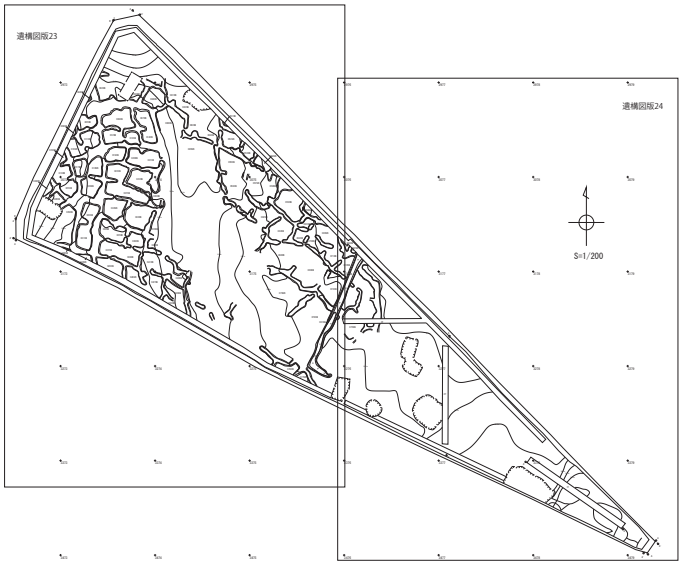
（11C6面）



遺構図版23

（11D2面）





遺構図版24

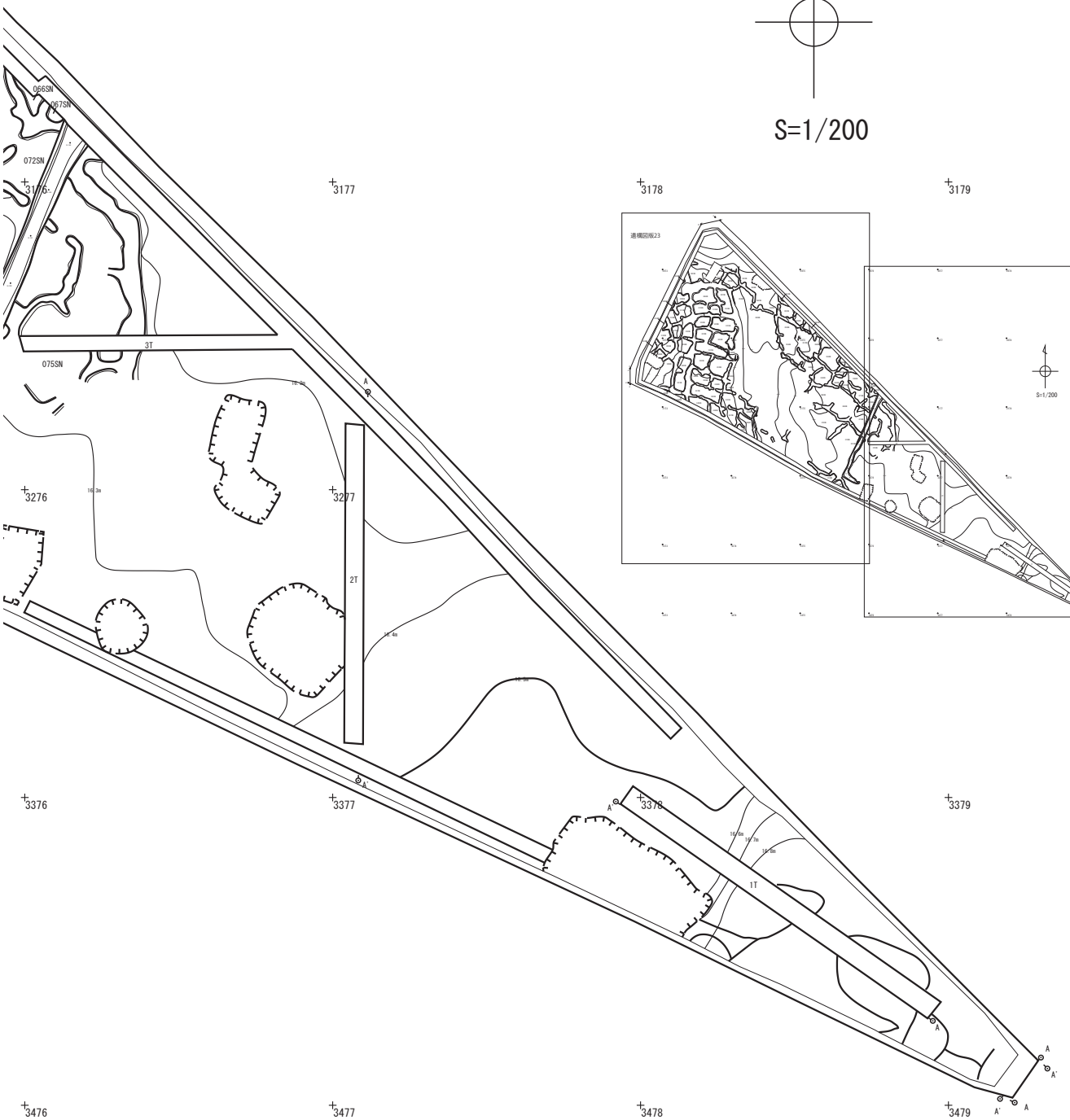
（11D2面）

2976 2977 2978 2979

3076 3077 3078 3079

S=1/200

3176 3177 3178 3179



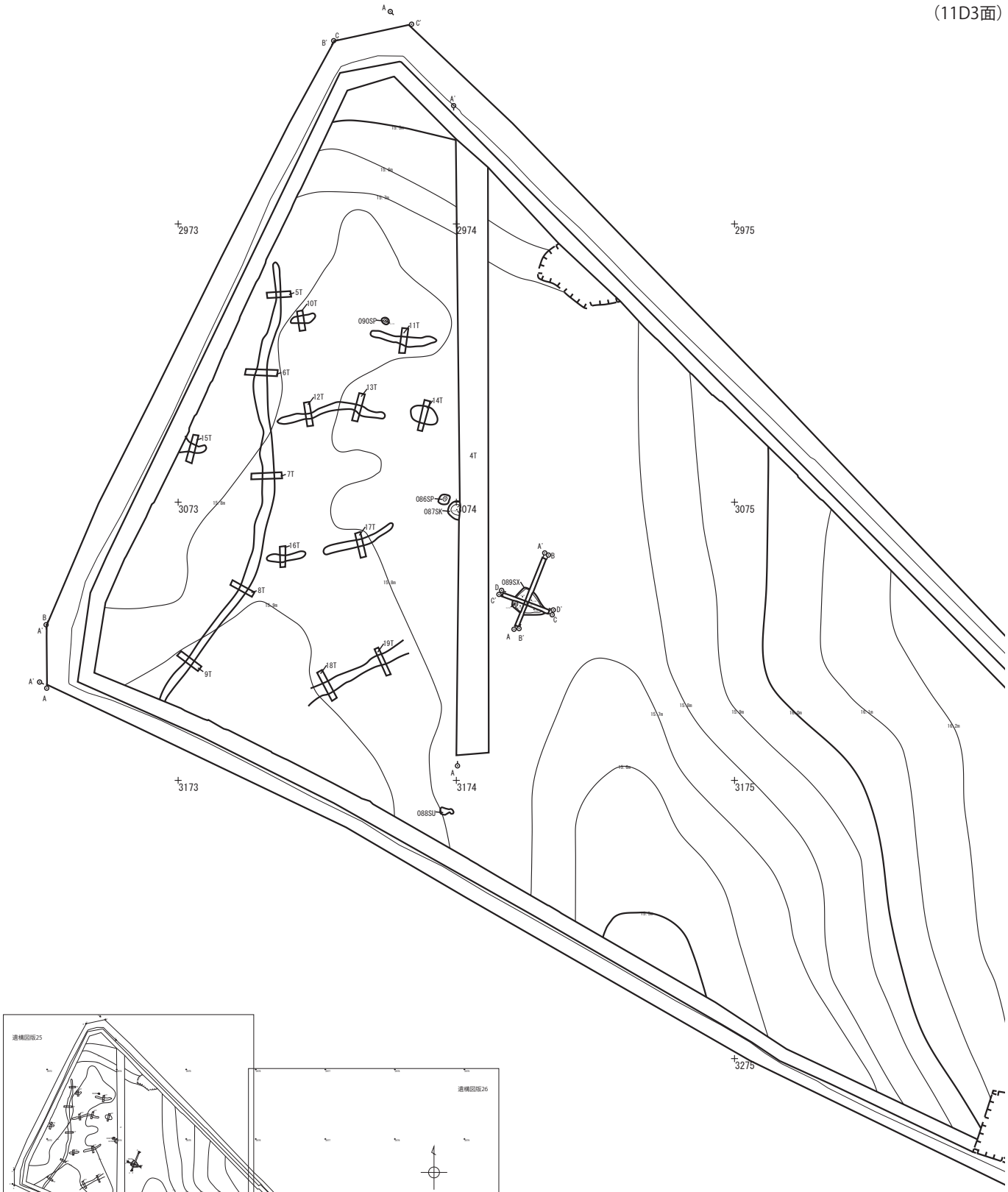
3276 3277

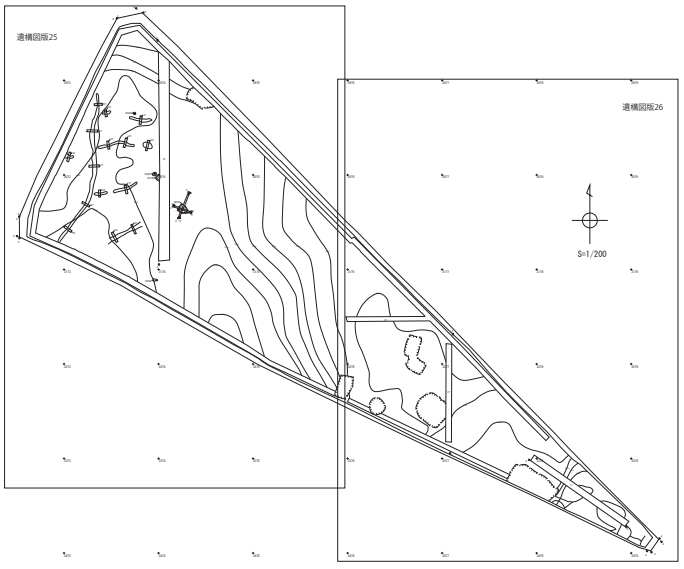
3376 3377 3378 3379

3476 3477 3478 3479

遺構図版25

（11D3面）





遺構図版26

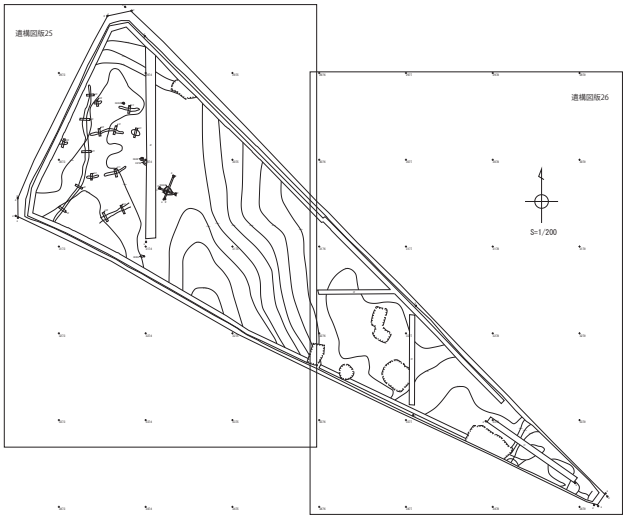
（11D3面）

2976 2977 2978 2979

3076 3077 3078 3079

S=1/200

3176 3177



3T

2T

1T

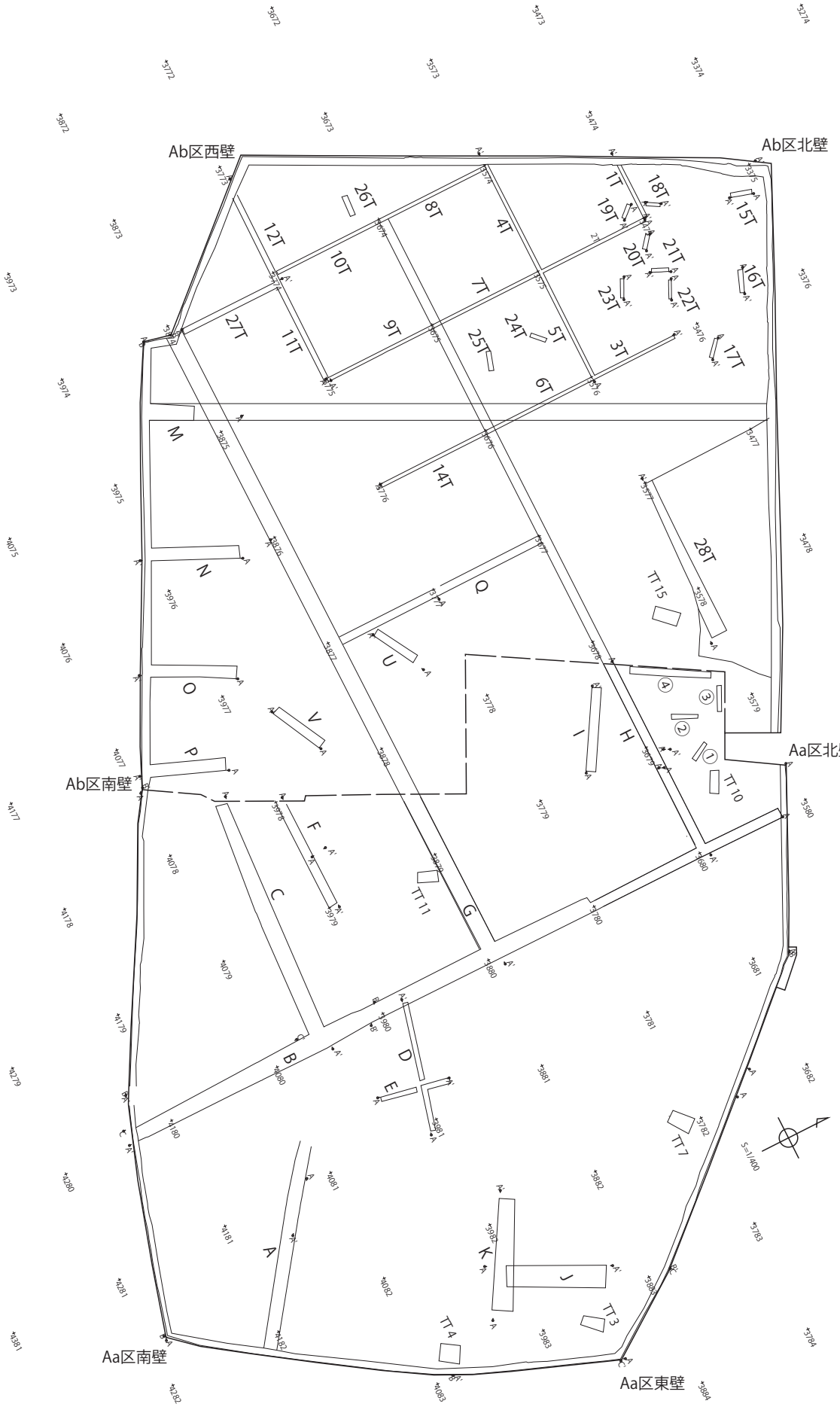
A

A'

3276 3277

3376 3377 3378 3379

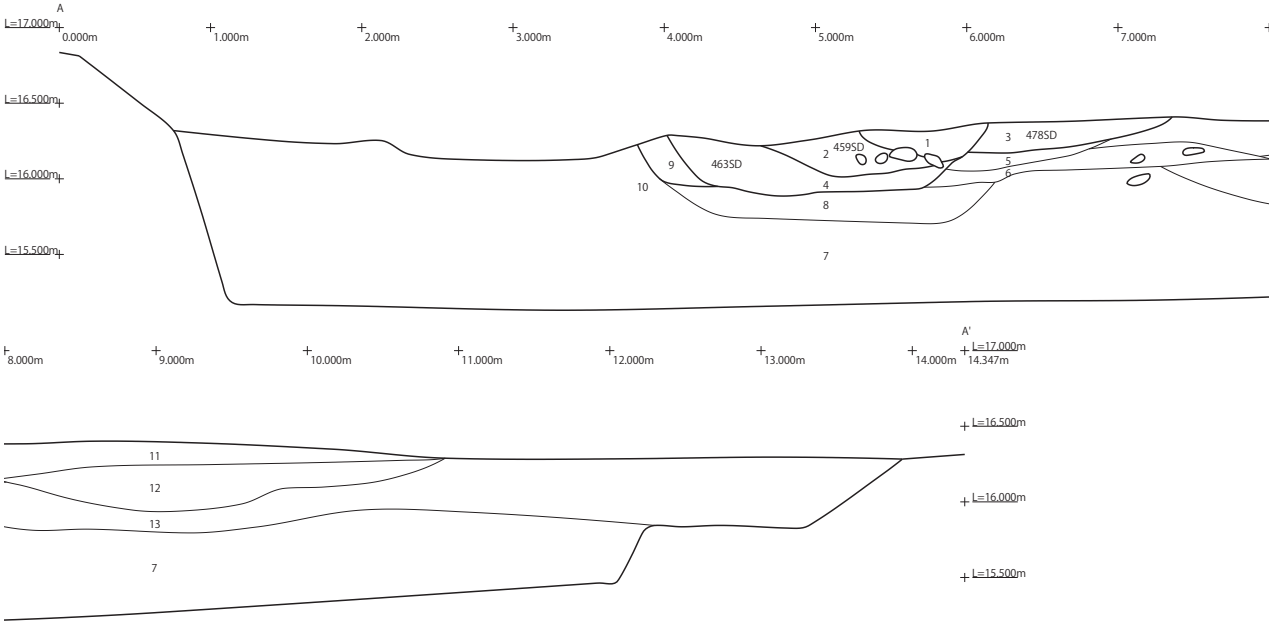
3476 3477 3478 3479



11Aトレンチ配置図およびセクション位置図

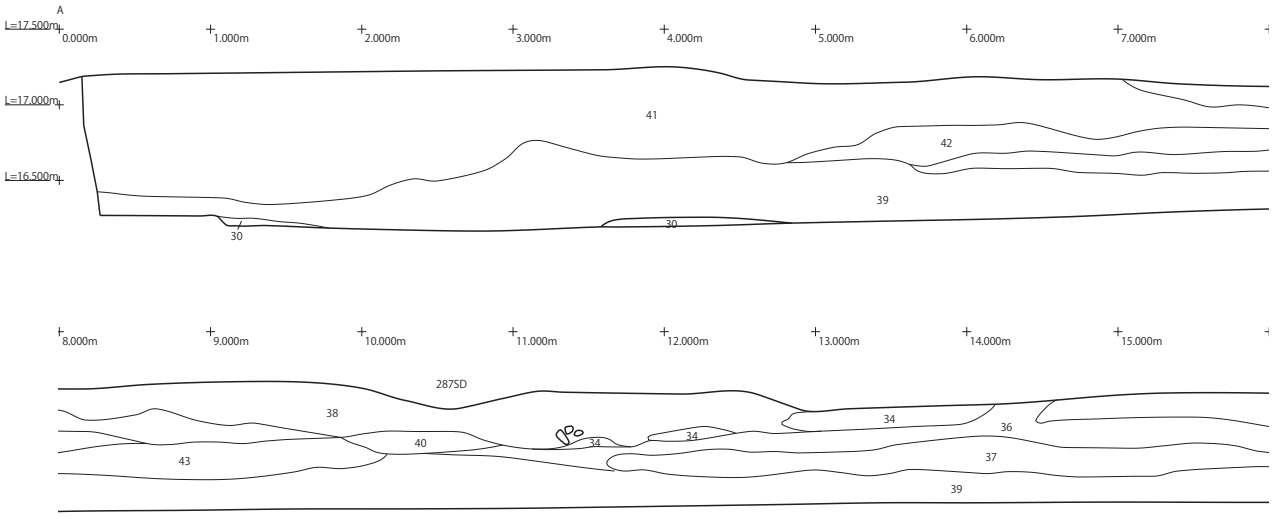
遺構図版28

Aトレンチ



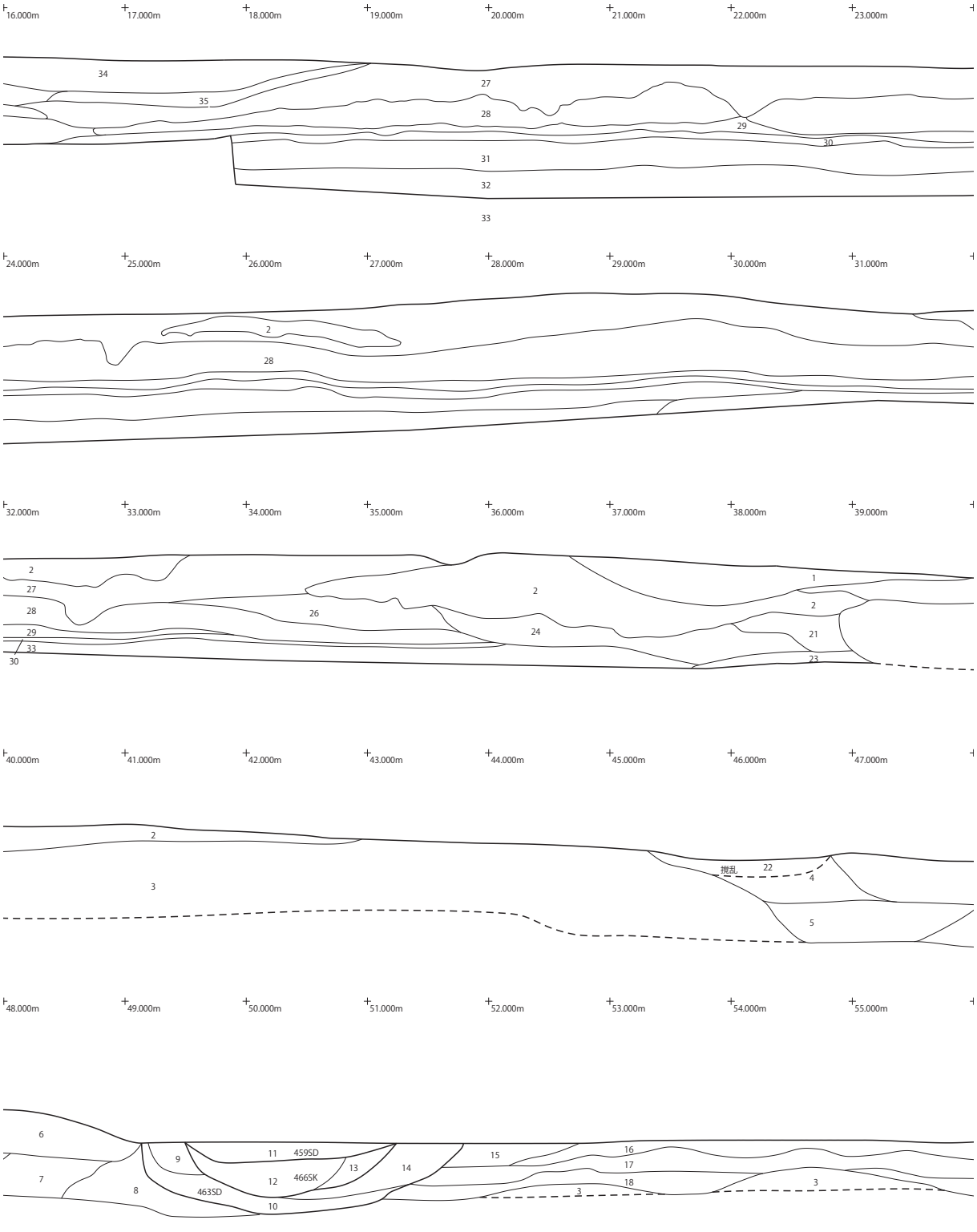
1. 10YR7/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂混じる
2. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト＋礫 極粗粒砂 細礫 大礫混じる(459SD)
3. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる(478SD)
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂混じる(463SD)
5. 10YR6/3 にぶい黄橙色砂＋礫　極粗粒砂 細礫主体 大礫混じる
6. 10YR6/6 明黄褐色シルト　極粗粒砂混じる
7. 10YR4/2 灰黄褐色大礫
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト＋礫 細礫主体
9. 10YR5/6 黄褐色シルト＋礫　細礫 中礫混じる
10. 10YR4/2 灰黄褐色大礫
11. 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる
12. 10YR5/2 灰黄褐色粗粒砂　上位に細～中礫混じるJ・Kトレンチと同一層で454SXの下位層
13. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂　下位に中～大礫混じる

Bトレンチ東



11Aトレンチセクション図　S＝1：50（1）

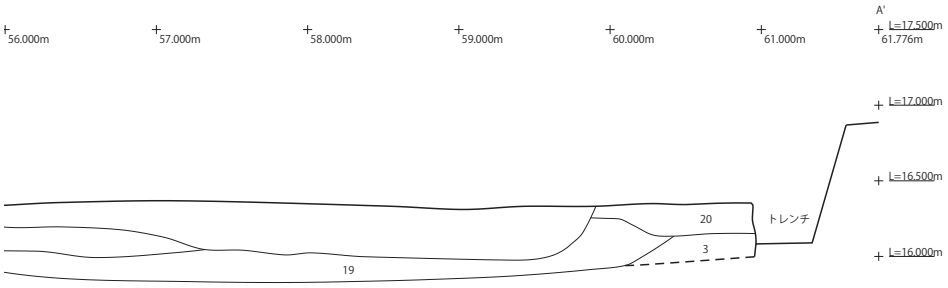
Bトレンチ東



11Aトレンチセクション図　S＝1：50（2）

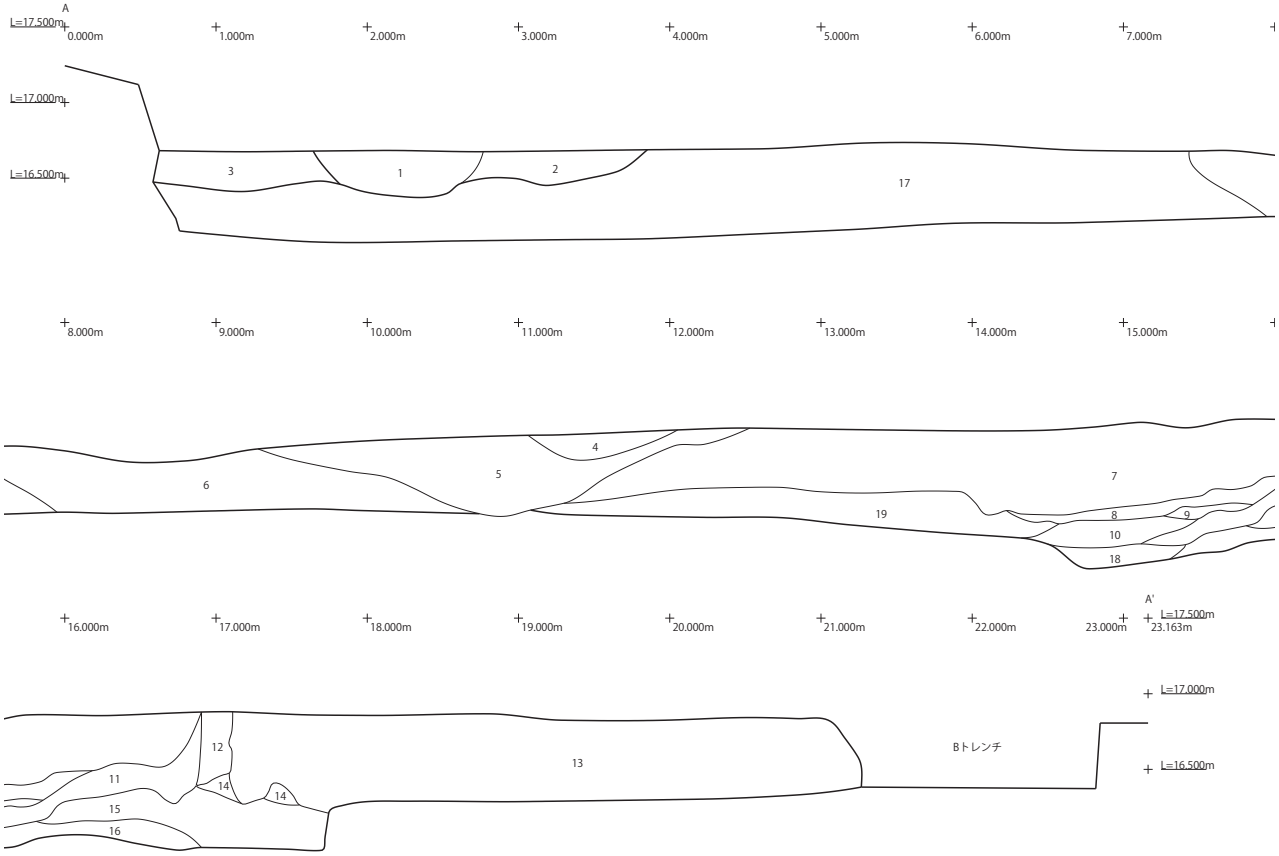
遺構図版30

Bトレンチ東



1. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色中礫
3. 10YR4/1 褐灰色大礫　中礫混じる 古墳前期遺物あり
4. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂　細～中礫混じる 10YR5/6 黄褐色粗粒砂ブロック混じる
5. 10YR4/2 灰黄褐色細礫　中～大礫混じる
6. 10YR4/2 灰黄褐色中～大礫　細礫混じる
7. 10YR4/2 灰黄褐色中～大礫
8. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中～大礫混じる
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色大礫　シルト混じる (463SD)
10. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　大礫混じる 最下位に遺物あり (463SD)
11. 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂　中～大礫混じる (459SD)
12. 10YR4/2 灰黄褐色細礫　中～大礫混じる (466SK)
13. 10YR4/2 灰黄褐色中～大礫　(466SK)
14. 10YR4/2 灰黄褐色中～大礫　細礫～細粒砂混じる (463SD)
15. 10YR4/2 灰黄褐色細～中礫
16. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂　10YR5/6 黄褐色粗粒砂ブロック混じる
17. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂
18. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂　大礫混じる
19. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　下位遺物(土師鍋)あり
20. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂　10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂
21. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂　細～中礫混じる
22. 宅地造成時の客土(撹乱)
23. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂　細礫混じる
24. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂
25. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる
26. 10YR4/2 灰黄褐色極粗粒砂　細～中礫混じる
27. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる
28. 10YR5/2 灰黄褐色中礫　シルト混じる
29. 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土～シルト Dトレンチ9層と同一層
30. 10YR6/6 明黄褐色細礫　粘土混じる 下位に10YR2/1 黒色細礫層がある Dトレンチ10層と同一層
31. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂
32. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂
33. 10YR4/2 灰黄褐色細礫　粗粒砂混じる 上位に中礫が多い
34. 10YR5/2 灰黄褐色中礫　粗粒砂混じる
35. 10YR5/2 灰黄褐色中礫
36. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
37. 10YR5/2 灰黄褐色細～中礫
38. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　中礫混じる
39. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
40. 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂　細礫混じる
41. 10YR4/2 灰黄褐色中～大礫　粗粒砂混じる
42. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂　細礫混じる
43. 10YR5/2 灰黄褐色細～中礫

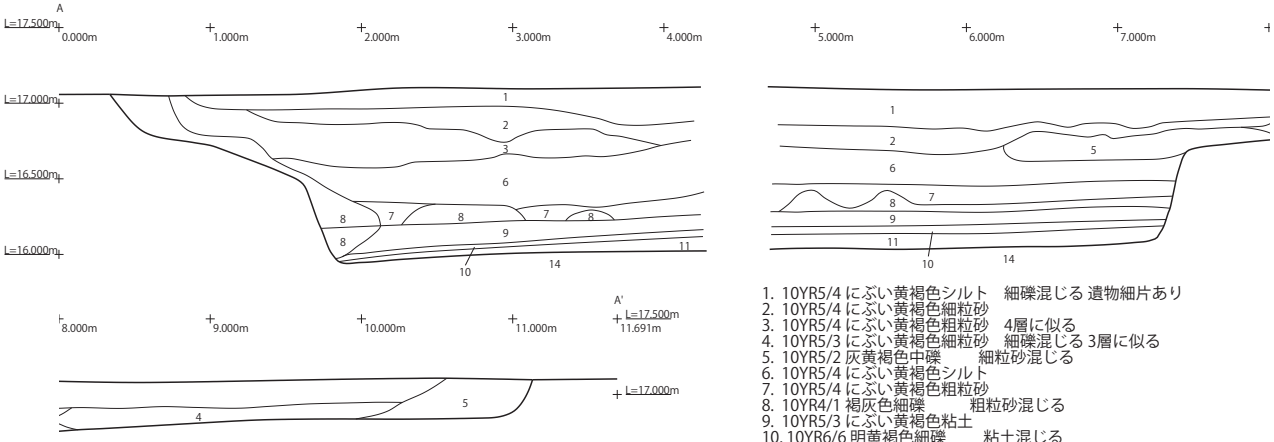
Cトレンチ



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　焼土 粗粒砂 中粒砂混じる 中世前半 古代の遺物を含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　中礫 粗粒砂混じる
3. 10YR3/2 黒褐色シルト　中礫 細礫多く混じる
4. 10YR4/2 灰黄褐色中礫＋シルト　細礫 極粗粒砂混じる
5. 10YR3/2 黒褐色極粗粒砂＋シルト　中礫 細礫混じる
6. 10YR4/4 褐色中礫　粗粒砂混じる 古代? 遺物出土
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色中礫＋シルト 細礫 粗粒砂混じる
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂混じる
9. 10YR4/4 褐色シルト　粗粒砂混じる
10. 10YR4/3 黒褐色細礫＋シルト　極粗粒砂混じる
11. 10YR4/2 灰黄褐色細礫＋シルト　極粗粒砂混じる
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 中礫混じる
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色大礫＋シルト 古墳時代の遺物を含む(Bトレンチ3層)
14. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる
15. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂混じる
16. 10YR4/2 灰黄褐色大礫＋シルト　礫内に古墳時代遺物含む
17. 10YR5/2 灰黄褐色大礫＋シルト　中礫混じる
18. 10YR3/3 暗褐色シルト　粗粒砂混じる
19. 10YR4/1 褐灰色シルト　極粗粒砂混じる

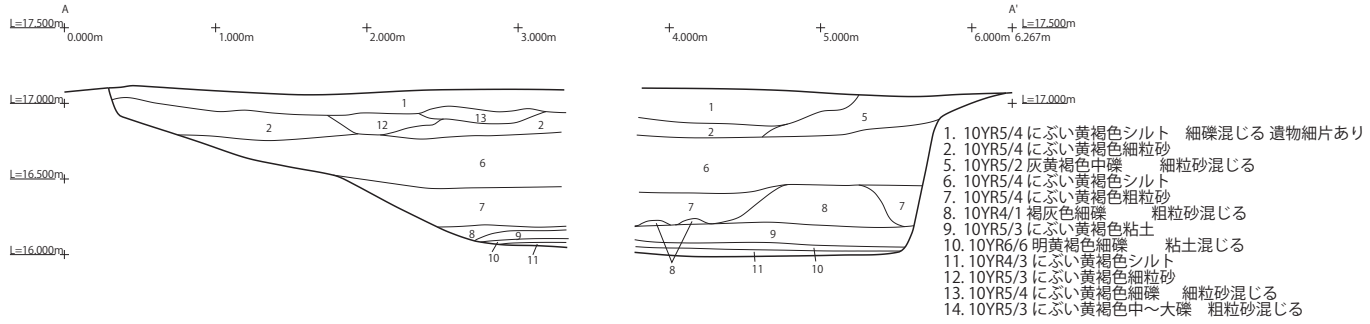
11Aトレンチセクション図　S＝1：50（3）

Dトレンチ



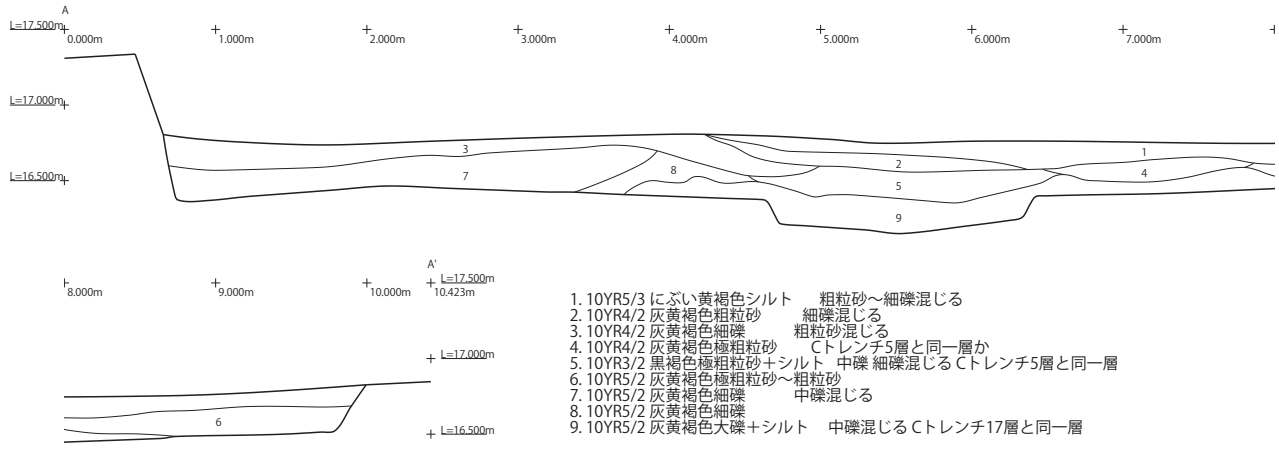
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる 遺物細片あり
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色粗粒砂　4層に似る
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂　細礫混じる 3層に似る
5. 10YR5/2 灰黄褐色中礫　細粒砂混じる
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色粗粒砂
8. 10YR4/1 褐灰色細礫　粗粒砂混じる
9. 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土
10. 10YR6/6 明黄褐色細礫　粘土混じる
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
14. 10YR5/3 にぶい黄褐色中～大礫　粗粒砂混じる

Eトレンチ



1. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる 遺物細片あり
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂
5. 10YR5/2 灰黄褐色中礫　細粒砂混じる
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色粗粒砂
8. 10YR4/1 褐灰色細礫　粗粒砂混じる
9. 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土
10. 10YR6/6 明黄褐色細礫　粘土混じる
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
12. 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色細礫　細粒砂混じる
14. 10YR5/3 にぶい黄褐色中～大礫　粗粒砂混じる

Fトレンチ

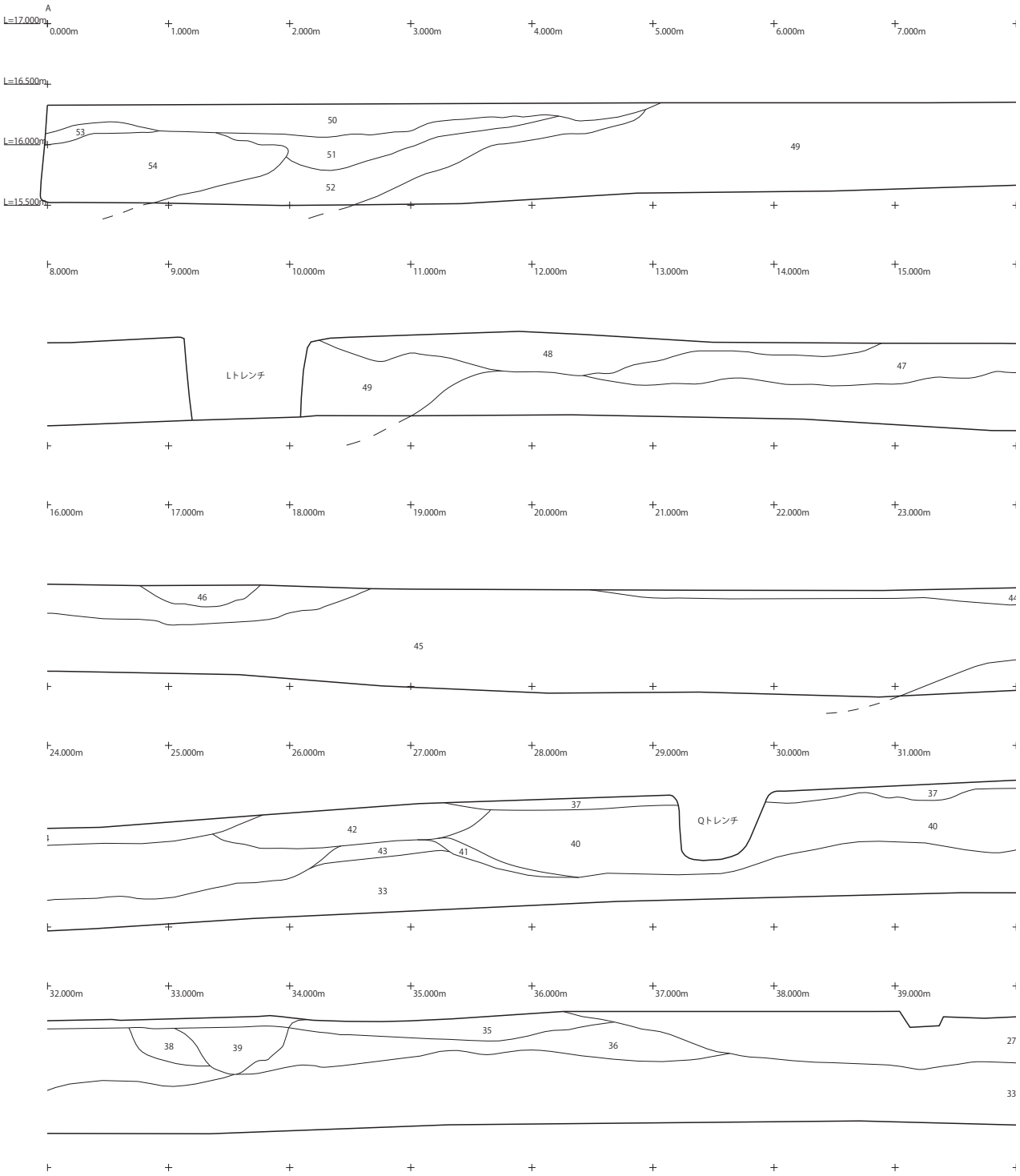


1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂～細礫混じる
2. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂　細礫混じる
3. 10YR4/2 灰黄褐色細礫　粗粒砂混じる
4. 10YR4/2 灰黄褐色極粗粒砂　Cトレンチ5層と同一層か
5. 10YR3/2 黒褐色極粗粒砂＋シルト　中礫 細礫混じる Cトレンチ5層と同一層
6. 10YR5/2 灰黄褐色極粗粒砂～粗粒砂
7. 10YR5/2 灰黄褐色細礫　中礫混じる
8. 10YR5/2 灰黄褐色細礫
9. 10YR5/2 灰黄褐色大礫＋シルト　中礫混じる Cトレンチ17層と同一層

11Aトレンチセクション図　S＝1：50（4）

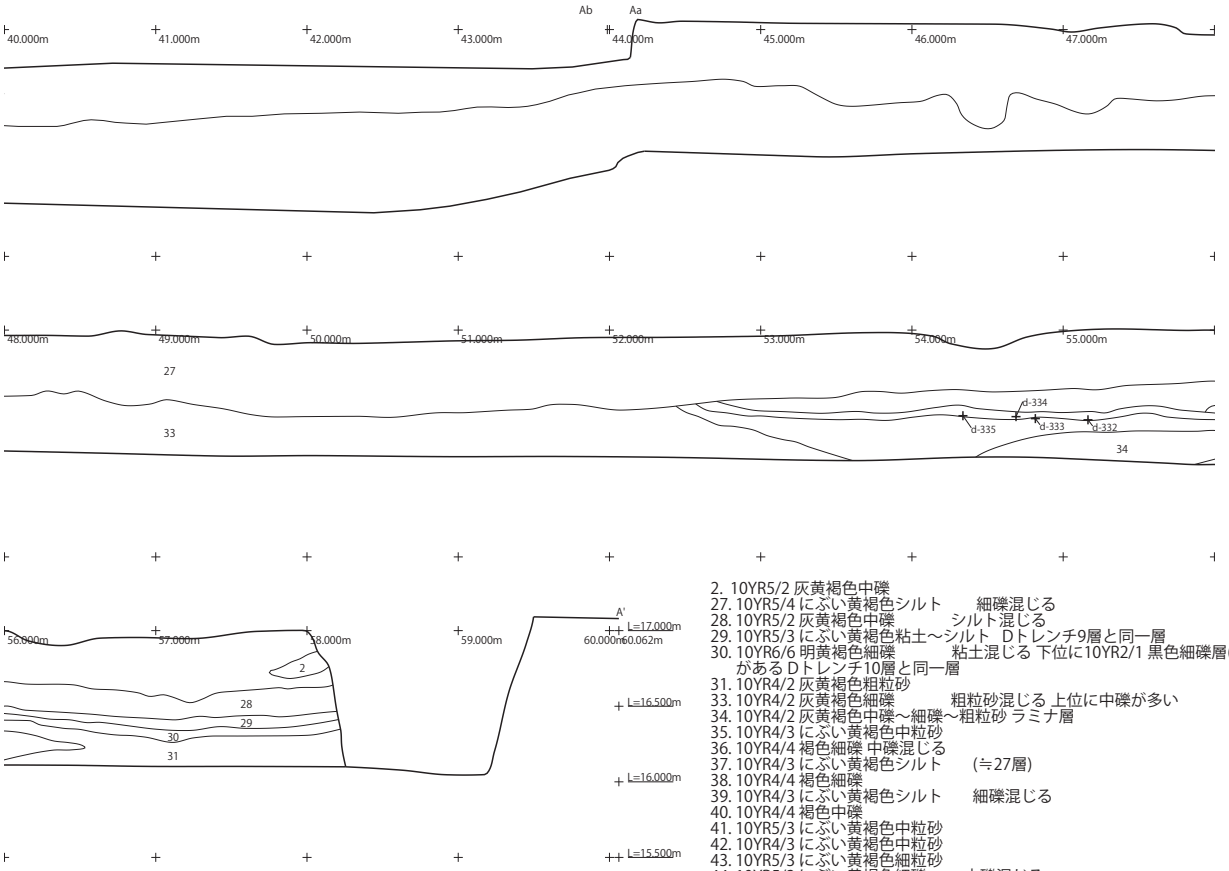
遺構図版32

Gトレンチ



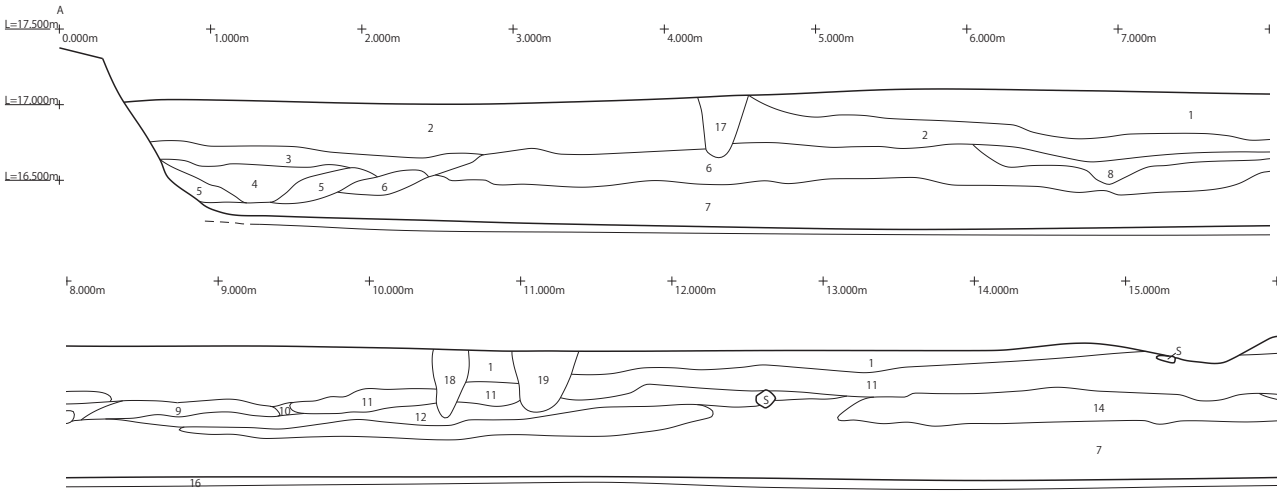
11Aトレンチセクション図　S＝1：50（5）

Gトレンチ



2. 10YR5/2 灰黄褐色中礫
27. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　　細礫混じる
28. 10YR5/2 灰黄褐色中礫　　シルト混じる
29. 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土～シルト　Dトレンチ9層と同一層
30. 10YR6/6 明黄褐色細礫　　粘土混じる 下位に10YR2/1 黒色細礫層(部分的に遺物含む)があるDトレンチ10層と同一層
31. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂
33. 10YR4/2 灰黄褐色細礫　　粗粒砂混じる 上位に中礫が多い
34. 10YR4/2 灰黄褐色中礫～細礫～粗粒砂 ラミナ層
35. 10YR4/3 にぶい黄褐色中粒砂
36. 10YR4/4 褐色細礫 中礫混じる
37. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　　(≒27層)
38. 10YR4/4 褐色細礫
39. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　　細礫混じる
40. 10YR4/4 褐色中礫
41. 10YR5/3 にぶい黄褐色中粒砂
42. 10YR4/3 にぶい黄褐色中粒砂
43. 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂
44. 10YR5/3 にぶい黄褐色細礫　　中礫混じる
45. 10YR4/4 褐色中礫　　粗粒砂～中粒砂混じる
46. 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂　　中礫混じる
47. 10YR4/4 褐色粗粒砂　　細礫～中礫混じる 10YR6/8 明黄褐色粗粒砂～細礫混じる
48. 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂　　中礫混じる
49. 10YR4/4 褐色中礫　　粗粒砂～中粒砂混じる
50. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　中礫混じる
51. 10YR4/4 褐色中粒砂
52. 10YR4/4 褐色粗粒砂
53. 10YR3/4 暗褐色細粒砂
54. 10YR4/2 灰黄褐色細～中礫

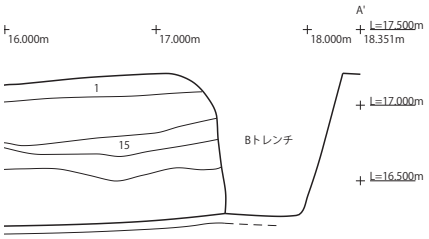
Hトレンチ



11Aトレンチセクション図　S＝1：50（6）

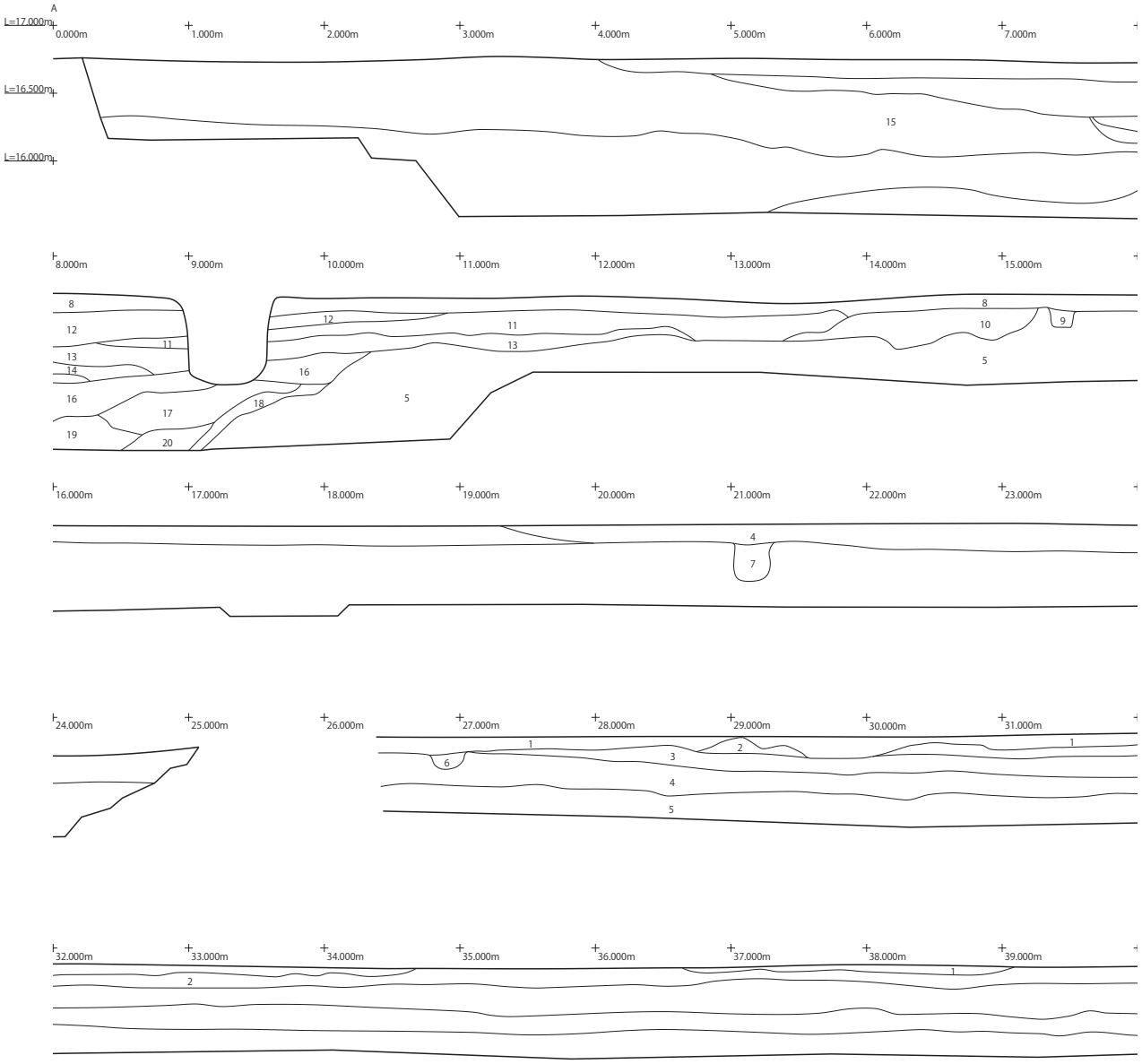
遺構図版34

Hトレンチ



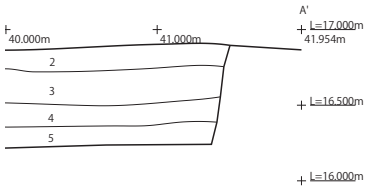
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　中礫混じる Bトレンチ38層と同一層
2. 10YR4/2 灰黄褐色中～大礫　細礫～粗粒砂混じる
3. 10YR4/2 灰黄褐色細礫　中礫混じる
4. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂　細礫混じる
5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる
6. 10YR4/2 灰黄褐色細礫
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　Bトレンチ39層と同一層
8. 10YR5/4 にぶい黄褐色粗粒砂
9. 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂　細礫混じる
10. 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂
11. 10YR4/2 灰黄褐色中～大礫　粗粒砂混じる Bトレンチ41層と同一層
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂
13. 10YR4/3 にぶい黄褐色細礫
14. 10YR5/2 灰黄褐色細～中礫　Bトレンチ43層と同一層
15. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂　細礫混じる Bトレンチ42層と同一層
16. 10YR6/6 明黄褐色細礫　粘土混じる Bトレンチ30層と同一層
17. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　細～中礫混じる (未命名遺構)
18. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　細～中礫混じる (未命名遺構)
19. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　細～中礫混じる (未命名遺構)

Ab区Hトレンチ



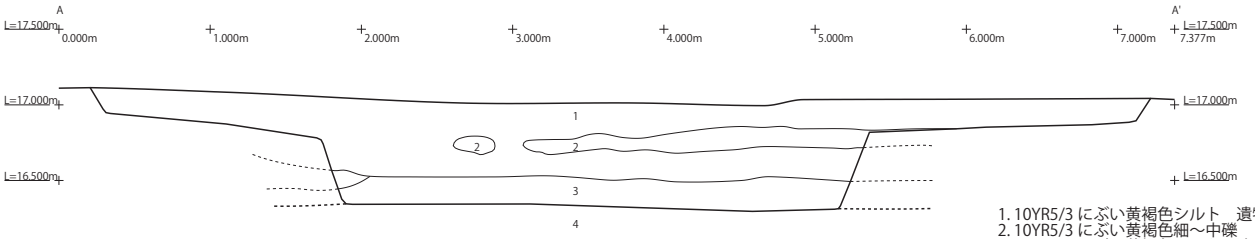
11Aトレンチセクション図　S＝1：50（7）

Ab区Hトレンチ



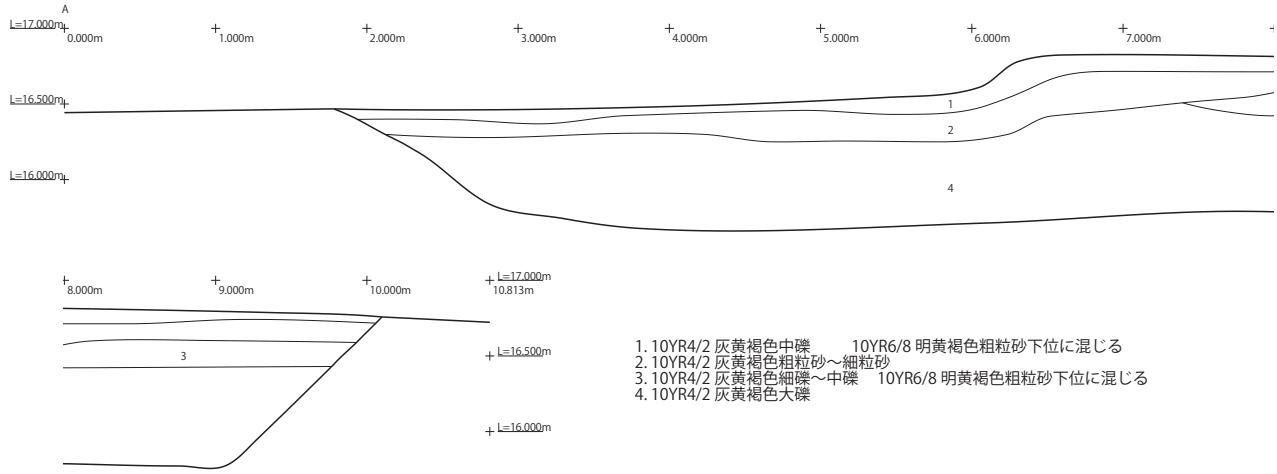
1. 10YR5/3　にぶい黄褐色細～中礫
2. 10YR5/3　灰黄褐色シルト　中礫混じる (=西壁8層)
3. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる (=西壁2層)
4. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　(=西壁7層)
5. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　マンガン多く含む (=西壁4層)
6. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　細～中礫混じる (ピット？)
7. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　(ピット？)
8. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　細礫混じる 10YR6/8 明黄褐色粗粒砂混じる (≒4層の漸移層)
9. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　細礫混じる
10. 10YR5/2　灰黄褐色粗粒砂～細礫 シルト混じる
11. 10YR4/2　灰黄褐色細礫　中礫混じる
12. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　細礫 10YR6/8 明黄褐色粗粒砂混じる
13. 10YR4/2～5/2 灰黄褐色細粒砂　細礫混じる
14. 10YR6/2　灰黄褐色極細粒砂
15. 10YR5/3　にぶい黄褐色細～中礫 細～中礫層と極細粒砂の互層
16. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　10YR6/8 明黄褐色粗粒砂混じる
17. 10YR4/2　灰黄褐色中礫　粗粒砂混じる
18. 10YR4/3　にぶい黄褐色極細粒砂
19. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　10YR6/8 明黄褐色粗粒砂混じる
20. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　細礫混じる

Iトレンチ



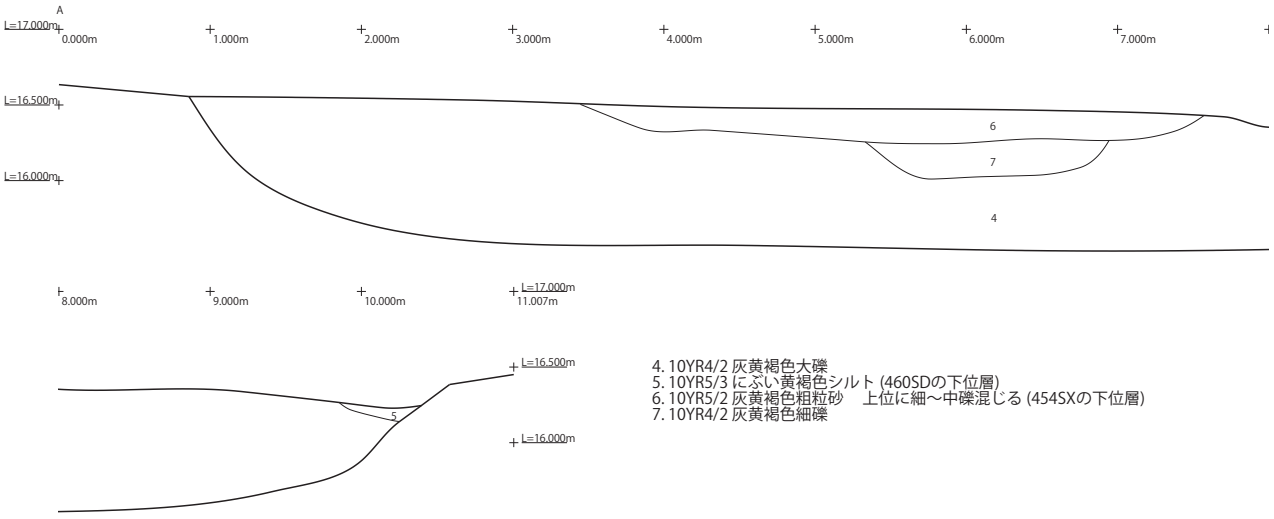
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　遺物片(中世)含む
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色細～中礫
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　遺物片(古墳?)含む
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　中～大礫混じる

Jトレンチ



1. 10YR4/2 灰黄褐色中礫　10YR6/8 明黄褐色粗粒砂下位に混じる
2. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂～細粒砂
3. 10YR4/2 灰黄褐色細礫～中礫　10YR6/8 明黄褐色粗粒砂下位に混じる
4. 10YR4/2 灰黄褐色大礫

Kトレンチ

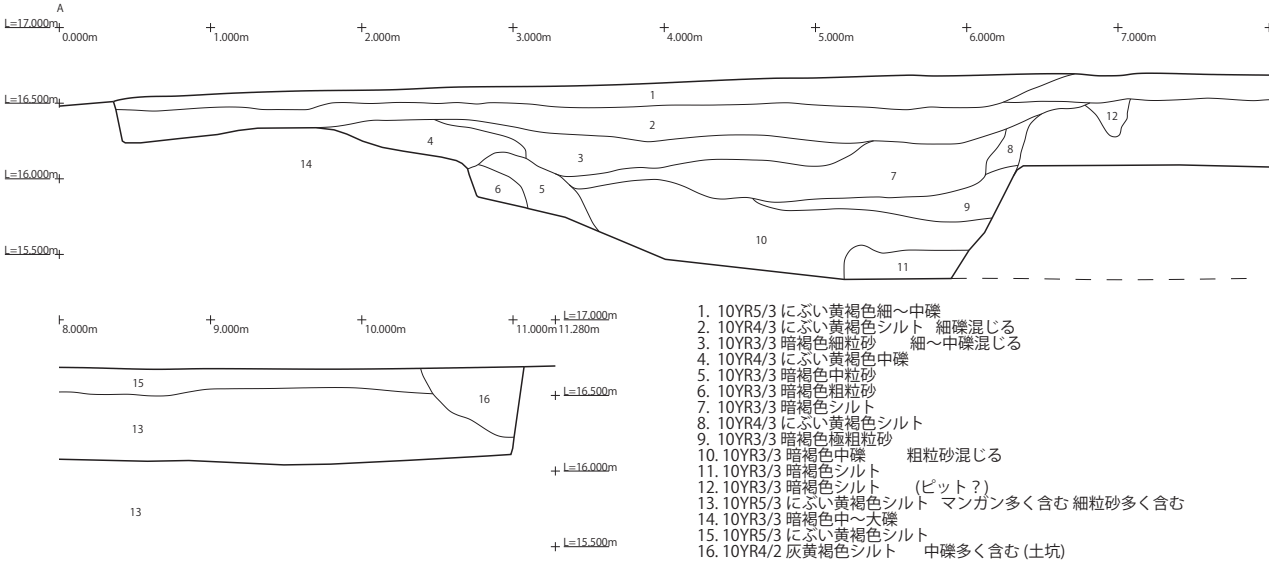


4. 10YR4/2 灰黄褐色大礫
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (460SDの下位層)
6. 10YR5/2 灰黄褐色粗粒砂　上位に細～中礫混じる (454SXの下位層)
7. 10YR4/2 灰黄褐色細礫

11Aトレンチセクション図　S＝1：50（8）

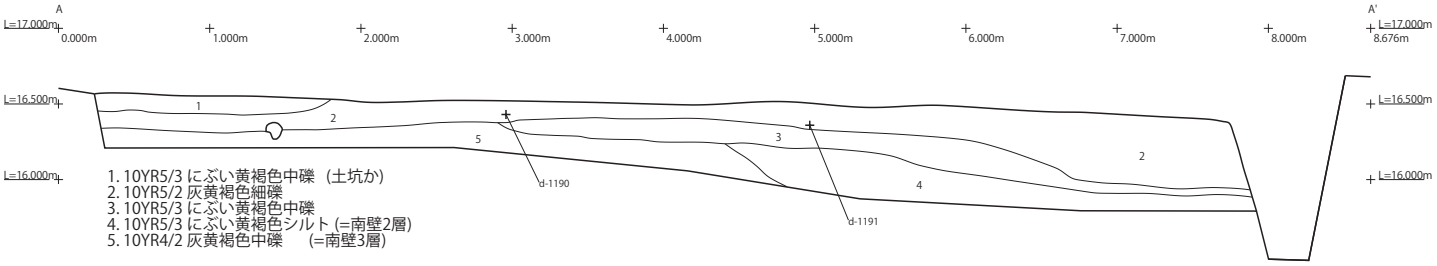
遺構図版36

Lトレンチ



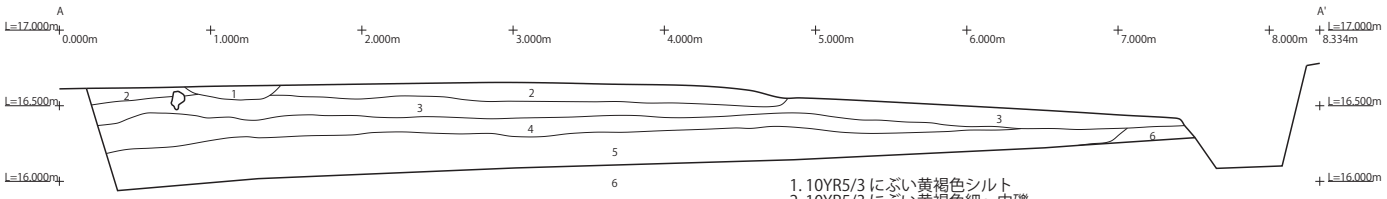
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色細～中礫
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる
3. 10YR3/3 暗褐色細粒砂　　細～中礫混じる
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色中礫
5. 10YR3/3 暗褐色中粒砂
6. 10YR3/3 暗褐色粗粒砂
7. 10YR3/3 暗褐色シルト
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
9. 10YR3/3 暗褐色極粗粒砂
10. 10YR3/3 暗褐色中礫　　粗粒砂混じる
11. 10YR3/3 暗褐色シルト
12. 10YR3/3 暗褐色シルト　　(ピット？)
13. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　マンガン多く含む 細粒砂多く含む
14. 10YR3/3 暗褐色中～大礫
15. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
16. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　中礫多く含む (土坑)

Nトレンチ



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色中礫（土坑か)
2. 10YR5/2 灰黄褐色細礫
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色中礫
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (=南壁2層)
5. 10YR4/2 灰黄褐色中礫　　(=南壁3層)

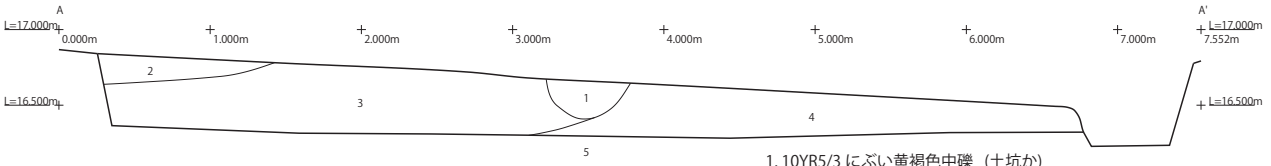
Oトレンチ



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色細～中礫
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる (=南壁2層)
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色極粗粒砂
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる (=南壁4層)
6. 10YR4/2 灰黄褐色中礫　　(=南壁3層)

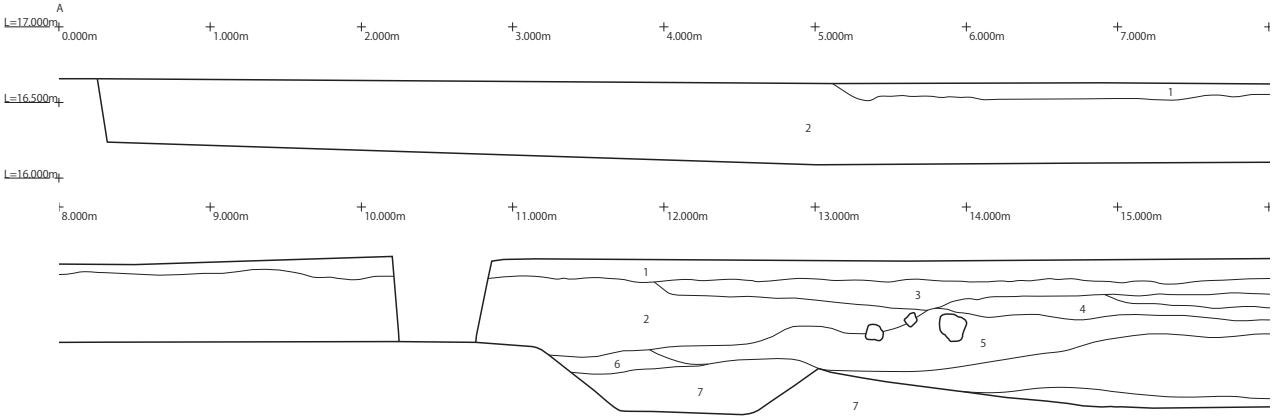
11Aトレンチセクション図　S＝1：50（9）

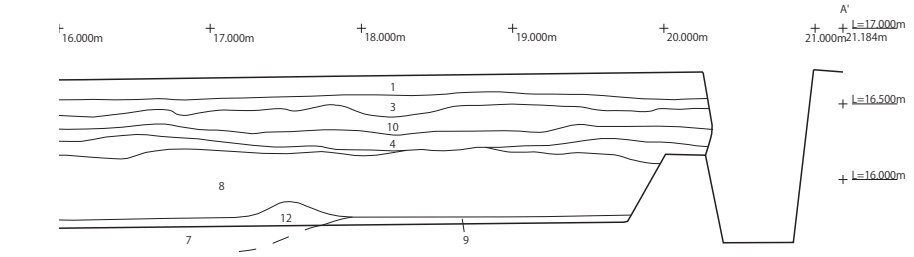
Pトレンチ



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色中礫（土坑か）
2. 10YR5/2 灰黄褐色細礫
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色中礫
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (=南壁2層)
5. 10YR4/2 灰黄褐色中礫　(=南壁3層)

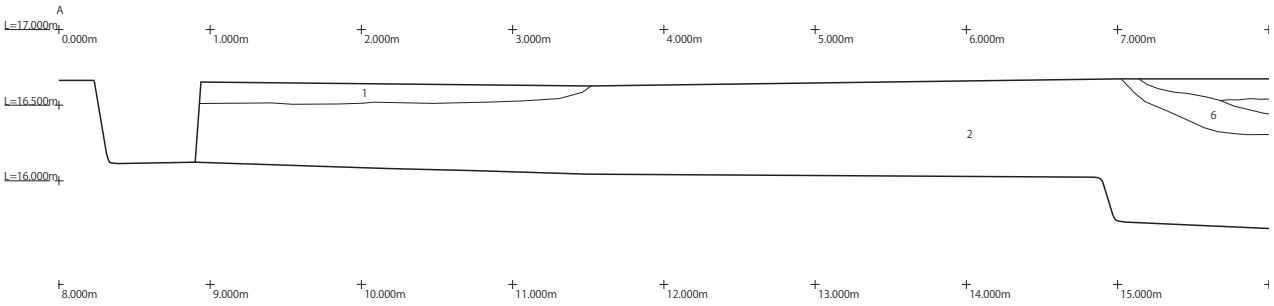
Qトレンチ

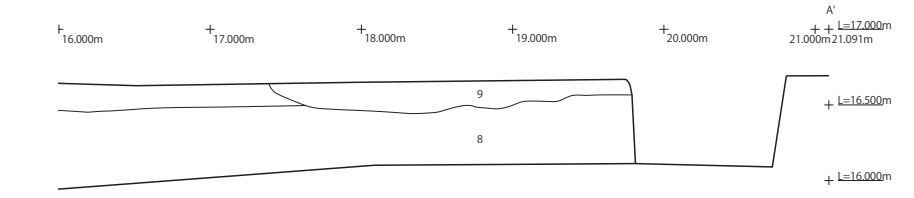




1. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　10YR6/8 明黄褐色粗粒砂混じる (=Hトレンチ8層)
2. 10YR4/2　灰黄褐色中礫
3. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　10YR6/8 明黄褐色粗粒砂混じる (=Hトレンチ12層)
4. 10YR4/2～5/2 灰黄褐色細粒砂　細礫混じる
5. 10YR5/2　灰黄褐色極細粒砂と粗粒砂の互層
6. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
7. 10YR5/2　灰黄褐色中礫
8. 10YR4/2　灰黄褐色中礫　粗粒砂混じる (=Hトレンチ17層)
9. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　マンガン多く含む (=Hトレンチ5層)
10. 10YR4/2　灰黄褐色細礫　中礫混じる (=Hトレンチ11層)
11. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　10YR6/8 明黄褐色粗粒砂混じる (=Hトレンチ16層)

Rトレンチ



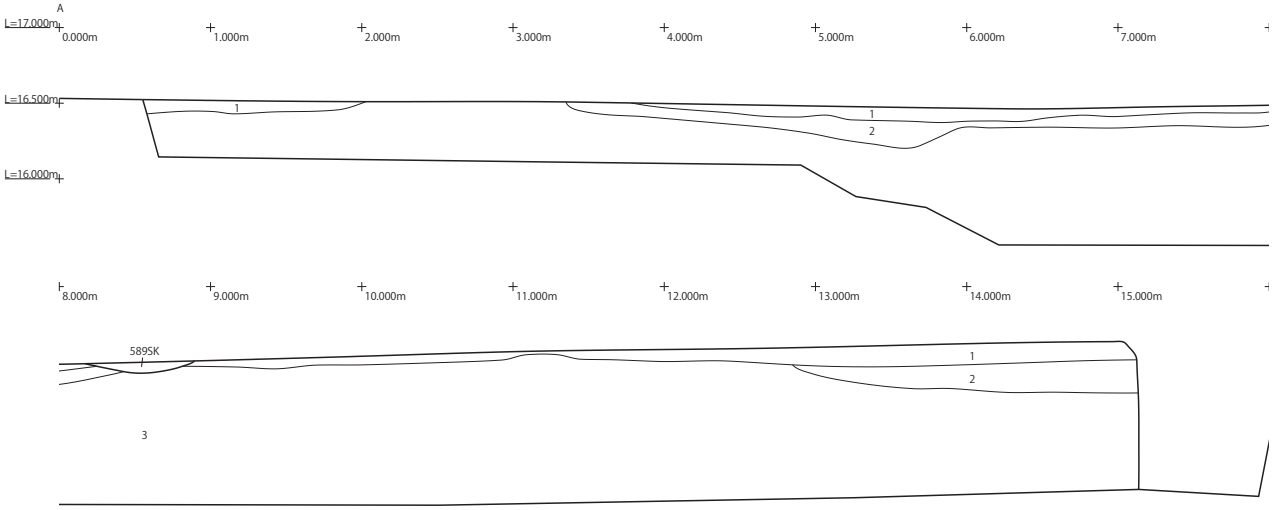


1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる (=Qトレンチ1層)
2. 10YR4/2 灰黄褐色中礫　(=Qトレンチ2層)
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中礫混じる (=Lトレンチ15層)
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂 中礫混じる
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂　細礫混じる
6. 10YR5/3 にぶい黄褐色細礫
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂　(=5層か？)
8. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
9. 10YR4/2 灰黄褐色細～中礫

11Aトレンチセクション図　S＝1：50（10）

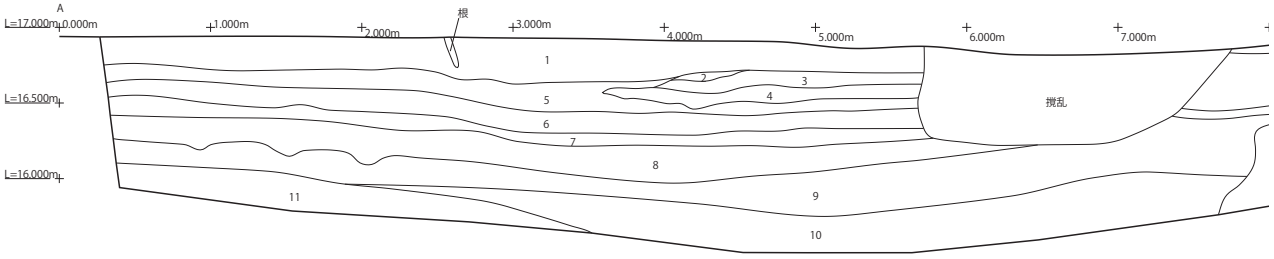
遺構図版38

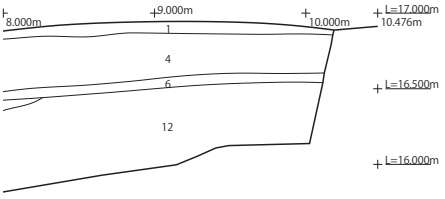
Sトレンチ



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中礫混じる (=Rトレンチ3層=Lトレンチ15層)
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂 中礫混じる (=Rトレンチ4層)
3. 10YR4/2 灰黄褐色中礫　　2層と3層の境界付近は細礫層が5～15cm堆積する (=Rトレンチ2層=Qトレンチ2層)

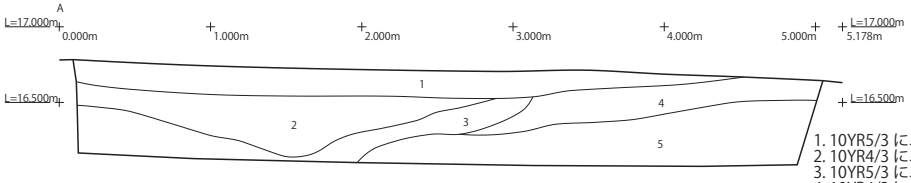
Tトレンチ





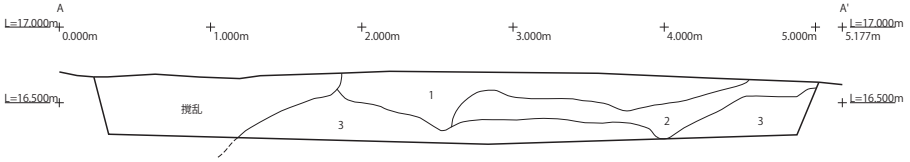
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　　細礫多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色中礫
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　　細礫混じる
4. 10YR5/2 灰黄褐色細礫　　中礫混じる
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　　10YR5/6 黄褐色細礫多く混じる
7. 10YR4/2 灰黄褐色シルト
8. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　　7層との境付近に3cm前後の堆積層(10YR5/6 黄褐色極細粒砂)あり
9. 10YR5/2 灰黄褐色シルト
10. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト～極細粒砂
11. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
12. 10YR5/3 にぶい黄褐色細礫　　中礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫含む

Uトレンチ



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　　細礫混じる
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　　中礫混じる (=Vトレンチ1層) 古代遺物あり
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂　　(=Vトレンチ2層)
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂～細礫
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色中礫　　(=Vトレンチ3層)

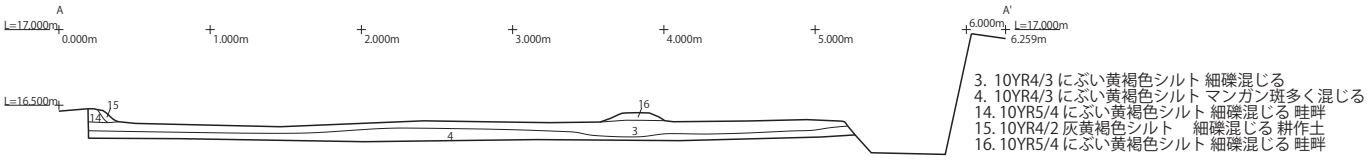
Vトレンチ



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる (=Vトレンチ2層)
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂 (=Vトレンチ3層)
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色中礫　(=Vトレンチ5層) 古代遺物あり

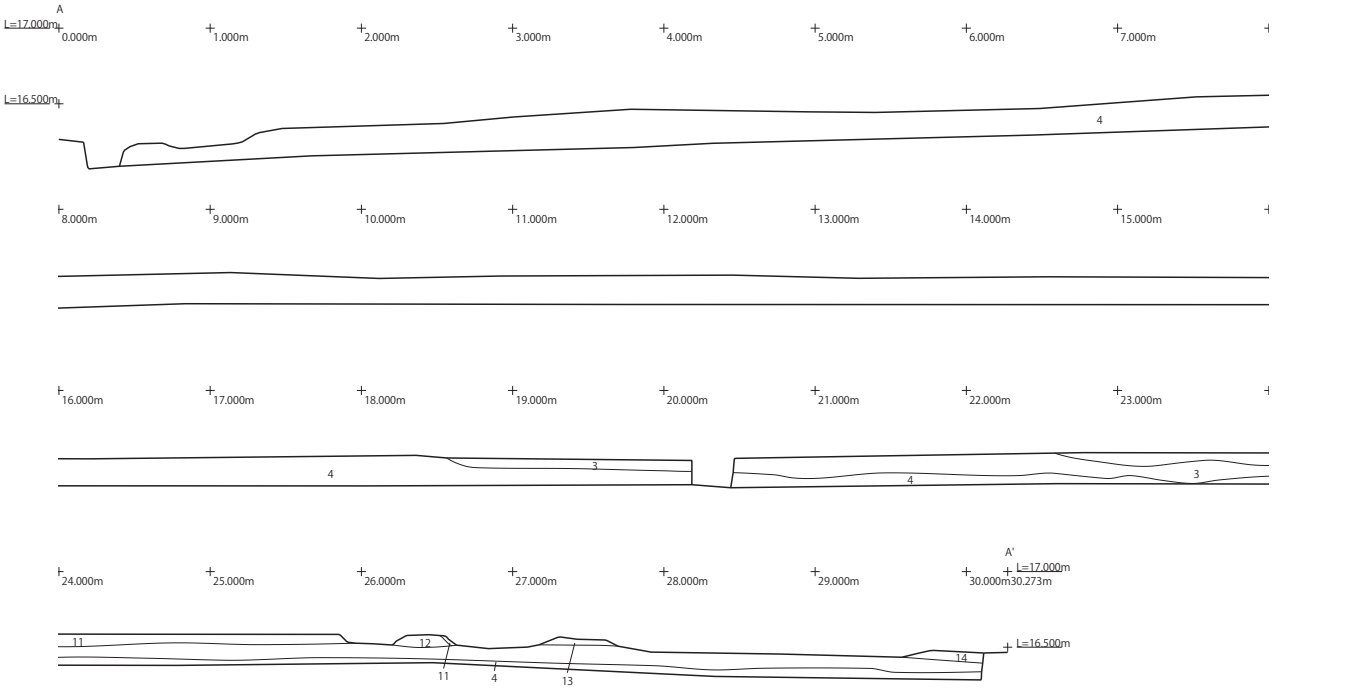
11Aトレンチセクション図　S＝1：50（11）

1T



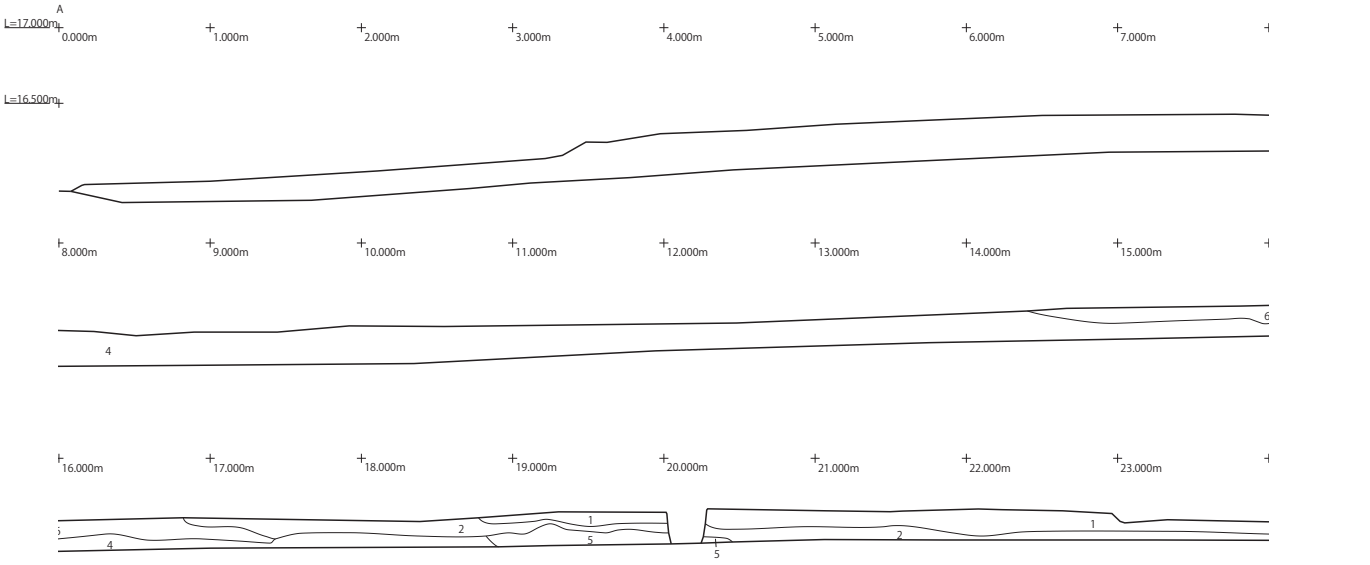
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト マンガン斑多く混じる
14. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 畦畔
15. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
16. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 畦畔

2T・7T・9T



3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト マンガン斑多く混じる
11. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
12. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 畦畔
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 畦畔
14. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 畦畔

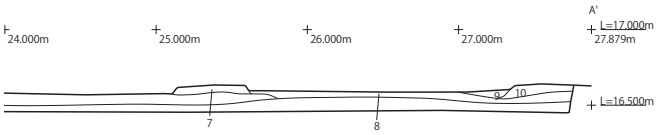
3T・6T・14T



11Aトレンチセクション図　S＝1：50（12）

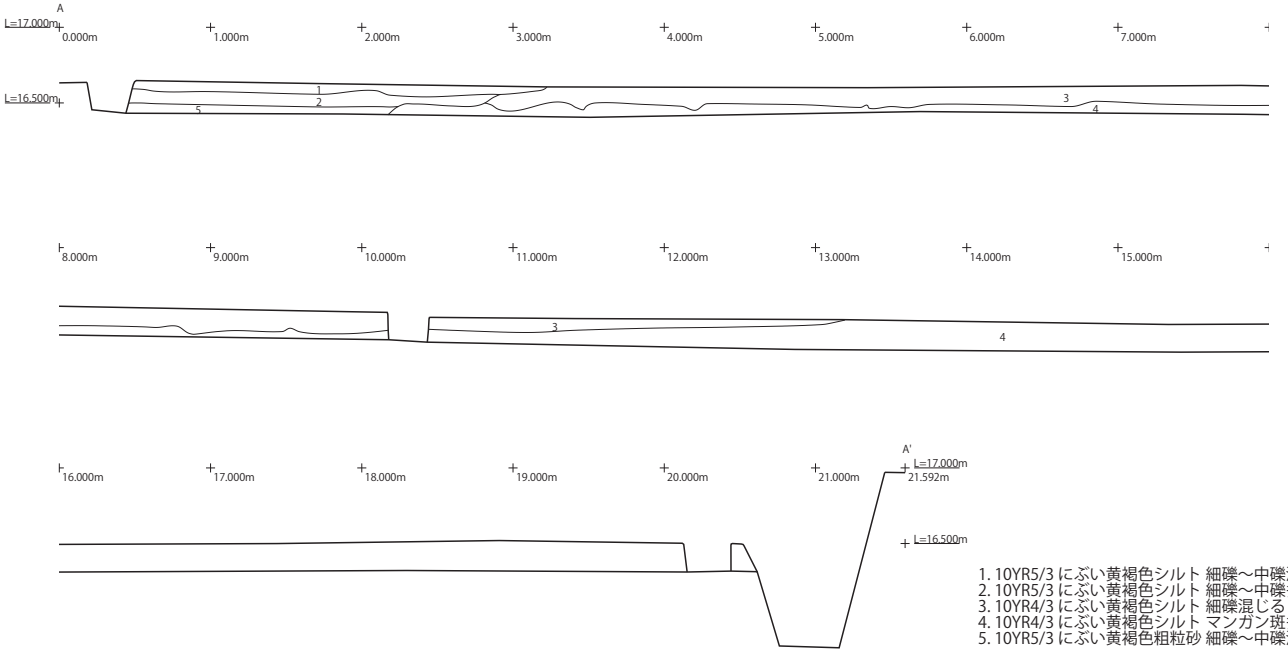
遺構図版40

3T・6T・14T



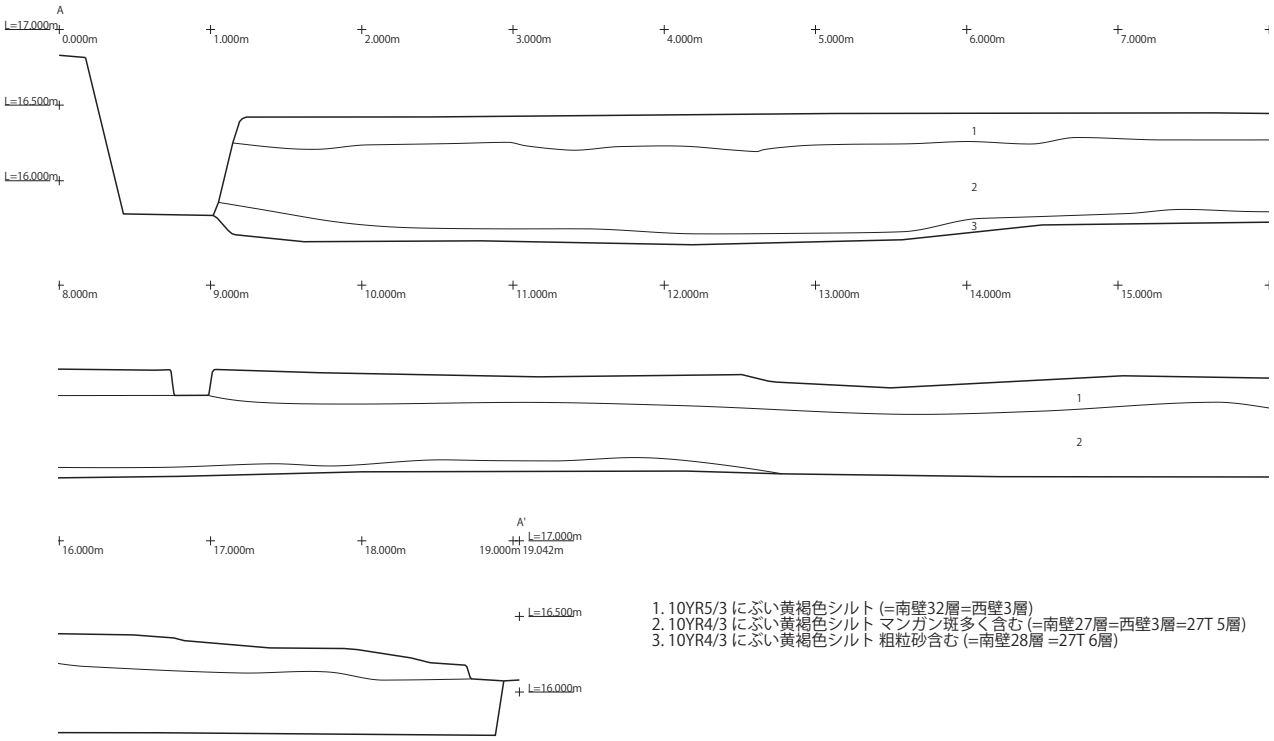
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　細礫～中礫混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　細礫～中礫多く混じる
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　マンガン斑多く混じる
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂　細礫～中礫混じる
6. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　細礫～中礫多く混じる 中礫が目立つ
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる 畦畔
8. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　細礫混じる 耕作土
9. 10YR5/4 にぶい黄褐色極細粒砂 細礫～中礫混じる 耕作土直上の洪水層
10. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる 畦畔

4T・5T



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫～中礫混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細礫～中礫多く混じる
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト マンガン斑多く混じる
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂 細礫～中礫混じる

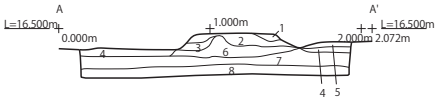
11T・12T



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト (=南壁32層=西壁3層)
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト マンガン斑多く含む (=南壁27層=西壁3層=27T 5層)
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂含む (=南壁28層 =27T 6層)

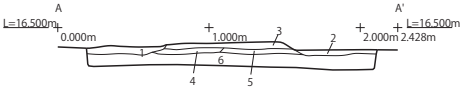
11Aトレンチセクション図　S＝1：50（13）

15T



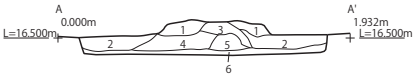
1. 10YR4/2 灰黄褐色細礫
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色極粗粒砂 10YR5/6 黄褐色細礫混じる
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色細礫　シルト混じる
4. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色極粗粒砂
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫混じる 畦畔
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土？
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる マンガン斑多く混じる

16T



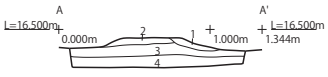
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫混じる 畦畔
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 畦畔
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR4/1 褐灰色シルトブロック混じる 古い畦畔
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる マンガン斑多く混じる

17T



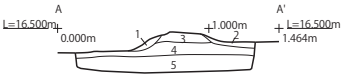
1. 10YR4/2 灰黄褐色細礫
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫多く混じる 畦畔
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 畦畔
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 古い畦畔？
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト マンガン斑多く混じる

18T



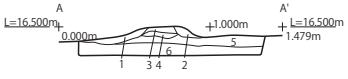
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫混じる 畦畔
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト マンガン斑多く混じる

19T



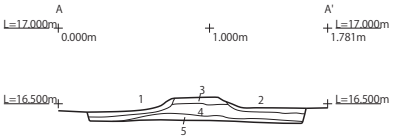
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫混じる 畦畔
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト マンガン斑多く混じる

20T



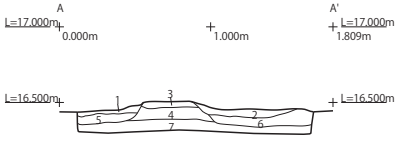
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫混じる 畦畔
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト マンガン斑多く混じる

21T



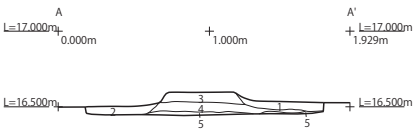
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫混じる 畦畔
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト マンガン斑多く混じる

22T



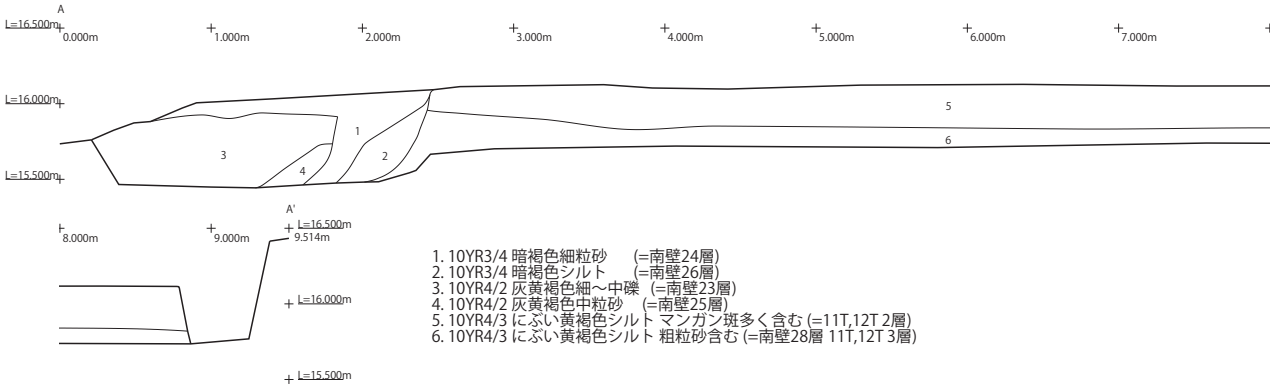
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫混じる 畦畔
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 畦畔
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 耕作土？
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 耕作土？
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる マンガン斑多く混じる

23T



1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる 耕作土
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫混じる 畦畔
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫混じる マンガン斑多く混じる

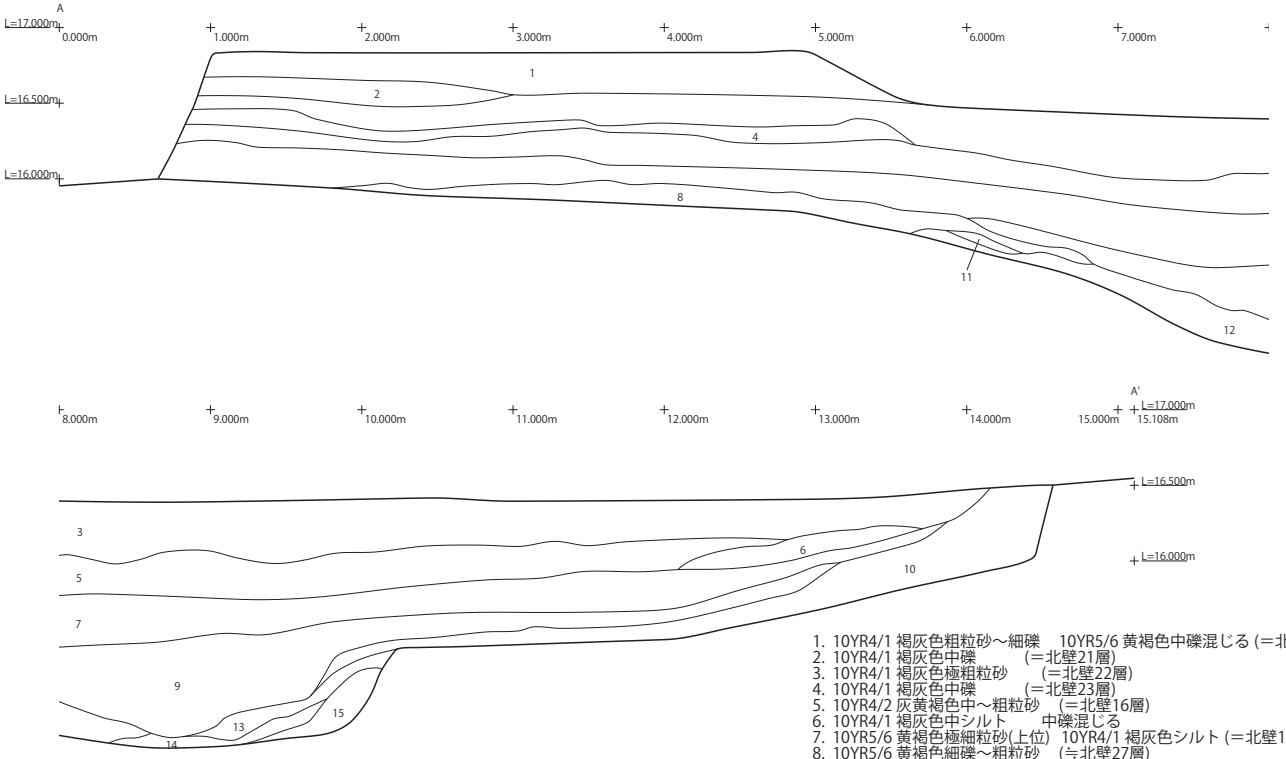
27T



1. 10YR3/4 暗褐色細粒砂　(=南壁24層)
2. 10YR3/4 暗褐色シルト　(=南壁26層)
3. 10YR4/2 灰黄褐色細～中礫　(=南壁23層)
4. 10YR4/2 灰黄褐色中粒砂　(=南壁25層)
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト マンガン斑多く含む (=11T,12T 2層)
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂含む (=南壁28層 11T,12T 3層)

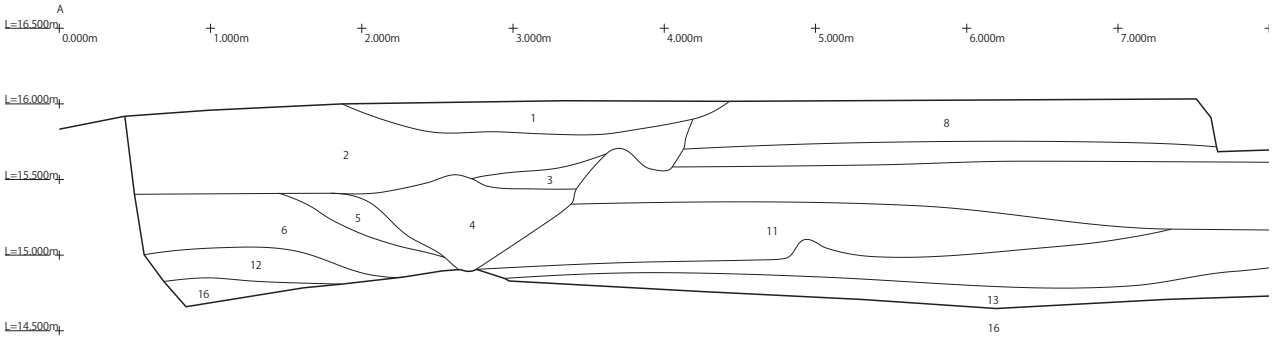
遺構図版42

28T



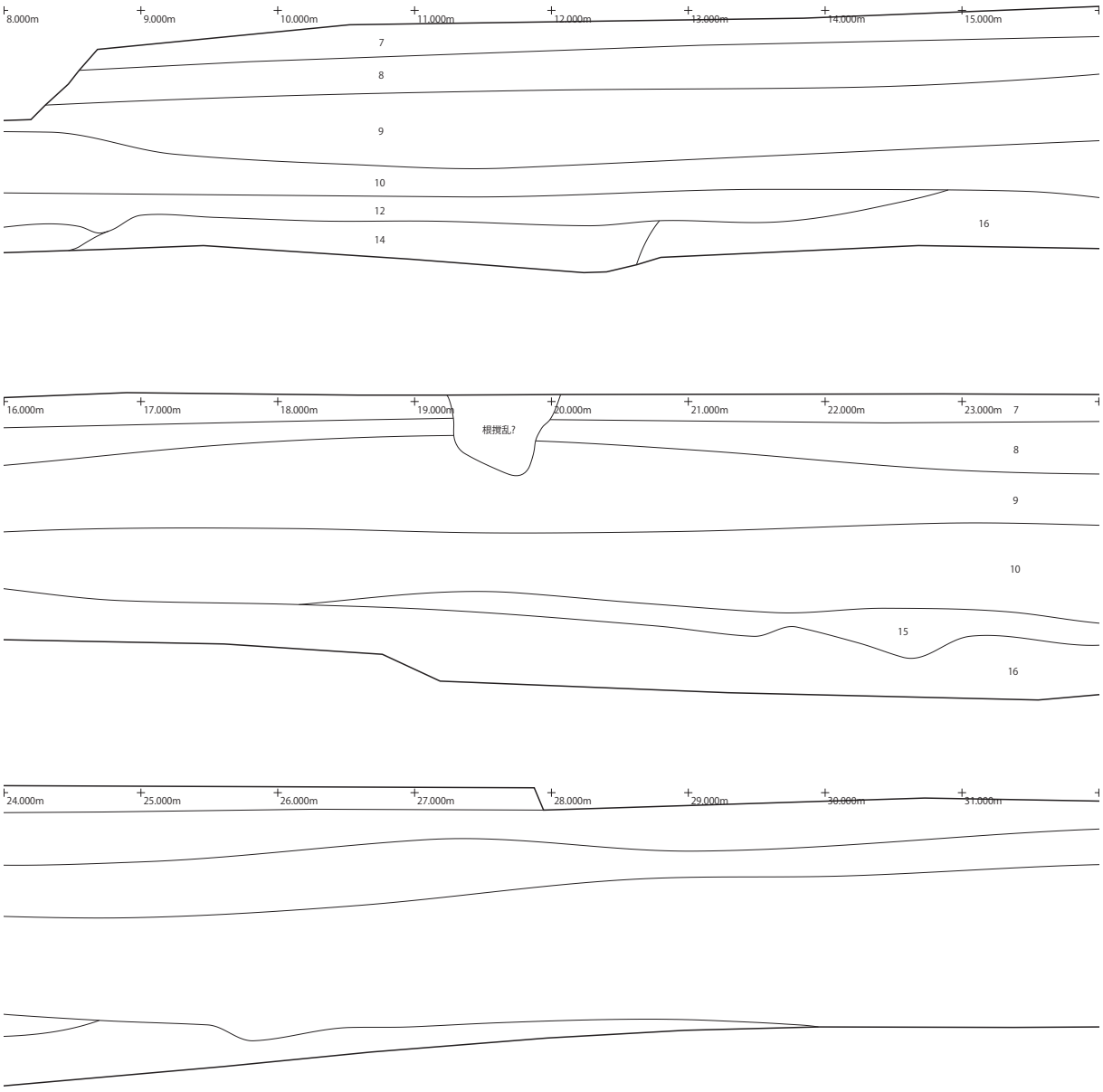
1. 10YR4/1 褐灰色粗粒砂～細礫　10YR5/6 黄褐色中礫混じる (＝北壁18層)
2. 10YR4/1 褐灰色中礫　(＝北壁21層)
3. 10YR4/1 褐灰色極粗粒砂　(＝北壁22層)
4. 10YR4/1 褐灰色中礫　(＝北壁23層)
5. 10YR4/2 灰黄褐色中～粗粒砂　(＝北壁16層)
6. 10YR4/1 褐灰色中シルト　中礫混じる
7. 10YR5/6 黄褐色極細粒砂(上位)　10YR4/1 褐灰色シルト (＝北壁19層＋24層)
8. 10YR5/6 黄褐色細礫～粗粒砂　(≒北壁27層)
9. 10YR4/1 褐灰色極細粒砂
10. 10YR4/1 褐灰色粗粒砂～細礫　10YR5/6 黄褐色粗粒砂混じる
11. 10YR4/1 褐灰色粗粒砂　中礫混じる
12. 10YR4/1 褐灰色シルト～極細粒砂
13. 10YR4/1 褐灰色細礫
14. 10YR3/1 黒褐色シルト～粗粒砂
15. 10YR4/1 褐灰色粗粒砂

29T



11Aトレンチセクション図　S＝1：50（15）

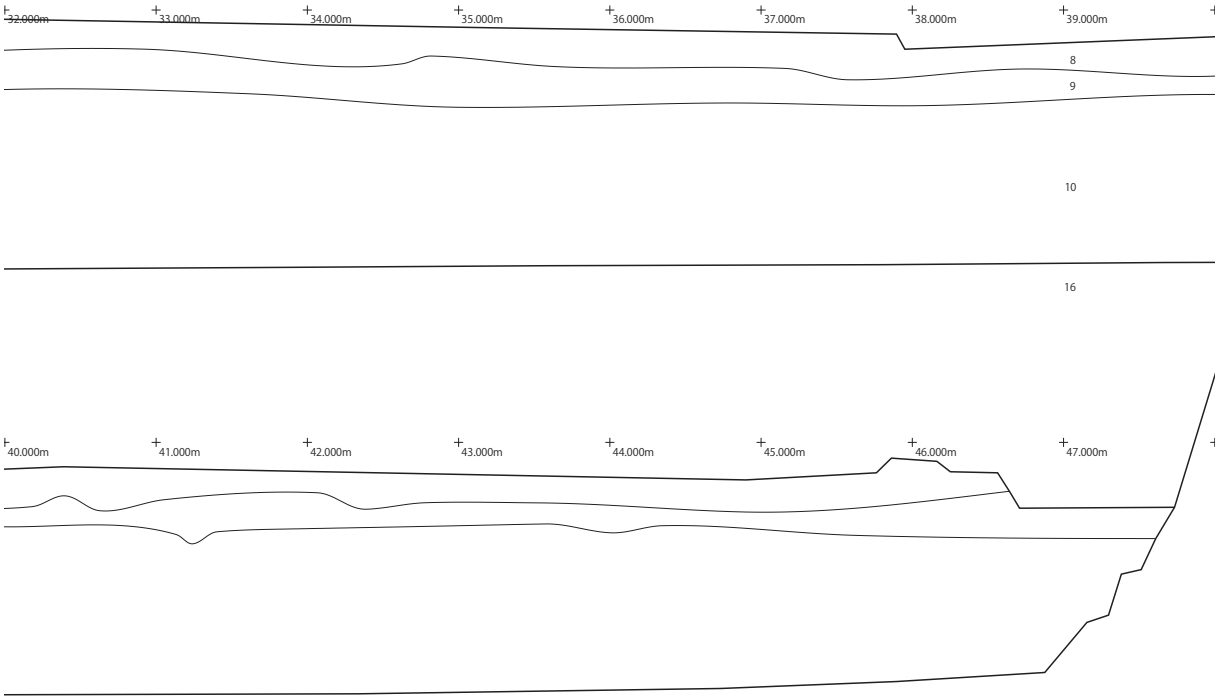
29T



11Aトレンチセクション図　S＝1：50（16）

遺構図版44

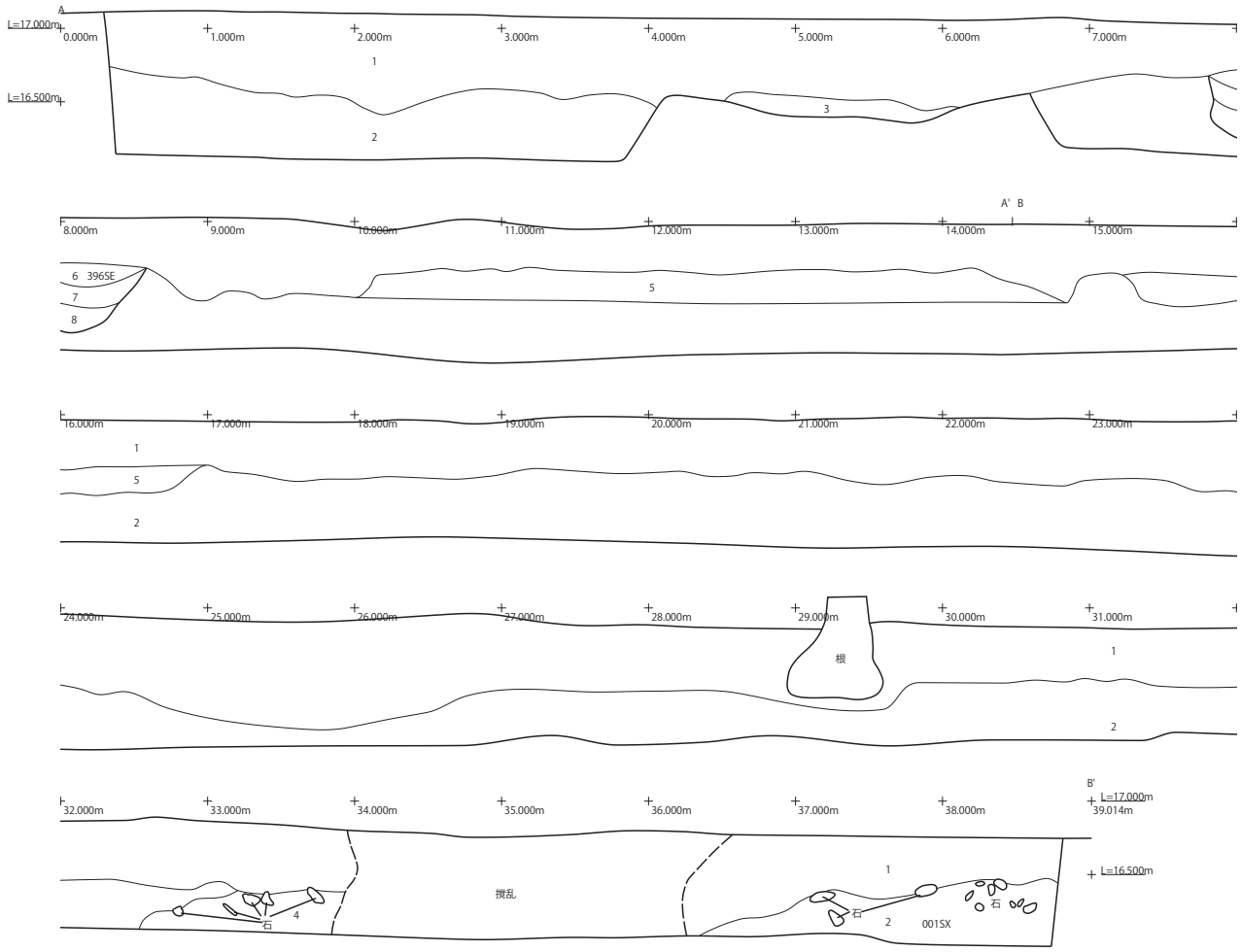
29T



1. 10YR4/1 褐灰色極細粒砂　　中礫混じる
2. 10YR4/1 褐灰色中～大礫　　粗粒砂混じる
3. 10YR4/1 褐灰色粗粒砂
4. 10YR4/1 褐灰色中～大礫　　粗粒砂混じる
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂～粗粒砂
6. 10YR4/1 褐灰色中～大礫　　粗粒砂混じる
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　　マンガン斑多く含む
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
10. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　　マンガン斑含む 中礫混じる
11. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト～極細粒砂
12. 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂
13. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　　細礫混じる
14. 10YR5/4 にぶい黄褐色粗粒砂
15. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　　細礫混じる
16. 10YR4/3 にぶい黄褐色中礫　　粗粒砂混じる

11Aトレンチセクション図　S＝1：50（17）

Aa区東壁

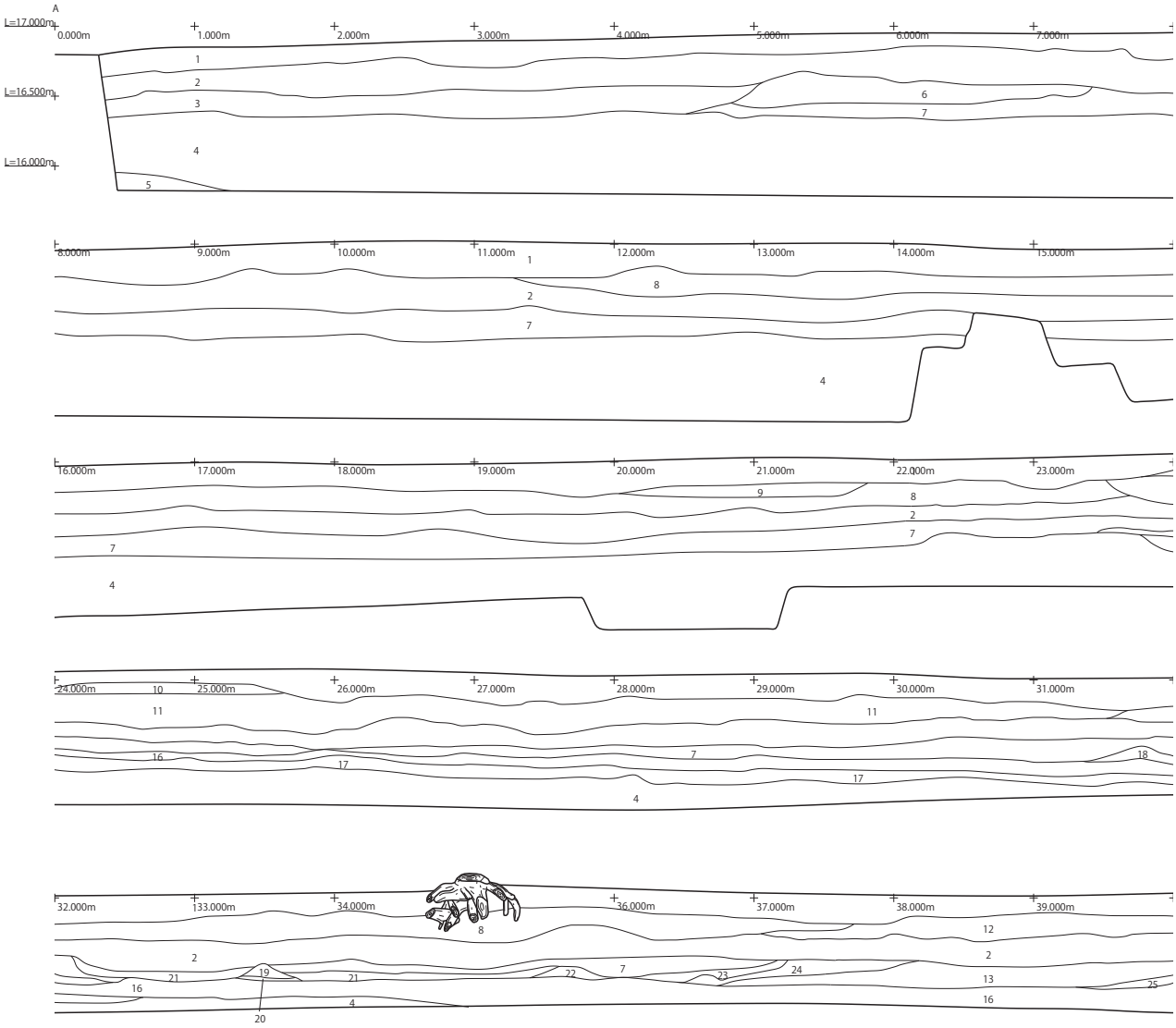


1. 表土
2. 10YR4/1 褐灰色中礫層　細礫混じる
3. 10YR5/6～10YR4/1 黄褐色～褐灰色シルト層 井戸? (396SE)
4. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂層　細～中礫混じる
5. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂層　細～中礫混じる
6. 10YR4/1 褐灰色シルト層　中礫混じる (352SD)
7. 10YR4/1 褐灰色中礫層　シルト混じる (352SD)
8. 10YR4/1 褐灰色中礫層　(352SD)

11Aトレンチセクション図　S＝1：50（18）

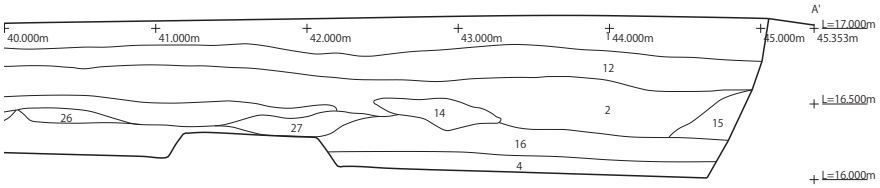
遺構図版46

Ab区西壁



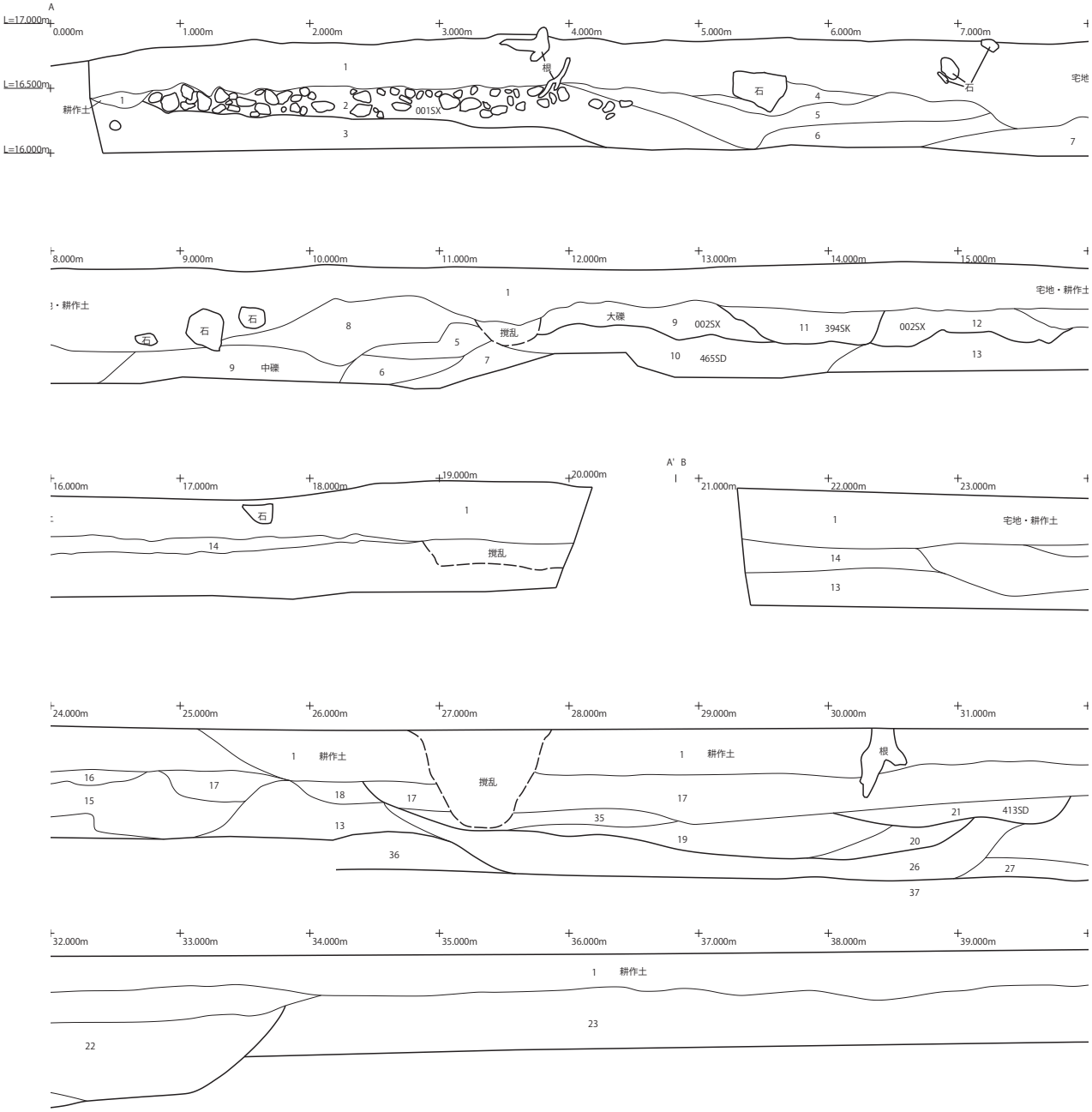
11Aトレンチセクション図　S＝1：50（19）

Ab区西壁



1. 表土
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる ≒Ba区東壁4層
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　3層よりマンガン多く含む
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂含む
6. 10YR4/2 灰黄褐色細礫
7. 10YR5/2 灰黄褐色シルト
8. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中礫混じる ≒南壁2層
9. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中礫混じる
10. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂　細礫混じる
11. 10YR4/2 灰黄褐色細～中礫
12. 10YR4/2 灰黄褐色中礫
13. 10YR4/2 灰黄褐色細～中礫
14. 10YR4/2 灰黄褐色細～中礫
15. 10YR4/2 灰黄褐色細礫　粗粒砂混じる
16. 10YR6/6 明黄褐色シルト　細礫混じる
17. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト（≒3層）
18. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる 畦畔
19. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる 畦畔
20. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
21. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　細礫多く混じる
22. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる 畦畔
23. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる
24. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　細礫多く混じる
25. 10YR5/3 にぶい黄褐色極粗粒砂
26. 10YR5/4 にぶい黄褐色極粗粒砂 細礫混じる
26. 10YR5/4 にぶい黄褐色極粗粒砂 細礫混じる

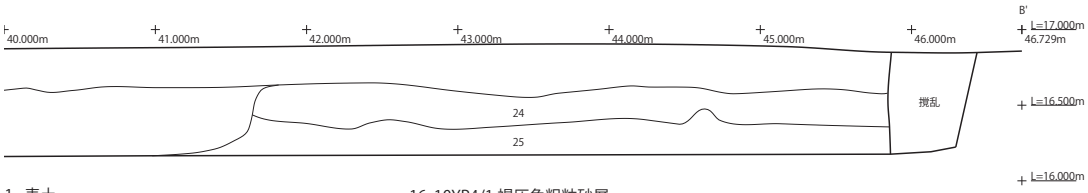
Aa区南壁



11Aトレンチセクション図　S＝1：50（20）

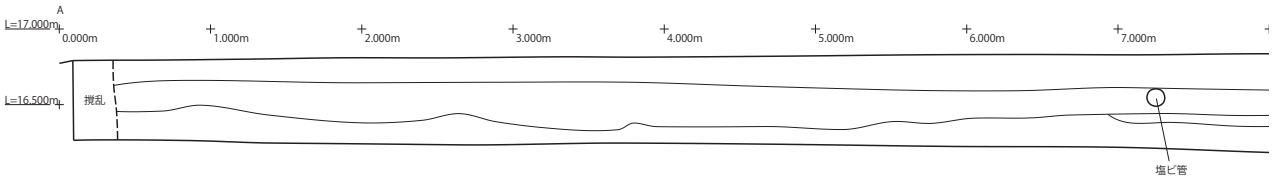
遺構図版48

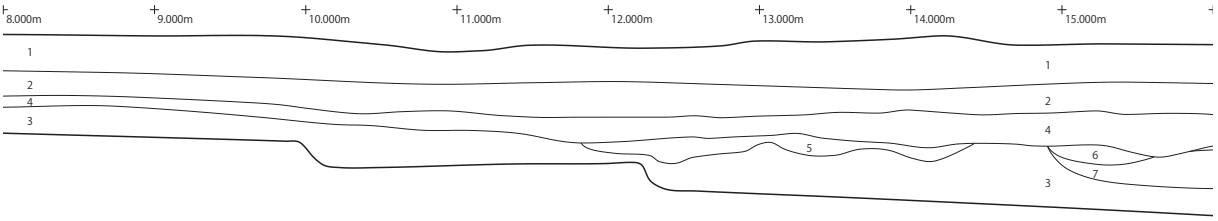
Aa区南壁

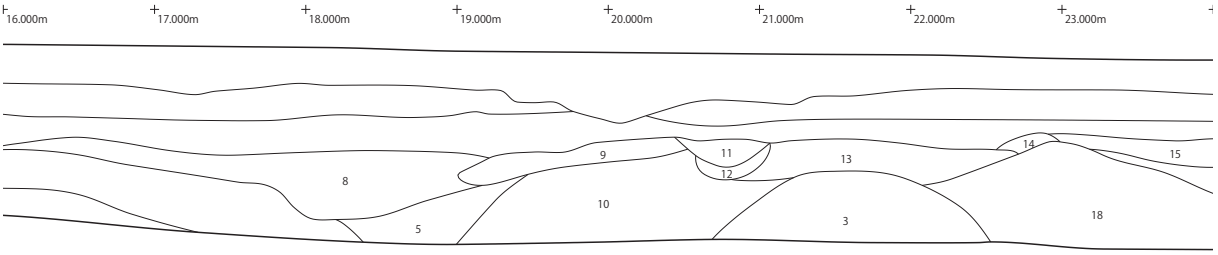


1. 表土
2. 10YR4/1 褐灰色大礫層＋シルト層 (001SX)
3. 10YR4/1 褐灰色大礫層
4. 10YR4/1 褐灰色細礫層
5. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂層層
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色極粗粒砂層
7. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂層
8. 10YR4/1 褐灰色粗礫層　　中礫 シルト混じる
9. 10YR4/1 灰褐色大礫層　　シルト混じる (002SX)
10. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂層　(465SD)
11. 10YR4/2 灰黄褐色シルト層　(394SK)
12. 10YR4/1 灰褐色大礫層　　シルト混じる (002SX)
13. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂層
14. 10YR4/1 褐灰色シルト層　粗礫混じる
15. 10YR4/1 灰褐色大礫層　　シルト 巨礫混じる
16. 10YR4/1 褐灰色粗粒砂層
17. 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂層 細礫混じる
18. 10YR4/1 褐灰色粗粒砂層　細礫混じる
19. 10YR4/2 灰黄褐色細礫層　細粒砂混じる(463SDと同一溝)
20. 10YR4/3 灰黄褐色細粒砂層　(463SDと同一溝)
21. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂層　(413SD)
22. 10YR4/2 灰黄褐色細礫層　上位に中礫混じる
23. 10YR4/1 褐灰色中礫層　粗粒砂混じる
24. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト層
25. 10YR4/2 灰黄褐色中礫層　シルト混じる
26. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂層
27. 10YR4/2 灰黄褐色中粒砂層
35. 10YR4/2 灰黄褐色細礫層　細粒砂混じる 遺物あり(463SDと同一溝)
36. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂層　細礫混じる
37. 10YR4/1 褐灰色シルト層

Ab区南壁

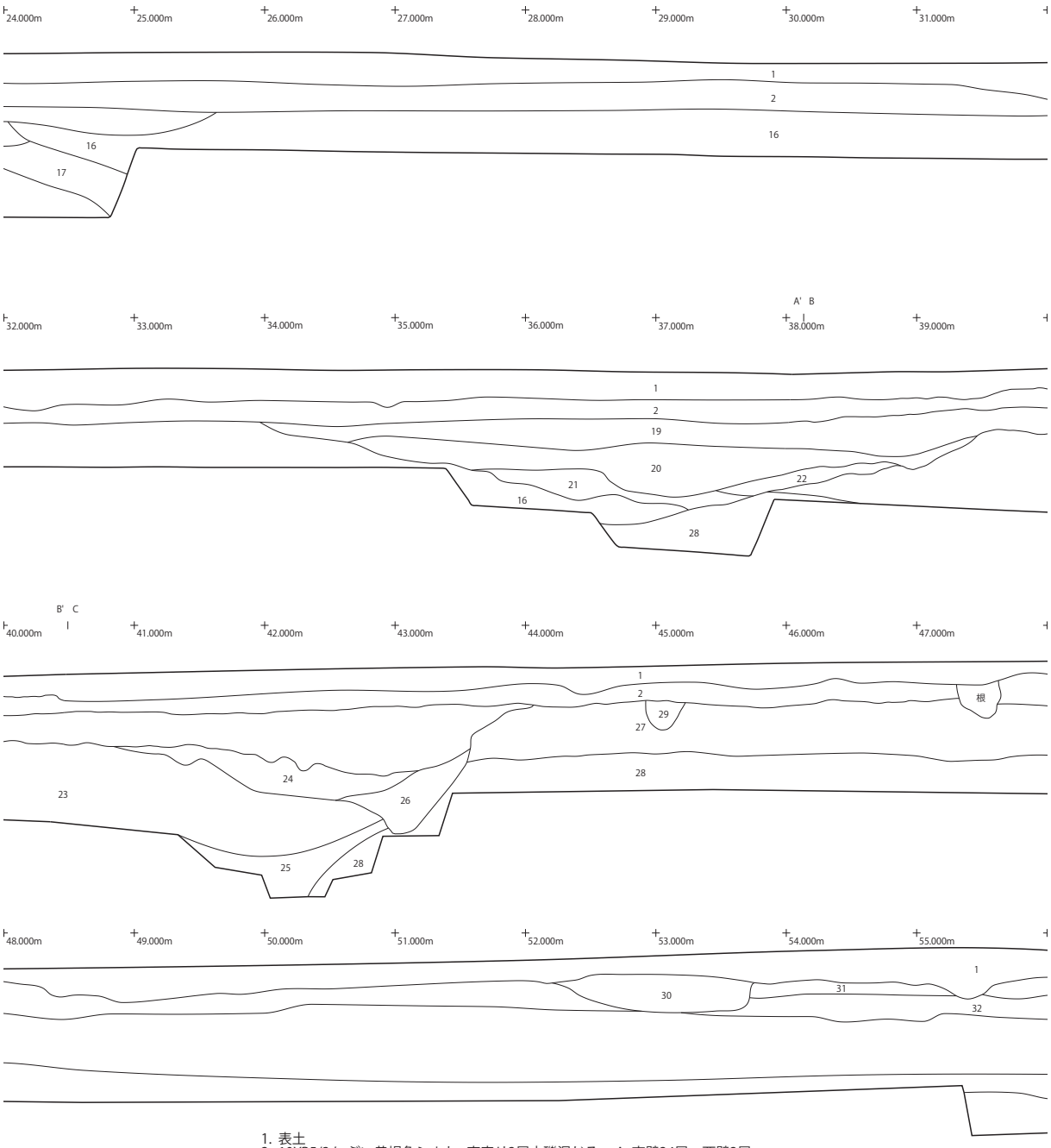


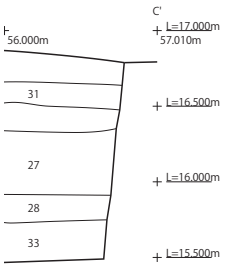




11Aトレンチセクション図　S＝1：50（21）

Ab区南壁



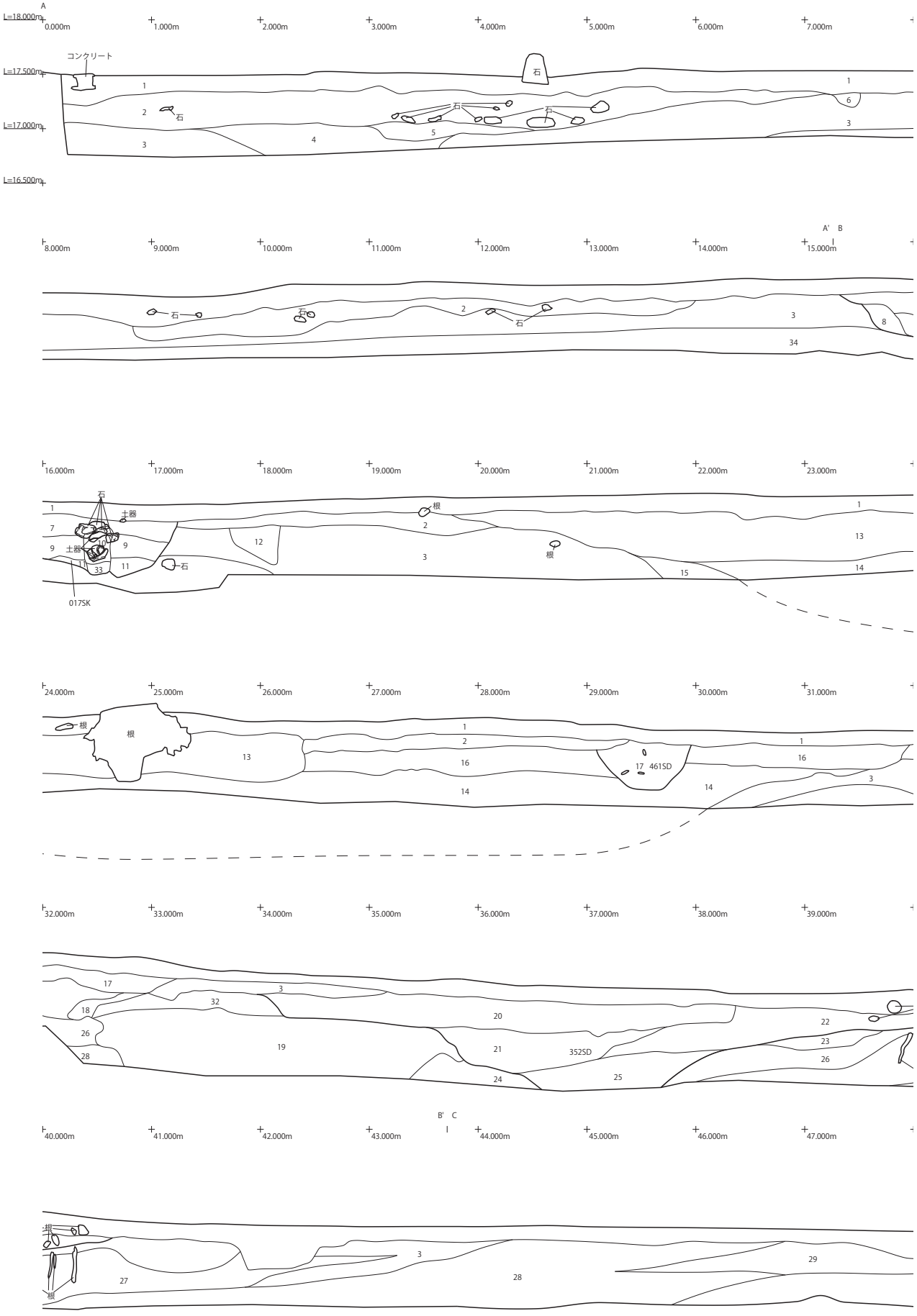


1. 表土
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　東寄り3層中礫混じる ＝Aa南壁24層＝西壁2層
3. 10YR4/2 灰黄褐色中礫　　＝Aa南壁25層
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂　細～中礫混じる
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色中礫
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 中礫混じる
9. 10YR4/2 灰黄褐色極粗粒砂
10. 10YR4/2 灰黄褐色細礫
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂混じる
12. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂
13. 10YR4/2 灰黄褐色極粗粒砂　細礫混じる 9層の続きか？
14. 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂　細礫混じる
15. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂
16. 10YR4/2 灰黄褐色中礫　　粗粒砂混じる
17. 10YR4/2 灰黄褐色極粗粒砂　細礫混じる
18. 10YR4/2 灰黄褐色細～中礫
19. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　中礫混じる
20. 10YR3/4 暗褐色シルト　　細礫混じる
21. 10YR3/4 暗褐色細粒砂
22. 10YR3/4 暗褐色極細粒砂
23. 10YR4/2 灰黄褐色細～中礫
24. 10YR3/4 暗褐色細粒砂
25. 10YR4/2 灰黄褐色中粒砂
26. 10YR3/3 暗褐色シルト
27. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　マンガン多く含む ＝西壁4層
28. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂含む
29. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる
30. 10YR5/3 にぶい黄褐色中礫
31. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　＝西壁2層
32. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　＝西壁3層
33. 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂

11Aトレンチセクション図　S＝1：50（22）

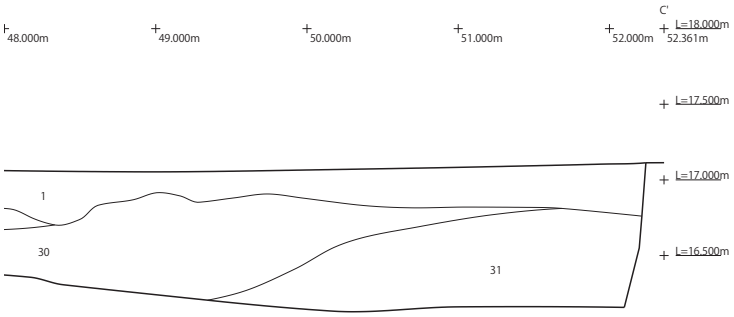
遺構図版50

Aa区北壁



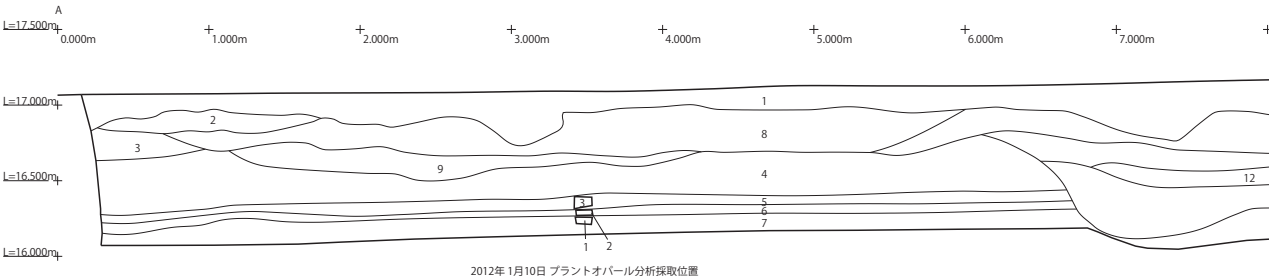
11Aトレンチセクション図　S＝1：50（23）

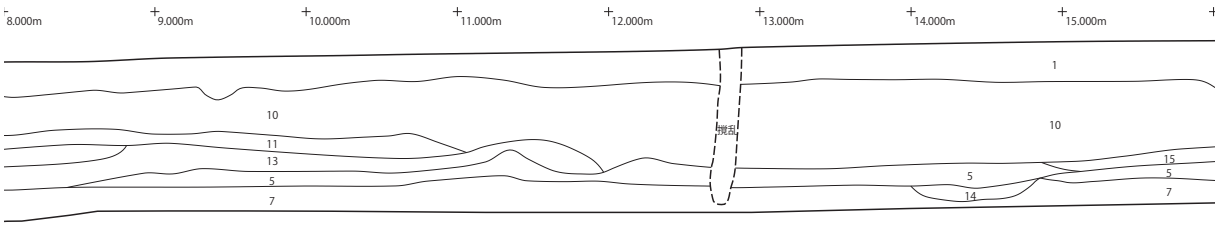
Aa区北壁

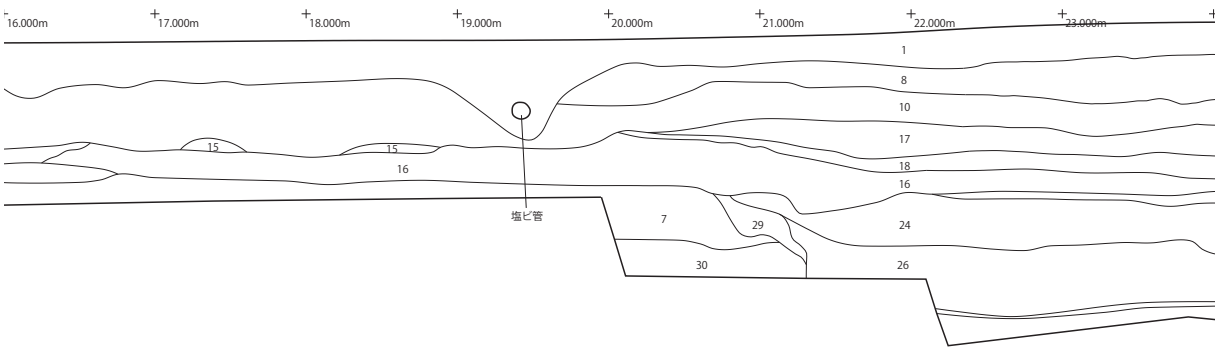


1. 表土
2. 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト層 極粗粒砂～細礫混じる
3. 10YR4/1 褐灰色中礫層
4. 10YR4/2 灰黄褐色細礫層　　シルト混じる
5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト層
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト層
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト層 中礫混じる (017SK)
8. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト層 (017SK)
9. 10YR5/4 にぶい黄褐色粗粒砂層 シルト混じる (017SK)
10. 10YR4/2 灰黄褐色シルト層　(017SK)
11. 10YR4/2 灰黄褐色シルト層　中礫混じる (017SK)
12. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト層 中礫混じる
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト層 最下位遺物含む
14. 10YR4/2 灰黄褐色シルト層
15. 10YR4/2 灰黄褐色シルト層　中礫混じる
16. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト層 細礫混じる
17. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト層 遺物含む (461SD)
18. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト層 細礫混じる
19. 10YR4/2 灰黄褐色シルト層
20. 10YR4/2 灰黄褐色シルト層　細礫混じる (352SD)
21. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト層 細礫混じる (352SD)
22. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト層 粗粒砂～細礫混じる (352SD)
23. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト層
24. 10YR4/2 灰黄褐色細礫層
25. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト層 (352SD)
26. 10YR4/1 中～大礫層
27. 10YR4/1 褐灰色粗粒砂層
28. 10YR4/1 中礫層
29. 10YR4/1 粗粒砂と中礫の互層層
30. 10YR4/1 中～大礫層　　26と同一層か?
31. 10YR4/1 褐灰色中礫層
32. 10YR5/4 にぶい黄褐色細礫層
33. 10YR4/2 灰黄褐色シルト層　中礫混じる (017SK)
34. 10YR4/1 褐灰色中～大礫層　26と同一層

Ab区北壁



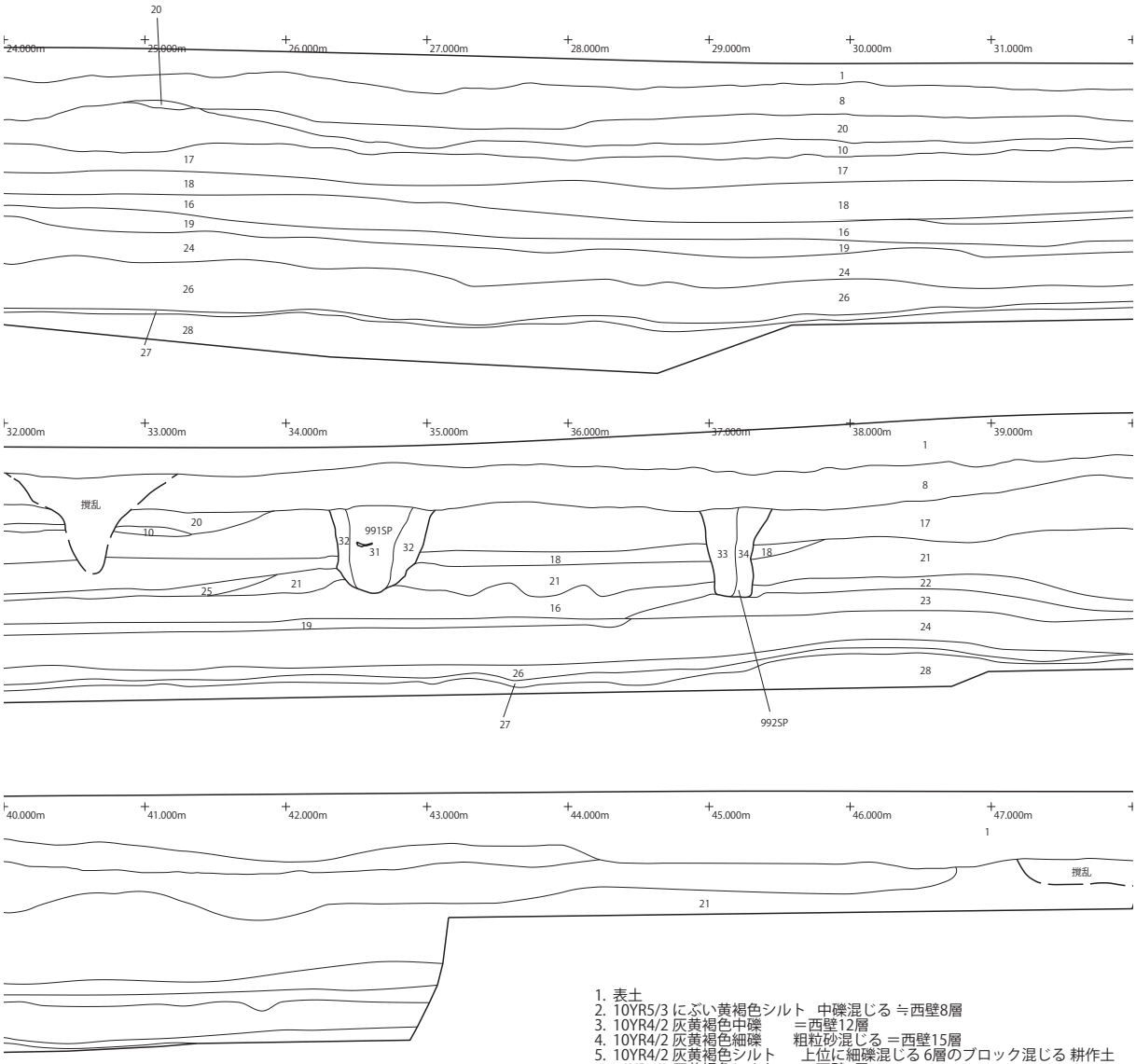




11Aトレンチセクション図　S＝1：50（24）

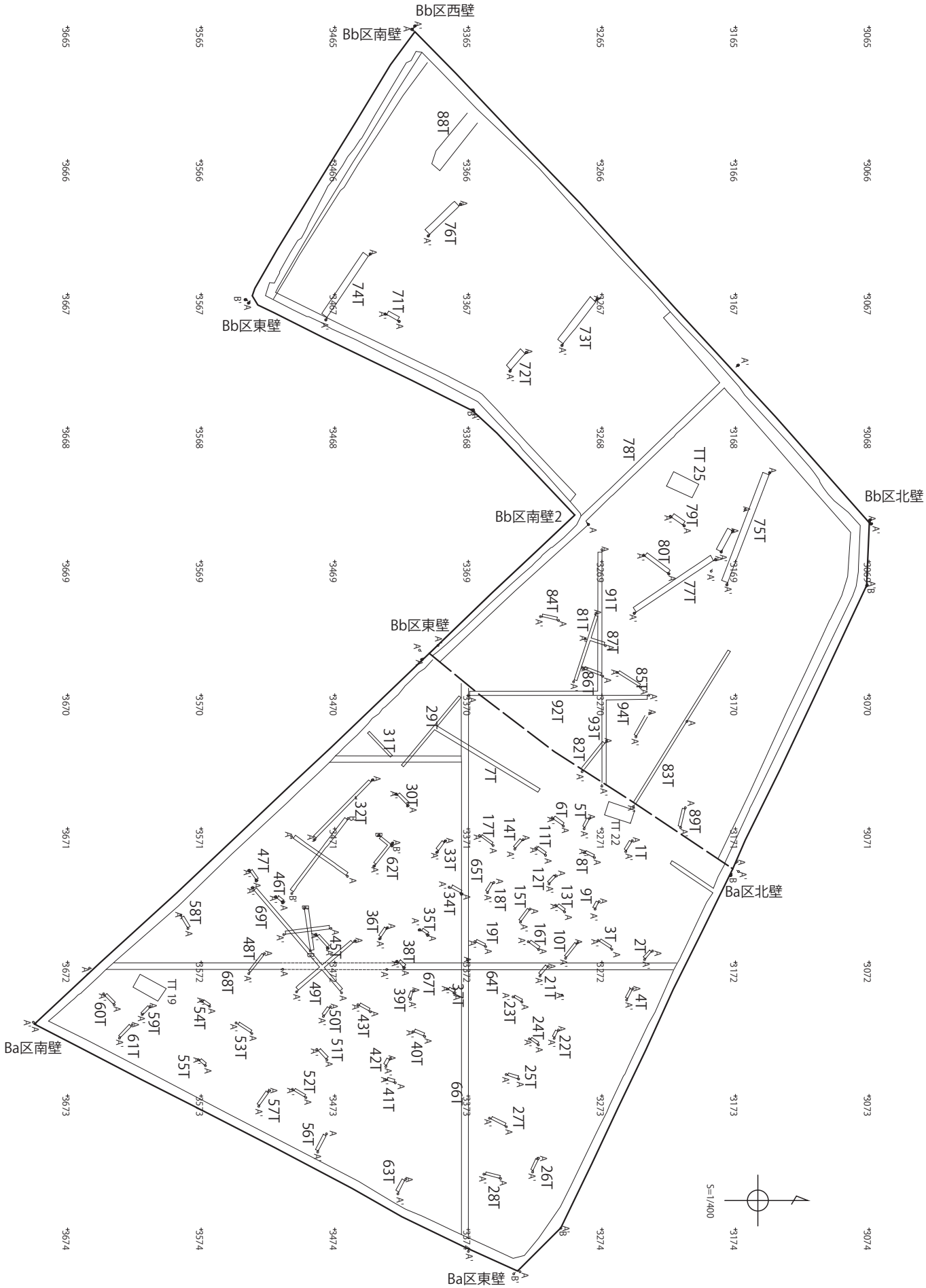
遺構図版52

Ab区北壁



1. 表土
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中礫混じる ≒西壁8層
3. 10YR4/2 灰黄褐色中礫　　＝西壁12層
4. 10YR4/2 灰黄褐色細礫　　粗粒砂混じる ＝西壁15層
5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　上位に細礫混じる 6層のブロック混じる 耕作土
6. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　　＝西壁7層
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　6層よりマンガン多く含む ＝西壁4層
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫多く混じる
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色細礫　シルト混じる
10. 10YR4/3 にぶい黄褐色細～中礫
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色中礫
12. 10YR4/2 灰黄褐色中礫
13. 10YR4/1 褐灰色中礫　　上位は極細粒砂
14. 10YR4/1 褐灰色シルト　　細礫混じる
15. 10YR4/2 灰黄褐色細礫
16. 10YR4/2 灰黄褐色中～粗粒砂
17. 10YR4/1 褐灰色粗粒砂～細礫　10YR5/6 黄褐色中礫混じる
18. 10YR4/1 褐灰色粗粒砂～細礫　10YR5/6 黄褐色中礫多く混じる
19. 10YR4/1 褐灰色細粒～粗粒砂　上位に10YR5/6 黄褐色中礫混じる
20. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂　10YR5/6 黄褐色細礫混じる
21. 10YR4/1 褐灰色中礫
22. 10YR4/1 褐灰色極粗粒砂
23. 10YR4/1 褐灰色中礫　　シルト混じる
24. 10YR4/1 褐灰色シルト
25. 10YR5/6 黄褐色シルト～粗粒砂
26. 10YR4/1 褐灰色シルト　　10YR5/6 黄褐色中礫混じる
27. 10YR5/6 黄褐色中礫～粗粒砂
28. 10YR4/1 褐灰色粗粒砂～細礫
29. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　細礫混じる
30. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫多く混じる
31. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫混じる 柱痕 灰釉陶器椀あり (991SP)
32. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる 柱穴 (991SP)
33. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる 10YR5/6 黄褐色細礫混じる 柱痕 (992SP)
34. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる (992SP)

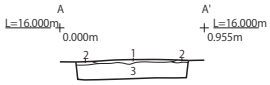
11Aトレンチセクション図　S＝1：50（25）



11Bトレンチ配置図およびセクション位置図

遺構図版54

1T

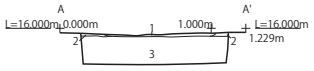


1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる

2T

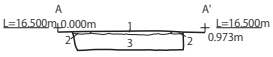
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる

3T



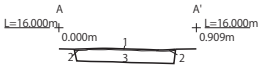
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる
3. 10YR4/4 褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる

4T



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる

5T

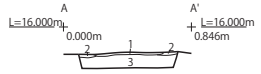


1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

6T

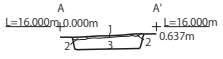
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる

8T



1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

9T



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

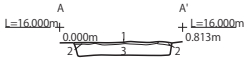
10T

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 極粗粒砂混じる

11T

1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる

12T

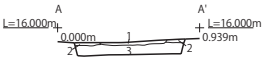


1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

13T

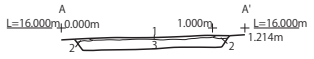
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる

14T



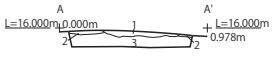
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

15T



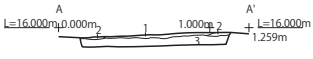
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる

16T



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる

17T

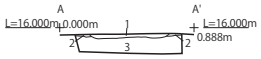


1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

18T

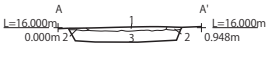
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR4/4 褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる

19T



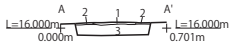
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

21T



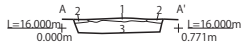
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる

22T



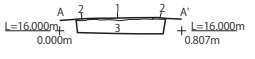
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR4/4 褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる

23T



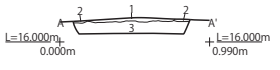
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる

24T



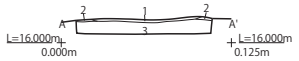
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

25T



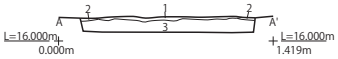
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

26T



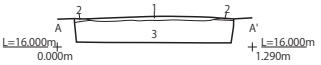
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

27T



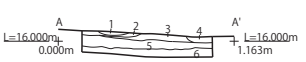
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる

28T



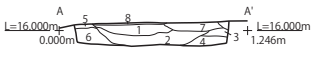
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂混じる

29T



1. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 極粗粒砂混じる
2. 10YR4/2 灰黄褐色 礫＋シルト 細礫主体
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂混じる
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる

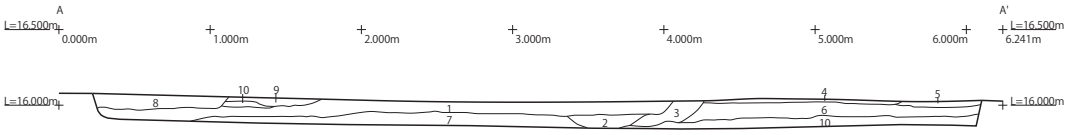
30T



1. 10YR3/2 黒褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR4/1 褐灰色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
5. 10YR5/1 褐灰色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
6. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

11Bトレンチセクション図　S＝1：50（1）

32T



1. 10YR3/2 黒褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
5. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
6. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
7. 10YR4/4 褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
8. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
9. 10YR4/4 褐色シルト　沈鉄 マンガン斑 粗粒砂混じる
10. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑 粗粒砂混じる

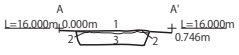
33T

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR4/4 褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

34T

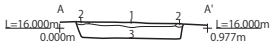
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

35T



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

36T



1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR4/3 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

37T

1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

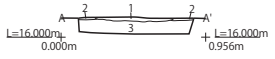
38T

1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

39T

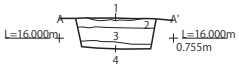
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

40T



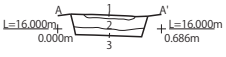
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

41T



1. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
4. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

42T

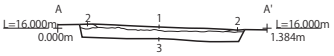


1. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる

43T

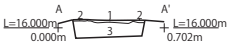
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
4. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

45T



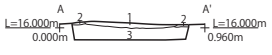
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

46T



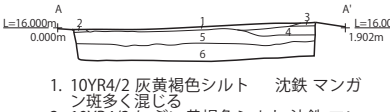
1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

47T



1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR6/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/3 黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる

48T

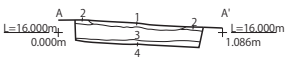


1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
4. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
6. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

50T

1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

51T

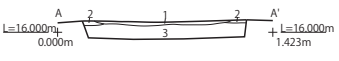


1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
4. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

52T

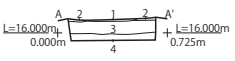
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
4. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

53T



1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

54T

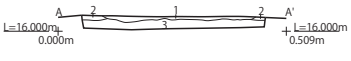


1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
4. 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる

11Bトレンチセクション図　S＝1：50（2）

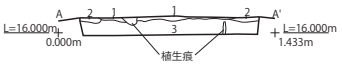
遺構図版56

56T



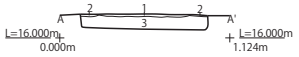
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる

57T



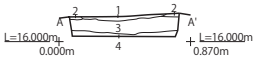
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

58T



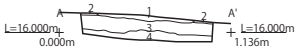
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

59T



1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 中粒砂混じる
2. 10YR3/2 黒褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

60T



1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
4. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる

62T-A

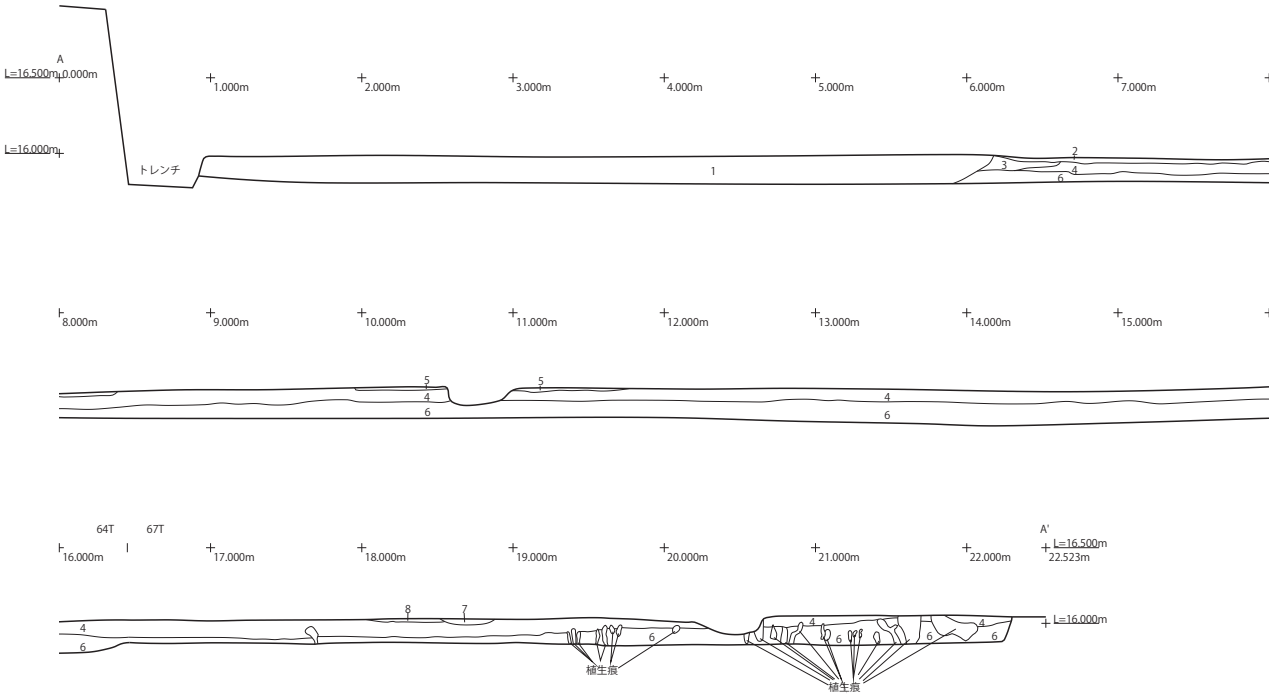
1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　10YR5/3 にぶい黄褐色シルトを斑状に含む 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 土器片含む
4. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

62T-B

63T

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR4/4 褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

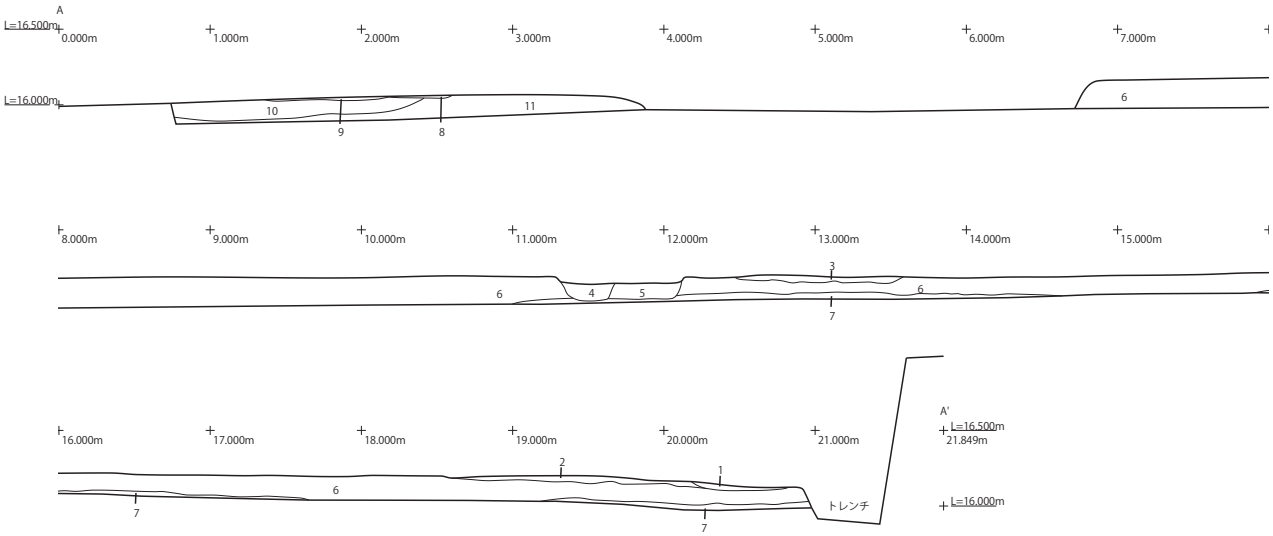
64T・67T



1. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫多く混じる
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂混じる(040SN 048SN関連)
3. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 細礫混じる
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂 細礫 中礫混じる
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる(048SN 049SN関連)
6. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂 細礫混じる
7. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる(046SN 065SN関連)
8. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂混じる

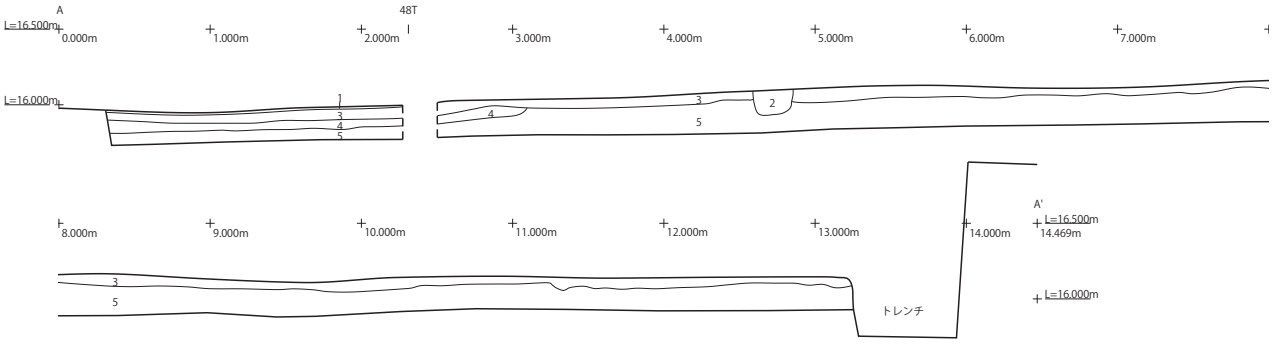
11Bトレンチセクション図　S＝1：50（3）

66T



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中粒砂混じる(066SNアゼ関連)
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる(053SN 056SNアゼ関連)
4. 10YR7/3 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
5. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
6. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 中粒砂混じる 細礫 中礫混じる
7. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂 中礫若干混じる
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる (047SN 050SNアゼ関連)
9. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂混じる
10. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂 細礫 中礫混じる
11. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂 細礫混じる

68T

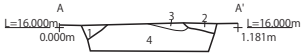


1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑混じる 中粒砂混じる
3. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑多く混じる

11Bトレンチセクション図　S＝1：50（4）

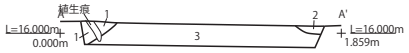
遺構図版58

71T



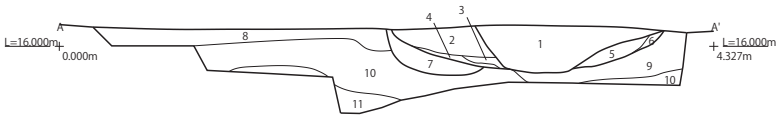
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 中粒砂ごく若干混じる
2. 10YR3/2 黒褐色シルト 中粒砂 細礫 ごく若干混じる
3. 10YR3/2 黒褐色シルト 中粒砂ごく若干混じる
4. 10YR3/3 黒褐色シルト 粗粒砂 中粒砂 細礫混じる

72T



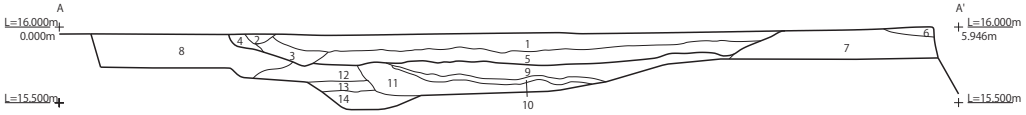
1. 10YR3/2 黒褐色シルト　　極粗粒砂 細礫混じる
2. 10YR3/3 暗褐色シルト　　細礫若干混じる
3. 10YR4/2 灰黄褐色礫＋シルト 細礫 極粗粒砂主体 中礫混じる

73T



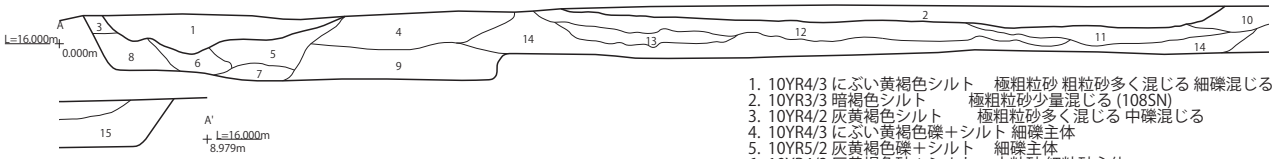
1. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　　極粗粒砂 粗粒砂主体 中粒砂ごく若干混じる(090SD)
2. 10YR3/2 黒褐色シルト　　中粒砂 細礫 混じる(100SD)
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂＋シルト 中粒砂主体 極粗粒砂混じる(100SD)
4. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　細粒砂混じる(100SD)
5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　中粒砂多く混じる(100SD)
6. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　　中粒砂多く混じる(100SD)
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂 中粒砂若干混じる (102SD)
8. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　中礫 細礫 極粗粒砂混じる
9. 10YR4/4 褐色シルト　　粗粒砂 中粒砂混じる 細礫少量混じる
10. 10YR4/2 灰黄褐色礫＋シルト　　中礫 細礫 極粗粒砂主体
11. 10YR5/6 黄褐色シルト　　極粗粒砂若干混じる 沈鉄混じる

74T



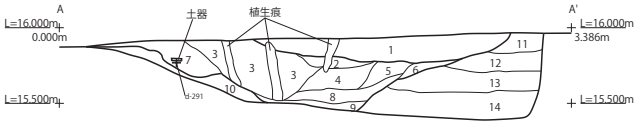
1. 10YR3/2 黒褐色シルト　　粗粒砂少量混じる (114SN)
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　　極粗粒砂少量混じる (114SN)
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　極粗粒砂少量混じる (114SN)
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 中粒砂混じる (114SN)
5. 10YR3/1 黒褐色シルト　　極粗粒砂少量混じる (114SN)
6. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　極粗粒砂 中粒砂混じる
7. 10YR4/2 灰黄褐色礫＋シルト 中礫主体 極粗粒砂混じる
8. 10YR3/3 暗褐色砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂主体 中粒砂混じる
9. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　粗粒砂ごく少量混じる
10. 10YR4/2 灰黄褐色砂＋シルト 中粒砂主体
11. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　中粒砂混じる
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂混じる
13. 10YR4/1 褐灰色砂　　中粒砂 粗粒砂主体
14. 10YR4/2 灰黄褐色砂　　粗粒砂主体 粗粒砂混じる

75T



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 細礫混じる (100SD埋土)
2. 10YR3/3 暗褐色シルト　　極粗粒砂少量混じる (108SN)
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　極粗粒砂多く混じる 中礫混じる
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色礫＋シルト 細礫主体
5. 10YR5/2 灰黄褐色礫＋シルト　　細礫主体
6. 10YR4/2 灰黄褐色砂＋シルト　　中粒砂 細粒砂主体
7. 10YR5/1 褐灰色礫＋シルト　　細礫 極粗粒砂主体
8. 10YR3/1 黒褐色礫＋シルト　　中礫 細礫 極粗粒砂主体
9. 10YR4/2 灰黄褐色礫＋シルト　　細礫主体 極粗粒砂多く混じる
10. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂＋シルト 極粗粒砂主体 粗粒砂多く混じる
11. 10YR4/4 褐色シルト
12. 10YR4/2 灰黄褐色礫＋シルト　　細礫主体 中礫 粗粒砂混じる
13. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　　極粗粒砂 粗粒砂 中礫砂多く混じる
14. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　　極粗粒砂 粗粒砂 中礫砂多く混じる
15. 10YR5/2 灰黄褐色礫＋シルト　　細礫主体 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる

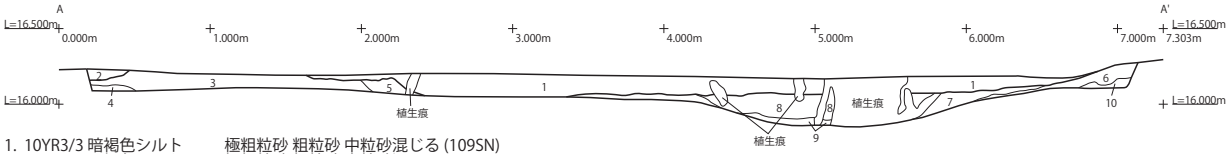
76T



1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　細粒砂混じる (100SD埋土)
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　　細粒砂少量混じる (101SK埋土)
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　細粒砂混じる 粗粒砂若干混じる(101SK埋土)
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　　細粒砂 中粒砂混じる (101SK埋土)
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　　中粒砂 粗粒砂混じる (101SK埋土)
6. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　細礫 極粗粒砂混じる (101SK埋土)
7. 10YR4/4 褐色シルト　　中礫 細礫混じる (101SK埋土)
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂＋シルト 細粒砂主体 中粒砂 粗粒砂混じる (101SK埋土)
9. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂＋シルト 粗粒砂少量混じる (101SK埋土)]
10. 10YR5/4 にぶい黄褐色礫＋シルト 中礫主体 (101SK埋土)
11. 10YR3/2 黒褐色シルト　　細粒砂混じる
12. 10YR3/2 黒褐色シルト　　極粗粒砂 粗粒砂混じる
13. 10YR4/2 灰黄褐色礫＋シルト　　細礫主体 極粗粒砂~中粒砂多く混じる
14. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂＋シルト 細粒砂主体 中粒砂 粗粒砂混じる

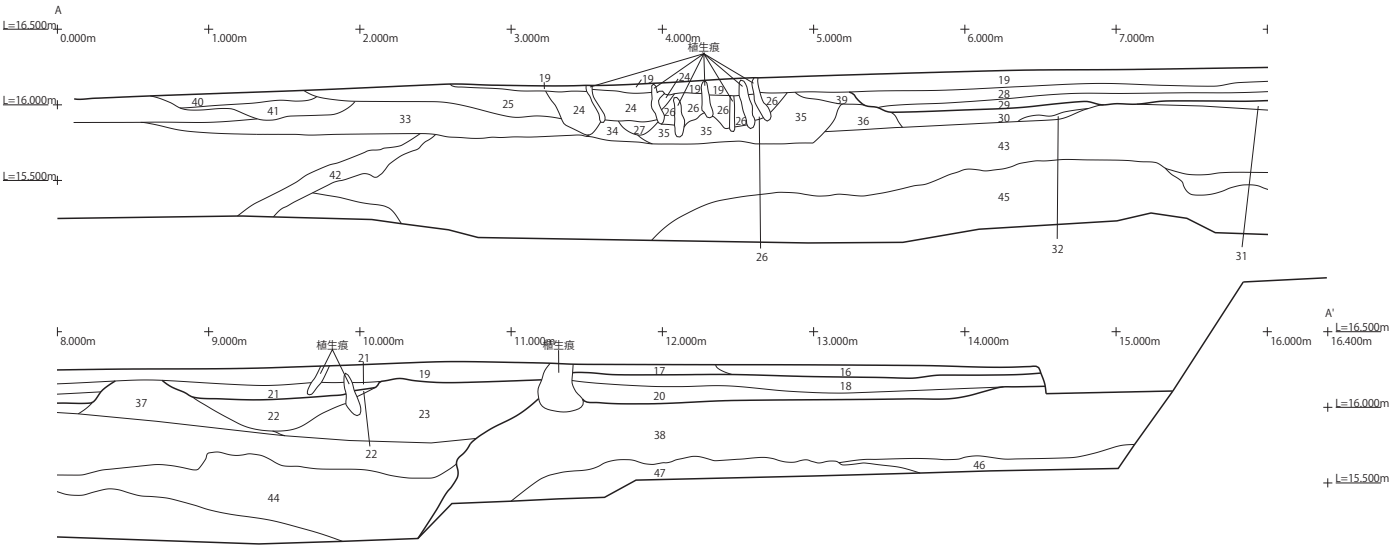
11Bトレンチセクション図　S＝1：50（5）

77T



1. 10YR3/3 暗褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂 中粒砂混じる (109SN)
2. 10YR3/2 黒褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂 中粒砂混じる (108SN)
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色礫＋砂　細礫 極粗粒砂 粗粒砂 中粒砂主体
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂＋シルト 粗粒砂 中粒砂主体
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂＋シルト 粗粒砂 中粒砂主体 極粗粒砂混じる
6. 10YR4/2 灰黄褐色礫＋シルト　中礫主体
7. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　細礫多く混じる
8. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂若干混じる
9. 10YR4/1 褐灰色シルト　粗粒砂 中粒砂若干混じる
10. 10YR4/4 褐色シルト　細礫 極粗粒砂若干混じる

78T(Bb区南壁2の一部)

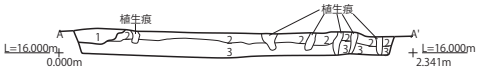


16. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂多く混じる
17. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂多く混じる
18. 10YR4/3 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂多く混じる
19. 10YR3/2 黒褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
20. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂混じる
21. 10YR3/2 黒褐色シルト　粗粒砂多く混じる
22. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる
23. 10YR3/3 暗褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる
24. 10YR3/2 黒褐色シルト　粗粒砂混じる
25. 10YR3/1 黒褐色シルト　粗粒砂少量混じる
26. 10YR3/2 黒褐色シルト　粗粒砂少量混じる
27. 10YR3/2 黒褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂少量混じる
28. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 粗粒砂混じる
29. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる
30. 10YR3/2 黒褐色シルト　細礫 極粗粒砂混じる
31. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂混じる
32. 10YR4/2 灰黄褐色礫＋シルト 中礫 極粗粒砂混じる
33. 10YR3/2 黒褐色シルト　極粗粒砂混じる
34. 10YR3/2 黒褐色礫＋シルト　極粗粒砂主体
35. 10YR3/2 黒褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる
36. 10YR3/3 暗褐色礫＋シルト　細礫 極粗粒砂主体
37. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 中礫 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
38. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 中礫 極粗粒砂多く混じる
39. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる
40. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂混じる
41. 10YR5/1 褐灰色砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫若干混じる
42. 10YR5/2 灰黄褐色砂　極粗粒砂主体 細礫混じる
43. 10YR5/1 褐灰色礫＋砂　細礫 極粗粒砂主体 中礫多く混じる 黄褐色の粘土塊多く混じる
44. 10YR4/1 褐灰色礫＋砂　細礫 極粗粒砂主体
45. 10YR5/2 灰黄褐色礫＋砂　中礫 中粒砂主体
46. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂 粗粒砂 細礫 中礫多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
47. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる

79T

1. 10YR3/2 黒褐色シルト　極粗粒砂若干混じる
2. 10YR3/3 暗褐色シルト　粗粒砂若干混じる
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる

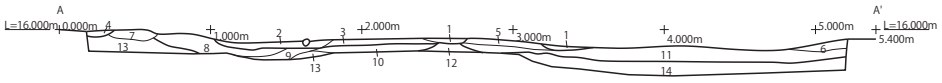
80T



1. 10YR3/2 黒褐色シルト　中粒砂混じる
2. 10YR4/1 褐灰色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色礫＋シルト 細礫主体 極粗粒砂多く混じる

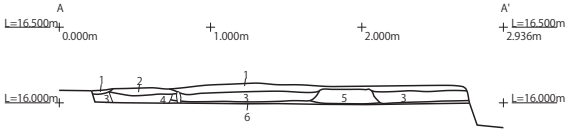
遺構図版60

81T



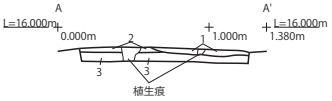
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
5. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
6. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
8. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
9. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂 細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
10. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂若干混じる 中礫若干混じる
11. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
12. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
13. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
14. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 炭化物粒混じる

82T



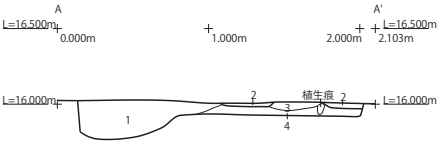
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる (Bb区東壁2 2層)
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 中粒砂 細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (Bb区東壁2 4層)
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂 細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
6. 10YR5/4 黄褐色シルト　細礫 粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (Bb区東壁2 13層)

84T



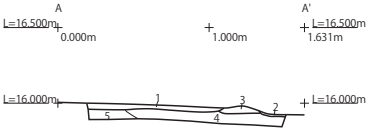
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる

85T



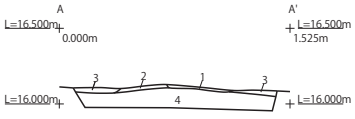
1. 10YR3/2 黒褐色シルト　中礫 細礫多く混じる
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (86T 1層)
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
4. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる

86T



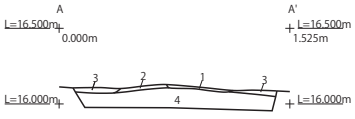
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (81T 2層)
3. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (81T 8層)
5. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ 81T 13層)

87T



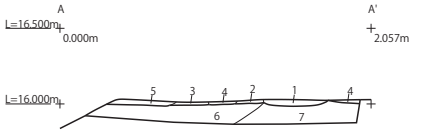
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (81T 1層)
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (81T 11層)
4. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ 81T 13層)

89T



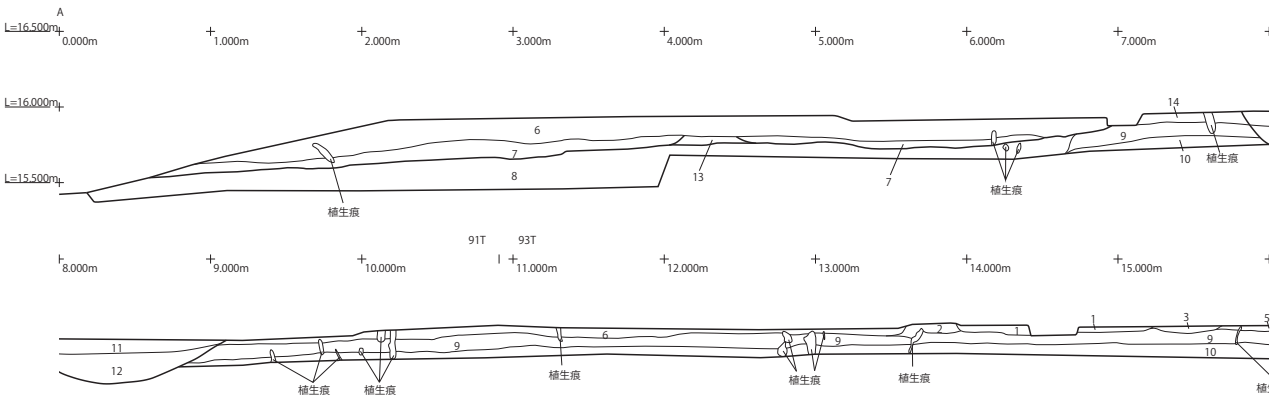
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
3. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫 粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (=東壁2 13層)

90T



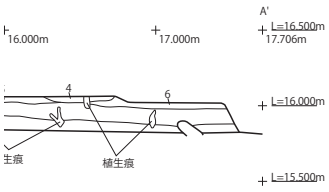
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
4. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂混じる 極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
6. 10YR5/3 灰黄褐色シルト　細粒砂若干混じる 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂若干混じる 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる

91・93T



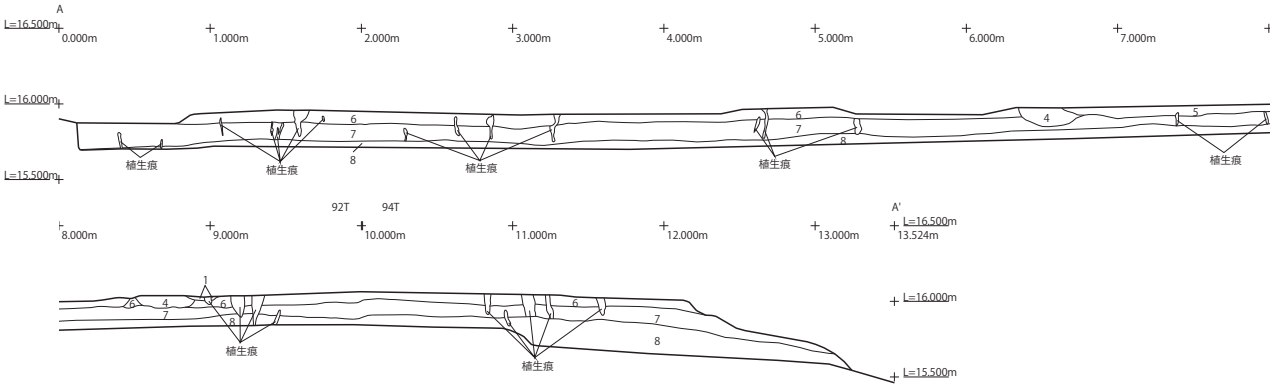
11Bトレンチセクション図　S＝1：50（7）

91・93T



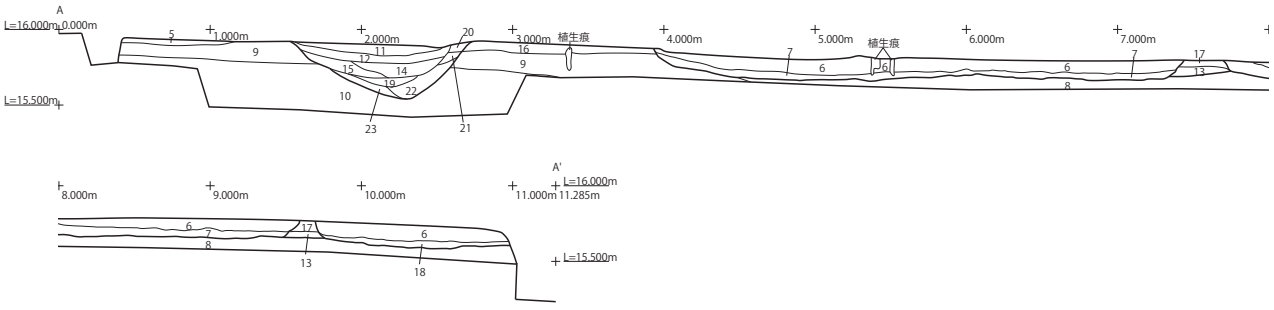
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑5層より多い
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
6. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 弥生土器出土 (東壁2 13層相当)
7. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 弥生土器出土 (東壁2 14層相当)
8. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
9. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 弥生土器出土 (東壁2 14層相当)
10. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 弥生土器出土 炭化物粒混じる (東壁2 15層相当)
11. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (221SD)
12. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂混じる 細礫若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物(材)多く混じる (221SD)
13. 10YR6/3 にぶい黄橙シルト　粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
14. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる

92・94T



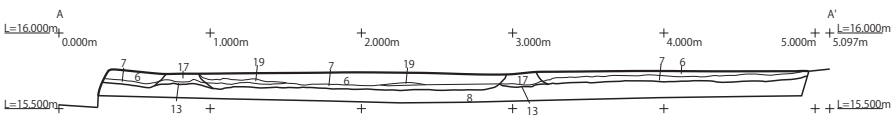
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
6. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 弥生土器出土 (東壁2 13層相当)
7. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 弥生土器出土 (東壁2 14層相当)
8. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる

95T



5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
6. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 弥生土器出土 (東壁2 13層相当)
7. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 弥生土器出土 (東壁2 14層相当)
8. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
9. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 弥生土器出土 (東壁2 14層相当)
10. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 弥生土器出土 炭化物粒混じる (東壁2 15層相当)
11. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (221SD)
12. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂混じる 細礫若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (221SD)
13. 10YR6/3 にぶい黄橙シルト　粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
14. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
15. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
16. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
17. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
18. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる 炭化物粒多く混じる
19. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物混じる (224SD)
20. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (224SD)
21. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂 細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (224SD)
22. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物(材)混じる (224SD)
23. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂 細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物混じる (224SD)

96T

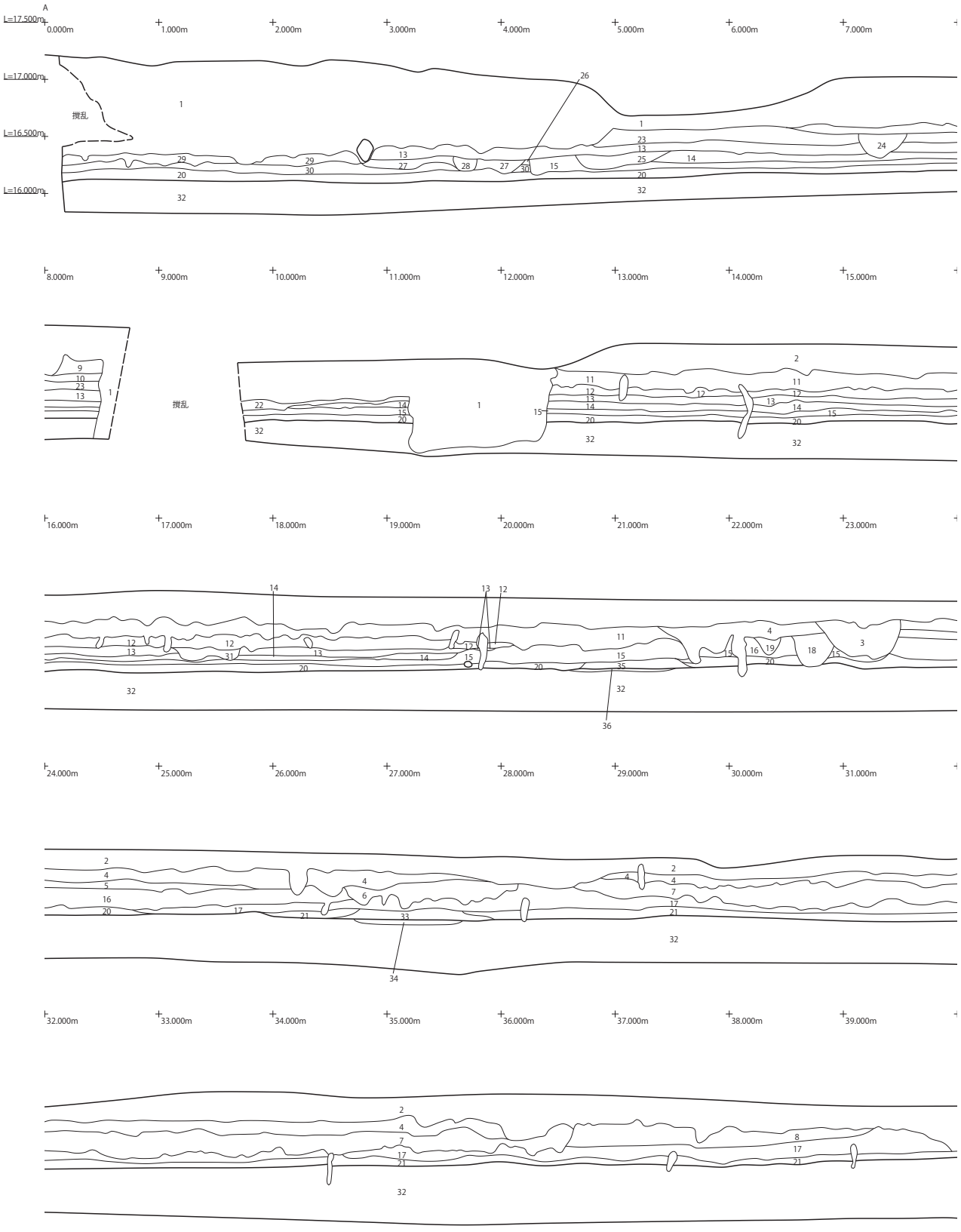


6. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 弥生土器出土 (東壁2 13層相当)
7. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 弥生土器出土 (東壁2 14層相当)
8. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
13. 10YR6/3 にぶい黄橙シルト　粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
17. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
19. 10YR5/1 褐灰色砂　　粗粒砂 中粒砂主体 細礫混じる

11Bトレンチセクション図　S＝1：50（8）

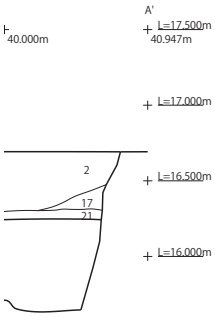
遺構図版62

Ba区東壁



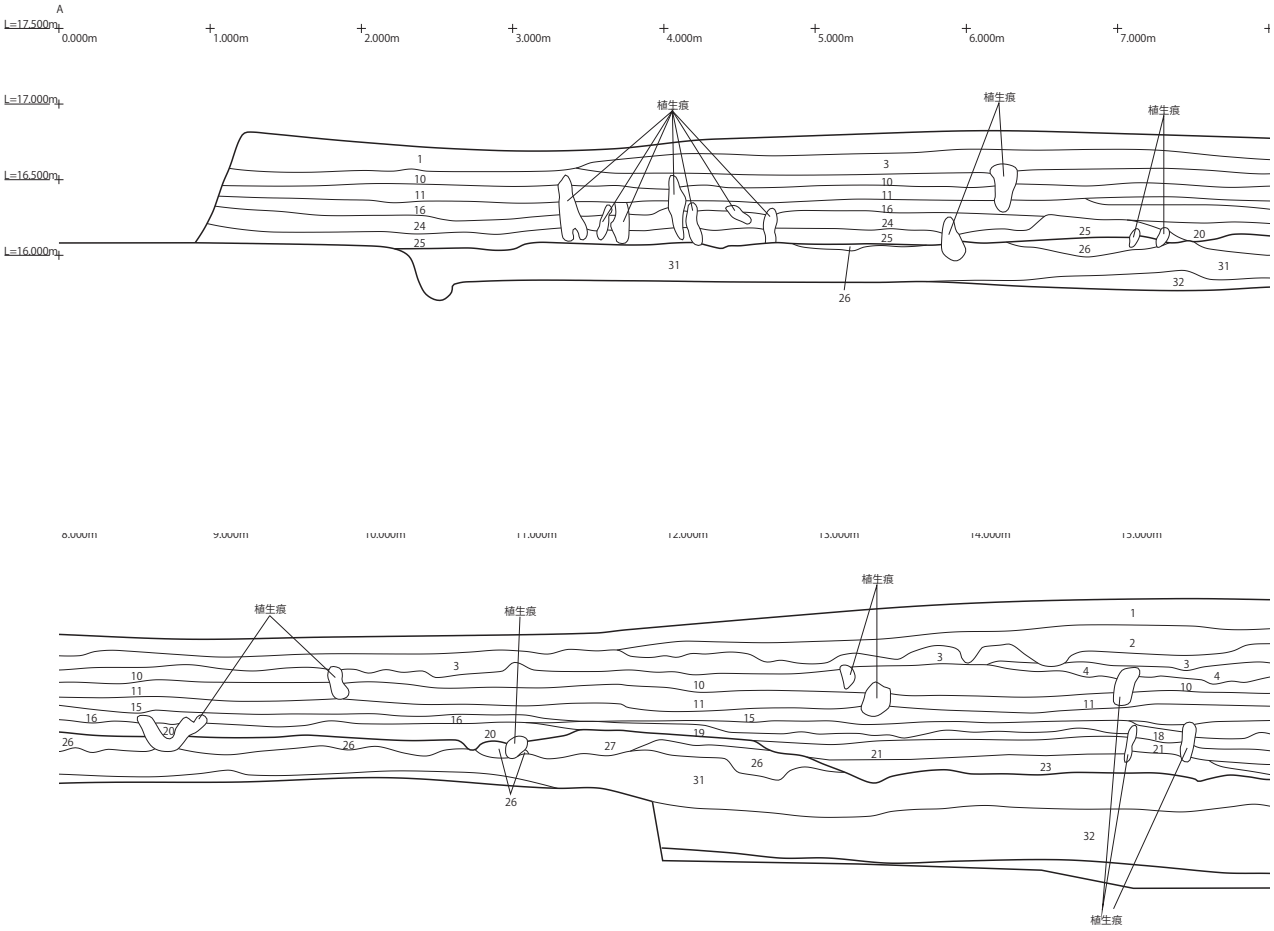
11Bトレンチセクション図　S＝1：50（9）

Ba区東壁



1. 表土＋宅地基礎
2. 表土＋耕作土
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂混じる
5. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
6. 10YR4/1 褐灰色シルト　粗粒砂混じる
7. 10YR4/2 灰黄褐色シルト＋礫 中礫 細礫混じる
8. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
9. 10YR3/2 黒褐色シルト　極粗粒砂混じる
10. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
11. 10YR4/1 褐灰色シルト　粗粒砂混じる
12. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
13. 10YR5/6 黄褐色シルト　中粒砂混じる
14. 10YR5/2 灰黄褐色シルト
15. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂混じる
16. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
17. 10YR5/3 にぶい黄橙色シルト 粗粒砂混じる
18. 10YR4/2 灰黄褐色シルト
19. 10YR5/1 褐灰色シルト
20. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト
21. 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト
22. 10YR3/2 黒褐色シルト
23. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂混じる
24. 10YR3/2 黒褐色シルト　中粒砂混じる
25. 10YR3/3 暗褐色シルト　細粒砂混じる
26. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
27. 10YR3/2 黒褐色シルト　中粒砂混じる
28. 10YR5/2 灰黄褐色シルト
29. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる
30. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
31. 10YR4/2 灰黄褐色シルト
32. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 細礫混じる
33. 10YR5/4 にぶい黄橙色　沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂混じる (076SN 077SNアゼに関連)
34. 10YR4/3 にぶい黄橙色　沈鉄 マンガン斑多く混じる (076SN 077SNアゼに関連)
35. 10YR5/4 にぶい黄橙色　沈鉄 マンガン斑多く混じる (068SN 076SNアゼに関連)
36. 10YR4/4 褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる (068SN 076SNアゼに関連)

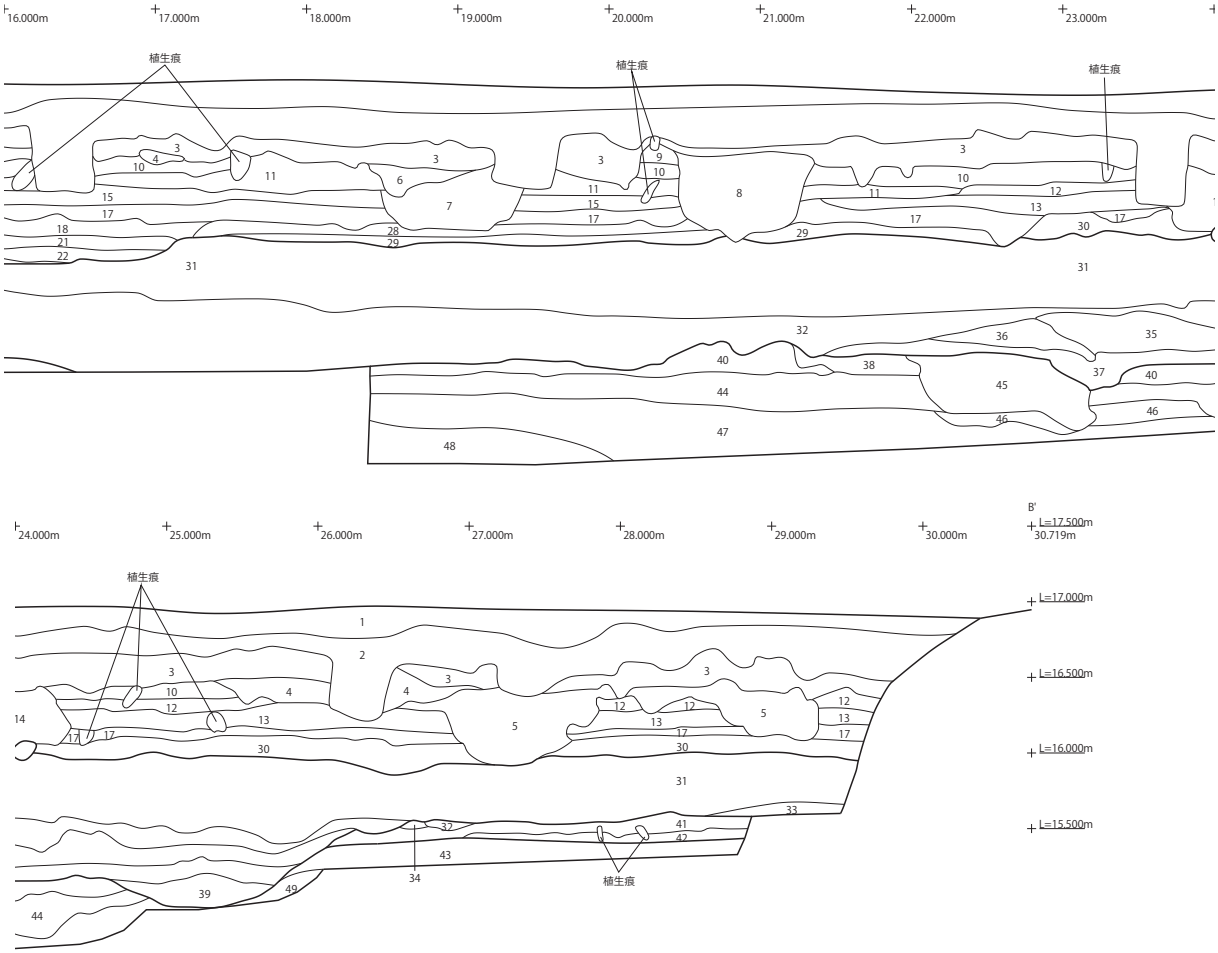
Bb区東壁



11Bトレンチセクション図　S＝1：50（10）

遺構図版64

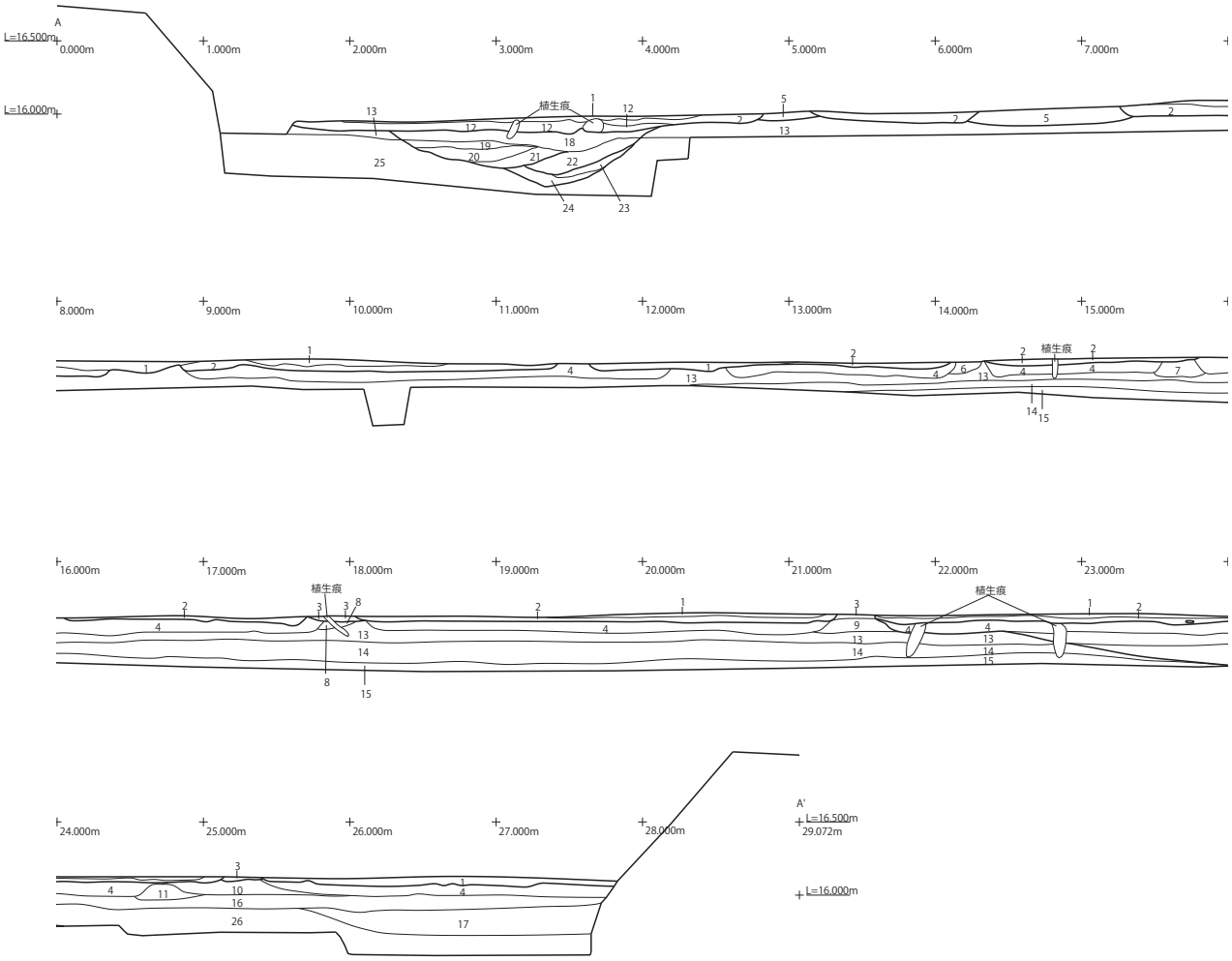
Bb区東壁



1. 10YR6/2 灰黄褐色礫＋シルト　細礫 極粗粒砂主体 層下部でシルトが斑状に存在する(南壁1層)
2. 10YR7/6 明黄褐色礫　中礫 細礫主体(南壁6層)
3. 10YR4/1 褐灰色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄多く混じる
4. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
5. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　10YR5/1 褐灰色シルト斑状に混じる
6. 10YR5/1 褐灰色シルト　粗粒砂 細礫少量混じる
7. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂混じる 10YR4/2 灰黄褐色シルト斑状に混じる
8. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂 細礫混じる 10YR4/2 灰黄褐色シルト斑状に混じる
9. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる
10. 10YR7/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂少量混じる 炭化物少量混じる
11. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂少量混じる
12. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄多く混じる(南壁7層)
13. 10YR4/1 褐灰色シルト　中粒砂混じる 沈鉄混じる(南壁44層)
14. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂 細礫少量混じる 10YR4/2 灰黄褐色シルト斑状に混じる
15. 10YR6/1 褐灰色シルト　極粗粒砂 細礫少量混じる
16. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫少量混じる
17. 10YR4/1 褐灰色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄混じる(南壁46層)
18. 10YR3/2 黒褐色シルト　粗粒砂少量混じる
19. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂やや多く混じる
20. 10YR4/1 褐灰色シルト　10YR5/2 灰黄褐色シルト斑状に混じる 極粗粒砂混じる
21. 10YR3/3 褐色シルト　粗粒砂少量混じる
22. 10YR3/1 黒褐色シルト　粗粒砂少量混じる
23. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫混じる
24. 10YR3/1 黒褐色シルト　10YR5/2 灰黄褐色シルト斑状に混じる 粗粒砂混じる
25. 10YR4/1 褐灰色シルト　10YR5/2 灰黄褐色シルト斑状に混じる 粗粒砂混じる
26. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 中粗砂 細粒砂多く混じる
27. 10YR3/2 黒褐色シルト　粗粒砂多く混じる
28. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂若干混じる
29. 10YR3/2 黒褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂若干混じる
30. 10YR3/2 黒褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂若干混じる(南壁52層)
31. 10YR3/2 黒褐色礫＋シルト　細礫 中礫主体 土師器片など出土(南壁69層)
32. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂＋礫　層下層および南側は極粗粒砂 粗粒砂主体 層上層は細礫 中礫が多くある
33. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト＋砂 中粒砂 細粒砂主体 沈鉄 マンガン斑混じる(南壁84層)
34. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂少量混じる
35. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂　中粒砂 粗粒砂主体 炭化物混じる
36. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂＋シルト 極粗粒砂主体 細礫混じる
37. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂 中粒砂混じる
38. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト＋砂 極粗粒砂主体
39. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂＋シルト 極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫混じる(104SD)
40. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる(43層に対応)
41. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる(南壁86層)
42. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる(南壁87層)
43. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 中粒砂混じる 炭化物粒混じる (南壁88層)
44. 10YR5/2 灰黄褐色礫＋シルト　中礫 細礫主体
45. 10YR5/3 にぶい黄褐色礫＋シルト 中礫 細礫主体
46. 10YR6/2 灰黄褐色砂＋シルト　細粒砂 極粗粒砂主体
47. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト＋砂 中粒砂 粗粒砂主体 細礫多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
48. 10YR6/3 にぶい黄橙色砂＋礫　細礫 極粗粒砂 粗粒砂主体 中礫混じる
49. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 中礫混じる 炭化物混じる(南壁97層)

11Bトレンチセクション図　S＝1：50（11）

Bb区東壁2

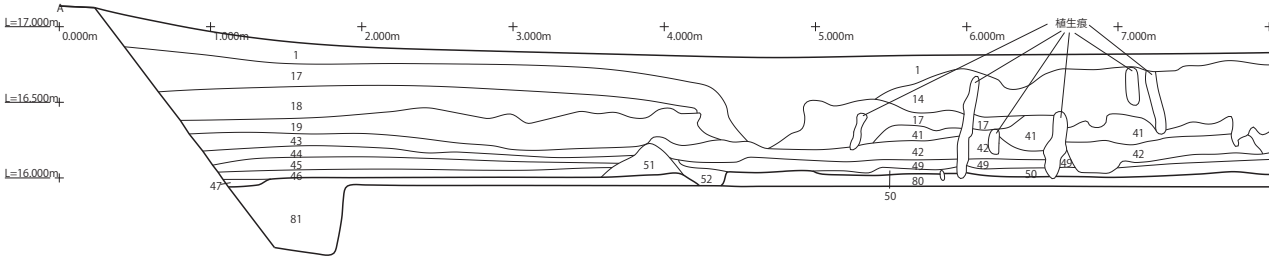


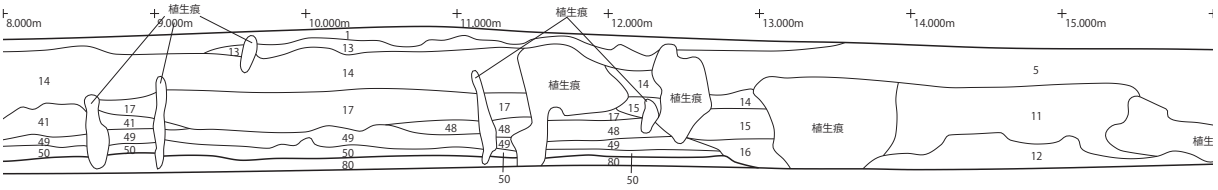
1. 10YR4/2 褐灰色シルト＋礫　細礫主体 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる
3. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂若干混じる
4. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中粒砂ごく若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 沈鉄 マンガン斑混じる
9. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
10. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
11. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
12. 10YR4/4 褐色シルト　粗粒砂 中粒砂若干混じる
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細礫 粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
14. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
15. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
16. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (Bb区北壁 67層)
17. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒若干混じる (Bb区北壁 68層)
18. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 中粒砂 細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる (221SD)
19. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる (221SD)
20. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (221SD)
21. 10YR7/3 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる (221SD)
22. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物(材) 焼土混じる (223SD)
23. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト 細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる (224SD)
24. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物(材・粒)混じる (224SD)
25. 10YR7/3 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
26. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂 粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒 焼土塊混じる

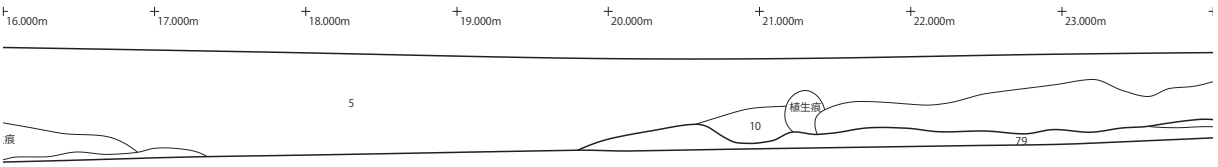
11Bトレンチセクション図　S＝1：50（12）

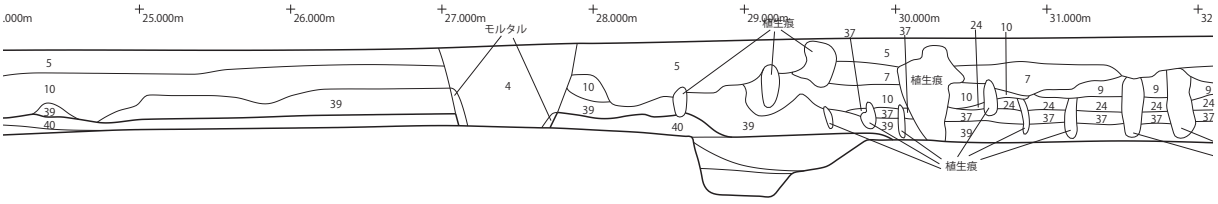
遺構図版66

Bb区西壁



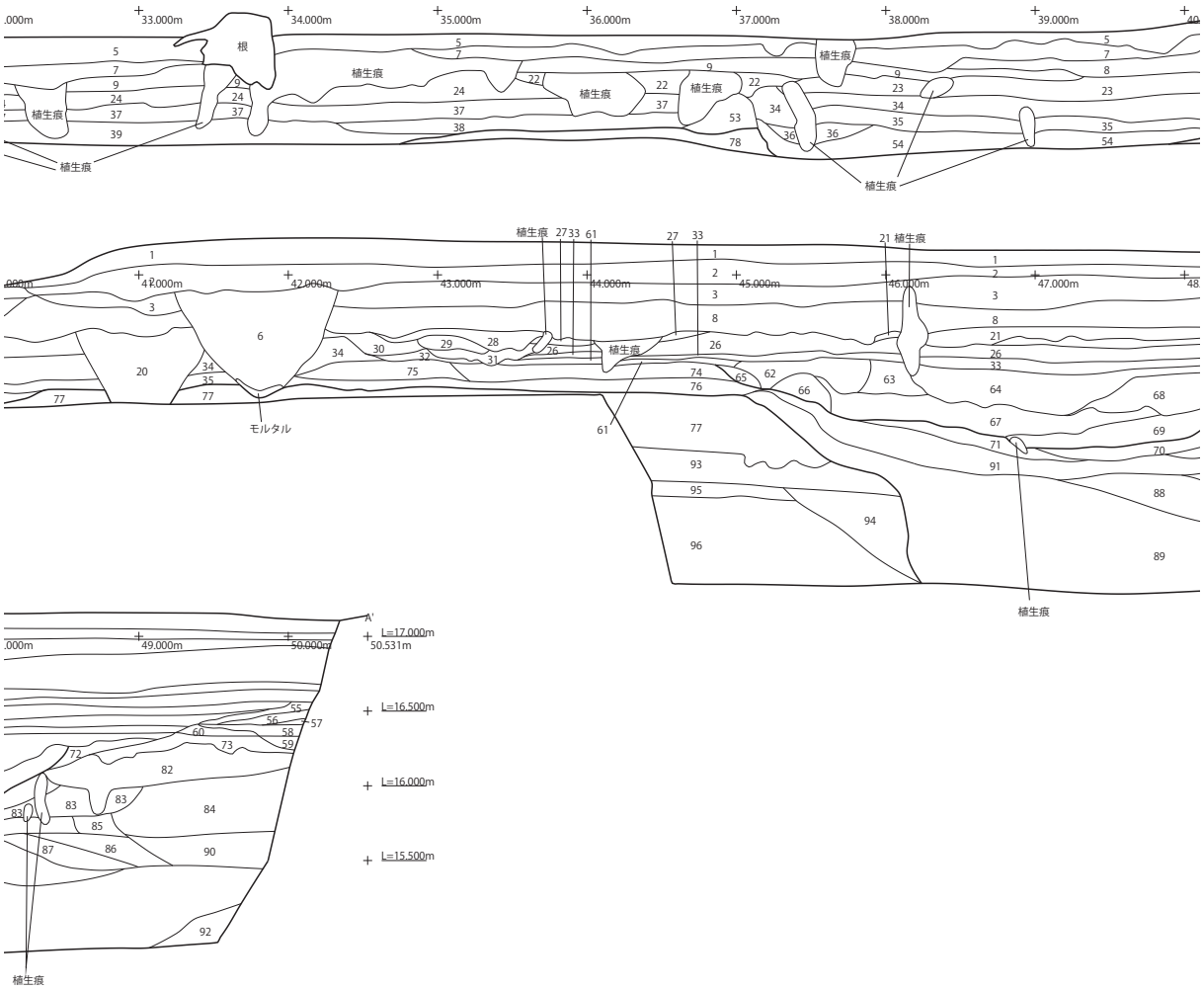






11Bトレンチセクション図　S＝1：50（13）

Bb区西壁

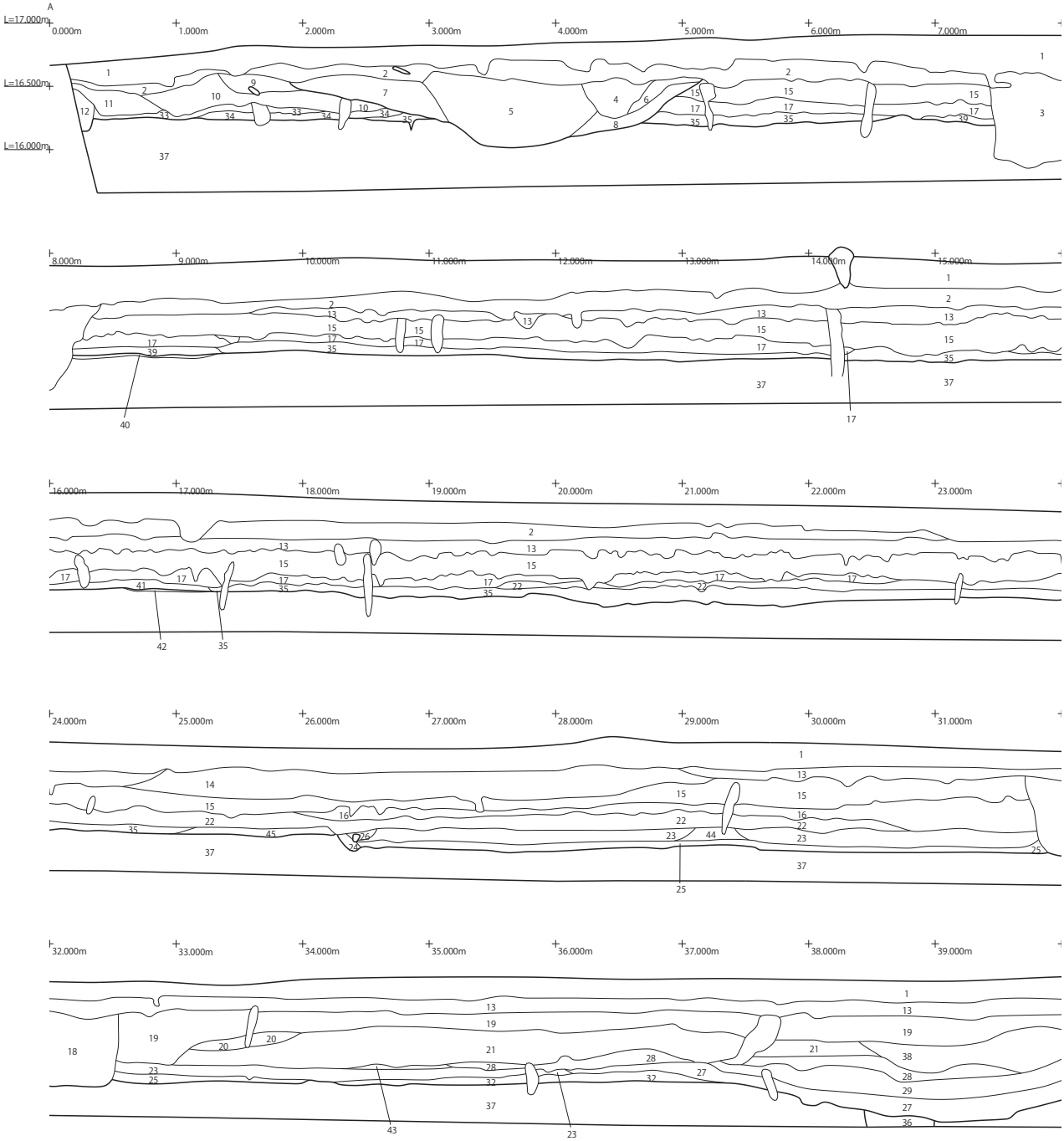


1. 10YR7/8 黄橙色礫＋シルト　盛土 (Bb区南壁 2層)
2. 10YR6/6 明黄褐色砂＋礫　盛土
3. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中礫 細礫 極粗粒砂多く混じる
4. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中礫 極粗粒砂混じる
5. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
6. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中礫 細礫 極粗粒砂多く混じる
7. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
8. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中礫 細礫 極粗粒砂多く混じる
9. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂多く含む 炭化物若干含む
10. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト　中礫 細礫 極粗粒砂混じる
11. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる
12. 10YR4/1 褐灰色シルト　中礫 極粗粒砂 粗粒砂含む
13. 10YR7/6 明黄褐色砂＋礫　盛土
14. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂少量混じる
15. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂少量混じる
16. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂少量混じる
17. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる (Bb区南壁 3層)
18. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる (Bb区南壁 22層)
19. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる (Bb区南壁 23層)
20. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる
21. 10YR5/1 褐灰色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
22. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる
23. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 中礫 細礫混じる
24. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
25. 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる
26. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる
27. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　中粒砂多く混じる
28. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる
29. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる
30. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
31. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる
32. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂多く混じる 極粗粒砂混じる
33. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂多く混じる 沈鉄多く混じる
34. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 細礫混じる
35. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる
36. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる
37. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂多く混じる 細礫混じる
38. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂多く混じる
39. 10YR8/4 浅黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
40. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂多く混じる 中礫混じる
41. 10YR8/4 浅黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
42. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる
43. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄混じる (Bb区南壁 26層)
44. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄混じる (Bb区南壁 27層)
45. 10YR3/2 黒褐色シルト　中粒砂混じる 沈鉄混じる (Bb区南壁 47層)
46. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄混じる (Bb区南壁 48層)
47. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫 粗粒砂混じる 沈鉄混じる (Bb区南壁 49層)
48. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
49. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 細礫混じる
50. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる
51. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる
52. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
53. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂多く混じる
54. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 細礫混じる
55. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
56. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
57. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂多く混じる
58. 10YR3/2 黒褐色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄混じる
59. 10YR3/3 暗褐色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄混じる
60. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂 粗粒砂混じる
61. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
62. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂多く混じる 中礫 細礫混じる
63. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂 中礫混じる
64. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
65. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂多く混じる 沈鉄混じる(090SD)
66. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂混じる 沈鉄混じる 中粒砂多く混じる 炭化物若干混じる(090SD)
67. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂を混じる(090SD)
68. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂混じる 細礫若干混じる
69. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　細粒砂多く混じる 粗粒砂混じる(090SD)
70. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂多く混じる
71. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　中粒砂多く混じる
72. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂混じる
73. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる
74. 10YR4/4 褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂 中粒砂多く混じる 沈鉄混じる
75. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる
76. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂混じる
77. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　中礫多く混じる(Bb区南壁2 38層)
78. 10YR4/3 にぶい黄褐色礫＋シルト 中礫多く混じる
79. 10YR5/3 にぶい黄褐色礫＋シルト 中礫主体
80. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
81. 10YR3/2 黒褐色礫＋シルト　細礫 中礫主体 (Bb区南壁 68層)
82. 10YR4/3 にぶい黄褐色礫＋シルト 細礫主体 極粗粒砂多く混じる
83. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂多く混じる
84. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂＋シルト 細礫 極粗粒砂 粗粒砂主体
85. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂＋シルト 極粗粒砂 粗粒砂主体
86. 10YR6/3 にぶい黄橙色砂＋シルト 極粗粒砂 粗粒砂主体
87. 10YR5/2 灰黄褐色砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂 中粒砂主体
88. 10YR5/2 灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂 細粒砂主体 10YR6/6 明黄褐色 粘土若干混じる
89. 10YR4/2 灰黄褐色砂＋礫　巨礫 中礫 極粗粒砂主体
90. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫多く混じる
91. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　中粒砂 細粒砂主体
92. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫多く混じる
93. 10YR3/2 黒褐色シルト＋礫　中礫 細礫主体 沈鉄混じる
94. 10YR4/2 灰黄褐色砂＋礫　極粗粒砂 粗粒砂主体 中礫 細礫多い
95. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　中礫 細礫混じる 沈鉄混じる
96. 10YR4/4 褐色礫＋砂　中礫 細礫 極粗粒砂 粗粒砂主体 10YR7/6 明黄褐色粘土塊多く混じる

11Bトレンチセクション図　S＝1：50（14）

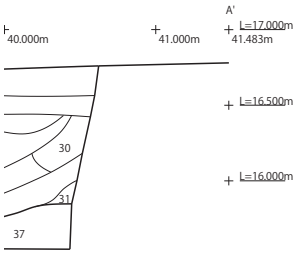
遺構図版68

Ba区南壁



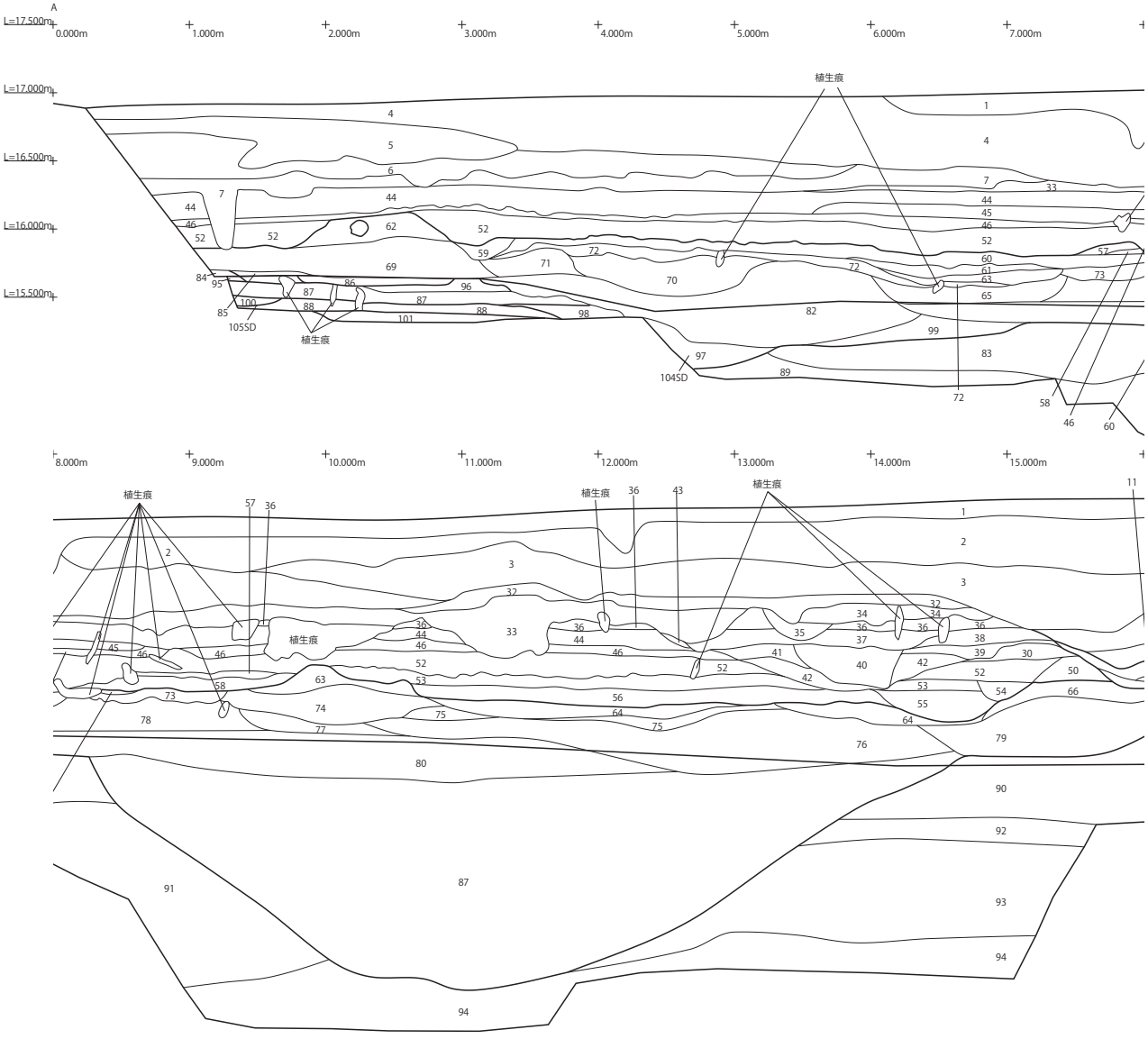
11Bトレンチセクション図　S＝1：50（15）

Ba区南壁



1. 表土＋耕作土
2. 10YR4/1 褐灰色シルト　粗粒砂混じる
3. 10YR4/1～6/4 褐灰色～にぶい黄橙色シルト 斑土 細礫混じる
4. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂混じる
6. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
7. 10YR6/2 灰黄褐色シルト＋礫　細礫主体
8. 10YR5/2 灰黄褐色シルト
9. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
10. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
11. 10YR5/3 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂混じる
12. 10YR4/2 灰黄褐色シルト
13. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂混じる
14. 10YR7/4 にぶい黄橙色礫　中礫 細礫混じる
15. 10YR4/1 褐灰色シルト
16. 10YR5/1～5/2 褐灰色～灰黄褐色シルト
17. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
18. 10YR4/2～5/2 灰黄褐色シルト　斑土 極粗粒砂混じる
19. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中礫 細礫 粗粒砂混じる
20. 10YR5/1 褐灰色シルト＋砂　極粗粒砂主体
21. 10YR4/2 灰黄褐色砂＋礫　粗粒砂 中礫主体
22. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト＋砂　極粗粒砂主体
23. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
24. 10YR5/2 灰黄褐色シルト
25. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト
26. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂混じる
27. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
28. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中礫 粗粒砂混じる
29. 10YR5/1 褐灰色礫　中礫 細礫主体
30. 10YR5/1 褐灰色礫　中礫主体
31. 10YR6/6 明黄褐色シルト
32. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト
33. 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト
34. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト
35. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト
36. 10YR5/2 灰黄褐色シルト
37. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　細礫混じる
38. 10YR4/2 灰黄褐色シルト＋礫　中礫 細礫主体
39. 10YR5/3 にぶい黄橙色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる (071SN 078SNアゼに関連)
40. 10YR5/4 にぶい黄橙色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる (071SN 078SNアゼに関連)
41. 10YR5/3 にぶい黄橙色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる (069SN 078SNアゼに関連)
42. 10YR5/4 にぶい黄橙色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる (069SN 078SNアゼに関連)
43. 10YR4/3 にぶい黄橙色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる (059SNアゼに関連)
44. 10YR4/3 にぶい黄橙色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂混じる (059SNアゼに関連)
45. 10YR4/3 にぶい黄橙色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂混じる (060SN 069SNアゼに関連)

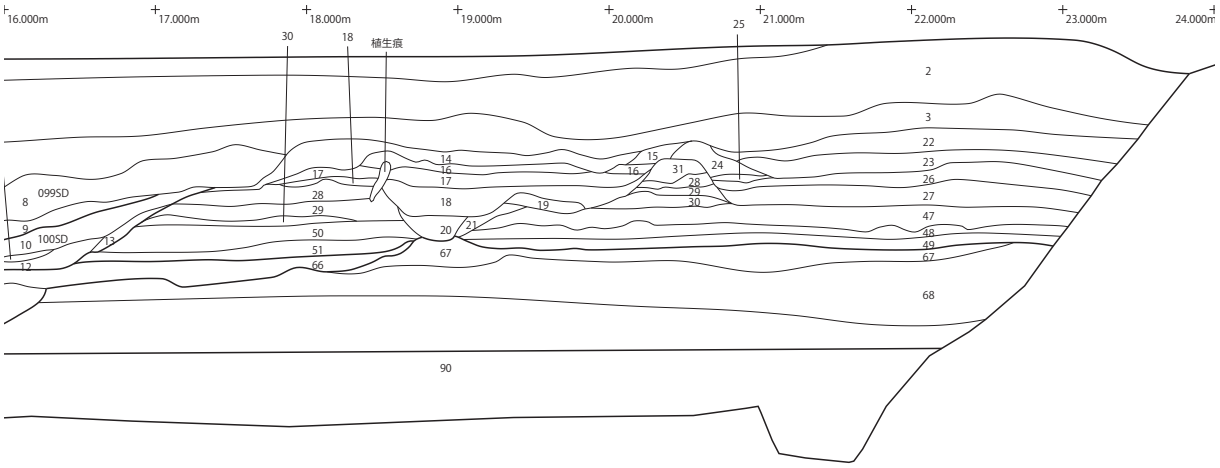
Bb区南壁



11Bトレンチセクション図　S＝1：50（16）

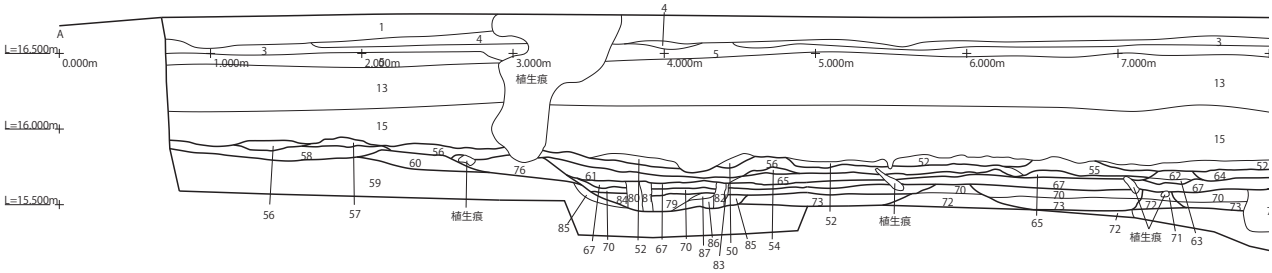
遺構図版70

Bb区南壁



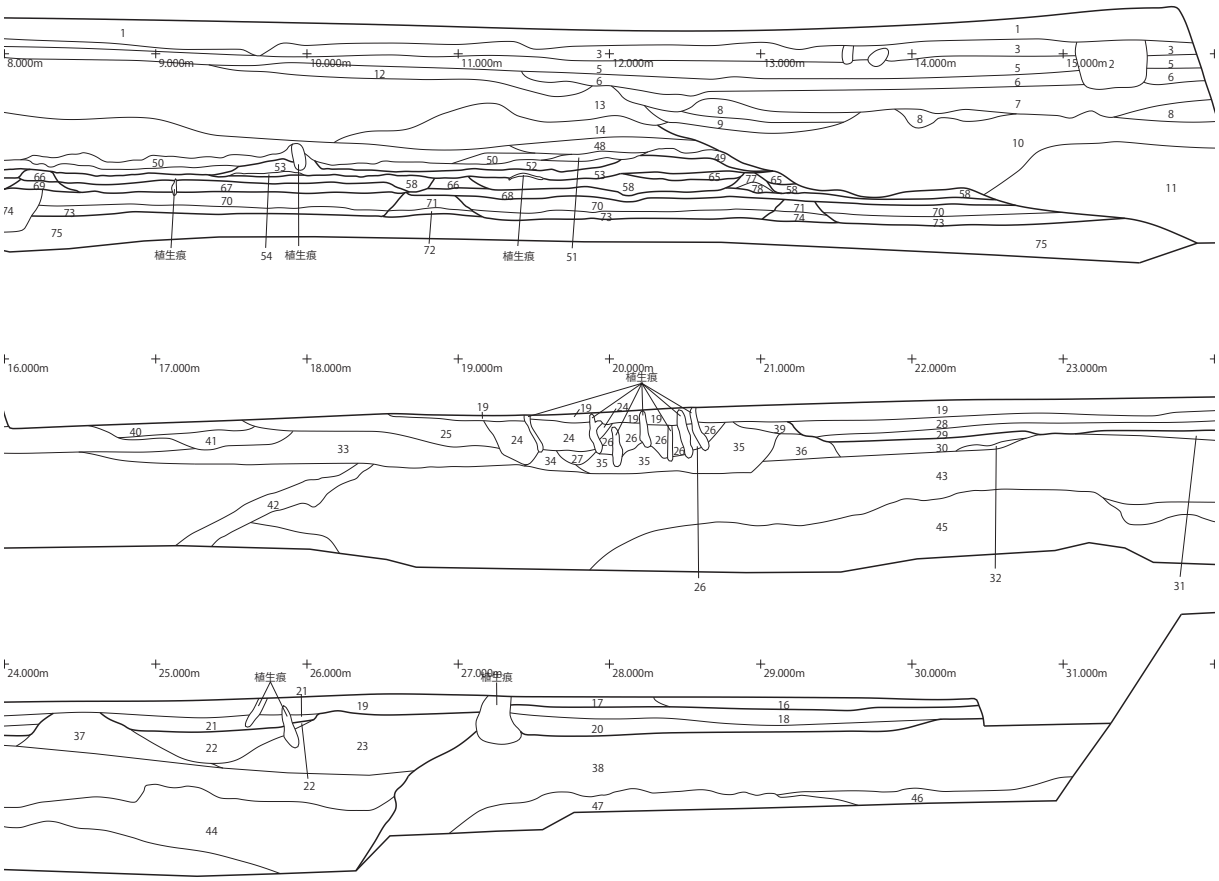
1. 10YR5/2 灰黄褐色礫＋シルト　盛土
2. 10YR7/8 黄橙色礫＋シルト　盛土
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる
4. 10YR6/2 灰黄褐色礫＋シルト　細礫 極粗粒砂主体 層下部でシルトが斑状に存在する
5. 10YR7/6 明黄褐色礫　中礫 細礫主体
6. 10YR4/1 褐灰色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄多く混じる
7. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄多く混じる
8. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる
9. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　中粒砂多く混じる
10. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂多く混じる 細礫 中礫混じる
11. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　中粒砂多く混じる
12. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂混じる
13. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂混じる
14. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる
15. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる
16. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂 中粒砂多く混じる
17. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂混じる
18. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　中粒砂 細粒砂混じる
19. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂混じる
20. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂混じる
21. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂混じる
22. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
23. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
24. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
25. 10YR6/1 褐灰色シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄混じる
26. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄混じる
27. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄混じる
28. 10YR5/1 褐灰色シルト　中粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
29. 10YR5/1 褐灰色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄多く混じる
30. 10YR4/1 褐灰色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
31. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
32. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
33. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
34. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
35. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄混じる
36. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄混じる
37. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄混じる
38. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂混じる 沈鉄混じる
39. 10YR5/1 褐灰色シルト　中粒砂混じる 沈鉄混じる
40. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂混じる 沈鉄混じる
41. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂混じる 沈鉄混じる
42. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂混じる 沈鉄混じる
43. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂混じる 沈鉄混じる
44. 10YR4/1 褐灰色シルト　中粒砂混じる 沈鉄混じる
45. 10YR6/1 褐灰色シルト　中粒砂混じる 沈鉄混じる
46. 10YR4/1 褐灰色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄混じる
47. 10YR3/2 黒褐色シルト　中粒砂混じる 沈鉄混じる
48. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄混じる
49. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫 粗粒砂混じる 沈鉄混じる
50. 10YR4/1 褐灰色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄混じる
51. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　細礫 粗粒砂混じる 沈鉄混じる
52. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂混じる 沈鉄混じる
53. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂混じる 沈鉄混じる
54. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄混じる
55. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄混じる
56. 10YR3/1 黒褐色シルト　中粒砂 細粒砂混じる 沈鉄混じる
57. 10YR3/1 黒褐色シルト　中粒砂混じる 沈鉄混じる
58. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる
59. 10YR4/1 褐灰色シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄混じる
60. 10YR4/1 褐灰色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄混じる
61. 10YR3/2 黒褐色シルト　中粒砂 細粒砂混じる 沈鉄混じる
62. 10YR4/1 褐灰色シルト　中粒砂混じる 沈鉄混じる
63. 10YR3/1 黒褐色シルト　中粒砂混じる 沈鉄混じる
64. 10YR4/1 褐灰色シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄混じる
65. 10YR2/1 黒色シルト　極粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄混じる
66. 10YR4/1 褐灰色シルト　中礫 極粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄混じる
67. 10YR3/1 にぶい黄褐色シルト　細礫 粗粒砂混じる 沈鉄混じる
68. 10YR3/2 黒褐色礫＋シルト　細礫 中礫主体
69. 10YR3/2 黒褐色礫＋シルト　中礫主体 下位に細礫が集中する部分あり
70. 10YR5/2 灰黄褐色砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂 中粒砂主体
71. 10YR5/2 灰黄褐色礫＋シルト　細礫主体 極粗粒砂多く混じる
72. 10YR2/1 黒色シルト　極粗粒砂　中粒砂混じる 沈鉄混じる
73. 10YR5/2 灰黄褐色砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂主体
74. 10YR4/1 褐灰色礫＋シルト　細礫主体 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
75. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる
76. 10YR5/2 灰黄褐色礫＋シルト　細礫主体 極粗粒砂 粗粒砂混じる
77. 10YR5/2 灰黄褐色砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂主体
78. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる
79. 10YR6/2 灰黄褐色礫＋シルト　中礫主体
80. 10YR5/1 褐灰色礫＋砂　中礫 細礫主体
81. 10YR4/1 褐灰色礫＋砂　細礫 極粗粒砂主体 巨礫 中礫多く混じる
82. 10YR4/2 灰黄褐色礫＋砂　細礫 極粗粒砂主体 中礫少量混じる
83. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂　極粗粒砂 粗粒砂 中粒砂主体 部分的にシルト混じる
84. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト＋砂 中粒砂 細粒砂主体 沈鉄 マンガン斑混じる(アゼ)
85. 10YR4/2 灰黄褐色砂　極粗粒砂主体 中礫 細礫混じる
86. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
87. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
88. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　細粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
89. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 中礫多く混じる
90. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂＋礫　粗粒砂 中粒砂主体
91. 10YR5/2 灰黄褐色礫＋砂　中礫 細礫主体
92. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂　極粗粒砂 粗粒砂主体
93. 10YR4/1 褐灰色礫＋砂　中礫 細礫主体
94. 10YR7/6 明黄褐色砂
95. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる(アゼ)
96. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
97. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 中礫混じる 炭化物混じる (104SD)
98. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂少量混じる 炭化物混じる
99. 10YR4/4 褐色砂＋礫　細礫 極粗粒砂 粗粒砂主体
100. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　細粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒多く混じる (105SD)
101. 10YR6/2 灰黄褐色シルト 祖粒砂若干混じる 炭化物 焼土塊多く混じる (220SX埋土)

Bb区南壁2



11Bトレンチセクション図　S＝1：50（17）

Bb区南壁2

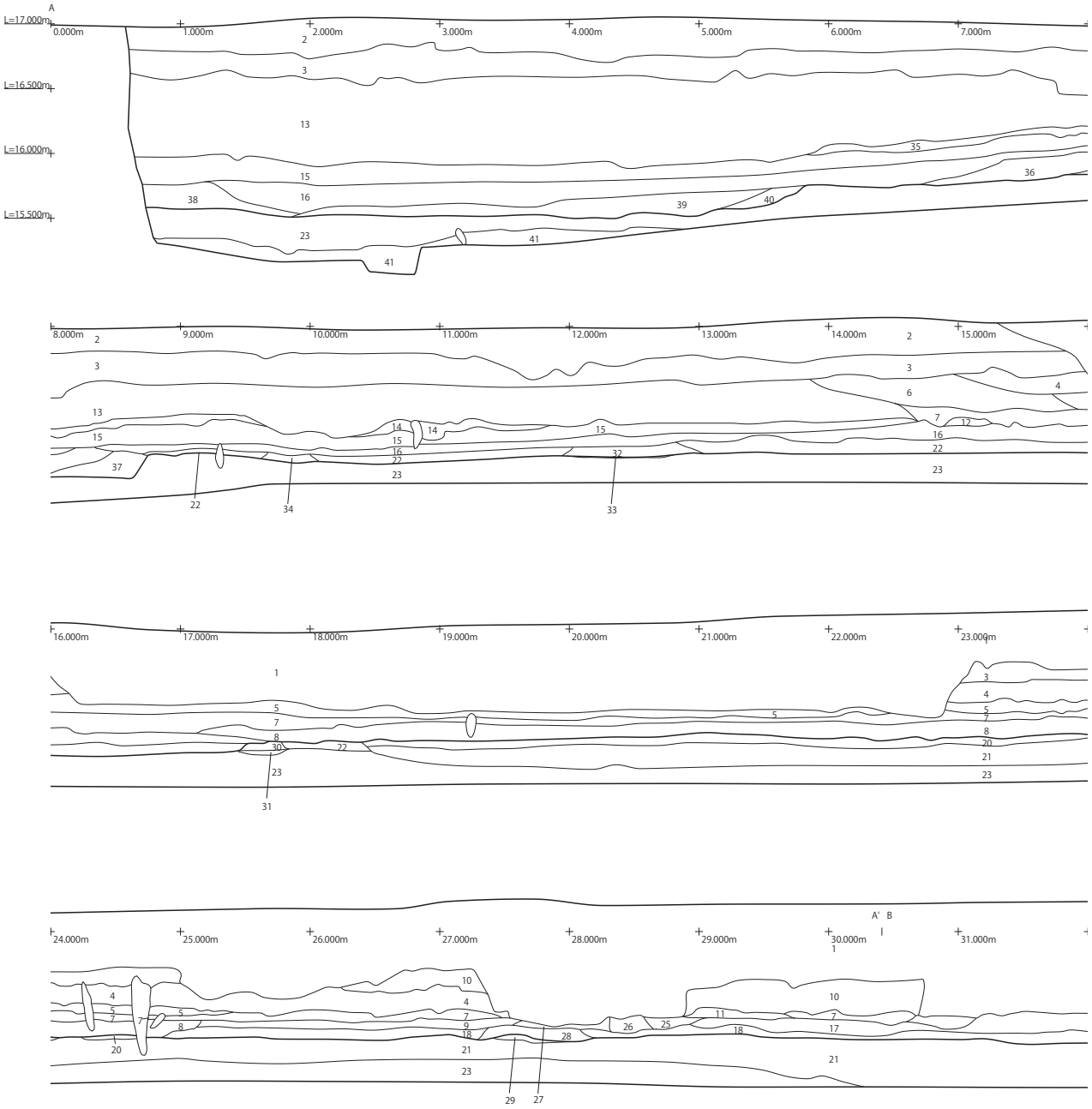


1. 10YR6/2 灰黄褐色礫＋シルト　細礫 極粗粒砂主体 層下部でシルトが斑状に存在する
2. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　10YR5/1 褐灰色シルト斑状に混じる
3. 10YR7/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂少量混じる 炭化物少量混じる
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂多く混じる 炭化物混じる
5. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂少量混じる
6. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫少量混じる
7. 10YR3/1 黒褐色シルト　10YR5/2 灰黄褐色シルト斑状に混じる 粗粒砂混じる
8. 10YR4/1 褐灰色シルト　10YR5/2 灰黄褐色シルト斑状に混じる 粗粒砂混じる
9. 10YR4/1 褐灰色シルト　細礫 中礫混じる
10. 10YR4/2 灰黄褐色礫＋シルト　中礫主体
11. 10YR4/4 褐色砂　極粗粒砂主体 細礫 シルト混じる
12. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　中礫多く混じる
13. 10YR5/2 灰黄褐色礫＋シルト　中礫主体 細礫混じる 土師器出土
14. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂　細粒砂主体 粗粒砂混じる
15. 10YR4/3 にぶい黄褐色礫＋シルト 中礫主体 土師器出土
16. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂多く混じる
17. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂多く混じる
18. 10YR4/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂多く混じる
19. 10YR3/2 黒褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
20. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂混じる
21. 10YR3/2 黒褐色シルト　粗粒砂多く混じる
22. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる
23. 10YR3/3 暗褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる
24. 10YR3/2 黒褐色シルト　粗粒砂混じる
25. 10YR3/1 黒褐色シルト　粗粒砂少量混じる
26. 10YR3/2 黒褐色シルト　粗粒砂少量混じる
27. 10YR3/2 黒褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂少量混じる
28. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる
29. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる
30. 10YR3/2 黒褐色シルト　細礫 極粗粒砂混じる
31. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂混じる
32. 10YR4/2 灰黄褐色礫＋シルト　中礫 極粗粒砂混じる
33. 10YR3/2 黒褐色シルト　極粗粒砂混じる
34. 10YR3/2 黒褐色礫＋シルト　極粗粒砂主体
35. 10YR3/2 黒褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる
36. 10YR3/3 暗褐色礫＋シルト　細礫 極粗粒砂主体
37. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　中礫 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
38. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　中礫 極粗粒砂多く混じる
39. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる
40. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂混じる
41. 10YR5/1 褐灰色砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫若干混じる
42. 10YR5/2 灰黄褐色砂　極粗粒砂主体 細礫混じる
43. 10YR5/1 褐灰色礫＋砂　細礫 極粗粒砂主体 中礫多く混じる 黄褐色の粘土塊多く混じる
44. 10YR4/1 褐灰色礫＋砂　細礫 極粗粒砂主体
45. 10YR5/2 灰黄褐色礫＋砂　中礫 中粒砂主体
46. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂 細礫 中礫多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
47. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
48. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　中粒砂 細粒砂主体
49. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
50. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂　中粒砂 細粒砂主体
51. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト＋砂 中粒砂 細粒砂主体 炭化物混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
52. 10YR6/2 灰黄褐色シルト＋砂　細粒砂 極細粒砂主体 炭化物若干混じる
53. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　中粒砂ごく若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
54. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる
55. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　中粒砂ごく若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
56. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
57. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト＋砂 中粒砂 細粒砂主体 極粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる(アゼ)
58. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物混じる (弥生時代包含層)(東壁2 13層)
59. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト　細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物混じる
60. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
61. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物混じる
62. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物若干混じる (アゼ)
63. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
64. 10YR6/6 明黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒若干混じる
65. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒若干混じる
66. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (アゼ)
67. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる
68. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒多く混じる
69. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒多く混じる
70. 10YR7/3 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 細礫少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒多く混じる
71. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒多く混じる
72. 10YR7/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒多く混じる
73. 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒多く混じる
74. 10YR6/1 褐灰色シルト　細礫を少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる
75. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
76. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物若干混じる (大アゼ)
77. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
78. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
79. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　中粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
80. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物少量混じる
81. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
82. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　中粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
83. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
84. 10YR7/3 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
85. 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト　中粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
86. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂少量混じる
87. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる

11Bトレンチセクション図　S＝1：50（18）

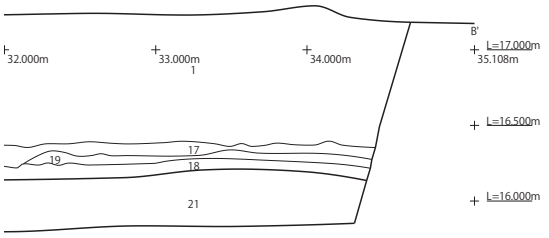
遺構図版72

Ba区北壁



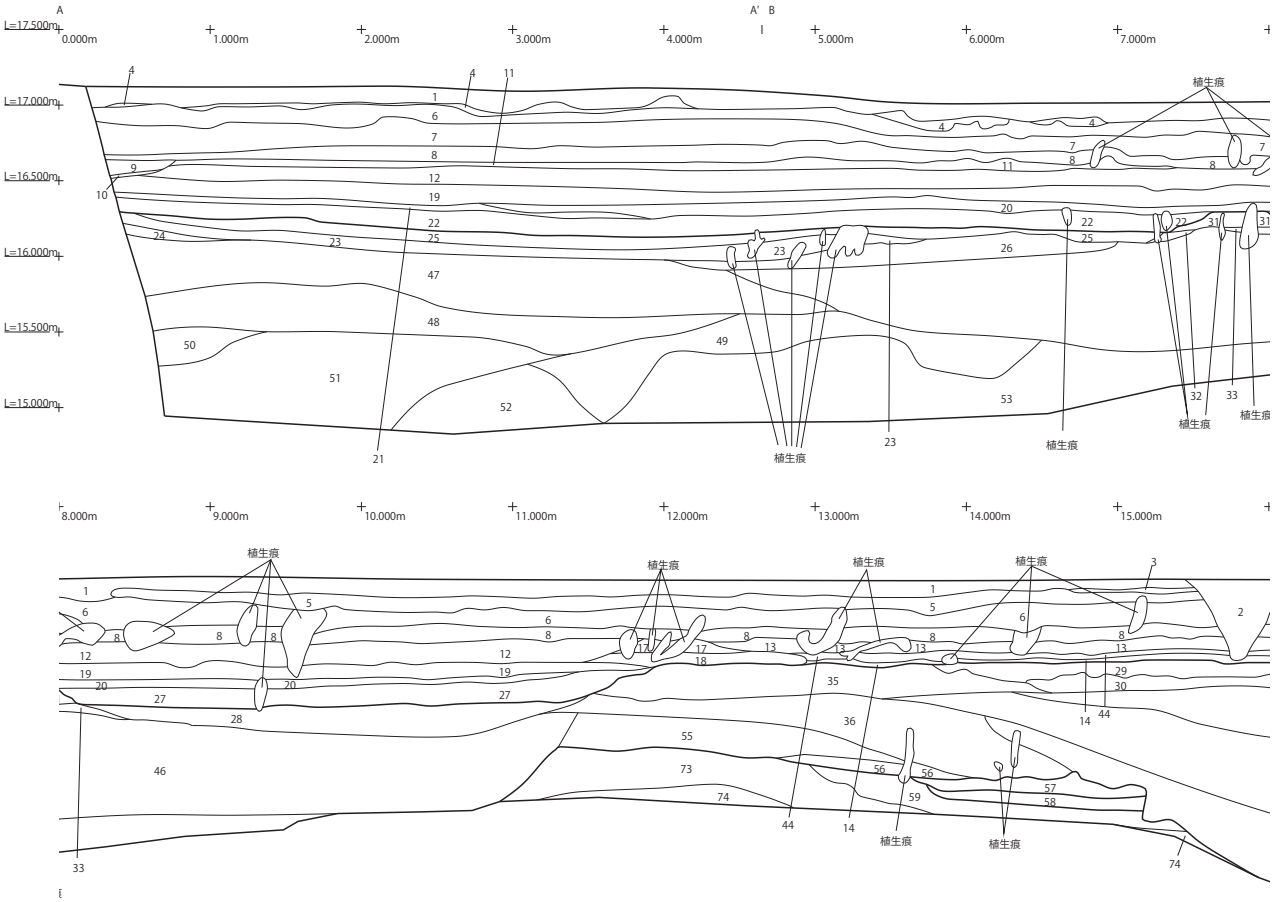
11Bトレンチセクション図　S＝1：50（19）

Ba区北壁



1. 表土＋宅地基礎
2. 表土＋耕作土
3. 10YR7/3 にぶい黄橙色シルト　中礫 粗粒砂混じる 焼土含む
4. 10YR4/1 褐灰色シルト　粗粒砂混じる
5. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
6. 10YR3/3 暗褐色シルト　中礫 細礫混じる
7. 10YR4/1～4/2 褐灰色～灰黄褐色シルト＋礫 中礫 細礫 粗粒砂混じる
8. 10YR5/1 褐灰色シルト　粗粒砂混じる
9. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
10. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中礫 細礫混じる
11. 10YR4/4 褐色シルト　粗粒砂混じる
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂混じる
13. 10YR4/2 灰黄褐色礫　中礫 細礫 粗粒砂の互層
14. 10YR4/2 灰黄褐色中粒砂
15. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂混じる
16. 10YR4/1 褐灰色シルト　粗粒砂混じる 炭化物 弥生土器片含む
17. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる
18. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト
19. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
20. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　細礫 粗粒砂混じる
21. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　細礫混じる
22. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中礫 細礫混じる
23. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　中礫混じる
24. 欠番
25. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂混じる
26. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂混じる
27. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 粗粒砂混じる
28. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる (035SNアゼに関連)
29. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる (035SNアゼに関連)
30. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる (034SN 035SNアゼに関連)
31. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる (034SN 035SNアゼに関連)
32. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる (033SN 034SNアゼに関連)
33. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる (033SN 034SNアゼに関連)
34. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 中礫混じる (033SNアゼに関連)
35. 10YR4/4 褐色シルト＋礫　極細粒砂 粗粒砂多く混じる
36. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂混じる
37. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中礫多く混じる
38. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂混じる 炭化物若干含む
39. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂多く混じる 炭化物若干含む
40. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極細粒砂 細礫多く混じる 炭化物含む
41. 10YR5/6 黄褐色シルト　粗粒砂多く混じる

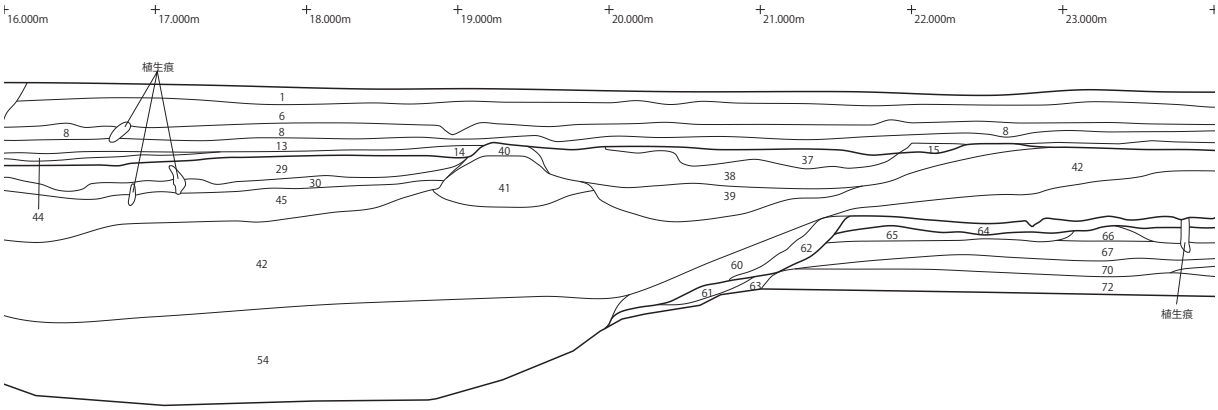
Bb区北壁

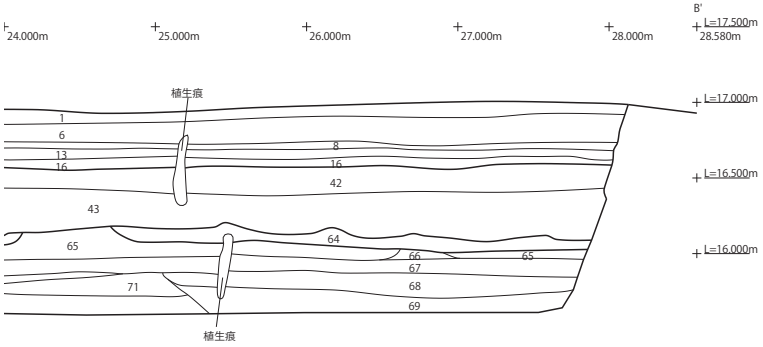


11Bトレンチセクション図　S＝1：50（20）

遺構図版74

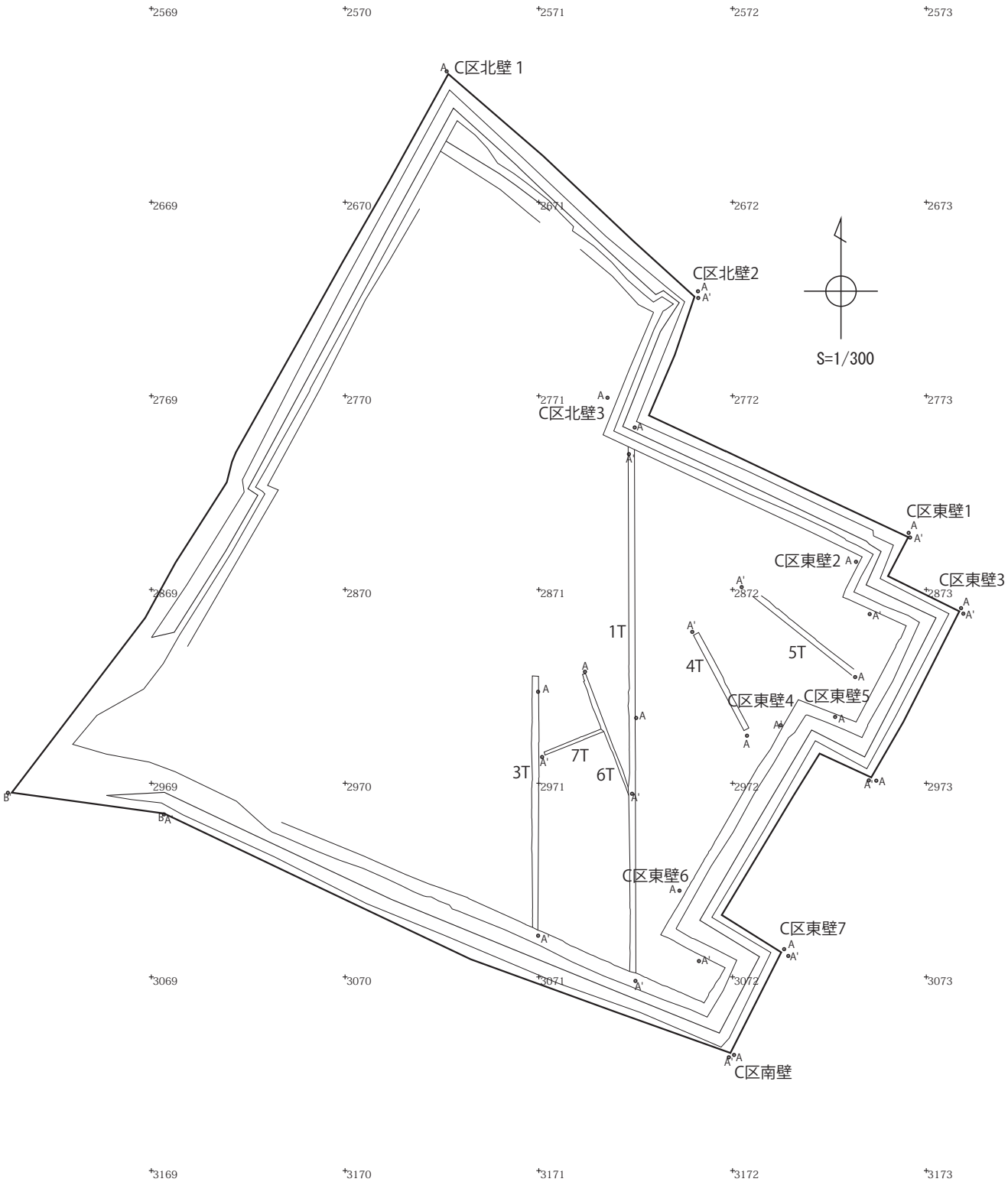
Bb区北壁





1. 10YR7/8 黄橙色礫＋シルト　盛土 (Bb区西壁 1層)
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる
3. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　細粒砂若干混じる
4. 10YR6/6 明黄褐色砂＋礫　盛土 (Bb区西壁 2層)
5. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　細礫多く混じる
6. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中礫 細礫 極粗粒砂多く混じる (Bb区西壁 3層)
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中礫 細礫 極粗粒砂多く混じる (Bb区西壁 8層)
8. 10YR5/1 褐灰色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる (Bb区西壁 21層)
9. 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる (Bb区西壁 25層)
10. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる (Bb区西壁 55層)
11. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂多く混じる
12. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
13. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
14. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂 中粒砂多く混じる
15. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂 細礫混じる
16. 10YR6/4 にぶい黄橙色礫＋シルト 細礫主体
17. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる
18. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる
19. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる (Bb区西壁 56層)
20. 10YR4/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂多く混じる
21. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂多く混じる (Bb区西壁 57層)
22. 10YR3/2 黒褐色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄混じる (Bb区西壁 58層)
23. 10YR3/3 暗褐色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄混じる (Bb区西壁 59層)
24. 10YR4/3 にぶい黄褐色礫＋シルト 細礫主体 極粗粒砂多く混じる (Bb区西壁 82層)
25. 10YR3/3 暗褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂 中粒砂混じる
26. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる
27. 10YR3/2 黒褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる
28. 10YR3/3 暗褐色シルト　中粒砂多く混じる 粗粒砂混じる
29. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂多く混じる 中礫混じる
30. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中礫 細礫 極粗粒砂混じる
31. 10YR4/1 褐灰色シルト　粗粒砂 中粒砂多く混じる
32. 10YR5/1 褐灰色シルト　中粒砂 粗粒砂多く混じる
33. 10YR4/2 灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂主体 粗粒砂多く混じる
34. 10YR5/2 灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂 細粒砂主体
35. 10YR4/3 にぶい黄褐色礫＋シルト 中礫 巨礫主体 細礫多く混じる
36. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂＋シルト 中粒砂 細粒砂主体
37. 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト　中礫 細礫混じる
38. 10YR3/2 黒褐色礫＋シルト　細礫主体 中礫 粗粒砂混じる
39. 10YR3/2 黒褐色シルト　細礫 中礫若干混じる
40. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト 斑状に混じる 極粗粒砂混じる
41. 10YR4/2 灰黄褐色礫＋シルト　中礫主体
42. 10YR4/2 灰黄褐色礫＋シルト　細礫主体 極粗粒砂多く混じる
43. 10YR5/4 灰黄褐色礫＋シルト　細礫主体 中礫多く混じる
44. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる
45. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる
46. 10YR5/2 灰黄褐色礫　細礫主体 中礫若干混じる
47. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂＋シルト 細礫 極粗粒砂 粗粒砂主体 (Bb区西壁 84層)
48. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫多く混じる (Bb区西壁 90層)
49. 10YR4/2 灰黄褐色砂　中粒砂主体 極粗粒砂 細礫混じる
50. 10YR4/2 灰黄褐色砂＋礫　巨礫 中礫 極粗粒砂主体 (Bb区西壁 89層)
51. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫多く混じる (Bb区西壁 92層)
52. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　細礫 極粗粒砂混じる
53. 10YR5/2 灰黄褐色礫　細礫主体 中礫多く混じる
54. 10YR5/2 灰黄褐色礫＋シルト　中礫 細礫主体
55. 10YR6/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 マンガン斑混じる
56. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂中粒砂混じる
57. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる
58. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒若干混じる
59. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
60. 10YR4/2 灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂 細粒砂主体 極粗粒砂混じる
61. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂＋シルト 粗粒砂 中粒砂主体 細礫混じる
62. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる
63. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒若干混じる
64. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (=Bb区東壁2 4層)
65. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　細礫 粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (=Bb区東壁2 13層)
66. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる
67. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (=Bb区東壁2 14層)
68. 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒 焼土塊混じる
69. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒 焼土塊混じる
70. 10YR7/3 にぶい黄橙色シルト　中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
71. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト　中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
72. 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト　中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
73. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 7.5YR5/4 にぶい褐色シルト斑状に混じる 弥生土器出土
74. 10YR7/6 明黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる

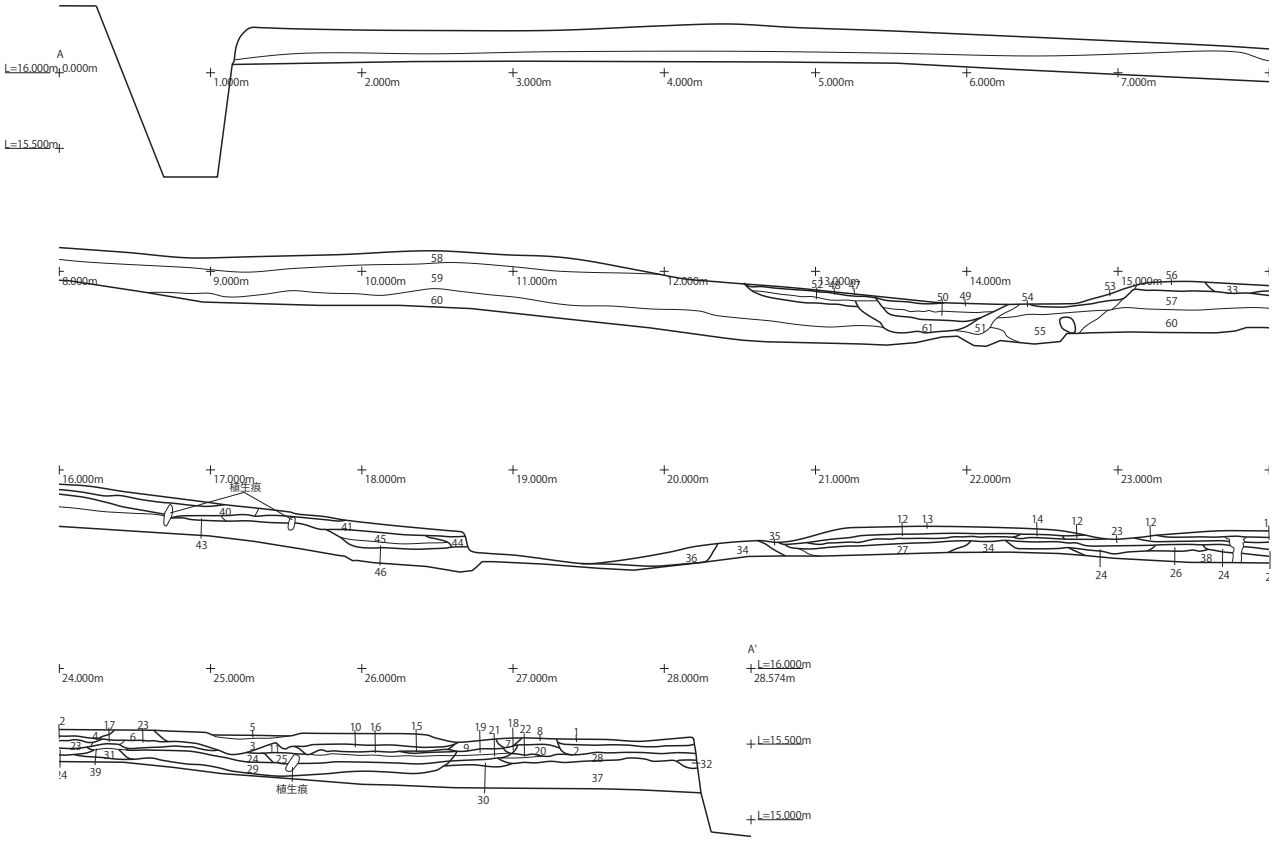
11Bトレンチセクション図　S＝1：50（21）



11Cトレンチ配置図およびセクション位置図

遺構図版76

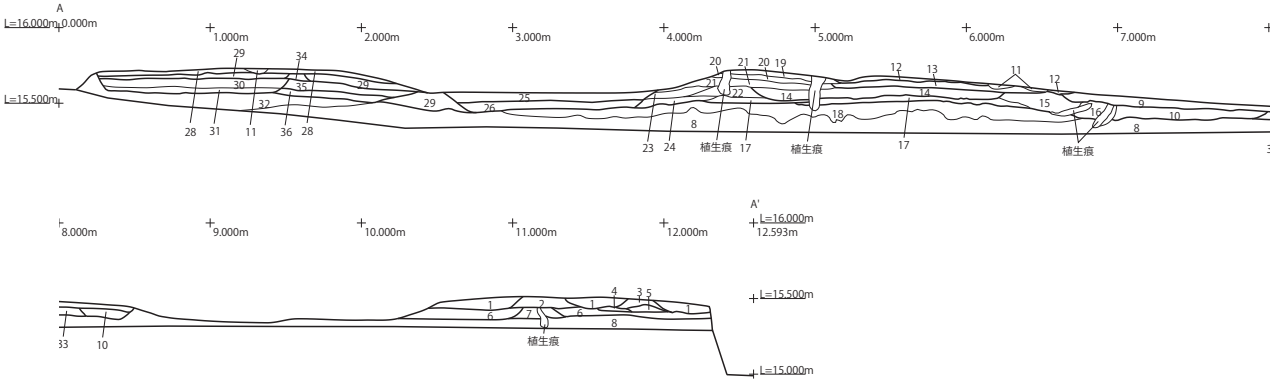
C区1T



1. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物混じる 粘性強い
2. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
3. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物混じる 粘性強い
4. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物混じる 粘性強い
5. 10YR5/2　灰黄褐色礫＋シルト　細礫主体 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
6. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
7. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
8. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　沈鉄 マンガン斑多く混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
9. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
10. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
11. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂やや多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
12. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
13. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒粗 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
14. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
15. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト＋砂　中粒砂主体 沈鉄 マンガン斑混じる
16. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
17. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
18. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
19. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
20. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
21. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
22. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
23. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　中粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
24. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
25. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
26. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
27. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
28. 10YR5/3　にぶい黄褐シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
29. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
30. 10YR5/2〜5/3 灰黄褐色〜にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
31. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
32. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性やや強い
33. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
34. 10YR5/2　灰黄褐色シルト＋砂　極粗粒砂主体 沈鉄 マンガン斑混じる
35. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂 細粒砂主体 極粗粒砂混じる 炭化物粒混じる
36. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫混じる
37. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性やや強い
38. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
39. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
40. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
41. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
42. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト＋砂　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫混じる
43. 10YR5/3　にぶい黄褐シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
44. 10YR5/2　灰黄褐色砂　細粒砂主体 極粗粒砂混じる
45. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
46. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
47. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
48. 10YR5/3　にぶい黄褐シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒ごく若干混じる
49. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い
50. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い
51. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト＋砂　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫混じる
52. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
53. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒多く混じる
54. 10YR6/3　にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
55. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂多く混じる 中礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
56. 10YR6/4　にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒多く混じる
57. 10YR5/3〜5/4 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
58. 10YR4/4　褐色シルト　中礫 細礫 極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
59. 10YR4/6　褐色シルト　中礫 細礫 極粗粒砂混じる
60. 10YR6/6　明黄褐色シルト　10YR4/6 褐色シルト混じる 中礫 細礫 極粗粒砂混じる

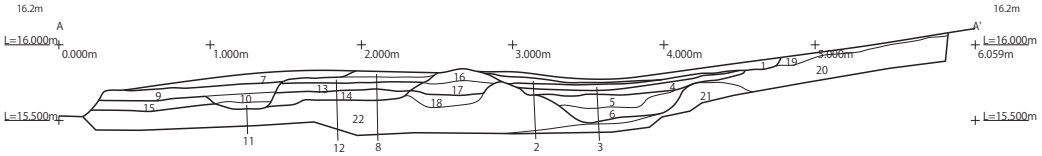
11Cトレンチセクション図　S＝1：50（1）

C区3T



1. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 中礫多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性やや強い
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
3. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる
4. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　中粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
5. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
6. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
7. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
8. 10YR5/4　にぶい黄褐色礫＋シルト 細礫主体 中粒砂 細粒砂多く混じる
9. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
10. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い11. 10YR6/3　にぶい黄橙色砂　極粗粒砂主体
11. 10YR6/3　にぶい黄橙色砂　極粗粒砂主体
12. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒多く混じる 粘性強い
13. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
14. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
15. 10YR4/3　にぶい黄褐色礫＋シルト 細礫主体 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる シルト粘性強い
16. 10YR4/2　灰黄褐色礫＋シルト　細礫主体 極粗粒砂 粗粒砂混じる 炭化物粒混じる
17. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
18. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　細礫多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
19. 10YR6/3　にぶい黄橙色シルト　粗粒砂 中粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる
20. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒多く混じる 粘性強い
21. 10YR4/4　褐色シルト　中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
22. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
23. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
24. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
25. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
26. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
27. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
28. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる
29. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
30. 10YR4/3～4/4 にぶい黄褐～褐色シルト 極粗粒砂 粗粒砂混じる 細礫若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
31. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
32. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
33. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
34. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂やや多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
35. 10YR4/3～4/4 にぶい黄褐～褐色シルト 細礫 極粗粒砂やや多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性やや強い
36. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂やや多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い

C区4T

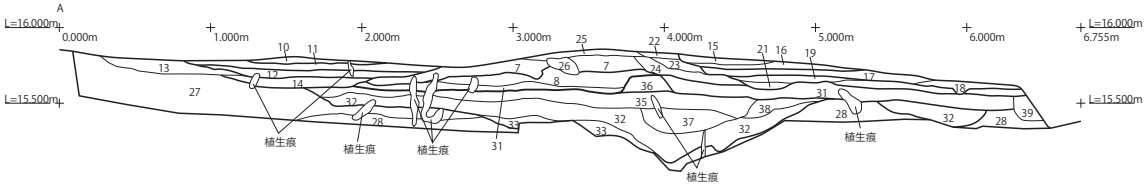


1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂 中粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
4. 10YR4/1～4/2 褐灰～灰黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト＋砂　極粗粒砂 粗粒砂主体 シルトやや粘性強い
6. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒若干混じる
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒少量混じる 粘性強い
10. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂やや多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒少量混じる 粘性強い
11. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂やや多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
12. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　細粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒少量混じる 粘性強い
13. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　細粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒少量混じる 粘性強い
14. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
15. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性強い
16. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
17. 10YR4/4 褐色シルト　細礫 極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒若干混じる
18. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
19. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒若干混じる
20. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫混じる 沈鉄多く混じる
21. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫混じる 沈鉄多く混じる
22. 10YR6/3 にぶい黄橙色礫＋シルト　細礫主体 中礫混じる

11Cトレンチセクション図　S＝1：50（2）

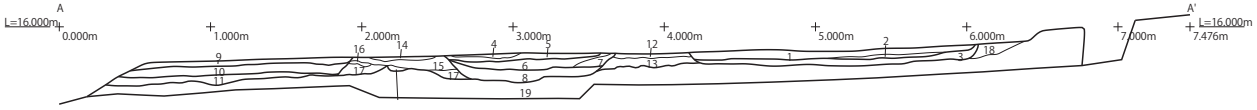
遺構図版78

C区6T



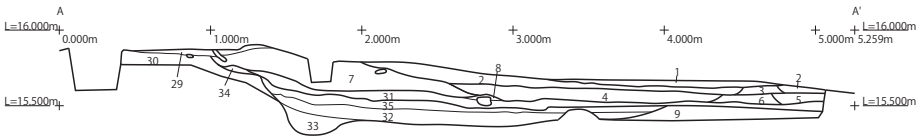
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物 焼土塊多く混じる
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性やや強い
10. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物若干混じる 粘性やや強い
11. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
12. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
13. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる
14. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂＋シルト 極粗粒砂 粗粒砂主体 炭化物粒混じる
15. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
16. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
17. 10YR4/1 褐灰色シルト　粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
18. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
19. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
20. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
21. 10YR6/1 褐灰色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
22. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 焼土塊混じる
23. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 焼土塊 炭化物粒少量混じる 粘性強い
24. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 焼土塊 炭化物粒多く混じる
25. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 径3～4cmほどの焼土塊混じる
26. 5YR6/6 橙　焼土塊のまとまった堆積 10YR5/3 にぶい黄褐色シルトと斑土状
27. 10YR5/1 褐灰色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる 沈鉄多く混じる
28. 10YR6/6 明黄褐色シルト　10YR4/6 褐色シルト混じる 中礫 細礫 極粗粒砂混じる (1T 60層と同一)
31. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 焼土塊 炭化物ごく若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性強い
32. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂多く混じる 焼土塊若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性やや強い
33. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性やや強い
34. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 焼土塊少量混じる
35. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性強い
36. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い
37. 10YR4/4　褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性強い
38. 10YR6/3　にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い
39. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる

C区5T



1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂＋シルト 中粒砂主体
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
6. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
7. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂やや多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性強い
8. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 細礫若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
9. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
10. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
11. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂若干混じる 粗粒砂 細礫混じる
12. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　中粒砂若干混じる 炭化物粒若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性強い
13. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中粒砂やや多く混じる 粗粒砂混じる 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
14. 10YR5/2 灰黄褐色砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂主体 沈鉄 マンガン斑混じる
15. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
16. 10YR5/2 灰黄褐色砂＋シルト　細礫主体 沈鉄 マンガン斑混じる
17. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
18. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂混じる 炭化物粒混じる
19. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト＋礫 細礫主体 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる

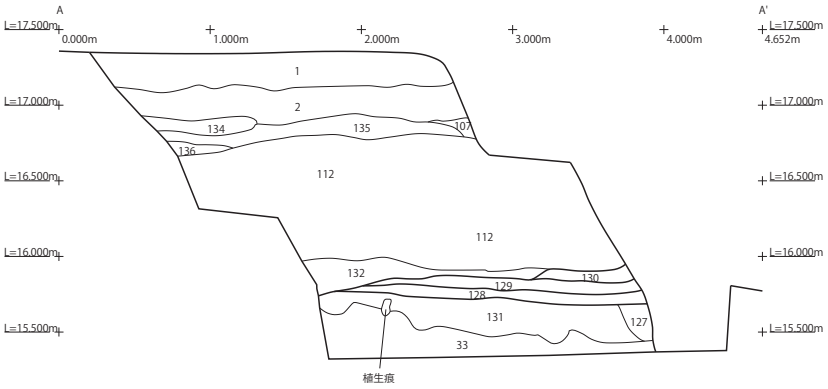
C区7T



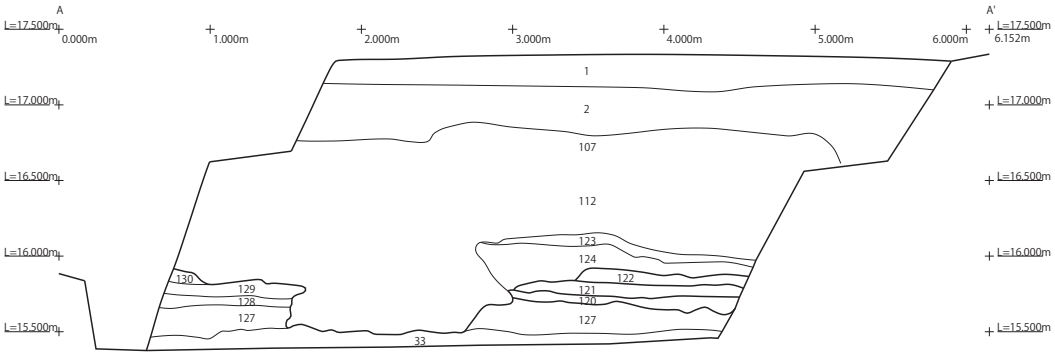
1. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
2. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
3. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 細礫やや多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒 焼土塊多く混じる 粘性強い
5. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
6. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
7. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物 焼土塊多く混じる
8. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性やや強い
9. 10YR5/3　灰黄褐色シルト　細礫多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる 粘性強い (3T 18層と同一)
29. 10YR6/4　にぶい黄橙色シルト 極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒多く混じる (1T 56層と同一)
30. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる (1T 57層と同一)
31. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 焼土塊 炭化物ごく若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性強い
32. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂多く混じる 焼土塊若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性やや強い
33. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト 粗粒砂 中粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性やや強い
34. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 焼土塊少量混じる
35. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト 極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性強い

11Cトレンチセクション図　S＝1：50（3）

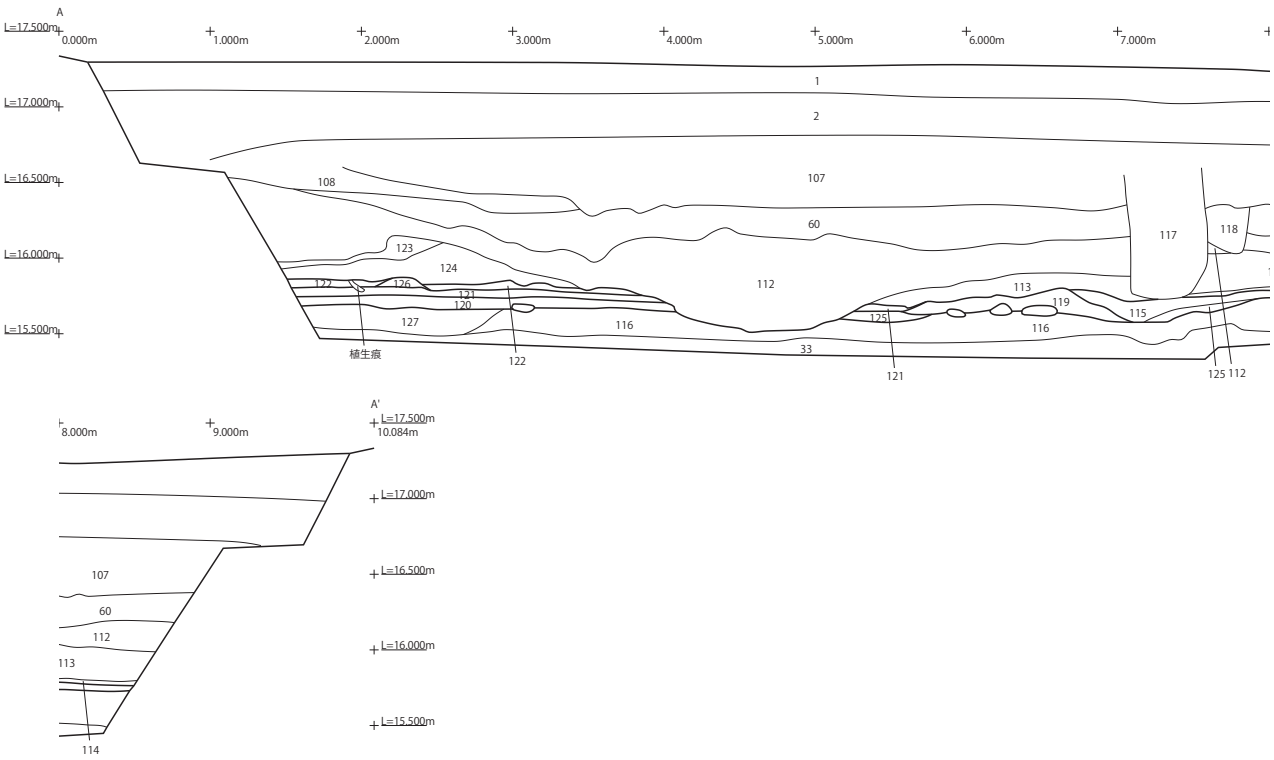
C区東壁1



C区東壁2



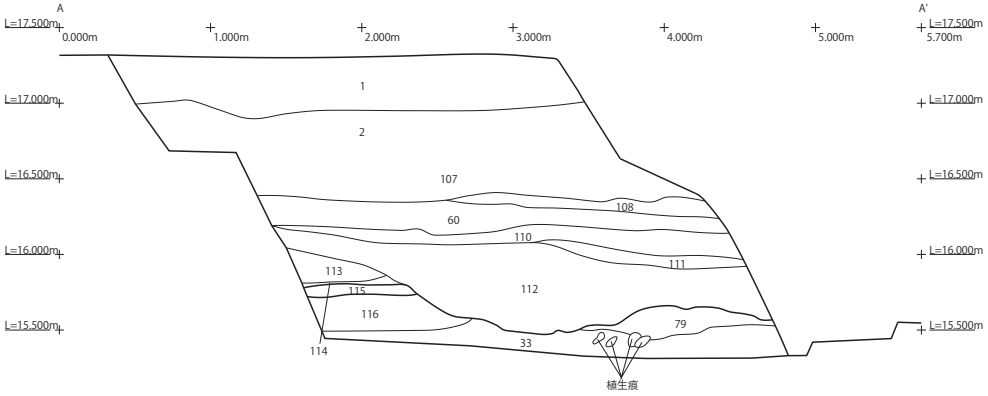
C区東壁3



11Cトレンチセクション図　S＝1：50（4）

遺構図版80

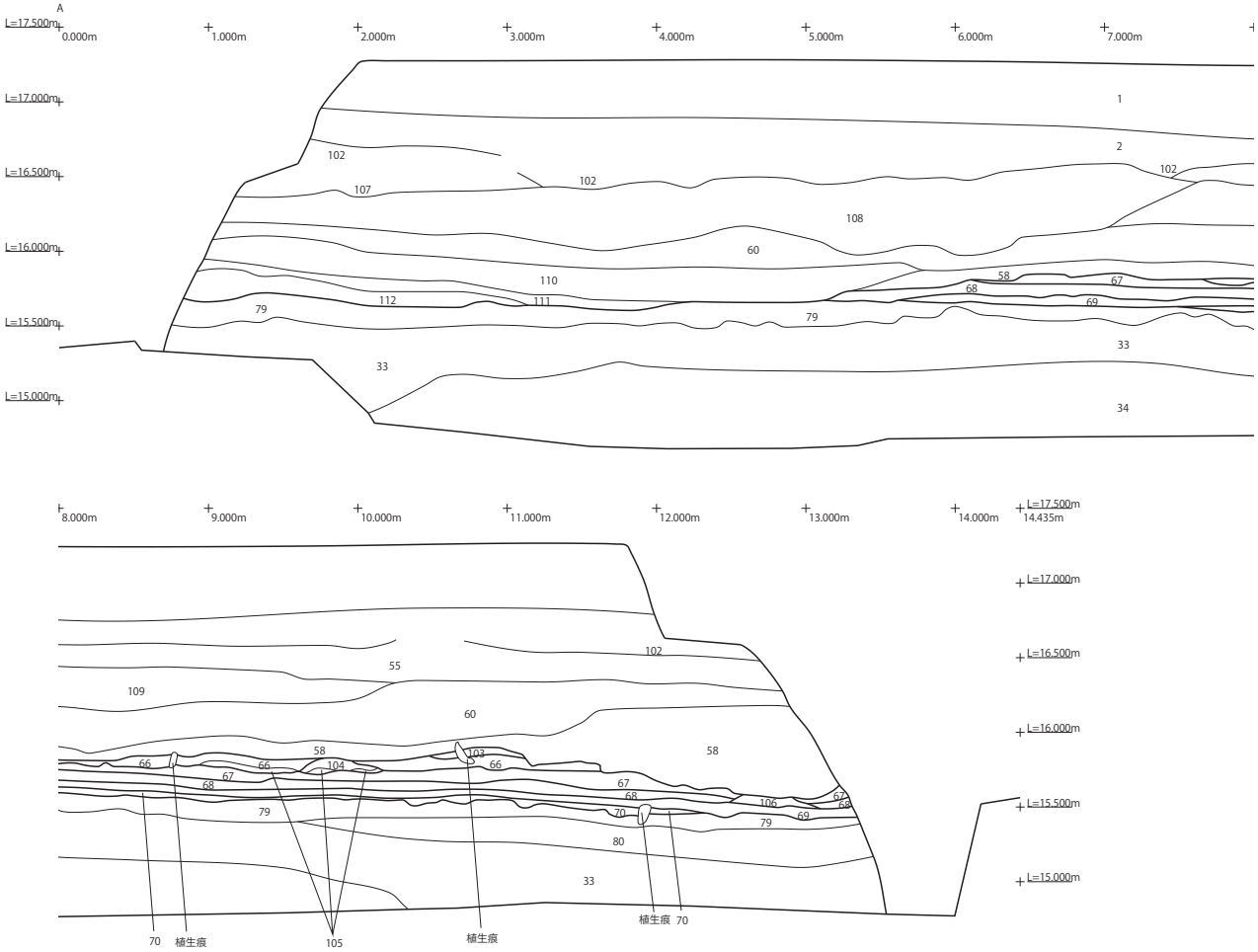
C区東壁4



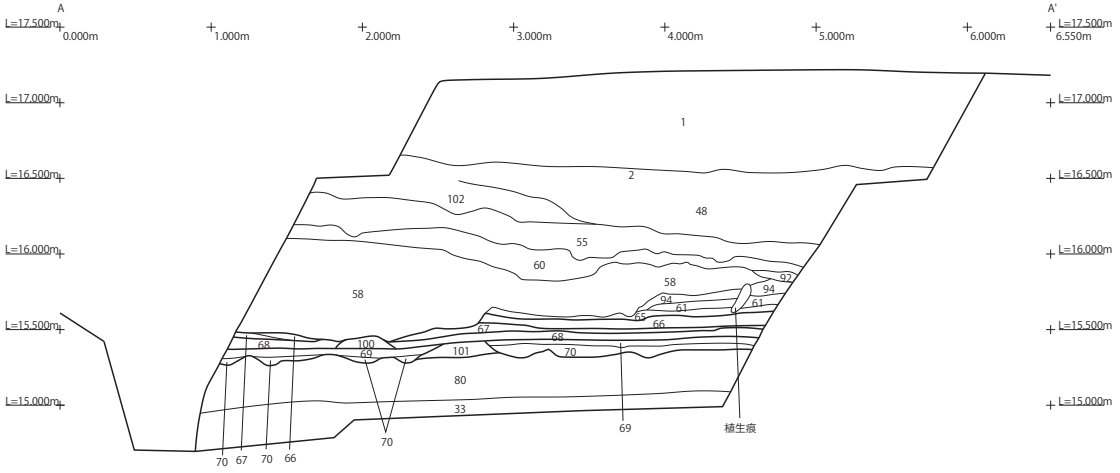
1. 10YR5/2　灰黄褐色シルト＋砂　極粗粒砂 細礫など多く混じる 細礫少量混じる
2. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト＋砂　極粗粒砂多く混じる
33. 10YR6/4　にぶい黄橙色シルト　細礫少量混じる 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
34. 10YR5/3〜10YR4/3 にぶい黄褐色礫＋砂　中礫 細礫 極粗粒砂主体
48. 10YR5/2　灰黄褐色シルト＋礫細礫　細礫 極粗粒砂 主体
49. 10YR5/2　灰黄褐色砂細礫　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫少量混じる
55. 10YR4/1　褐灰色砂＋シルト
57. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂 細粒砂主体 極粗粒砂少量混じる
58. 10YR5/2　灰黄褐色礫＋砂　細礫 極粗粒砂主体 10YR5/2 灰黄褐色極粗粒砂〜シルトブロック状に混じる
60. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂多く混じる 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
61. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　細粒砂多く混じる 炭化物粒混じる
65. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト＋砂　細粒砂主体 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
66. 10YR6/4〜6/6　にぶい黄橙色〜灰黄褐色シルト＋砂　細粒砂主体 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
67. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂極若干混じる 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性強い
68. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　細粒砂少量混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
69. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 シルト若干混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
70. 10YR6/3　にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂多く混じる 炭化物粒多く混じる
79. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 沈鉄多く混じる 炭化物粒混じる
80. 10YR5/2〜5/3　灰黄褐色〜にぶい黄褐色礫＋砂　細礫 極粗粒砂 中粒砂主体 シルトブロック状に混じる
92. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　細粒砂混じる 沈鉄多く混じる
93. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　細粒砂多く混じる 極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
94. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる
95. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
96. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂主体 極粗粒砂混じる 炭化物粒混じる
97. 10YR6/2　灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂主体 シルトブロック状に混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
98. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　細粒砂主体 シルトブロック状に混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
99. 10YR5/3　にぶい黄褐色砂＋シルト　細粒砂主体 中粒砂 極粗粒砂混じる シルトブロック状に混じる
100. 10YR4/1　褐灰色シルト　細粒砂少量混じる 炭化物粒多く混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる
101. 10YR5/1　褐灰色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる 炭化物粒混じる
102. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　細礫ブロック状に多く混じる 極粗粒砂混じる
103. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂 細粒砂主体 沈鉄 マンガン斑混じる
104. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂若干混じる 炭化物粒混じる
105. 10YR6/2　灰黄褐色砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂主体 沈鉄 マンガン斑混じる
106. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性強い
107. 10YR5/3　にぶい黄褐色礫＋シルト　細礫主体 極粗粒砂 粗粒砂混じる
108. 10YR4/2　灰黄褐色砂　粗粒砂 中粒砂主体 極粗粒砂 細礫多く混じる
109. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂主体 極粗粒砂多く混じる シルトブロック状に混じる
110. 10YR5/3　にぶい黄褐色砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂主体 炭化物粒混じる シルトブロック状に混じる 沈鉄混じる
111. 10YR5/2　灰黄褐色シルト＋砂　細粒砂多く混じる 炭化物粒混じる 沈鉄混じる
112. 10YR5/1　褐灰色礫＋砂　細礫 中粒砂主体 極粗粒砂多く混じる
113. 10YR5/2　灰黄褐色砂　中粒砂主体 極粗粒砂 細礫混じる
114. 10YR5/2　灰黄褐色シルト＋砂　中粒砂 細粒砂主体 シルトやや粘質強い
115. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂少量混じる
116. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　細礫 粗粒砂 中粒砂少量混じる
117. 10YR5/2〜5/3　灰黄褐色〜にぶい黄褐色礫＋砂＋シルト 細礫 極粗粒砂主体 斑土状を呈する
118. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
119. 10YR6/2　灰黄褐色シルト　巨礫 中礫ブロック状に混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い
120. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い 沈鉄 マンガン斑混じる
121. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　中粒砂 極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い
122. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い
123. 10YR6/2　灰黄褐色シルト　細粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性強い
124. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂主体 極粗粒砂混じる
125. 10YR6/3　にぶい黄橙色シルト　細礫 中粒砂混じる 炭化物粒若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性やや強い
126. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂主体 シルト粘性強い
127. 10YR4/2　灰黄褐色礫＋シルト　中礫主体 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
128. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂やや多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 細礫混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い
129. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂やや多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 細礫混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い
130. 10YR6/2　灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂 細粒砂主体 極粗粒砂多く混じる シルト粘性強い
131. 10YR3/3　暗褐色シルト　中礫 細礫 極粗粒砂多く混じる
132. 10YR4/2　灰黄褐色砂　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫混じる
134. 10YR4/3　にぶい黄褐色礫＋シルト　細礫 砂主体 所々で礫のみブロック状に固まる
135. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂多く混じる 極粗粒砂少量混じる

11Cトレンチセクション図　S＝1：50（5）

C区東壁5



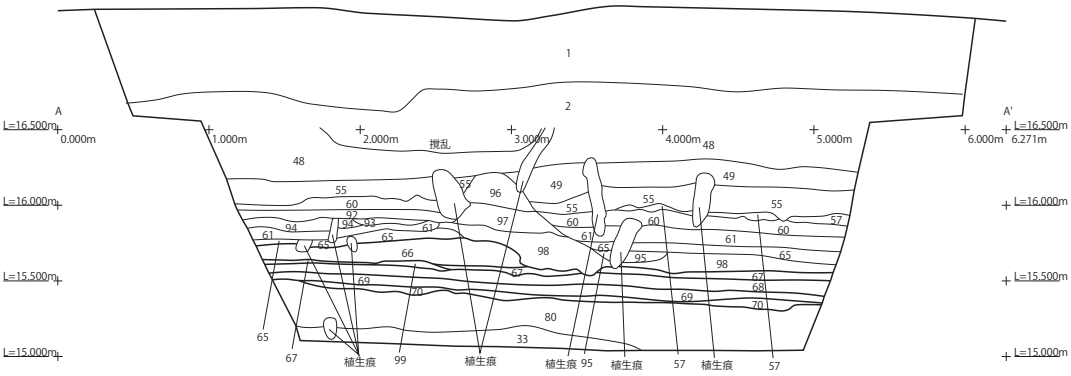
C区東壁6



11Cトレンチセクション図　S＝1：50（6）

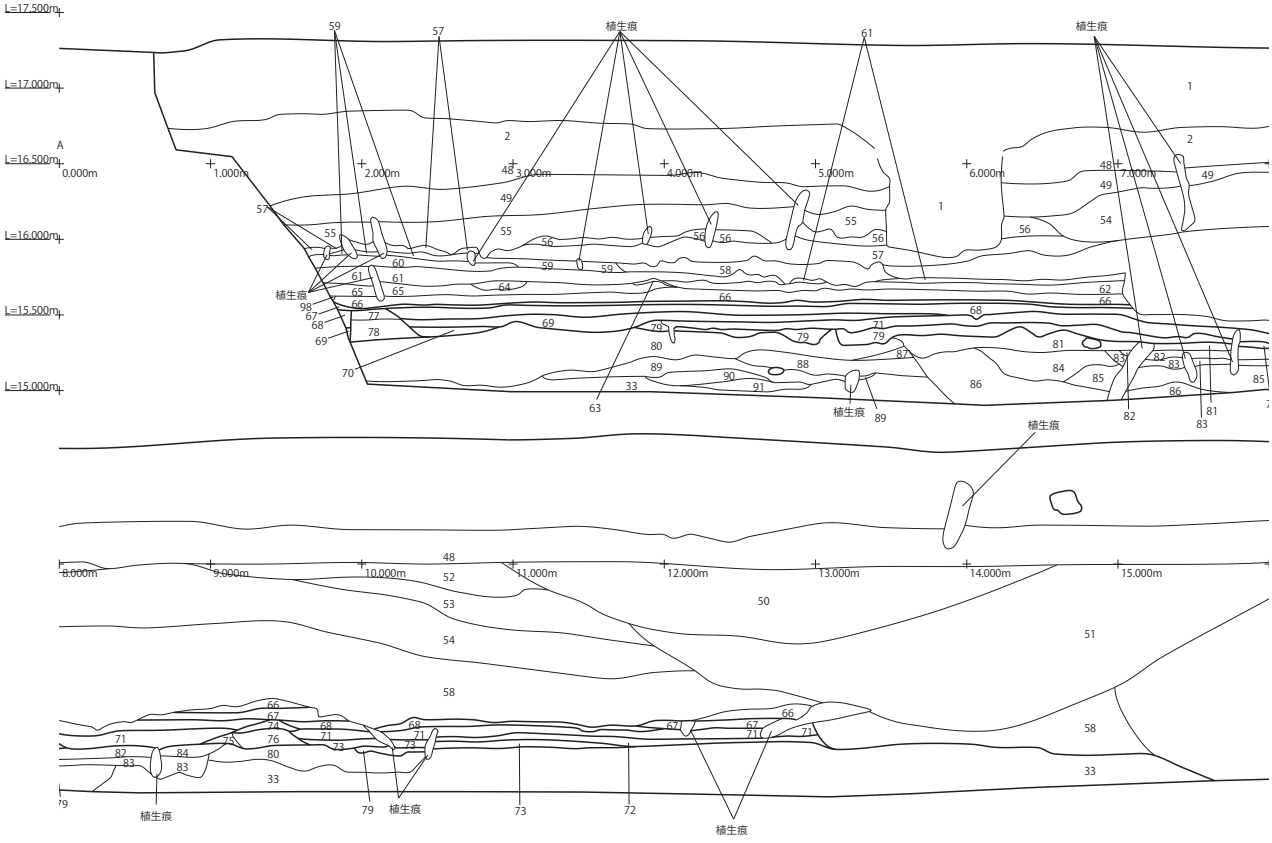
遺構図版82

C区東壁7



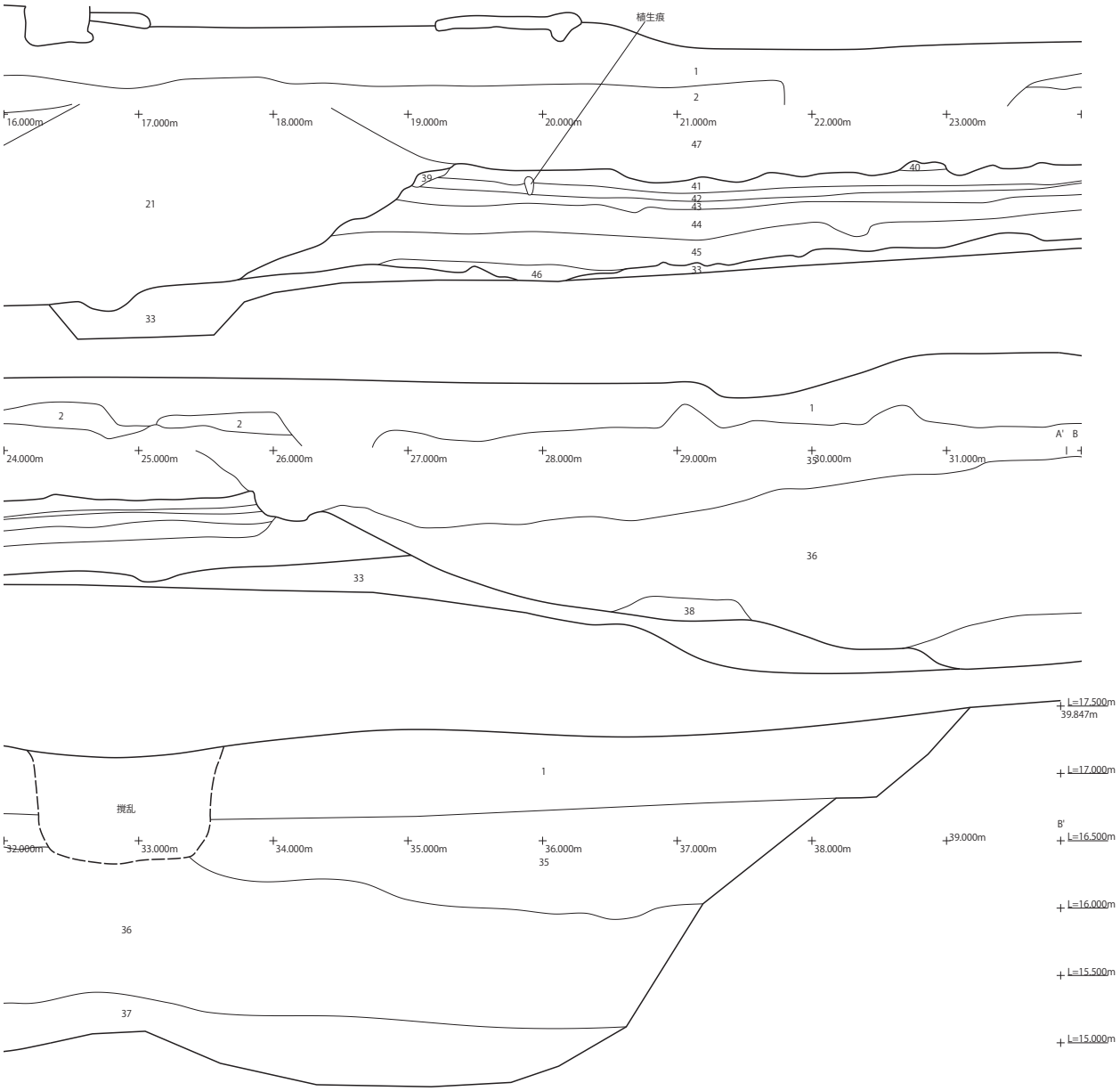
1. 10YR5/2　灰黄褐色シルト＋砂　極粗粒砂 細礫など多く混じる 細礫少量混じる
2. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト＋砂　極粗粒砂多く混じる
33. 10YR6/4　にぶい黄橙色シルト　細礫少量混じる 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
34. 10YR5/3〜10YR4/3　にぶい黄褐色礫＋砂　中礫 細礫 極粗粒砂主体
48. 10YR5/2　灰黄褐色シルト＋礫細礫　細礫 極粗粒砂 主体
49. 10YR5/2　灰黄褐色砂細礫　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫少量混じる
55. 10YR4/1　褐灰色砂＋シルト
57. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂 細粒砂主体 極粗粒砂少量混じる
58. 10YR5/2　灰黄褐色礫＋砂　細礫 極粗粒砂主体 10YR5/2 灰黄褐色極粗粒砂〜シルトブロック状に混じる
60. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂多く混じる 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
61. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　細粒砂多く混じる 炭化物粒混じる
65. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト＋砂　細粒砂主体 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
66. 10YR6/4〜6/6　にぶい黄橙色〜灰黄褐色シルト＋砂　細粒砂主体 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
67. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂極若干混じる 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性強い
68. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　細粒砂少量混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
69. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 シルト若干混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
70. 10YR6/3　にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂多く混じる 炭化物粒多く混じる
79. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 沈鉄多く混じる 炭化物粒混じる
80. 10YR5/2〜5/3　灰黄褐色〜にぶい黄褐色礫＋砂　細礫 極粗粒砂 中粒砂主体 シルトブロック状に混じる
92. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　細粒砂混じる 沈鉄多く混じる
93. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　細粒砂多く混じる 極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
94. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる
95. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
96. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂主体 極粗粒砂混じる 炭化物粒混じる
97. 10YR6/2　灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂主体 シルトブロック状に混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
98. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　細粒砂主体 シルトブロック状に混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
99. 10YR5/3　にぶい黄褐色砂＋シルト　細粒砂主体 中粒砂 極粗粒砂混じる シルトブロック状に混じる
100. 10YR4/1　褐灰色シルト　細粒砂少量混じる 炭化物粒多く混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる
101. 10YR5/1　褐灰色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる 炭化物粒混じる
102. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　細礫ブロック状に多く混じる 極粗粒砂混じる
103. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂 細粒砂主体 沈鉄 マンガン斑混じる
104. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂若干混じる 炭化物粒混じる
105. 10YR6/2　灰黄褐色砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂主体 沈鉄 マンガン斑混じる
106. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性強い
107. 10YR5/3　にぶい黄褐色礫＋シルト　細礫主体 極粗粒砂 粗粒砂混じる
108. 10YR4/2　灰黄褐色砂　粗粒砂 中粒砂主体 極粗粒砂 細礫多く混じる
109. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂主体 極粗粒砂多く混じる シルトブロック状に混じる
110. 10YR5/3　にぶい黄褐色砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂主体 炭化物粒混じる シルトブロック状に混じる 沈鉄混じる
111. 10YR5/2　灰黄褐色シルト＋砂　細粒砂多く混じる 炭化物粒混じる 沈鉄混じる
112. 10YR5/1　褐灰色礫＋砂　細礫 中粒砂主体 極粗粒砂多く混じる
113. 10YR5/2　灰黄褐色砂　中粒砂主体 極粗粒砂 細礫混じる
114. 10YR5/2　灰黄褐色シルト＋砂　中粒砂 細粒砂主体 シルトやや粘質強い
115. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂少量混じる
116. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　細礫 粗粒砂 中粒砂少量混じる
117. 10YR5/2〜5/3　灰黄褐色〜にぶい黄褐色礫＋砂＋シルト 細礫 極粗粒砂主体 斑土状を呈する
118. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
119. 10YR6/2　灰黄褐色シルト　巨礫 中礫ブロック状に混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い
120. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い 沈鉄 マンガン斑混じる
121. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　中粒砂 極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い
122. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い
123. 10YR6/2　灰黄褐色シルト　細粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性強い
124. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂主体 極粗粒砂混じる
125. 10YR6/3　にぶい黄橙色シルト　細礫 中粒砂混じる 炭化物粒若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性やや強い
126. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂主体 シルト粘性強い
127. 10YR4/2　灰黄褐色礫＋シルト　中礫主体 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
128. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂やや多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 細礫混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い
129. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂やや多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 細礫混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い
130. 10YR6/2　灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂 細粒砂主体 極粗粒砂多く混じる シルト粘性強い
131. 10YR3/3　暗褐色シルト　中礫 細礫 極粗粒砂多く混じる
132. 10YR4/2　灰黄褐色砂　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫混じる
134. 10YR4/3　にぶい黄褐色礫＋シルト　細礫 砂主体 所々で礫のみブロック状に固まる
135. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂多く混じる 極粗粒砂少量混じる

C区南壁



11Cトレンチセクション図　S＝1：50（7）

C区南壁

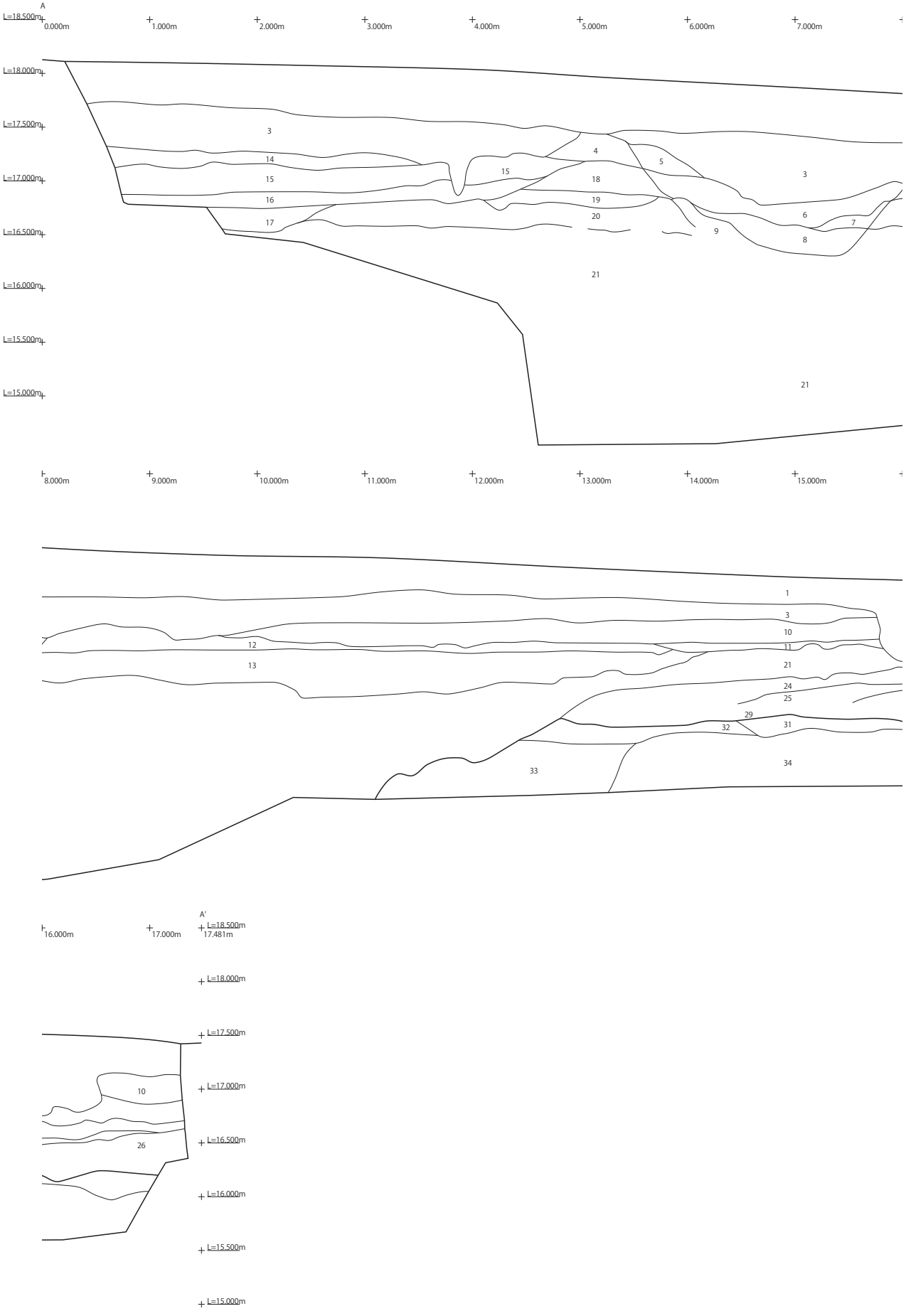


1. 10YR5/2　灰黄褐色シルト＋砂　極粗粒砂 細礫など多く混じる 細礫少量混じる
2. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト＋砂　極粗粒砂多く混じる
21. 10YR4/2　灰黄褐色礫＋砂　中礫＋細礫 極粗粒砂主体
33. 10YR6/4　にぶい黄橙色シルト　細礫少量混じる 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
35. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　粗粒砂多く混じる
36. 10YR4/1　褐灰色礫＋シルト　中礫 細礫主体 巨礫 粗粒砂多く混じる
37. 10YR3/1　砂＋シルト　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫混じる
38. 10YR6/3　砂＋シルト　中礫 細礫主体 極粗粒砂 粗粒砂混じる
39. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる
40. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト＋砂　中粒砂 細粒砂主体
41. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫少量混じる 沈鉄混じる
42. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫少量混じる 沈鉄混じる
43. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫やや多く混じる 沈鉄混じる
44. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる 沈鉄混じる 炭化物少量混じる
45. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　中礫 細礫 極粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
46. 10YR5/2～5/3 灰黄褐色～にぶい黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる 沈鉄混じる
47. 10YR4/2　灰黄褐色礫＋砂　中礫 細礫主体 極粗粒砂多く混じる 21層と同層か
48. 10YR5/2　灰黄褐色シルト＋礫細礫　細礫 極粗粒砂 主体
49. 10YR5/2　灰黄褐色砂細礫　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫少量混じる
50. 10YR4/2　灰黄褐色礫＋砂　中礫 細礫主体 極粗粒砂多く混じる
51. 10YR4/1　褐灰色礫＋砂　中礫 細礫主体 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
52. 10YR4/1　褐灰色砂　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫混じる
53. 10YR5/1　褐灰色砂　粗粒砂 中粒砂主体
54. 10YR5/2　灰黄褐色砂　中粒砂 細粒砂主体
55. 10YR4/1　褐灰色砂＋シルト
56. 10YR5/3　にぶい黄褐色砂＋シルト　中粒砂 細粒砂主体
57. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂 細粒砂主体 極粗粒砂少量混じる
58. 10YR5/2　灰黄褐色礫＋砂　細礫 極粗粒砂主体 10YR5/2 灰黄褐色極粗粒砂～シルトブロック状に混じる
59. 10YR6/3　にぶい黄橙色シルト　極細粒砂多く混じる 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
60. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂多く混じる 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
61. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　細粒砂多く混じる 炭化物粒混じる
62. 10YR6/2　灰黄褐色シルト　細粒砂混じる 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
63. 10YR6/4　にぶい黄橙色シルト　細粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる
64. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂 粗粒砂主体 炭化物粒混じる
65. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト＋砂　細粒砂主体 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
66. 10YR6/4～6/6 にぶい黄橙色～灰黄褐色シルト＋砂 細粒砂主体 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
67. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂極若干混じる 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性強い
68. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　細粒砂少量混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
69. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 シルト若干混じる 炭化物粒混じる 粘性強い
70. 10YR6/3　にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂多く混じる 炭化物粒多く混じる
71. 10YR6/3　にぶい黄橙色シルト　粗粒砂少量混じる 炭化物粒混じる
72. 10YR6/4　にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる
73. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂多く混じる 炭化物粒少量混じる
74. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　10YR6/1 褐灰色シルト斑状に混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる
75. 10YR6/3　にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 細礫混じる 炭化物粒混じる
76. 10YR6/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂少量混じる 炭化物粒混じる
77. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 炭化物粒若干混じる
78. 10YR6/2　灰黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる 炭化物粒混じる
79. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 沈鉄多く混じる 炭化物粒混じる
80. 10YR5/2～5/3 灰黄褐色～にぶい黄褐色礫＋砂　細礫 極粗粒砂 中粒砂主体 シルトブロック状に混じる
81. 10YR6/4　にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 細礫混じる 沈鉄多く混じる
82. 10YR6/4　にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄多く混じる
83. 10YR6/4　にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 沈鉄多く混じる
84. 10YR6/3　にぶい黄橙色シルト　中粒砂 細礫若干混じる 沈鉄多く混じる
85. 10YR6/4　にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる 沈鉄多く混じる
86. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂多く混じる 沈鉄多く混じる
87. 10YR6/1　褐灰色シルト　中粒砂 細粒砂多く混じる 沈鉄多く混じる
88. 10YR6/2　灰黄褐色シルト　細礫 極粗粒砂多く混じる 沈鉄多く混じる
89. 10YR6/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 中粒砂混じる 沈鉄多く混じる
90. 10YR6/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂少量混じる 沈鉄多く混じる
91. 10YR6/3　にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 細礫少量混じる 沈鉄多く混じる
98. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　細粒砂主体 シルトブロック状に混じる 沈鉄 マンガン斑混じる

11Cトレンチセクション図　S＝1：50（8）

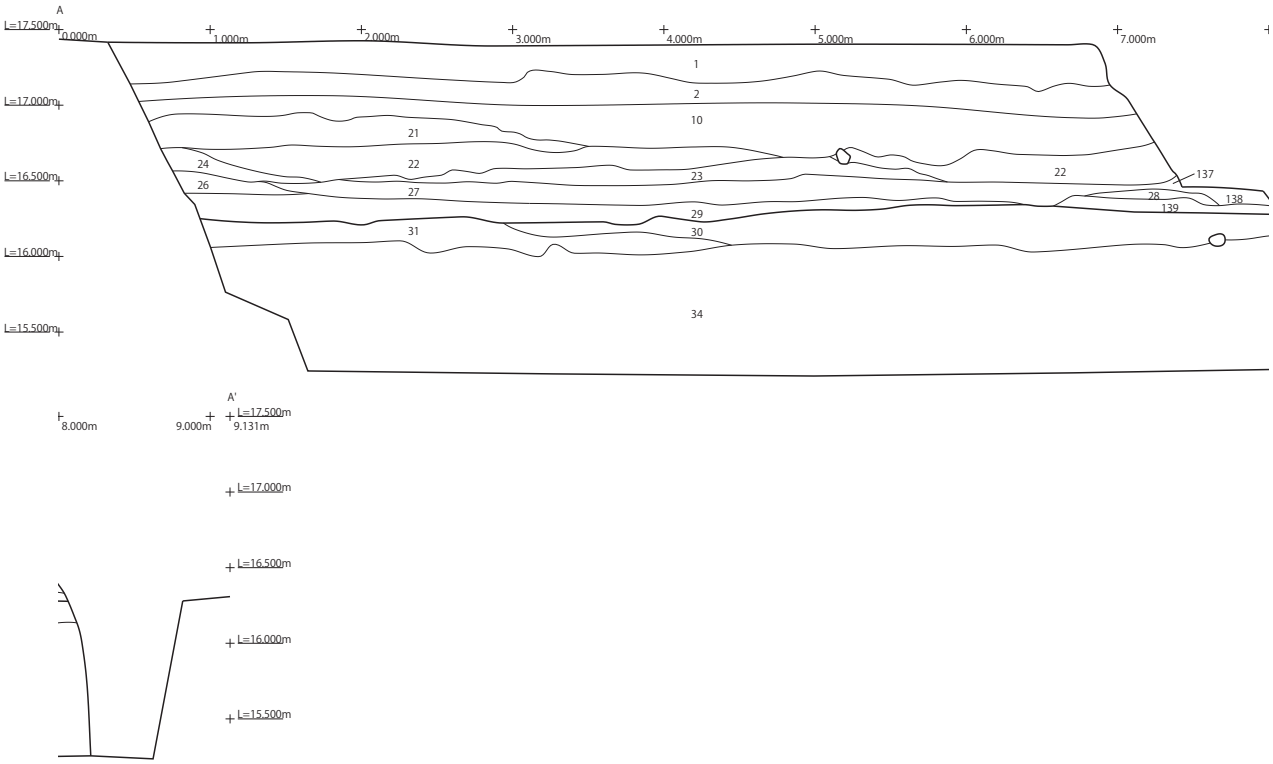
遺構図版84

C区北壁1

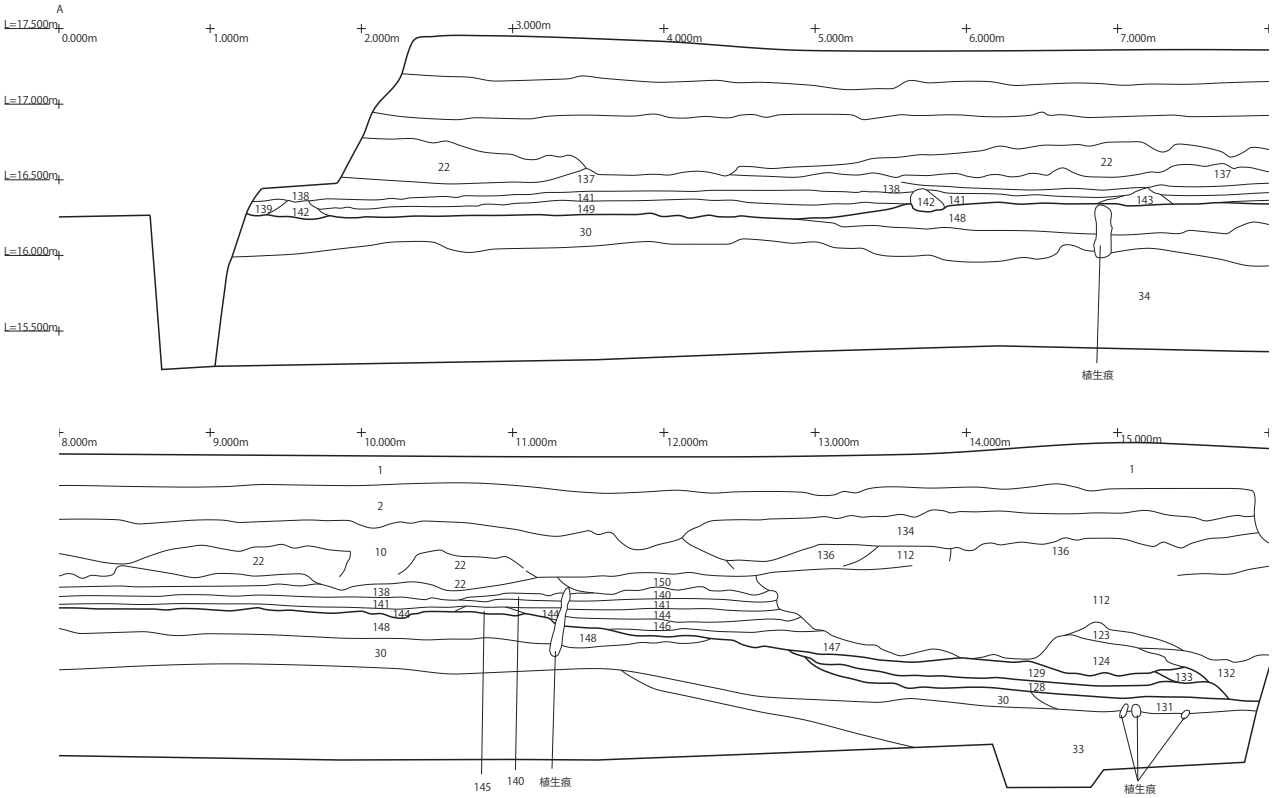


11Cトレンチセクション図　S＝1：50（9）

C区北壁2



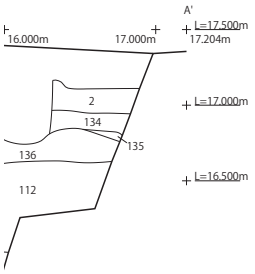
C区北壁3



11Cトレンチセクション図　S＝1：50（10）

遺構図版86

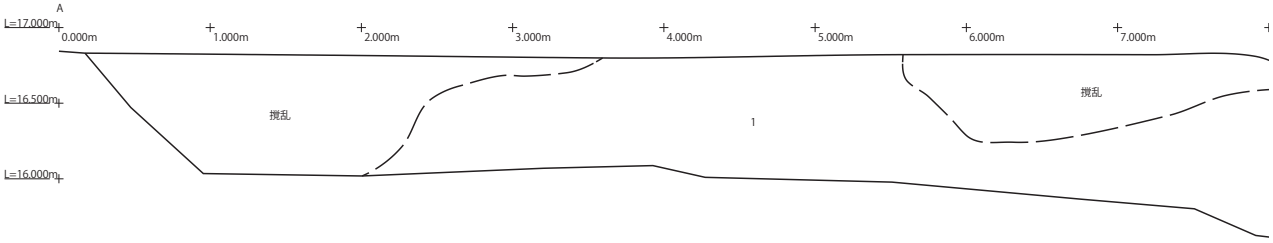
C区北壁3



1. 10YR5/2　灰黄褐色シルト＋砂　極粗粒砂 細礫など多く混じる 細礫少量混じる
3. 10YR5/2　灰黄褐色シルト＋砂　極粗粒砂多く混じる 細礫少量混じる
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト＋砂 極粗粒砂 細礫多く混じる
5. 10YR4/1　褐灰色シルト＋砂　極粗粒砂 細礫主体
6. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫少量混じる 沈鉄混じる
7. 10YR4/2　灰黄褐色シルト＋砂　粗粒砂主体 極粗粒砂少量混じる
8. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　中粒砂 極粗粒砂少量混じる 沈鉄混じる
9. 10YR4/1　褐灰色シルト　極粗粒砂少量混じる 沈鉄混じる
10. 10YR6/3　にぶい黄橙色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる
11. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄多く混じる
12. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる 沈鉄多く混じる
13. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる
14. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる
15. 10YR4/2　灰黄褐色シルト＋砂　極粗粒砂主体 細礫多く混じる
16. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂少量混じる 沈鉄多く混じる
17. 10YR2/1　黒色シルト　極粗粒砂混じる
18. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫多く混じる
19. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂多く混じる
20. 10YR3/1　黒褐色シルト　極粗粒砂混じる 炭化物粒少量混じる
21. 10YR4/2　灰黄褐色礫＋砂　中礫＋細礫 極粗粒砂主体
22. 10YR4/2　灰黄褐色礫＋砂　細礫 極粗粒砂主体 中礫混じる
23. 10YR4/3　にぶい黄褐色砂＋シルト 粗粒砂 中粒砂主体
24. 10YR5/3　にぶい黄褐色砂＋シルト 粗粒砂 中粒砂主体 極粗粒砂混じる
25. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂混じる
26. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　中粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑多く混じる
27. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂少量混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
28. 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
29. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
30. 10YR5/2　灰黄褐色シルト＋砂　細礫 極粗粒砂主体
31. 10YR3/2　黒褐色礫＋砂 中礫　細礫 極粗粒砂主体 シルトブロック状に混じる
32. 10YR3/2　黒褐色礫＋砂 細礫　極粗粒砂主体
33. 10YR6/4　にぶい黄橙色シルト　細礫少量混じる 極粗粒砂 粗粒砂多く混じる
34. 10YR5/3〜10YR4/3 にぶい黄褐色礫＋砂　中礫 細礫 極粗粒砂主体
112. 10YR5/1　褐灰色礫＋砂　細礫 中粒砂主体 極粗粒砂多く混じる
123. 10YR6/2　灰黄褐色シルト　細粒砂多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 粘性強い
124. 10YR5/2　灰黄褐色砂＋シルト　中粒砂主体 極粗粒砂混じる
128. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂やや多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 細礫混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い
129. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂やや多く混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 細礫混じる 炭化物粒若干混じる 粘性強い
131. 10YR3/3　暗褐色シルト　中礫 細礫 極粗粒砂多く混じる
132. 10YR4/2　灰黄褐色砂　極粗粒砂 粗粒砂主体 細礫混じる
133. 10YR4/2　灰黄褐色礫＋シルト　中礫主体 シルト粘性強い
134. 10YR4/3　にぶい黄褐色礫＋シルト 細礫 砂主体 所々で礫のみブロック状に固まる
135. 10YR5/3　にぶい黄褐色シルト　中粒砂 細粒砂多く混じる 極粗粒砂少量混じる
136. 10YR4/3　にぶい黄褐色砂＋シルト 中粒砂 細粒砂主体
137. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂多く混じる 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
138. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
139. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 粗粒砂混じる 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
140. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂多く混じる 炭化物粒混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
141. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる
142. 10YR6/3　にぶい黄橙色シルト　粗粒砂 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
143. 10YR4/2　灰黄褐色砂シルト　中礫 細礫 極粗粒砂混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
144. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
145. 10YR6/2　灰黄褐色シルト　中粒砂 細礫若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
146. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　極粗粒砂若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる 炭化物粒混じる
147. 10YR4/2　灰黄褐色シルト　極粗粒砂 細礫若干混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
148. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　中礫 細礫 極粗粒砂多く混じる
149. 10YR5/2　灰黄褐色シルト　粗粒砂 中粒砂 細礫混じる 沈鉄 マンガン斑混じる
150. 10YR4/3　にぶい黄褐色砂＋シルト 極粗粒砂主体 細礫 中粒砂多く混じる

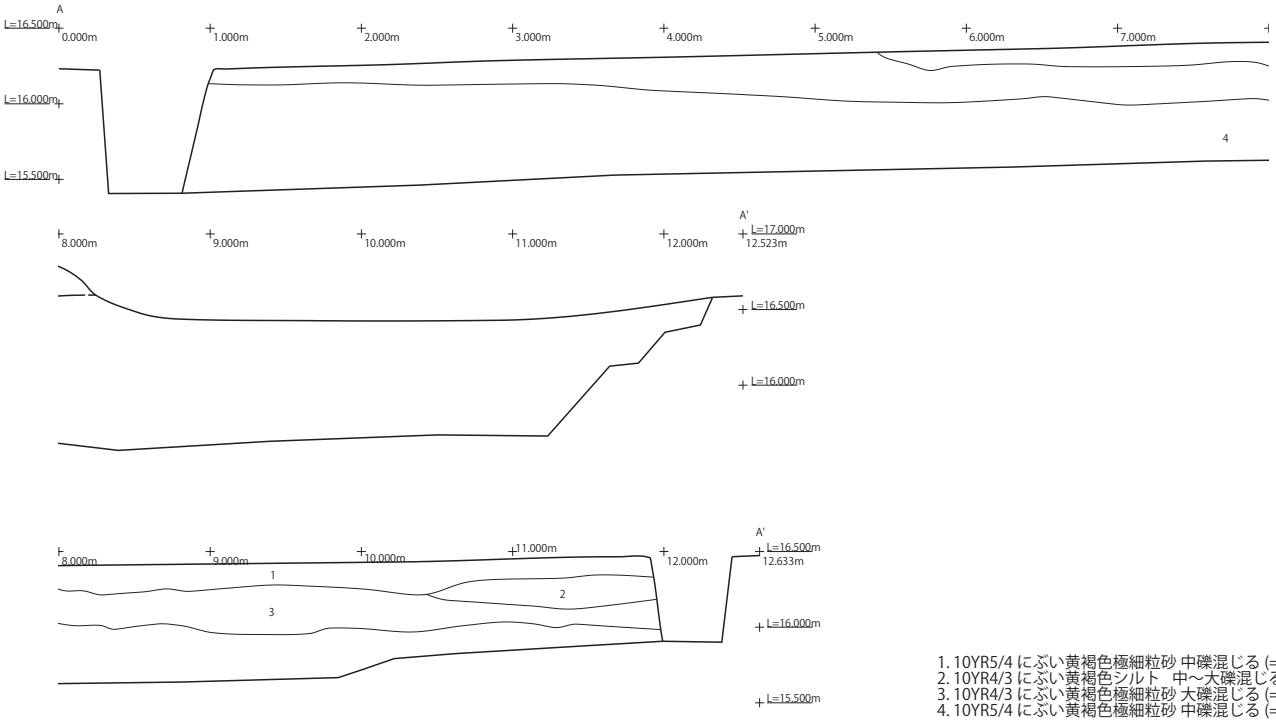
11Cトレンチセクション図　S＝1：50（11）

D区1T



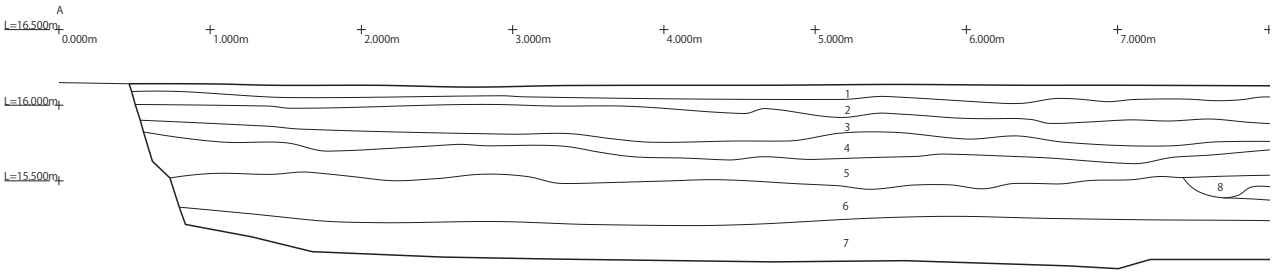
1. 10YR3/2 黒褐色細～中礫 粗粒砂混じる (=南壁4層)

D区 2T



1. 10YR5/4 にぶい黄褐色極細粒砂 中礫混じる (=南壁14層)
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　中～大礫混じる (=南壁3層)
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 大礫混じる (=南壁11層)
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色極細粒砂 中礫混じる (=南壁9層)

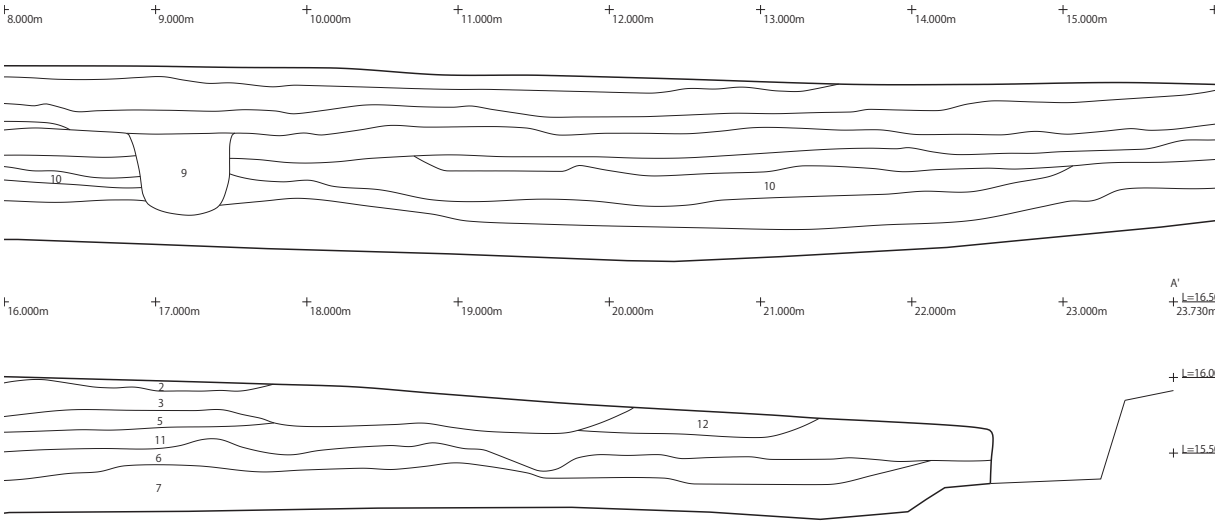
D区4T



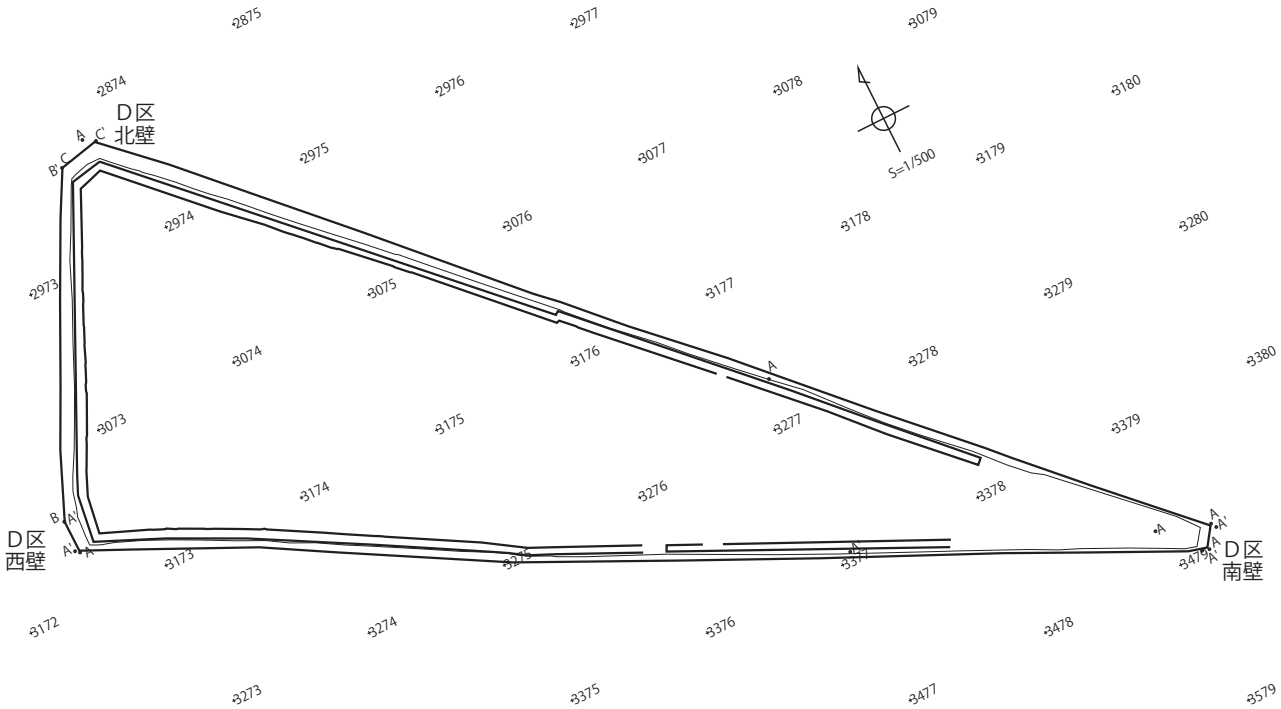
11Dトレンチセクション図　S＝1：50（1）

遺構図版88

D区4T

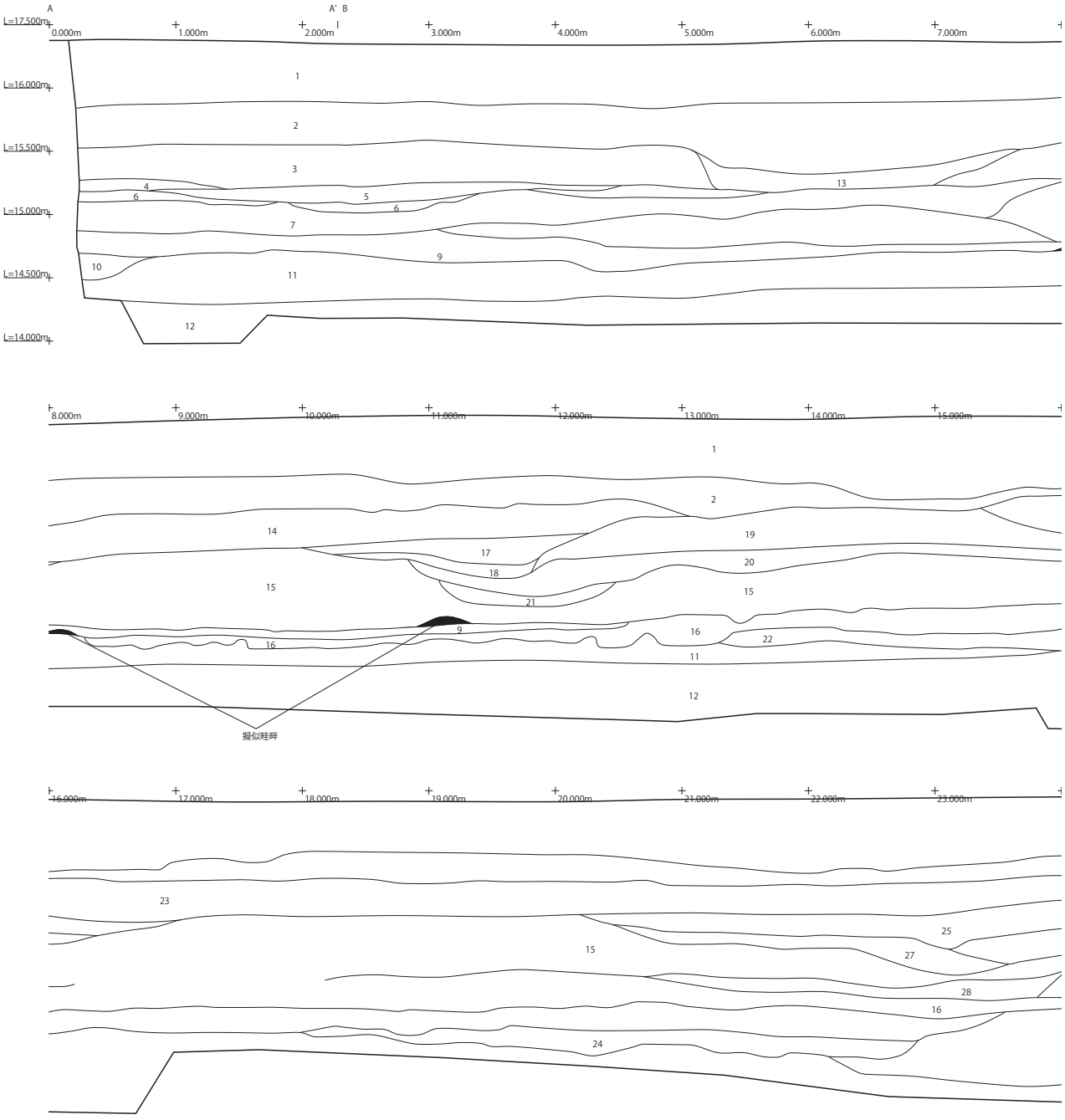


1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　粗粒砂混じる (≒南壁13層)
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　　(≒南壁4層)
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂　　マンガン斑上位にあり (＝南壁3層)
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　　(＝南壁3層)
5. 10YR4/1 褐灰色シルト　　細～中礫多く混じる (＝南壁13層)
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂～中礫 (＝南壁33層)
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色粗粒砂～大礫
8. 10YR4/1 褐灰色シルト　　細～中礫混じる
9. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　　中礫混じる (087SK)
10. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　　細～中礫混じる
11. 10YR4/1 褐灰色シルト　　細～中礫多く混じる
12. 10YR4/1 褐灰色粗粒砂　　中礫多く混じる



11Dトレンチセクション図　S＝1：50（2）

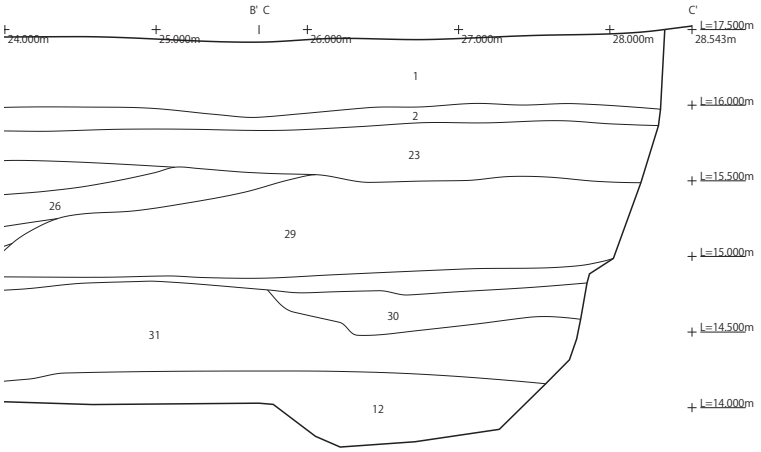
D区西壁



11Dトレンチセクション図　S＝1：50（3）

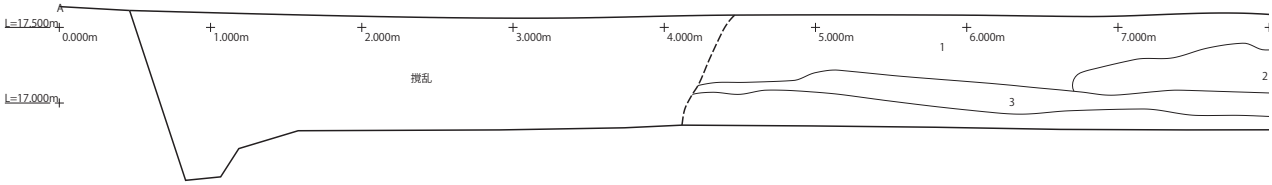
遺構図版90

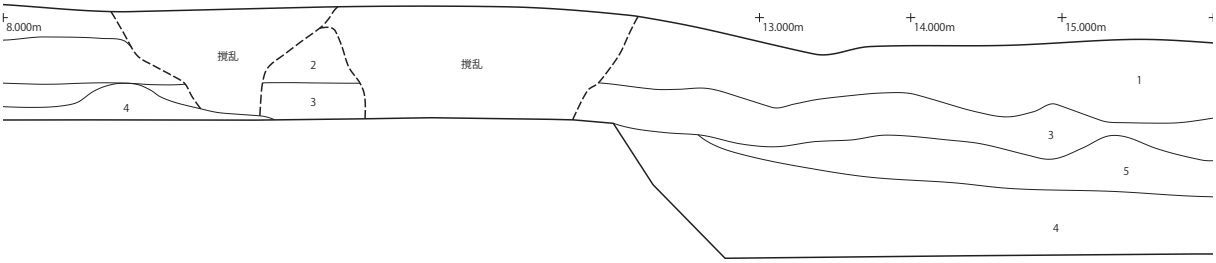
D区西壁

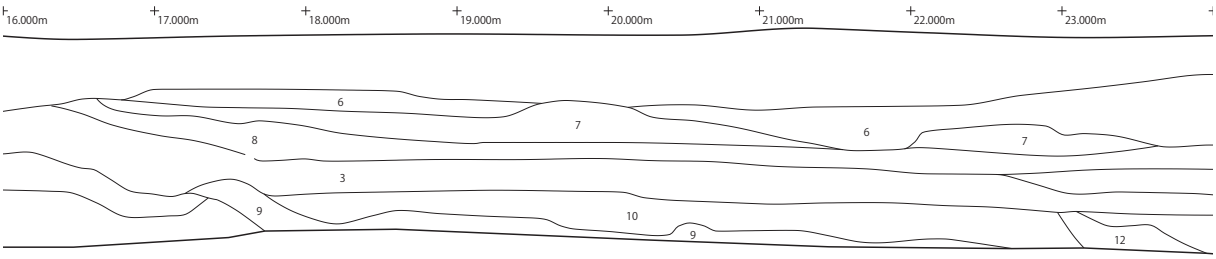


1. 表土　　耕作土 (＝北壁1層)
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる (＝北壁2層)
3. 10YR4/1 褐灰色シルト
4. 10YR4/2 灰黄褐色シルト
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細礫多く混じる
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂
8. 10YR4/1 褐灰色シルト　細礫多く混じる
9. 10YR5/2 灰黄褐色粘土
10. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 中～大礫混じる
11. 10YR4/1 褐灰色中～大礫　粗粒砂混じる
12. 10YR4/1 褐灰色中～大礫　粗粒砂混じる
13. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる
14. 10YR4/1 褐灰色シルト　(＝3層)
15. 10YR5/1 褐灰色細～中礫　粗粒砂混じる
16. 10YR5/1 褐灰色シルト　細礫混じる (＝北壁10層)
17. 10YR5/1 褐灰色シルト　中礫混じる
18. 10YR5/2 灰黄褐色シルト
19. 10YR5/1 褐灰色細～中礫　粗粒砂混じる
20. 10YR4/1 褐灰色粗粒砂　細～中礫混じる
21. 10YR4/1 褐灰色粗粒砂
22. 10YR4/1 褐灰色シルト　中礫混じる
23. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　中礫混じる
24. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 中礫混じる
25. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂　中礫混じる
26. 10YR5/1 褐灰色細～中礫　粗粒砂混じる
27. 10YR5/2 灰黄褐色粗粒砂　細礫混じる
28. 10YR4/1 褐灰色シルト
29. 10YR5/2 灰黄褐色細～中礫 (＝北壁5層)
30. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　(＝北壁11層)
31. 10YR4/4 褐色中～大礫　(＝北壁13層)

D区南壁

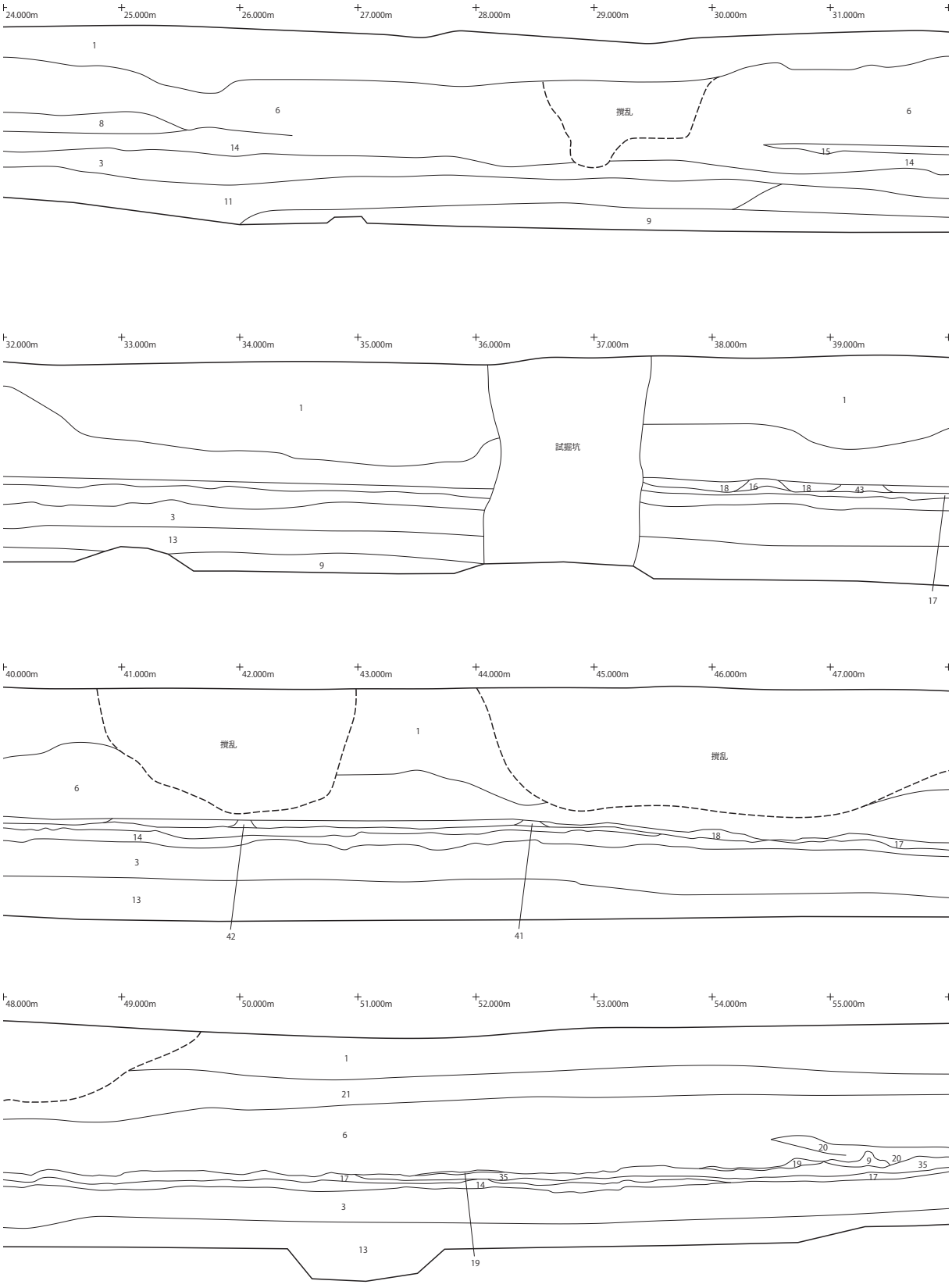






11Dトレンチセクション図　S＝1：50（4）

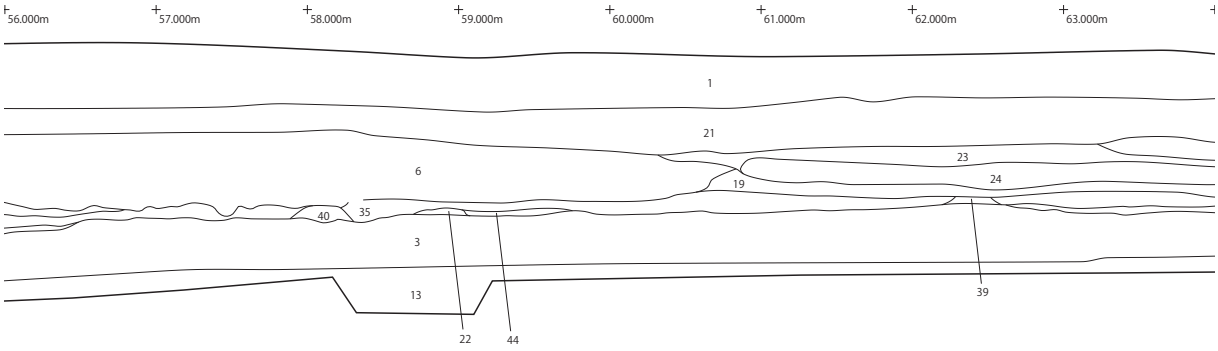
D区南壁

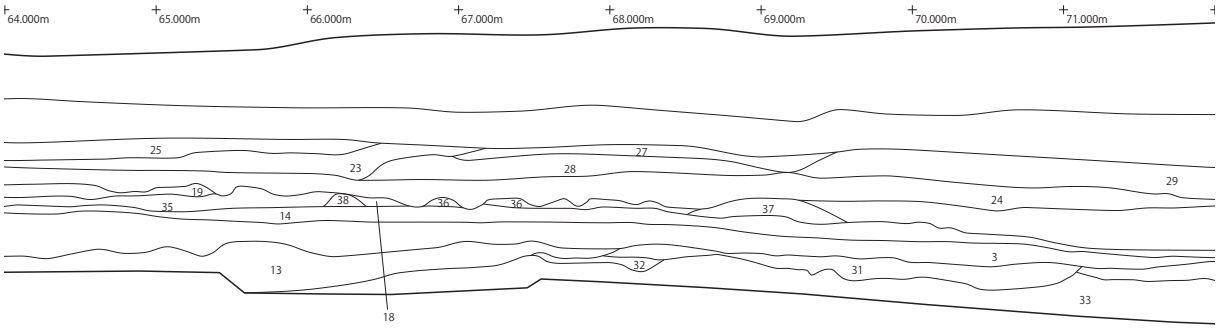


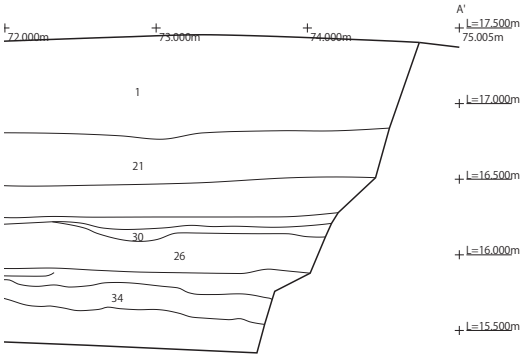
11Dトレンチセクション図　S＝1：50（5）

遺構図版92

D区南壁



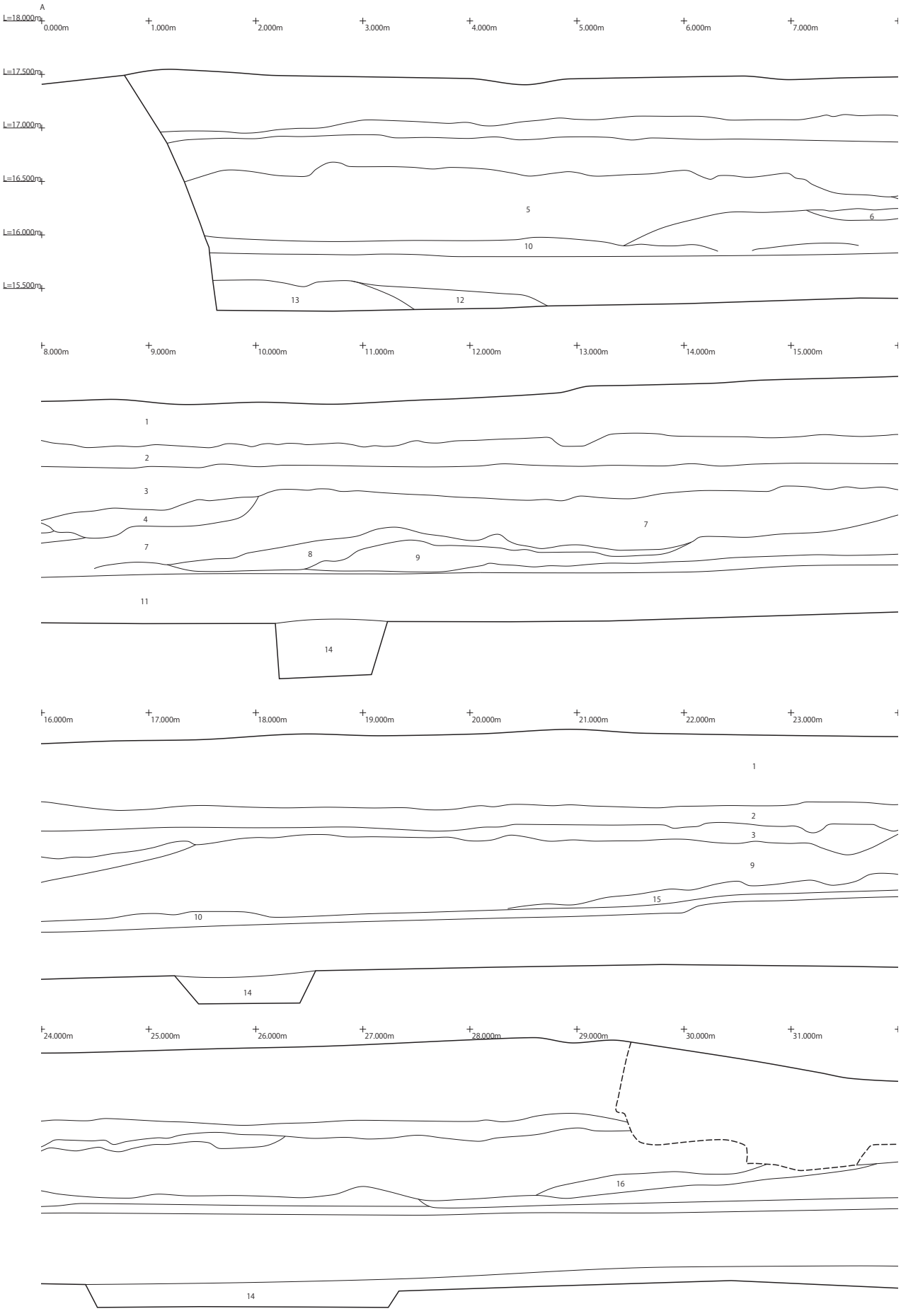




1. 表土　宅地造成土＋耕作土
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　中礫混じる
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　中礫～大礫混じる マンガン斑上位で多い
4. 10YR2/3 黒褐色細～中礫　粗粒砂混じる
5. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂　中礫混じる
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色細～中礫　粗粒砂混じる
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂　細～中礫混じる
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂
9. 10YR5/4 にぶい黄褐色極粗粒砂　中礫混じる
10. 10YR3/2 黒褐色シルト　ところどころ大礫混じる
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色極粗粒砂　大礫混じる
12. 10YR5/4 にぶい黄褐色粗粒砂～細礫
13. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　中礫混じる
14. 10YR5/4 にぶい黄褐色極粗粒砂　中礫混じる (＝西壁9層)
15. 10YR4/1 褐灰色シルト
16. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　10YR4/1 褐灰色シルト混じる 畦畔
17. 10YR5/4 にぶい黄褐色極粗粒砂
18. 10YR4/1 褐灰色粘土　耕作土
19. 10YR4/1 褐灰色極細粒砂
20. 10YR4/1 褐灰色細粒砂
21. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中礫混じる
22. 10YR4/1 褐灰色シルト　中礫混じる
23. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　細礫混じる
24. 10YR4/3 にぶい黄褐色細～中礫　粗粒砂混じる (＝6層)
25. 10YR4/1 褐灰色シルト　中～大礫多く混じる 陶磁器あり
26. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　中～大礫混じる
27. 10YR5/2 灰黄褐色シルト
28. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　細礫上位にあり
29. 10YR4/1 褐灰色シルト　(＝西壁3層)
30. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂　細礫多く混じる (＝西壁6層)
31. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　中礫混じる
32. 10YR5/4 にぶい黄褐色粗粒砂　細～中礫多く混じる
33. 10YR4/1 褐灰色中～大礫　粗粒砂混じる (＝西壁12層)
34. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　中～大礫混じる (＝西壁10層)
35. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　水田耕作土を含む部分の堆積を削平した堆積層
36. 10YR4/1 褐灰色粘土　耕作土の一部
37. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂 中礫混じる 畦畔
38. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細礫混じる 畦畔
39. 10YR4/1 褐灰色シルト　粗粒砂混じる 畦畔
40. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂混じる 畦畔
41. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂混じる 畦畔
42. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂混じる 畦畔
43. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　粗粒砂混じる 畦畔
44. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　3層とはマンガンの有無のみで違う

11Dトレンチセクション図　S＝1：50（6）

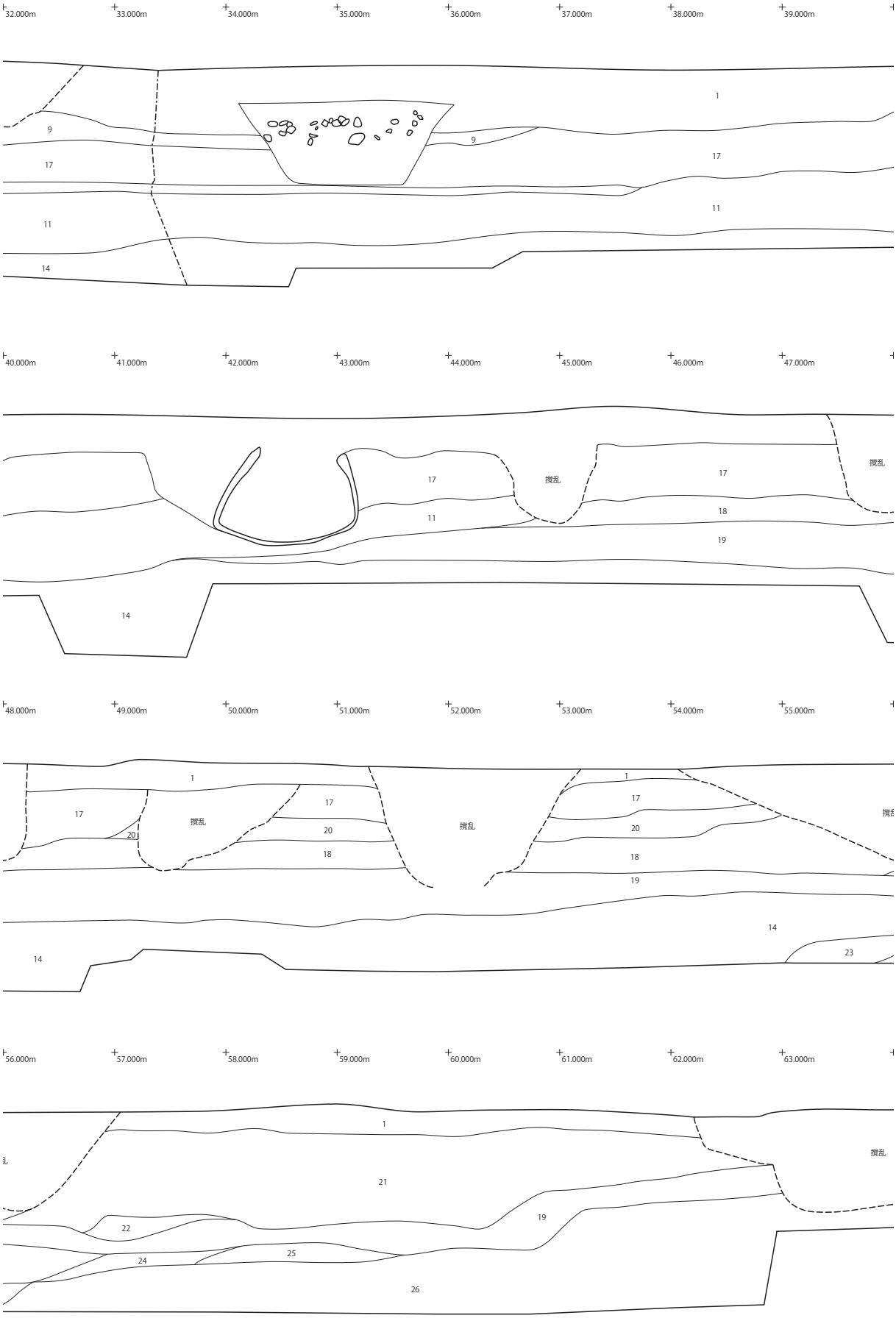
D区北壁



11Dトレンチセクション図　S＝1：50（7）

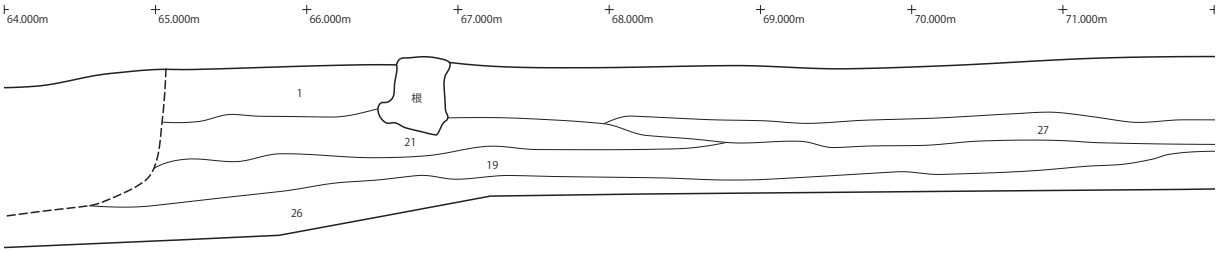
遺構図版94

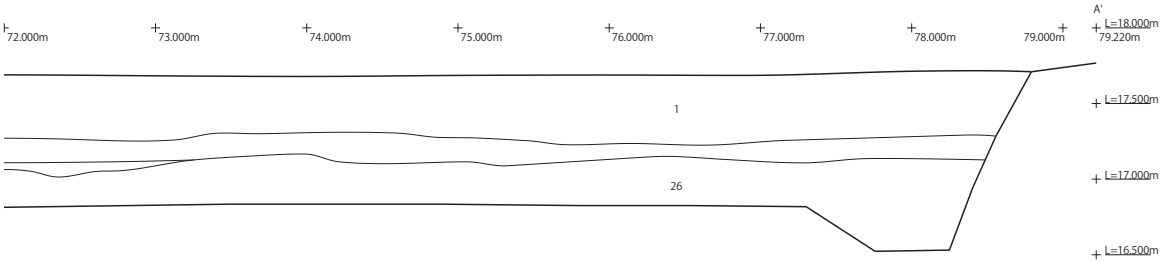
D区北壁



11Dトレンチセクション図　S＝1：50（8）

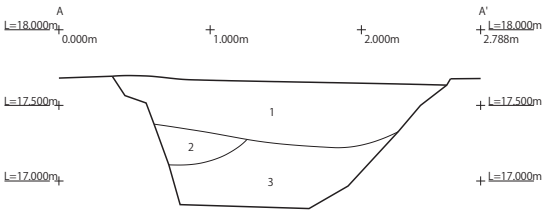
D区北壁





1. 表土　　宅地の造成＋耕作土 (＝東壁1層＝南壁1層)
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　中礫混じる
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　中礫混じる
4. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂　　細礫混じる
5. 10YR5/2 灰黄褐色細～中礫
6. 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂　細礫混じる
7. 10YR5/2 灰黄褐色細～中礫
8. 10YR5/2 灰黄褐色粗粒砂　　細礫混じる
9. 10YR5/2 灰黄褐色細礫　　粗粒砂混じる
10. 10YR4/2 灰黄褐色粘土
11. 10YR4/2 灰黄褐色シルト　　中～大礫混じる
12. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　中～大礫混じる
13. 10YR4/4 褐色中～大礫　　中～大礫混じる
14. 10YR5/4 にぶい黄褐色極粗粒砂 中礫混じる (＝南壁9層)
15. 10YR5/2 灰黄褐色粗粒砂　　細礫混じる
16. 10YR5/2 灰黄褐色粗粒砂　　細礫混じる (＝15層)
17. 10YR5/2 灰黄褐色中礫
18. 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂　細～中礫混じる
19. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　中～大礫混じる (＝南壁3層)
21. 10YR5/2 灰黄褐色中～大礫
22. 10YR5/2 灰黄褐色シルト　　細～中礫混じる
23. 10YR4/3 にぶい黄褐色極粗粒砂
24. 10YR5/2 灰黄褐色細～中礫
25. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂～細礫
26. 10YR2/3 黒褐色細～中礫　　粗粒砂混じる (＝東壁3層＝南壁4層)
27. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　細～中礫混じる (＝東壁2層＝南壁2層)

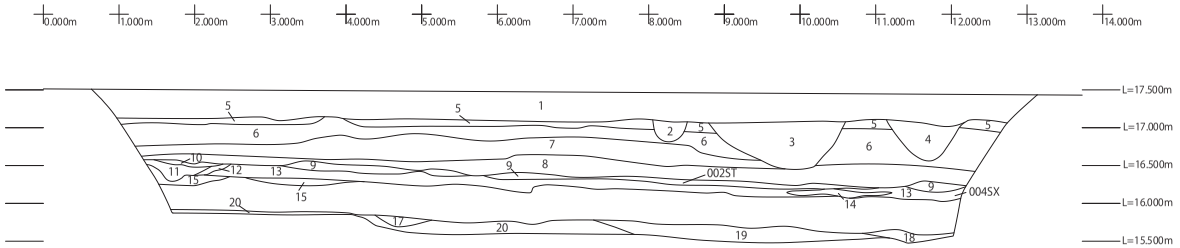
E区北壁



11Dトレンチセクション図　S＝1：50（9）

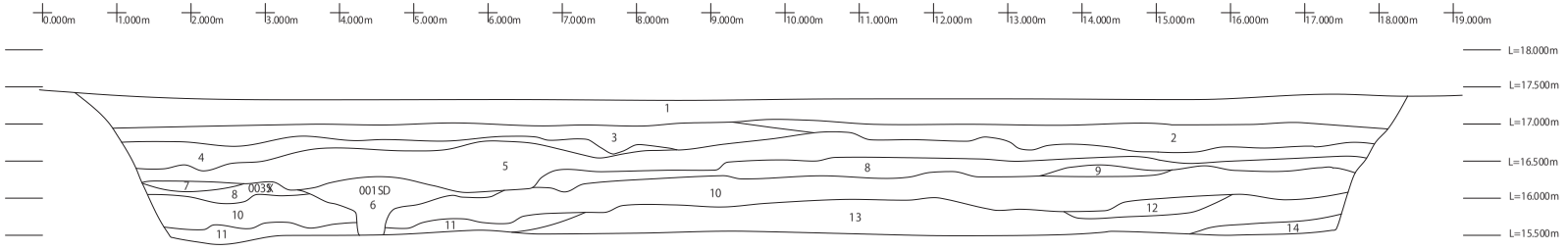
12Aトレンチセクション図　S＝1：100

12A東壁セクション図



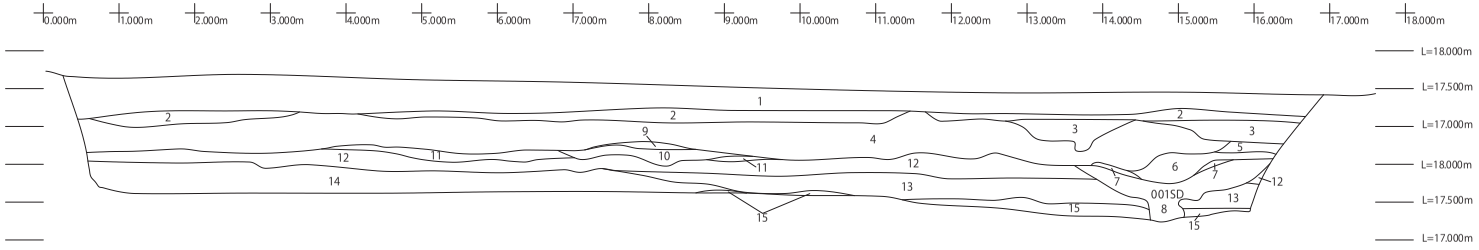
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト φ3cm以下礫若干あり。 表層土壌、耕作土。
2. 10YR4/2 灰黄褐 シルト
3. 10YR4/2 灰黄褐 シルト φ5cm以下礫含む。
4. 10YR4/2 灰黄褐 シルト φ2cm以下礫含む。
5. 7.5YR2/1 黒色 シルト しまりなし。4との境は不明瞭。黒ボク層。
6. 7.5YR2/1 黒色 シルト
7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト φ3cm以下円礫あり。撹拌受けた地山。
8. 10YR3/3 暗褐色 シルト φ3cm以下円礫・亜角礫多く含む。
9. 7.5YR4/4 褐色 シルト 地山。
10. 10YR3/1 黒褐色 シルト
11. 10YR3/1 黒褐色 シルト しまりなし。φ5mm以下礫多く含む。
12. 10YR3/1 黒褐色 シルト
13. 10YR3/2 黒褐色 粘土 φ3cm以下礫若干含む。 粗粒砂が帯状に入る。炭化物あり。
14. 10YR3/1 黒褐色 極粗粒砂 φ5mm以下礫多く含む。
15. 10YR3/2 灰黄褐 粘土
16. 10YR3/1 黒褐色 粘土 φ3cm以下礫多く含む。
17. 10YR5/2 灰黄褐 粘土。礫多く含む。
18. 10YR4/4 褐色 粘土 φ5cm以下礫若干含む。 基盤層。
19. 10YR4/4 褐色 粘土 φ5cm以下礫若干含む。 基盤層。
20. 10YR3/2 黒褐色 礫 基盤砂層。

12A南壁セクション図



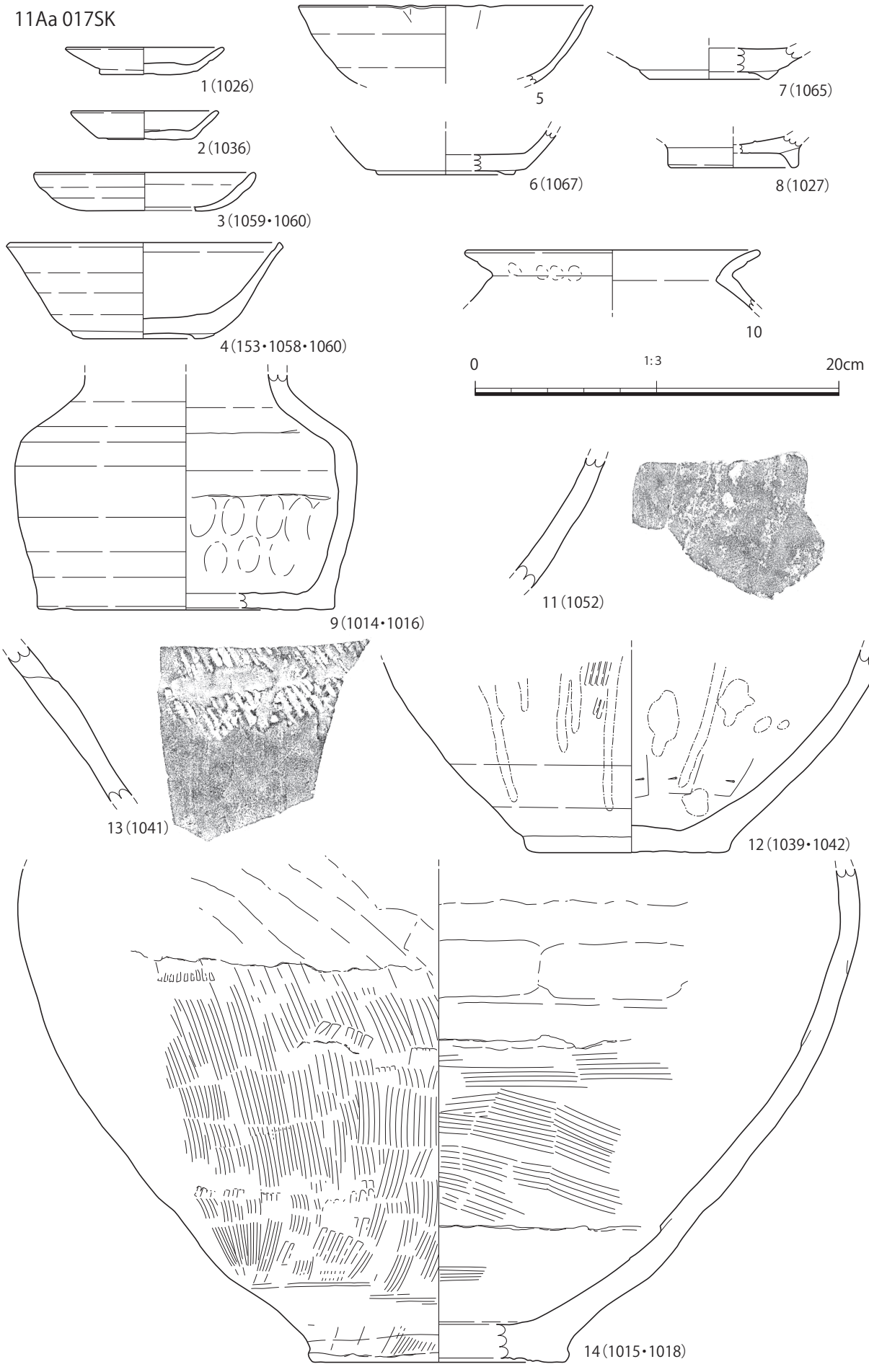
1. 10YR2/1 黒褐色 シルト。 φ3cm以下礫若干あり。 表層土壌、耕作土。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト。礫若干あり。
3. 10YR3/3 暗褐色 砂質 シルト。 φ8cm以下円礫・亜角礫多く含む。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト。 φ1cm以下礫若干含む。粗粒砂・粘土若干含む。
5. 10YR3/3 暗褐色 シルト。φ3cm以下円礫・亜角礫多く含む。特に6の上位でφ5cm以下礫多く含む。
6. 10YR2/1 黒色 極粗粒砂 φ2cm以下礫多く含む。しまりの弱い礫層。001SD。
7. 10YR3/1 黒褐色 シルト 粗粒砂多く含む。炭化物多く含む。礫は少ない。水田耕作土 002STに対応。
8. 10YR3/2 黒褐色 粘土 φ3cm以下礫若干含む。粗粒砂が帯状に入る。炭化物あり。
9. 8と10の混合。
10. 10YR3/1 黒褐色 粘土 φ3cm以下礫多く含む。
11. 10YR4/4 褐色 粘土 φ5cm以下礫若干含む。基盤層。
12. 10YR4/4 褐色 極粗粒砂 基盤層。
13. 10YR3/2 黒褐色 礫 基盤砂層。
14. 10YR4/4 褐色 礫 基盤層。

12A北壁セクション図

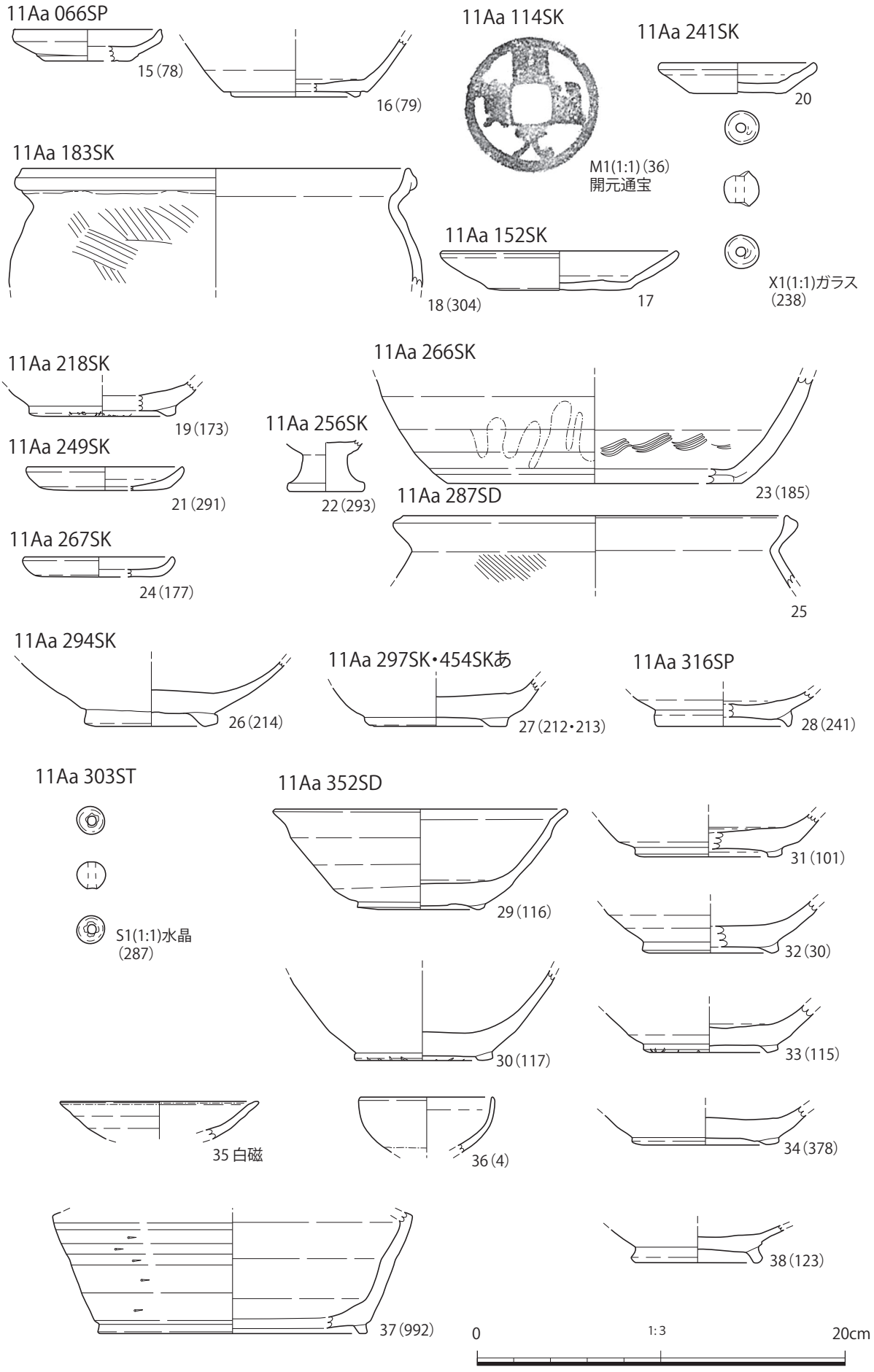


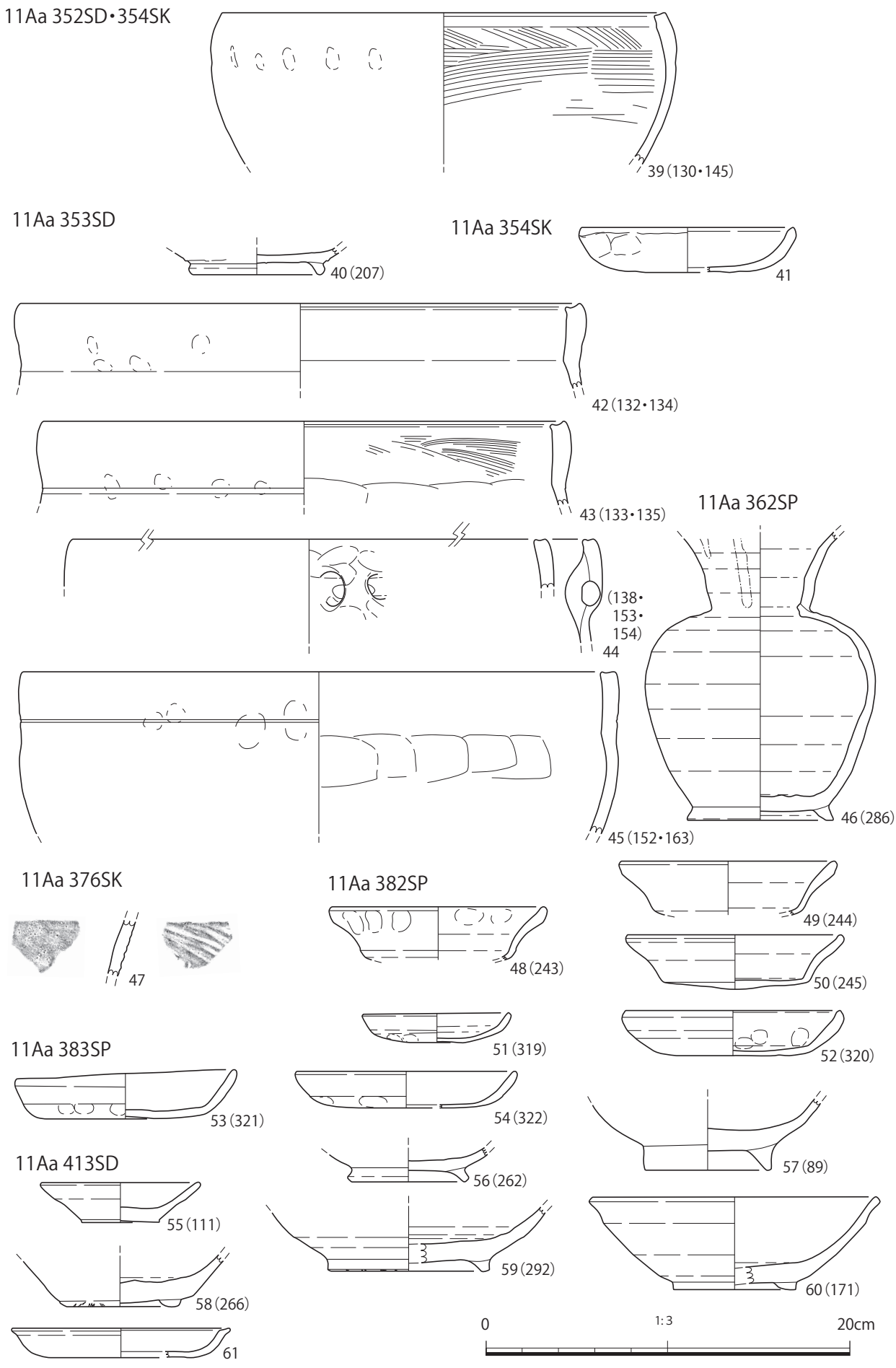
1. 10YR2/1 黒色 シルト φ3cm以下礫若干あり。表層土壌、耕作土。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 礫若干あり。
3. 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト φ8cm以下円礫・亜角礫多く含む。
4. 10YR3/2 黒褐色 粘土 φ10cm以下礫含む。
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト φ1cm以下礫若干含む。粗粒砂・粘土若干含む。
6. 10YR5/2 灰黄褐色 極粗粒砂 φ2cm以下礫多く含む。
7. 10YR3/2 黒褐色 粘土 礫少ない。
8. 10YR2/1 黒色 極粗粒砂 φ2cm以下礫多く含む。しまりの弱い礫層。001SD。
9. 10YR3/1 黒褐色 粘土 礫若干含む。
10. 10YR3/1 黒褐色 粘土 φ2cm以下礫多い。
11. 10YR3/1 黒褐色 シルト 粗粒砂多く含む。炭化物多く含む。礫は少ない。水田耕作土002STに対応
12. 10YR3/2 黒褐色 粘土 φ3cm以下礫若干含む。粗粒砂が帯状に入る。炭化物あり。
13. 10YR3/1 黒褐色 粘土 φ3cm以下礫多く含む。
14. 10YR3/1 黒褐色 シルト φ10cm以下円礫・亜角礫多く含む。
15. 10YR4/4 褐色 シルト φ5cm以下礫多く含む。

11Aa 017SK


1 (1026)
2 (1036)
3 (1059・1060)
4 (153・1058・1060)
5
6 (1067)
7 (1065)
8 (1027)
9 (1014・1016)
10
0
1:3
20cm
11 (1052)
12 (1039・1042)
13 (1041)
14 (1015・1018)

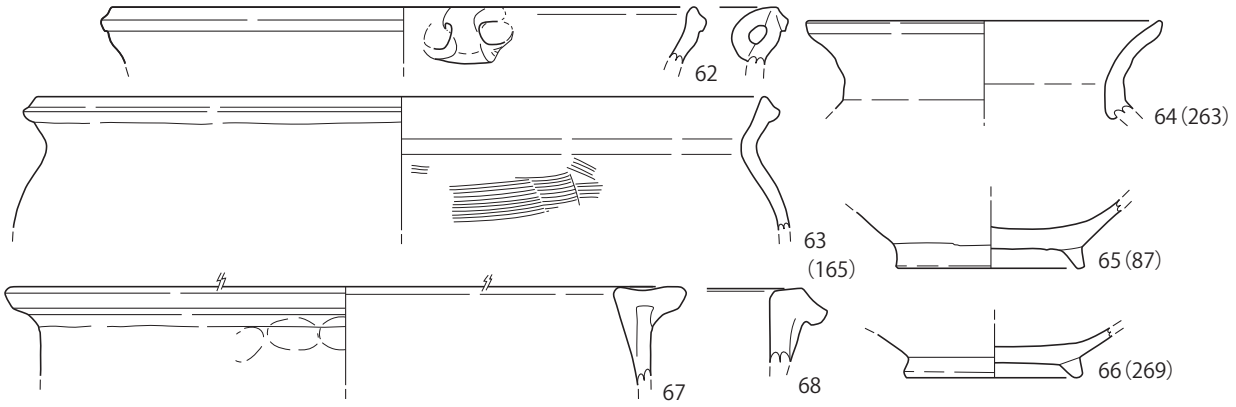
遺物図版 2


11Aa 066SP
15 (78)
16 (79)
11Aa 114SK
M1(1:1) (36)
開元通宝
11Aa 241SK
20
11Aa 183SK
18 (304)
11Aa 152SK
17
X1(1:1)ガラス
(238)
11Aa 218SK
19 (173)
11Aa 249SK
21 (291)
11Aa 256SK
22 (293)
11Aa 266SK
23 (185)
11Aa 287SD
25
11Aa 267SK
24 (177)
11Aa 294SK
26 (214)
11Aa 297SK・454SKあ
27 (212・213)
11Aa 316SP
28 (241)
11Aa 303ST
S1(1:1)水晶
(287)
11Aa 352SD
29 (116)
31 (101)
32 (30)
30 (117)
33 (115)
35 白磁
36 (4)
34 (378)
37 (992)
38 (123)
0
1:3
20cm

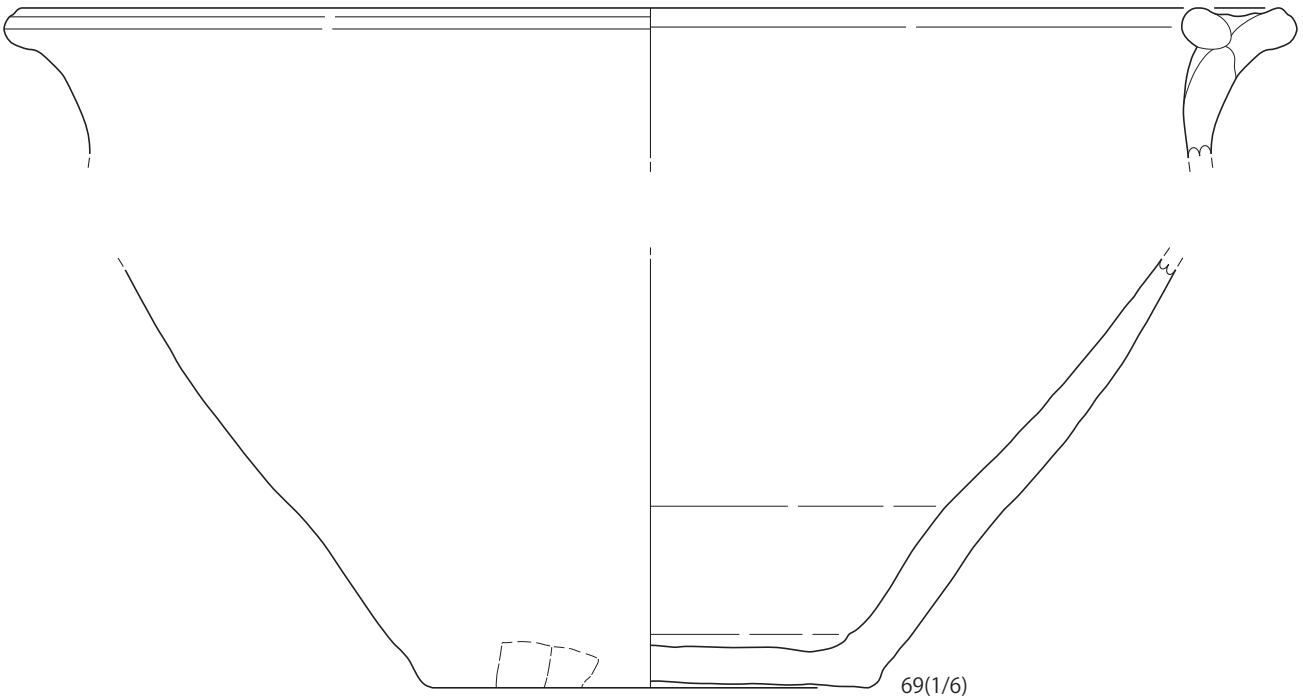

11Aa 352SD・354SK
39 (130・145)
11Aa 353SD
40 (207)
11Aa 354SK
41
42 (132・134)
43 (133・135)
11Aa 362SP
(138・153・154)
44
45 (152・163)
46 (286)
11Aa 376SK
47
11Aa 382SP
48 (243)
49 (244)
50 (245)
51 (319)
52 (320)
11Aa 383SP
53 (321)
54 (322)
56 (262)
57 (89)
11Aa 413SD
55 (111)
58 (266)
59 (292)
60 (171)
61
0
1:3
20cm

遺物図版４

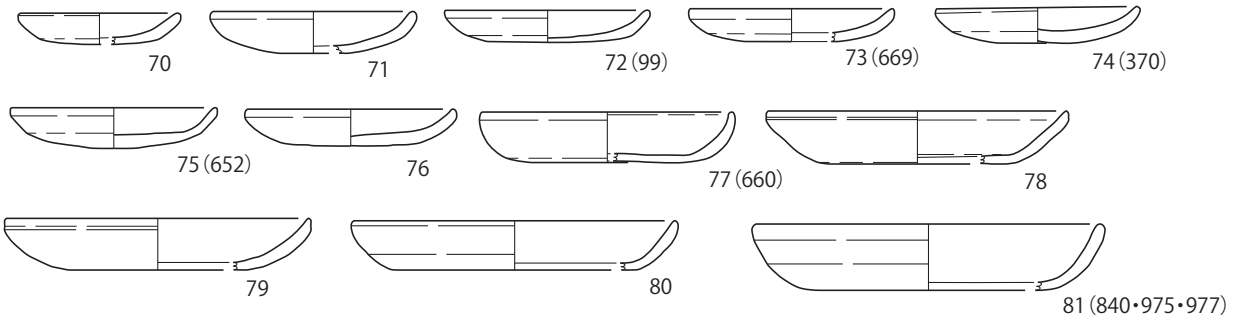
11Aa 413SD



11Aa 401SJ

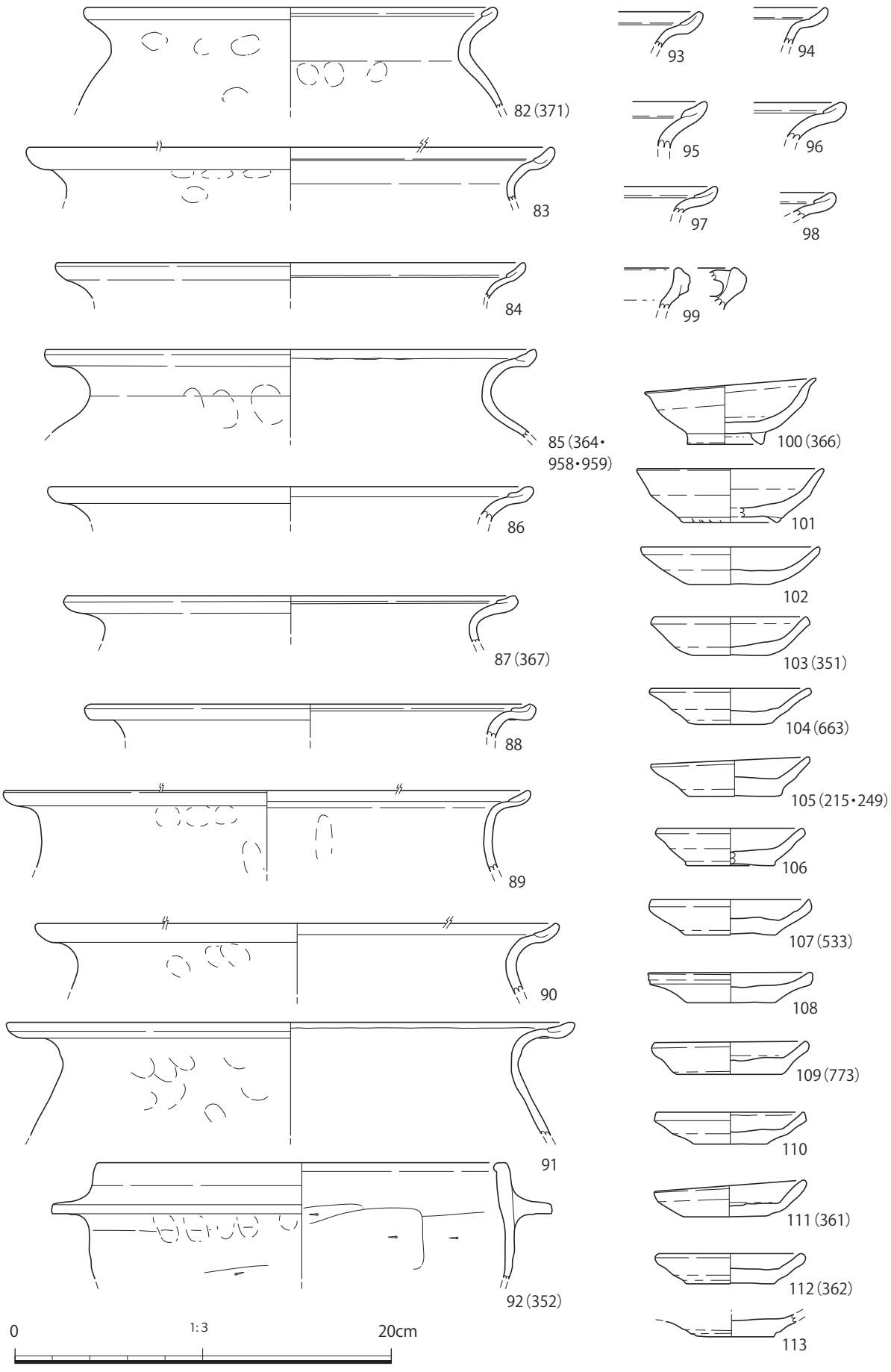


11Aa 454SXあ①



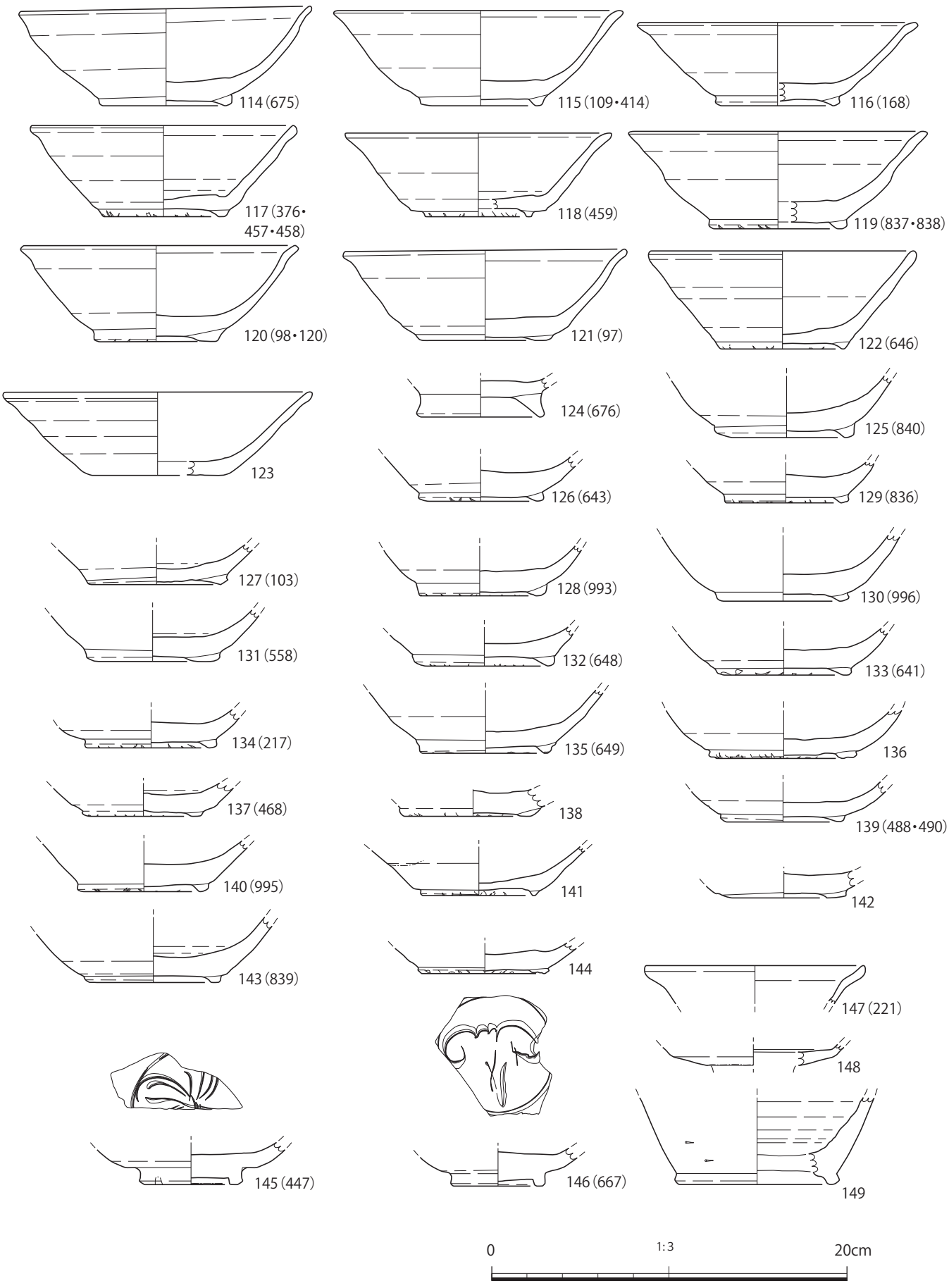
0 1:3 20cm

11Aa 454SXあ②

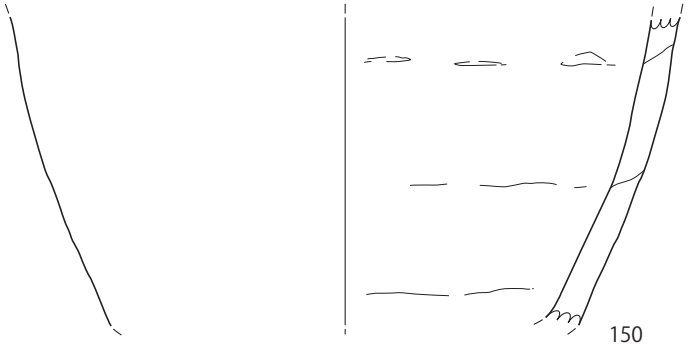


遺物図版６

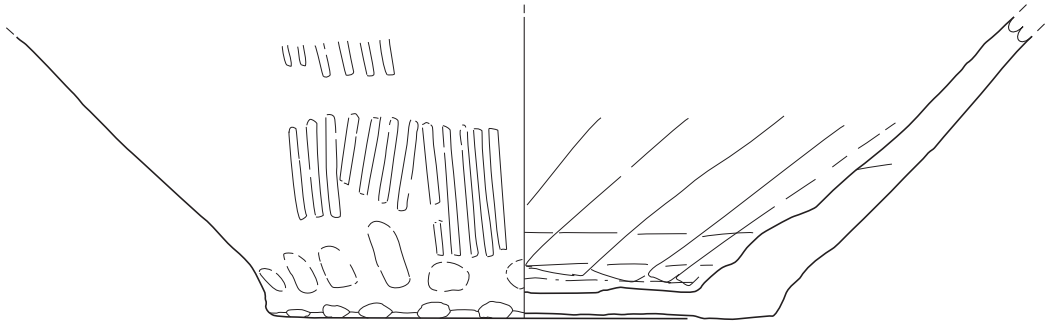
11Aa 454SXあ③



11Aa 454SXあ④

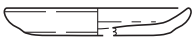


150

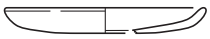


151（634・672）

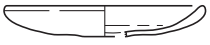
11Aa 454SXい①



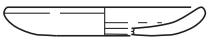
152



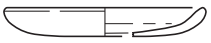
153



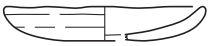
154



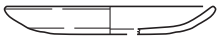
155



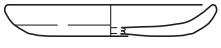
156



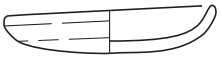
157



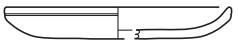
158



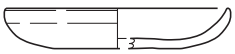
159



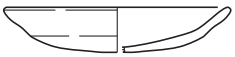
160（345）



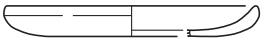
161



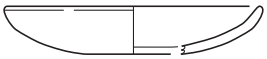
162



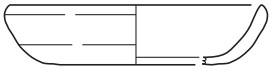
163



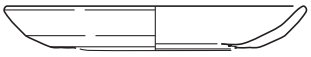
164



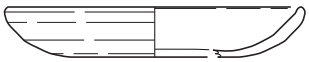
165



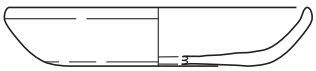
166



167

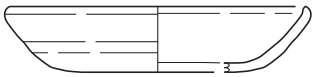


168

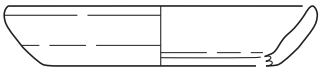


169（704）

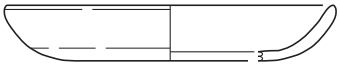
170



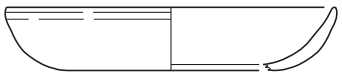
171



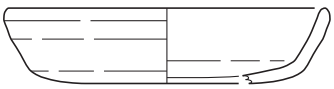
172（705）



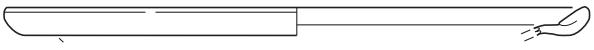
173



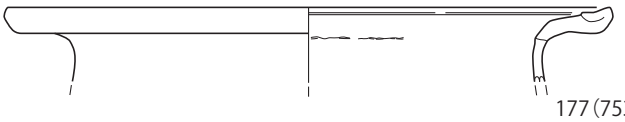
174



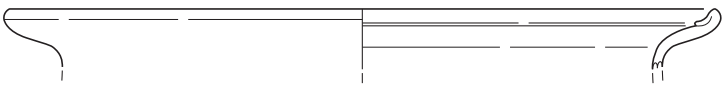
175（314）



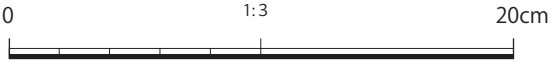
176



177（753）



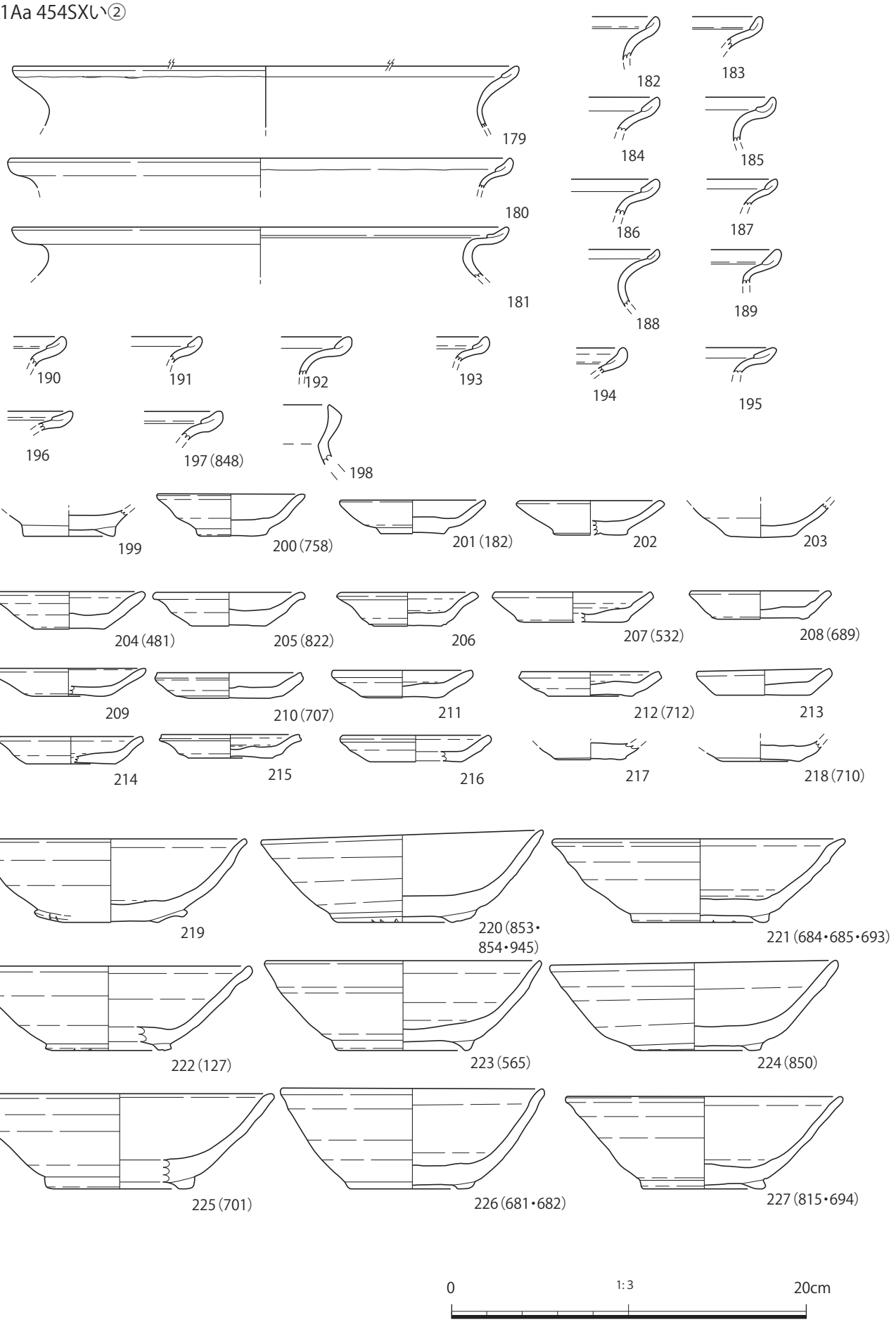
178



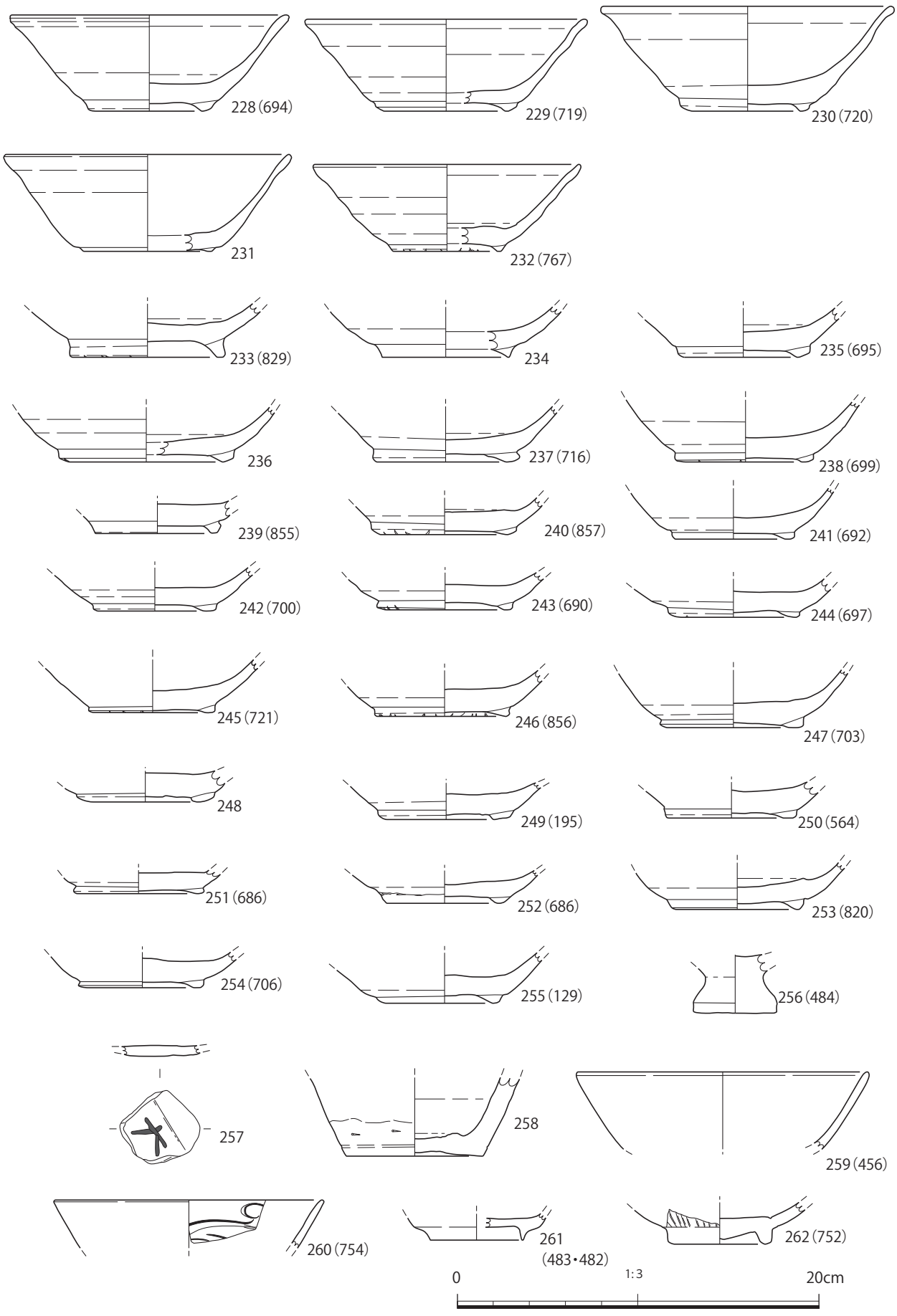
0　1:3　20cm

遺物図版８

11Aa 454SXい②

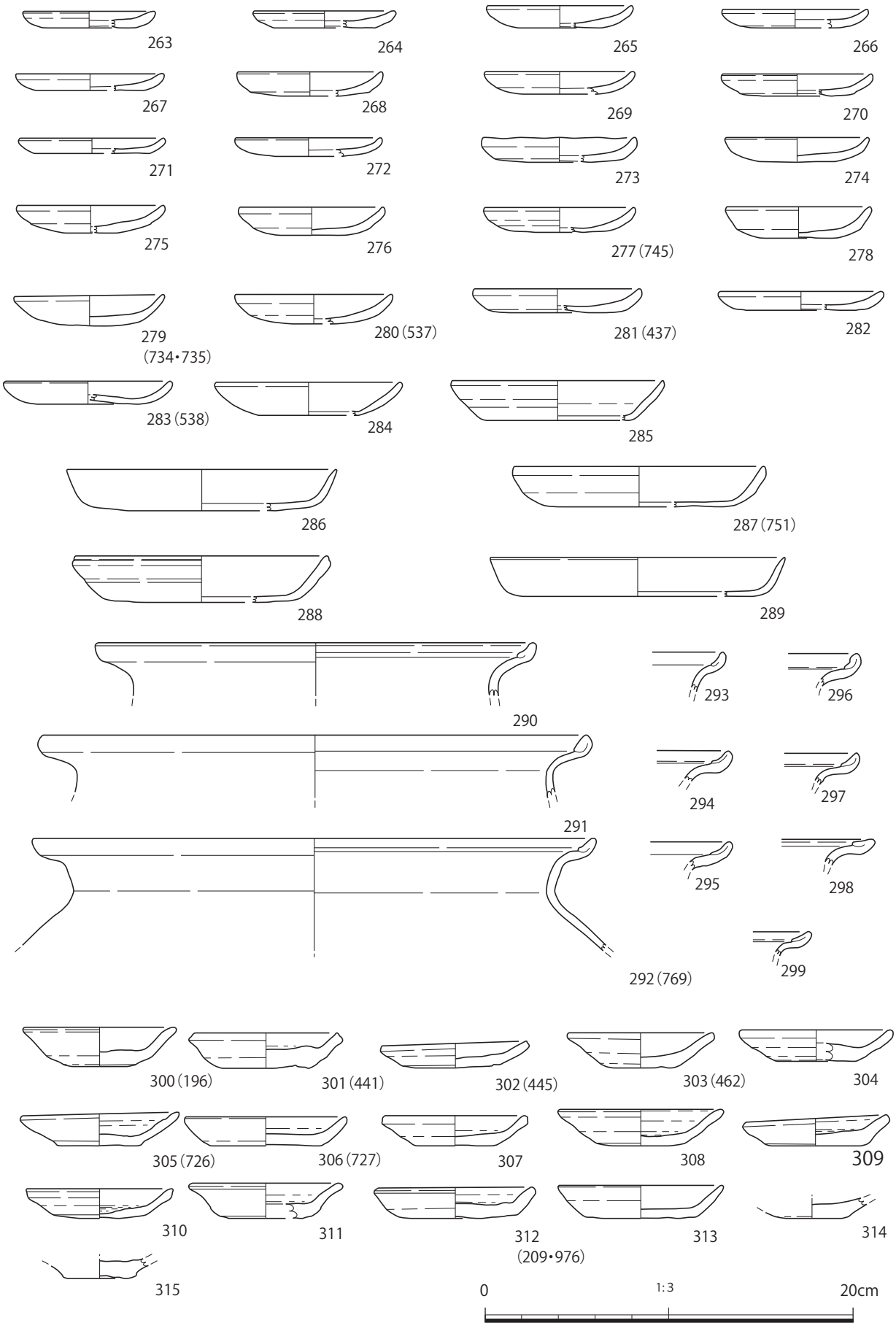


11Aa 454SXい③

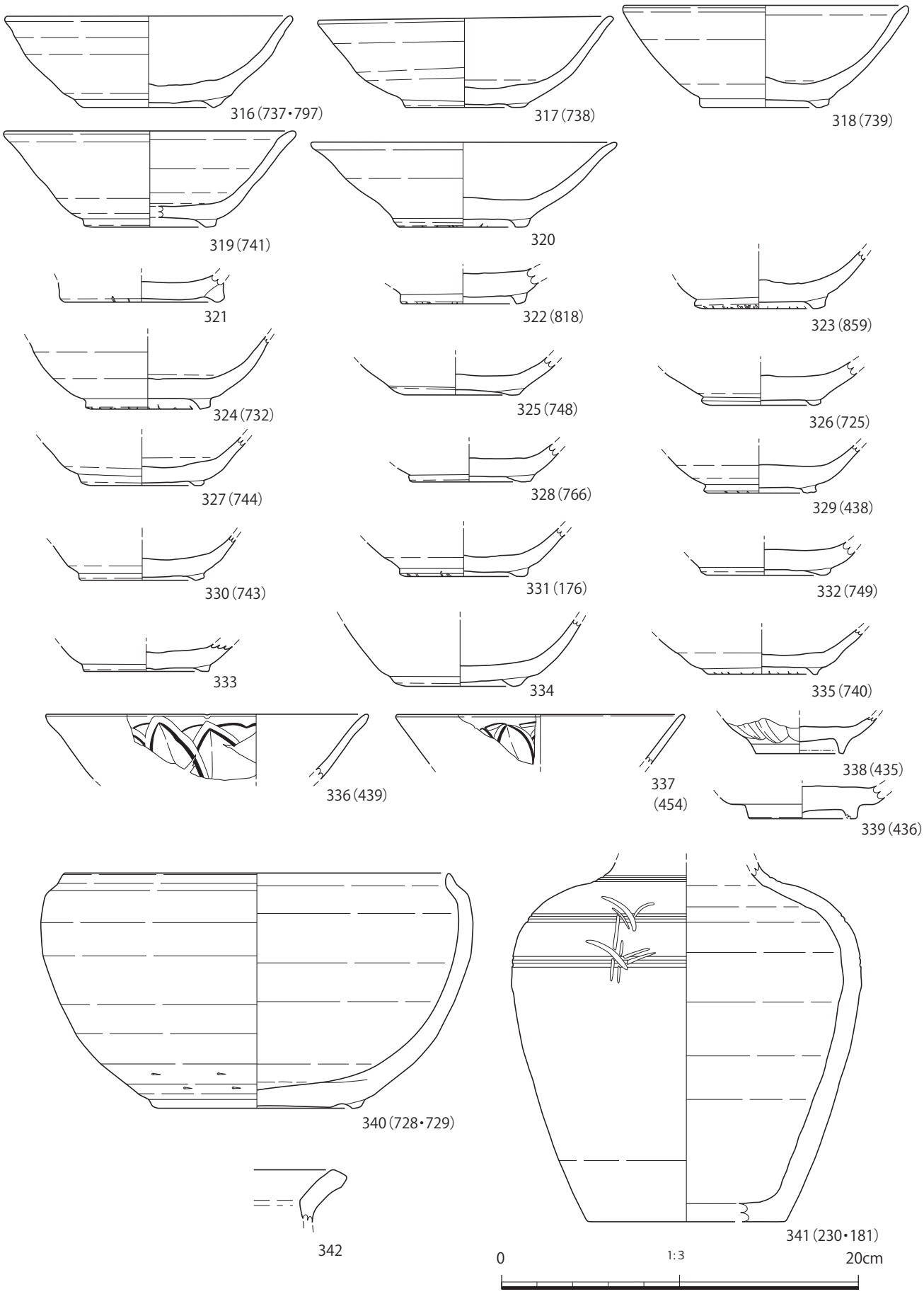


遺物図版10

11Aa 454SXう①

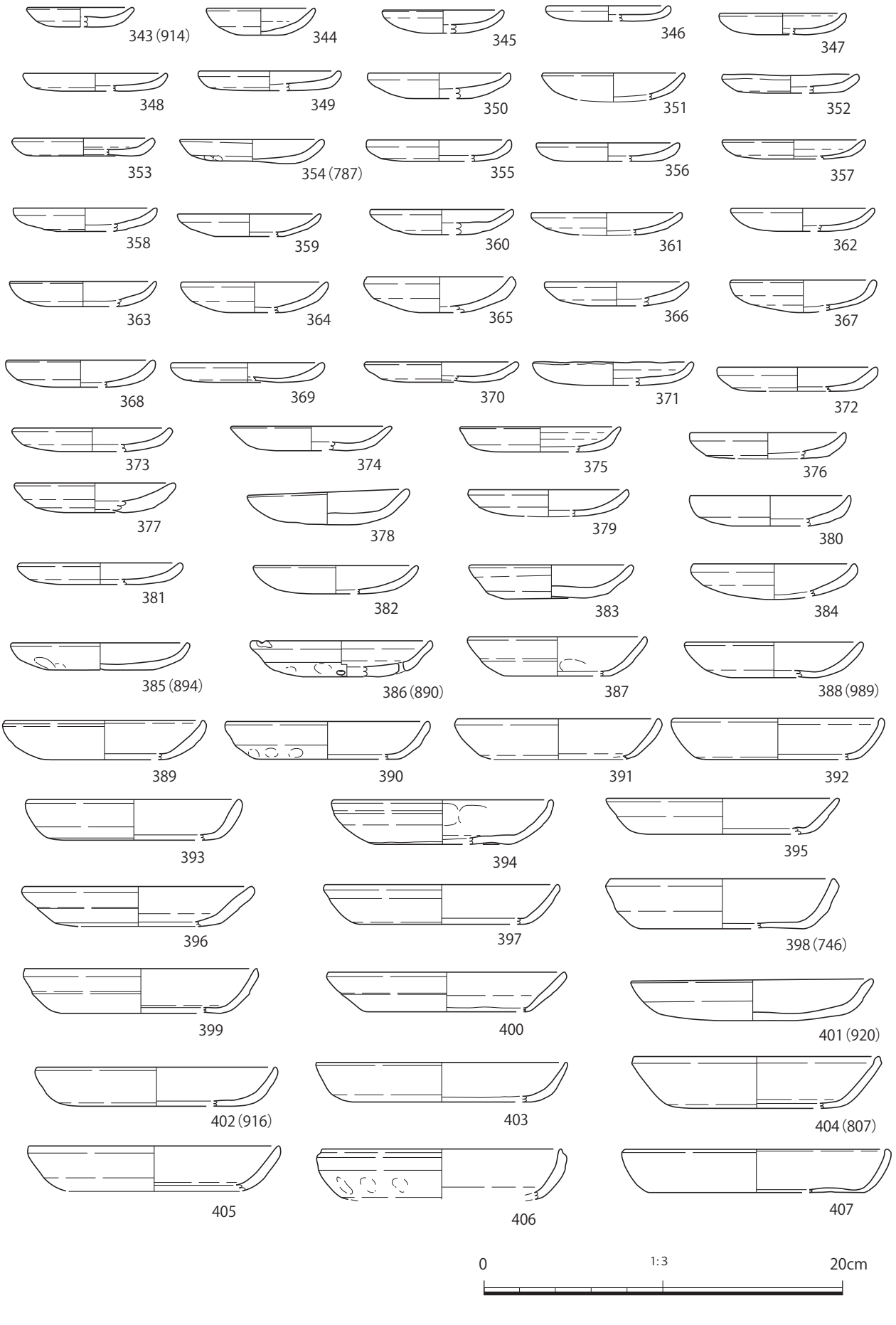


11Aa 454SXう②

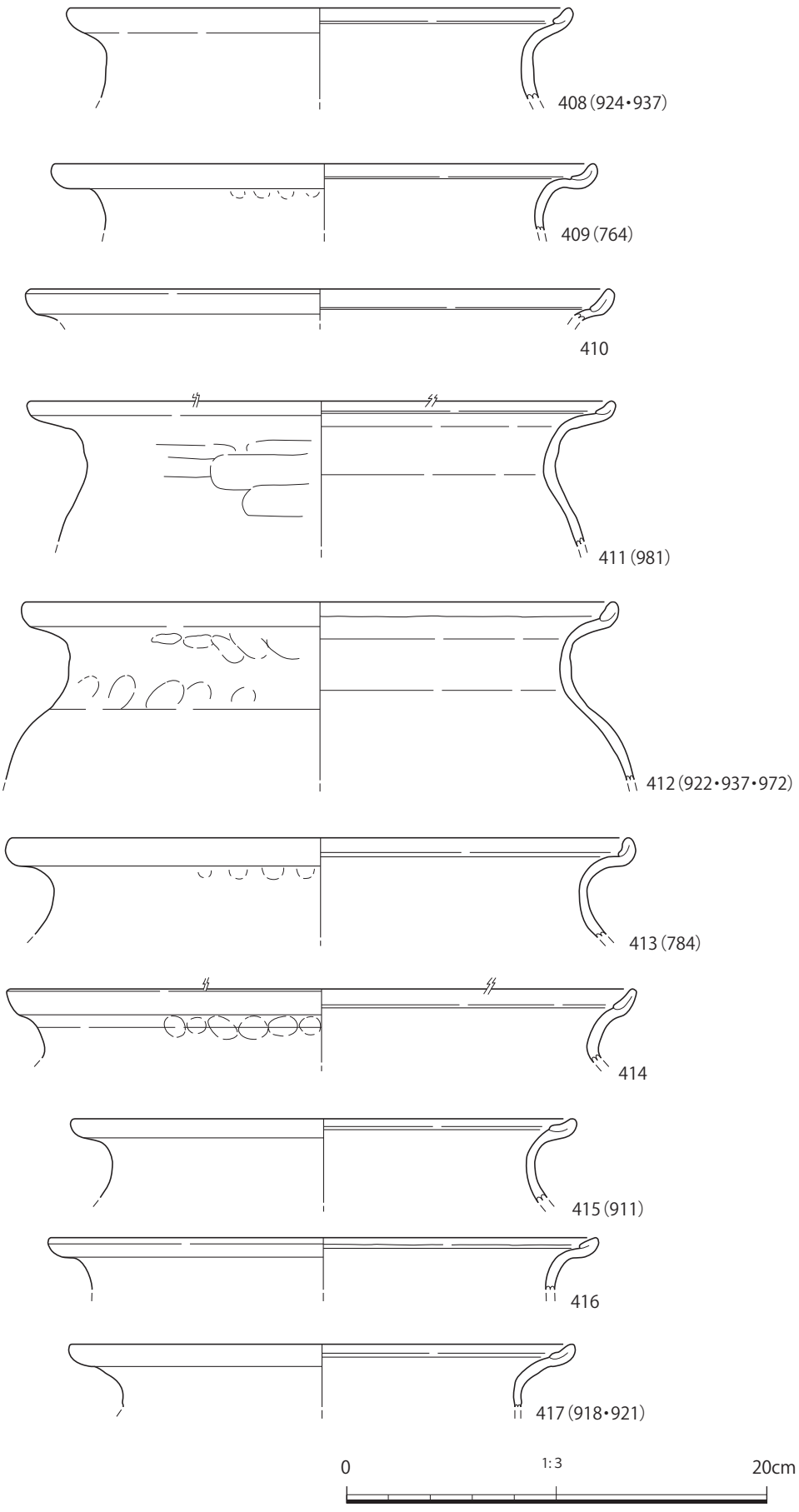


遺物図版12

11Aa 454SXえ①

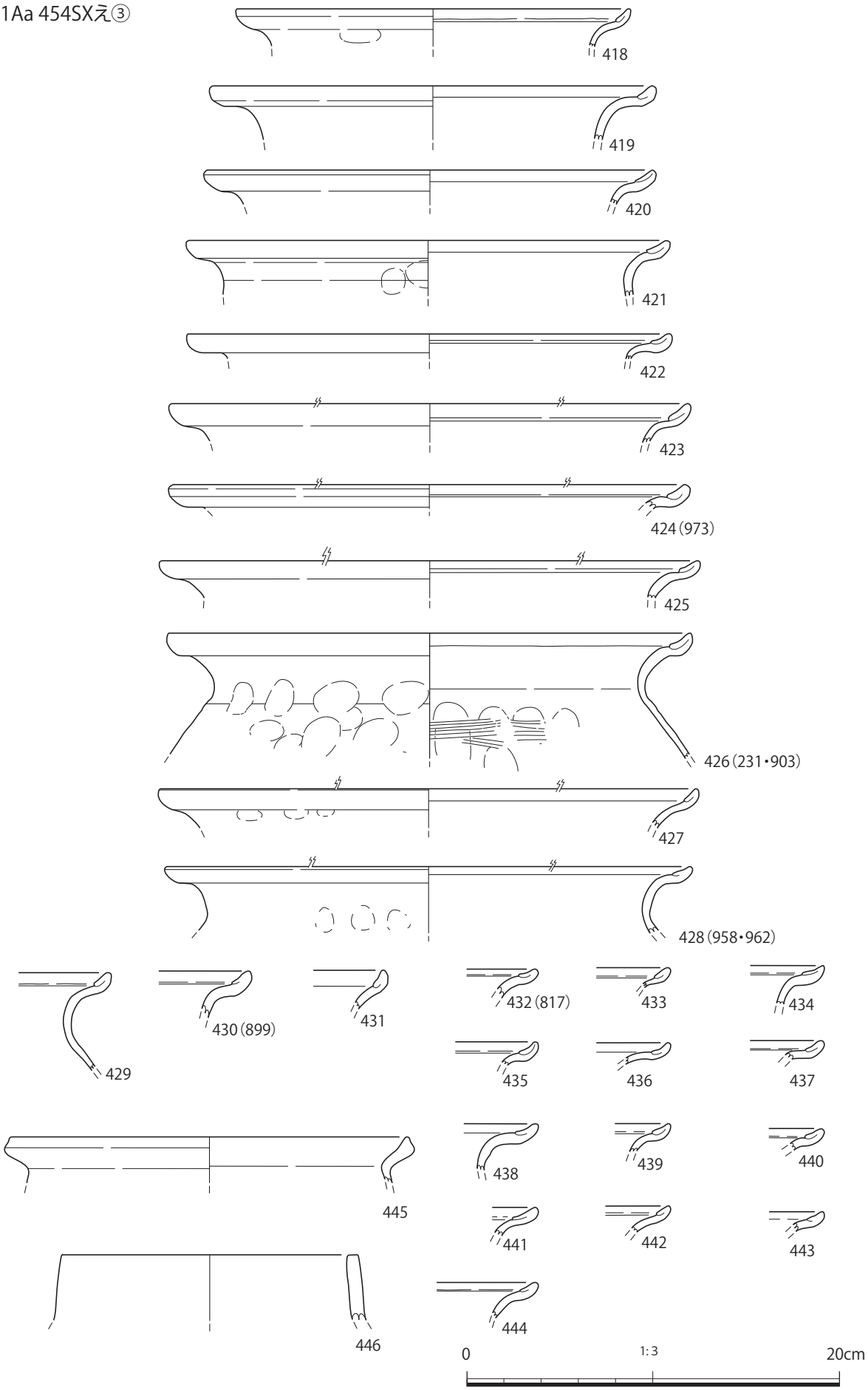


11Aa 454SXえ②

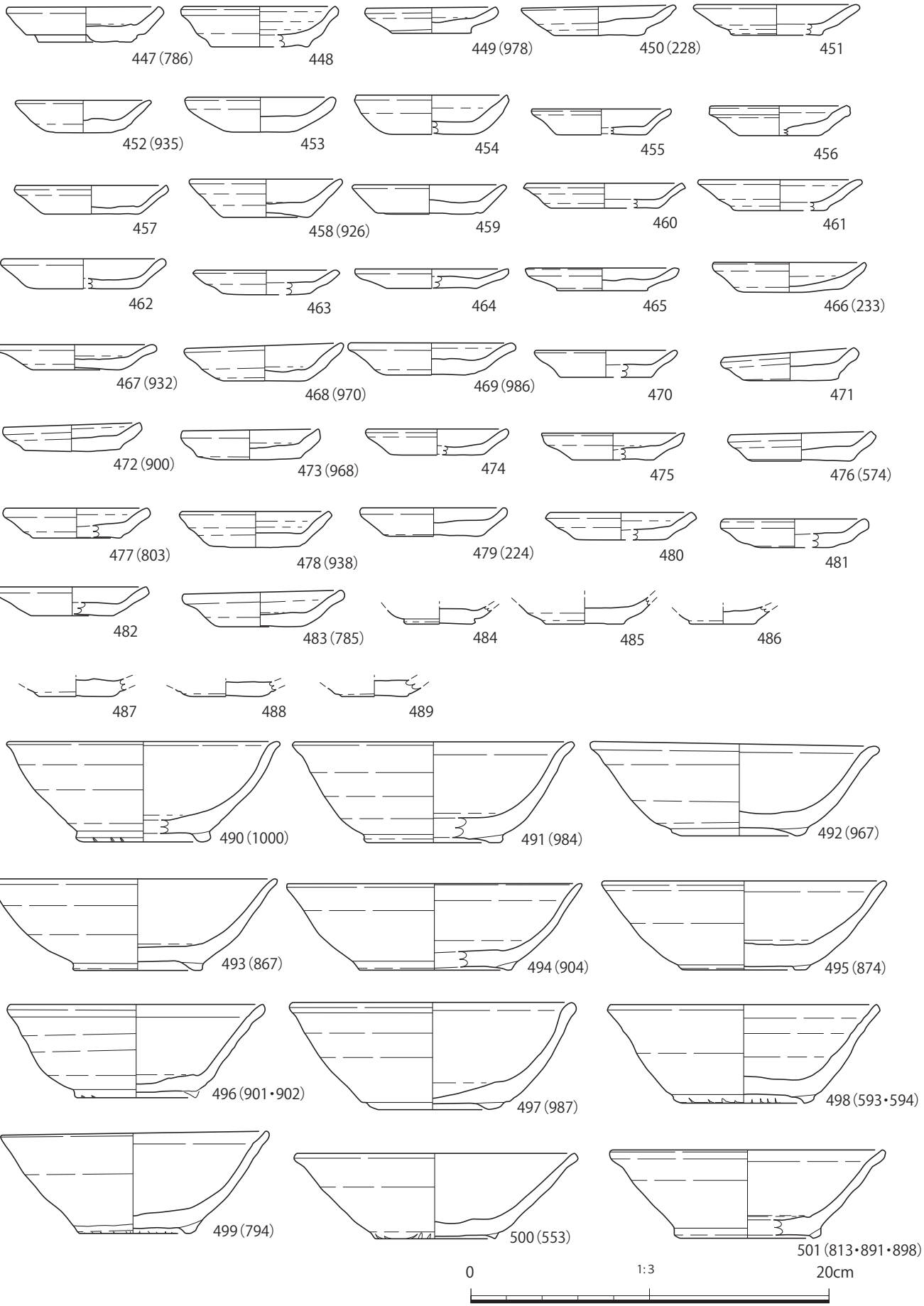


遺物図版14

11Aa 454SXえ③

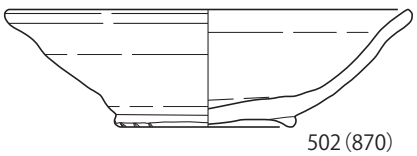


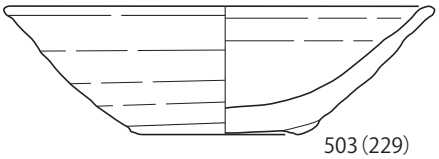
11Aa 454SXえ④

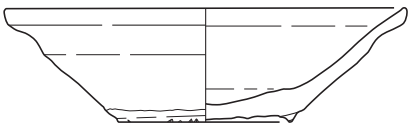


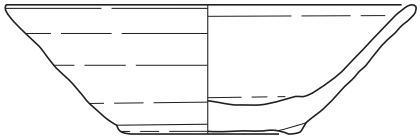
遺物図版16

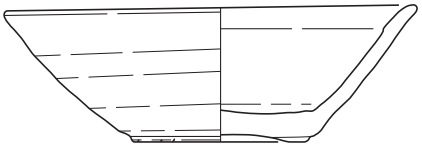
11Aa 454SXえ⑤

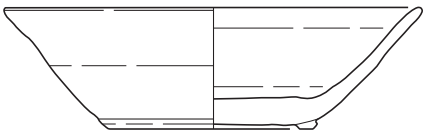

502 (870)

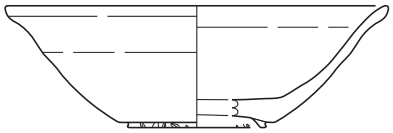

503 (229)

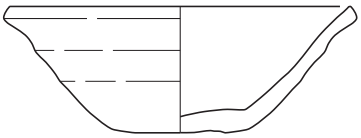

504 (232)

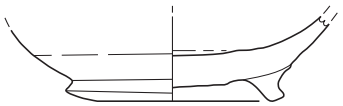

505 (917・929)

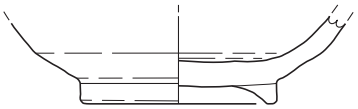

506 (969)

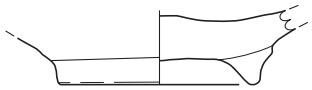

507 (921)


508

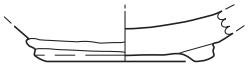

509 (452)


510 (997)


511 (1004)


512 (994)

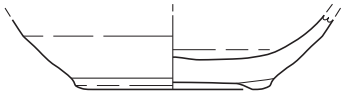
513

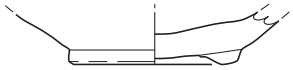

514

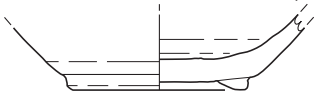
515 (593)

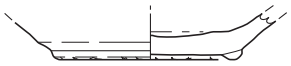
516

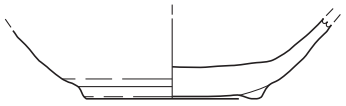
517 (875)

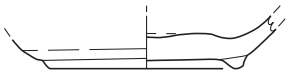

518

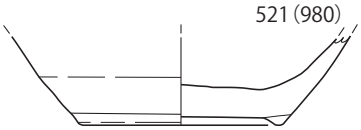

519

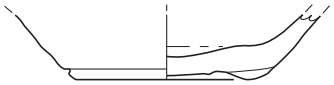

520 (543)

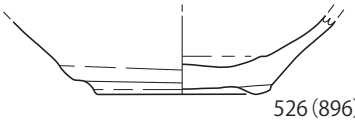

521 (980)

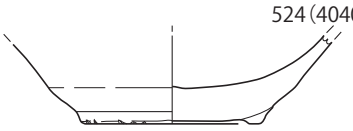

522 (936)

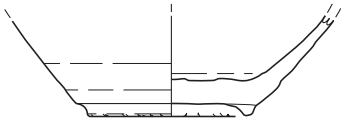

523 (985)

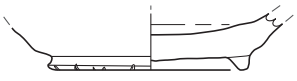

524 (4040)

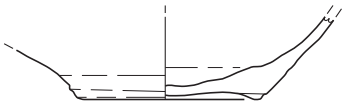

525 (871)

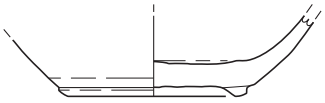

526 (896)

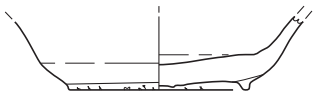

527 (966)


528 (884・915)


529 (869)

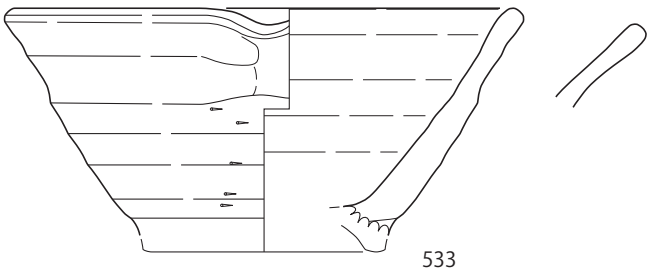

530 (906)


531 (866)

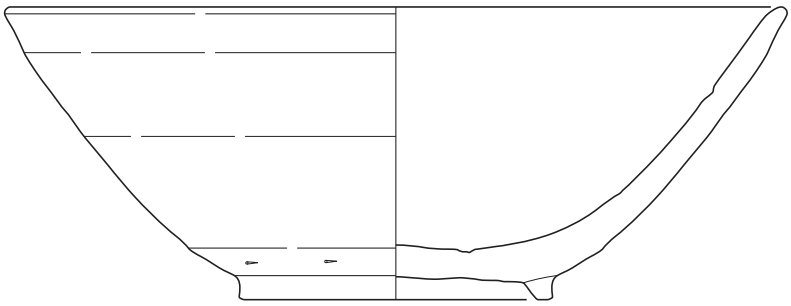

532 (913)

0 1:3 20cm

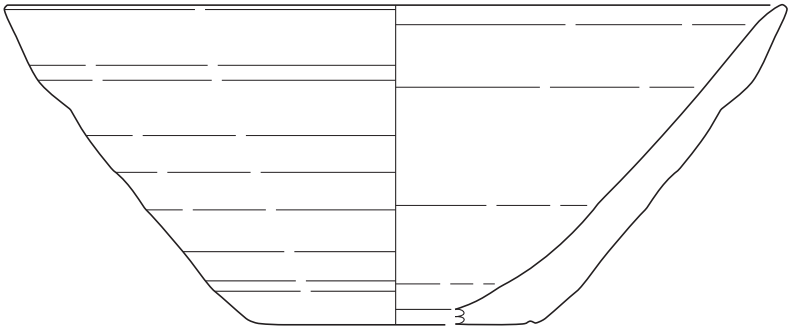
11Aa 454SXえ⑥



533

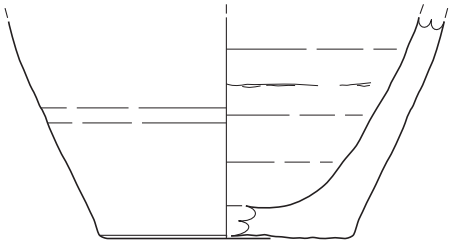


534 (876)

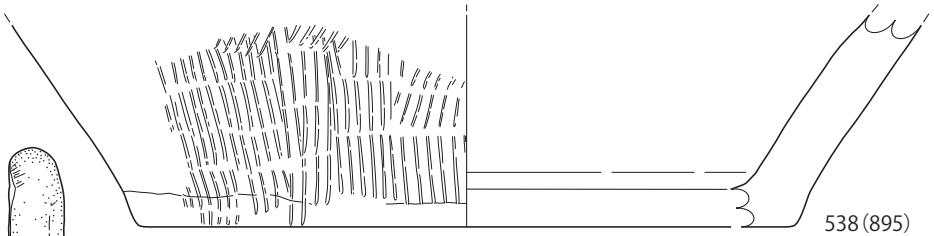


535 (781)

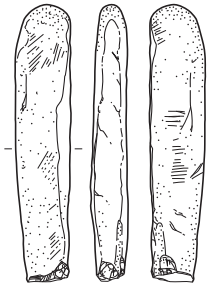
536 (225)



537 (790)



538 (895)

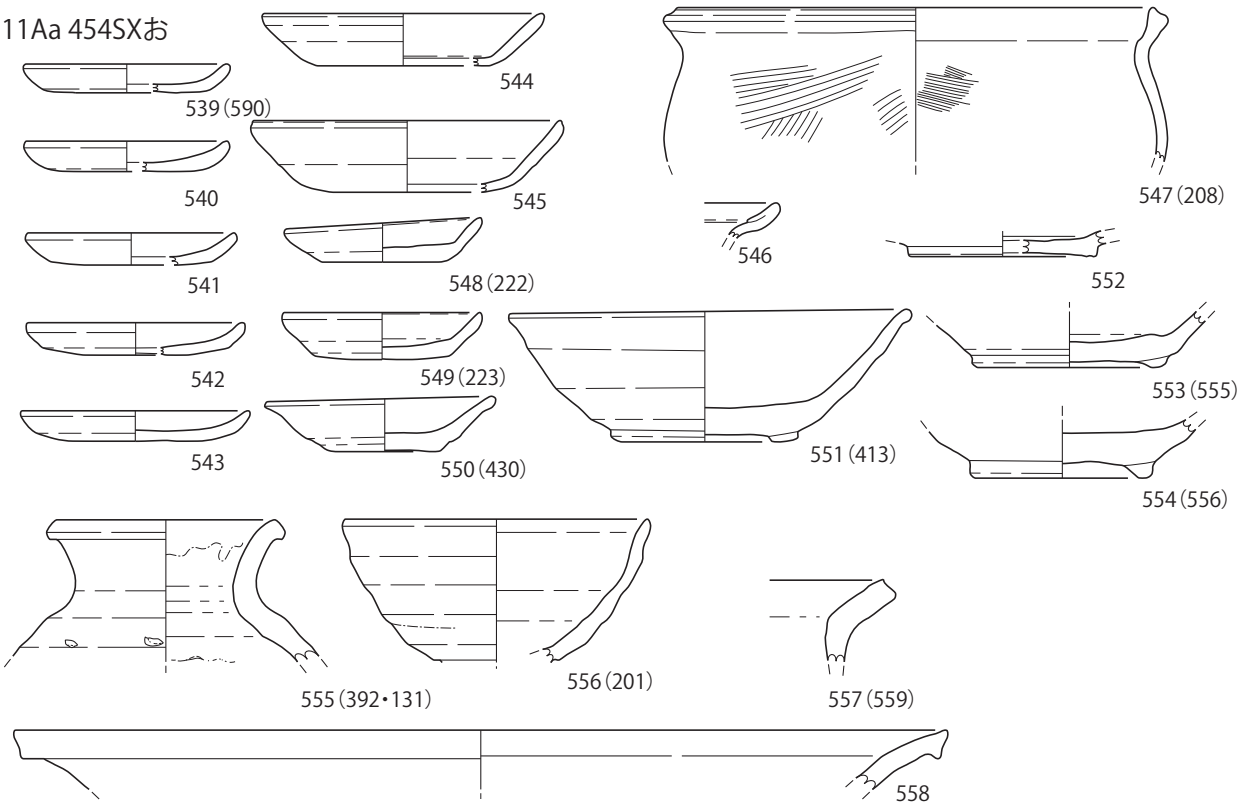


S2安山岩
(521)

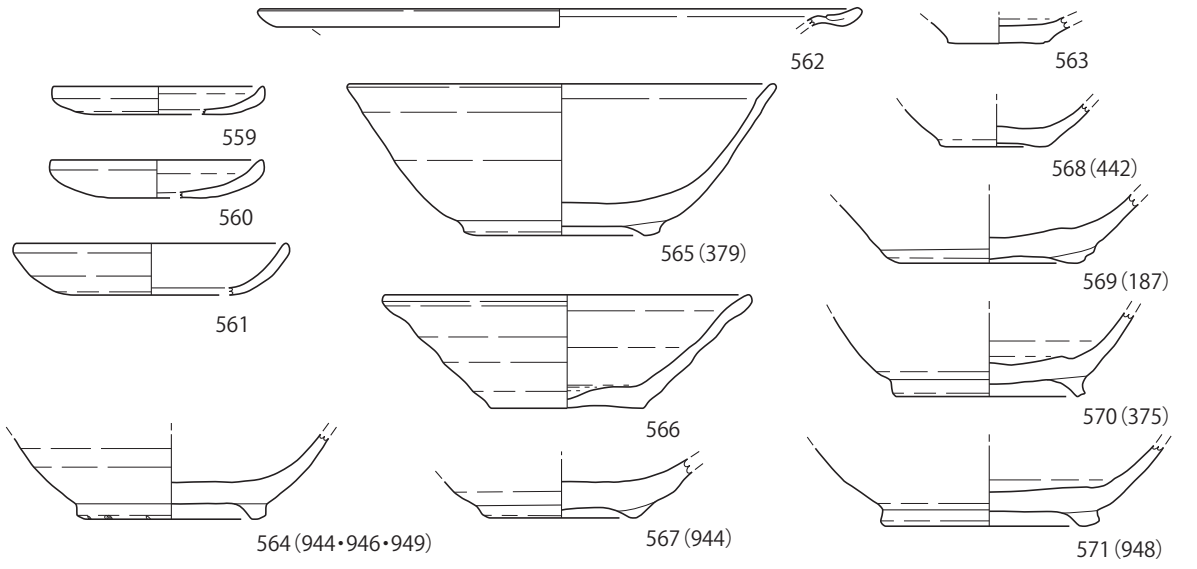
0 1:3 20cm

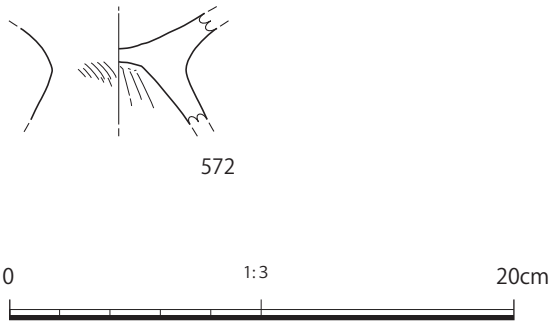
遺物図版18

11Aa 454SXお

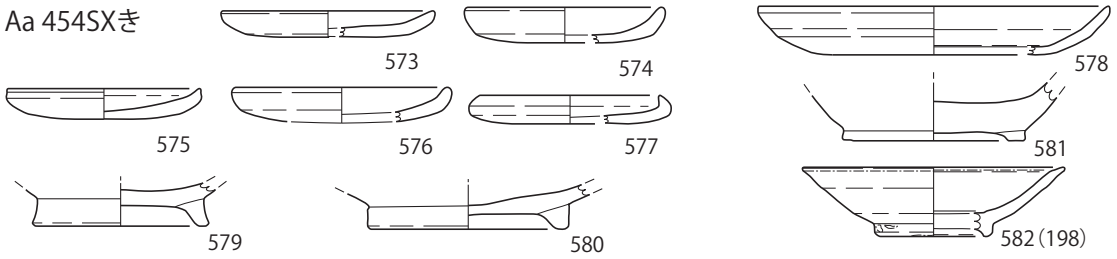


11Aa 454SXか

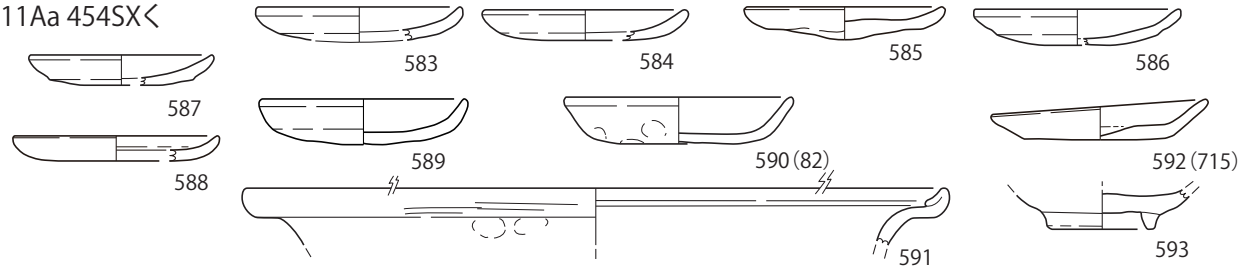




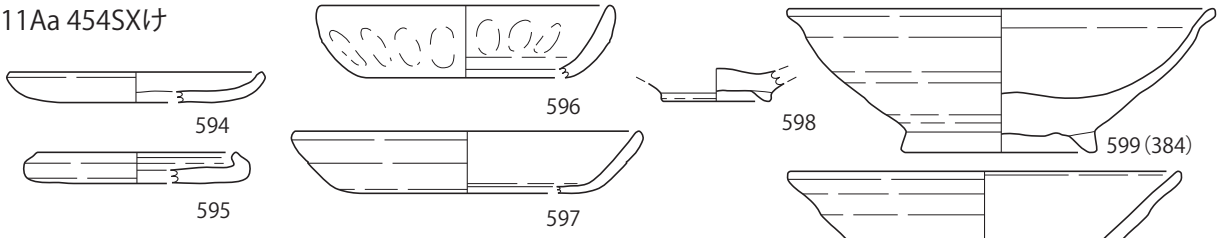
11Aa 454SXき



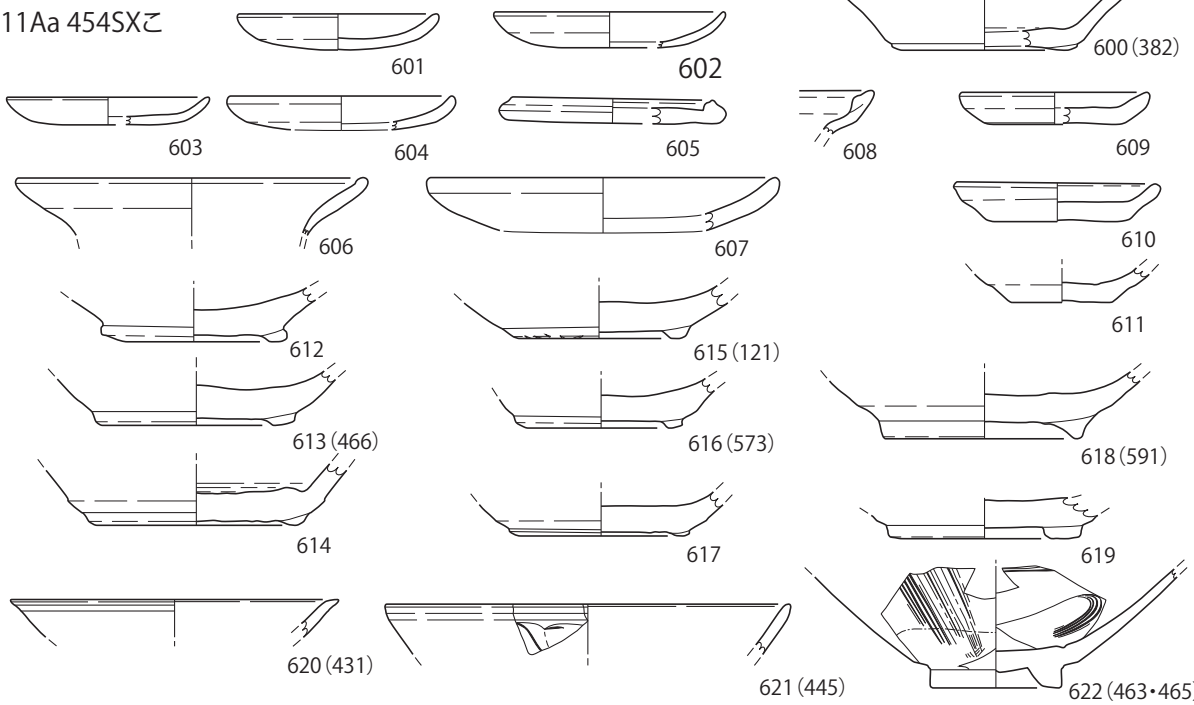
11Aa 454SXく



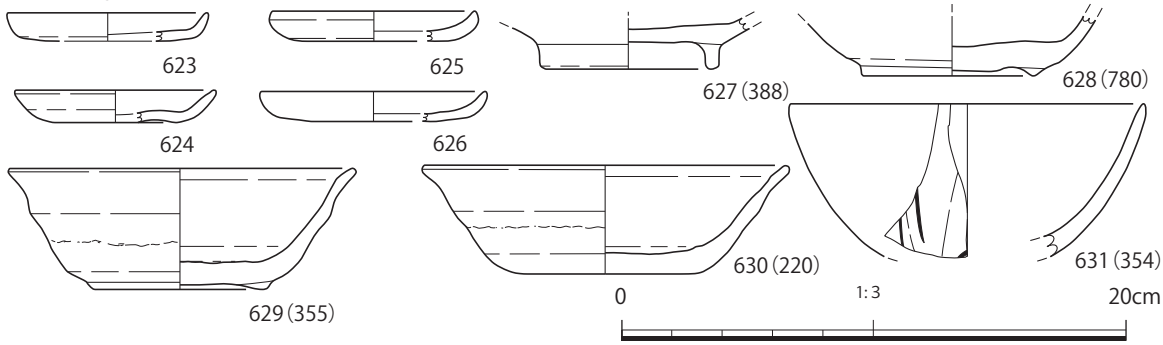
11Aa 454SXけ



11Aa 454SXこ

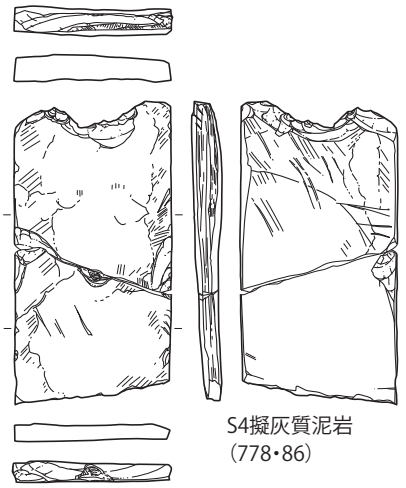


11Aa 454SXし



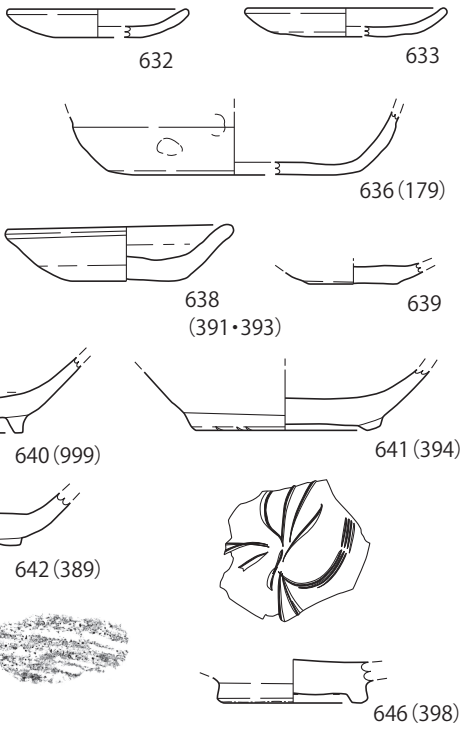
遺物図版20

11Aa 454SXさ

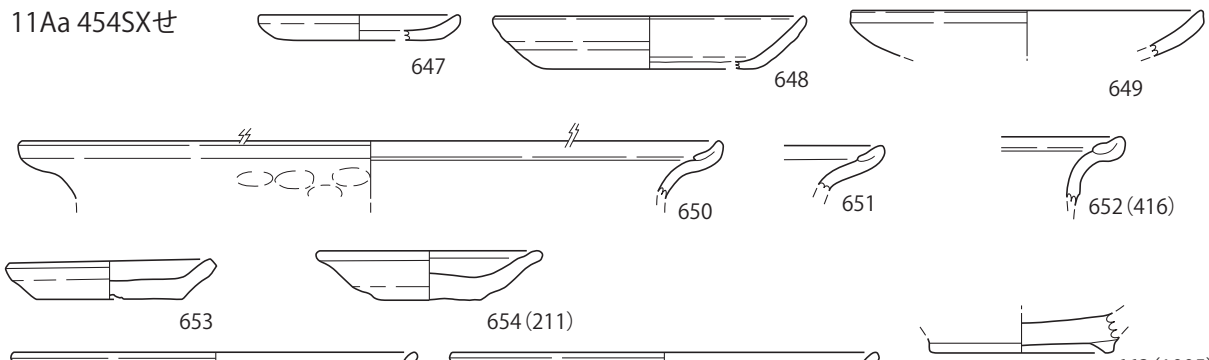


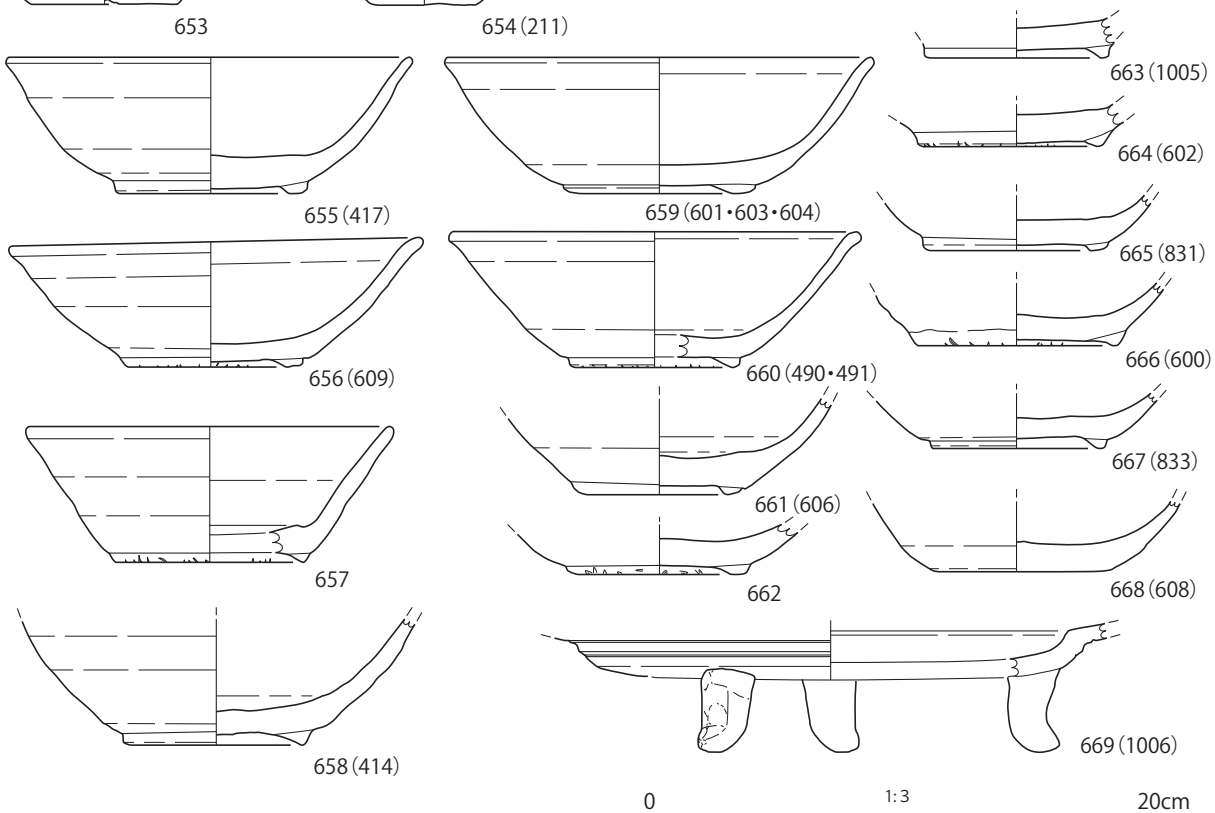
S4擬灰質泥岩
(778・86)

11Aa 454SXす



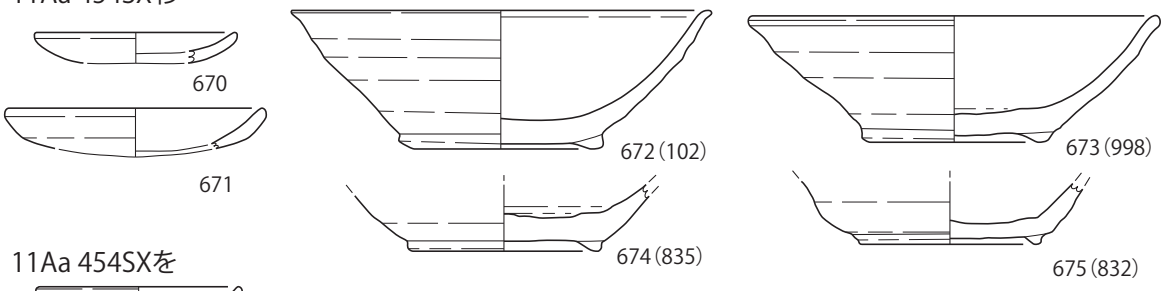
11Aa 454SXせ



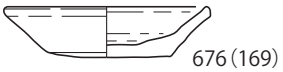


0 1:3 20cm

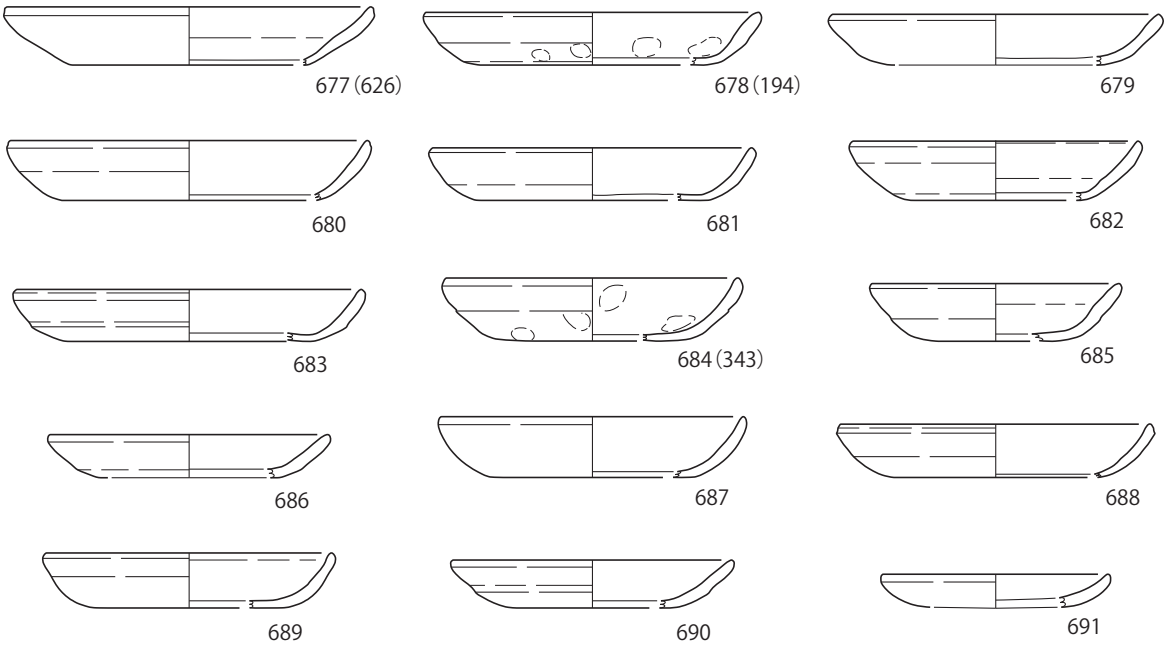
11Aa 454SXわ

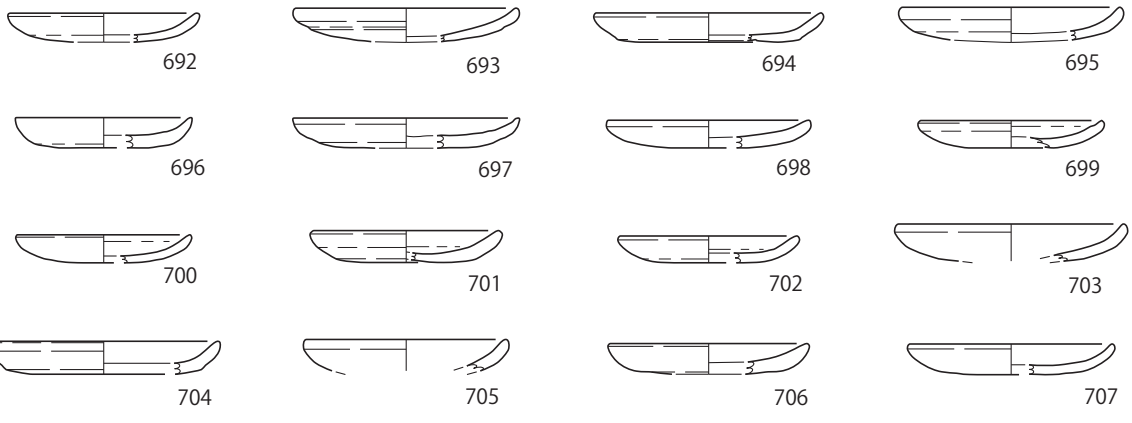


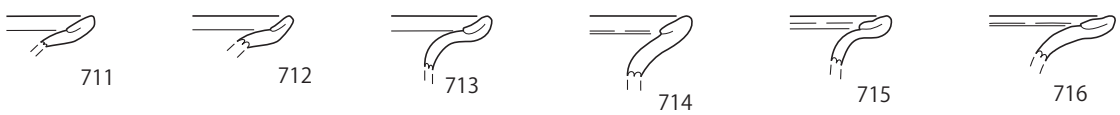
11Aa 454SXを



11Aa 454SXん①

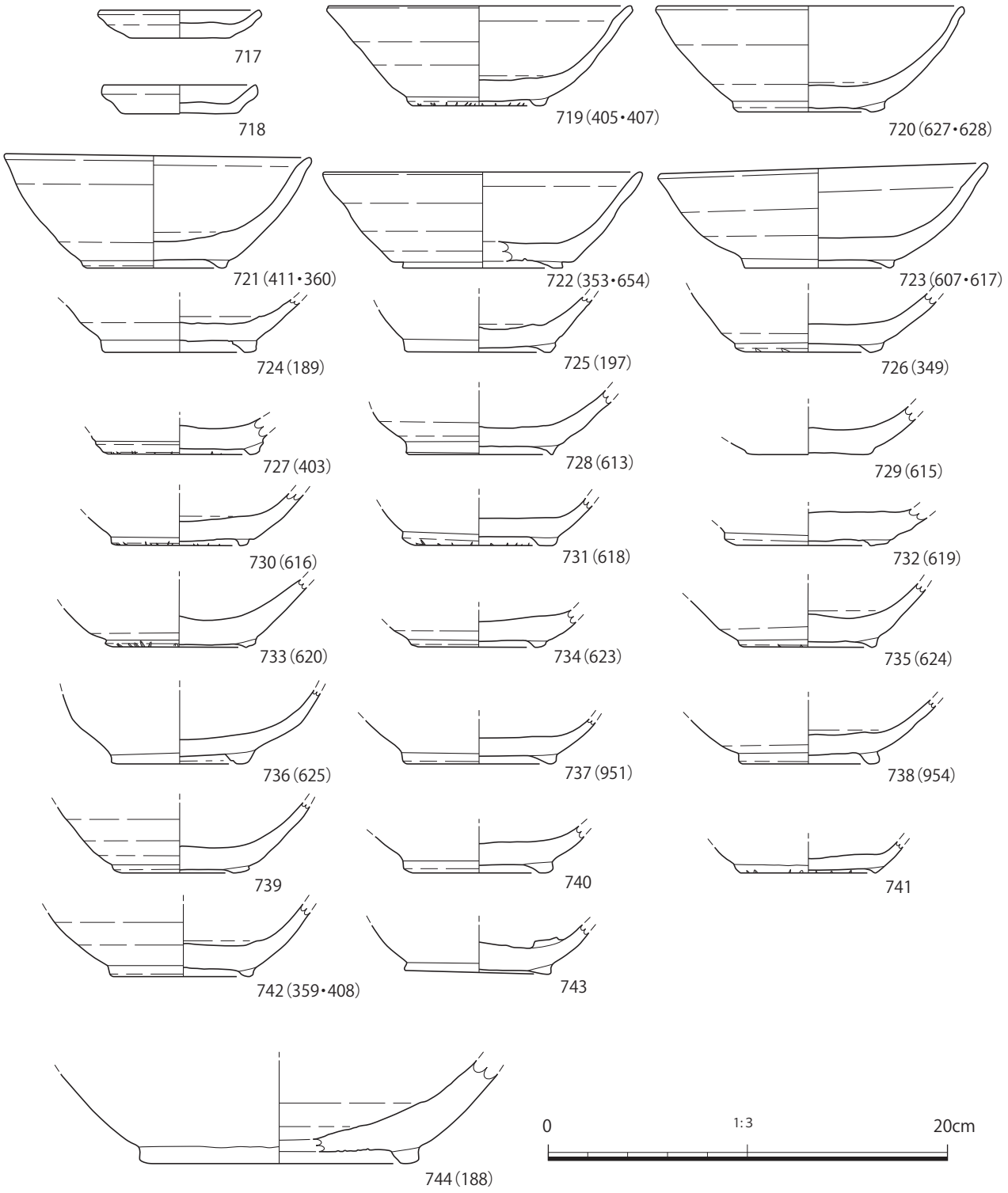




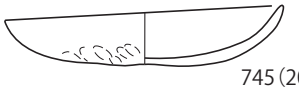


遺物図版22

11Aa 454SXん②



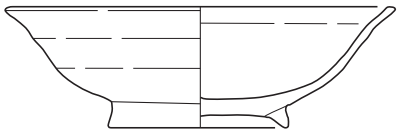
11Aa 455SX



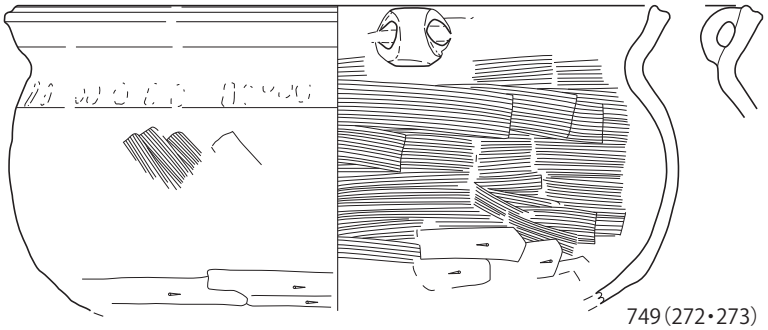
745 (200)

748 (275)

11Aa TT7 (461SD?)

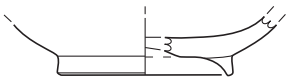


746



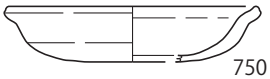
749 (272・273)

11Aa 462SP

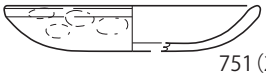


747 (235)

11Aa 463SD



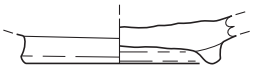
750 (260)



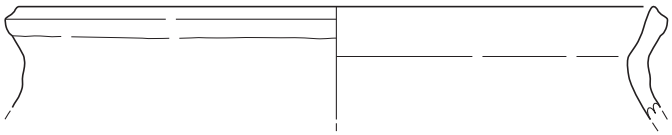
751 (206)

754 (271)

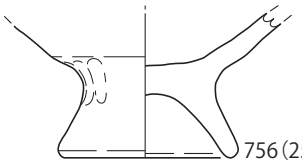
753



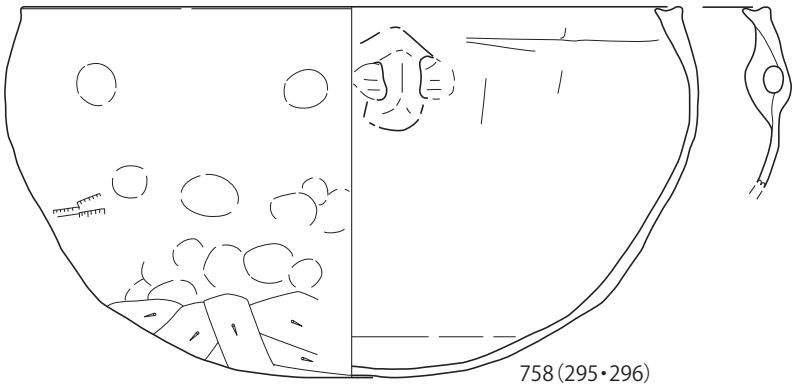
755 (248)



752 (276)

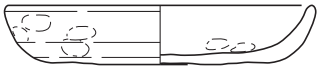


756 (259)

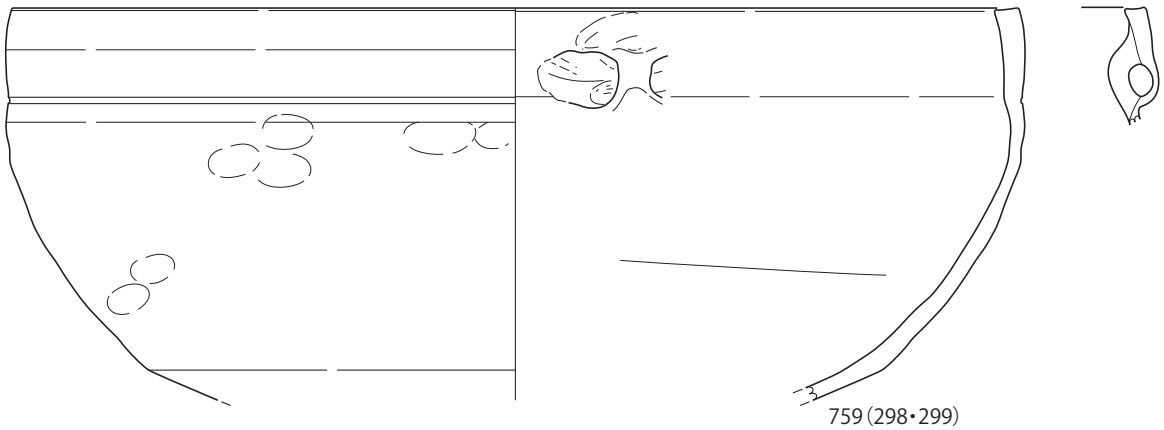


758 (295・296)

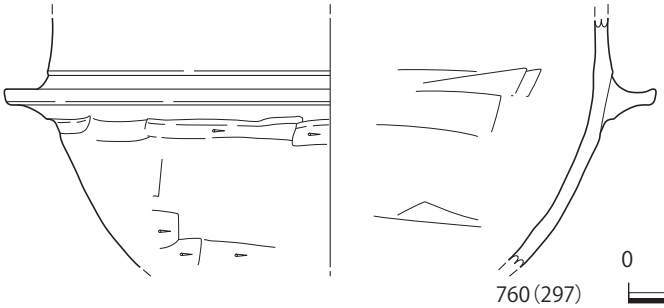
11Aa 465SD



757 (300)



759 (298・299)

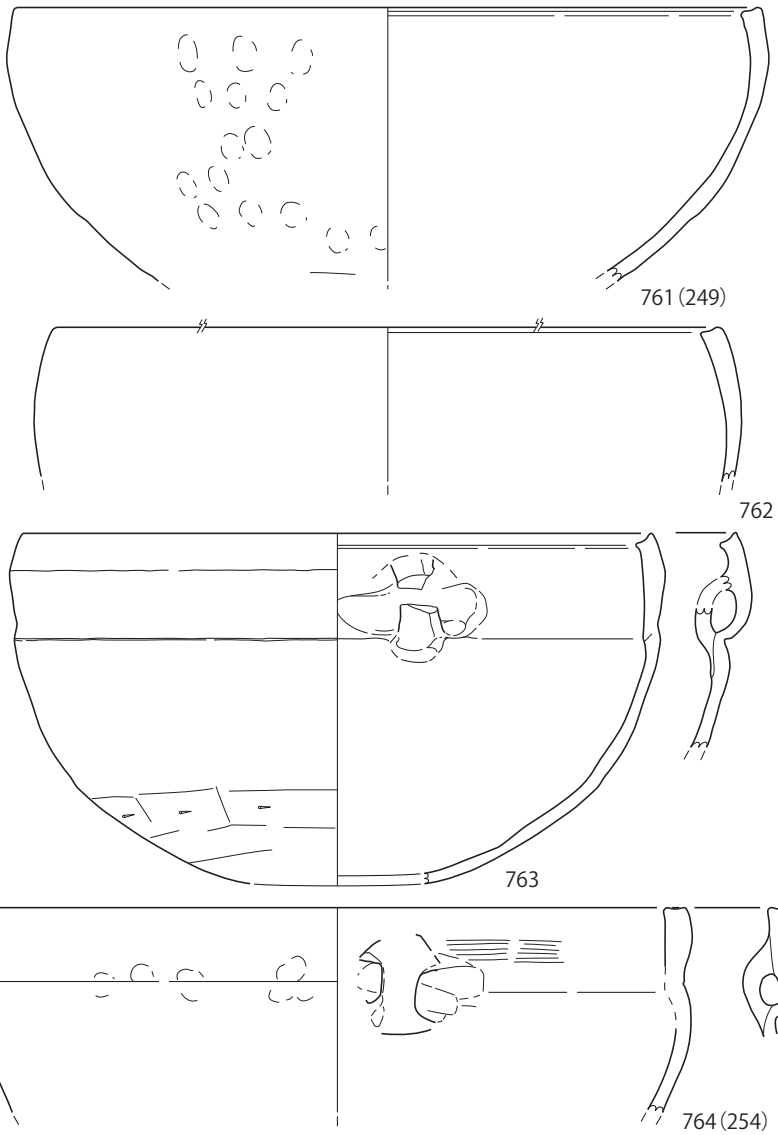


760 (297)

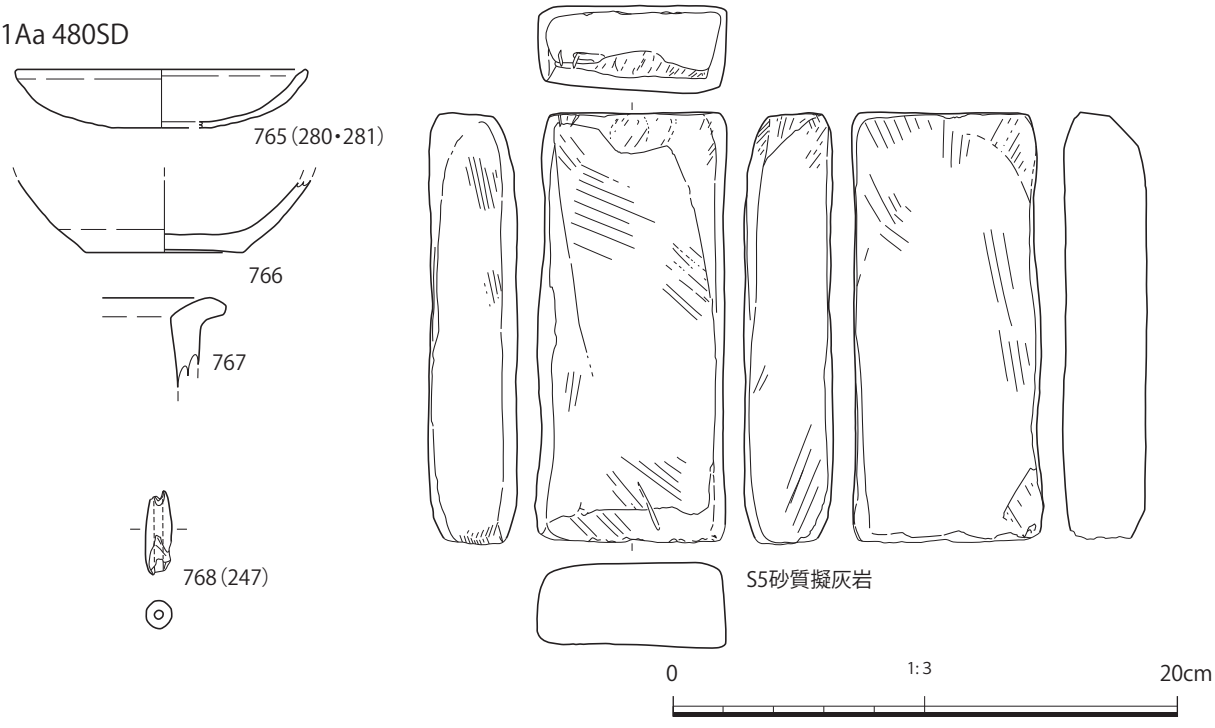
0 1:3 20cm

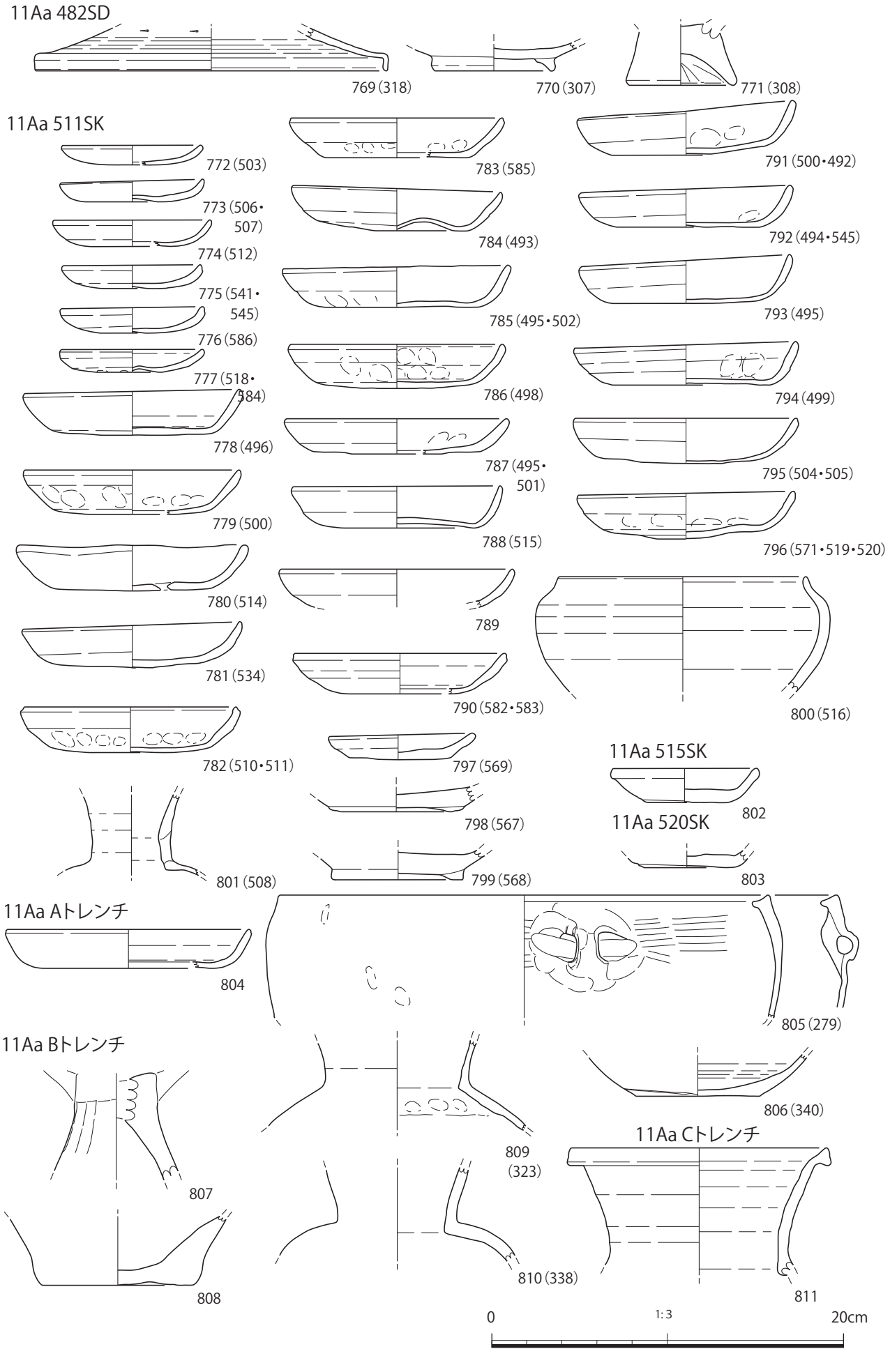
遺物図版24

11Aa 478SD



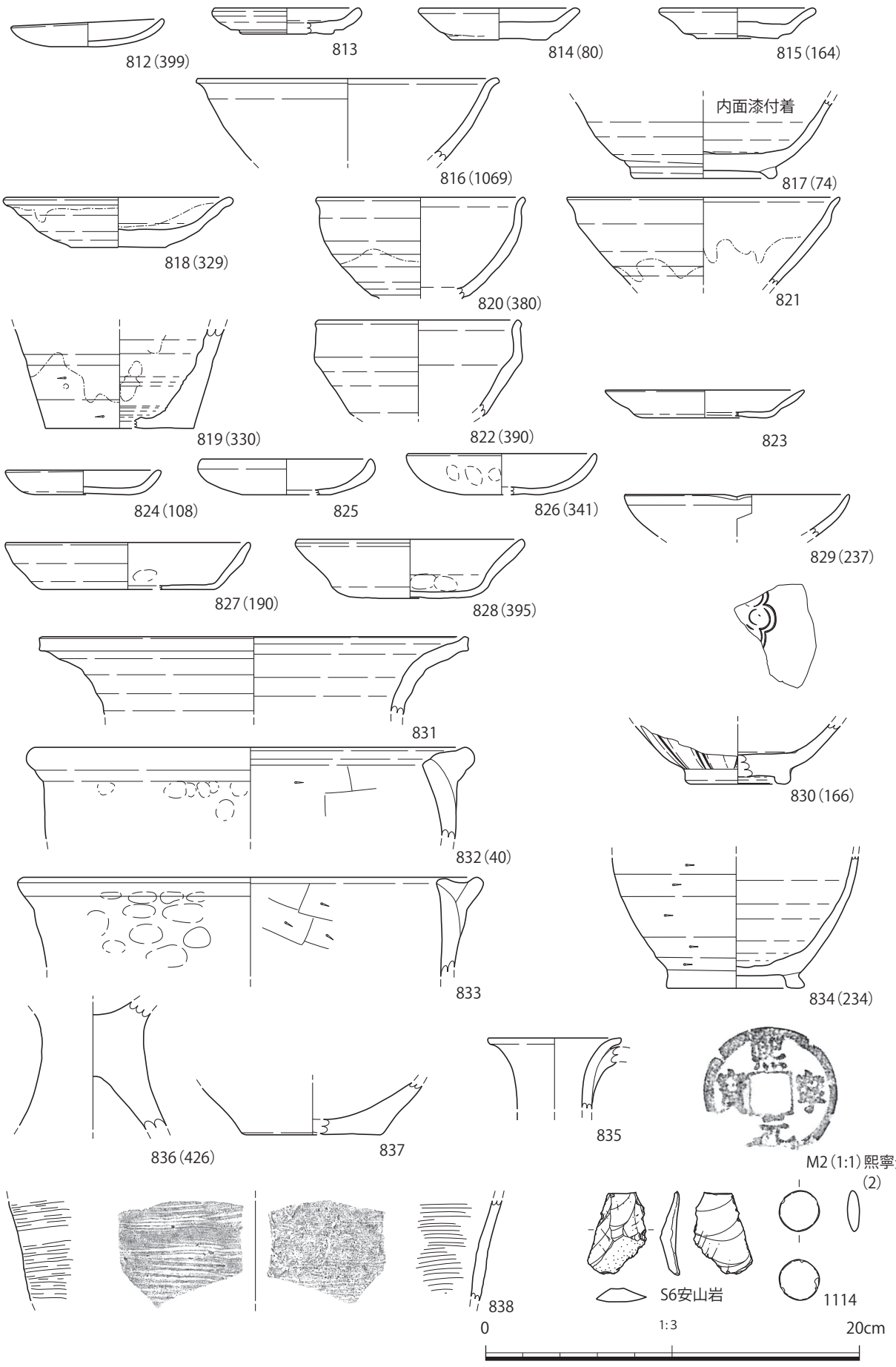
11Aa 480SD

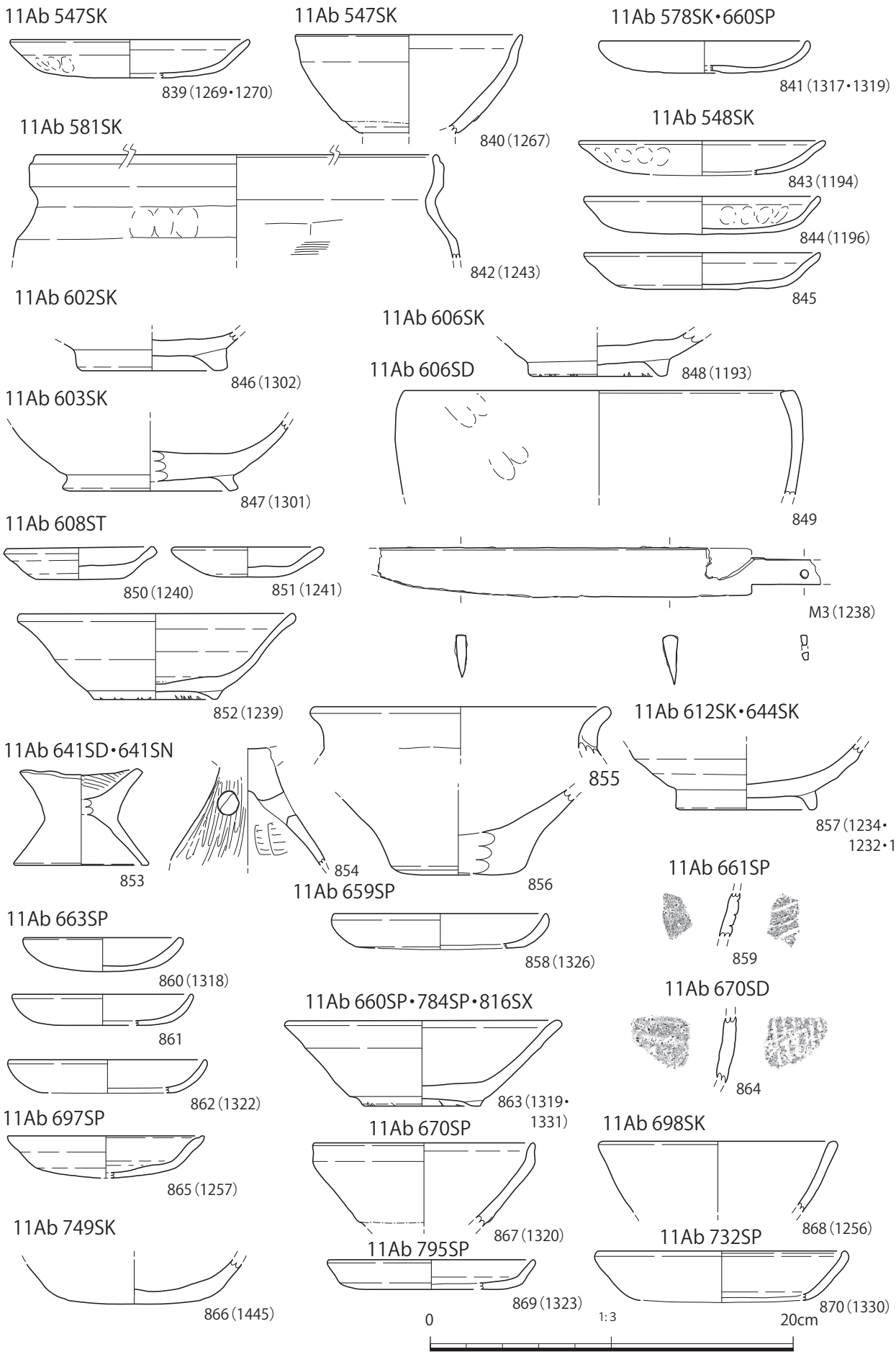



11Aa 482SD
769 (318)
770 (307)
771 (308)
11Aa 511SK
772 (503)
773 (506・507)
774 (512)
775 (541・545)
776 (586)
777 (518・584)
778 (496)
779 (500)
780 (514)
781 (534)
782 (510・511)
783 (585)
784 (493)
785 (495・502)
786 (498)
787 (495・501)
788 (515)
789
790 (582・583)
791 (500・492)
792 (494・545)
793 (495)
794 (499)
795 (504・505)
796 (571・519・520)
800 (516)
797 (569)
798 (567)
799 (568)
801 (508)
11Aa 515SK
802
11Aa 520SK
803
11Aa Aトレンチ
804
805 (279)
11Aa Bトレンチ
806 (340)
807
808
809 (323)
810 (338)
11Aa Cトレンチ
811
0
1:3
20cm

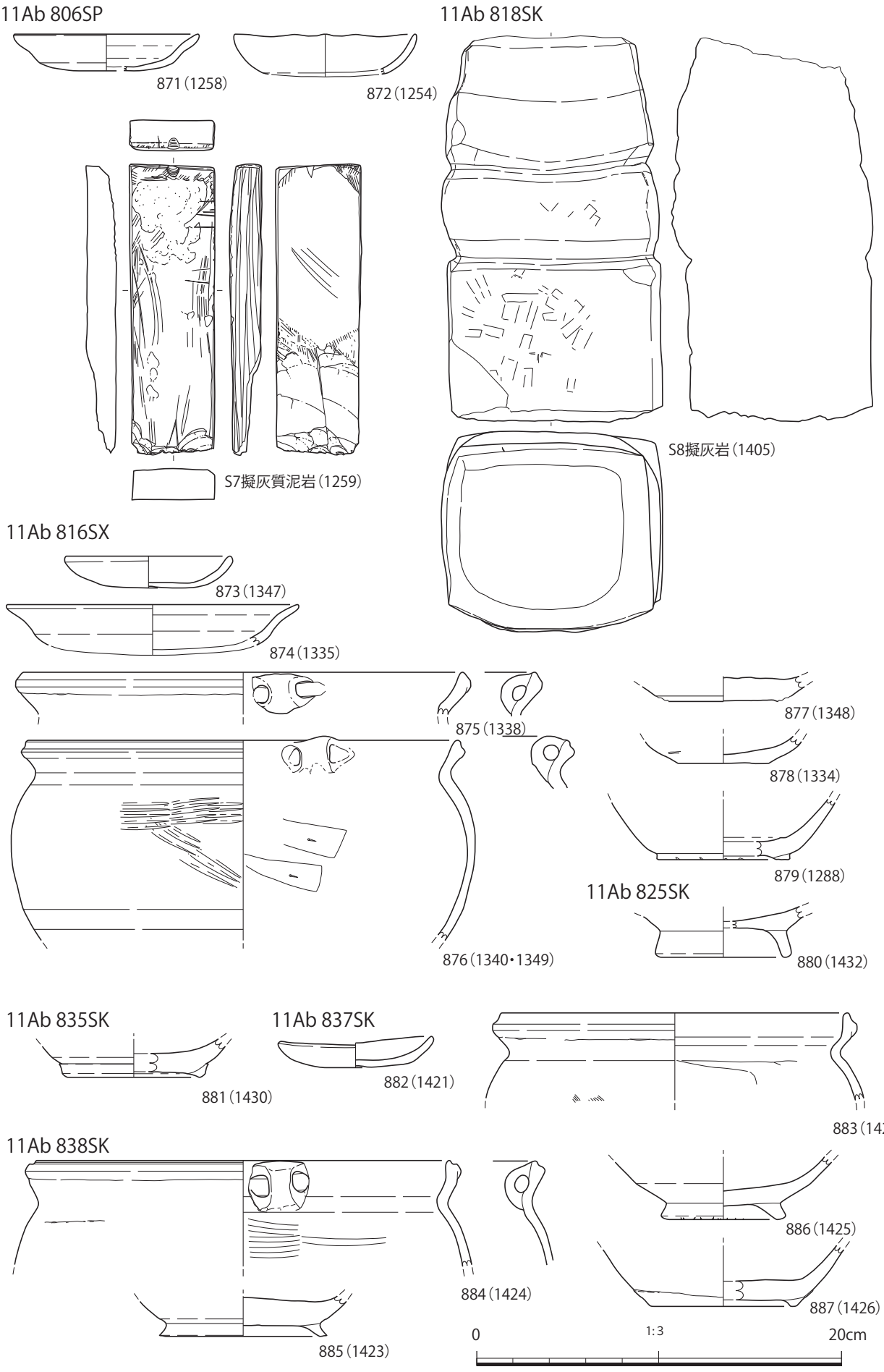
遺物図版26

11Aa トレンチ3　11Aa 検1




11Ab 547SK
839 (1269・1270)
11Ab 547SK
840 (1267)
11Ab 578SK・660SP
841 (1317・1319)
11Ab 581SK
842 (1243)
11Ab 548SK
843 (1194)
844 (1196)
845
11Ab 602SK
846 (1302)
11Ab 606SK
848 (1193)
11Ab 606SD
849
11Ab 603SK
847 (1301)
11Ab 608ST
850 (1240)
851 (1241)
M3 (1238)
852 (1239)
11Ab 612SK・644SK
855
857 (1234・1232・1305)
11Ab 641SD・641SN
853
854
856
11Ab 659SP
858 (1326)
11Ab 661SP
859
11Ab 663SP
860 (1318)
861
862 (1322)
11Ab 660SP・784SP・816SX
863 (1319・1331)
11Ab 670SD
864
11Ab 697SP
865 (1257)
11Ab 670SP
867 (1320)
11Ab 698SK
868 (1256)
11Ab 749SK
866 (1445)
11Ab 795SP
869 (1323)
11Ab 732SP
870 (1330)
0
1:3
20cm

遺物図版28


11Ab 806SP
871 (1258)
872 (1254)
S7擬灰質泥岩 (1259)
11Ab 818SK
S8擬灰岩 (1405)
11Ab 816SX
873 (1347)
874 (1335)
875 (1338)
876 (1340・1349)
877 (1348)
878 (1334)
879 (1288)
11Ab 825SK
880 (1432)
11Ab 835SK
881 (1430)
11Ab 837SK
882 (1421)
883 (1420)
11Ab 838SK
884 (1424)
885 (1423)
886 (1425)
887 (1426)
0
1:3
20cm

11Ab 841SK

888 (1:6)

11Ab 839SK

890 (1443)

11Ab 887SK

891 (1446)

889 (1:6) (1411)

11Ab 888SK

892 (1448)

11Ab 988SK

S9黒曜石 (1476)

11Ab 984SK・990SK

893 (1473・1480)

11Ab 921SK

894 (1462・1463・1464)

11Ab 991SP

896 (1472)

895 (1477)

897 (1480)

11Ab 992SP・北壁トレンチ

898 (1460・1461)

11Ab 990SX

899 (1482)

11Ab 北壁トレンチ (992SP)

900 (1461)

11Ab 912SD

901

11Ab2 936SN

902

11Aa 939SN

903 (1452)

11Ab2 940SN

904

11Aa 949SN

905 (1453)

11Aa 957SN

907
(1455)

11Aa 960SN

908 (1454)

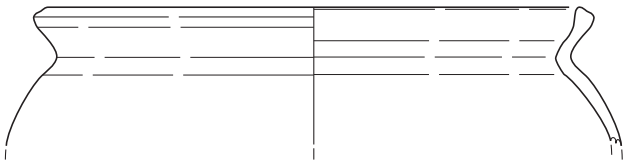
11Aa 953SN

906 (1451)

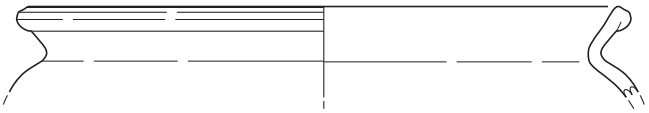
0 1:3 20cm

遺物図版30

11Ab Nトレンチ

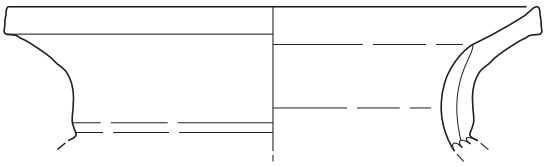


909 (1190)



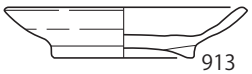
910 (1191)

11Ab Oトレンチ

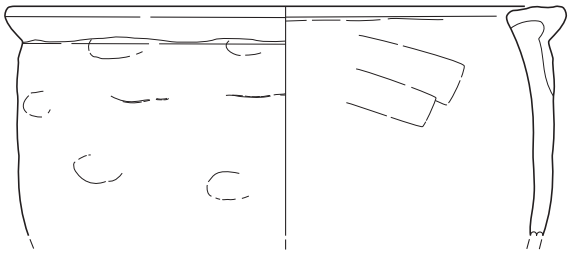


911

11Ab Rトレンチ

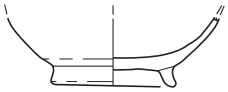


913



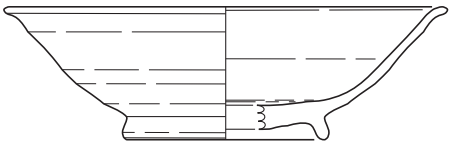
914 (1189)

11Ab Pトレンチ



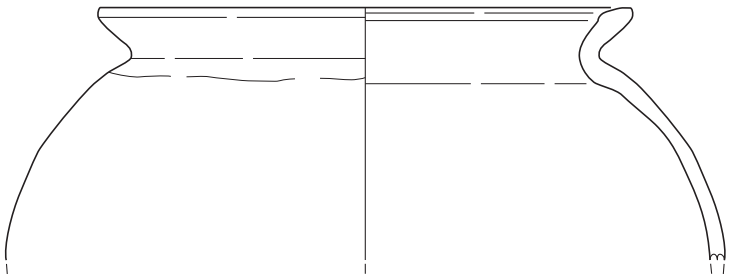
912

11Ab Tトレンチ



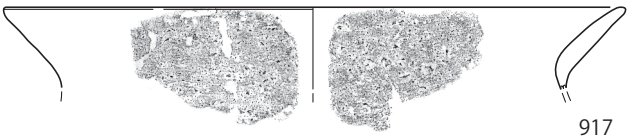
915

11Ab トレンチ



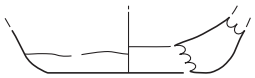
916

11Ab Gトレンチ



917

11Ab Hトレンチ

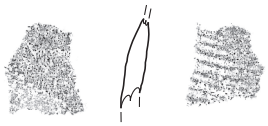


918

11Ab Rトレンチ

919

11Ab 3T



920

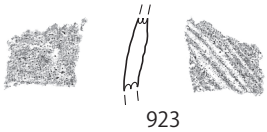
11Ab 3T

921 (1456)

11Ab 7T

922 (1485)

11Ab 12T



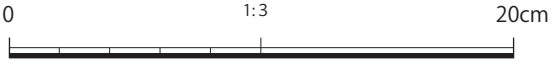
923

11Ab 北壁トレンチ

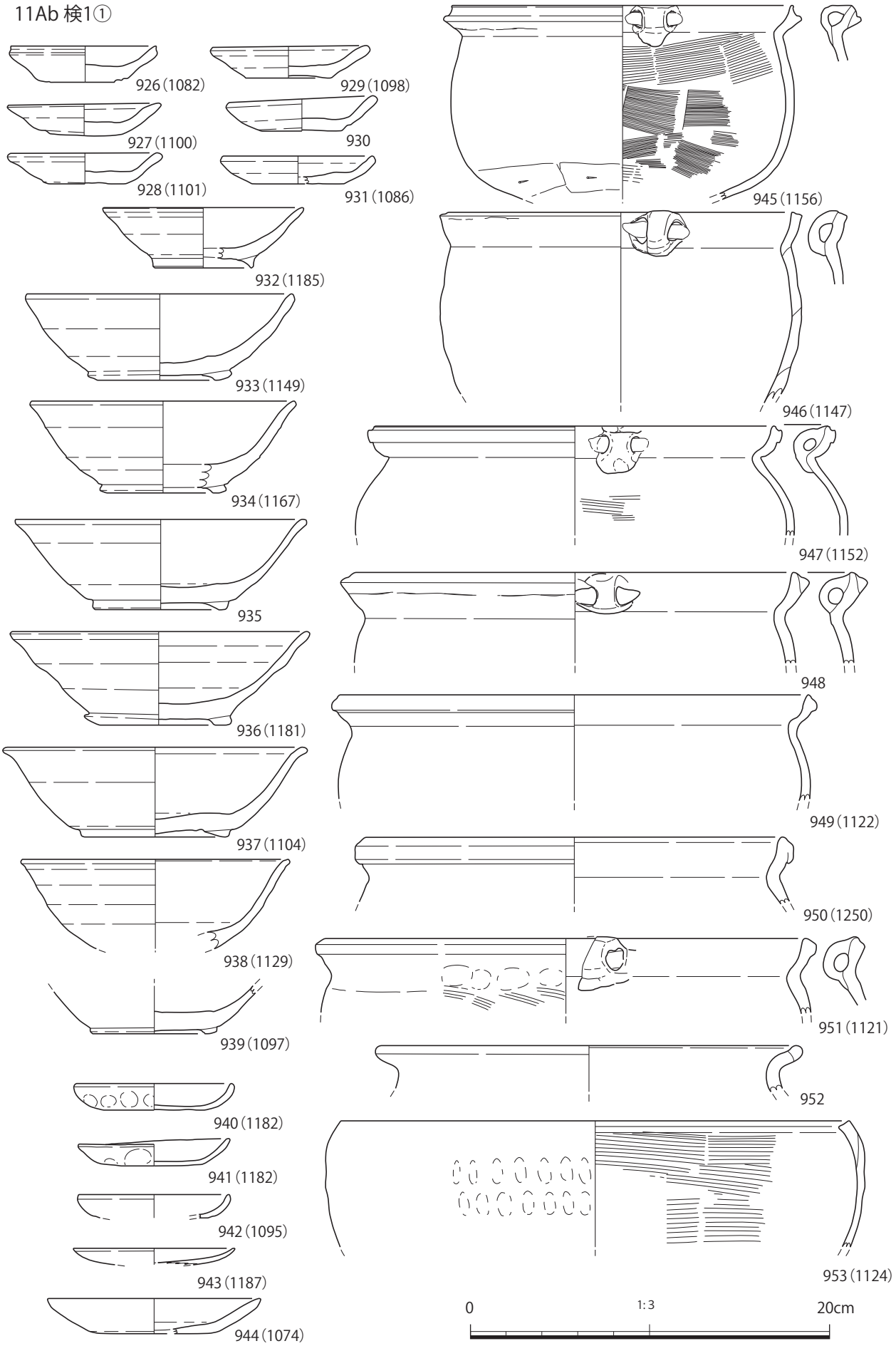
925 (589)

11Ab 14T

924

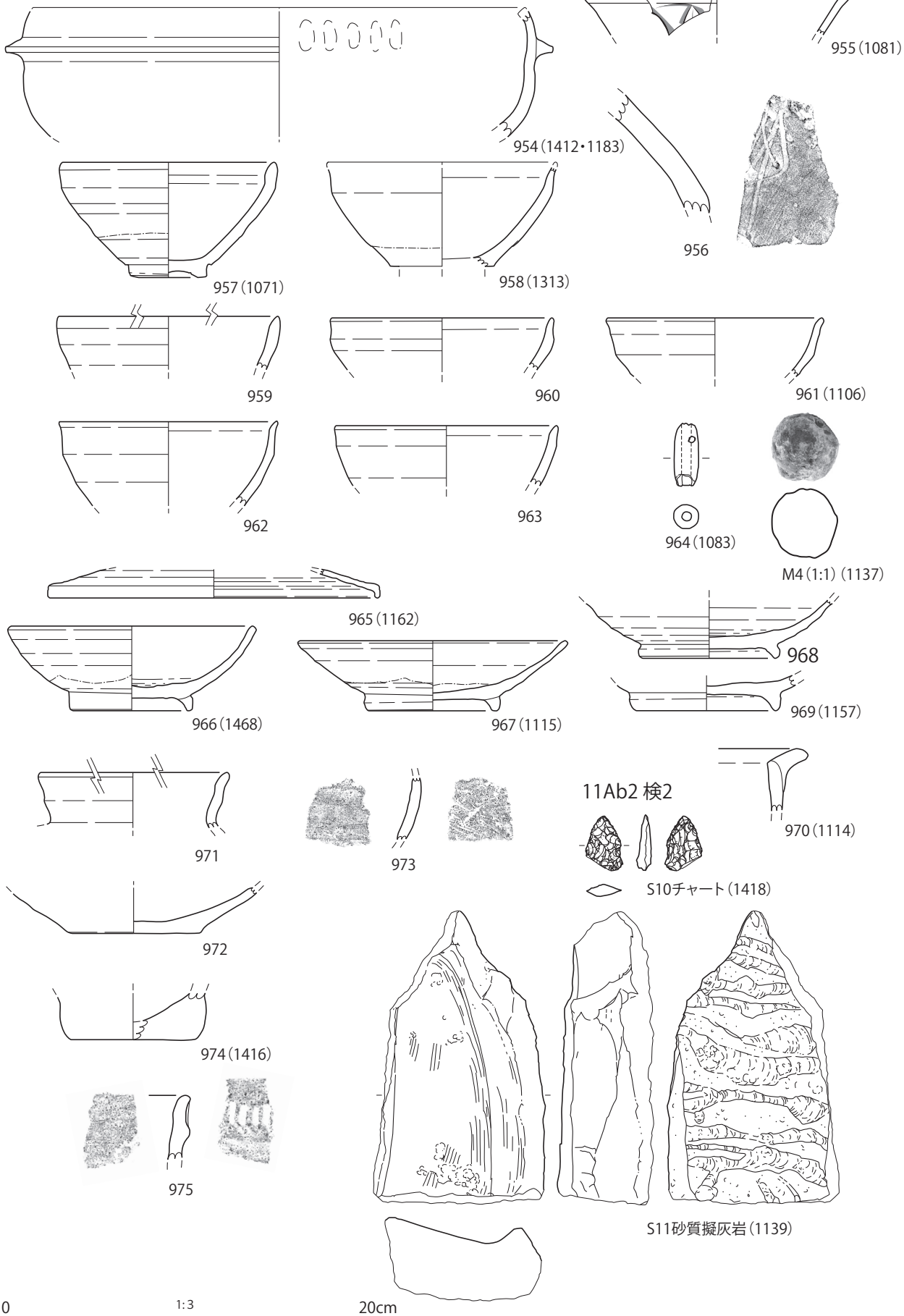


11Ab 検1①


926 (1082)
929 (1098)
927 (1100)
930
928 (1101)
931 (1086)
932 (1185)
933 (1149)
934 (1167)
935
936 (1181)
937 (1104)
938 (1129)
939 (1097)
940 (1182)
941 (1182)
942 (1095)
943 (1187)
944 (1074)
945 (1156)
946 (1147)
947 (1152)
948
949 (1122)
950 (1250)
951 (1121)
952
953 (1124)
0
1:3
20cm

遺物図版32

11Ab 検1②



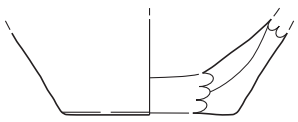
11Ba 002NR

976 (79)

11Ba 083SX

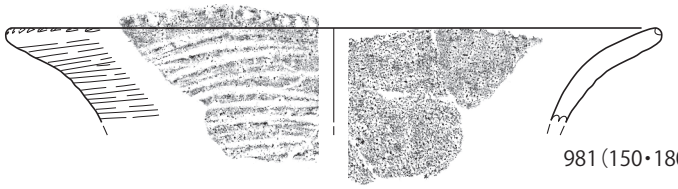
977 (71)

978 (96)

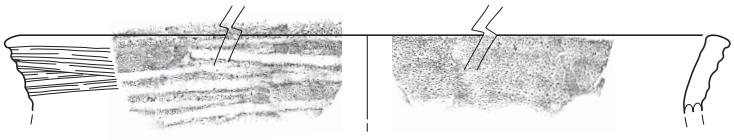


979 (19)

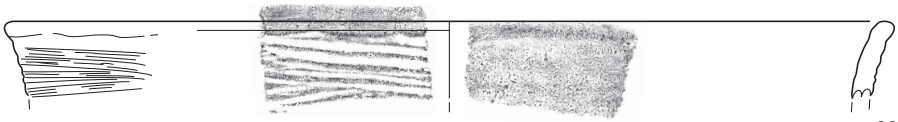
980 (26・48)



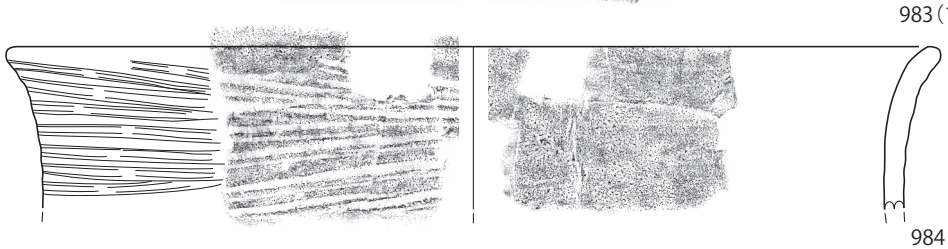
981 (150・180・181)



982 (25・105・161)

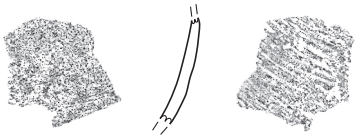


983 (103)

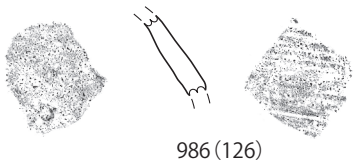


984 (32・47)

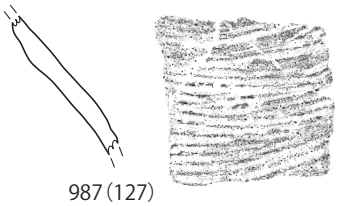
11Ba 085SX



985 (108)

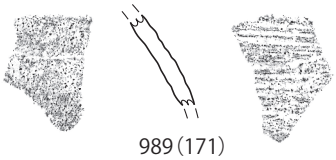


986 (126)



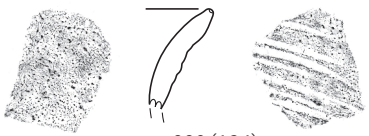
987 (127)

988 (133)



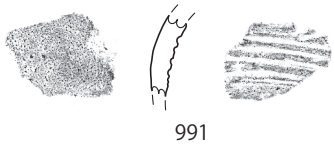
989 (171)

11Ba 086SX



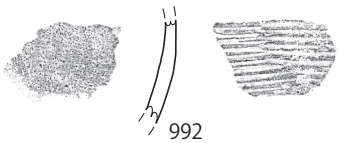
990 (184)

11Ba 64T



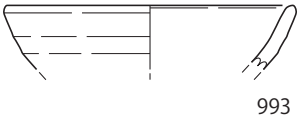
991

11Ba 検1



992

11Ba 検2



993

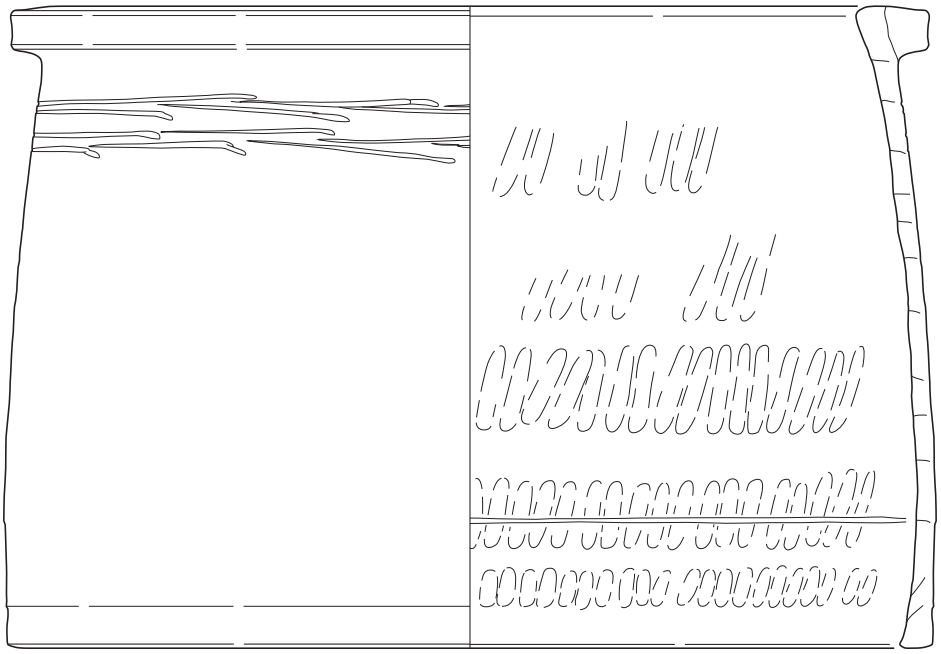
11Ba2 検2

994 (82)

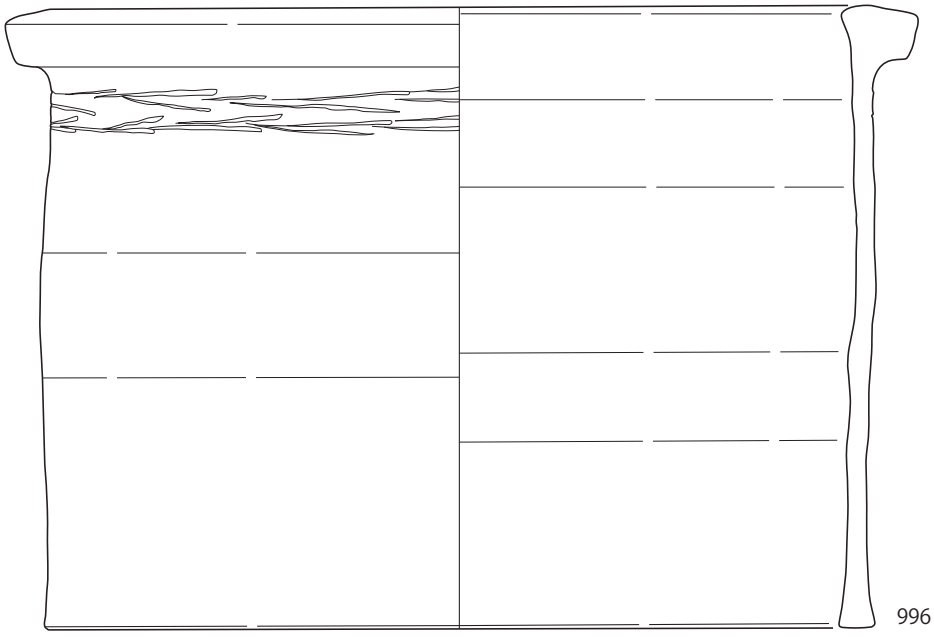
0 1:3 20cm

遺物図版34

11Bb 098SE

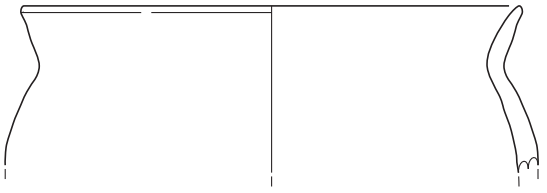


995 (1:6) (400)

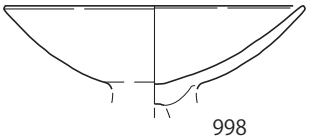


996 (1:6) (394)

11Bb 100SD

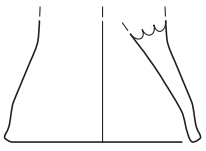


997 (292)



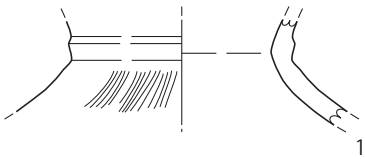
998

11Bb 104SD



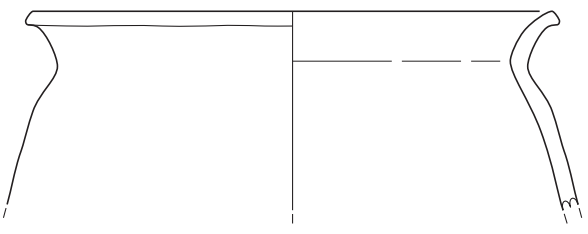
999 (435)

11Bb 103NR



1000

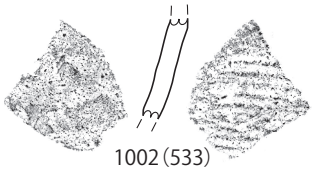
11Bb 171SN



1001 (403・404)

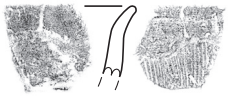
0 1:3 20cm

11Bb4 226SN



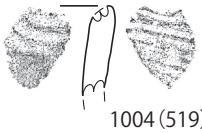
1002 (533)

11Bb4 177SN



1003 (402)

11Bb4 224SD

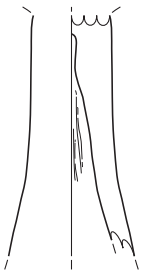


1004 (519)

11Bb4 224SD

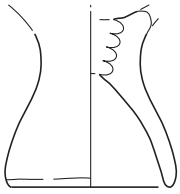
1005 (562)

11Bb
北壁トレンチ



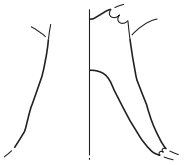
1006 (262)

11Bb　南壁トレンチ



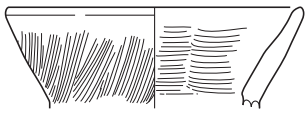
1007 (289)

11Bb2　南壁トレンチ



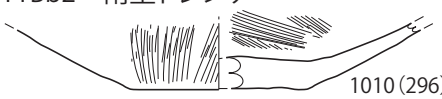
1008 (337)

11Bb2　南壁トレンチ



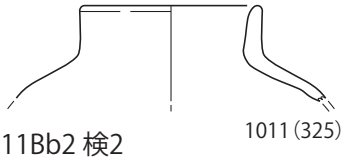
1009 (298)

11Bb2　南壁トレンチ



1010 (296)

11Bb2 検2



1011 (325)

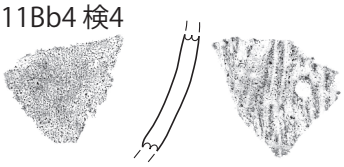
11Bb　検1

1012 (257)

11Bb3 検3

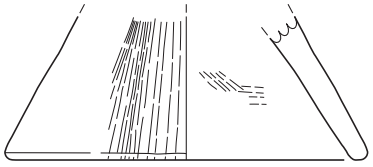
1013 (432)

11Bb4 検4



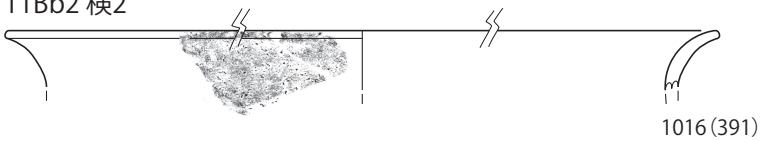
1014 (437)

11Bb2 検2



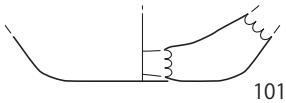
1015 (313・314)

11Bb2 検2



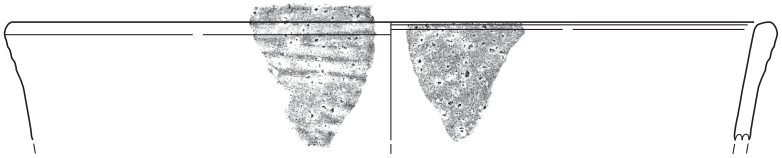
1016 (391)

11Bb2　表土



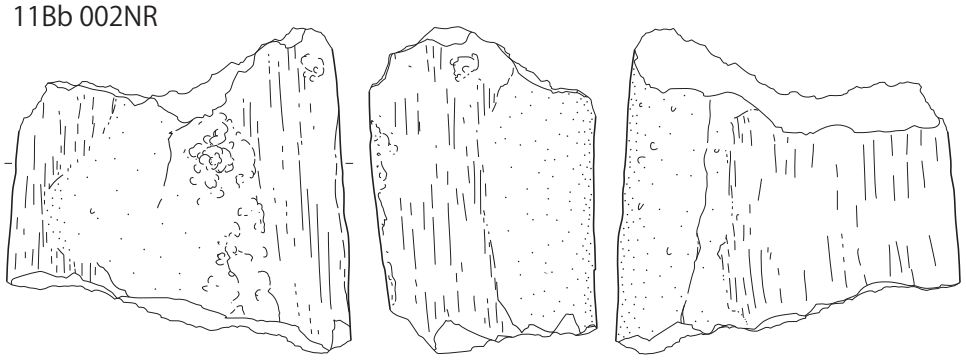
1017 (303)

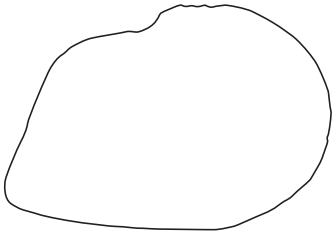
11Bb　表土



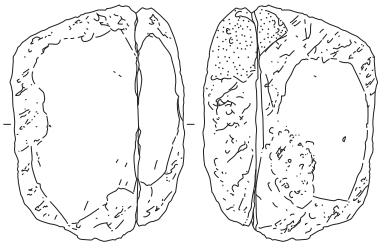
1018

11Bb 002NR

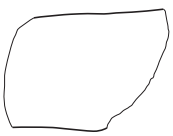




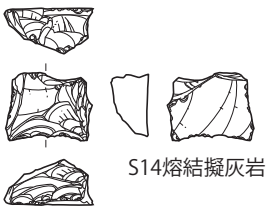
S12花崗岩 (480)



S13片麻岩 (457)



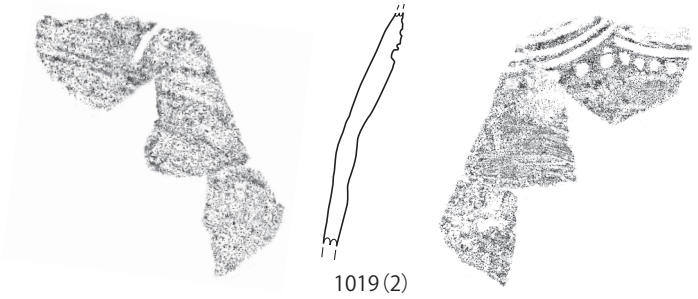
11Bb4 235SD



S14熔結擬灰岩 (573)

遺物図版36

11C 002NR

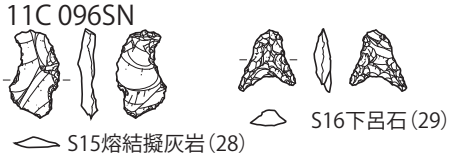


1019(2)

11C6 191SN

1020(75)

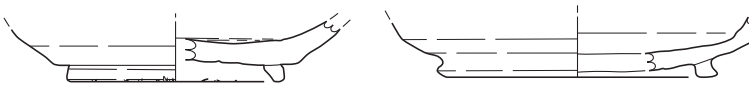
11C 096SN



S15熔結擬灰岩(28)

S16下呂石(29)

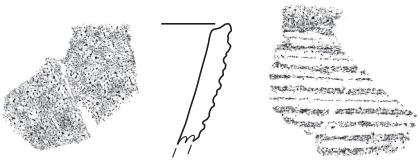
11C 西壁トレンチ



1021(14)

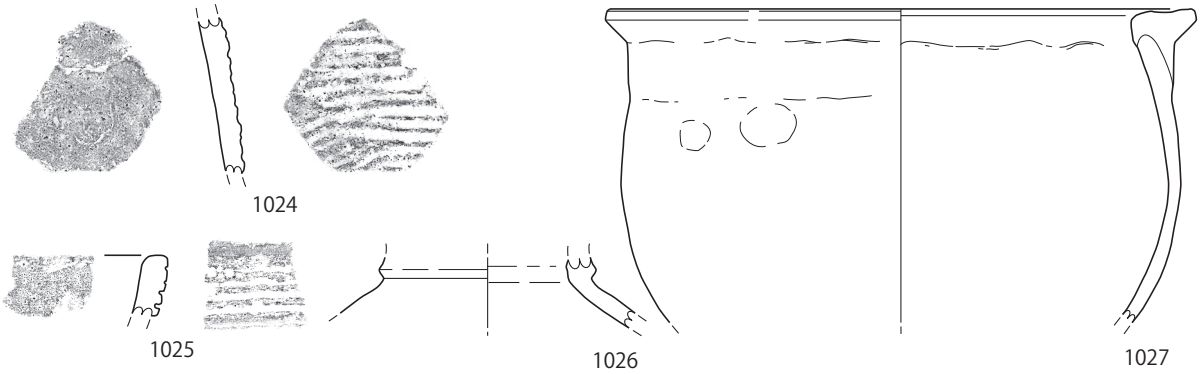
1022(13)

11C 東壁トレンチ



1023(6)

11C 表土



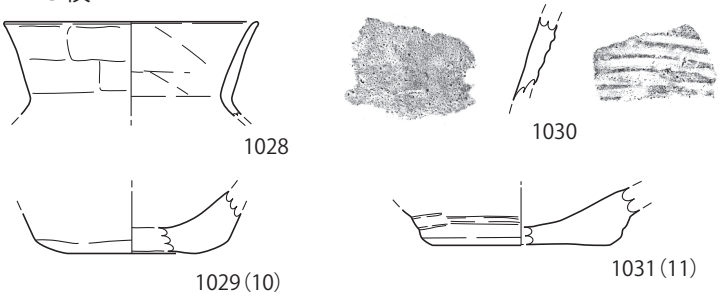
1024

1025

1026

1027

11C 検1

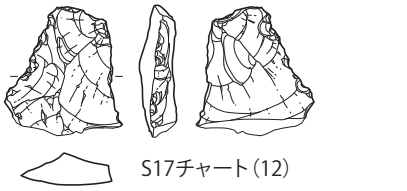


1028

1029(10)

1030

1031(11)



S17チャート(12)

S18熔結擬灰岩(17)

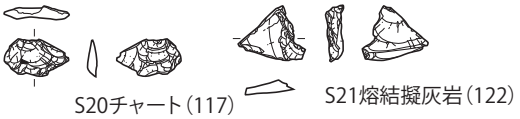
11C2 検2

1032(20)

11C2 検2

S19熔結擬灰岩(23)

11C10 検10

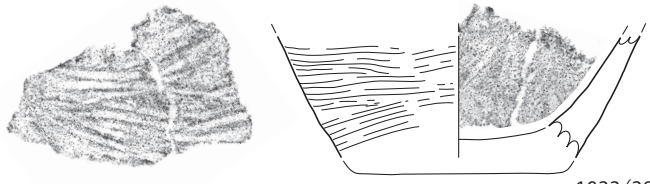


S20チャート(117)

S21熔結擬灰岩(122)

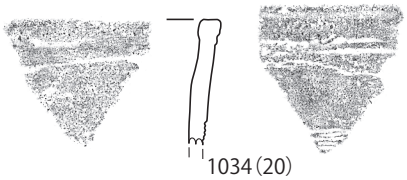
0 1:3 20cm

11D 003SN・004SN



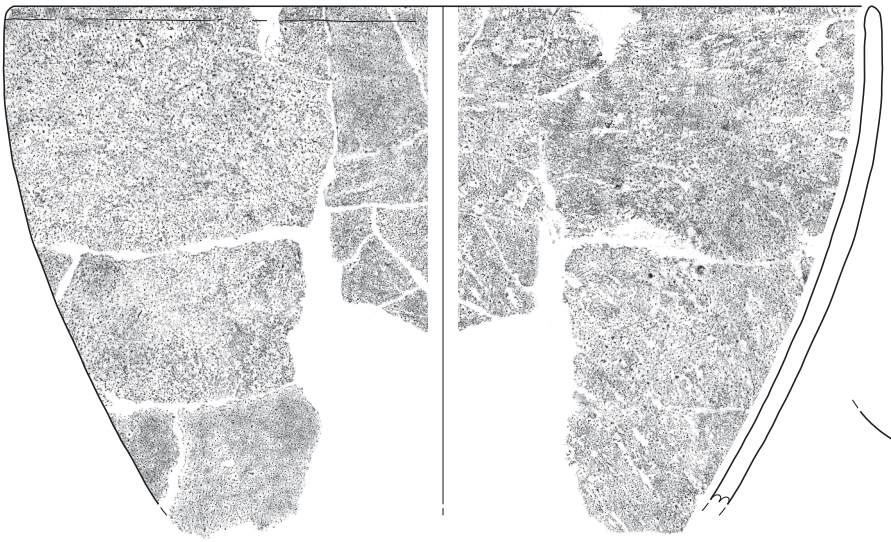
1033 (39)

11D 079SN



1034 (20)

11D2 088SU

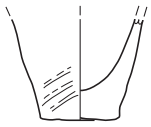


1036 (45)

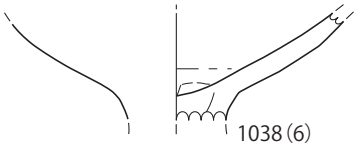
11D 073SN

1035 (21)

11D 北壁トレンチ

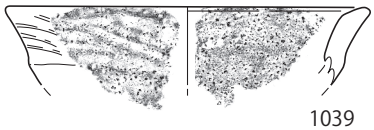


1037



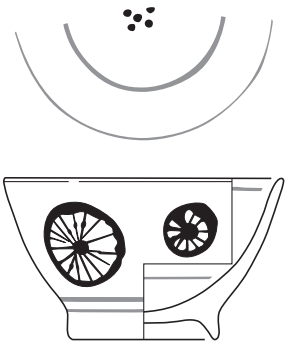
1038 (6)

11D 西壁トレンチ



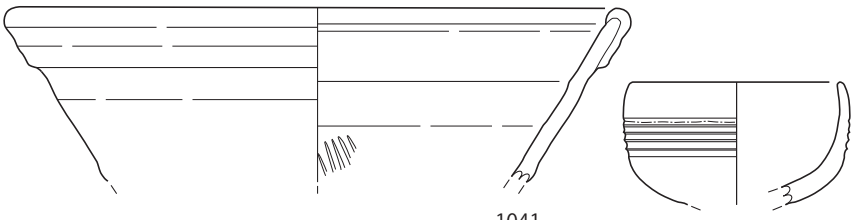
1039

11D 南壁トレンチ



1040

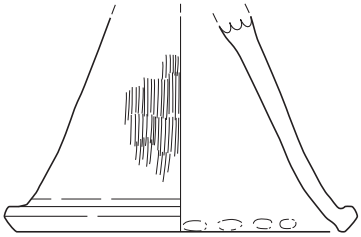
11D 1T



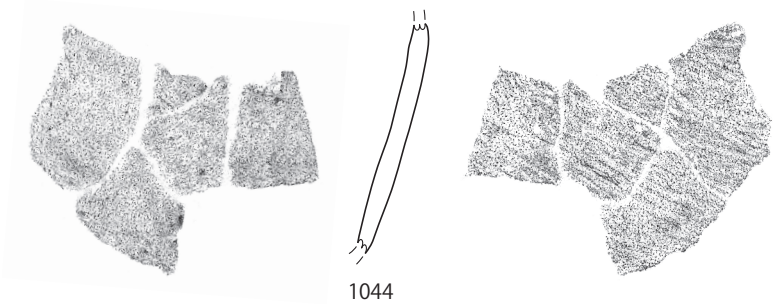
1041

1042

11D 検1

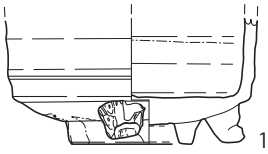


1043 (5)



1044

11D 表土

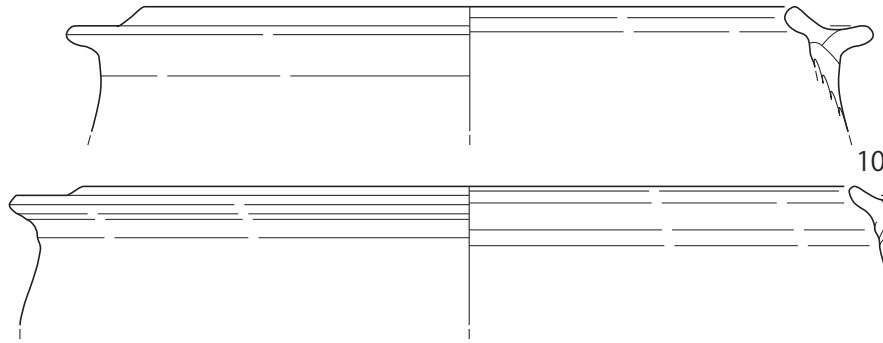


1045

0 1:3 20cm

遺物図版38

11D 表土

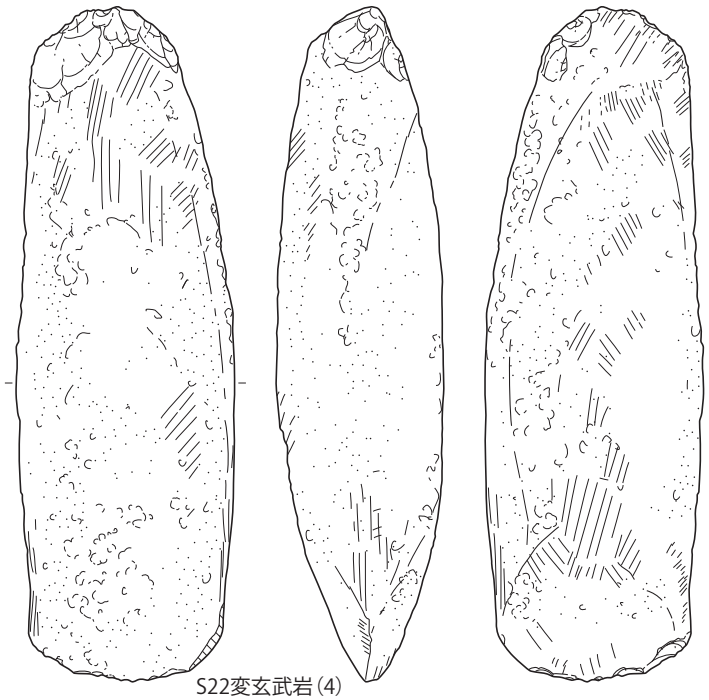


1046（1:6）（3）

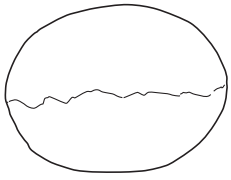
1047（1:6）（2）

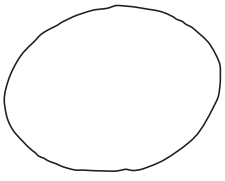
1048（1:6）（3）

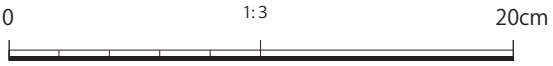
11D 北壁トレンチ



S22変玄武岩（4）







遺物観察表１

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期 型式	法量（cm） （ ）内は復元値・残存値 口径	底径	器高	備考
0001		11Aa	3581	017SK	1026	土器	山茶碗	小皿	渥美3b	(8.5)	5.2	1.5	
0002		11Aa	3581	017SK	1036	土器	山茶碗	小皿	渥美3a	7.8	5.0	1.6	
0003		11Aa	3581	017SK	1059・1066	土器	土師器	皿	中世	(12.0)	-	(2.1)	型押し痕あり
0004		11Aa	3581	017SK	0153・1058・1060	土器	山茶碗	碗	渥美3b	(14.8)	7.7	5.3	
0005		11Aa	3681	017SK		土器	山茶碗	碗	渥美1b	(16.0)	-	(3.6)	
0006		11Aa	3581	017SK	1067	土器	山茶碗	碗	渥美3c	-	(7.4)	(2.4)	
0007		11Aa	3581	017SK	1065	土器	山茶碗	碗？	渥美1か2	-	(6.4)	(1.7)	
0008		11Aa	3581	017SK	1027	土器	山茶碗	碗？	渥美か 3型式 併行	-	(7.2)	(1.7)	内面：重ね焼痕あり
0009	○	11Aa	3581	017SK	1014・1016	土器	陶器	広口壺 （小型）	常滑6aかb	-	(16.4)	(13.0)	取上番号1022・1024・1064
0010		11Aa	3681	017SK		土器	土師器	三河型甕	古代	(15.8)	-	(3.3)	
0011		11Aa	3581	017SK	1052	土器	陶器	広口壷	常滑2	-	-	7	渥美?
0012	○	11Aa	3581	017SK	1039・1042	土器	陶器	広口壷	常滑2	-	11.1	11.2	取上番号1043・1044・1045・1046・1047・1048
0013		11Aa	3581	017SK	1041	土器	陶器	甕	渥美2b	-	-	8.2	渥美
0014	○	11Aa	3581	017SK	1015・1018	土器	陶器	広口壷	常滑	-	(14.0)	(27.2)	取上番号1020・1021・1023・1028
0015		11Aa	3781	066SP	0078	土器	山茶碗	小皿	尾張7	(8.0)	(4.6)	1.7	
0016		11Aa	3781	066SP	0079	土器	山茶碗	碗	尾張6	-	-	(3.2)	
0017		11Aa	3679	152SK		土器	土師器	皿	中世	(12.7)	(7.8)	2.2	
0018		11Aa	3679	183SK	0304	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(21.0)	-	(6.5)	
0019		11Aa	3878	218SK	0173	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	(8.0)	(1.9)	
0020		11Aa	3880	241SK		土器	山茶碗	小皿	尾張6 併行	(8.3)	(5.2)	(1.7)	
0021		11Aa	3780	249SK	0291	土器	土師器	皿	中世	(8.4)	-	1.3	型押しによる稜線明瞭
0022	○	11Aa	3679	256SK	293	土器	陶器	仏供	古瀬戸前ⅢかⅣ	-	4.0	(2.7)	瀬戸美濃
0023		11Aa	3787	266SK	0185	土器	陶器	折縁深皿	古瀬戸前Ⅲ～Ⅳ	-	(16.0)	(5.8)	
0024		11Aa	3878	267SK	0177	土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	(1.1)	胎土：微量の金雲母含む
0025		11Aa	3597	287SD		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(21.0)	-	(3.4)	
0026		11Aa	3780	294SK	0214	土器	灰釉陶器？	碗？	渥美2b	-	(7.2)	(3.5)	
0027		11Aa	3780・3881	297SK・454SKあ	0212・0213	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	(7.6)	(2.6)	
0028		11Aa	3779	316SP	0241	土器	灰釉陶器	碗	折戸53 碗A	-	(7.3)	(1.9)	
0029		11Aa	3882	352SD	0116	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(15.8)	(6.8)	5.5	高台：砂粒子痕あり
0030		11Aa	3882	352SD	0117	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.4	(4.9)	
0031		11Aa	3882	352SD	0101	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	(8.0)	(2.3)	
0032		11Aa	3882	352SD	0030	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	(7.4)	(2.9)	
0033		11Aa	3882	352SD	0115	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.5	(2.6)	
0034		11Aa	4079	352SD	0378	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	(8.0)	(2.1)	
0035		11Aa	3882	352SD	-	土器	白磁器	皿	13世紀後半～14世紀初	(10.8)	-	(2.05)	福建省
0036		11Aa	3782	352SD	0004	土器	陶器	小碗	美濃 登窯8か9	(7.1)	-	(3.0)	
0037		11Aa	3782・3882	352SD	0992	土器	須恵器	平瓶	黒笹7	最大 (19.6)	(14.4)	(6.6)	
0038		11Aa	4081	352SD	0123	土器	灰釉陶器	碗	折戸53以降	-	7.1	(2.0)	
0039		11Aa	3981・4080	352SD・354SK	0130・0145	土器	土師器	内耳鍋	中世	(24.4)	-	(8.3)	取上番号0150・0155・0156・0157
0040		11Aa	4080	353SD	0207	土器	灰釉陶器	碗	折戸53以降 後半	-	(7.0)	(1.5)	
0041		11Aa	4180	トレンチ		土器	土師器	皿	中世	(11.6)	-	2.4	
0042		11Aa	4080	354SK	0132・0134	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(30.7)	-	(4.7)	
0043		11Aa	4080	354SK	0133・0135	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(28.6)	-	(4.6)	取上番号0137・0139・0147
0044		11Aa	4080	354SK	0138・0153・0154	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(26.0)	-	(5.7)	
0045		11Aa	4080	354SK	0152・0163	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(32.4)	-	(9.0)	
0046	○	11Aa	3779	362SP	0286	土器	灰釉陶器	長頸瓶	10世紀	-	8.0	(15.8)	
0047		11Aa	3779	376SK		土器	弥生土器	深鉢	弥生前期?	-	-	(3.0)	
0048		11Aa	3779	382SP	0243	土器	土師器	皿	中世	(11.6)	-	(3.0)	胎土：微量の金雲母含む
0049		11Aa	3779	382SP	0244	土器	土師器	皿	中世	(11.8)	-	(3.0)	胎土：微量の金雲母含む
0050	○	11Aa	3779	382SP	0245	土器	土師器	皿	中世	(11.8)	-	3.0	胎土：微量の金雲母含む
0051	○	11Aa	3778	383SP	0319	土器	土師器	皿	中世	8.0	-	1.7	
0052	○	11Aa	3778	383SP	0320	土器	土師器	皿	中世	(11.8)	-	2.5	胎土：金雲母含む 型押しによる稜線明瞭

遺物観察表２

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期	法量（㎝）（ ）内は復元値・残存値			備考
									型式	口径	底径	器高	
0053	○	11Aa	3778	383SP	0321	土器	土師器	皿	中世	12.0	9.2	2.7	胎土：金雲母含む
0054		11Aa	3778	383SP	0322	土器	土師器	皿	中世	(12.0)	-	2.0	胎土：金雲母含む 型押し痕あり
0055		11Aa	4079	413SD	0111	土器	山茶碗	小皿	渥美2a	(8.7)	(4.2)	2.2	
0056		11Aa	4079	413SD	0262	土器	山茶碗	碗	尾張3 併行	-	(6.6)	(1.9)	
0057		11Aa	4080	413SD	0089	土器	灰釉陶器	深碗	丸石2	-	6.9	(3.9)	
0058		11Aa	4079	413SD	0266	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	6.6	(2.8)	
0059		11Aa	4078	413SD	0292	土器	山茶碗	碗	渥美2a	-	(8.9)	(3.5)	
0060		11Aa	4079	413SD	0171	土器	山茶碗	碗	渥美2b	(15.6)	(6.7)	5.1	
0061		11Aa	4080	トレンチ		土器	土師器	皿	中世	(11.8)	(7.7)	1.6	トレンチ
0062		11Aa	4079	413SD		土器	土師器	内耳鍋	中世	(23.0)	-	(2.3)	
0063		11Aa	4079	413SD	0165	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(28.8)	-	(5.3)	
0064		11Aa	4079	413SD	0263	土器	須恵器	小型壷	渥美1b	(13.9)	-	(3.9)	
0065		11Aa	4079	413SD	0087	土器	灰釉陶器	碗	百代寺～3型式	-	7.5	(2.8)	
0066		11Aa	4079	トレンチ	0269	土器	灰釉陶器	碗	折戸53後半以降	-	7.1	(2.0)	
0067		11Aa	4078	トレンチ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(26.6)	-	(3.9)	胎土：径1～6㎜の石含む
0068		11Aa	4079	413SD		土器	土師器	清郷型鍋	古代	-	-	(2.9)	胎土：径1～3㎜の石含む
0069		11Aa	4080	401SJ		土器	近世陶器	甕	常滑 真焼 18c後半	(49.8)	17.0	口(6.0) 底(17.0)	
0070		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	皿	中世	(6.2)	-	(1.3)	
0071		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	皿	中世	(7.9)	-	1.6	
0072	○	11Aa	3881	454SX	0099	土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	1.3	トレンチ(b) 型押し痕あり
0073		11Aa	3881	454SXあ	0669	土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	(1.3)	
0074	○	11Aa	3881	454SXあ	0370	土器	土師器	皿	中世	7.9	-	1.5	
0075		11Aa	3881	454SXあ	0652	土器	土師器	皿	中世	(8.2)	-	1.6	
0076		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	皿	中世	(8.1)	-	1.5	
0077		11Aa	3881	454SXあ	0660	土器	土師器	皿	中世	(10.0)	-	2.0	胎土：細かい金雲母を含む
0078		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	皿	中世	(11.8)	-	2.1	胎土：細かい金雲母を含む
0079		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	皿	中世	(12.0)	-	(2.1)	胎土：細かい金雲母を含む
0080		11Aa	3881	454SX・080SK		土器	土師器	皿	中世	(12.7)	-	(2.0)	トレンチ(b)
0081		11Aa	3780	454SXあ	0840・0975・0977	土器	土師器	皿	中世	(13.6)	-	(2.6)	型押痕あり
0082		11Aa	3881・3781	454SXあ・454SXん	0371	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(21.6)	-	(5.4)	胎土：金雲母を少量含む
0083		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(27.6)	-	(2.9)	
0084		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(24.8)	-	(1.9)	
0085		11Aa	3881・3780	454SXあ・454SXえ	0364・0958・0959	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(26.0)	-	(4.7)	
0086		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(25.6)	-	(2.3)	
0087		11Aa	3881	454SXあ	0367	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(24.0)	-	(2.5)	
0088		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(23.4)	-	(1.2)	
0089		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(27.6)	-	(4.3)	
0090		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(27.5)	-	(3.8)	
0091		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(30.0)	-	(6.0)	
0092		11Aa	3881	454SXあ	0352	土器	土師器	羽付鍋	中世	(21.6)	-	(6.2)	
0093		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.9)	
0094		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.6)	
0095		11Aa	3781	454SXあ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(2.5)	
0096		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(2.0)	
0097		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.7)	
0098		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.4)	
0099		11Aa	3881	454SXあ		土器	土師器	内耳鍋	中世	-	-	(2.2)	
0100		11Aa	3881	454SXあ	0366	土器	山茶碗	小碗	渥美1aかb	9.0	4.0	3.5	高台：色調異なる
0101		11Aa	3881	454SXあ		土器	山茶碗	小碗	尾張4	(9.8)	(5.0)	2.9	
0102		11Aa	3881	454SXあ		土器	山茶碗	小皿	渥美2a	(9.5)	4.3	2.0	
0103		11Aa	3881	454SXあ	0351	土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.0)	3.9	2.1	
0104		11Aa	3881	454SXあ	0663	土器	山茶碗	小皿	渥美2b	(8.5)	(4.8)	1.9	

遺物観察表３

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期 型式	法量（cm）（ ）内は復元値・残存値 口径	底径	器高	備考
0105		11Aa	3881・4180	454SXあ・478SD	0215・0249	土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.4)	5.0	2.1	
0106		11Aa	3881	454SX(080SK)		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.6)	(4.8)	2.0	
0107		11Aa	3881	454SXあ	0533	土器	山茶碗	小皿	渥美3a	(8.4)	4.8	1.9	
0108		11Aa	3881	454SXあ		土器	山茶碗	小皿	尾張7	(8.6)	4.6	1.6	
0109		11Aa	3781	454SXあ	0773	土器	山茶碗	小皿	尾張6	8.0	5.6	1.8	
0110		11Aa	3881	454SXあ		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.8)	(4.0)	1.7	
0111		11Aa	3881	454SXあ	0361	土器	山茶碗	小皿	渥美3a	8.0	4.6	1.9	
0112		11Aa	3881	454SXあ	0362	土器	山茶碗	小皿	尾張6	7.6	4.8	1.6	
0113		11Aa	3881	454SXあ		土器	山茶碗	小皿	渥美2	-	4.4	(1.2)	
0114	○	11Aa	3881	454SXあ	0675	土器	山茶碗	碗	渥美2b	16.3	6.8	5.6	
0115	○	11Aa	3881	454SX・454SXわ	0109・0414	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(15.8)	6.8	5.3	破面打ち欠き：C類
0116		11Aa	3881	454SXあ	0168	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(15.6)	(7.0)	4.8	
0117	○	11Aa	3881	454SXあ	0376・0457・0458	土器	山茶碗	碗	尾張6古	14.7	6.8	5.1	
0118		11Aa	3881	454SXあ	0459	土器	山茶碗	碗	常滑6a 尾張7	(15.0)	(6.0)	4.7	
0119		11Aa	3881	454SXあ	0837・0838	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(16.8)	(7.8)	5.5	
0120	○	11Aa	3881	454SX	0098・0120	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(15.2)	7.0	5.4	体部に墨書あり「◎」破面打ち欠き：C類
0121	○	11Aa	3681	454SXあ	0097	土器	山茶碗	碗	渥美3b	15.7	7.4	5.2	
0122		11Aa	3881	454SXあ	0646	土器	山茶碗	碗	尾張6	(14.8)	(7.0)	5.5	
0123		11Aa	3881	454SXあ		土器	山茶碗	碗	尾張6	(17.4)	(7.4)	4.7	
0124	○	11Aa	3881	454SXあ	0676	土器	山茶碗	碗	渥美1a	-	7.2	(2.2)	破面打ち欠き：D類
0125	○	11Aa	3881	454SXあ	0840	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.8	(3.5)	破面打ち欠き：A類
0126	○	11Aa	3881	454SXあ	0643	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.0	(2.5)	破面打ち欠き：D類
0127		11Aa	3881	454SX	0103	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.9	(2.3)	
0128		11Aa	3881	454SXあ	0993	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.8	(2.8)	全体に摩耗
0129		11Aa	3881	454SXあ	0836	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.0	(2.3)	
0130		11Aa	3881	454SXあ	0996	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.4	(3.7)	全体に摩耗
0131	○	11Aa	3881	454SXあ	0558	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.6	(2.9)	破面打ち欠き：B類
0132		11Aa	3881	454SXあ	0648	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.8	(1.8)	内面：糸切り痕あり
0133	○	11Aa	3881	454SXあ	0641	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.4	(2.6)	破面打ち欠き：A類
0134		11Aa	3881	454SXあ	0217	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.4	(2.2)	
0135		11Aa	3881	454SXあ	0649	土器	山茶碗	碗	渥美2b	-	7.4	(3.6)	
0136		11Aa	3881	454SXあ		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	(8.4)	(2.7)	
0137		11Aa	3881	454SXあ	0468	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	6.6	(1.8)	全体摩耗
0138	○	11Aa	3881	454SXあ		土器	山茶碗	碗（底部）	渥美3a	-	7.0	(1.5)	破面打ち欠き：D類
0139		11Aa	3881	454SXあ・454SXせ	0488・0490	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.0	(2.3)	全体にローリング
0140	○	11Aa	3881	454SXあ	0995	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.4	(2.4)	全体摩耗　破面打ち欠き：D類
0141		11Aa	3881	454SXあ		土器	山茶碗	碗	尾張6	-	6.4	(2.8)	
0142		11Aa	3881	454SXあ		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.0	(1.5)	
0143	○	11Aa	3881	454SXあ	0839	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.6	(3.7)	破面打ち欠き：B類
0144		11Aa	3881	454SXあ		土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	7.0	(1.7)	
0145		11Aa	3881	454SXあ	0447	土器	青磁器	碗	12世紀後半	-	(5.2)	(1.95)	龍泉窯Ⅰ類
0146		11Aa	3881	454SXあ	0667	土器	青磁器	碗	12世紀後半	-	5.0	(1.6)	龍泉窯Ⅰ類
0147		11Aa	3881	454SXあ	0221	土器	青磁器	盤 Ⅲ類	13世紀後半～14世紀初	(12.2)	-	(2.2)	龍泉窯Ⅲ類
0148		11Aa	3881	454SXあ	-	土器	白磁器	Ⅲ	12世紀後半～13世紀前半	-	-	(1.2)	福建省
0149		11Aa	3881	454SXあ		土器	陶器	瓶類	古瀬戸	-	(9.0)	(4.9)	
0150		11Aa	3881	454SX (080SK)		土器	陶器	甕	渥美	-	-	(12.2)	
0151		11Aa	3881・3781	454SXあ・い・う・わ・ん	0634・0672	土器	陶器	甕	渥美2a	-	20.3	(12.0)	取上番号0674・0841・0698・0713・0830・0118・0358
0152		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	Ⅲ	中世	(7.2)	(5.9)	1.1	
0153		11Aa	3780	454SXい		土器	土師器	Ⅲ	中世	(7.8)	-	1.0	
0154		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	Ⅲ	中世	(7.8)	-	(2.3)	
0155		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	Ⅲ	中世	(7.7)	-	1.2	
0156		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	Ⅲ	中世	(7.8)	-	1.2	

遺物観察表４

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期	法量（cm）（ ）内は復元値・残存値			備考
									型式	口径	底径	器高	
0157		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	皿	中世	(7.8)	-	1.4	
0158		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	皿	中世	(8.2)	(6.5)	1.1	
0159		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	皿	中世	(8.1)	-	1.3	胎土：細かい金雲母を含む
0160	○	11Aa	3881	454SXい	0345	土器	土師器	皿	中世	8.1	-	1.9	
0161		11Aa	3780	454SXい		土器	土師器	皿	中世	(8.8)	-	1.3	
0162		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	皿	中世	(8.8)	-	1.6	胎土：細かい金雲母を含む
0163		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	皿	中世	(8.8)	-	1.8	型押しによる稜線明瞭
0164		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	皿	中世	(10.0)	-	1.2	胎土：細かい金雲母を含む
0165		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	皿	中世	(10.0)	-	1.9	
0166		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	皿	中世	(10.0)	-	2.4	胎土：細かい金雲母を含む
0167		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	皿	中世	(11.8)	(8.4)	(1.7)	胎土：微量の金雲母を含む
0168		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	皿	中世	(11.6)	-	2.0	胎土：微量の金雲母を含む 型押し痕あり
0169		11Aa	3781	454SXい	0704	土器	土師器	皿	中世	(11.8)	(7.9)	2.3	
0170		11Aa	3881	454SXい		土器	土師器	皿	中世	(11.8)	-	2.4	胎土：微量の金雲母を含む 型押しによる稜線明瞭
0171		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	皿	中世	(11.7)	-	2.6	胎土：微量の金雲母を含む 型押しによる稜線明瞭
0172		11Aa	3781	454SXい	0705	土器	土師器	皿	中世	(12.0)	-	(2.4)	
0173		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	皿	中世	(13.0)	-	2.2	胎土：細かい金雲母を含む
0174		11Aa	3881	454SXい		土器	土師器	皿	中世	(13.0)	-	2.5	
0175	○	11Aa	3881	454SXい	0314	土器	土師器	皿	中世	(12.5)	(10.8)	(3.0)	
0176		11Aa	3780	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(23.0)	-	(1.1)	
0177		11Aa	3881	454SXい	0753	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(24.0)	-	(3.0)	
0178		11Aa	3780	454SXい・454SX		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(28.0)	-	(1.4)	胎土：１mm程の砂粒含む
0179		11Aa	3881	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(28.4)	-	(3.5)	
0180		11Aa	3881	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(28.1)	-	(1.7)	
0181		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(27.8)	-	(2.9)	
0182		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(2.5)	
0183		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.8)	
0184		11Aa	3881	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.9)	
0185		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(2.5)	
0186		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(2.0)	
0187		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.5)	
0188		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(3.2)	
0189		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.9)	
0190		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.7)	
0191		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.5)	
0192		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(2.1)	
0193		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.4)	
0194		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.4)	
0195		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.4)	
0196		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.1)	
0197		11Aa	3881	454SXい	0848	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.6)	胎土：金雲母含む
0198		11Aa	3781	454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(3.3)	
0199		11Aa	3781	454SXい		土器	山茶碗	小碗	渥美1b	-	5.2	(1.5)	
0200		11Aa	3781	454SXい	0758	土器	山茶碗	小碗	渥美2a	(8.2)	4.0	2.4	
0201		11Aa	3881	454SX	0182	土器	山茶碗	小皿	渥美2b	(8.0)	3.6	1.9	
0202		11Aa	3781	454SXい		土器	山茶碗	小皿	渥美2b	(7.8)	(4.2)	1.9	内外面ともに磨耗
0203		11Aa	3781	454SXい		土器	山茶碗	小皿	渥美2b	-	(4.0)	(1.9)	内外面ともに磨耗
0204		11Aa	3881	454SXい	0481	土器	山茶碗	小皿	渥美3a	(8.2)	(4.0)	2.1	内外面ともに磨耗
0205		11Aa	3781	454SXい	0822	土器	山茶碗	小皿	尾張5	(8.2)	4.3	1.9	
0206		11Aa	3781・3881	454SXい・454SXう		土器	山茶碗	小皿	尾張5	(7.4)	(4.4)	1.9	
0207		11Aa	3781	454SXい	0532	土器	山茶碗	小皿	渥美3b	(8.8)	(6.2)	1.7	
0208		11Aa	3781	454SXい	0689	土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.8)	(5.4)	2.1	
0209		11Aa	3781	454SXい		土器	山茶碗	小皿	渥美3a	(8.6)	(4.0)	1.6	内外面ともに磨耗

遺物観察表５

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期 型式	法量（cm）（ ）内は復元値・残存値 口径	底径	器高	備考
0210		11Aa	3781	454SXい	0707	土器	山茶碗	小皿	尾張6	8.0	6.0	1.4	
0211		11Aa	3881	454SXい		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.8)	(4.6)	1.6	内外面ともに磨耗
0212		11Aa	3781	454SXい	0712	土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.8)	(4.8)	1.4	
0213		11Aa	3781	454SXい		土器	山茶碗	小皿	尾張7	7.4	5.5	1.5	
0214		11Aa	3781	454SXい		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.9)	(5.0)	1.5	
0215		11Aa	3881	454SXい		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.6)	4.8	1.3	内外面ともに磨耗
0216		11Aa	3881	454SX		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.2)	(5.0)	1.5	
0217		11Aa	3780	454SXい		土器	山茶碗	小皿	渥美2b	-	4.0	(1.0)	
0218		11Aa	3781	454SXい	0710	土器	山茶碗	小皿	渥美3a	-	4.3	(1.2)	破面：磨耗？
0219		11Aa	3881	454SXい		土器	山茶碗	碗	渥美3a	(15.3)	(8.6)	4.7	
0220	○	11Aa	3881	454SXい	0853・0854 0945	土器	山茶碗	碗	渥美3a	15.8	8.0	5.2	
0221	○	11Aa	3881	454SXい	0684・0685 0693	土器	山茶碗	碗	渥美3a	16.3	7.8	4.7	破面打ち欠き：C類
0222		11Aa	3881	454SX	0127	土器	山茶碗	碗	尾張6古	(16.0)	(7.0)	4.8	
0223		11Aa	3881	454SXい	0565	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(15.6)	(7.4)	5.1	
0224	○	11Aa	3881	454SXい	0850	土器	山茶碗	碗	渥美3a	16.1	7.2	5.1	全体に摩耗
0225		11Aa	3881	454SXい	0701	土器	山茶碗	碗　鉢？	渥美3a	(17.2)	(8.2)	5.4	
0226	○	11Aa	3881	454SXい	0681・0682	土器	山茶碗	碗	渥美3a	14.8	7.0	5.7	破面打ち欠き：A類
0227	○	11Aa	3881	454SXい	0815・0694	土器	山茶碗	碗	渥美3a	15.4	7.0	5.2	
0228	○	11Aa	3781	454SXい	0694	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(15.4)	6.8	5.3	破面打ち欠き：C類
0229		11Aa	3881	454SXい	0719	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(15.4)	(7.7)	(5.1)	
0230	○	11Aa	3881	454SXい	0720	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(15.9)	7.1	5.8	破面打ち欠き：C類
0231		11Aa	3781	454SXい		土器	山茶碗	碗	尾張6	(15.6)	(7.0)	5.4	
0232		11Aa	3781	454SXい	0767	土器	山茶碗	碗	尾張6	(14.8)	(6.0)	4.8	
0233	○	11Aa	3781	454SXい	0829	土器	山茶碗	碗	渥美1b	-	8.4	(3.0)	破面打ち欠き：D類
0234		11Aa	3781	454SXい		土器	山茶碗	碗	12c末	-	(7.0)	(2.8)	東遠江
0235		11Aa	3781	454SXい	0695	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	(7.2)	(2.7)	
0236		11Aa	3881	454SXい		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	(9.6)	(3.0)	
0237		11Aa	3781	454SXい	0716	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	8.1	(3.1)	高台：砂粒子痕あり
0238	○	11Aa	3781	454SXい	0699	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.6	(3.4)	破面打ち欠き：B類
0239	○	11Aa	3781	454SXい	0855	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.8	(1.8)	破面打ち欠き：D類
0240		11Aa	3781	454SXい	0857	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	8.0	2.1	
0241		11Aa	3781	454SXい	0692	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.4	(2.8)	
0242		11Aa	3781	454SXい	0700	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.8	(2.4)	
0243		11Aa	3781	454SXい	0690	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	7.5	(2.1)	破面・高台：打ち欠き
0244	○	11Aa	3781	454SXい	0697	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.3	(2.1)	破面打ち欠き：A類
0245		11Aa	3781	454SXい	0721	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.0	(3.0)	
0246		11Aa	3781	454SXい	0856	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.4	(2.5)	
0247	○	11Aa	3781	454SXい	0703	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.9	(3.2)	破面打ち欠き：A類
0248		11Aa	3780	454SXい		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.6	(1.7)	高台：砂粒子痕あり
0249		11Aa	3781	454SXい	0195	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.5	(2.0)	
0250		11Aa	3781	454SXい	0564	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.2	2.0	
0251	○	11Aa	3781	454SXい	0686	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	7.2	(1.3)	破面打ち欠き：D類
0252	○	11Aa	3781	454SXい	0686	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	6.5	(1.8)	破面打ち欠き：D類
0253		11Aa	3781	454SXい	0820	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.2	(2.6)	
0254		11Aa	3781	454SXい	0706	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.9	(2.0)	高台：砂粒子痕あり
0255		11Aa	3781	454SXい	0129	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.4	2.8	
0256	○	11Aa	3781	454SXい	0484	土器	陶器	子持器台	渥美1a	-	4.6	(3.2)	
0257		11Aa	3881	454SXい		土器	山茶碗	小皿	渥美	-	-	-	破面：磨耗
0258		11Aa	3781	454SX		土器	陶器	壷	渥美	-	(7.6)	(4.3)	
0259		11Aa	3781	454SXい	0456	土器	青磁器	碗	12世紀後半	(16.0)	-	(4.3)	龍泉窯Ⅰ類
0260		11Aa	3781	454SXい	0754	土器	青磁器	碗	12世紀後半	(14.8)	-	(2.65)	龍泉窯Ⅰ類劃花文
0261		11Aa	3781	454SXい・454SXう	0483・0482・0203	土器	青磁器	小碗か盤	～13世紀後半	-	(5.1)	(1.45)	龍泉窯Ⅲ類
0262		11Aa	3781	454SXい	0752	土器	青磁器	碗	12世紀後半～13世紀初	-	5.0	(2.3)	同安窯 櫛目文

遺物観察表６

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期	法量（cm）（ ）内は復元値・残存値			備考
									型式	口径	底径	器高	
0263		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(7.0)	(5.0)	0.9	
0264		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(7.6)	(5.4)	0.9	
0265		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(7.8)	-	1.2	胎土：細かい金雲母を含む
0266		11Aa	3881	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(7.8)	-	1.0	胎土：細かい金雲母を含む
0267		11Aa	3881	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	0.9	胎土：細かい金雲母を含む
0268		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(7.7)	-	(1.3)	
0269		11Aa	3881	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(8.1)	-	1.2	
0270		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	1.2	型押しによる稜線明瞭
0271		11Aa	3881	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(7.8)	-	1.3	胎土：細かい金雲母を含む
0272		11Aa	3881	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(7.8)	-	1.0	胎土：細かい金雲母を含む
0273		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(8.2)	-	1.4	
0274		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(7.6)	-	1.3	
0275		11Aa	3881	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	1.5	胎土：細かい金雲母を含む 型押しによる稜線明瞭
0276		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(7.8)	-	1.5	型押しによる稜線明瞭
0277		11Aa	3781	454SXう	0745	土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	1.4	型押しによる稜線明瞭
0278		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(7.8)	-	1.7	胎土：細かい金雲母を含む 型押しによる稜線明瞭
0279	○	11Aa	3780	454SXう	0734・0735	土器	土師器	皿	中世	8.0	-	1.7	
0280		11Aa	3781	454SXう	0537	土器	土師器	皿	中世	(8.5)	-	1.6	
0281		11Aa	3781	454SXう	0437	土器	土師器	皿	中世	(9.1)	-	1.3	型押しによる稜線明瞭
0282		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(8.6)	-	1.1	胎土：細かい金雲母を含む
0283		11Aa	3781	454SXう	0538	土器	土師器	皿	中世	(8.9)	-	1.3	
0284		11Aa	3881	454SXう		土器	土師器	皿	中世	10.0	-	2.0	
0285		11Aa	3881	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(11.3)	-	2.2	型押し痕あり
0286		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(14.5)	(11.8)	2.2	
0287		11Aa	3781	454SXう	0751	土器	土師器	皿	中世	(13.6)	(10.3)	2.2	型押し痕あり
0288		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(13.6)	(10.6)	2.5	型押し痕あり
0289		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	皿	中世	(15.9)	-	2.1	
0290		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(23.6)	-	(2.9)	
0291		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(29.6)	-	(3.4)	
0292		11Aa	3881	454SXう	0769	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(30.4)	-	(6.1)	胎土：1mmの砂粒多く含む
0293		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(2.1)	
0294		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.7)	
0295		11Aa	3881	454SXう		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.6)	
0296		11Aa	3881	454SXう		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.8)	
0297		11Aa	3881	454SXう		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.7)	
0298		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.4)	
0299		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.3)	
0300		11Aa	3781・3680	454SXう	0196	土器	山茶碗	小皿	渥美2b	8.0	3.0	2.1	
0301		11Aa	3780	454SXう	0441	土器	山茶碗	小皿	尾張7	7.7	4.6	1.9	
0302		11Aa	3780	454SXう	0445	土器	山茶碗	小皿	尾張6	7.9	5.4	1.4	
0303		11Aa	3781	454SXう	0462	土器	山茶碗	小皿	尾張6	7.8	4.4	1.9	
0304		11Aa	3781	454SX		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.0)	(4.6)	1.7	内・外面：摩耗
0305		11Aa	3780・3781	454SXう	0726	土器	山茶碗	小皿	渥美2b	8.3	4.6	1.8	
0306		11Aa	3780	454SXう	0727	土器	山茶碗	小皿	渥美3a	(8.6)	(6.0)	1.6	
0307		11Aa	3881	454SXう		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.6)	4.6	1.7	
0308		11Aa	3781	454SXう		土器	山茶碗	小皿	渥美2b	(8.7)	4.8	2.0	内外面ともに磨耗
0309		11Aa	3781	454SX		土器	山茶碗	小皿	尾張7	7.7	5.5	1.7	
0310		11Aa	3781	454SXう		土器	山茶碗	小皿	尾張7	(7.9)	(5.0)	1.6	
0311		11Aa	3881・3781	454SXう		土器	山茶碗	小皿	渥美2b	(8.0)	(5.0)	1.9	
0312		11Aa	3781・3680	454SXう・454SXえ	0209・0976	土器	山茶碗	小皿	渥美3b	8.3	6.4	1.8	左右対称に打ち欠き
0313		11Aa	3781	454SX		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.9)	(6.0)	1.8	
0314		11Aa	3781	454SXう		土器	山茶碗	小皿	渥美2	-	4.0	(1.1)	
0315		11Aa	3781	454SXう		土器	山茶碗	碗	渥美2	-	4.0	(1.1)	

遺物観察表７

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期 型式	法量（cm）（ ）内は復元値・残存値 口径	底径	器高	備考
0316		11Aa	3780	454SXう・454SXえ	0737・0797	土器	山茶碗	碗	渥美3a	15.9	7.4	5.1	
0317	○	11Aa	3780	454SXう	0738	土器	山茶碗	碗	渥美3b	16.4	6.9	5.1	
0318	○	11Aa	3781	454SXう	0739	土器	山茶碗	碗	渥美3a	16.0	7.0	5.7	高台底面：砂粒子痕あり
0319		11Aa	3781	454SXう	0741	土器	山茶碗	碗	渥美3a	16.0	15.4	5.4	
0320	○	11Aa	3781	454SXう		土器	山茶碗	碗	渥美3a	(17.1)	7.1	4.8	破面打ち欠き：A類
0321		11Aa	3781	454SXう		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	8.7	(1.5)	
0322	○	11Aa	3780	454SXう	0818	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.0	(1.9)	破面打ち欠き：D類
0323		11Aa	3780	454SXう	0859	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	(7.4)	(3.2)	
0324		11Aa	3780	454SXう	0732	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.0	(4.1)	内外面：磨耗
0325		11Aa	3780	454SXう	0748	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	7.4	(2.1)	
0326		11Aa	3780	454SXう	0725	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	6.7	2.4	
0327		11Aa	3780	454SXう	0744	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.9	(2.7)	
0328		11Aa	3780	454SXう	0766	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	6.8	2.1	
0329		11Aa	3781	454SXう	0438	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	6.3	(2.3)	
0330	○	11Aa	3780	454SXう	0743	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.0	(2.5)	破面打ち欠き：B類
0331		11Aa	3881	454SXう	0176	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.2	(2.8)	
0332		11Aa	3780	454SXう	0749	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.2	1.9	
0333		11Aa	3881	454SXう		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.0	(1.5)	内外面・破面：磨耗
0334	○	11Aa	3781	454SX		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.1	(3.7)	内・外面：摩耗 高台：砂粒子痕あり
0335	○	11Aa	3780	454SXう	0740	土器	山茶碗	碗	尾張6	-	6.2	(2.5)	破面打ち欠き：B類
0336		11Aa	3781	454SXう・454SXけ	0439・-	土器	青磁器	碗	13世紀	(18.0)	-	(3.6)	龍泉窯Ⅰ-5b類口縁輪花
0337		11Aa	3781	454SXう	0454	土器	青磁器	碗	13世紀	(16.0)	-	(2.8)	龍泉窯Ⅰ-5b類鏑蓮弁文
0338		11Aa	3781	454SXう	0435	土器	青磁器	碗	13世紀後半～14世紀初	-	(4.8)	(2.0)	龍泉窯Ⅲ類
0339		11Aa	3781	454SXう	0436	土器	青磁器	碗	12世紀後半	-	5.9	(1.2)	龍泉窯Ⅰ類
0340	○	11Aa	3780・3680・3881	454SXう・い・え・あ・ん	728・729	土器	陶器	片口碗(大)	渥美	(21.4)	(11.6)	13.2	取上番号730・990・939・947・364・226 胎土：1cm程の石粒含む 外面：鉄釉
0341	○	11Aa	3780・3781	454SXう・い・え	0230・0181	土器	陶器	壺	渥美2b	-	(11.0)	(15.6)	蓮弁文
0342		11Aa	3781	454SXう		土器	土師器	清郷型鍋	古代	-	-	(2.9)	
0343		11Aa	3780	454SXえ	0914	土器	土師器	Ⅲ	中世	(5.8)	-	1.1	
0344		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(6.0)	-	1.5	
0345		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(6.6)	-	1.3	
0346		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(6.7)	-	0.9	
0347		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(7.0)	-	1.2	胎土：細かい金雲母を含む
0348		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(8.0)	-	1.0	胎土：細かい金雲母を含む
0349		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(7.8)	-	1.1	
0350		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(7.8)	-	1.4	
0351		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(7.8)	-	(1.5)	
0352		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(7.4)	-	(1.0)	
0353		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(7.7)	(6.4)	(1.0)	
0354	○	11Aa	3780	454SXえ	0787	土器	土師器	Ⅲ	中世	7.9	-	1.8	型押しによる稜線明瞭
0355		11Aa	3780	454SX		土器	土師器	Ⅲ	中世	(8.0)	-	1.2	胎土：細かい金雲母を含む 型押し痕あり
0356		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(8.0)	-	1.0	胎土：細かい金雲母を含む
0357		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(7.9)	-	(1.1)	
0358		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(8.0)	-	1.3	胎土：細かい金雲母を含む
0359		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(7.8)	-	1.3	胎土：細かい金雲母を含む
0360		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(7.8)	-	1.4	
0361		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(8.2)	-	(1.2)	
0362		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(8.0)	-	1.3	
0363		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(8.1)	-	1.4	
0364		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(8.0)	-	(1.7)	
0365		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(8.0)	-	(2.0)	
0366		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(7.8)	-	(1.3)	
0367		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	Ⅲ	中世	(7.8)	-	1.7	

遺物観察表８

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期	法量（㎝）　（ ）内は復元値・残存値			備考
									型式	口径	底径	器高	
0368		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(8.2)	-	(1.5)	
0369		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(8.3)	-	(1.1)	
0370		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(8.4)	-	1.1	
0371		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(8.8)	-	1.3	
0372		11Aa	3781	454SX		土器	土師器	皿	中世	(8.6)	-	(1.3)	型押し痕あり
0373		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(8.6)	-	(1.3)	
0374		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(8.9)	-	1.4	
0375		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(8.9)	-	1.4	型押しによる稜線明瞭
0376		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(8.5)	-	1.4	型押しによる稜線明瞭
0377		11Aa	3781	454SX		土器	土師器	皿	中世	(8.8)	-	(1.7)	型押し痕あり
0378	○	11Aa	3780	454SX		土器	土師器	皿	中世	8.8	-	2.0	
0379		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(8.7)	-	(1.5)	
0380		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(8.9)	-	1.7	胎土：細かい金雲母を含む
0381		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(8.8)	-	1.2	
0382		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(9.0)	-	1.6	
0383		11Aa	3780	454SX		土器	土師器	皿	中世	9.0	-	1.9	型押し痕あり
0384		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(9.0)	-	1.8	型押しによる稜線明瞭
0385		11Aa	3780	454SXえ	0894	土器	土師器	皿	中世	(9.7)	-	1.5	
0386		11Aa	3780	454SXえ	0890	土器	土師器	皿	中世	(10.0)	-	2.0	焼成後穿孔３～4mm（孔は外面から穿孔） 型押し痕明瞭
0387		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(9.8)	-	2.2	胎土：細かい金雲母を含む　型押し痕あり
0388		11Aa	3680	454SXえ	0989	土器	土師器	皿	中世	(9.6)	-	2.0	
0389		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(11.0)	-	2.2	胎土：細かい金雲母を含む
0390		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(11.2)	-	2.1	型押しによる稜線明瞭
0391		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(11.1)	(8.8)	(2.2)	
0392		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(11.5)	(9.2)	(2.3)	
0393		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(11.6)	(9.6)	(2.3)	型押し痕あり
0394		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(12.2)	-	2.5	胎土：細かい金雲母を少量含む
0395		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(13.0)	-	2.0	胎土：細かい金雲母を含む　型押しによる稜線明瞭
0396		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(12.6)	(9.3)	(2.2)	型押しによる稜線明瞭
0397		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(13.0)	-	2.2	型押し痕あり
0398		11Aa	3881	454SXえ	0746	土器	土師器	皿	中世	(12.4)	(9.0)	2.8	型押し痕あり
0399		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(13.0)	-	2.5	胎土：細かい金雲母を含む
0400		11Aa	3780	454SX		土器	土師器	皿	中世	(13.2)	-	(2.2)	型押し痕明瞭
0401	○	11Aa	3780	454SXえ	0920	土器	土師器	皿	中世	13.3	-	2.3	型押痕あり
0402		11Aa	3780	454SXえ	0916	土器	土師器	皿	中世	(13.4)	-	2.2	胎土：細かい金雲母を含む
0403		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(14.0)	-	(2.2)	胎土：細かい金雲母を少量含む
0404		11Aa	3780	454SX	0807	土器	土師器	皿	中世	(13.6)	(10.2)	(2.9)	
0405		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(14.0)	-	(2.5)	胎土：細かい金雲母を含む
0406		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	皿	中世	(13.2)	-	(2.8)	
0407		11Aa	3780	454SX		土器	土師器	皿	中世	(14.6)	-	2.4	
0408		11Aa	3780	454SXえ	0924・0937	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(23.7)	-	(4.4)	
0409		11Aa	3780	454SXえ	0764	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(25.5)	-	(3.2)	
0410		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(27.6)	-	(1.5)	
0411		11Aa	3780・3680	454SXえ	0981	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(27.6)	-	(6.9)	
0412		11Aa	3780	454SXえ	0922・0937・0972	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(28.0)	-	(8.4)	
0413		11Aa	3780	454SXえ	0784	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(29.3)	-	(4.8)	
0414		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(29.6)	-	(3.5)	
0415		11Aa	3780	454SXえ	0911	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(24.0)	-	(4.0)	
0416		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(25.9)	-	(2.5)	
0417		11Aa	3780	454SXえ	0918・0921	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(24.0)	-	(3.0)	
0418		11Aa	3780	454SXえ・454SXい		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(21.0)	-	(2.0)	
0419		11Aa	3780	454SX		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(23.6)	-	(2.9)	
0420		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(24.0)	-	(1.9)	

遺物観察表９

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期 型式	法量（cm）（ ）内は復元値・残存値 口径	底径	器高	備考
0421		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(25.7)	-	(3.0)	
0422		11Aa	3780	454SX		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(25.7)	-	(1.3)	
0423		11Aa	3781	454SX		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(27.6)	-	(2.1)	
0424		11Aa	3680	454SXえ	0973	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(27.4)	-	(1.3)	
0425		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(28.6)	-	(2.0)	
0426	○	11Aa	3780	454SXえ・454SX	0231・0903・0919	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(28.0)	-	(6.7)	
0427		11Aa	3780	454SX		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(28.7)	-	(2.1)	
0428		11Aa	3780・3680	454SXえ	0958・0962・961	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(28.0)	-	(3.6)	
0429		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(5.2)	
0430		11Aa	3780	454SXえ	0899	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(2.5)	
0431		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(2.1)	
0432		11Aa	3780	454SXえ	0817	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.6)	
0433		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.1)	
0434		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(2.1)	
0435		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.3)	
0436		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.1)	
0437		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.0)	
0438		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(2.5)	
0439		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.5)	
0440		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.2)	
0441		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.5)	
0442		11Aa	3780	454SX		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.4)	
0443		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.1)	
0444		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.9)	
0445		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	くの字型 内耳鍋	中世	(21.2)	-	(2.5)	
0446		11Aa	3780	454SXえ		土器	土師器	羽釜or茶釜	中世	(15.8)	-	(3.5)	
0447	○	11Aa	3780	454SXえ	0786	土器	山茶碗	小碗	渥美3a	8.3	5.3	(2.0)	口縁部：一部研磨
0448		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.4)	(5.4)	2.3	
0449	○	11Aa	3680	454SXえ	0978	土器	山茶碗	小皿	尾張6	7.2	4.4	1.5	
0450	○	11Aa	3780	454SXえ	0228	土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.6)	5.3	1.7	
0451		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	渥美2b	(8.9)	(5.2)	1.7	内外面ともに磨耗
0452		11Aa	3780	454SXえ	0935	土器	山茶碗	小皿	渥美2a	7.6	4.6	1.8	
0453		11Aa	3781	454SX		土器	山茶碗	小皿	渥美3a	(8.0)	(3.6)	2.0	内・外面：摩耗
0454		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	渥美2a	(8.4)	(5.0)	2.2	
0455		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.7)	(5.0)	1.4	
0456		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.6)	(4.4)	1.7	
0457		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.4)	(5.2)	1.6	内外面ともに磨耗
0458		11Aa	3780	454SXえ・454SX	0926	土器	山茶碗	小皿	渥美2b	(8.4)	(4.7)	2.1	
0459		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	渥美3b	(8.3)	(5.8)	1.6	内外面・破面：磨耗
0460		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.6)	(6.0)	1.4	
0461		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	渥美2b	(9.0)	(5.2)	1.7	
0462		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	渥美3a	(8.8)	(6.3)	1.7	内外面ともに磨耗
0463		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.9)	(4.9)	1.4	
0464		11Aa	3780・3880	454SXえ・241SK		土器	山茶碗	小皿	渥美3b	(8.6)	5.0	1.1	内外面ともに磨耗
0465		11Aa	3780	454SX		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.0)	(5.0)	1.3	
0466		11Aa	3780	454SXえ	0233	土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.6)	(6.9)	1.7	
0467		11Aa	3780	454SXえ	0932	土器	山茶碗	小皿	渥美3b	(8.5)	5.0	1.4	
0468	○	11Aa	3680	454SXえ	0970	土器	山茶碗	小皿	渥美2b	8.6	4.6	2.1	
0469		11Aa	3680	454SXえ	0986	土器	山茶碗	小皿	渥美3a	(9.0)	(5.0)	1.8	
0470		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	尾張7	(7.8)	(5.0)	1.5	
0471		11Aa	3781	454SX		土器	山茶碗	小皿	尾張6	7.3	5.4	1.8	全面摩耗
0472	○	11Aa	3780	454SXえ	0900	土器	山茶碗	小皿	尾張7	7.6	5.4	1.6	
0473	○	11Aa	3680	454SXえ	0968	土器	山茶碗	小皿	尾張6	7.8	5.6	1.7	

遺物観察表10

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期	法量（cm）（ ）内は復元値・残存値			備考
									型式	口径	底径	器高	
0474		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.8)	(5.4)	1.5	
0475		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.0)	(4.6)	1.5	内外面ともに磨耗
0476	○	11Aa	3780	454SXえ	0574	土器	山茶碗	小皿	尾張7	7.9	5.9	1.7	
0477		11Aa	3780	454SXえ	0803	土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.8)	(5.0)	1.7	
0478		11Aa	3780	454SXえ	0938	土器	山茶碗	小皿	渥美3a	8.2	5.0	2.0	
0479		11Aa	3780	454SXえ	0224	土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.0)	5.6	1.6	
0480		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.8)	(5.0)	1.5	内・外面：やや摩耗
0481		11Aa	3781	454SX		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.8)	(4.4)	1.6	内・外面：摩耗
0482		11Aa	3780	454SX		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.4)	(4.6)	1.6	内・外面：摩耗　底部：糸切りが体部まである
0483	○	11Aa	3780	454SXえ	0785	土器	山茶碗	小皿	渥美3a	8.7	5.0	2.0	
0484		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿？	渥美2	-	4.0	(1.0)	
0485		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	渥美3	-	4.4	(1.4)	
0486		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿？	渥美2	-	(3.7)	(1.0)	
0487		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	渥美2	-	4.2	1.0	
0488		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	渥美2	-	(4.0)	0.8	
0489		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	小皿	渥美2	-	3.6	(0.9)	
0490		11Aa	3780	454SXえ	1000	土器	山茶碗	碗	渥美3	(15.0)	(7.5)	5.6	
0491		11Aa	3680	454SXえ	0984	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(15.7)	(7.5)	5.6	
0492	○	11Aa	3680	454SXえ	0967	土器	山茶碗	碗	渥美3a	15.8	7.5	5.3	口縁部：ヒビ割れ　焼成時？
0493		11Aa	3780	454SXえ	0867	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(16.0)	7.2	5.1	
0494		11Aa	3780	454SXえ	0904	土器	山茶碗	碗	渥美3a	16.5	8.5	4.8	
0495		11Aa	3780	454SXえ	0874	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(15.6)	7.0	5.0	
0496	○	11Aa	3780	454SXえ	0901・0902	土器	山茶碗	碗	尾張6	(14.1)	(6.7)	5.2	破面打ち欠き：C類
0497	○	11Aa	3680	454SXえ	0987	土器	山茶碗	碗	渥美3b	(15.6)	(7.5)	6.0	破面打ち欠き：C類
0498	○	11Aa	3780	454SXえ	0593・0594	土器	山茶碗	碗	尾張6	15.0	7.8	5.5	破面打ち欠き：A類
0499	○	11Aa	3780	454SXえ	0794	土器	山茶碗	碗	尾張6新	15.0	6.4	5.7	
0500		11Aa	3780	454SXえ	0553	土器	山茶碗	碗	尾張6	(15.6)	6.8	4.8	
0501		11Aa	3780	454SXえ	0813・0891・0898	土器	山茶碗	碗	尾張6	15.0	8.0	4.9	
0502		11Aa	3780	454SXえ	0870	土器	山茶碗	碗	尾張6	(15.8)	7.2	4.7	
0503		11Aa	3780	454SXえ	0229	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(16.7)	(7.4)	5.1	
0504		11Aa	3780	454SXえ	0232	土器	山茶碗	碗	尾張6	(15.8)	6.9	4.5	
0505		11Aa	3780	454SXえ	0917・0929	土器	山茶碗	碗	渥美3b	16.3	7.1	5.1	
0506	○	11Aa	3680	454SXえ	0969	土器	山茶碗	碗	渥美3b	16.1	7.0	5.1	外面：補修痕あり
0507	○	11Aa	3780	454SXえ	0921	土器	山茶碗	碗	渥美3b	16.4	8.1	4.8	破面打ち欠き：C類
0508		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	碗	尾張6	(15.0)	(5.5)	4.8	
0509		11Aa	3780	454SXえ	0452	土器	山茶碗	碗	尾張6	(13.5)	(5.4)	5.0	
0510		11Aa	3780	454SXえ	0997	土器	山茶碗	碗	渥美1b	-	8.7	3.3	高台：砂粒子痕あり
0511		11Aa	3780	454SXえ	1004	土器	山茶碗	碗	渥美1b	-	7.8	(3.5)	高台：砂粒子痕あり
0512		11Aa	3680	454SXえ	0994	土器	山茶碗	碗	渥美1a	-	8.0	(2.9)	高台：胎土異なる
0513		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	碗	渥美3 併行	-	(7.8)	(3.0)	
0514		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.2	(2.0)	内・外面：摩耗
0515		11Aa	3780	454SXえ	0593	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.3	(2.6)	高台：砂粒子痕あり
0516		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	(7.4)	(1.7)	内・外面：摩耗
0517		11Aa	3780	454SXえ	0875	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.6	(3.0)	
0518		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.1	(1.2)	
0519		11Aa	3780	454SXえ		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	(6.8)	(2.1)	
0520		11Aa	3780	454SXえ	0543	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.0	(3.0)	
0521		11Aa	3680	454SXえ	0980	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.6	(1.8)	
0522		11Aa	3780	454SXえ	0936	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.1	(3.2)	
0523		11Aa	3680	454SXえ	0985	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	7.7	(2.1)	高台：砂粒子痕あり
0524		11Aa	3871	454SXえ	4040	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	8.0	3.5	
0525		11Aa	3780	454SXえ	0871	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.8	(2.6)	
0526		11Aa	3780	454SXえ	0896	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.0	(3.1)	高台：砂粒子痕あり

遺物観察表11

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期 型式	法量（cm） （ ）内は復元値・残存値 口径	底径	器高	備考
0527		11Aa	3680	454SXえ	0966	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.2	3.5	
0528		11Aa	3780	454SXえ	0884・0915	土器	山茶碗	碗	尾張6	-	6.8	(4.0)	
0529		11Aa	3780	454SXえ	0869	土器	山茶碗	碗	渥美2b	-	8.0	(2.2)	
0530		11Aa	3780	454SXえ	0906	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.4	(3.3)	
0531		11Aa	3780	454SXえ	0866	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.5	(3.2)	
0532	○	11Aa	3780	454SXえ	0913	土器	山茶碗	碗	尾張6	-	7.2	(2.9)	破面打ち欠き：B類
0533		11Aa	3780・3781・3881	454SXえ・か・ん		土器	陶器	片口鉢	常滑5	(19.9)	-	(9.05)	
0534	○	11Aa	3780・3881	454SXえ・454SXん	0876	土器	山茶碗	鉢	渥美2b	(29.8)	(12.4)	11.6	
0535		11Aa	3780	454SXえ・454SX	0781	土器	須恵器	鉢	渥美2b	(30.5)	(11.7)	(12.7)	底部：砂粒子痕あり
0536		11Aa	3780	454SXえ	0225	土器	青磁器	碗	12世紀後半	(15.2)	-	(4.0)	龍泉窯Ⅰ類劃花文
0537		11Aa	3780	454SXえ	0790	土器	陶器	小型壺	渥美2aかb	-	(10.1)	(8.8)	
0538		11Aa	3780	454SXえ	0895	土器	須恵器	甕	古代	-	(26.0)	(8.4)	
0539		11Aa	3780	454SXお	0590	土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	1.2	型押しによる稜線明瞭
0540		11Aa	3780	454SXお		土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	1.2	胎土：細かい金雲母を含む
0541		11Aa	3780	454SXお		土器	土師器	皿	中世	(8.2)	-	1.3	胎土：細かい金雲母を含む
0542		11Aa	3780	454SXお		土器	土師器	皿	中世	(8.6)	-	1.3	胎土：細かい金雲母を含む
0543		11Aa	3780	454SXお		土器	土師器	皿	中世	(9.0)	-	1.2	胎土：細かい金雲母を含む
0544		11Aa	3780	454SX		土器	土師器	皿	中世	(11.0)	(6.8)	(2.1)	
0545		11Aa	3780	454SX		土器	土師器	皿	中世	(12.2)	-	(2.8)	
0546		11Aa	3780	454SXお		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.5)	
0547		11Aa	3780	454SXお	0208	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(18.8)	-	(6.1)	
0548	○	11Aa	3780	454SXお	0222	土器	山茶碗	小皿	尾張6	7.8	5.2	1.8	
0549		11Aa	3780	454SXお	0223	土器	山茶碗	小皿	尾張6	7.8	5.0	1.9	
0550		11Aa	3780	454SXお	0430	土器	山茶碗	小皿	渥美3a	(9.1)	4.4	2.2	
0551	○	11Aa	3780	454SXお	0413	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(15.9)	7.4	5.3	高台：砂粒子痕あり
0552		11Aa	3780	454SX	-	土器	白磁器	碗か皿	13世紀後半？～14世紀初	-	(7.4)	(0.5)	福建省
0553	○	11Aa	3780	454SXお	0555	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	7.7	(2.2)	破面打ち欠き：A類
0554		11Aa	3780	454SXお	0556	土器	山茶碗	碗	渥美2b	-	7.3	(2.3)	高台：砂粒子痕あり
0555		11Aa	3780・3781・3687	454SXお・か・こ	0392・0131	土器	古瀬戸	四耳壺	渥美2b	(8.6)	-	(5.6)	耳の剥離痕あり
0556		11Aa	3780	454SXお	0201	土器	古瀬戸	天目茶碗	古瀬戸後期Ⅳ新	(12.0)	-	(5.7)	
0557		11Aa	3780	454SXお	0559	土器	土師器	清郷型鍋	古代	-	-	(3.3)	
0558		11Aa	3780	454SXお	-	土器	須恵器	甕	8世紀後半	(36.9)	-	(2.3)	
0559		11Aa	3781	454SXか		土器	土師器	皿	中世	(8.8)	-	1.1	
0560		11Aa	3781	454SXか		土器	土師器	皿	中世	(8.4)	-	1.5	胎土：細かい金雲母を含む
0561		11Aa	3780	454SXか		土器	土師器	皿	中世	(10.7)	-	(2.1)	型押し痕あり
0562		11Aa	3781	454SXか		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(23.7)	-	(0.7)	
0563		11Aa	3781	454SXか		土器	山茶碗	小皿	渥美2	-	4.0	(1.0)	
0564		11Aa	3782・3681	454SXか・454SXく	0944・0946・0949	土器	山茶碗	碗	渥美2b	-	(7.5)	(3.4)	
0565		11Aa	3781	454SXか	0379	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(16.8)	(7.7)	6.0	
0566		11Aa	3781	454SXか		土器	山茶碗	碗	尾張6	(14.4)	(6.0)	(4.5)	高台：剥離
0567		11Aa	3781	454SXか	0944	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.1	(2.2)	
0568		11Aa	3781	454SXか	0442	土器	山茶碗	小皿	渥美2b	-	4.3	(1.7)	
0569	○	11Aa	3781	454SXか	0187	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.9	(2.7)	破面打ち欠き：B類
0570	○	11Aa	3781	454SXか	0375	土器	山茶碗	碗	渥美2b	-	7.7	(3.3)	破面打ち欠き：B類
0571		11Aa	3781	454SXか	0948	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	8.6	(3.2)	
0572		11Aa	3782・3881	454SX		土器	弥生土器	甕	弥生中期	-	-	(3.8)	
0573		11Aa	3781	454SXき		土器	土師器	皿	中世	(8.3)	-	1.1	
0574		11Aa	3781	454SXき		土器	土師器	皿	中世	(7.6)	-	(1.4)	
0575		11Aa	3781	454SXき		土器	土師器	皿	中世	(7.6)	-	1.2	
0576		11Aa	3781	454SXき		土器	土師器	皿	中世	(8.4)	-	(1.4)	
0577		11Aa	3781	454SXき		土器	土師器	皿	中世	(7.1)	-	1.1	
0578		11Aa	3781	454SX		土器	土師器	皿	中世	(13.8)	-	(1.9)	

遺物観察表12

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期	法量（cm）（ ）内は復元値・残存値			備考
									型式	口径	底径	器高	
0579		11Aa	3781	454SXき		土器	土師器?	碗	中世？	-	(7.0)	(1.7)	破面：摩耗
0580		11Aa	3781	454SXき		土器	山茶碗	碗	渥美2a	-	8.0	(1.8)	内・外面：摩耗
0581		11Aa	3781	454SXき		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.2	(2.3)	
0582		11Aa	3781	454SXき	0198	土器	白磁器	高台付皿	13世紀中～14世紀初	(10.3)	(4.2)	2.75	福建省Ⅸ類
0583		11Aa	3781	454SXく		土器	土師器	皿	中世	(7.9)	-	(1.5)	型押しによる稜線明瞭
0584		11Aa	3781	454SXく		土器	土師器	皿	中世	(7.8)	-	1.2	
0585		11Aa	3681	454SXく		土器	土師器	皿	中世	(7.7)	-	1.3	
0586		11Aa	3681	454SXく		土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	1.4	
0587		11Aa	3781	454SX		土器	土師器	皿	中世	(7.2)	-	1.2	胎土：細かい金雲母を含む　型押しによる稜線明瞭
0588		11Aa	3781	454SXく		土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	(1.0)	
0589		11Aa	3781	454SXく		土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	1.8	胎土：細かい金雲母を含む
0590		11Aa	3781	454SX	0082	土器	土師器	皿	中世	(9.0)	-	1.9	胎土：細かい金雲母を少量含む
0591		11Aa	3780	454SX		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(27.5)	-	(2.3)	
0592	○	11Aa	3781	454SXく	0715	土器	山茶碗	小皿	渥美3b	(8.4)	6.0	1.5	
0593		11Aa	3781	454SXく		土器	山茶碗	小碗	渥美1b	-	4.3	(1.6)	
0594		11Aa	3781	454SX		土器	土師器	皿	中世	(10.0)	-	1.2	
0595		11Aa	3781	454SXけ		土器	土師器	皿	中世	(7.8)	(8.7)	1.3	
0596		11Aa	3781	454SXけ		土器	土師器	皿	中世	(11.4)	-	(2.9)	
0597		11Aa	3781	454SXけ		土器	土師器	皿	中世	(13.6)	(10.2)	(2.5)	型押し痕明瞭
0598		11Aa	3781	454SXけ		土器	山茶碗	小碗	渥美1b	-	(4.3)	(1.3)	
0599	○	11Aa	3680	454SXけ	0384	土器	灰釉陶器	碗	渥美1b	(16.8)	7.8	5.7	高台：胎土異なる　2.5Y5/1黄灰色
0600		11Aa	3680	454SXけ	0382	土器	山茶碗	碗	尾張6	(15.4)	(7.3)	4.7	
0601		11Aa	3681	454SXこ		土器	土師器	皿	中世	(7.8)	-	1.4	
0602		11Aa	3681	454SX		土器	土師器	皿	中世	(9.0)	-	1.4	
0603		11Aa	3680	454SXこ		土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	1.1	
0604		11Aa	3680	454SXこ		土器	土師器	皿	中世	(8.8)	-	(1.3)	
0605		11Aa	3881	454SX		土器	土師器	皿	中世	(7.9)	-	1.0	
0606		11Aa	3681	454SX		土器	土師器	皿	中世	(13.6)	-	(2.3)	
0607		11Aa	3680	454SXこ		土器	土師器	皿	中世	(13.6)	-	(2.1)	
0608		11Aa	3681	454SX		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.7)	
0609		11Aa	3780	454SXこ		土器	山茶碗	小皿	尾張7	(7.4)	(5.6)	1.3	
0610		11Aa	3681	454SXこ		土器	山茶碗	小皿	尾張6	7.9	5.7	1.6	
0611		11Aa	3680	454SXこ		土器	山茶碗	小皿	渥美2b	-	4.0	(1.4)	
0612		11Aa	3681	454SX		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.4	(2.1)	高台：砂粒子痕あり
0613		11Aa	3680	454SXこ	0466	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.9	(2.2)	高台：砂粒子痕
0614		11Aa	3780	454SXこ		土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	(8.0)	(2.5)	
0615		11Aa	3881	454SX	0121	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.9	(2.1)	破面：打ち欠き　D類
0616		11Aa	3680	454SXこ	0573	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.6	(2.0)	
0617		11Aa	3681	454SXこ		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.1	(1.8)	内・外面：摩耗　破面：打ち欠き
0618		11Aa	3680	454SXこ	0591	土器	山茶碗	碗	渥美2b	-	7.9	(2.7)	
0619		11Aa	3680	454SXこ		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	(7.6)	(1.6)	高台：砂粒子痕あり　破面：打ち欠き
0620		11Aa	3681	454SXこ	0431	土器	白磁器	碗	12世紀～13世紀	(13.0)	-	(1.5)	福建省
0621		11Aa	3681	454SXこ	0445	土器	青磁器	碗	13世紀	(16.0)	-	(2.8)	龍泉窯Ⅰ-5b類鏑蓮弁文
0622		11Aa	3780・3680	454SXえ・454SXこ	0463・0465	土器	青磁器	碗	12世紀末～13世紀初	-	(5.0)	(4.7)	同安窯
0623		11Aa	3681	454SXし		土器	土師器	皿	中世	(7.9)	-	(1.1)	
0624		11Aa	3681	454SXし		土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	1.3	胎土：細かい金雲母を含む
0625		11Aa	3681	454SXし		土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	1.2	胎土：細かい金雲母を含む　型押し痕あり
0626		11Aa	3681	454SXし		土器	土師器	皿	中世	(9.0)	-	1.2	
0627		11Aa	3681	454SXし	0388	土器	灰釉陶器	深碗	折戸53	-	7.1	(2.0)	破面：打ち欠き
0628		11Aa	3681	454SXし	0780	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	6.8	(2.4)	高台：砂粒子痕
0629	○	11Aa	3681	454SXし	0355	土器	山茶碗	碗	渥美3b	13.6	6.8	4.8	高台：砂粒子痕　粘土の継ぎ目残る 破面打ち欠き：C類
0630	○	11Aa	3681	454SXし	0220	土器	山茶碗	碗	渥美3b	14.4	7.6	4.3	粘土の継ぎ目残る　破面打ち欠き：C類
0631		11Aa	3681	454SXし	0354	土器	青磁器	碗	13世紀	(14.0)	-	(6.1)	龍泉窯Ⅰ-5b類鏑蓮弁文

遺物観察表13

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期 型式	法量（cm）（ ）内は復元値・残存値 口径	底径	器高	備考
0632		11Aa	3681	454SXす		土器	土師器	皿	中世	(7.0)	-	1.1	
0633		11Aa	3681	454SXす		土器	土師器	皿	中世	(7.8)	-	1.1	胎土：細かい金雲母を含む
0634		11Aa	3681	454SXす		土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	1.2	胎土：細かい金雲母を含む
0635		11Aa	3681	454SXす		土器	土師器	皿	中世	(9.0)	-	1.4	
0636		11Aa	3681	454SXす	0179	土器	土師器	皿	中世	-	-	(2.5)	口縁部：破面を擦る？
0637		11Aa	3681	454SXす		土器	山茶碗	小皿	渥美2b	(8.8)	4.3	1.9	
0638		11Aa	3681	454SXす	0391・0393	土器	山茶碗	小皿	渥美2b	8.7	4.8	2.2	
0639		11Aa	3681	454SXす		土器	山茶碗	小皿	渥美2a	-	3.6	(0.8)	内外面：磨耗
0640		11Aa	3681	454SXす	0999	土器	灰釉陶器	碗A	折戸53以降	-	7.2	(3.0)	
0641		11Aa	3681	454SXす	0394	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.5	(2.4)	
0642	○	11Aa	3681	454SXす	0389	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.6	(2.1)	高台：砂粒子痕あり　破面打ち欠き：D類
0643		11Aa	3681	454SXす	0387	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.5	(2.3)	
0644		11Aa	3681	454SXす	0952	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.2	(1.8)	
0645		11Aa	3681	454SXす		土器	弥生土器	壷	弥生前期	-	-	(2.3)	
0646		11Aa	3681	454SXす	0398	土器	青磁器	碗	12世紀後半	-	5.4	(0.9)	龍泉窯Ⅰ類
0647		11Aa	3881	454SXわ		土器	土師器	皿	中世	(7.8)	-	1.0	
0648		11Aa	3782・3881	454SX		土器	土師器	皿	中世	(12.2)	-	(2.1)	胎土：微量の金雲母を含む
0649		11Aa	3881	454SXわ		土器	土師器	皿	中世	(13.8)	-	(1.8)	
0650		11Aa	3881	454SXわ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(27.6)	-	(2.3)	
0651		11Aa	3881	454SXわ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.8)	
0652		11Aa	3881	454SXわ	0416	土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(2.7)	
0653		11Aa	3881	454SXわ		土器	山茶碗	小皿	尾張7	8.0	5.7	1.6	
0654		11Aa	3881	454SXわ	0211	土器	山茶碗	小皿	渥美2a	8.6	4.1	1.9	
0655		11Aa	3881	454SXわ	0417	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(15.9)	7.6	(5.4)	
0656		11Aa	3881	454SXわ	0609	土器	山茶碗	碗	渥美2b	16.2	7.0	5.1	全体に摩耗
0657		11Aa	3881	454SXわ		土器	山茶碗	碗	尾張6	(14.2)	(7.4)	5.4	
0658	○	11Aa	3881	454SXわ	0414	土器	山茶碗	碗	渥美2b	-	7.0	(5.0)	高台：細かい砂粒子痕あり　破面打ち欠き：A類
0659		11Aa	3881	454SXわ	0601・0603・0604	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(16.8)	7.6	5.4	高台：砂粒子痕あり
0660		11Aa	3881	454SXせ	0490・0491	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(16.0)	(6.8)	5.4	
0661	○	11Aa	3881	454SXわ	0606	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.4	(3.8)	破面打ち欠き：A類
0662		11Aa	3881	454SXわ		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	(7.2)	(2.0)	内・外面・破面：摩耗
0663		11Aa	3881	454SXわ	1005	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.3	(1.6)	
0664	○	11Aa	3881	454SXわ	0602	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.4	(1.7)	破面打ち欠き：D類
0665		11Aa	3881	454SXわ	0831	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.3	(2.2)	高台：砂粒子痕あり
0666		11Aa	3881	454SXわ	0600	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	8.0	(2.5)	
0667		11Aa	3882	454SXわ	0833	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	6.9	(2.2)	
0668		11Aa	3881	454SXわ	0608	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.4	(2.8)	
0669	○	11Aa	3881	454SXわ	1006	土器	灰釉陶器	獣脚盤	黒笹14か黒笹90	-	(12.6)	(5.1)	
0670		11Aa	3781	454SXせ		土器	土師器	皿	中世	(7.8)	-	(1.0)	
0671		11Aa	3781	454SXせ		土器	土師器	皿	中世	(10.0)	-	(1.6)	
0672	○	11Aa	3881	454SX	0102	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(16.6)	8.1	5.5	破面打ち欠き：C類
0673		11Aa	3881	454SXわ・454SXあ	0998	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(16.0)	7.4	5.0	高台：砂粒子痕あり
0674		11Aa	3881	454SXせ	0835	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.7	(2.7)	高台：砂粒子痕あり
0675		11Aa	3881	454SXせ	0832	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	7.2	(2.4)	
0676	○	11Aa	3881	454SXを	0169	土器	山茶碗	碗	尾張6	8.0	4.6	2.0	
0677		11Aa	3881	454SXん	0626	土器	土師器	皿	中世	(14.4)	-	(2.3)	
0678		11Aa	3881	454SXん	0194	土器	土師器	皿	中世	(13.2)	-	2.1	胎土：微量の金雲母を含む　型押しによる稜線明瞭
0679		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(13.0)	-	(2.0)	胎土：細かい金雲母を含む
0680		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(14.2)	-	(2.4)	
0681		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(12.6)	-	(2.1)	胎土：微量の金雲母を含む　型押し痕あり
0682		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(11.3)	-	(2.4)	胎土：微量の金雲母を含む
0683		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(13.6)	-	(2.1)	胎土：微量の金雲母を含む　型押し痕明瞭
0684		11Aa	3881	454SXん	0343	土器	土師器	皿	中世	(11.6)	-	(2.5)	胎土：微量の金雲母を含む　型押しによる稜線明瞭

遺物観察表14

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期	法量（cm）　（ ）内は復元値・残存値			備考
									型式	口径	底径	器高	
0685		11Aa	3881	454SXん	-	土器	土師器	皿	中世	(9.8)	-	(2.3)	胎土：微量の金雲母を含む　型押しによる稜線明瞭
0686		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(11.0)	-	(1.7)	胎土：細かい金雲母を含む
0687		11Aa	3781	454SXん		土器	土師器	皿	中世	12.0	-	2.4	
0688		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(12.3)	-	(2.1)	型押し痕あり
0689		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(11.4)	-	2.2	型押し痕あり
0690		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(11.0)	-	1.9	型押し痕明瞭
0691		11Aa	3781	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(8.8)	-	(1.3)	
0692		11Aa	3781	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(7.4)	-	(1.1)	
0693		11Aa	3781	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(8.7)	-	(1.3)	型押しによる稜線明瞭
0694		11Aa	3781	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(8.9)	-	(1.1)	
0695		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(8.6)	-	(1.3)	
0696		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(7.0)	-	1.2	胎土：細かい金雲母を含む
0697		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(9.0)	-	1.2	胎土：細かい金雲母を含む　型押し痕あり
0698		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	1.1	胎土：細かい金雲母を含む
0699		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(7.2)	-	(1.1)	
0700		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(6.8)	-	1.2	
0701		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(7.4)	-	1.3	型押し痕あり
0702		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(7.0)	-	1.1	
0703		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(8.9)	-	1.5	
0704		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(9.0)	-	1.1	型押しによる稜線明瞭
0705		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(7.9)	-	(1.2)	
0706		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(7.8)	-	1.2	
0707		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	(1.1)	
0708		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(8.6)	-	1.3	胎土：細かい金雲母を含む　型押し痕あり
0709		11Aa	3781	454SXん		土器	土師器	皿	中世	(6.4)	-	1.3	
0710		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	皿	中世	-	-	(1.3)	
0711		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.2)	
0712		11Aa	3781	454SXん		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.3)	
0713		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(2.2)	
0714		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(2.4)	
0715		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(2.0)	
0716		11Aa	3881	454SXん		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	-	-	(1.8)	
0717		11Aa	3881	454SXん		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.0)	5.0	1.4	
0718		11Aa	3881	454SXん		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.6)	(5.8)	1.5	
0719	○	11Aa	3881	454SXん	0405・0407・0403	土器	山茶碗	碗	渥美3b	(15.2)	7.0	5.0	全体に磨耗　破面打ち欠き：C類
0720		11Aa	3881	454SXん	0627・0628	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(15.2)	7.6	5.3	高台：砂粒子痕あり
0721	○	11Aa	3881	454SXわ・454SXん	0411・0360	土器	山茶碗	碗	渥美3a	15.2	7.2	5.7	
0722		11Aa	3881	454SXん・454SXあ	0353・0654	土器	山茶碗	碗	渥美3b	(15.6)	(8.0)	4.8	
0723	○	11Aa	3881	454SXわ・454SXん	0607・0617	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(16.2)	7.5	5.3	
0724		11Aa	3881	454SXん	0189	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	7.8	(2.7)	高台：砂粒子痕あり
0725		11Aa	3881	454SXん	0197	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.8	(2.8)	高台：砂粒子痕あり
0726	○	11Aa	3881	454SXん	0349	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.3	(3.0)	破面打ち欠き：A類
0727	○	11Aa	3881	454SXん	0403	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	7.8	(1.8)	破面打ち欠き：D類
0728		11Aa	3881	454SXん	0613	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.4	(3.2)	高台：砂粒子痕あり
0729		11Aa	3881	454SXん	0615	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	6.3	(2.5)	
0730		11Aa	3881	454SXん	0616	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	6.8	(2.6)	
0731		11Aa	3881	454SXん	0618	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.7	(2.4)	
0732		11Aa	3881	454SXん	0619	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	8.2	(1.9)	高台：砂粒子痕あり
0733		11Aa	3881	454SXん	0620	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.6	(3.4)	
0734		11Aa	3881	454SXん	0623	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.8	(1.9)	高台：砂粒子痕あり
0735	○	11Aa	3881	454SXん	0624	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.8	(3.2)	破面打ち欠き：A類
0736		11Aa	3881	454SXん	0625	土器	山茶碗	碗	渥美2b	-	6.9	(3.7)	
0737		11Aa	3881	454SXん	0951	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.7	(2.3)	器面全体に磨耗

遺物観察表15

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期 型式	法量（cm） （ ）内は復元値・残存値 口径	底径	器高	備考
0738		11Aa	3881	454SXん	0954	土器	山茶碗	碗	渥美2b	-	7.0	(3.2)	高台：砂粒子痕あり
0739		11Aa	3881	454SXん		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.8	(3.3)	内・外面：摩耗
0740		11Aa	3881	454SXん		土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.5	(2.4)	内・外・破面：摩耗
0741		11Aa	3881	454SXん		土器	山茶碗	碗	尾張6	-	6.8	(1.6)	
0742		11Aa	3881	454SXわ・454SXん	0359・0408	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	7.0	(3.6)	高台：細かい砂粒子痕あり
0743		11Aa	3881	454SXん		土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	7.4	(2.5)	高台：砂粒子痕あり
0744		11Aa	3881	454SXん	0188	土器	陶器	鉢	渥美2b	-	(14.0)	(5.2)	
0745	○	11Aa	3981	455SX	0200	土器	土師器	皿	中世	11.0	-	2.4	
0746		11Aa	3782	TT7		土器	山茶碗	碗	渥美2a	(15.0)	7.2	4.8	
0747		11Aa	3778	462SP	0235	土器	山茶碗	碗	渥美2a	-	(7.0)	(2.3)	
0748		11Aa	4080	463SD	0275	土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(23.0)	-	(2.7)	
0749	○	11Aa	4080・4081	463SD	0272・0273・0227	土器	土師質土器	くの字型内耳鍋	中世	25.1	-	(12.1)	
0750		11Aa	4079	463SD	0260	土器	土師器	皿	中世	(9.8)	-	(2.2)	胎土：微量の金雲母含む　型押し痕あり
0751		11Aa	4081	463SD	0206	土器	土師器	皿	中世	(10.0)	-	(1.8)	胎土：微量の金雲母含む
0752		11Aa	4080	463SD	0276	土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(25.1)	-	(4.5)	
0753		11Aa	4079	463SD		土器	土師器	清郷型鍋	古代	-	-	(2.7)	
0754		11Aa	4079	463SD	0271	土器	灰釉陶器	碗	黒笹90	-	6.2	(1.8)	
0755		11Aa	4080	463SD	0248	土器	山茶碗	碗	渥美2b	-	7.4	(1.9)	
0756	○	11Aa	4080	463SD	0259	土器	弥生土器	甕	弥生中期後葉	-	6.6	(5.3)	
0757		11Aa	4180	465SD	0300	土器	土師器	皿	中世	(12.0)	-	2.4	胎土：金雲母含む
0758	○	11Aa	4180	465SD	0295・0296・0305	土器	土師器	半球型内耳鍋	中世	(26.0)	-	14.7	
0759	○	11Aa	4180	465SD	298・299	土器	土師器	内彎型内耳鍋	中世	(39.9)	-	(15.6)	取上番号301・302・303・305
0760		11Aa	4180	465SD	0297	土器	土師器	羽釜	中世	-	-	(9.9)	
0761		11Aa	4180	478SD	0249	土器	土師器	半球型内耳鍋	中世	(29.2)	-	(10.8)	
0762		11Aa	4180	478SD	0252	土器	土師器	半球型内耳鍋	中世	(26.0)	-	(6.1)	
0763	○	11Aa	4180	478SD		土器	土師器	内彎型内耳鍋	中世	(25.0)	-	(13.9)	
0764		11Aa	4180	478SD	0254	土器	土師器	内彎型内耳鍋	中世	(27.5)	-	(8.1)	
0765		11Aa	3978・3981	480SD	0280・0281	土器	土師器	皿	中世	(11.4)	-	(2.4)	胎土：1mmの砂粒含む　微量の金雲母含む
0766		11Aa	3881	トレンチ		土器	須恵器	碗	鳴海32?	-	(6.3)	(2.9)	
0767		11Aa	4079	480SD		土器	土師器	清郷型鍋	古代	-	-	(3.6)	
0768		11Aa	3980	480SD	0247	土器	土製品	土錘	中世？	-	-	-	長さ：(3.3)最大径：1.1孔径：0.25～0.35
0769		11Aa	3978	482SD	0318	土器	須恵器	坏蓋	古代	最大径(20.2)	(19.9)	(2.4)	
0770		11Aa	3978	482SD	0307	土器	灰釉陶器	碗	折戸53以降	-	6.8	(1.6)	
0771		11Aa	3978	482SD	0308	土器	弥生土器	甕	弥生中期後葉	-	5.9	(3.0)	
0772		11Aa	3778	511SK	0503	土器	土師器	皿	中世	(7.8)	-	1.1	
0773		11Aa	3778	511SK	0506・0507・0509	土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	(1.3)	
0774		11Aa	3778	511SK	0512	土器	土師器	皿	中世	(8.8)	-	(1.5)	型押しによる稜線明瞭
0775	○	11Aa	3778	511SK	0541・0545・0580・0581	土器	土師器	皿	中世	7.8	-	1.3	
0776	○	11Aa	3778	511SK	0586	土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	1.5	型押しによる稜線明瞭
0777	○	11Aa	3778	511SK	0518・0584	土器	土師器	皿	中世	8.0	-	1.3	胎土：微量の金雲母含む
0778	○	11Aa	3778	511SK	0496	土器	土師器	皿	中世	12.2	-	2.6	胎土：金雲母含む
0779		11Aa	3778	511SK	0500	土器	土師器	皿	中世	(12.2)	-	2.5	
0780	○	11Aa	3778	511SK	0514	土器	土師器	皿	中世	(12.7)	-	2.6	底部：焼成後穿孔？　(孔径4mm)
0781	○	11Aa	3778	511SK	0534	土器	土師器	皿	中世	12.4	-	2.6	胎土：細かい金雲母含む　型押痕あり
0782		11Aa	3778	511SK	0510・0511・0572	土器	土師器	皿	中世	(12.0)	-	2.6	胎土：微量の金雲母含む　型押し痕明瞭
0783		11Aa	3778	511SK	0585	土器	土師器	皿	中世	(12.0)	(8.0)	2.3	胎土：微量の金雲母含む
0784	○	11Aa	3778	511SK	0493	土器	土師器	皿	中世	11.8	-	2.6	型押し痕あり　胎土：金雲母含む
0785	○	11Aa	3778	511SK	0495・0502	土器	土師器	皿	中世	12.7	-	2.4	型押しによる稜線明瞭
0786	○	11Aa	3778	511SK	0498	土器	土師器	皿	中世	(12.0)	-	2.5	胎土：微量の金雲母含む　型押痕残る
0787		11Aa	3778	511SK	0495・0501	土器	土師器	皿	中世	(12.4)	-	2.0	型押し痕残る
0788	○	11Aa	3778	511SK	0515	土器	土師器	皿	中世	11.8	7.4	2.4	胎土：細かい金雲母含む　型押痕あり
0789		11Aa	3778	511SK		土器	土師器	皿	中世	(13.2)	-	(2.2)	型押し痕あり

遺物観察表16

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期	法量（cm）（ ）内は復元値・残存値			備考
									型式	口径	底径	器高	
0790		11Aa	3778	511SK	0582・0583	土器	土師器	皿	中世	(12.0)	-	(2.3)	胎土：微量の金雲母含む　型押し痕明瞭
0791	○	11Aa	3778	511SK	0500・0492	土器	土師器	皿	中世	(12.0)	-	3.1	胎土：金雲母含む　型押し痕あり
0792	○	11Aa	3778	511SK	0494・0545	土器	土師器	皿	中世	11.9	-	2.4	型押し痕あり
0793	○	11Aa	3778	511SK	0495	土器	土師器	皿	中世	11.8	-	2.8	型押しによる稜線明瞭
0794	○	11Aa	3778	511SK	0499	土器	土師器	皿	中世	12.6	-	2.5	胎土：金雲母含む　型押しによる稜線明瞭
0795	○	11Aa	3778	511SK	0504・0505・0506・0542	土器	土師器	皿	中世	12.6	-	2.6	型押しによる稜線明瞭
0796	○	11Aa	3778	511SK	0517・0519・0520	土器	土師器	皿	中世	12.4	-	2.7	胎土：細かい金雲母含む　型押痕明瞭
0797	○	11Aa	3778	511SK	0569	土器	山茶碗	小皿	尾張6	8.1	5.8	1.5	
0798		11Aa	3778	511SK	0567	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	(6.2)	(1.4)	
0799		11Aa	3778	511SK	0568	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	(7.5)	1.6	
0800		11Aa	3778	511SK	0516	土器	中世陶器	片口碗	渥美2a	(14.0)	-	(6.6)	
0801		11Aa	3778	511SK	0508	土器	須恵器	長頸瓶	古代	-	-	(4.6)	
0802		11Aa	3881	515SK		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.2)	4.8	1.9	
0803		11Aa	3881	520SK		土器	山茶碗	小皿	渥美3bかc	-	-	(1.0)	
0804		11Aa	4081	Aトレンチ		土器	土師器	皿	中世	(13.7)	(11.6)	2.2	
0805		11Aa	4080	Aトレンチ	0279	土器	土師器	半球型内耳鍋	中世	(27.8)	-	(7.0)	
0806		11Aa	3579	Bトレンチ	0340	土器	須恵器	碗	古代	-	(7.0)	(2.4)	
0807		11Aa	4080	トレンチ		土器	土師器	高杯	古墳前期?	-	-	(6.1)	
0808		11Aa	4079	Bトレンチ深堀り		土器	弥生土器	壷	弥生中期	-	8.6	(3.8)	
0809		11Aa	-	Bトレンチ	0323	土器	土師器	壷	古墳前期	-	-	(4.7)	頸部内径7.0cm
0810		11Aa	3579	Bトレンチ	0338	土器	土師器	壷	古墳前期	-	-	(4.8)	頸部内径5.4cm
0811		11Aa	3978	Cトレンチ		土器	須恵器	壺	古代	(14.4)	-	(7.2)	
0812		11Aa	3578	トレンチ3	0399	土器	土師器	皿	中世	8.0	-	1.5	
0813		11Aa	3780	検1		土器	山茶碗	小皿	尾張6	(7.6)	(5.0)	1.4	
0814		11Aa	3881	取消遺構	0080	土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.6)	5.0	1.7	
0815		11Aa	3881	取消遺構	0164	土器	山茶碗	小皿	渥美3b	(8.0)	(4.4)	1.7	
0816		11Aa	3576	検1	1069	土器	山茶碗	碗	渥美2b	(16.0)	-	(4.4)	
0817		11Aa	4080	検1	074	土器	山茶碗	碗	渥美2b	-	7.4	(4.0)	
0818		11Aa	3679	検1	0329	土器	古瀬戸	緑釉挟み皿	大窯1	(11.8)	5.0	2.8	
0819		11Aa	3679	検1	0330	土器	古瀬戸	梅瓶	古瀬戸後期III古かIV古	-	(8.0)	(5.3)	瓶子窯
0820		11Aa	3680	検1	0380	土器	陶器	天目茶碗	大窯4	(10.0)	-	(5.4)	
0821		11Aa	3678	検1		土器	陶器	古瀬戸 灰釉平碗	古瀬戸後期IV古	(14.6)	-	(4.7)	
0822		11Aa	3579	検1	0390	土器	陶器	志野白 天目茶碗	登窯3	(10.6)	-	(5.2)	17世紀前半
0823		11Aa	3679	検1		土器	土師器	皿	中世	(10.6)	-	(1.5)	胎土：微量の金雲母含む
0824		11Aa	3680	検1	0108	土器	土師器	皿	中世	(8.0)	-	1.3	
0825		11Aa	3782	検1		土器	土師器	皿	中世	(9.0)	-	1.9	
0826		11Aa	3679	検1	0341	土器	土師器	皿	中世	(10.0)	-	(2.2)	胎土：微量の金雲母含む
0827		11Aa	3781	検1	0190	土器	土師器	皿	中世	(13.0)	(9.2)	2.5	
0828		11Aa	3779	検1	0395	土器	土師器	皿	中世	(12.0)	-	3.2	胎土：微量の金雲母含む
0829		11Aa	3980	検1	0237	土器	青磁器	輪花碗	12世紀後半～13世紀初	(11.9)	-	(2.25)	龍泉窯口縁に五輪花
0830		11Aa	3681	検1	0166	土器	青磁器	-	13世紀後半	-	(5.0)	(3.1)	龍泉窯Ⅰ-5b類鎬蓮弁文印花あり
0831		11Aa	3878	検1		土器	灰釉陶器	広口瓶	尾張3	(22.6)	-	(4.2)	
0832		11Aa	3978	検1	0040	土器	土師器	清郷型鍋	古代	(23.0)	-	(4.9)	
0833		11Aa	4078	検1		土器	土師器	清郷型鍋	古代	(24.3)	-	(5.3)	
0834		11Aa	3879・3581	検1	0234	土器	灰釉陶器	長頸瓶	折戸10	-	7.4	(7.0)	
0835	○	11Aa	3781	検1		土器	緑釉陶器	手付瓶水注	古代	-	-	(3.8)	全体に緑釉かかる
0836	○	11Aa	3882	検1	0426	土器	弥生土器	甕	弥生	-	-	(7.0)	
0837		11Aa	4079	検1		土器	土師器	壷	古墳前期	-	(7.2)	(2.75)	
0838		11Aa	3471	検1		土器	弥生土器	深鉢	弥生中期	-	-	(5.4)	
0839		11Ab	3776	547SK	1269・1270	土器	土師器	皿	中世	(13.0)	(10.3)	(2.1)	
0840		11Ab	3776	547SK・547SX	1267	土器	陶器	天目茶碗	古瀬戸後期II	(12.3)	-	(5.5)	
0841		11Ab	3677・3475	578SK・660SP	1317・1319	土器	土師器	皿	中世	(11.3)	-	(1.8)	

遺物観察表17

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期 型式	法量（cm）　（ ）内は復元値・残存値 口径	底径	器高	備考
0842		11Ab	3677	581SK	1243	土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(22.0)	-	(5.7)	
0843		11Ab	3777	548SK	1194	土器	土師器	皿	中世	(13.3)	-	(1.8)	
0844	○	11Ab	3777	548SK	1196	土器	土師器	皿	中世	12.9	-	2.1	
0845	○	11Ab	3777	548SK		土器	土師器	皿	中世	(13.0)	-	2.0	胎土：細かい金雲母を微量含む
0846		11Ab	3677	602SK	1302	土器	山茶碗	碗	渥美2a	-	8.3	(2.1)	高台：砂粒子痕あり　破面：打ち欠き
0847		11Ab	3678	603SK	1301	土器	山茶碗	碗	渥美1a	-	(9.6)	(3.8)	
0848		11Ab	3675	606SK	1193	土器	山茶碗	碗	渥美2a	-	(7.6)	(2.4)	
0849		11Ab	3774	606SD		土器	土師器	内彎型内耳鍋	中世	(21.5)	-	(5.8)	
0850	○	11Ab	3776	608ST	1240	土器	山茶碗	小皿	尾張6	8.0	4.8	1.7	
0851	○	11Ab	3776	608ST	1241	土器	山茶碗	小皿	渥美2b	(8.0)	(4.7)	1.7	
0852	○	11Ab	3776	608ST	1239	土器	山茶碗	碗	尾張6	(15.0)	6.8	4.7	
0853		11Ab	3673	641SD		土器	土師器	甕	古墳前期？	(6.2)	7.2	(5.35)	
0854		11Ab	3673	641SD		土器	土師器	高杯	古墳前期	-	-	(6.45)	杯部はがれている
0855		11Ab	3674	641SD		土器	土師器	甕	古墳前期？	(16.0)	-	(2.7)	
0856		11Ab	3674	641SD		土器	弥生土器	壷	弥生中期	-	6.9	(4.2)	
0857		11Ab	3676・3775	612SK ・644SK	1234・1232・ 1305	土器	山茶碗	碗	東山72	-	7.3	(3.6)	
0858		11Ab	3475	659SP	1326	土器	土師器	皿	中世	(11.6)	-	(1.9)	
0859		11Ab	3476	661SP		土器	弥生土器	深鉢?	弥生前期	-	-	(2.4)	
0860	○	11Ab	3475	663SP	1318	土器	土師器	皿	中世	8.5	-	1.9	
0861		11Ab	3475	663SP		土器	土師器	皿	中世	(9.9)	-	1.7	
0862		11Ab	3475	663SP	1322	土器	土師器	皿	中世	(10.8)	-	(1.8)	
0863		11Ab	3475・3575	660SP・784SP ・816SX	1319・1331・ 1332・1333・1338	土器	山茶碗	碗	渥美3b	(15.4)	6.6	4.7	
0864		11Ab	3476	670SD		土器	弥生土器	深鉢?	弥生前期	-	-	(3.7)	
0865		11Ab	3575	697SP	1257	土器	土師器	皿	中世	(10.6)	-	(2.3)	
0866		11Ab	3574	749SK	1445	土器	山茶碗	碗	渥美3aかb	-	7.4	(2.4)	底部：砂粒子痕あり
0867		11Ab	3476	670SP	1320	土器	陶器	天目茶碗	古瀬戸後期Ⅳ古	(12.0)	-	(4.6)	
0868		11Ab	3575	698SK	1256	土器	青磁器	碗	15世紀前半	12.6	-	(3.95)	
0869		11Ab	3675	795SP	1323	土器	土師器	皿	中世	(11.2)	-	(1.6)	
0870		11Ab	3575	732SP	1330	土器	土師器	皿	中世	(13.6)	-	(2.7)	
0871		11Ab	3576	806SP	1258	土器	土師器	皿	中世	(10.0)	-	(2.0)	型押し痕あり
0872		11Ab	3576	806SP	1254	土器	土師器	皿	中世	(9.8)	-	(2.2)	
0873	○	11Ab	3776	816SX	1347	土器	土師器	皿	中世	9.0	-	1.7	
0874		11Ab	3776	816SX	1335	土器	土師器	皿	中世	(15.8)	-	(2.2)	
0875		11Ab	3776	816SX	1338	土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(24.0)	-	(2.3)	
0876		11Ab	3776	816SX	1340・1349	土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(23.6)	-	(11.2)	
0877		11Ab	3776	816SX	1348	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	-	(1.4)	
0878		11Ab	3776	816SX	1334	土器	陶器	皿	大窯?	-	(5.0)	(1.5)	
0879		11Ab	3776	816SX	1288	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	(7.4)	(3.3)	底部：砂粒子痕あり
0880		11Ab	3677	825SK	1432	土器	山茶碗	碗	渥美1a?	-	(7.4)	(2.8)	
0881		11Ab	3677	835SK	1430	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	(7.2)	(2.1)	
0882	○	11Ab	3677	837SK	1421	土器	土師器	皿	中世	8.2	-	1.7	
0883		11Ab	3677	837SK	1420	土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(19.0)	-	(4.8)	
0884		11Ab	3677	838SK	1424	土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(22.6)	-	(5.8)	
0885		11Ab	3677	838SK	1423	土器	山茶碗	碗	渥美1	-	(9.1)	(2.2)	高台：胎土異なる
0886		11Ab	3677	838SK	1425	土器	山茶碗	碗	渥美1aかb	-	(6.8)	(3.5)	
0887		11Ab	3677	838SK	1426	土器	山茶碗	碗	渥美2	-	(8.0)	(3.3)	
0888		11Ab	3774	841SK		土器	近世陶器	甕	常滑18c前半	(59.0)	-	3.9	
0889		11Ab	3674	841SK	1411	土器	近世陶器	甕	常滑18c代	-	18.8	(17.8)	
0890		11Ab	3677	839SK	1443	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	7.4	(1.5)	底部：砂粒子痕あり
0891		11Ab	3677	887SK	1446	土器	白磁器	碗	13世紀中～14世紀初	10.0	-	(2.15)	福建省Ⅸ類口禿口縁
0892		11Ab	3677	888SK	1448	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	(7.9)	(2.2)	
0893		11Ab	3677・3777	984SK ・990SK	1473・1480	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	6.3	(1.4)	
0894		11Ab	3677	921SK	1462・1463・ 1464	土器	山茶碗	碗	渥美3a	-	6.8	(3.0)	

遺物観察表18

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期	法量（cm） （ ）内は復元値・残存値			備考
									型式	口径	底径	器高	
0895		11Ab	3677	988SK	1477	土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(25.0)	-	(6.5)	
0896	○	11Ab	3477	991SP	1472	土器	灰釉陶器	碗	渥美1b	(17.5)	8.2	5.6	高台：砂粒子痕あり
0897		11Ab	3777	990SK	1480	土器	山茶碗	碗	折戸53	-	(7.6)	(2.0)	
0898	○	11Ab	3478	992SP・北壁側溝	1460・1461	土器	灰釉陶器	碗	渥美1b	(16.6)	8.6	6.1	釉薬：口縁部つけ掛け
0899		11Ab	3777	990SK	1482	土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(25.2)	-	(7.0)	
0900	○	11Ab	3478	北壁側溝	1461	土器	山茶碗	碗	渥美1b	15.4	6.8	5.5	
0901		11Ab	3575	912SP		土器	弥生土器	甕or深鉢	弥生中期?	-	-	(2.2)	
0902		11Ab2	3375	936SN		土器	弥生土器	深鉢	弥生前期	-	-	(2.85)	
0903		11Ab	3375	939SN	1452	土器	弥生土器		弥生?	-	-	(4.05)	
0904		11Ab2	3375	940SN		土器	弥生土器	甕?	弥生後期?	-	-	(2.2)	
0905		11Ab	3375	949SN	1453	土器	弥生土器		弥生?	-	-	(2.2)	
0906		11Ab	3375	953SN	1451	土器	弥生土器	深鉢	弥生前期	-	-	(2.6)	
0907		11Ab	3376	957SN	1455	土器	弥生土器		弥生?	-	-	(3.3)	
0908		11Ab	3375	960SN	1454	土器	弥生土器	甕	弥生後期?	-	-	(2.8)	
0909		11Ab	3875	Nトレンチ	1190	土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(21.0)	-	(5.5)	
0910		11Ab	3875	Nトレンチ	1191	土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(23.4)	-	(3.6)	
0911		11Ab	3878	Oトレンチ		土器	須恵器	壺	古代	(21.0)	-	(5.7)	
0912		11Ab	3877	Pトレンチ		土器	灰釉陶器	碗	百代寺か3	-	5.0	(2.7)	
0913		11Ab	3675	Rトレンチ		土器	山茶碗	小皿	百代寺	(9.3)	5.7	2.0	
0914		11Ab	3676	Rトレンチ	1189	土器	土師器	清郷型鍋	古代	(22.0)	-	(9.1)	
0915		11Ab	3477	Tトレンチ		土器	灰釉陶器	碗	黒笹90	(17.2)	(8.1)	5.3	
0916		11Ab	3377	北壁トレンチ		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(21.0)	-	(10.0)	
0917		11Ab	3776	Gトレンチ		土器	土師器	甕?	古墳前期?	(24.4)	-	(3.3)	
0918		11Ab	3577	Hトレンチ		土器	弥生土器	深鉢?	弥生前期?	-	(6.4)	(2.2)	
0919		11Ab	3675	Rトレンチ		土器	弥生土器	甕?	弥生中期?	-	-	(2.5)	
0920		11Ab	3476	3T		土器	弥生土器	深鉢	弥生前期？	-	-	(3.7)	
0921		11Ab	3476	3T	1456	土器	弥生土器		弥生?	-	-	(2.1)	
0922		11Ab	3575	トレンチ	1485	土器	弥生土器	深鉢?	弥生前期?	-	-	(3.2)	
0923		11Ab	3773	12T		土器	弥生土器	深鉢？	弥生中期？	-	-	(2.95)	
0924		11Ab	3676	14T		土器	縄文土器	深鉢	縄文	-	-	(3.4)	
0925		11Ab	-	北壁側溝	0589	土器	弥生土器	深鉢or甕	古井堤式?	-	-	(3.6)	
0926		11Ab	3677	検1	1082	土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.1)	5.0	2.0	
0927		11Ab	3677	検1	1100	土器	山茶碗	小皿	渥美2b	(8.4)	4.0	1.8	
0928		11Ab	3677	検1	1101	土器	山茶碗	小皿	渥美3a	8.1	4.8	1.7	底部：砂粒子痕あり
0929		11Ab	3876	検1	1098	土器	山茶碗	小皿	渥美3a	8.6	4.8	1.8	
0930		11Ab	3676	表土掘削		土器	山茶碗	小皿	渥美3a	8.1	4.5	2.0	全体に摩耗
0931		11Ab	3576	検1	1086	土器	山茶碗	小皿	尾張6	(8.3)	(5.2)	1.6	
0932		11Ab	3678	検1	1185	土器	山茶碗	碗	尾張3	(11.0)	(5.6)	3.4	
0933		11Ab	3677	検1	1149	土器	山茶碗	碗	渥美3b	(14.8)	8.0	4.8	高台：砂粒子痕あり
0934		11Ab	3876	検1	1167	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(14.6)	(7.0)	5.1	高台：砂粒子痕あり
0935		11Ab	3676	表土掘削		土器	山茶碗	碗	渥美3a	(16.2)	(7.5)	5.0	
0936		11Ab	3575	検1	1181	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(16.5)	7.3	5.2	高台：砂粒子痕あり
0937		11Ab	3677	検1	1104	土器	山茶碗	碗	渥美3a	(17.0)	(8.0)	5.0	
0938		11Ab	3878	検1	1129	土器	灰釉陶器	碗	黒笹90?	(14.8)	-	(5.0)	
0939		11Ab	3976	検1	1097	土器	山茶碗	碗	渥美3b	-	7.0	(2.7)	高台：砂粒子痕あり
0940		11Ab	3576	検1	1182	土器	土師器	皿	中世	(8.6)	-	1.5	
0941		11Ab	3576	検1	1182	土器	土師器	皿	中世	8.4	-	1.5	楕円形
0942		11Ab	3675	検1	1095	土器	土師器	皿	中世	(8.4)	-	(1.3)	
0943		11Ab	3676	検1	1187	土器	土師器	皿	中世	(9.0)	-	(0.8)	
0944		11Ab	3477	検1	1074	土器	土師器	皿	中世	(11.7)	(7.2)	2.0	
0945		11Ab	3776	検1	1156	土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(19.0)	-	(10.8)	
0946		11Ab	3677	検1	1147	土器	土師器	内彎型内耳鍋	中世	(19.0)	-	(10.6)	胎土：細かい金雲母を含む
0947		11Ab	3677	検1	1152	土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(22.2)	-	(6.1)	

遺物観察表19

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期 型式	法量（cm） （ ）内は復元値・残存値 口径	底径	器高	備考
0948		11Ab	3675	検1		土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(24.4)	-	(5.0)	全体に磨耗
0949		11Ab	3676	検1	1122	土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(26.0)	-	(5.9)	
0950		11Ab	3676	検1	1250	土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(23.2)	-	(3.7)	
0951		11Ab	3676	検1	1121	土器	土師器	くの字型内耳鍋	中世	(26.6)	-	(4.3)	
0952		11Ab	3776	検1		土器	土師器	伊勢型鍋	中世	(23.0)	-	(2.2)	
0953		11Ab	3677	検1	1124	土器	土師器	半球型内耳鍋	中世	(28.2)	-	(7.0)	
0954		11Ab	3677・3678	検1	1412・1183	土器	土師器	内彎型羽釜	中世	-	-	(6.9)	
0955		11Ab	3478	検1	1081	土器	青磁器	碗	13世紀	14.6	-	(2.5)	龍泉窯Ⅰ-5b類鎬蓮弁文
0956		11Ab	3677	検1		土器	陶器	壷	渥美	-	-	(6.5)	
0957		11Ab	3575	検1	1071	土器	陶器	天目茶碗	古瀬戸後期Ⅳ古	(11.6)	4.2	6.3	
0958		11Ab	3677	検1	1313	土器	陶器	天目茶碗	古瀬戸後期Ⅳ新	-	-	(5.4)	
0959		11Ab	3575	検1		土器	陶器	天目茶碗	古瀬戸後期Ⅳ新	(12.0)	-	(2.9)	
0960		11Ab	3677	検1		土器	陶器	天目茶碗	古瀬戸後期Ⅳ古	(12.0)	-	(2.9)	
0961		11Ab	3677	検1	1106	土器	陶器	天目茶碗	古瀬戸後期Ⅳ新	(11.7)	-	(3.2)	
0962		11Ab	3776	検1		土器	陶器	天目茶碗	大窯1	(11.9)	-	(4.6)	
0963		11Ab	3677	検1		土器	陶器	天目茶碗	古瀬戸後期Ⅳ新?	(12.0)	-	(3.3)	
0964		11Ab	3875	検1	1083	土器	土製品	土錘	中世	-	-	-	長さ：3.4最大径：1.3×1.4　孔径：0.5
0965		11Ab	3877	検1	1162	土器	須恵器	蓋	古代	-	(18.0)	(1.6)	
0966		11Ab	3677	検1	1468	土器	灰釉陶器	碗	折戸53	(13.2)	6.7	4.7	つけ掛け
0967		11Ab	3778	検1	1115	土器	灰釉陶器	碗	折戸53	(14.5)	7.2	3.9	つけ掛け
0968		11Ab	3576	検1		土器	灰釉陶器	碗	折戸53?	-	(7.3)	(3.2)	
0969		11Ab	3776	検1	1157	土器	灰釉陶器	碗	折戸53	-	7.7	(1.9)	
0970		11Ab	3778	検1	1114	土器	土師器	清郷型鍋	古代	-	-	(3.4)	
0971		11Ab	3674	検1		土器	土師器	壷	古墳前期	-	-	(2.25)	
0972		11Ab	3375	検1		土器	土師器	壷	古墳前期	-	7.0	(2.5)	
0973		11Ab	3774	検1		土器	弥生土器	壷？	弥生前期？	-	-	(3.4)	
0974		11Ab2	3576	検2	1416	土器	土師器	深鉢	弥生前期	-	(6.8)	(2.5)	
0975		11Ab3	3774	検3		土器	縄文土器	深鉢？	縄文？	-	-	(3.05)	
0976	○	11Ba	3171	002NR	0079	土器	弥生土器	壷	西志賀式	-	-	(3.8)	
0977		11Ba	3372	083SX	0071	土器	弥生土器	深鉢	樫王式	-	-	(2.7)	
0978	○	11Ba	3472	083SX	0096	土器	弥生土器	-	樫王式	-	-	(3.6)	
0979		11Ba	3472	083SX	0019	土器	弥生土器	壷	弥生中期?	-	(6.6)	(3.3)	
0980	○	11Ba	3472	083SX	0026・0048	土器	弥生土器	深鉢	樫王式	-	-	(9.4)	
0981	○	11Ba	3472・3272	083SX・086SX	0150・0180・0181	土器	弥生土器	深鉢	水神平式	(25.6)	-	(3.8)	
0982	○	11Ba	3472	083SX	0025・0105・0161	土器	弥生土器	深鉢	樫王式	(34.8)	-	(3.1)	二又式工具？条痕
0983	○	11Ba	3472	083SX	0103	土器	弥生土器	深鉢	樫王式	(35.0)	-	(2.9)	
0984	○	11Ba	3472	083SX	032・047・058・142・227	土器	弥生土器	深鉢	樫王式	(36.2)	-	(6.4)	
0985		11Ba	3471	085SX	0108	土器	弥生土器	甕	弥生中期	-	-	(4.2)	
0986		11Ba	3471	085SX	0126	土器	弥生土器	甕	弥生?	-	-	(3.2)	
0987		11Ba	3471	085SX	0127	土器	弥生土器	壷	水神平式	-	-	(5.6)	
0988		11Ba	3471	085SX	0133	土器	弥生土器	深鉢	弥生前期	-	-	(2.8)	
0989		11Ba	3471	085SX	0171	土器	弥生土器	壷?	弥生前期?	-	-	(3.6)	
0990	○	11Ba	3272	086SX	0184	土器	弥生土器	深鉢	水神平式	-	-	(3.9)	
0991		11Ba	3172	64T		土器	弥生土器	深鉢	水神平式	-	-	(2.9)	
0992		11Ba	3371	検1		土器	弥生土器	甕？	長床式？	-	-	(2.9)	
0993		11Ba	3470	検1		土器	土師器	壷	古墳前期	(11.4)	-	(2.5)	
0994		11Ba2	3172	検2	0082	土器	弥生土器	壷	岩滑式?	-	-	(2.3)	
0995		11Bb	3168	098SE	0400	土器	陶器	甕	常滑 井筒 明治30～40年代	(66.8)	(71.6)	51.0	
0996		11Bb	3168	098SE	0394	土器	陶器	甕	常滑 井筒 明治30～40年代	64.8	65.2	49.2	
0997		11Bb	3266	100SD	0292	土器	弥生土器	甕	弥生中期?	(19.6)	-	(6.6)	
0998		11Bb	3167	100SD		土器	土師器	高杯	古墳前期	(11.8)	-	(3.3)	
0999		11Bb2	3466	104SD	0435	土器	土師器	甕	古墳前期	-	(7.2)	(4.8)	
1000		11Bb2	3068	103NR		土器	弥生土器	壷	弥生中期	-	-	(3.6)	

遺物観察表20

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期	法量（cm）（ ）内は復元値・残存値			備考
									型式	口径	底径	器高	
1001	○	11Bb3	3169・3269	171SN	0403・0404	土器	弥生土器	甕	古井式	(20.6)	-	(7.9)	小畦畔
1002		11Bb4	3169	226SN	0533	土器	弥生土器	深鉢?	弥生	-	-	(4.0)	
1003		11Bb4	3170	177SN	0402	土器	弥生土器	甕	弥生中期?	-	-	(2.8)	小畦畔
1004		11Bb4	3269	224SD	0519	土器	弥生土器	深鉢	弥生中期前期	-	-	(3.2)	
1005		11Bb4	3269	224SD	0562	土器	弥生土器	深鉢	弥生	-	-	(2.0)	
1006		11Bb	3069	北壁側溝	0262	土器	弥生土器	高杯	弥生後期	-	-	(9.9)	
1007		11Bb	3369	南壁側溝	0289	土器	弥生土器	甕	弥生中期後葉	-	(6.4)	(7.0)	
1008		11Bb	3269	南壁側溝2	0337	土器	土師器	小型高杯	古墳前期	-	-	(5.1)	
1009		11Bb	3466	南壁側溝2	0298	土器	弥生土器	壷	欠山式	-	(11.6)	(4.0)	
1010		11Bb	3466	南壁側溝2	0296	土器	弥生土器	壷	古井式	-	(7.0)	(2.4)	
1011		11Bb2	3168	検2	0325	土器	土師器	壷	古墳前期	(7.0)	-	(3.7)	
1012		11Bb	-	検1	0257	土器	弥生土器	甕	弥生後期	-	-	(4.4)	
1013		11Bb3	3170	検3	0432	土器	弥生土器	壷	岩滑式	-	-	(3.1)	
1014		11Bb4	3169	検4	0437	土器	弥生土器	深鉢?	弥生	-	-	(4.6)	種実圧痕?
1015		11Bb2	3170・3169	検2	0313・0314	土器	弥生土器	甕	弥生中期	-	(14.0)	(5.7)	
1016		11Bb2	3070	検2	0391	土器	弥生土器	甕?	弥生中期?	(38.2)	-	(2.8)	
1017		11Bb	3070	表土2	0303	土器	弥生土器	深鉢?	弥生	-	(6.0)	(2.7)	
1018		11Bb		表土2		土器	弥生土器	深鉢	水神平式？	(30.0)	-	(4.7)	
1019	○	11C	-	002NR	0002	土器	縄文土器	深鉢	縄文後期	-	-	(9.25)	
1020		11C6	2971	191SN	0075	土器	弥生土器	深鉢	弥生前期	-	-	(2.8)	
1021		11C	2570	西壁	0014	土器	山茶碗	碗	渥美2	-	8.4	(2.4)	籾痕あり
1022		11C	2570	西壁	0013	土器	須恵器	有台坏	古代	-	(10.4)	(2.4)	
1023		11C	-	東壁側溝	0006	土器	弥生土器	深鉢	弥生前期	-	-	(4.7)	
1024		11C		表土		土器	弥生土器	壷	水神平式	-	-	(6.2)	
1025		11C		表土		土器	土師器	壷	古墳前期？	-	-	(2.4)	
1026		11C		表土		土器	土師器	壷	古墳前期	-	-	(2.2)	
1027		11C		表土		土器	土師器	清郷型鍋	古代	(23.0)	-	(12.45)	
1028		11C	2670	検1		土器	土師器	壷	古墳前期	(10.0)	-	(3.7)	
1029		11C	2872	検1	0010	土器	弥生土器	深鉢？	弥生前期？	-	(5.0)	(1.6)	
1030		11C	2772	検1		土器	弥生土器	壷？	水神平式？	-	-	(2.4)	
1031		11C	2872	検1	0011	土器	弥生土器	深鉢？	水神平式	-	7.0	(1.4)	
1032		11C2	2870	検2	0020	土器	弥生土器	鉢？	弥生？	-	-	(2.4)	
1033		11D	2973	003SN,004SN間畦	0039	土器	弥生土器	深鉢	水神平式？	-	-	(4.85)	
1034		11D	3175	079SN	0020	土器	弥生土器	深鉢	樫王式	-	-	(5.0)	
1035		11D	2176	073SN	0021	土器	弥生土器	深鉢	水神平式？	-	-	(2.9)	ヨコ方向条痕
1036	○	11D2	3173	088SU	0045	土器	縄文土器	深鉢	縄文晩期	(34.0)	-	(19.8)	
1037		11D	2975	トレンチ		土器	弥生土器	ミニチュア鉢？	弥生中期？	-	2.7	4.0	
1038		11D	3075	北壁	0006	土器	弥生土器	高杯	弥生後期？	-	-	(3.9)	接合面
1039		11D	2973	トレンチ		土器	弥生土器	鉢？	弥生中期	13.0	-	(2.8)	
1040		11D		トレンチ南壁		土器	近世陶器	広東碗	美濃 登窯10	11.0	5.6	6.4	
1041		11D		トレンチ東		土器	近世陶器	擂鉢	瀬戸 登窯6	23.6	-	(6.9)	瀬戸Ⅰ類
1042		11D		トレンチ東		土器	陶器	腰錆茶碗湯飲み	瀬戸 登窯9	(8.2)	-	(4.85)	
1043	○	11D	3174	検1	0005	土器	弥生土器	高杯	弥生後期	-	13.0	(8.5)	
1044		11D	2873・3072	検1・検2		土器	弥生土器	深鉢	弥生前期か中期？	-	-	(9.2)	
1045		11D		表土		土器	近世陶器	脚付香炉	近世	-	4.7	(4.9)	三脚
1046		11D		検1・表土	0003	土器	近世陶器	甕	常滑18c前半	(51.6)	-	(10.0)	
1047		11D		検1・表土	0002	土器	近世陶器	甕	常滑17c	(71.8)	-	(11.2)	
1048		11D		検1・表土	0003	土器	近世陶器	甕	常滑18c後半	(72.0)	-	(11.9)	
1049		11Aa	3780	454SXえ	-	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1050		11Aa	3781	454SXい	0485	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1051		11Aa	3780	454SXえ	0529	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1052		11Aa	3680	454SXえ	0971	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1053		11Aa	3781	454SX	0077	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文

遺物観察表21

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期 型式	法量（cm） （ ）内は復元値・残存値 口径	底径	器高	備考
1054		11Aa	3679	500SK	0369	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1055		11Aa	3678	検1	-	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1056		11Aa	3881	454SXあ	0530	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1057		11Aa	3780	454SXい	-	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1058		11Aa	3780	454SXえ	-	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1059		11Aa	3781	454SXけ	-	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1060		11Aa	3681	454SXし	-	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1061		11Aa	3681	454SXす	-	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1062		11Aa	3881	454SXあ	-	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1063		11Aa	3778	検1	-	土器	青磁器	碗	12世紀				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1064		11Aa	3575	検1	-	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1065		11Aa	3680	454SXこ	0535	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1066		11Aa	3780	454SXえ	0525	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-5b類鎬蓮弁文
1067		11Aa	3881	454SXん	0344	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-6b類鎬蓮弁文
1068		11Ab	3677	578SK	1316	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-7b類鎬蓮弁文
1069		11Ab	3676	検1	-	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-8b類鎬蓮弁文
1070		11Aa	3881	454SXあ	-	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-9b類鎬蓮弁文
1071		11Aa	3681	036SK	-	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-10b類鎬蓮弁文
1072		11Aa	3780	454SXえ	0554	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-11b類鎬蓮弁文
1073		11Aa	3780	454SXえ	0463	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-12b類鎬蓮弁文
1074		11Aa	3780	454SXえ	0531	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-13b類鎬蓮弁文
1075		11Ab	3678	検1	-	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-14b類鎬蓮弁文
1076		11Aa	3781	454SXか	0167	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-15b類鎬蓮弁文
1077		11Aa	3680	454SXこ	0469	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-16b類鎬蓮弁文
1078		11Aa	3881	検1	0084	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-17b類鎬蓮弁文
1079		11Aa	3780	454SXえ	-	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-18b類鎬蓮弁文
1080		11Aa	3780	454SX	-	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-19b類鎬蓮弁文
1081		11Aa	3881	454SXわ	-	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-20b類鎬蓮弁文
1082		11Aa	3781	454SX	0083	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-21b類鎬蓮弁文
1083		11Aa	3880	241SK	0337	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-22b類鎬蓮弁文
1084		11Aa	3781	454SXい・454SXう	0461・0377	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-23b類鎬蓮弁文
1085		11Aa	3880	TT8	-	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-24b類鎬蓮弁文
1086		11Ab	3777	989SK	1466	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-25b類鎬蓮弁文
1087		11Aa	3780	454SXえ	0522	土器	青磁器	碗	13世紀				龍泉窯Ⅰ-26b類鎬蓮弁文
1088		11Ab	3577	検1	-	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1089		11Ab	3676	569SU	-	土器	青磁器	碗か鉢	13世紀後半～14世紀初				龍泉窯Ⅲ類
1090		11Ab	3578	検1	-	土器	青磁器	碗	12世紀～14世紀				龍泉窯
1091		11Ab	3676	552SK	-	土器	青磁器	碗	12世紀後半				龍泉窯Ⅰ類劃花文
1092		11Ab	3776	検1	-	土器	青磁器	碗	不明				龍泉窯
1093		11Ab	3677	988SK	1475	土器	青磁器	香炉	15世紀				龍泉窯
1094		11Ab	3677	839SK	1415	土器	青磁器	壷類	15世紀前半				龍泉窯
1095		11Aa	3780	454SX	-	土器	青磁器	Ⅲ	13世紀後半～14世紀初				龍泉窯Ⅲ類
1096		11Aa	3781	454SXう	-	土器	青磁器	碗	13世紀後半～14世紀初				龍泉窯Ⅲ類
1097		11Ab	3677	取消遺構	1477	土器	青磁器	碗	13世紀後半～14世紀初				龍泉窯Ⅲ類
1098		11Aa	3881	455SXわ (080SK)	-	土器	青磁器	碗	13世紀後半～14世紀初				龍泉窯Ⅲ類
1099		11Aa	4080	検1	-	土器	青磁器	碗	13世紀後半～14世紀初				龍泉窯Ⅲ類
1100		11Aa	3578	取消遺構	-	土器	青磁器	碗	13世紀後半～14世紀初				龍泉窯Ⅲ類
1101		11Aa	3780	454SXい	0940	土器	青磁器	碗	13世紀後半～14世紀初				龍泉窯Ⅲ類
1102		11Aa	3681	454SXく	-	土器	青磁器	碗	13世紀後半～14世紀初				龍泉窯Ⅲ類
1103		11Aa	3681	454SXす	-	土器	青磁器	碗	13世紀後半～14世紀初				龍泉窯Ⅲ類
1104		11Aa	3781	454SXい	-	土器	青磁器	碗	12世紀末～13世紀前半				同安窯

遺物観察表22

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期	法量（cm）　（ ）内は復元値・残存値			備考
									型式	口径	底径	器高	
1105		11Aa	3881	454SXあ	-	土器	青磁器	碗	12世紀末～13世紀前半				同安窯
1106		11Aa	3681	454SXこ	0448	土器	青磁器	皿	12世紀末～13世紀初				同安窯
1107		11Aa	3780	454SXえ	0544	土器	青磁器	碗	12世紀後半				同安窯
1108		11Aa	3781	454SX	-	土器	青磁器	碗	12世紀末～13世紀初				同安窯
1109		11Aa	3780	454SXえ	-	土器	白磁器	皿	13世紀中～14世紀初				福建省
1110		11Aa	3681	454SX	-	土器	白磁器	碗	12世紀から13世紀				福建省
1111		11Aa	3681	454SXす	-	土器	白磁器	碗	12世紀から13世紀				福建省
1112		11Ab	3675	検1	-	土器	白磁器	碗	13世紀中～14世紀初				福建省Ⅸ類口禿口縁
1113		11Aa	3680	454SXこ	0470	土器	白磁器	碗	12世紀から13世紀				福建省
1114		11Aa	3579	検1		土器	土製品	盤上遊戯	不明	2.15	2.2	0.65	両面に布目圧痕

登録番号	写真	調査区	グリッド	遺構名	取上番号	種別	種別2	器種	時期	法量（cm）　（ ）内は復元値・残存値			備考
									型式	高さ	幅	厚さ	
M0001		11Aa	3880	114SK	036	金属製品		銭貨	中世	2.4	2.4	0.1	銅・開元通宝
M0002		11Aa	3680	検１	002	金属製品		銭貨	中世	2.4	2.3	0.1	銅・熙寧元宝
M0003		11Ab	3776	608ST	1238	金属製品		短刀	中世	23.4	2.7	0.8	鉄
M0004		11Ab	3676	検１	1137	金属製品		鉛玉	中世	1.2	1.1	1.2	鉛
S0001		11Aa	3780	303ST	287	石製品		玉	中世	0.5	0.4	0.4	水晶
S0002		11Aa	3780	454SXえ	0521	石製品		乳棒状石器	中世	(7.3)	1.95	1.0	泥岩？安山岩
S0003	○	11Aa	3780	454SXお	0429	石製品		砥石	中世	(8.0)	3.65	1.85	泥岩
S0004	○	11Aa	3681	454SXさ	0778・0086	石製品		砥石	中世	(8.0)	4.15	0.7	南北ベルト 3段目　凝灰質泥岩
S0005	○	11Aa	3980	480SD	-	石製品		砥石	中世	11.35	4.95	2.15	砂質凝灰岩
S0006		11Aa	3882	検1	-	石製品		剥片	中世	2.9	1.8	0.5	安山岩
S0007	○	11Ab	3576	806SP	1259	石製品		砥石	中世	(10.0)	3.05	1.15	凝灰質泥岩
S0008	○	11Ab	3677	818SK	1405	石製品		石塔	中世	(21.1)	12.1	11.0	凝灰岩
S0009		11Ab	3677	988SK	1476	石製品		剥片（石核）	縄文	0.9	2.25	1.55	黒曜石
S0010		11Ab2	3574	検2	1418	石製品		石鏃	縄文	2.0	1.25	0.45	チャート
S0011		11Ab	3776	検1	1139	石製品		石四片	縄文	(10.7)	5.8	2.25	砂質凝灰岩
S0012		11Bb	3070	002NR	0480	石製品		礫	縄文	(8.5)	8.6	5.9	花崗岩
S0013		11Bb	3070	002NR	0457	石製品		砥石	中世	6.15	4.45	3.25	片麻岩
S0014		11Bb4	3269	235SD	0573	石製品		剥片	縄文	1.65	2.1	1.2	熔結凝灰岩
S0015		11C	2970	096SN	0028	石製品		剥片	縄文	2.35	1.2	1.5	熔結凝灰岩
S0016	○	11C	2970	096SN	0029	石製品		石鏃	縄文	1.65	0.95	0.4	下呂石
S0017		11C	2771	検1	0012	石製品		剥片	縄文	3.4	2.4	0.85	チャート
S0018		11C	2871	検1	0017	石製品		石鏃？	縄文	1.05	0.7	0.3	熔結凝灰岩
S0019		11C2	2871	検2	0023	石製品		石鏃？	縄文	1.3	1.1	0.4	熔結凝灰岩
S0020		11C10	2871	検10	0117	石製品		剥片	縄文	0.9	1.7	0.35	チャート
S0021		11C10	2871	検10	0122	石製品		石鏃？	縄文晩期後葉～弥生前期	1.45	1.3	0.4	熔結凝灰岩
S0022	○	11D	2975	トレンチ	0004	石製品		石斧	縄文晩期後葉～弥生前期	(17.65)	5.8	4.4	変玄武岩
X0001		11Aa	3880	241SK	238	ガラス		玉	中世	0.5	0.5	0.4	ガラス

遺構写真１

11Aa全景南から

11Aa全景北から

11Aa303ST

11Aa303ST断面

11Aa352SD北から

352SD断面

11Aa411SK

11Aa411SK骨出土状況

遺構写真２

11Aa383SP

11Aa383SP断面

11Aa383SP柱痕検出

11Aa383SP柱痕完掘

11Aa383SP完掘状況

11Aa353SD断面A

11Aa353SP断面B

11Aa353SD完掘

11Aa017SK調査区北壁

11Aa017SK拡張後南西から

11Aa017SK-2東から

11Aa017SK-3北西から

11Aa017SK-3南から

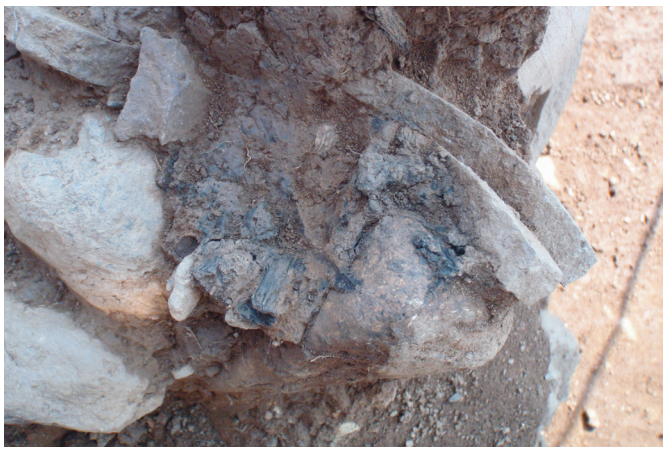
11Aa017SK-4西から

11Aa017SK-5断面西から

11Aa017SK-5南西から

遺構写真４

11Aa017SK-6西から



11Aa017SK-6の下炭化物西から

11Aa017SK-7北東から

11Aa017SK-7西から

11Aa017SK-8東から

11Aa017SK-9北西から

11Aa017SK-10南から

11Aa017SK完掘南西から

11Aa454SX全景南西上空から

遺構写真６

11Aa454SX全景上空から

11Aa454SX全景南東上空から

11Aa454SX「え」出土状態

11Aa454SX「え」出土桃核周辺

遺構写真８

11Aa454SX「え」出土状態北西から

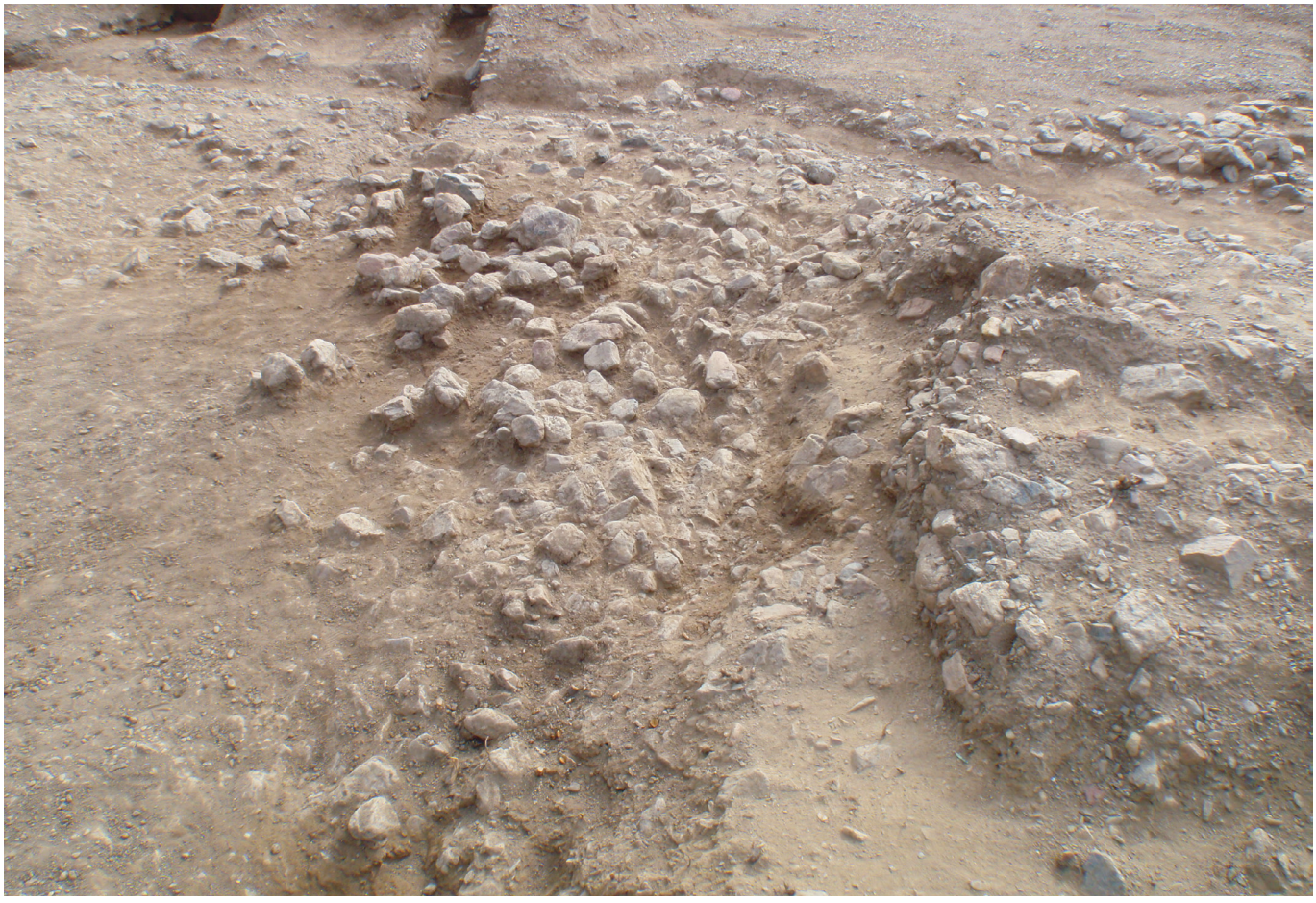
11Aa454SX「え」出土状態北西から

11Aa454SX「う・い」出土状態北から

11Aa454SX「う・い」出土状態北西から

遺構写真10

11Aa454SX「え」集礫状況南東から



11Aa454SX「わ・ん・あ」集礫状況

11Aa454SX完掘状況北西から

11Aa454SX完掘状況北西から

遺構写真12

11Aa454SX完掘状況南東から

11Aa454SX完掘状況南西から

11Aa454SX完掘状況北西から

11Aa454SX完掘状況北西から

遺構写真14

11Aa454SX「え」付近完掘状況北東から

11Aa454SX完掘状況南東から

11Aa454SX「え」付近集礫状況南西から

11Aa454SX「い・う」集礫状況南から

遺構写真16

11Aa266SK

11Aa267SK

11Aa354SK遺物出土

11Aa354SK完掘

11Aa382SU

11Aa413SD

11Aa450SD

11Aa455SX

11Aa362SP遺物出土

11Aa362SP遺物出土

11Aa362SP遺物出土

11Aa478SD

11Aa478SD断面

遺構写真18

11Aa480SD・463SD上空から

11Aa3978グリッド周辺

11Aa511SK断面

11Aa511SK断面

11Aa511SK上位出土

11Aa511SK下位出土

11Aa511SK完掘

遺構写真20

11Aa463SD・480SD北から

11Aa463SD・480SD北から

11Aa521SP

11Aa521SP断面

11Aa523SS出土状態

11Aa523SS完掘

11Ab608ST主体部遺物

11Ab608ST断面

11Ab608ST主体部遺物

11Ab608ST主体部遺物

11Ab608ST集石部分検出

11Ab608ST断面南から

11Ab608ST完掘東から

遺構写真22

11Ab546ST検出

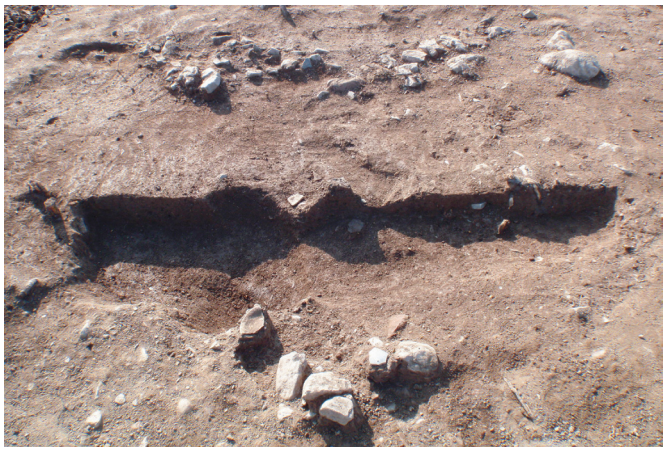
11Ab546ST断面

11Ab546ST断面

11Ab546ST完掘

11Ab546ST骨と炭化物

11Ab546ST骨と炭化物



11Ab547SK断面

11Ab548SK

11Ab集石墓群南東から

11Ab集石墓群南から

遺構写真24

11Ab578SK・602SK・603SK西から

11Ab578SK南東から

11Ab603SK北西から

11Ab602SK北西から

11Ab609SX南から

11Ab610SK南から

11Ab814SK南から

11Ab815SK西から

11Ab818SK一石五輪塔

11Ab825SK北東から

11Ab826SK西から

11Ab836SK南から

11Ab873SK北西から

11Ab873SK南東から

11Ab837SK北西から

11Ab983SK東から

遺構写真26

11Ab3575～3675グリッド付近の柱穴群南から

11Ab642SB柱穴群南から

11Ab698SP断面

11Ab795SP出土状況

11Ab867SP断面

11Ab715SP根石

11Ab715SP上方から

11Ab724SP

11Ab724SP断面

11Ab779SP礎板

11Ab779SP礎板

11Ab784SP出土状況

11Ab784SP

遺構写真28

11Ab726SP

11Ab727SP

11Ab806SP礎石

11Ab806SP柱底の粘土

11Ab816SK

11Ab816SK完掘

11Ab841SK

11Ab841SK完掘

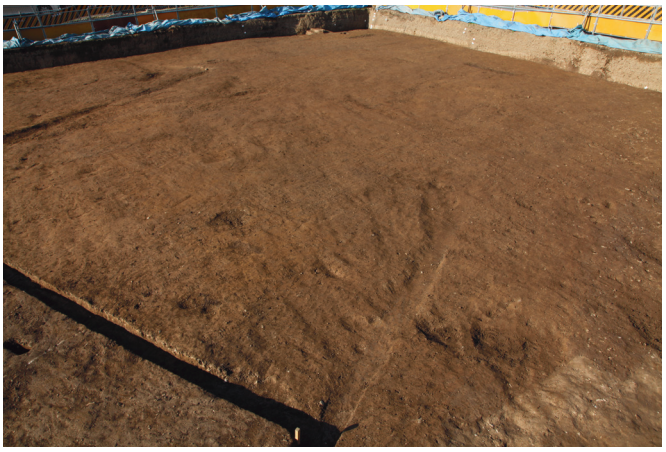
11Ab水田全景北東から

11Ab水田全景北西から

11Ab水田全景北東から

11Ab水田全景東から

11Ab940SN・953SNの間断面



11Ab北西端水田最下面南から

遺構写真30

11Ba水田擬似畦畔検出

11Ba087SK断面

11Ba088SK・089SK完掘後

11Ba087SK完掘

11Ba水田下083SX

11Ba水田下083SX

11Ba水田下085SX

11Ba水田下085SX

11Bb1面検出北東から

11Bb1面検出西から

11Bb1面完掘西から

11Bb1面完掘南西から

11Bb098SE

11Bb098SE

11Bb098SE側面

11Bb098SE2段目除去後

遺構写真32

11Bb2面水田検出南から

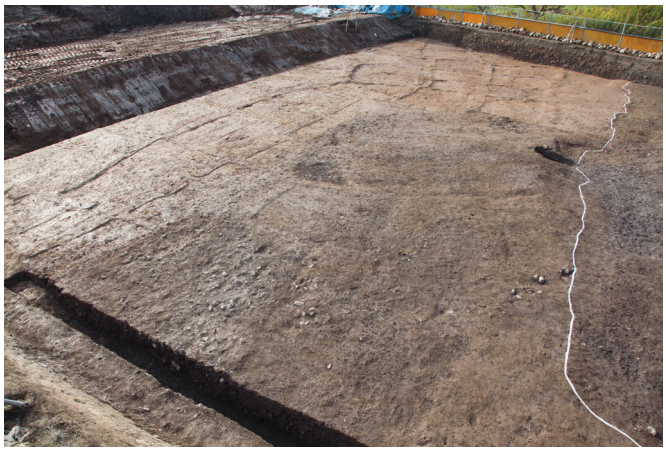
11Bb2面水田検出北東から

11Bb2面水田検出北東から

11Bb2面水田南から

11Bb2面水田完掘南から

11Bb2面水田完掘東から



11Bb2面水田完掘北から

11Bb2～3面水田遺物出土171SN周辺

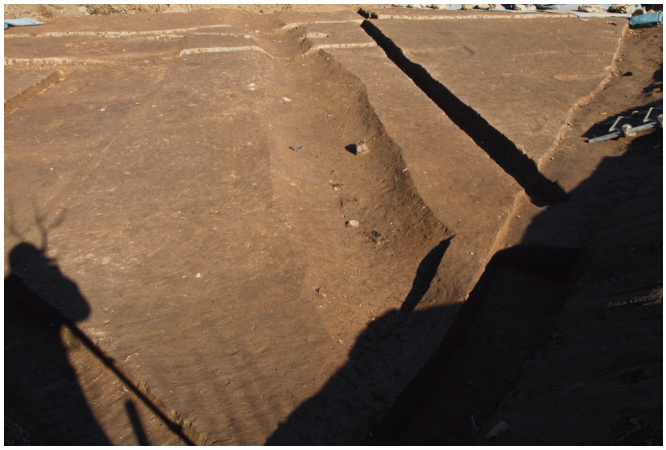
11Bb区3面水田検出南から

11Bb区3面水田耕作土除去北東から

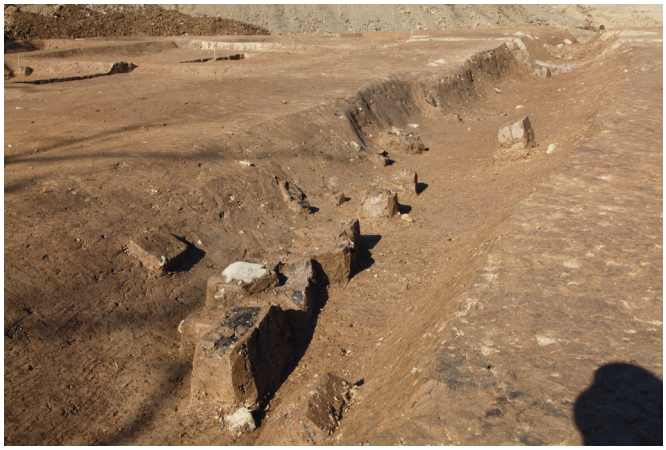
遺構写真34

11Bb4面水田検出

11Bb4面水田221SD



11Bb4面水田223SD



11Bb4面水田224SD

11Bb5面水田西から

11Bb5面水田北から

11Bb5面水田236SD

11Bb5面水田002NR

11Bb4面水田224SD・225～235SN

11Bb5面水田222SX

11Bb6面254SL上面北東から

11Bb6面254SL中面西から

11Bb6面254SL下面南西から

11Bb6面254SL最下面北東から

11Bb6面275SX南西から

11Bb6面275SX東から

遺構写真36

11C1面全景西から

11C1面水田検出西から

11C1面水田完掘西から

11C1面水田003SX焼土

11C2面水田検出南西から

11C2面完掘西から

11C2面水田完掘西から

11C2面完掘南西から

11C2面水田089SX断面

11C2面水田089SX

11C2面水田089SX検出

11C2面水田089SX完掘

11C3面水田検出西から

遺構写真38

11C3面水田完掘北東から

11C3面水田完掘北東から

11C3面水田完掘南東から

11C3面水田完掘南東から

遺構写真40

11C3面水田003SX南西から

11C3面水田127SM西から

11C4面水田検出西から

11C4面水田完掘西から

11C4面水田146SD検出西から

11C4面水田146SD完掘北東から

11C5面水田検出西から

11C5面水田完掘西から

11C6面検出西から

11C6面完掘西から

11C7面検出西から

11C7面完掘西から

11C8面検出南東から

11C8面完掘南東から

11C10面検出南東から

11C10面完掘南東から

遺構写真42

11D水田検出東から

11D水田検出東から

11D水田完掘北西から

11D水田完掘北西から

11D水田027SN水口

11D水田027SN・080SN

11D水田151SD閉塞石南東から

11D水田下088SU縄文土器出土

11D2面水田擬似畦畔北から

11D2面水田擬似畦畔南から

遺構写真44

11E完掘西から

11E土層断面南西から

12A1面検出西から

12A1面検出東から

12A1面完掘南東から

12A1面完掘東から

12A2面完掘北西から

12A3面完掘西から

017SK

9

12

14

遺物写真46

454SX

354

378

401

447

449

450

468

472

473

476

483

492

534

499

506

426

遺物写真48

72

74

160

279

175

592

548

676

114

121

115

220

117

723

120

224

227

721

317

738

318

340

551

599

341

256

821

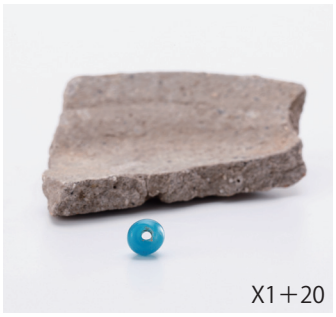
669

遺物写真50

11Aa362SP出土状態1

11Aa362SP出土状態2

22



X1＋20

S1

50

46

51

53

52

745

749

758

759

763

遺物写真52

511SK

775

776

777

778

781

780

785

784-2

792

793

784-1

794

786

795

788

796

791

797

遺物写真54

608ST

M03

850

851

852

860

873

882

M1＋M2

12

12

900

遺物写真56

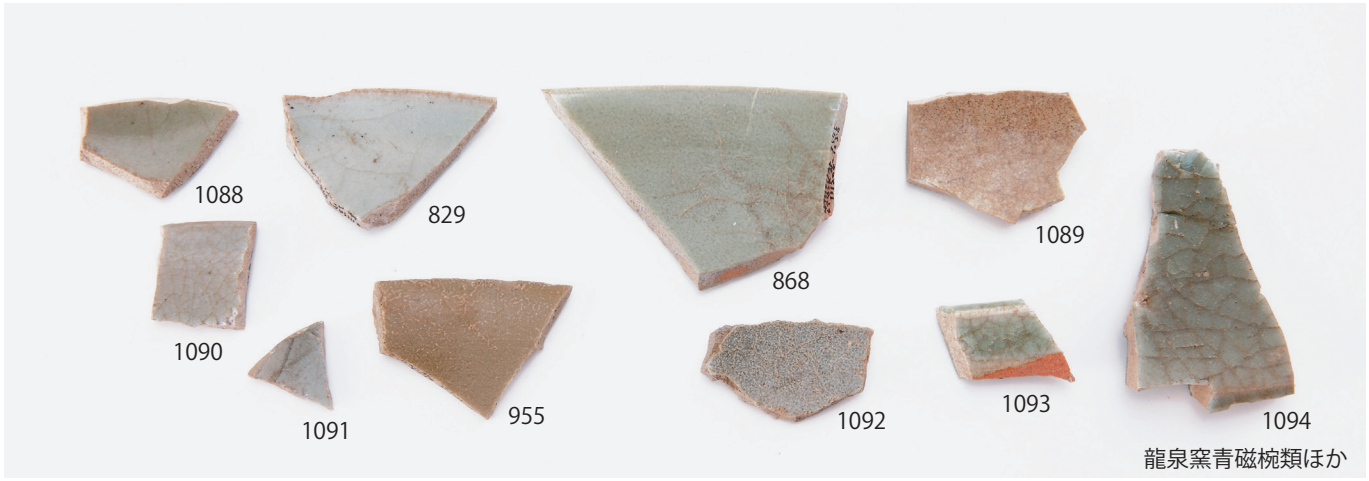
龍泉窯青磁椀Ⅰ類

龍泉窯青磁椀Ⅰ類

龍泉窯青磁椀Ⅰ—5ｂ類

龍泉窯青磁椀Ⅰ—5ｂ類

遺物写真58

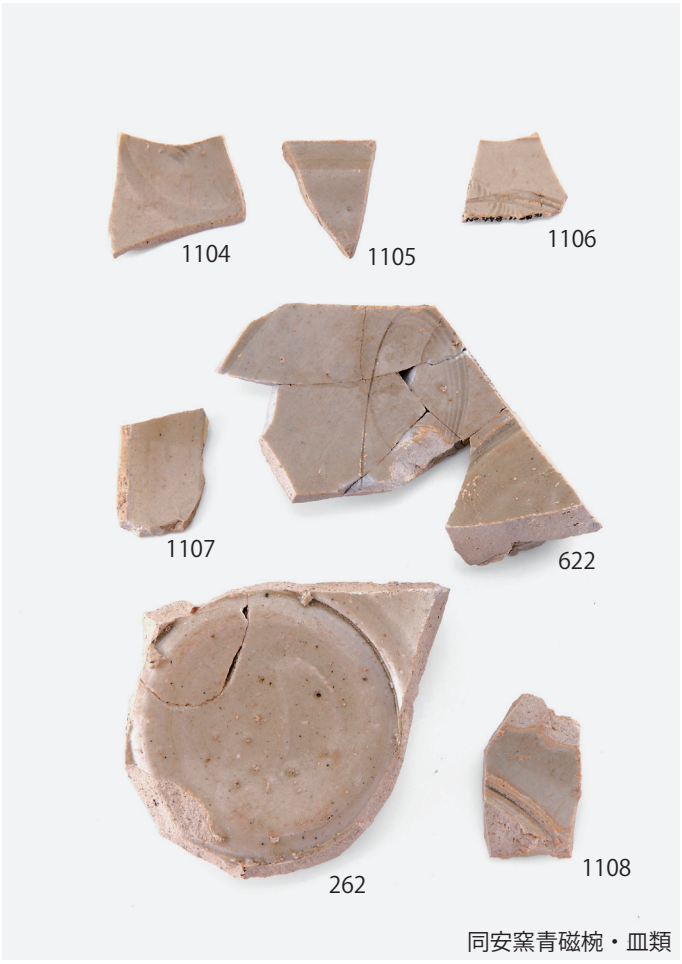


龍泉窯青磁椀類ほか

龍泉窯青磁椀類ほか

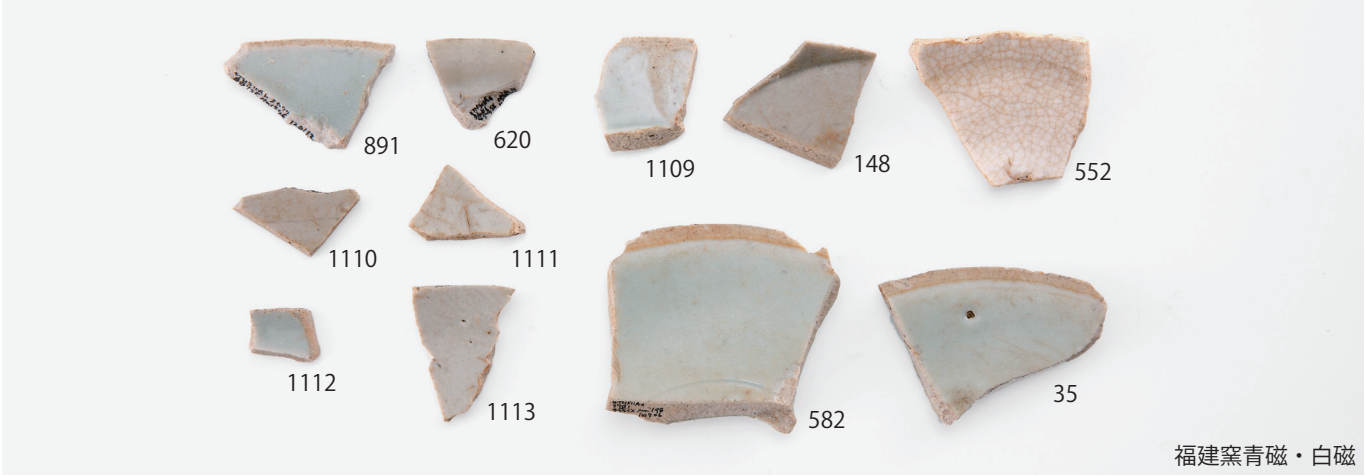
龍泉窯青磁椀Ⅲ類

龍泉窯青磁椀Ⅲ類



同安窯青磁椀・皿類

同安窯青磁椀・皿類



福建窯青磁・白磁

福建窯青磁・白磁

遺物写真60

11B水田関連および水田下の弥生土器

976

982

978

983

980

984

981

990

遺物写真62

S-3

S-5

S-4

S-7

S-16

S-22

S-10

報告書抄録

ふりがな	ひがししもじいせき
書　　名	東下地遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第199集
編著者名	永井宏幸、鬼頭剛、株式会社パレオ・ラボ（小林克也ほか）
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　TEL0567(67)4161
発行年月日	西暦 2016年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ひがししもじいせき 東下地遺跡	あいちけん　とよはし 愛知県豊橋市 いしまきほんまち 石巻本町	23201	791299	34度 47分 51秒	137度 26分 14秒	2011.05.09～ 2012.03.16 2012.05.09～ 2012.07.27	10,640 274	道路改良 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東下地遺跡	集落	弥生時代 鎌倉時代	水田、溝 河道、墓、掘立柱建物 土坑等	土器、石器 山茶碗、小皿 古瀬戸製品、中国産 陶磁器、土師器皿、 土師器鍋、金属製品	弥生時代中期末の水田跡 鎌倉時代の河川祭祀と土坑墓・集石墓などの墓群、多数の柱穴群

文書番号	発掘届出（23埋セ第1号・2011.4.1、24埋セ第1号・2012.4.4 ） 通知（23教生第214号・2011.4.20、24教生第289号・2012.4.27） 終了届・保管証・発見届（23埋セ第175号・2012.3.16、24埋セ第61号・ 2012.7.27） 鑑定結果通知（24豊教美21・2012.4.5、27豊教美53・2015.5.7）

要約

東下地遺跡は、豊川の左岸に形成された段丘と豊川の支流である神田川の右岸に挟まれた沖積低地に位置する。発掘調査の成果により、弥生時代中期末の水田跡と鎌倉時代の河川跡、墓地、柱穴群を中心とする複合遺跡であることが明らかになった。水田跡は、段丘縁辺から沖積低地へ続く緩斜面で検出された。地形に沿う溝の両側に10㎡前後の小区画水田が展開する。13世紀前後の鎌倉時代を中心とする遺構群は、蛇行する河川跡から多量の山茶碗・小皿・土師器皿などが川岸に沿うように検出され、河川右岸に集石墓や土壙などが重複する墓地、さらに柱穴群が展開する。東三河の中世遺跡としては土師器皿の組成が高く、土壙群が展開することから、墓地を中心とする遺跡として注目される。

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第199集

東下地遺跡

2016年３月31日

発行　公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷　新日本法規出版株式会社

第４章（１）放射性炭素年代測定（2011 年度分析）

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤茂・安昭炫・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎

1. はじめに

愛知県豊橋市に位置する東下地遺跡の 11Bb 区より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 1 のとおりである。

試料は、水田に関わる溝である 224SD から採取された炭化材 5 点（試料 No.1～5：PLD-20266、20268～20271）と水田造成以前の炉跡 222SX から採取された有機物 1 点（試料 No.6：PLD-20272）および炭化材 2 点（試料 No.7、8：PLD-20273、20267）の計 8 点である。炭化材の部位は、全て不明である。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

表1　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-20266	試料No.1 調査区：11Bb 遺構：224SD その他：3269,111220,No.523	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-20268	試料No.2 調査区：11Bb 遺構：224SD その他：3269,111220,No.524	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-20269	試料No.3 調査区：11Bb 遺構：224SD その他：3269,111220,No.525	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N)
PLD-20270	試料No.4 調査区：11Bb 遺構：224SD その他：3269,111220,No.526	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-20271	試料No.5 調査区：11Bb 遺構：224SD その他：3269,111220,No.527	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N)
PLD-20272	試料No.6 調査区：11Bb 遺構：222SX その他：3170,111220,No.528	試料の種類：生の有機物 試料の性状：不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N)
PLD-20273	試料No.7 調査区：11Bb 遺構：222SX その他：3170,111220,No.529	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-20267	試料No.8 調査区：11Bb 遺構：222SX その他：3170,111220,No.530	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)

3. 結果

表 2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C 年代を、図 1 と 2 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差､標準偏差等に基づいて算出され､試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

表2　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	δ ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD-20266 (試料No.1)	-26.58±0.27	2059±20	2060±20	107BC(68.2%)41BC	164BC(12.7%)130BC 120BC(78.8%)19BC 13BC(3.9%)1BC
PLD-20268 (試料No.2)	-25.82±0.17	2131±22	2130±20	201BC(48.1%)151BC 139BC(20.1%)113BC	346BC(6.7%)321BC 206BC(86.1%)90BC 74BC(2.6%)59BC
PLD-20269 (試料No.3)	-24.84±0.15	2131±20	2130±20	200BC(49.5%)156BC 136BC(18.7%)114BC	345BC(5.6%)322BC 206BC(88.2%)91BC 71BC(1.6%)60BC
PLD-20270 (試料No.4)	-22.56±0.14	2159±20	2160±20	346BC(28.7%)321BC 206BC(39.5%)174BC	355BC(42.4%)290BC 232BC(50.0%)156BC 135BC(3.0%)116BC
PLD-20271 (試料No.5)	-25.94±0.14	2093±20	2095±20	163BC(30.3%)129BC 121BC(27.6%)90BC 72BC(10.3%)59BC	174BC(95.4%)50BC
PLD-20272 (試料No.6)	-29.10±0.15	2266±21	2265±20	391BC(50.0%)359BC 277BC(18.2%)259BC	396BC(53.1%)353BC 293BC(41.3%)229BC 219BC(1.0%)214BC
PLD-20273 (試料No.7)	-25.32±0.15	2113±20	2115±20	178BC(68.2%)104BC	198BC(87.4%)88BC 77BC(8.0%)56BC
PLD-20267 (試料No.8)	-25.36±0.17	2132±18	2130±20	201BC(51.9%)157BC 135BC(16.3%)116BC	346BC(5.5%)322BC 206BC(89.9%)92BC

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動､および半減期の違い(^{14}C の半減期 5730±40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.1（較正曲線データ：IntCal09）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年

較正曲線を示す。

4. 考察

以下、2σ暦年代範囲（確率 95.4%）に着目して遺構ごとに結果を整理する。弥生土器編年との対応関係については、山本（2007）、赤塚（2009ab）、小林（2009）を参照した。

水田に関わる溝である 224SD から採取された炭化材 5 点（試料 No.1～5：PLD-20266、20268～20271）は、いずれも 355～1 cal BC に収まる暦年代範囲を示した。この範囲は弥生時代中期に相当する。

水田造成以前の炉跡である 222SX から採取された有機物 1 点（試料 No.6：PLD-20272）および炭化材 2 点（試料 No.7、8：PLD-20273、20267）は、396～56 cal BC に収まる暦年代範囲を示した。この範囲は弥生時代中期に相当する。

ただし木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死・伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると最終形成年輪であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の試料では、炉跡 222SX から採取された試料 No.6（PLD-20272）以外の試料がすべて、最終形成年輪を欠く部位不明の炭化材であり、年代測定の結果が古木効果の影響を受けている可能性、すなわち木材が実際に枯死・伐採された年代よりも古い年代を示している可能性がある。

参考文献

赤塚次郎（2009a）朝日遺跡標準層序の暦年代．朝日遺跡Ⅷ，134-137，愛知県埋蔵文化財センター．

赤塚次郎（2009b）弥生後期から古墳中期（八王子古宮式から宇田式期）の暦年代．日本文化財科学会第 26 回大会研究発表要旨集，14-20．

Bronk Ramsey, C.（1995）Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.

Bronk Ramsey, C.（2001）Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.

小林謙一（2009）近畿地方以東の地域への拡散．西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第 4 巻 弥生農耕のはじまりとその年代」：55-82，雄山閣．

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」：3-20，日本第四紀学会．

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E.（2009）IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, 1111-1150.

山本直人（2007）東海・北陸における弥生時代の開始年代．西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第 2 巻 縄文時代から弥生時代へ」：35-44，雄山閣．

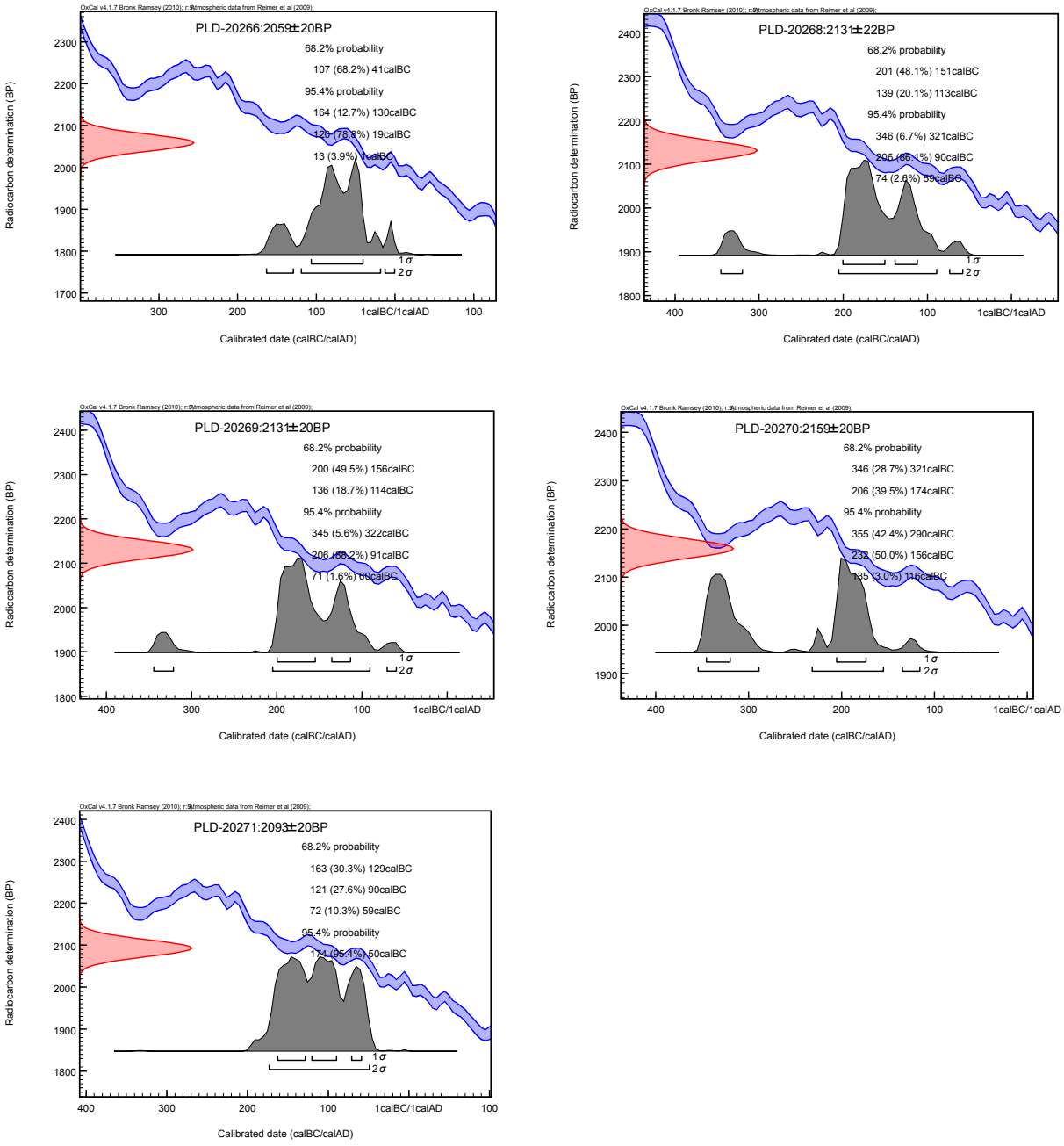


図 1　224SD 出土試料の暦年較正結果

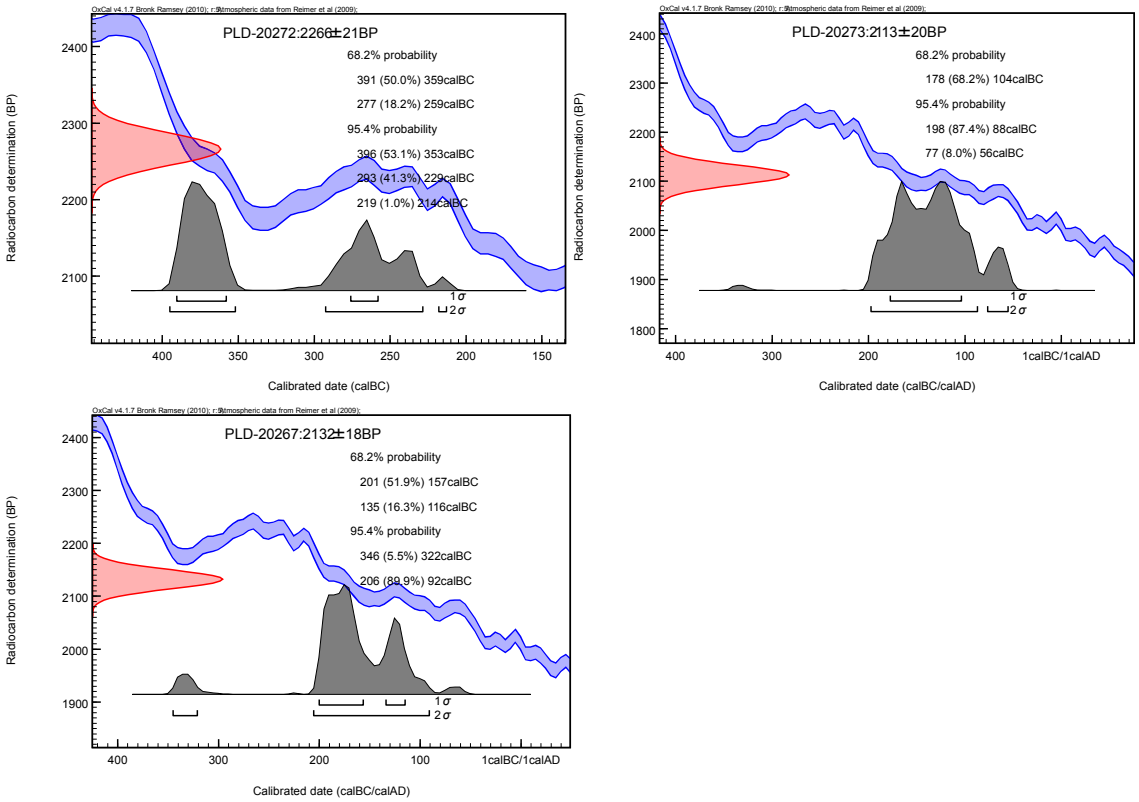


図 2　222SX 出土試料の暦年較正結果

表1　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-20266	試料No.1 調査区：11Bb 遺構：224SD その他：3269,111220,No.523	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-20268	試料No.2 調査区：11Bb 遺構：224SD その他：3269,111220,No.524	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-20269	試料No.3 調査区：11Bb 遺構：224SD その他：3269,111220,No.525	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N)
PLD-20270	試料No.4 調査区：11Bb 遺構：224SD その他：3269,111220,No.526	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-20271	試料No.5 調査区：11Bb 遺構：224SD その他：3269,111220,No.527	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N)
PLD-20272	試料No.6 調査区：11Bb 遺構：222SX その他：3170,111220,No.528	試料の種類：生の有機物 試料の性状：不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N)
PLD-20273	試料No.7 調査区：11Bb 遺構：222SX その他：3170,111220,No.529	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-20267	試料No.8 調査区：11Bb 遺構：222SX その他：3170,111220,No.530	試料の種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)

第４章（１）(b) 放射性炭素年代測定（2014 年度）

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤　茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・小林克也

1. はじめに

愛知県豊橋市に位置する東下地遺跡で出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、一部の試料については樹種同定も行われている（樹種同定の項参照)。

2. 試料と方法

試料は合計 64 点で、炭化材が 55 点、炭化種実が 1 点、土器付着炭化物が 8 点である。

炭化材の試料は、221SD と 224SD から各 3 点、275SX、546ST、838SK から各 2 点である以外は、すべて 1 遺構につき 1 点である。試料 No.5 は最終形成年輪が残っていたが、その他の試料は最終形成年輪が残っていなかった。なお樹種同定の結果、試料 No.4、12、13、16、18、19、28 はマツ属複維管束亜属、試料 No.1 はヒノキ、試料 No.9、29 はクマシデ属イヌシデ節、試料 No.2 がクリ、試料 No.37 がスダジイ、試料 No.15、42 がコナラ属アカガシ亜属、試料 No. 22、35、39、44、45、46、55 がコナラ属コナラ節、試料 No.17、25、32、33、34、36 がクワ属、試料 No.3 がツバキ属、試料 No.10 がモモ、試料 No.5、26 がクマノミズキ類、試料 No.6、41 が広葉樹、試料 No.11、21 がタケ亜科、試料 No.38 が同定不可であった。

炭化種実の試料は、825SK の試料 No.14（PLD-29123）である。

土器付着炭化物は、352SD から出土した鍋（0375）の胴部外面付着炭化物（PLD-29168)、454SX から出土した鍋（0255）の胴部外面付着炭化物（PLD-29166)、463SD から出土した鍋（0371）の胴部外面付着炭化物（PLD-29167)、478SD から出土した鍋（0802）の胴部外面付着炭化物（PLD-29170)、746SK から出土した鍋（E-598）の胴部外面付着炭化物（PLD-29172）と胴部内面付着炭化物（PLD-29173)、990SK から出土した鍋（0883）の胴部外面付着炭化物（PLD-29171)、A トレンチから出土した鍋（0389）の胴部外面付着炭化物（PLD-29169）である。

測定試料の情報、調製データは表 1 のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表 2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta^{13}C$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、図 1～3 にマルチプロット図を、図 4～11 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（^{14}C の半減期 5730±40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.2（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4. 考察

以下、2σ暦年代範囲（確率 95.4%）に着目して、遺構出土試料の測定結果と土器付着炭化物の測定結果に分け、結果を整理する。なお、土器編年と暦年代との対応関係は、縄文時代については工藤（2012）と千葉（2008）、弥生時代は小林（2009）と山本（2007）、古墳時代は赤塚（2009）を参照した。

・遺構出土試料の年代測定

217SK の試料 No.30（PLD-29139）は 2018-1995 cal BC(7.4%)および 1981-1883 cal BC(88.0%)となった。これは、縄文時代後期中葉に相当する。

082SX の試料 No.56（PLD-29165）、277SX の試料 No.42（PLD-29151）、233、234SN 畔間の試料 No.38（PLD-29147）、254SL の試料 No.40（PLD-29149）、123SN の試料 No.47（PLD-29156）、275SX の試料 No.45（PLD-29154）、試料 No.44（PLD-29153）、171SN の試料 No.50（PLD-29159）、268SX の試料 No.41（PLD-29150）、122SN の試料 No.49（PLD-29158）、281SX の試料 No.43（PLD-29152）は、紀元前 4 世紀～紀元前 1 世紀の暦年代を、236SD の試料 No.39（PLD-29148）、209SN の試料 No.53（PLD-29162）、150SD の試料 No.52（PLD-29161）、151SD の試料 No.51（PLD-29160）、108SN の試料 No.48（PLD-29157）、221SD の試料 No.34（PLD-29143）、試料 No.33（PLD-29142）、試料 No.32（PLD-29141）、215SN の試料 No.54（PLD-29163）、224SD の試料 No.37（PLD-29146）、試料 No.36（PLD-29145）、試料 No.35（PLD-29144）、220SX の試料 No.31（PLD-29140）、003SX の試料 No.55（PLD-29164）は、いずれも紀元前 2 世紀～紀元前 1 世紀の暦年代を示した。これらは、弥生時代中期に相当する。

121SN の試料 No.46（PLD-29155）は、157-136 cal BC(4.2%)および 114 cal BC-4 cal AD(91.2%)で、紀元前 2 世紀中頃～紀元後 1 世紀初頭の暦年代を示した。これは弥生時代中期～後期に相当する。

669SP の試料 No.9（PLD-29118）は 134-256 cal AD(88.3%)および 299-318 cal AD(7.1%)で、2 世紀前半～4 世紀前半の暦年代を示した。これは、弥生時代後期～古墳時代前期に相当する。

454SX の試料 No.1（PLD-29110）は 1016-1050 cal AD(53.5%)、1083-1126 cal AD(33.6%)、1136-1151

cal AD(8.3%)で、11 世紀前半～12 世紀中頃の暦年代を示した。これは、平安時代中期～後期に相当する。

511SX の試料 No.2 (PLD-29111) は 1191-1264 cal AD(95.4%)で、12 世紀末～13 世紀後半の暦年代を示した。これは、平安時代末～鎌倉時代に相当する。

921SK の試料 No.25 (PLD-29134) は 1314-1357 cal AD(62.6%)および 1388-1412 cal AD(32.8%)、837SK の試料 No.17 (PLD-29126) は 1320-1350 cal AD(29.9%)および 1391-1427 cal AD(65.5%)で、14 世紀前半～15 世紀前半の暦年代を示した。これは、鎌倉時代～室町時代に相当する。

578SK の試料 No.4 (PLD-29113) は 1419-1448 cal AD(95.4%)、823SK の試料 No.13 (PLD-29122) は 1429-1463 cal AD(95.4%)、698SK の試料 No.10 (PLD-29119) は 1430-1468 cal AD(95.4%)で、いずれも 15 世紀代の暦年代を示した。これは、室町時代に相当する。

905SK の試料 No.24 (PLD-29133)、620SP の試料 No.7 (PLD-29116)、882SK の試料 No.21 (PLD-29130)、816SX の試料 No.12 (PLD-29121)、836SK の試料 No.16 (PLD-29125)、625SP の試料 No.8 (PLD-29117)、814SK の試料 No.11 (PLD-29120)、898SP の試料 No.23 (PLD-29132)、989SK の試料 No.28 (PLD-29137)、830SK の試料 No.15 (PLD-29124)、887SK の試料 No.22 (PLD-29131)、990SK の試料 No.29 (PLD-29138)、873SK の試料 No.20 (PLD-29129)、988SK の試料 No.27 (PLD-29136)、838SK の試料 No.5 (PLD-29114)、試料 No.18 (PLD-29127)、546ST の試料 No.6 (PLD-29115)、試料 No.3 (PLD-29112)、986SK の試料 No.26 (PLD-29135) では、いずれも 15 世紀中頃～17 世紀中頃の暦年代を示した。これは、室町時代～江戸時代前期に相当する。

825SK の試料 No.14 (PLD-29123) は 1525-1558 cal AD(18.1%)、1631-1665 cal AD(75.3%)、1785-1794 cal AD(2.0%)で、16 世紀前半～18 世紀末の暦年代を示した。これは、室町時代～江戸時代後期に相当する。

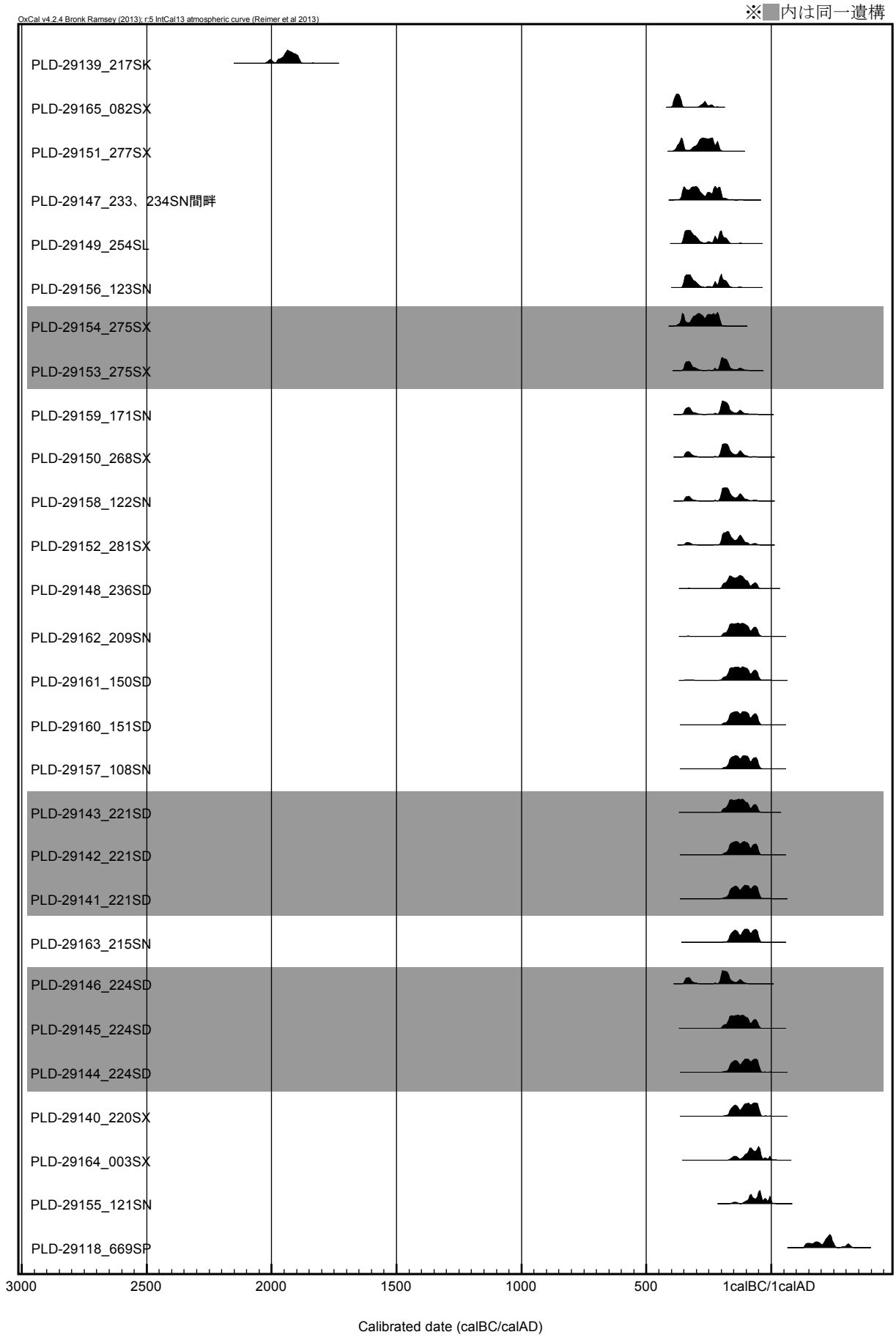


図1　遺構のマルチプロット図（1）

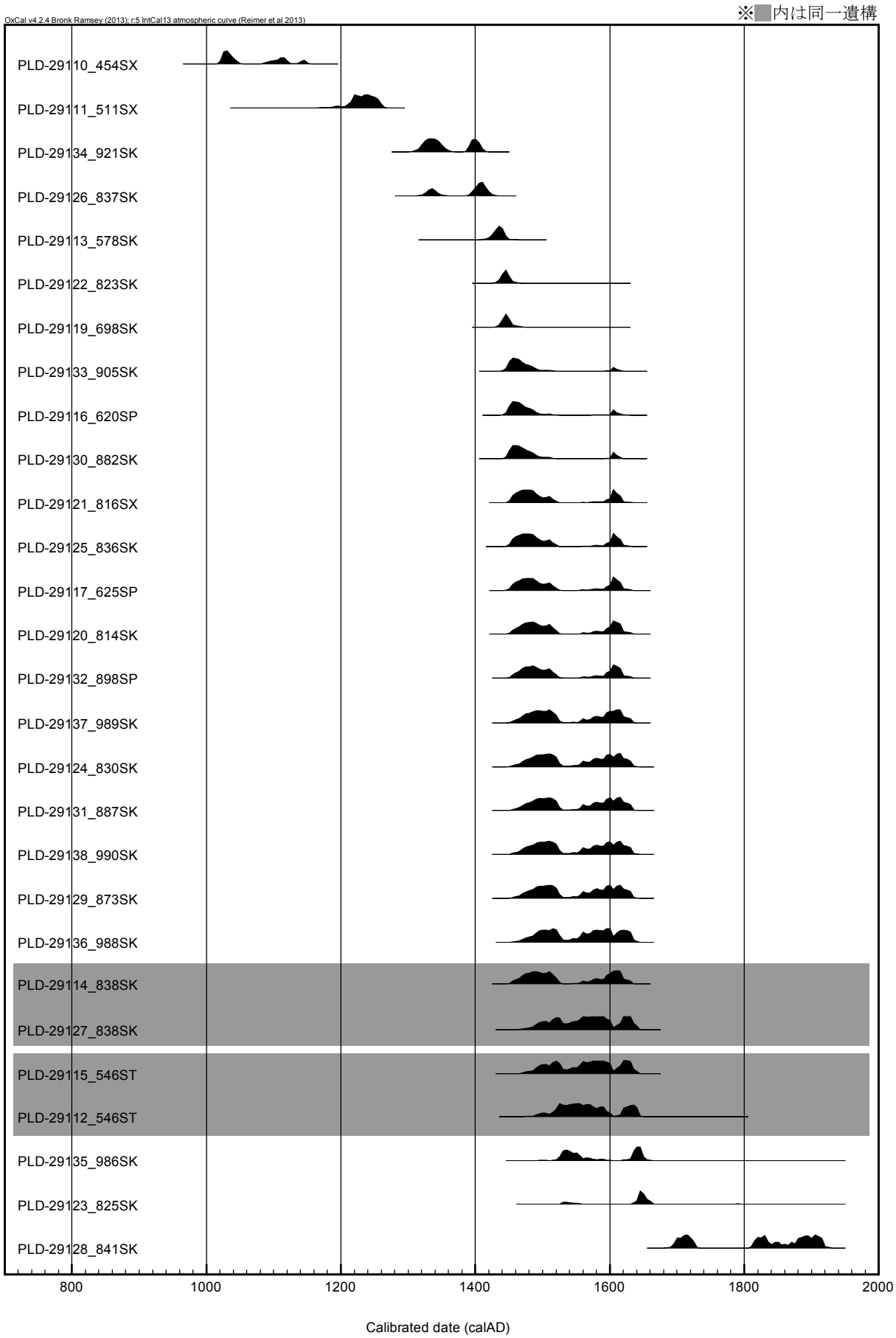


図2　遺構のマルチプロット図(2)

841SK の試料 No.19（PLD-29128）は 1694-1728 cal AD(25.9%)および 1812-1919 cal AD(69.5%)で、17 世紀末～20 世紀前半の暦年代を示した。これは、江戸時代中期～大正時代に相当する。

・土器付着炭化物の年代測定

990SK から出土した鍋（0883）の胴部外面付着炭化物（PLD-29171）は 1165-1251 cal AD(95.4%)で、12 世紀後半～13 世紀中頃の暦年代を示した。これは、平安時代後期～鎌倉時代に相当する。

454SX から出土した鍋（0255）の胴部外面付着炭化物（PLD-29166）は 1219-1267 cal AD(95.4%)で、13 世紀代の暦年代を示した。これは、鎌倉時代に相当する。

352SD から出土した鍋（0375）の胴部外面付着炭化物（PLD-29168）は 1425-1465 cal AD(95.4%)で、15 世紀代の暦年代を示した。これは室町時代に相当する。

463SD から出土した鍋（0371）の胴部外面付着炭化物（PLD-29167）は 1447-1515 cal AD(78.8%)および 1598-1618 cal AD(16.6%)、478SD から出土した鍋（0802）の胴部外面付着炭化物（PLD-29170）は 1446-1522 cal AD(73.3%)、1578-1583 cal AD(0.7%)、1591-1620 cal AD(21.4%) 、A トレンチから出土した鍋（0389）の胴部外面付着炭化物（PLD-29169）は 1466-1529 cal AD(42.1%)および 1552-1634 cal AD(53.3%)で、15 世紀後半～17 世紀前半の暦年代を示した。これは、室町時代～江戸時代前期に相当する。

746SK から出土した鍋（E-598）の胴部内面付着炭化物（PLD-29173）は 1664-1684 cal AD(19.8%)、1736-1806 cal AD(52.8%)、1934 cal AD 以降(22.8%)で、17 世紀後半～19 世紀初頭および 20 世紀前半以降の暦年代を示した。これは、江戸時代前期～後期または昭和時代以降である。746SK から出土した鍋（E-598）の胴部外面付着炭化物（PLD-29172）は 1668-1696 cal AD(15.5%)、1726-1782 cal

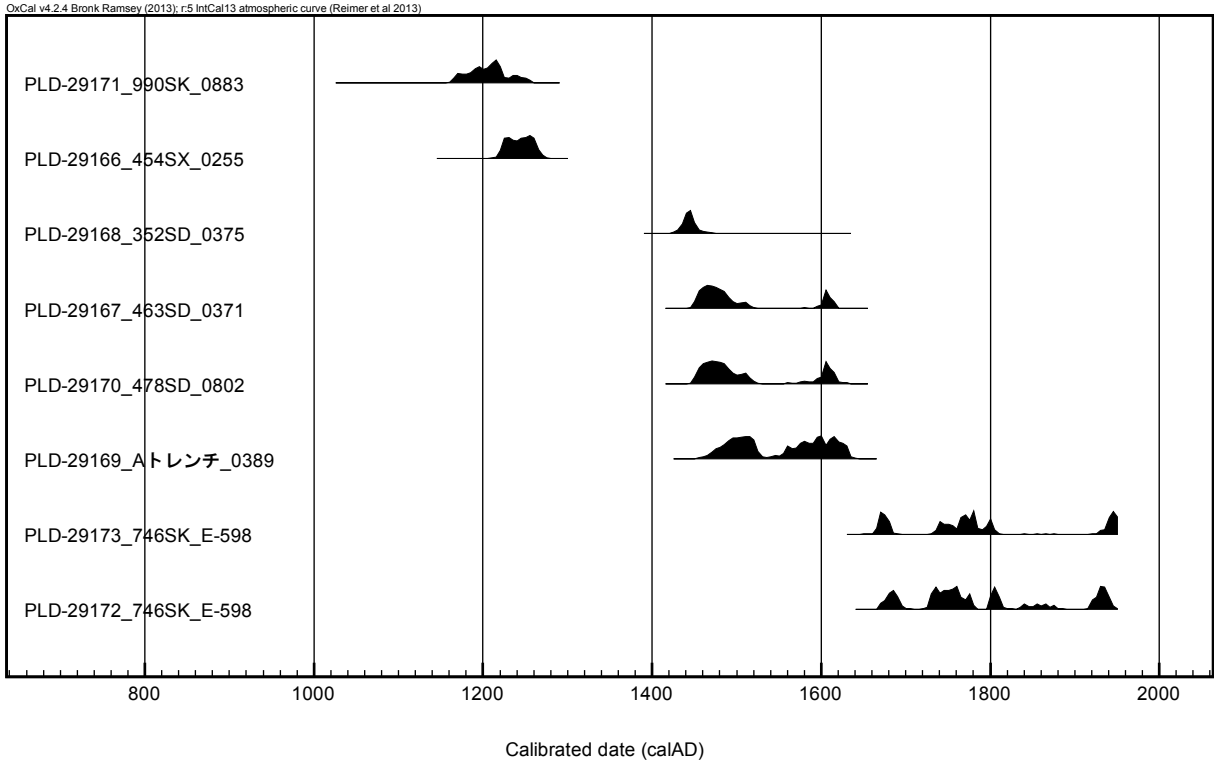


図3　土器付着炭化物のマルチプロット図

AD(42.5%)、1796-1815 cal AD(11.7%)、1836-1844 cal AD(1.6%)、1851-1877 cal AD(4.5%)、1917-1945 cal AD(19.5%)で、17 世紀後半～20 世紀中頃の暦年代を示した。これは、江戸時代前期～昭和時代に相当する。なお PLD-29173 と PLD-29172 は同一土器の内面および外面から採取した土器付着炭化物であるが、共にほぼ同じ頃の年代を示しており、測定結果は調和的である。

参考文献

赤塚次郎（2009）弥生後期から古墳中期（八王子古宮式から宇田式期）の暦年代. 日本文化財科学会第 26 回大会実行委員会編「日本文化財科学会第 26 回大会研究機発表要旨集」: 14-20, 日本文化財科学会.

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

千葉　豊（2008）縁帯文土器. 小林達雄編「総覧縄文土器」: 642-649, アム・プロモーション.

工藤雄一郎（2012）旧石器・縄文時代の環境文化史―高精度放射性炭素年代測定と考古学―. 373p, 神泉社.

小林謙一（2009）近畿地方以東の地域への拡散. 西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第 4 巻弥生農耕のはじまりとその年代」: 55-82, 雄山閣.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の 14C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

山本直人（2007）東海・北陸における弥生時代の開始年代. 西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第 2 巻　縄文時代から弥生時代へ」: 35-44, 雄山閣.

表1-1　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-29110	調査区：11Aa 遺構：454SX 試料No.1 遺物No.575	種類：炭化材（ヒノキ） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29111	調査区：11Aa 遺構：511SX 試料No.2 遺物No.578	種類：炭化材（クリ） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29112	調査区：11Ab 遺構：546ST 試料No.3 遺物No.1261	種類：炭化材（ツバキ属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29113	調査区：11Ab 遺構：578SK 試料No.4 遺物No.1408	種類：炭化材（マツ属複維管束亜属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29114	調査区：11Ab 遺構：838SK 試料No.5 遺物No.1435	種類：炭化材（クマノミズキ類） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29115	調査区：11Ab 遺構：546ST 試料No.6	種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29116	調査区：11Ab 遺構：620SP 試料No.7	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29117	調査区：11Ab 遺構：625SP 試料No.8	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29118	調査区：11Ab 遺構：669SP 試料No.9	種類：炭化材（クマシデ属イヌシデ節） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29119	調査区：11Ab 遺構：698SK 試料No.10	種類：炭化材（モモ） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29120	調査区：11Ab 遺構：814SK 試料No.11	種類：炭化材（タケ亜科） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29121	調査区：11Ab 遺構：816SX 試料No.12	種類：炭化材（マツ属複維管束亜属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29122	調査区：11Ab 遺構：823SK 試料No.13	種類：炭化材（マツ属複維管束亜属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29123	調査区：11Ab 遺構：825SK 試料No.14	種類：炭化種実 試料の性状：種実 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29124	調査区：11Ab 遺構：830SK 試料No.15	種類：炭化材（コナラ属アカガシ亜属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）

表1-2　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-29125	調査区：11Ab 遺構：836SK 試料No.16	種類：炭化材（マツ属複維管束亜属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29126	調査区：11Ab 遺構：837SK 試料No.17	種類：炭化材（クワ属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29127	調査区：11Ab 遺構：838SK 試料No.18	種類：炭化材（マツ属複維管束亜属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29128	調査区：11Ab 遺構：841SK 試料No.19	種類：炭化材（マツ属複維管束亜属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29129	調査区：11Ab 遺構：873SK 試料No.20	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29130	調査区：11Ab 遺構：882SK 試料No.21	種類：炭化材（タケ亜科） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29131	調査区：11Ab 遺構：887SK 試料No.22	種類：炭化材（コナラ属コナラ節） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29132	調査区：11Ab 遺構：898SP 試料No.23	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29133	調査区：11Ab 遺構：905SK 試料No.24	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29134	調査区：11Ab 遺構：921SK 試料No.25	種類：炭化材（クワ属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29135	調査区：11Ab 遺構：986SK 試料No.26	種類：炭化材（クマノミズキ類） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29136	調査区：11Ab 遺構：988SK 試料No.27	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29137	調査区：11Ab 遺構：989SK 試料No.28	種類：炭化材（マツ属複維管束亜属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29138	調査区：11Ab 遺構：990SK 試料No.29	種類：炭化材（クマシデ属イヌシデ節） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29139	調査区：11Bb 遺構：217SK 試料No.30 遺物No.445	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）

表1-3　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-29140	調査区：11Bb 遺構：220SX 試料No.31 遺物No.449	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29141	調査区：11Bb 遺構：221SD 試料No.32 遺物No.491	種類：炭化材（クワ属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29142	調査区：11Bb 遺構：221SD 試料No.33 遺物No.493	種類：炭化材（クワ属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29143	調査区：11Bb 遺構：221SD 試料No.34 遺物No.507	種類：炭化材（クワ属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29144	調査区：11Bb 遺構：224SD 試料No.35 遺物No.542	種類：炭化材（コナラ属コナラ節） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29145	調査区：11Bb 遺構：224SD 試料No.36 遺物No.550	種類：炭化材（クワ属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29146	調査区：11Bb 遺構：224SD 試料No.37 遺物No.559	種類：炭化材（スダジイ） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29147	調査区：11Bb 遺構：233、234SN畔間 試料No.38 遺物No.564	種類：炭化材（不明） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29148	調査区：11Bb 遺構：236SD 試料No.39 遺物No.574	種類：炭化材（コナラ属コナラ節） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29149	調査区：11Bb 遺構：254SL 試料No.40 遺物No.9581	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29150	調査区：11Bb 遺構：268SX 試料No.41 遺物No.589	種類：炭化材（広葉樹） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29151	調査区：11Bb 遺構：277SX 試料No.42 遺物No.593	種類：炭化材（コナラ属アカガシ亜属） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29152	調査区：11Bb 遺構：281SX 試料No.43 遺物No.603	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29153	調査区：11Bb 遺構：275SX 試料No.44 遺物No.604	種類：炭化材（コナラ属コナラ節） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29154	調査区：11Bb 遺構：275SX 試料No.45 遺物No.608	種類：炭化材（コナラ属コナラ節） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）

表1-4　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-29155	調査区：11C 遺構：121SN 試料No.46 遺物No.24	種類：炭化材（コナラ属コナラ節） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29156	調査区：11C 遺構：123SN 試料No.47 遺物No.26	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29157	調査区：11C 遺構：108SN 試料No.48 遺物No.37	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29158	調査区：11C 遺構：122SN 試料No.49 遺物No.38	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29159	調査区：11C 遺構：171SN 試料No.50 遺物No.61	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29160	調査区：11C 遺構：151SD 試料No.51 遺物No.64	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29161	調査区：11C 遺構：150SD 試料No.52 遺物No.65	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29162	調査区：11C 遺構：209SN 試料No.53 遺物No.97	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29163	調査区：11C 遺構：215SN 試料No.54 遺物No.98	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29164	調査区：11C 遺構：003SX 試料No.55 遺物No.107	種類：炭化材（コナラ属コナラ節） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29165	調査区：11D 遺構：082SX 試料No.56 遺物No.34	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29166	調査区：11Aa グリッド：3780 遺構：454SX 層位：南北ベルト二段目 試料No.0255 遺物No.764	器種：鍋 採取部位：胴部外面 種類：付着炭化物	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.1N,塩酸：1.2N）
PLD-29167	調査区：11Aa グリッド：4080 遺構：463SD 試料No.0371 遺物No.272	器種：鍋 採取部位：胴部外面 種類：付着炭化物	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.1N,塩酸：1.2N）
PLD-29168	調査区：11Aa グリッド：3981 遺構：352SD 試料No.0375 遺物No.130	器種：鍋 採取部位：胴部外面 種類：付着炭化物	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.1N,塩酸：1.2N）

表1-5　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-29169	調査区：11Aa グリッド：4080 遺構：Aトレンチ 試料No.0389 遺物No.279	器種：鍋 採取部位：胴部外面 種類：付着炭化物	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.1N,塩酸：1.2N）
PLD-29170	調査区：11Aa グリッド：4180 遺構：478SD 試料No.0802	器種：鍋 採取部位：胴部外面 種類：付着炭化物	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.1N,塩酸：1.2N）
PLD-29171	調査区：11Aa グリッド：3777 遺構：990SK 試料No.0883 遺物No.1482	器種：鍋 採取部位：胴部外面 種類：付着炭化物	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.1N,塩酸：1.2N）
PLD-29172	調査区：06D グリッド：6H13S 遺構：746SK 試料No.E-598 遺物No.110	器種：鍋 採取部位：胴部外面 種類：付着炭化物	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-29173	調査区：06D グリッド：6H13S 遺構：746SK 試料No.E-598 遺物No.110	器種：鍋 採取部位：胴部内面 種類：付着炭化物	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）

表2-1　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-29110 454SX	-26.32±0.17	976±18	975±20	1021-1044 cal AD (47.4%) 1101-1119 cal AD (20.8%)	1016-1050 cal AD (53.5%) 1083-1126 cal AD (33.6%) 1136-1151 cal AD (8.3%)
PLD-29111 511SX	-27.32±0.20	814±18	815±20	1218-1251 cal AD (68.2%)	1191-1264 cal AD (95.4%)
PLD-29112 546ST	-24.74±0.16	316±18	315±20	1522-1575 cal AD (51.4%) 1585-1590 cal AD (3.8%) 1625-1640 cal AD (13.0%)	1495-1602 cal AD (75.0%) 1616-1644 cal AD (20.4%)
PLD-29113 578SK	-27.82±0.15	472±18	470±20	1428-1443 cal AD (68.2%)	1419-1448 cal AD (95.4%)
PLD-29114 838SK	-27.11±0.18	362±18	360±20	1470-1517 cal AD (45.0%) 1595-1618 cal AD (23.2%)	1455-1524 cal AD (56.3%) 1571-1631 cal AD (39.1%)
PLD-29115 546ST	-26.77±0.16	334±18	335±20	1497-1526 cal AD (17.3%) 1556-1601 cal AD (37.3%) 1616-1633 cal AD (13.6%)	1485-1638 cal AD (95.4%)
PLD-29116 620SP	-27.47±0.23	397±18	395±20	1449-1480 cal AD (68.2%)	1443-1499 cal AD (86.1%) 1508-1511 cal AD (0.6%) 1601-1616 cal AD (8.7%)
PLD-29117 625SP	-27.41±0.16	374±18	375±20	1458-1495 cal AD (49.9%) 1602-1616 cal AD (18.3%)	1449-1523 cal AD (67.8%) 1575-1624 cal AD (27.6%)
PLD-29118 669SP	-24.99±0.16	1800±19	1800±20	144-154 cal AD (5.6%) 168-195 cal AD (17.6%) 210-250 cal AD (44.9%)	134-256 cal AD (88.3%) 299-318 cal AD (7.1%)
PLD-29119 698SK	-25.27±0.15	437±18	435±20	1438-1452 cal AD (68.2%)	1430-1468 cal AD (95.4%)
PLD-29120 814SK	-26.38±0.18	368±18	370±20	1465-1514 cal AD (49.1%) 1600-1617 cal AD (19.1%)	1452-1523 cal AD (62.2%) 1574-1627 cal AD (33.2%)
PLD-29121 816SX	-26.26±0.15	377±17	375±15	1455-1494 cal AD (52.4%) 1602-1615 cal AD (15.8%)	1448-1521 cal AD (72.6%) 1591-1620 cal AD (22.8%)
PLD-29122 823SK	-27.46±0.19	441±18	440±20	1437-1451 cal AD (68.2%)	1429-1463 cal AD (95.4%)
PLD-29123 825SK	-24.86±0.15	267±18	265±20	1637-1661 cal AD (68.2%)	1525-1558 cal AD (18.1%) 1631-1665 cal AD (75.3%) 1785-1794 cal AD (2.0%)
PLD-29124 830SK	-28.04±0.19	353±18	355±20	1478-1522 cal AD (37.0%) 1577-1584 cal AD (4.4%) 1591-1623 cal AD (26.8%)	1464-1526 cal AD (45.6%) 1556-1633 cal AD (49.8%)
PLD-29125 836SK	-26.67±0.18	377±18	375±20	1455-1494 cal AD (52.0%) 1602-1615 cal AD (16.2%)	1447-1522 cal AD (71.5%) 1577-1583 cal AD (0.9%) 1591-1620 cal AD (22.9%)
PLD-29126 837SK	-28.34±0.16	549±19	550±20	1330-1340 cal AD (15.1%) 1397-1419 cal AD (53.1%)	1320-1350 cal AD (29.9%) 1391-1427 cal AD (65.5%)
PLD-29127 838SK	-27.79±0.17	330±19	330±20	1513-1528 cal AD (11.9%) 1551-1601 cal AD (41.9%) 1617-1634 cal AD (14.4%)	1488-1604 cal AD (76.1%) 1610-1640 cal AD (19.3%)

表2-2　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-29128 841SK	-30.35±0.16	88±19	90±20	1700-1720 cal AD (20.1%) 1819-1833 cal AD (13.4%) 1880-1915 cal AD (34.8%)	1694-1728 cal AD (25.9%) 1812-1919 cal AD (69.5%)
PLD-29129 873SK	-27.58±0.16	351±18	350±20	1483-1522 cal AD (33.4%) 1575-1585 cal AD (6.5%) 1590-1625 cal AD (28.2%)	1465-1527 cal AD (43.9%) 1555-1634 cal AD (51.5%)
PLD-29130 882SK	-28.71±0.12	395±19	395±20	1449-1484 cal AD (68.2%)	1444-1512 cal AD (85.1%) 1601-1616 cal AD (10.3%)
PLD-29131 887SK	-28.13±0.24	353±18	355±20	1478-1522 cal AD (37.0%) 1577-1584 cal AD (4.4%) 1591-1623 cal AD (26.8%)	1464-1526 cal AD (45.6%) 1556-1633 cal AD (49.8%)
PLD-29132 898SP	-27.51±0.22	368±17	370±15	1466-1514 cal AD (48.8%) 1600-1617 cal AD (19.4%)	1452-1523 cal AD (63.1%) 1575-1625 cal AD (32.3%)
PLD-29133 905SK	-29.09±0.20	400±18	400±20	1448-1478 cal AD (68.2%)	1441-1498 cal AD (88.3%) 1601-1615 cal AD (7.1%)
PLD-29134 921SK	-28.02±0.18	577±17	575±15	1323-1347 cal AD (45.9%) 1393-1405 cal AD (22.3%)	1314-1357 cal AD (62.6%) 1388-1412 cal AD (32.8%)
PLD-29135 986SK	-27.68±0.13	286±18	285±20	1528-1551 cal AD (37.5%) 1634-1648 cal AD (30.7%)	1521-1577 cal AD (55.3%) 1583-1591 cal AD (1.5%) 1624-1655 cal AD (38.5%)
PLD-29136 988SK	-25.96±0.18	343±18	345±20	1491-1523 cal AD (26.7%) 1572-1603 cal AD (26.2%) 1611-1630 cal AD (15.3%)	1470-1530 cal AD (36.2%) 1541-1635 cal AD (59.2%)
PLD-29137 989SK	-25.99±0.12	358±18	360±20	1472-1520 cal AD (43.1%) 1592-1619 cal AD (25.1%)	1460-1524 cal AD (50.8%) 1558-1632 cal AD (44.6%)
PLD-29138 990SK	-26.68±0.13	352±19	350±20	1481-1522 cal AD (32.7%) 1575-1625 cal AD (35.5%)	1464-1527 cal AD (44.6%) 1555-1634 cal AD (50.8%)
PLD-29139 217SK	-28.75±0.15	3581±23	3580±25	1954-1894 cal BC (68.2%)	2018-1995 cal BC (7.4%) 1981-1883 cal BC (88.0%)
PLD-29140 220SX	-26.46±0.11	2081±20	2080±20	152-137 cal BC (12.2%) 114- 53 cal BC (56.0%)	168-47 cal BC (95.4%)
PLD-29141 221SD	-25.85±0.11	2087±21	2085±20	158-133 cal BC (21.1%) 117- 87 cal BC (27.5%) 78- 56 cal BC (19.5%)	172-47 cal BC (95.4%)
PLD-29142 221SD	-26.08±0.11	2095±20	2095±20	164- 92 cal BC (62.5%) 69- 61 cal BC (5.7%)	176-51 cal BC (95.4%)
PLD-29143 221SD	-28.24±0.13	2105±21	2105±20	171- 96 cal BC (68.2%)	191-54 cal BC (95.4%)
PLD-29144 224SD	-25.49±0.12	2084±21	2085±20	156-135 cal BC (16.6%) 116- 54 cal BC (51.6%)	171-46 cal BC (95.4%)
PLD-29145 224SD	-26.69±0.11	2102±21	2100±20	170- 92 cal BC (68.2%)	186-52 cal BC (95.4%)

表2-3　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-29146 224SD	-26.14±0.17	2146±21	2145±20	344-324 cal BC (14.0%) 205-164 cal BC (52.3%) 127-124 cal BC (1.9%)	351-300 cal BC (22.2%) 227-224 cal BC (0.4%) 211-106 cal BC (72.7%)
PLD-29147 233、234SN畔間	-21.11±0.19	2197±22	2195±20	355-289 cal BC (46.7%) 233-204 cal BC (21.5%)	361-198 cal BC (95.4%)
PLD-29148 236SD	-24.95±0.11	2111±21	2110±20	176-101 cal BC (68.2%)	197-87 cal BC (86.3%) 79-56 cal BC (9.1%)
PLD-29149 254SL	-26.75±0.14	2174±21	2175±20	352-299 cal BC (49.5%) 227-223 cal BC (2.5%) 211-192 cal BC (16.3%)	357-282 cal BC (57.0%) 258-246 cal BC (1.8%) 236-169 cal BC (36.6%)
PLD-29150 268SX	-26.41±0.11	2142±22	2140±20	342-326 cal BC (9.1%) 205-161 cal BC (51.3%) 131-119 cal BC (7.7%)	351-302 cal BC (17.5%) 211- 94 cal BC (77.9%)
PLD-29151 277SX	-25.96±0.11	2235±21	2235±20	366-354 cal BC (10.8%) 292-231 cal BC (57.4%)	382-348 cal BC (20.0%) 318-207 cal BC (75.4%)
PLD-29152 281SX	-27.23±0.15	2131±20	2130±20	200-155 cal BC (50.7%) 136-115 cal BC (17.5%)	345-322 cal BC (5.0%) 206- 91 cal BC (89.1%) 71- 61 cal BC (1.3%)
PLD-29153 275SX	-24.99±0.12	2155±21	2155±20	346-321 cal BC (24.0%) 206-171 cal BC (44.2%)	355-292 cal BC (35.9%) 231-148 cal BC (54.3%) 140-113 cal BC (5.2%)
PLD-29154 275SX	-26.23±0.12	2216±20	2215±20	358-350 cal BC (6.2%) 306-275 cal BC (23.6%) 259-210 cal BC (38.5%)	365-337 cal BC (13.4%) 329-203 cal BC (82.0%)
PLD-29155 121SN	-24.19±0.13	2048±19	2050±20	93-37 cal BC (57.1%) 29-22 cal BC (4.8%) 10- 2 cal BC (6.3%)	157-136 cal BC (4.2%) 114 cal BC- 4 cal AD (91.2%)
PLD-29156 123SN	-12.08±0.15	2170±20	2170±20	350-306 cal BC (43.7%) 210-181 cal BC (24.5%)	356-284 cal BC (55.1%) 256-250 cal BC (0.7%) 235-167 cal BC (39.6%)
PLD-29157 108SN	-11.43±0.12	2093±19	2095±20	163-129 cal BC (31.1%) 121- 91 cal BC (27.9%) 71- 60 cal BC (9.1%)	173-51 cal BC (95.4%)
PLD-29158 122SN	-24.94±0.22	2139±22	2140±20	336-330 cal BC (3.3%) 204-157 cal BC (53.1%) 134-116 cal BC (11.9%)	351-306 cal BC (14.0%) 210- 91 cal BC (81.4%)
PLD-29159 171SN	-24.16±0.10	2148±21	2150±20	346-321 cal BC (17.6%) 206-164 cal BC (50.6%)	352-298 cal BC (25.2%) 228-222 cal BC (0.8%) 211-108 cal BC (69.4%)
PLD-29160 151SD	-19.09±0.13	2089±23	2090±25	161-131 cal BC (24.8%) 119- 88 cal BC (26.7%) 76- 56 cal BC (16.7%)	176-46 cal BC (95.4%)
PLD-29161 150SD	-24.33±0.20	2099±22	2100±20	168- 92 cal BC (66.1%) 67- 64 cal BC (2.1%)	181-51 cal BC (95.4%)
PLD-29162 209SN	-25.79±0.17	2101±21	2100±20	170- 92 cal BC (68.2%)	185-52 cal BC (95.4%)
PLD-29163 215SN	-25.09±0.19	2086±18	2085±20	157-134 cal BC (19.5%) 116- 87 cal BC (27.5%) 78- 55 cal BC (21.2%)	167-51 cal BC (95.4%)

表2-4　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-29164 003SX	-25.13±0.17	2059±19	2060±20	106- 41 cal BC (68.2%)	163-130 cal BC (11.3%) 120- 19 cal BC (80.7%) 12- 1 cal BC (3.3%)
PLD-29165 082SX	-12.12±0.19	2271±19	2270±20	392-360 cal BC (64.6%) 268-265 cal BC (3.6%)	397-356 cal BC (67.4%) 287-234 cal BC (28.0%)
PLD-29166 454SX 0255	-25.17±0.20	792±17	790±15	1225-1234 cal AD (22.4%) 1242-1261 cal AD (45.8%)	1219-1267 cal AD (95.4%)
PLD-29167 463SD 0371	-24.88±0.21	384±17	385±15	1453-1489 cal AD (60.4%) 1603-1609 cal AD (7.8%)	1447-1515 cal AD (78.8%) 1598-1618 cal AD (16.6%)
PLD-29168 352SD 0375	-24.39±0.25	445±20	445±20	1435-1451 cal AD (68.2%)	1425-1465 cal AD (95.4%)
PLD-29169 Aトレンチ 0389	-23.80±0.18	349±18	350±20	1487-1522 cal AD (31.0%) 1575-1625 cal AD (37.2%)	1466-1529 cal AD (42.1%) 1552-1634 cal AD (53.3%)
PLD-29170 478SD 0802	-24.20±0.17	380±19	380±20	1453-1494 cal AD (54.1%) 1602-1614 cal AD (14.1%)	1446-1522 cal AD (73.3%) 1578-1583 cal AD (0.7%) 1591-1620 cal AD (21.4%)
PLD-29171 990SK 0883	-25.67±0.27	838±18	840±20	1170-1175 cal AD (4.6%) 1181-1224 cal AD (63.6%)	1165-1251 cal AD (95.4%)
PLD-29172 746SK E-598	-25.90±0.17	152±16	150±15	1677-1691 cal AD (10.2%) 1729-1765 cal AD (32.9%) 1773-1777 cal AD (2.6%) 1800-1810 cal AD (8.7%) 1925-1940 cal AD (13.7%)	1668-1696 cal AD (15.5%) 1726-1782 cal AD (42.5%) 1796-1815 cal AD (11.7%) 1836-1844 cal AD (1.6%) 1851-1877 cal AD (4.5%) 1917-1945 cal AD (19.5%)
PLD-29173 746SK E-598	-22.93±0.19	186±16	185±15	1667-1680 cal AD (17.7%) 1764-1783 cal AD (25.5%) 1799-1801 cal AD (2.6%) 1939... cal AD (22.3%)	1664-1684 cal AD (19.8%) 1736-1806 cal AD (52.8%) 1934... cal AD (22.8%)

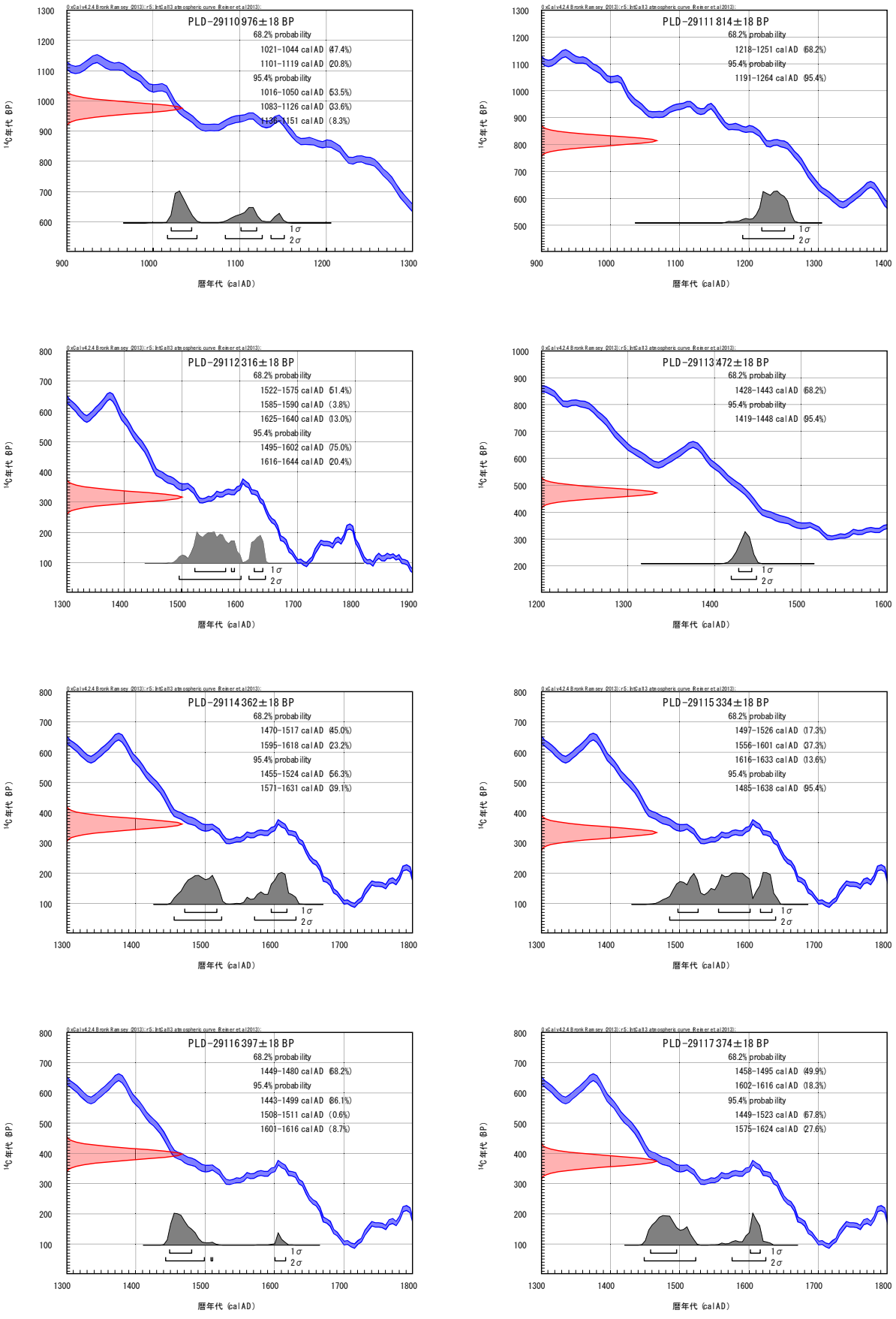

OxCal v4.2.4 Bronk Ramsey (2013); r:5; IntCal13 atmospheric curve (Reimer et al 2013);
PLD-29110 976±18 BP
68.2% probability
1021–1044 calAD (47.4%)
1101–1119 calAD (20.8%)
95.4% probability
1016–1050 calAD (53.5%)
1083–1126 calAD (33.6%)
1136–1151 calAD (8.3%)
PLD-29111 814±18 BP
68.2% probability
1218–1251 calAD (68.2%)
95.4% probability
1191–1264 calAD (95.4%)
PLD-29112 316±18 BP
68.2% probability
1522–1575 calAD (51.4%)
1585–1590 calAD (3.8%)
1625–1640 calAD (13.0%)
95.4% probability
1495–1602 calAD (75.0%)
1616–1644 calAD (20.4%)
PLD-29113 472±18 BP
68.2% probability
1428–1443 calAD (68.2%)
95.4% probability
1419–1448 calAD (95.4%)
PLD-29114 362±18 BP
68.2% probability
1470–1517 calAD (45.0%)
1595–1618 calAD (23.2%)
95.4% probability
1455–1524 calAD (56.3%)
1571–1631 calAD (39.1%)
PLD-29115 334±18 BP
68.2% probability
1497–1526 calAD (17.3%)
1556–1601 calAD (37.3%)
1616–1633 calAD (13.6%)
95.4% probability
1485–1638 calAD (95.4%)
PLD-29116 397±18 BP
68.2% probability
1449–1480 calAD (68.2%)
95.4% probability
1443–1499 calAD (86.1%)
1508–1511 calAD (0.6%)
1601–1616 calAD (8.7%)
PLD-29117 374±18 BP
68.2% probability
1458–1495 calAD (49.9%)
1602–1616 calAD (18.3%)
95.4% probability
1449–1523 calAD (67.8%)
1575–1624 calAD (27.6%)
14C年代 (BP)
暦年代 (calAD)
1σ
2σ

図４　暦年較正結果（1）

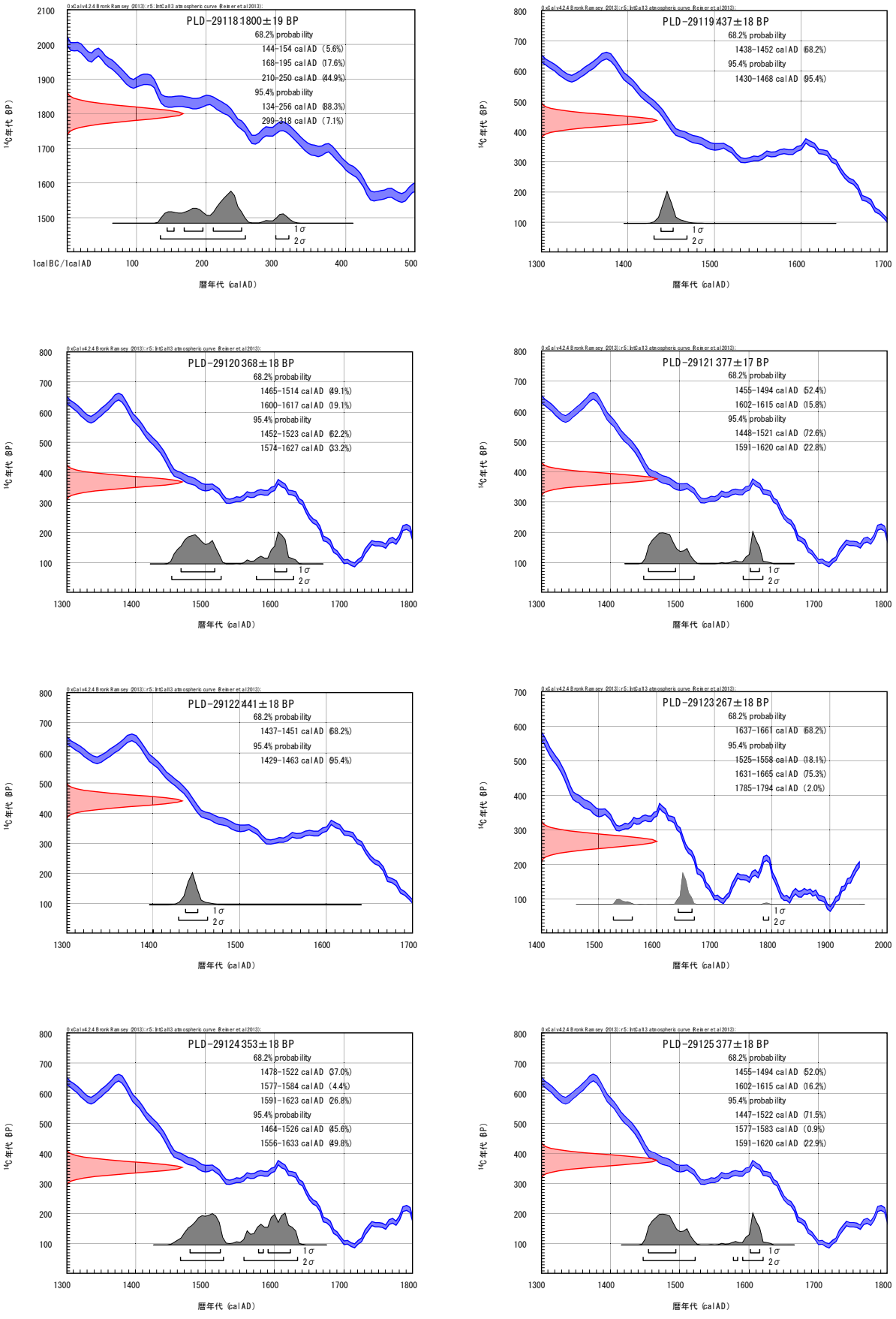

PLD-29118 1800±19 BP
68.2% probability
144-154 calAD (5.6%)
168-195 calAD (17.6%)
210-250 calAD (44.9%)
95.4% probability
134-256 calAD (88.3%)
299-318 calAD (7.1%)
PLD-29119 437±18 BP
68.2% probability
1438-1452 calAD (68.2%)
95.4% probability
1430-1468 calAD (95.4%)
PLD-29120 368±18 BP
68.2% probability
1465-1514 calAD (49.1%)
1600-1617 calAD (19.1%)
95.4% probability
1452-1523 calAD (62.2%)
1574-1627 calAD (33.2%)
PLD-29121 377±17 BP
68.2% probability
1455-1494 calAD (52.4%)
1602-1615 calAD (15.8%)
95.4% probability
1448-1521 calAD (72.6%)
1591-1620 calAD (22.8%)
PLD-29122 441±18 BP
68.2% probability
1437-1451 calAD (68.2%)
95.4% probability
1429-1463 calAD (95.4%)
PLD-29123 267±18 BP
68.2% probability
1637-1661 calAD (68.2%)
95.4% probability
1525-1558 calAD (18.1%)
1631-1665 calAD (75.3%)
1785-1794 calAD (2.0%)
PLD-29124 353±18 BP
68.2% probability
1478-1522 calAD (37.0%)
1577-1584 calAD (4.4%)
1591-1623 calAD (26.8%)
95.4% probability
1464-1526 calAD (45.6%)
1556-1633 calAD (49.8%)
PLD-29125 377±18 BP
68.2% probability
1455-1494 calAD (52.0%)
1602-1615 calAD (16.2%)
95.4% probability
1447-1522 calAD (71.5%)
1577-1583 calAD (0.9%)
1591-1620 calAD (22.9%)
14C年代 (BP)
1calBC/1calAD
暦年代 (calAD)
1σ
2σ

図５　暦年較正結果（2）

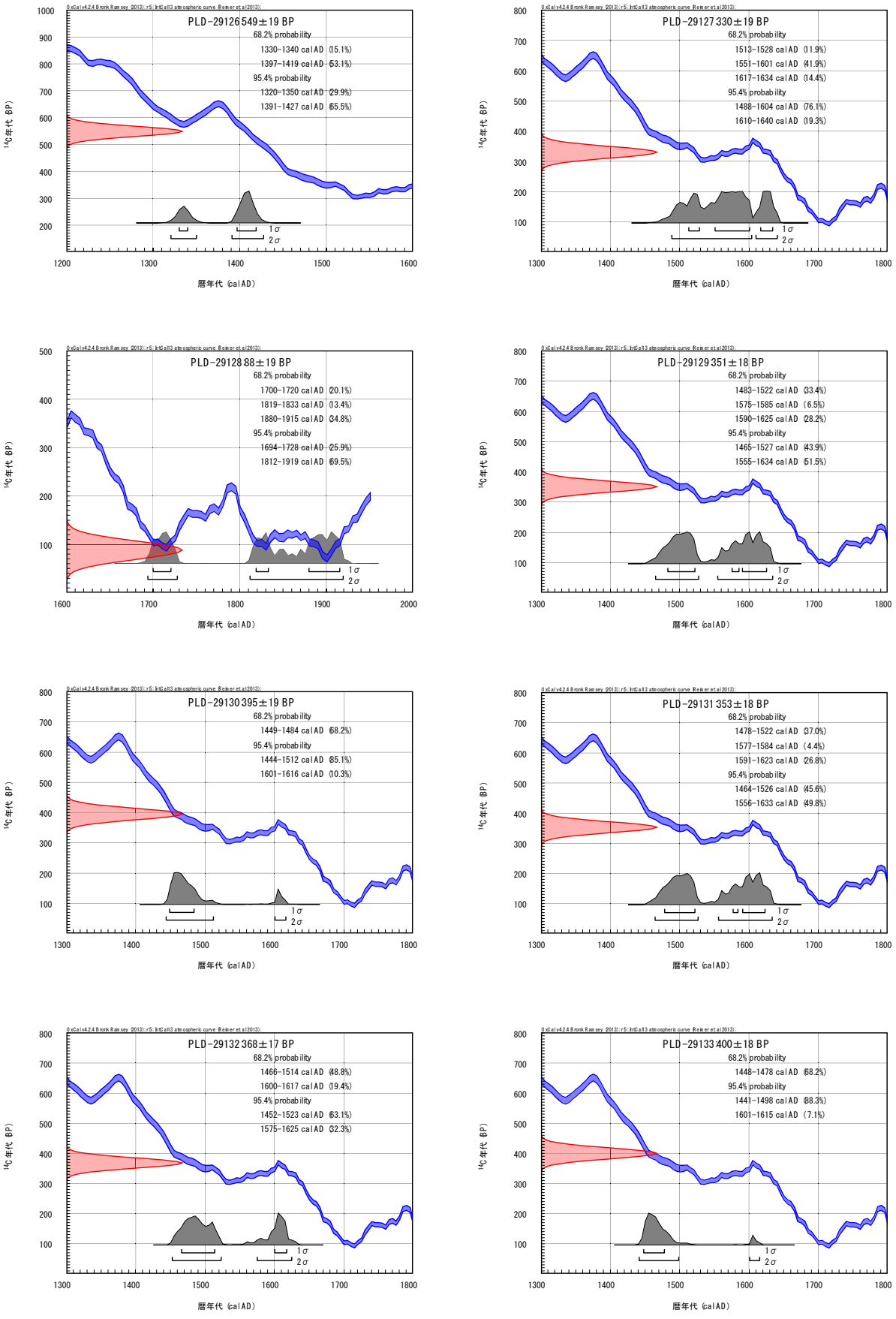
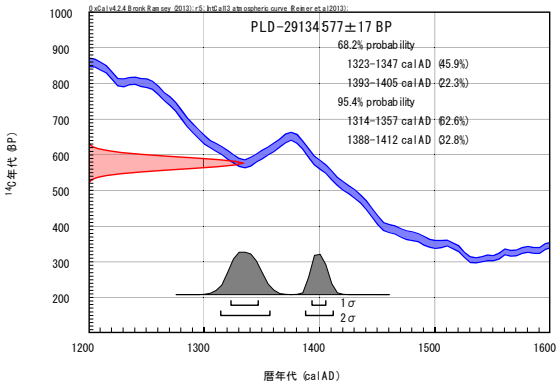
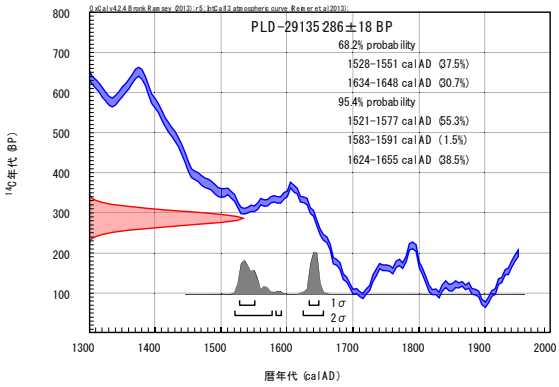
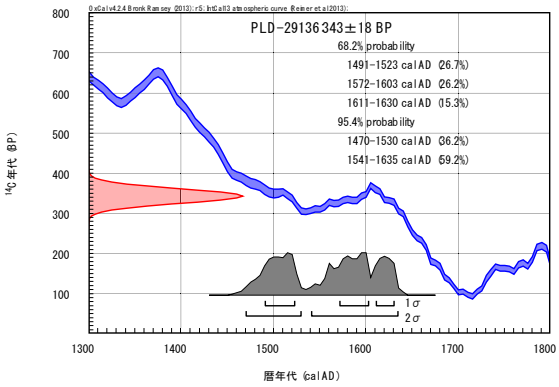
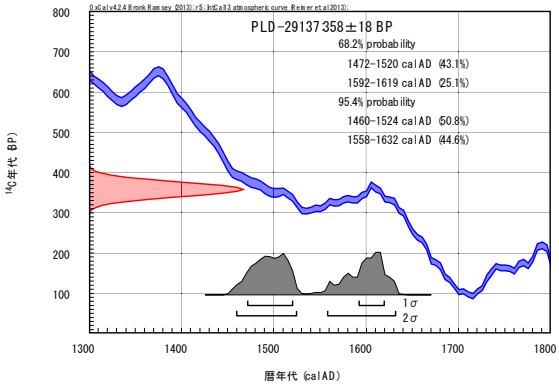

PLD-29126549±19 BP
68.2% probability
1330–1340 calAD (15.1%)
1397–1419 calAD (53.1%)
95.4% probability
1320–1350 calAD (29.9%)
1391–1427 calAD (65.5%)
PLD-29127330±19 BP
68.2% probability
1513–1528 calAD (11.9%)
1551–1601 calAD (41.9%)
1617–1634 calAD (14.4%)
95.4% probability
1488–1604 calAD (76.1%)
1610–1640 calAD (19.3%)
PLD-29128888±19 BP
68.2% probability
1700–1720 calAD (20.1%)
1819–1833 calAD (13.4%)
1880–1915 calAD (34.8%)
95.4% probability
1694–1728 calAD (25.9%)
1812–1919 calAD (69.5%)
PLD-29129351±18 BP
68.2% probability
1483–1522 calAD (33.4%)
1575–1585 calAD (6.5%)
1590–1625 calAD (28.2%)
95.4% probability
1465–1527 calAD (43.9%)
1555–1634 calAD (51.5%)
PLD-29130395±19 BP
68.2% probability
1449–1484 calAD (68.2%)
95.4% probability
1444–1512 calAD (85.1%)
1601–1616 calAD (10.3%)
PLD-29131353±18 BP
68.2% probability
1478–1522 calAD (37.0%)
1577–1584 calAD (4.4%)
1591–1623 calAD (26.8%)
95.4% probability
1464–1526 calAD (45.6%)
1556–1633 calAD (49.8%)
PLD-29132368±17 BP
68.2% probability
1466–1514 calAD (48.8%)
1600–1617 calAD (19.4%)
95.4% probability
1452–1523 calAD (63.1%)
1575–1625 calAD (32.3%)
PLD-29133400±18 BP
68.2% probability
1448–1478 calAD (68.2%)
95.4% probability
1441–1498 calAD (88.3%)
1601–1615 calAD (7.1%)
14C年代 BP
暦年代 (calAD)
1σ
2σ

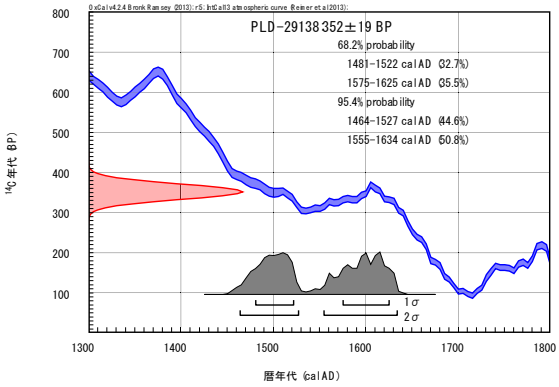
図６　暦年較正結果（3）

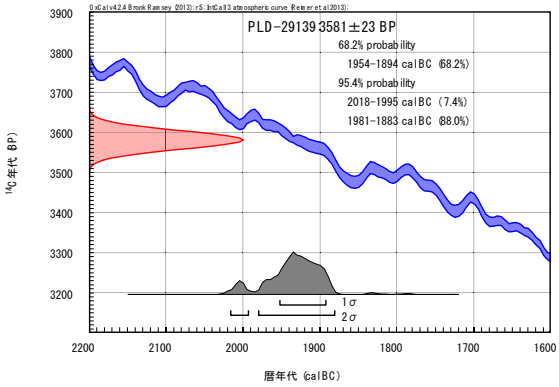

PLD-29134577±17 BP
68.2% probability
1323–1347 calAD (45.9%)
1393–1405 calAD (22.3%)
95.4% probability
1314–1357 calAD (62.6%)
1388–1412 calAD (32.8%)
14C年代 (BP)
暦年代 (calAD)

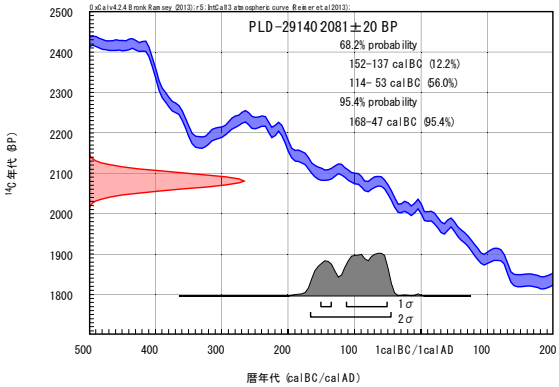

PLD-29135286±18 BP
68.2% probability
1528–1551 calAD (37.5%)
1634–1648 calAD (30.7%)
95.4% probability
1521–1577 calAD (55.3%)
1583–1591 calAD (1.5%)
1624–1655 calAD (38.5%)
14C年代 (BP)
暦年代 (calAD)


PLD-29136343±18 BP
68.2% probability
1491–1523 calAD (26.7%)
1572–1603 calAD (26.2%)
1611–1630 calAD (15.3%)
95.4% probability
1470–1530 calAD (36.2%)
1541–1635 calAD (59.2%)
14C年代 (BP)
暦年代 (calAD)


PLD-29137358±18 BP
68.2% probability
1472–1520 calAD (43.1%)
1592–1619 calAD (25.1%)
95.4% probability
1460–1524 calAD (50.8%)
1558–1632 calAD (44.6%)
14C年代 (BP)
暦年代 (calAD)


PLD-29138352±19 BP
68.2% probability
1481–1522 calAD (32.7%)
1575–1625 calAD (35.5%)
95.4% probability
1464–1527 calAD (44.6%)
1555–1634 calAD (50.8%)
14C年代 (BP)
暦年代 (calAD)


PLD-29139581±23 BP
68.2% probability
1954–1894 calBC (68.2%)
95.4% probability
2018–1995 calBC (7.4%)
1981–1883 calBC (88.0%)
14C年代 (BP)
暦年代 (calBC)


PLD-29140081±20 BP
68.2% probability
152–137 calBC (12.2%)
114– 53 calBC (56.0%)
95.4% probability
168–47 calBC (95.4%)
14C年代 (BP)
暦年代 (calBC/calAD)

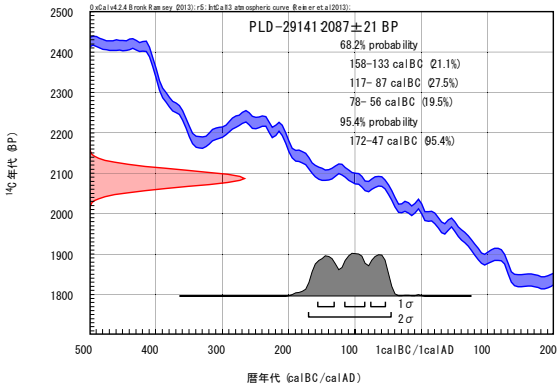
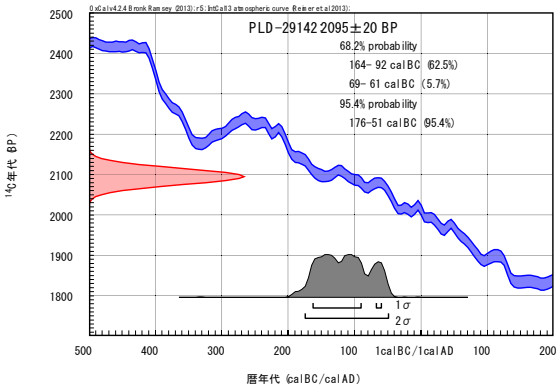
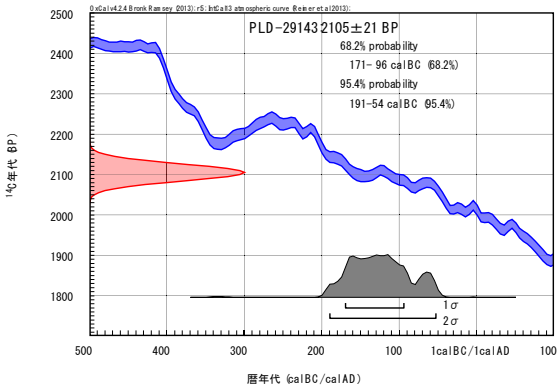
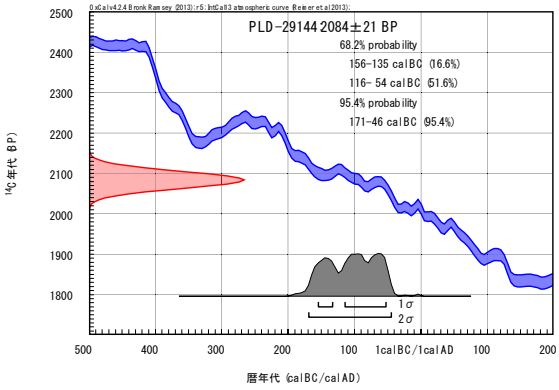
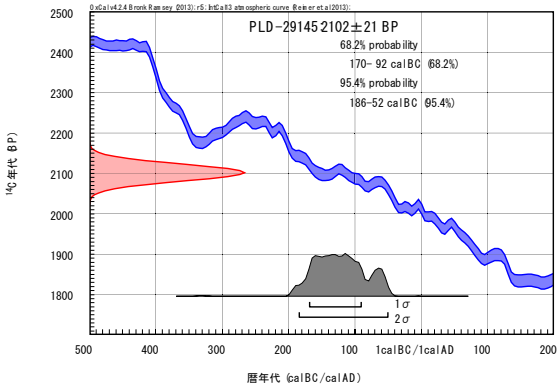

PLD-29141087±21 BP
68.2% probability
158–133 calBC (21.1%)
117– 87 calBC (27.5%)
78– 56 calBC (19.5%)
95.4% probability
172–47 calBC (95.4%)
14C年代 (BP)
暦年代 (calBC/calAD)

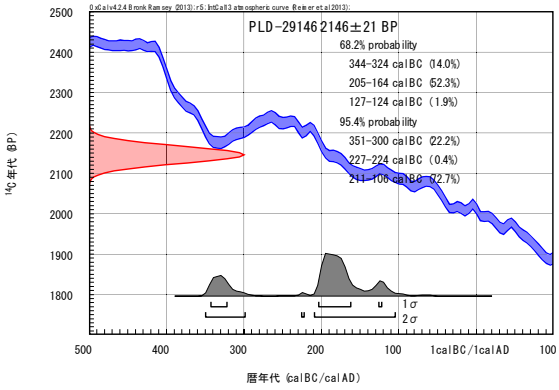
図 7　暦年較正結果（4）

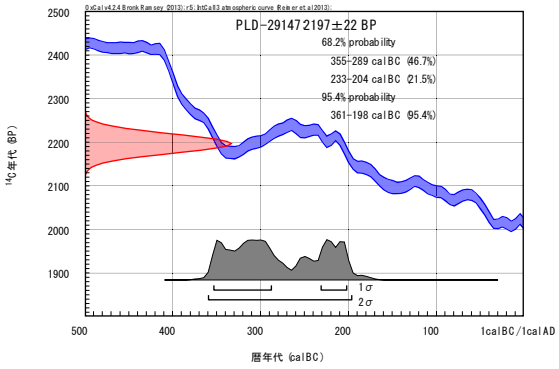

PLD-29142 2095±20 BP
68.2% probability
164- 92 calBC (62.5%)
69- 61 calBC (5.7%)
95.4% probability
176-51 calBC (95.4%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)

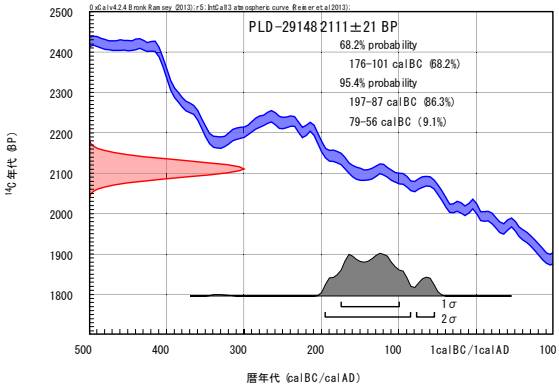

PLD-29143 2105±21 BP
68.2% probability
171- 96 calBC (68.2%)
95.4% probability
191-54 calBC (95.4%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)


PLD-29144 2084±21 BP
68.2% probability
156-135 calBC (16.6%)
116- 54 calBC (51.6%)
95.4% probability
171-46 calBC (95.4%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)


PLD-29145 2102±21 BP
68.2% probability
170- 92 calBC (68.2%)
95.4% probability
186-52 calBC (95.4%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)


PLD-29146 2146±21 BP
68.2% probability
344-324 calBC (14.0%)
205-164 calBC (52.3%)
127-124 calBC (1.9%)
95.4% probability
351-300 calBC (22.2%)
227-224 calBC (0.4%)
211-106 calBC (72.7%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)


PLD-29147 2197±22 BP
68.2% probability
355-289 calBC (46.7%)
233-204 calBC (21.5%)
95.4% probability
361-198 calBC (95.4%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC)


PLD-29148 2111±21 BP
68.2% probability
176-101 calBC (68.2%)
95.4% probability
197-87 calBC (86.3%)
79-56 calBC (9.1%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)

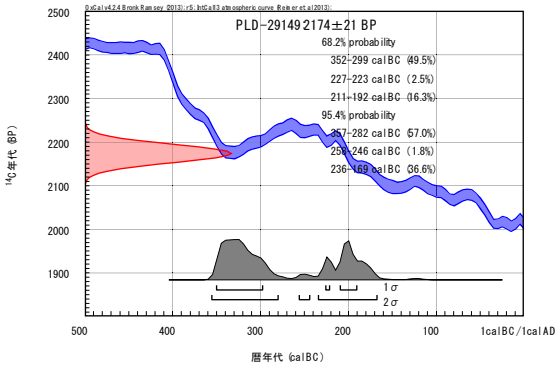
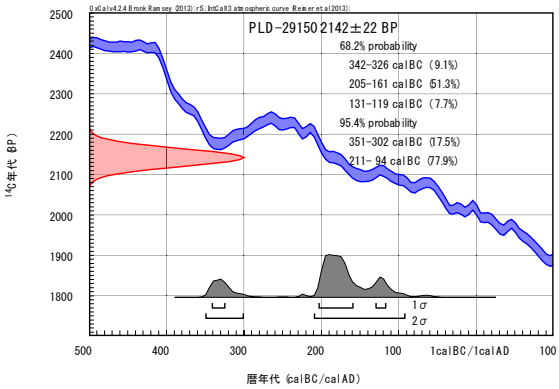
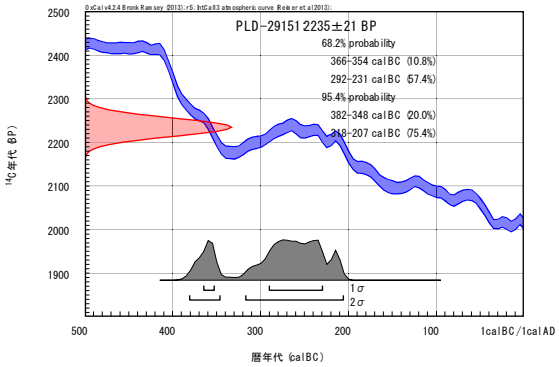
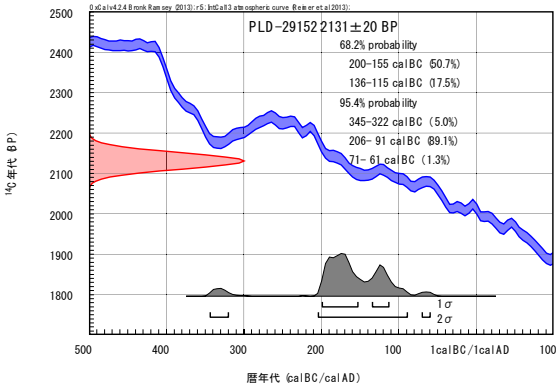
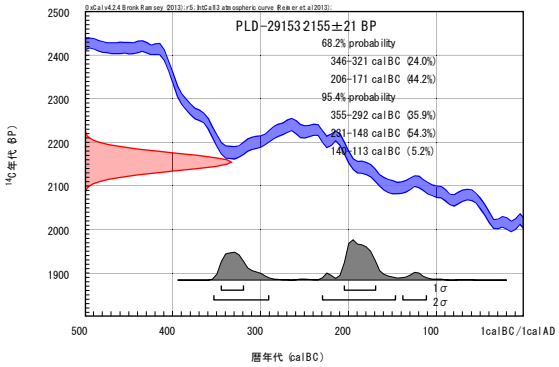

PLD-29149 2174±21 BP
68.2% probability
352-299 calBC (49.5%)
227-223 calBC (2.5%)
211-192 calBC (16.3%)
95.4% probability
357-282 calBC (57.0%)
254-246 calBC (1.8%)
236-169 calBC (36.6%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC)

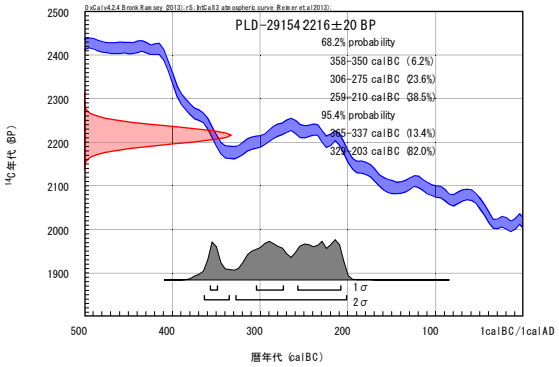
図８　暦年較正結果（5）

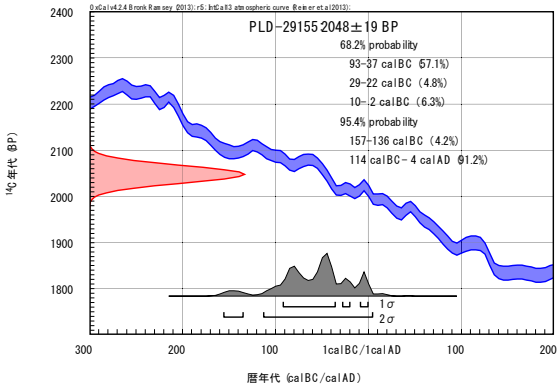

PLD-29150 2142±22 BP
68.2% probability
342-326 calBC (9.1%)
205-161 calBC (51.3%)
131-119 calBC (7.7%)
95.4% probability
351-302 calBC (17.5%)
211- 94 calBC (77.9%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)

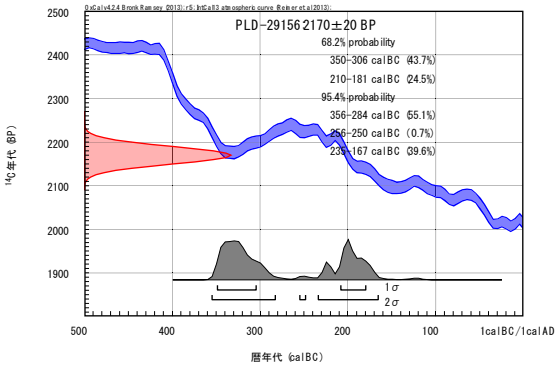

PLD-29151 2235±21 BP
68.2% probability
366-354 calBC (10.8%)
292-231 calBC (57.4%)
95.4% probability
382-348 calBC (20.0%)
318-207 calBC (75.4%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC)


PLD-29152 2131±20 BP
68.2% probability
200-155 calBC (50.7%)
136-115 calBC (17.5%)
95.4% probability
345-322 calBC (5.0%)
206- 91 calBC (89.1%)
71- 61 calBC (1.3%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)


PLD-29153 2155±21 BP
68.2% probability
346-321 calBC (24.0%)
206-171 calBC (44.2%)
95.4% probability
355-292 calBC (35.9%)
231-148 calBC (54.3%)
140-113 calBC (5.2%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC)


PLD-29154 2216±20 BP
68.2% probability
358-350 calBC (6.2%)
306-275 calBC (23.6%)
259-210 calBC (38.5%)
95.4% probability
365-337 calBC (13.4%)
329-203 calBC (82.0%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC)


PLD-29155 2048±19 BP
68.2% probability
93-37 calBC (57.1%)
29-22 calBC (4.8%)
10- 2 calBC (6.3%)
95.4% probability
157-136 calBC (4.2%)
114 calBC- 4 calAD (91.2%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)


PLD-29156 2170±20 BP
68.2% probability
350-306 calBC (43.7%)
210-181 calBC (24.5%)
95.4% probability
356-284 calBC (55.1%)
256-250 calBC (0.7%)
235-167 calBC (39.6%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC)

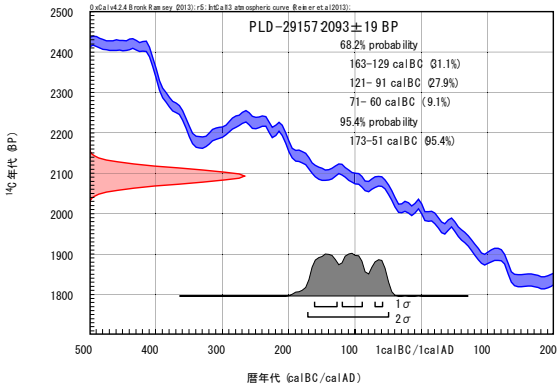
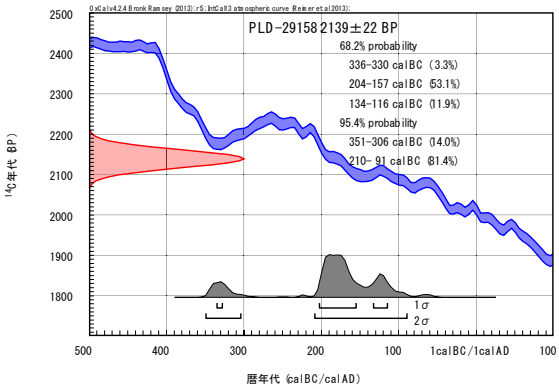
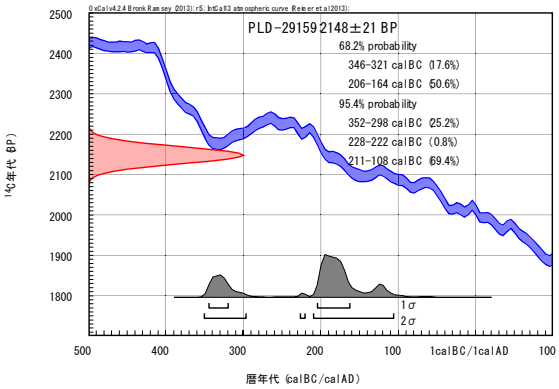
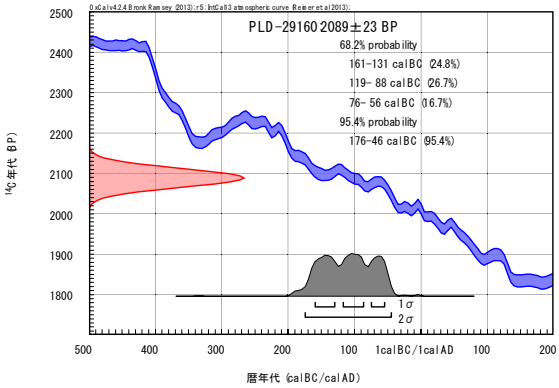
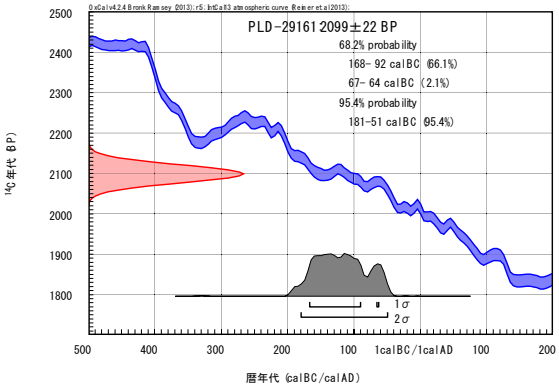

PLD-29157 2093±19 BP
68.2% probability
163-129 calBC (31.1%)
121- 91 calBC (27.9%)
71- 60 calBC (9.1%)
95.4% probability
173-51 calBC (95.4%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)

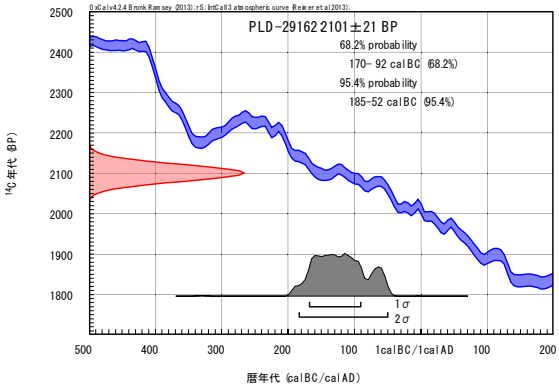
図９　暦年較正結果（6）

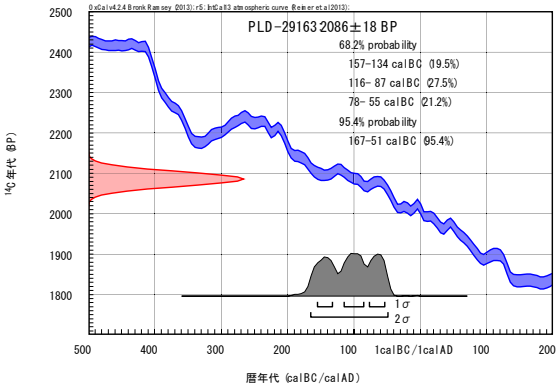

PLD-29158 2139±22 BP
68.2% probability
336–330 calBC (3.3%)
204–157 calBC (53.1%)
134–116 calBC (11.9%)
95.4% probability
351–306 calBC (14.0%)
210– 91 calBC (81.4%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)
14C年代 (BP)

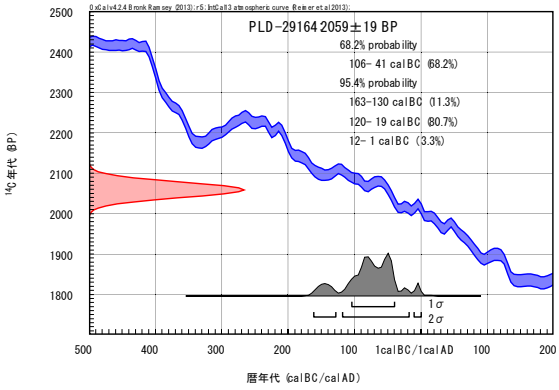

PLD-29159 2148±21 BP
68.2% probability
346–321 calBC (17.6%)
206–164 calBC (50.6%)
95.4% probability
352–298 calBC (25.2%)
228–222 calBC (0.8%)
211–108 calBC (69.4%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)
14C年代 (BP)


PLD-29160 2089±23 BP
68.2% probability
161–131 calBC (24.8%)
119– 88 calBC (26.7%)
76– 56 calBC (16.7%)
95.4% probability
176–46 calBC (95.4%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)
14C年代 (BP)


PLD-29161 2099±22 BP
68.2% probability
168– 92 calBC (66.1%)
67– 64 calBC (2.1%)
95.4% probability
181–51 calBC (95.4%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)
14C年代 (BP)


PLD-29162 2101±21 BP
68.2% probability
170– 92 calBC (68.2%)
95.4% probability
185–52 calBC (95.4%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)
14C年代 (BP)


PLD-29163 2086±18 BP
68.2% probability
157–134 calBC (19.5%)
116– 87 calBC (27.5%)
78– 55 calBC (21.2%)
95.4% probability
167–51 calBC (95.4%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)
14C年代 (BP)


PLD-29164 2059±19 BP
68.2% probability
106– 41 calBC (68.2%)
95.4% probability
163–130 calBC (11.3%)
120– 19 calBC (80.7%)
12– 1 calBC (3.3%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC/calAD)
14C年代 (BP)

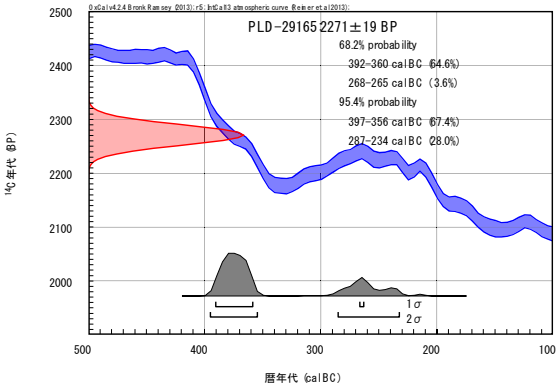

PLD-29165 2271±19 BP
68.2% probability
392–360 calBC (64.6%)
268–265 calBC (3.6%)
95.4% probability
397–356 calBC (67.4%)
287–234 calBC (28.0%)
1σ
2σ
暦年代 (calBC)
14C年代 (BP)

図 10　暦年較正結果（7）

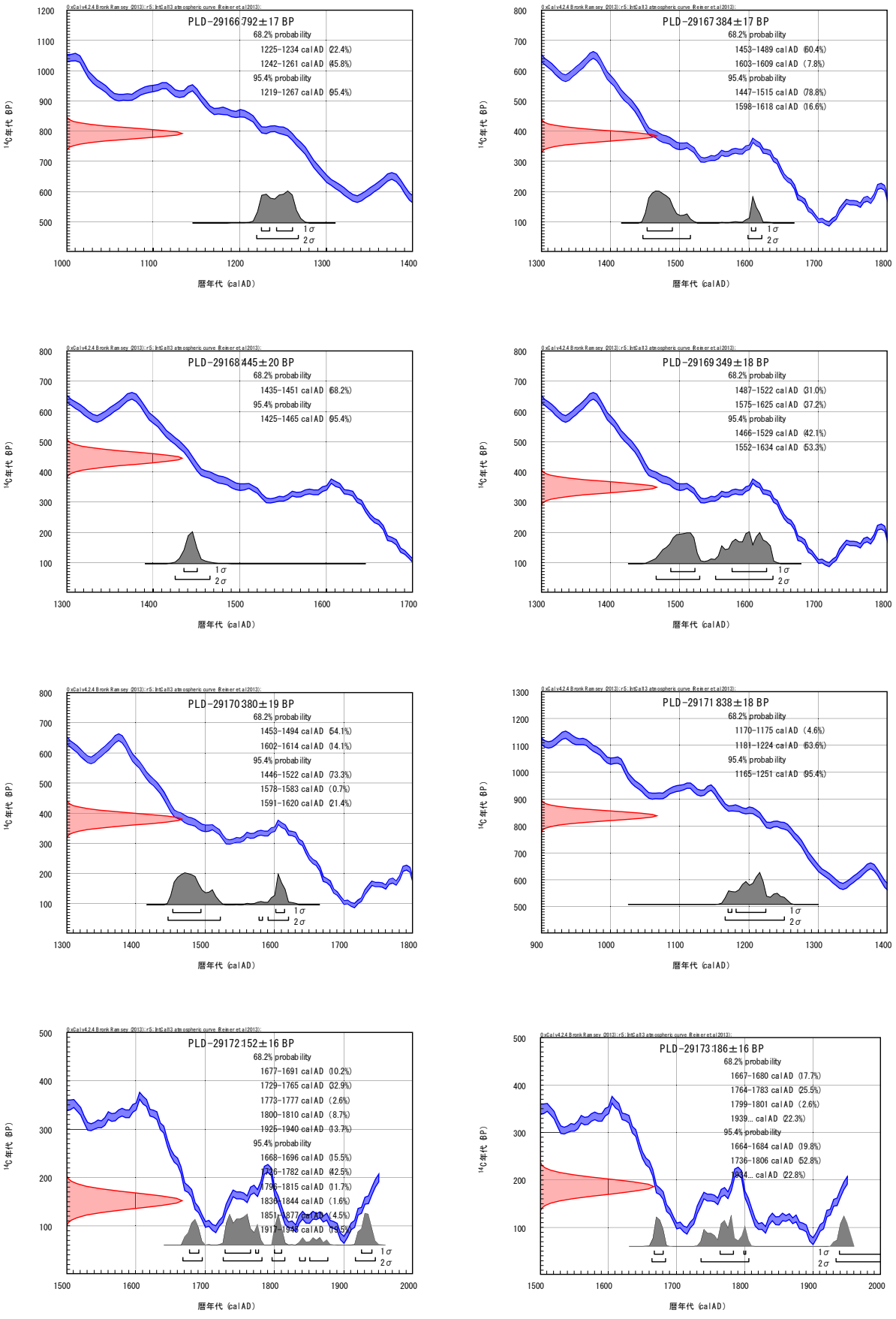

PLD-29166 792±17 BP
68.2% probability
1225–1234 calAD (22.4%)
1242–1261 calAD (45.8%)
95.4% probability
1219–1267 calAD (95.4%)
PLD-29167 384±17 BP
68.2% probability
1453–1489 calAD (60.4%)
1603–1609 calAD (7.8%)
95.4% probability
1447–1515 calAD (78.8%)
1598–1618 calAD (16.6%)
PLD-29168 445±20 BP
68.2% probability
1435–1451 calAD (68.2%)
95.4% probability
1425–1465 calAD (95.4%)
PLD-29169 349±18 BP
68.2% probability
1487–1522 calAD (31.0%)
1575–1625 calAD (37.2%)
95.4% probability
1466–1529 calAD (42.1%)
1552–1634 calAD (53.3%)
PLD-29170 380±19 BP
68.2% probability
1453–1494 calAD (54.1%)
1602–1614 calAD (14.1%)
95.4% probability
1446–1522 calAD (73.3%)
1578–1583 calAD (0.7%)
1591–1620 calAD (21.4%)
PLD-29171 838±18 BP
68.2% probability
1170–1175 calAD (4.6%)
1181–1224 calAD (63.6%)
95.4% probability
1165–1251 calAD (95.4%)
PLD-29172 152±16 BP
68.2% probability
1677–1691 calAD (10.2%)
1729–1765 calAD (32.9%)
1773–1777 calAD (2.6%)
1800–1810 calAD (8.7%)
1925–1940 calAD (13.7%)
95.4% probability
1668–1696 calAD (15.5%)
1736–1782 calAD (42.5%)
1796–1815 calAD (11.7%)
1836–1844 calAD (1.6%)
1851–1877 calAD (4.5%)
1917–1948 calAD (19.5%)
PLD-29173 186±16 BP
68.2% probability
1667–1680 calAD (17.7%)
1764–1783 calAD (25.5%)
1799–1801 calAD (2.6%)
1939–... calAD (22.3%)
95.4% probability
1664–1684 calAD (19.8%)
1736–1806 calAD (52.8%)
1934–... calAD (22.8%)
1σ
2σ
暦年代 (calAD)
¹⁴C年代 (BP)

図 11　暦年較正結果（8）

第４章（２）(a) 東下地遺跡出土炭化材の樹種同定（2011 年分析）

黒沼保子（パレオ・ラボ）

はじめに

東下地遺跡は、豊橋市石巻本町に所在し、神田川右岸の低地に立地する。水田跡の溝などから採取された炭化材の樹種同定を行った。なお、同試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の報告参照)。

試料と方法

試料は、水田に関わる溝である 224SD から出土した炭化材 5 点（No.523～527)、水田造成以前の時期の炉跡 222SX から出土した炭化材 3 点（No.528～530）である。しかし、224SD からの試料のうち 1 点（No.527）と、222SX からの試料 3 点（No.528～530）は、試料を全て放射性炭素年代測定に使用し残らなかったため、残試料があった 224SD の 4 点（No.523～526）のみについて樹種同定を行った。

なお、放射性炭素年代測定により、水田に関わる溝である 224SD から採取された炭化材は弥生時代中期、水田造成以前の時期の炉跡である 222SX から採取された有機物および炭化材も、弥生時代中期の値が得られている（放射性炭素年代測定の報告参照)。

各炭化材について、手あるいはカッターナイフを用いて 3 断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、同定用の試料を作製した。これらを直径 1cm の真鍮製試料台に両面テープで固定し、銀ペーストを塗布して乾燥させた後、金蒸着して、走査型電子顕微鏡（日本電子㈱製　JSM-5900LV 型）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

結果

広葉樹のコナラ属コナラ節とニレ属の 2 分類群が確認された。No.523 と No.525 はコナラ属コナラ節であった。No.524 はニレ属であった。また、No.526 は状態が悪く、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡での観察が行えなかったため、不明とした。結果の一覧を表 1 に示す。

コナラ属コナラ節とニレ属は、温帯から暖帯に分布する落葉高木の広葉樹である。炭化材は破片であったため、元の形状および用途は不明である。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1) コナラ属コナラ節　*Quercus* sect. *Prinus*　ブナ科　図版 1　1a-1c(No.523)、2a-2c(No.525)

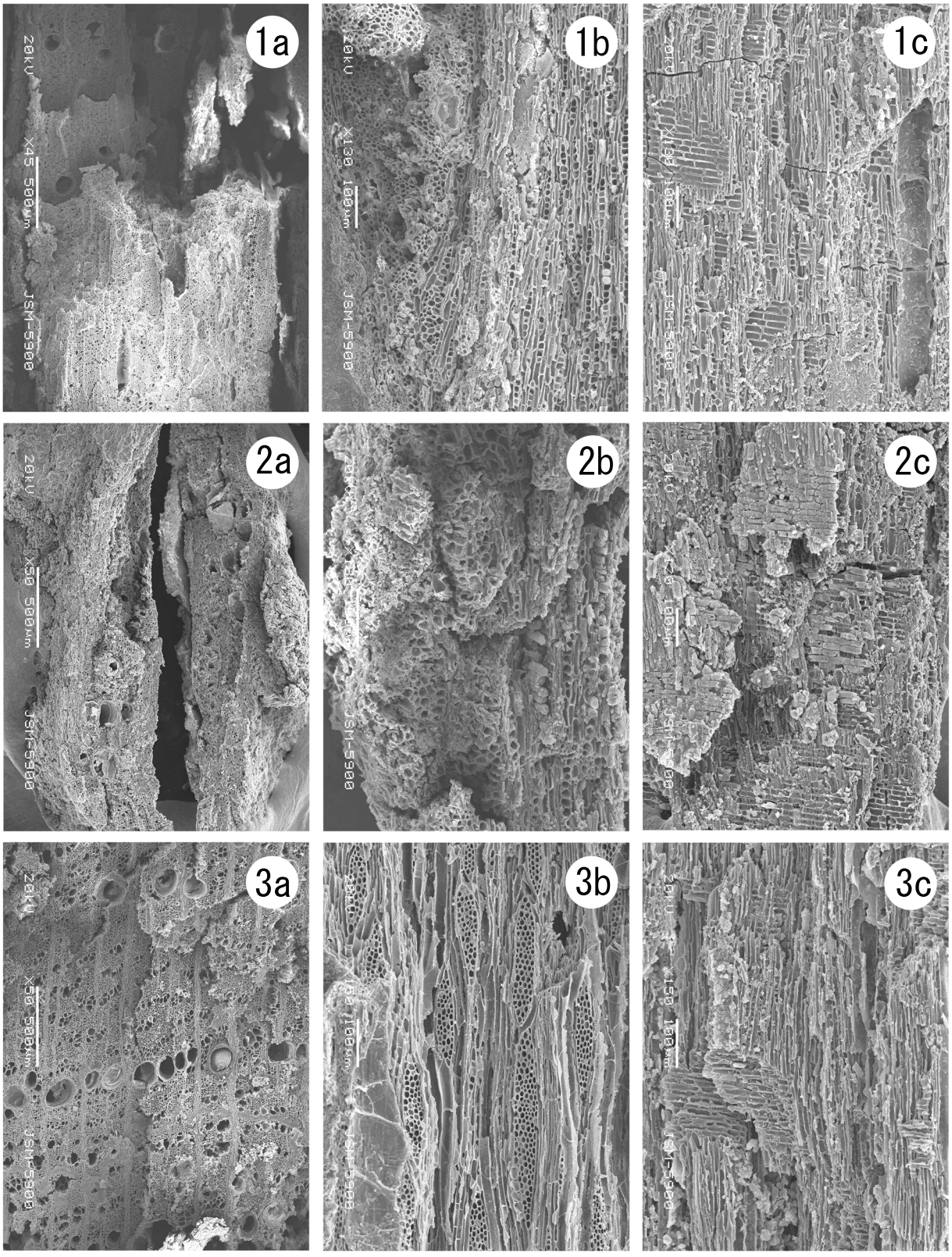
大型の道管が年輪のはじめに 1 列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の 2 種類がある。

コナラ節は温帯下部および暖帯に分布する落葉高木で、カシワ、ミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は、全体的に重硬で加工困難である。

(2) ニレ属　*Ulmus*　ニレ科　図版 1　3a-3c(No.524)

大型の道管が年輪のはじめに 1 列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜めに配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、3～6 列幅程度である。

ニレ属は温帯から暖帯に分布する落葉高木で、アキニレ、ハルニレ、オヒョウの 3 種がある。ハルニレの材は、硬さはやや重硬から中庸でやや粘り気があるが、狂いが出やすく保存性もよくない。



図版1　東下地遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c.コナラ属コナラ節（№523）、2a-2c.コナラ属コナラ節（№525）、3a-3c.ニレ属（№524）

a:横断面、b:接線断面、c:放射断面

表1　樹種同定結果

No.	遺構	樹種	年代測定番号
523	224SD	コナラ属コナラ節	PLD-20266
524	224SD	ニレ属	PLD-20268
525	224SD	コナラ属コナラ節	PLD-20269
526	224SD	不明	PLD-20270
527	224SD	（残試料なし）	PLD-20271
528	222SX	（残試料なし）	PLD-20272
529	222SX	（残試料なし）	PLD-20273
530	222SX	（残試料なし）	PLD-20267

第４章（２）（b）東下地遺跡出土の炭化植物遺体の同定（2014 年度）

小林克也（パレオ・ラボ）

1．はじめに

神田川右岸と豊川左岸の河岸段丘に挟まれた低地に立地する東下地遺跡から出土した炭化植物遺体の同定を行った。なお、一部の試料については、放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2．試料と方法

試料は、221SD と 224SD から各 3 点、546ST、275SX、838SK から各 2 点、003SX、121SN、233SN および 234SN の畔間、236SD、268SX、277SX、454SX、511SK、578SK、669SP、698SK、814SK、816SX、823SK、830SK、836SK、837SK、841SK、882SK、887SK、921SK、986SK、989SK、990SK から各 1 点の計 36 点の出土炭化材と、825SK から 1 点出土した炭化種実 1 点の、合計 37 点である。

放射性炭素年代測定の結果、221SD の試料 No.32、33、34、224SD の試料 No.35、36、37、233SN および 234SN の畔間の試料 No.38、236SD の試料 No.39、268SX の試料 No.41、277SX の試料 No.42、275SX の試料 No.44 と 45、003SX の試料 No.55 は弥生時代中期、121SN の試料 No.46 は弥生時代中期～後期、669SP の試料 No.9 は弥生時代後期～古墳時代前期、454SX の試料 No.1 は平安時代中期～後期、511SX の試料 No.2 は平安時代末～鎌倉時代、837SK の試料 No.17、921SK の試料 No.25 は鎌倉時代～室町時代、578SK の試料 No.4、698SK の試料 No.10、823SK の試料 No.13 は室町時代、546ST の試料 No.3 と 6、838SK の試料 No.5 と 18、814SK の試料 No.11、816SX の試料 No.12、830SK の試料 No.15、836SK の試料 No.16、882SK の試料 No.21、887SK の試料 No.22、986SK の試料 No.26、989SK の試料 No.28、990SK の試料 No.29 は室町時代～江戸時代前期、825SK の試料 No.14 は室町時代～江戸時代後期、841SK の試料 No.19 は江戸時代中期～大正時代となった。

炭化材の樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（日本電子（株）製　JSM-5900LV）にて検鏡および写真撮影を行なった。

3．結果

同定の結果、針葉樹ではマツ属複維管束亜属とヒノキの 2 分類群、広葉樹ではクマシデ属イヌシデ節（以下イヌシデ節と呼ぶ）、クリ、スダジイ、コナラ属アカガシ亜属（以下アカガシ亜属と呼ぶ）、コナラ属コナラ節（以下コナラ節と呼ぶ）、クワ属、ツバキ属、モモ、モモ炭化核、クマノミズキ類、種不明の広葉樹の 11 分類群、単子葉ではタケ亜科が 1 分類群の、計 14 分類群がみられた。

マツ属複維管束亜属とコナラ節が各 7 点、クワ属が 6 点、イヌシデ節とアカガシ亜属、クマノミズキ類と広葉樹が各 2 点、ヒノキとクリ、スダジイ、ツバキ属、モモ、モモ炭化核が各 1 点みられた。また材組織の劣化が激しく、同定が行えなかった試料が 1 点あった。

次に、同定された特徴を記載し、図版に実体顕微鏡写真および走査型電子顕微鏡写真を示す。

表1　東下地遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

試料の年代	弥生中期									弥生中期～後期	弥生後期～古墳前期	平安中期～後期	平安末～鎌倉	鎌倉～室町	室町			室町～江戸時前期										室町～江戸後期	江戸中期～大正	
	02-3SX	02-1SD	02-4SD	S-N畔3-4間	23、2-3SD	2-6SX	2-8SX	2-5SX	2-7SX	1-2SN	6-9SP	4-5SX	5-1SK	8-3SK	9-2SK	5-7SK	9-8SK	2-3SK	5-6ST	8-4SK	1-6SX	8-0SK	3-6SK	3-8SK	8-2SK	9-6SK	8-7SK	8-9SK	9-0SK	8-2SK	8-4SK	
樹種																														合計
マツ属複維管束亜属																1		1			1		1	1			1			1	7
ヒノキ												1																			1
クマシデ属イヌシデ節											1																	1			2
クリ													1																		1
スダジイ			1																												1
コナラ属アカガシ亜属									1												1										2
コナラ属コナラ節	1		1			1		2		1																1					7
クワ属		3	1											1	1																6
ツバキ属																			1												1
モモ																1															1
モモ炭化核																													1		1
クマノミズキ類																								1		1					2
広葉樹							1												1												2
タケ亜科																				1				1							2
不明				1																											1
合計	1	3	3	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	37

(1)マツ属複維管束亜属　*Pinus* subgen. *Diploxylon*　マツ科　図版1　1a-1c(No.13)、2a-2c(No.18)

仮道管と放射仮道管、放射組織、水平及び垂直樹脂道で構成される針葉樹であるが、横断面では垂直樹脂道を確認できなかった。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列のものと、水平樹脂道を含む多列のものがみられる。分野壁孔は窓状で、放射組織の水平壁は内側に向かって鋸歯状に肥厚する。

マツ属複維管束亜属には、アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し、クロマツは海の近くに、アカマツは内陸地に生育する。どちらも材質は重硬だが、切削等の加工は容易である。

(2)ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl.　ヒノキ科　図版1　3a-3c(No.1)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ1～8列となる。分野壁孔はトウヒ～ヒノキ型で、1分野に2個みられる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

(3)クマシデ属イヌシデ節　*Carpinus* sect. *Eucarpinus*　カバノキ科　図版1　4a-4c(No.29)

小型の道管が単独ないし 2～7 個放射方向に複合してやや疎らに散在する散孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、1～4列のものと集合放射組織がみられる。

クマシデ属イヌシデ節は温帯から暖帯の山林などに分布する落葉高木の広葉樹である。材はやや重くて硬く、割裂しにくい。切削加工は中庸である。

(4)クリ　*Castanea crenata* Siebold. et Zucc.　ブナ科　図版1　5a-5c(No.2)

年輪のはじめに大型の道管が 1～3 列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で単列となる。

クリは北海道の石狩、日高以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

(5)スダジイ　*Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatus. ex T.Yamaz. et Mashiba　ブナ科　図版 1、2　6a-6c(No.37)

年輪のはじめに大型の道管が断続的に数列並び、晩材部では徐々に径を減じた、薄壁で角張った道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で単列となる。

スダジイは暖帯から亜熱帯に分布する常緑高木の広葉樹である。重さと強さは中庸で、やや耐朽性があるが、切削加工は困難ではない。

(6)コナラ属アカガシ亜属　*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*　ブナ科　図版2　7a-7c(No.42)

大型の道管がほぼ単独で、放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属アカガシ亜属は、材組織の観察では道管の大きなイチイガシ以外は種までの同定ができない。したがって、本試料はイチイガシ以外のアカガシ亜属である。アカガシ亜属にはアカガシやツクバネガシなどがあり、暖帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材は重硬、強靭で耐水性があり、切削加工は困難である。

(7)コナラ属コナラ節　*Quercus* sect. *Prinus*　ブナ科　図版2　8a-8c(No.22)、9a-9c(No.46)

年輪のはじめに大型の道管が 1～2 列並び、晩材部では急に径を減じた、薄壁で角張った道管が、火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属コナラ節にはコナラやミズナラなどがあり、温帯から暖帯にかけて広く分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なミズナラの材は、やや重く強靭で、切削加工はやや難しい。

(8)クワ属　*Morus*　クワ科　図版2、3　10a-10c(No.32)、11a-11c(No.33)

年輪のはじめに大型の道管が数列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が多数複合して、斜め方向に断続的に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1～3列が直立する異性で、1～5列となる。

クワ属にはヤマグワやマグワなどがあり、温帯から亜熱帯に分布し、日本全国の山中にみられる落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で保存性が高いが、切削加工はやや困難である。

(9)ツバキ属　*Camellia*　ツバキ科　図版3　12a-12c(No.3)

小型の道管がほぼ単独で密に散在する散孔材である。道管は 10～20 段程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端1～3列が直立する異性で、幅1～4列となる。

ツバキ属にはヤブツバキやサザンカなどがあり、ヤブツバキは本州、四国、九州の温帯に、サザンカは山口県以南の温帯南部から亜熱帯に分布する常緑小高木の広葉樹である。材は重硬で、切削加工は困難である。

(10)モモ　*Prunus persica* (L.) Batsch　バラ科　図版3　13a-13c(No.10)、14(No.14)

炭化材：年輪のはじめにやや大きな道管が並び、晩材部では単独ないし 2～数個斜め方向に複合した道管が散在する、半環孔材である。道管は単穿孔を有し、内壁には明瞭ならせん肥厚がみられる。放射組織は平伏、立方、直立細胞が混在する異性で、幅1～6列となる。

炭化核：1/2 以下の破片である。完形ならば両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面に深く不規則な皺がある。また、片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。

モモの原産地は中国北部で、平安時代には果実を食用や薬用として利用するために日本列島でも栽培されていた樹木である。材は重硬で、切削加工等は困難である。

(11)クマノミズキ類　*Cornus* cf. *macrophylla* Wall.　　ミズキ科　図版 3　15a-15c(No.26)

小型の道管がほぼ単独でやや密に散在する散孔材である。道管は 10 段程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端 1～3 列が直立となる異性で、幅 1～5 列となる。

クマノミズキ類にはクマノミズキとヤマボウシが含まれるが、材組織が類似しており、区別は困難である。そのため、両種を括ってクマノミズキ類とした。クマノミズキおよびヤマボウシは、温帯から暖帯に分布する落葉中高木である。材はやや硬いが、一般に加工は容易である。

(12)広葉樹　Broad leaf wood　図版 3　16a(No.6)

道管の径が徐々に減じて、疎らに散在するが、2 年輪をまたぐ試料が得られず、環孔材か散孔材かは確認できなかった。よって、広葉樹までの同定とした。

(13)タケ亜科　Subfam. *Bambusoideae*　図版 3　17a(No.21)

向軸側の原生木部とその左右の 2 個の後生木部、背軸側の篩部の三つで構成される維管束が散在する、単子葉植物の稈である。維管束の配列は不整中心柱となる。維管束鞘の細胞は厚壁であり、向・背軸部に関わりなく厚くなる。

タケ亜科はいわゆるタケ・ササの仲間で、日本には 12 属ある。

(14)同定不可　Unknown　図版 3　18a(No.38)

材組織が確認できず、同定が行えなかった。

4. 考察

同定の結果、マツ属複維管束亜属とコナラ節が各 7 点と最も多く、クワ属が 6 点、イヌシデ節とアカガシ亜属、クマノミズキ類、広葉樹が各 2 点、ヒノキとクリ、スダジイ、ツバキ属、モモ、モモ炭化核が各 1 点であった。いずれの炭化材も、燃料材の残渣などである可能性があるが、用途は不明である。また、いずれも遺跡の周辺に生育しやすい樹種である（伊東ほか, 2011）。

時期別にみると、弥生時代～古墳時代頃にはスダジイやアカガシ亜属、コナラ節などのブナ科とクワ属が、そして室町時代～江戸時代頃には、マツ属複維管束亜属がやや多くみられた。遺跡周辺の樹木を利用していたと考えると、遺跡周辺の森林構成樹種がブナ科からマツ属複維管束亜属へと変化し、利用樹種の構成が変化した可能性や、用材の選択性がブナ科からマツ属複維管束亜属へと変化した可能性などが考えられる。

なお、室町時代頃の暦年代を示したモモの炭化材、室町時代～江戸時代後期の暦年代を示したモモ炭化核が各 1 点みられた。モモの原産地は中国で、日本では自生していない（平井, 1996）。室町時代頃の遺跡周辺ではモモが栽培されていた可能性があり、室町時代～江戸時代後期頃にはモモの果実が食され、その核が炭化した可能性などがある。

参考文献

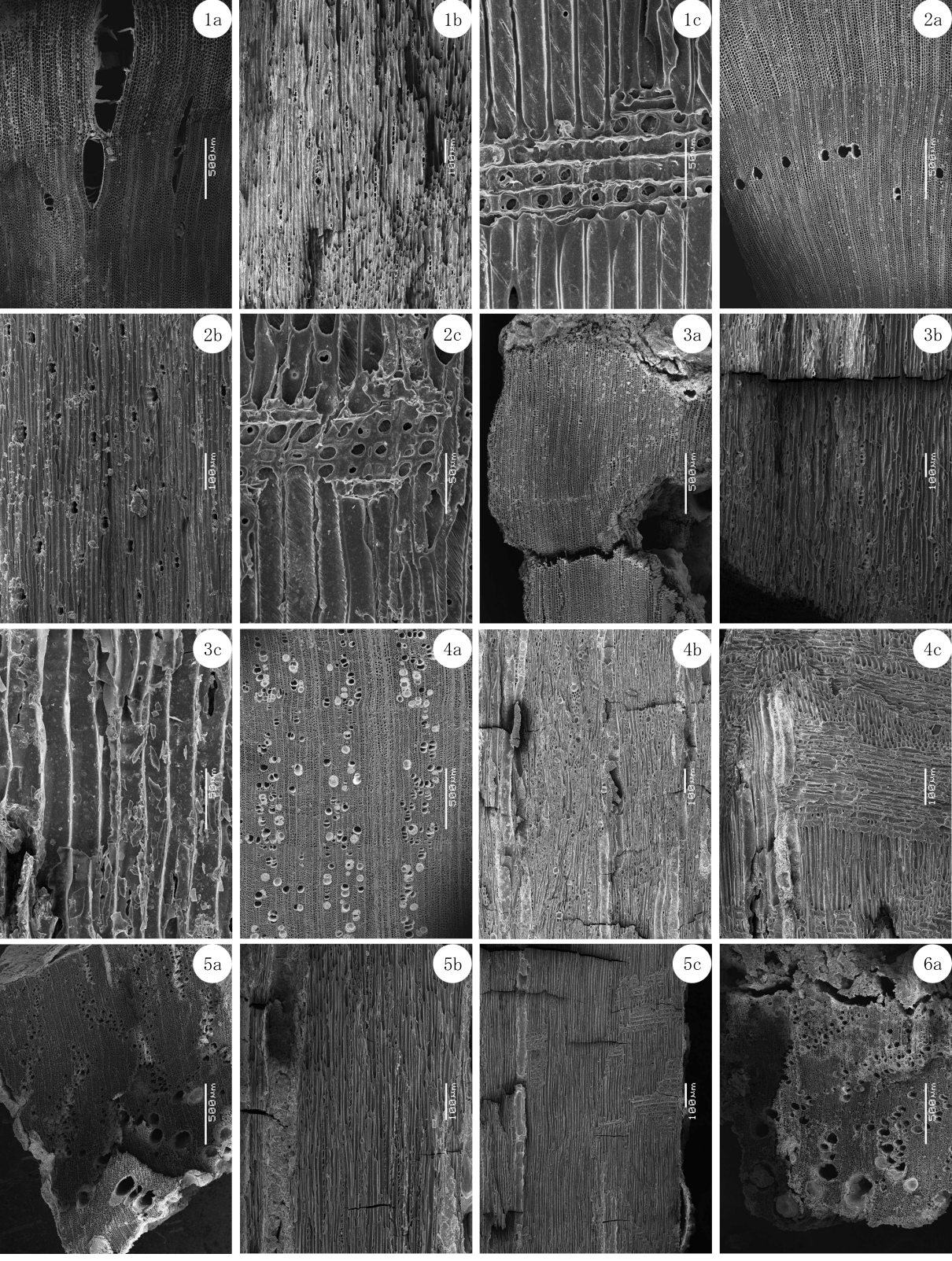
平井信二（1996）木の大百科－解説編－. 642p, 朝倉書房.

伊東隆夫・佐野雄三・安部　久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌, 238p, 海青社.

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学．449p，海青社.

付表1　東下地遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

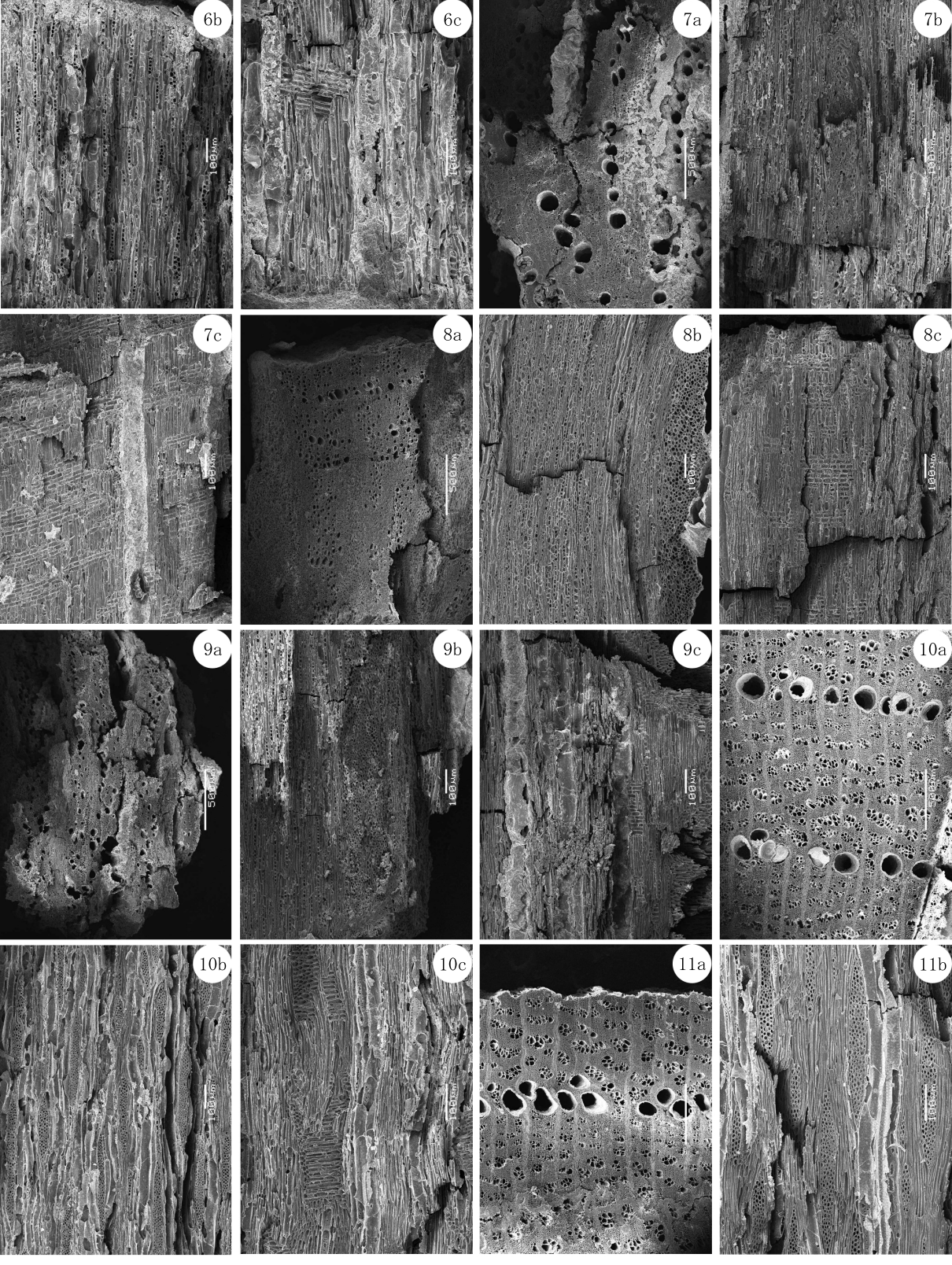
試料No.	調査区名	番号	出土遺構	樹種	年代測定番号
1	11Aa	575	454SX	ヒノキ	PLD-29110
2	11Aa	578	511SK	クリ	PLD-29111
3	11Ab	1261	546ST	ツバキ属	PLD-29112
4	11Ab	1408	578SK	マツ属複維管束亜属	PLD-29113
5	11Ab	1435	838SK	クマノミズキ類	PLD-29114
6	11Ab		546ST	広葉樹	PLD-29115
9	11Ab		669SP	クマシデ属イヌシデ節	PLD-29118
10	11Ab		698SK	モモ	PLD-29119
11	11Ab		814SK	タケ亜科	PLD-29120
12	11Ab		816SX	マツ属複維管束亜属	PLD-29121
13	11Ab		823SK	マツ属複維管束亜属	PLD-29122
14	11Ab		825SK	モモ炭化核	PLD-29123
15	11Ab		830SK	コナラ属アカガシ亜属	PLD-29124
16	11Ab		836SK	マツ属複維管束亜属	PLD-29125
17	11Ab		837SK	クワ属	PLD-29126
18	11Ab		838SK	マツ属複維管束亜属	PLD-29127
19	11Ab		841SK	マツ属複維管束亜属	PLD-29128
21	11Ab		882SK	タケ亜科	PLD-29130
22	11Ab		887SK	コナラ属コナラ節	PLD-29131
25	11Ab		921SK	クワ属	PLD-29134
26	11Ab		986SK	クマノミズキ類	PLD-29135
28	11Ab		989SK	マツ属複維管束亜属	PLD-29137
29	11Ab		990SK	クマシデ属イヌシデ節	PLD-29138
32	11Bb	491	221SD	クワ属	PLD-29141
33	11Bb	493	221SD	クワ属	PLD-29142
34	11Bb	507	221SD	クワ属	PLD-29143
35	11Bb	542	224SD	コナラ属コナラ節	PLD-29144
36	11Bb	550	224SD	クワ属	PLD-29145
37	11Bb	559	224SD	スダジイ	PLD-29146
38	11Bb	564	233、234SN畔間	不明	PLD-29147
39	11Bb	574	236SD	コナラ属コナラ節	PLD-29148
41	11Bb	589	268SX	広葉樹	PLD-29150
42	11Bb	593	277SX	コナラ属アカガシ亜属	PLD-29151
44	11Bb	604	275SX	コナラ属コナラ節	PLD-29153
45	11Bb	608	275SX	コナラ属コナラ節	PLD-29154
46	11C	24	121SN	コナラ属コナラ節	PLD-29155
55	11C	107	003SX	コナラ属コナラ節	PLD-29164



図版1　東下地遺跡出土炭化材の実体顕微鏡写真・走査型電子顕微鏡写真

(1) 1a-1c.マツ属複維管束亜属(No.13)、2a-2c.マツ属複維管束亜属(No.18)、3a-3c.ヒノキ(No.1)、4a-4c.クマシデ属イヌシデ節(No.29)、5a-5c.クリ(No.2)、6a.スダジイ(No.37)

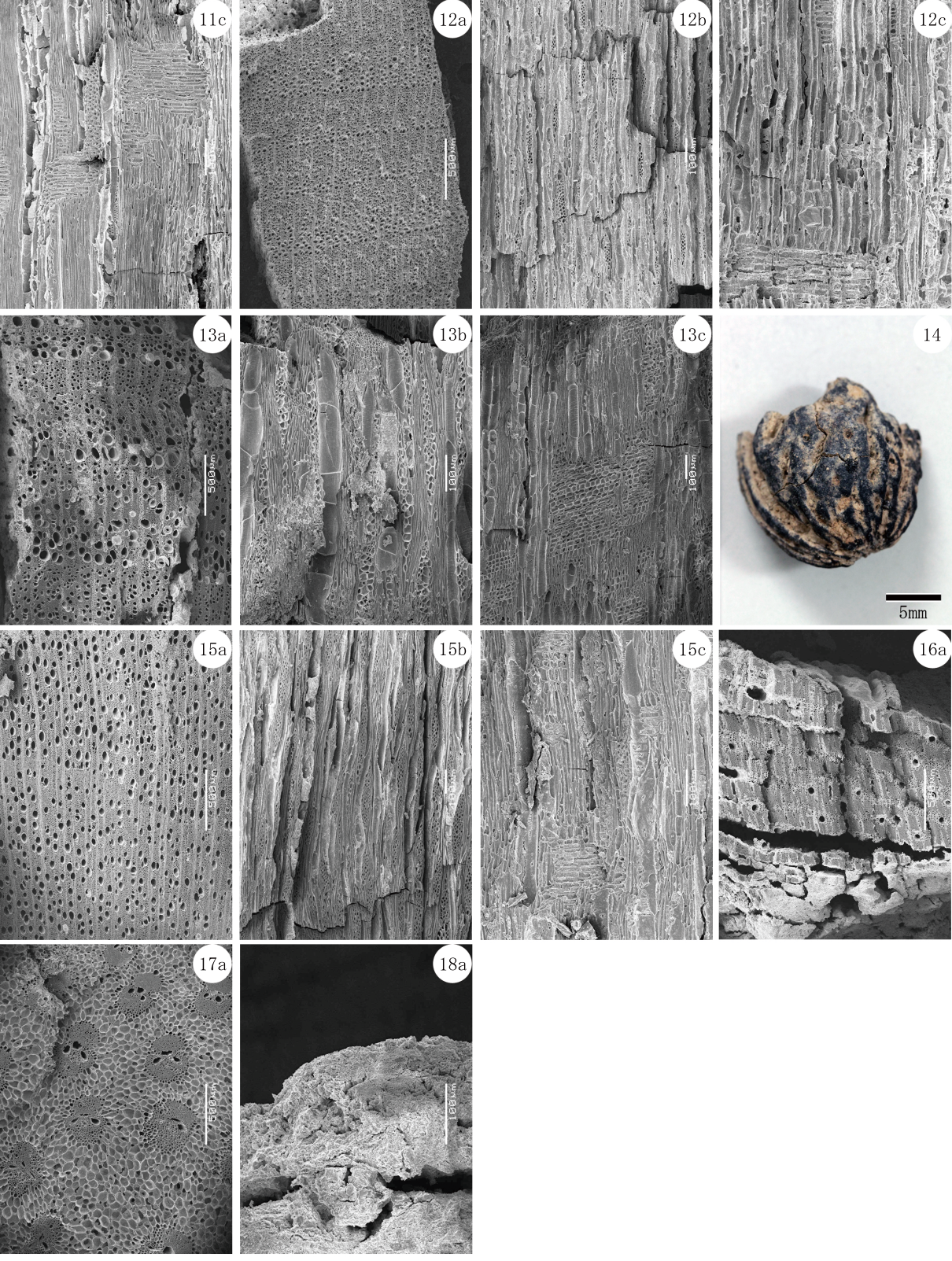
a:横断面、b:接線断面、c:放射断面



図版2　東下地遺跡出土炭化材の実体顕微鏡写真・走査型電子顕微鏡写真(2)

6b-6c. スダジイ(No. 37)、7a-7c. コナラ属アカガシ亜属(No. 42)、8a-8c. コナラ属コナラ節(No. 22)、9a-9c. コナラ属コナラ節(No. 46)、10a-10c. クワ属(No. 32)、11a-11b. クワ属(No. 33)

a:横断面、b:接線断面、c:放射断面



図版3　東下地遺跡出土炭化材の実体顕微鏡写真・走査型電子顕微鏡写真(3)

11c. クワ属(No. 33)、12a-12c. ツバキ属(No. 3)、13a-13c. モモ(No. 10)、14. モモ炭化核(No. 14)、15a-15c. クマノミズキ類(No. 26)、16a. 広葉樹(No. 6)、17a. タケ亜科(No. 21)、18a. 不明(No. 38)

a:横断面、b:接線断面、c:放射断面

第４章（３）東下地遺跡のプラント・オパール分析

森　将志（パレオ・ラボ）

1．はじめに

愛知県豊橋市に所在する東下地遺跡では、古代以前や古墳時代の水田耕作土が検出されている。以下では、東下地遺跡で採取された試料について行ったプラント・オパール分析の結果を示し、イネ科植物相について検討した。

2．分析試料および方法

分析試料は、Ab 区の北側トレンチ北西角と Bb 区の P-1、P-2 から採取された計 19 試料である（表 1）。Ab 区北側トレンチ北西角では分析 No.18 が古代以前の水田耕作土、Bb 区の P-1 では分析 No.6 が弥生時代中期後葉～古墳時代終末期の水田耕作土、Bb 区の P-2 では分析 No.9,10 が弥生時代中期後葉～古墳時代終末期の水田耕作土と考えられている。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約 1g（秤量）をトールビーカーにとり、約 0.02g のガラスビーズ（直径約 0.04mm）を加える。これに 30%の過酸化水素水を約 20～30cc 加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により 0.01mm 以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが 300 個に達するまで行った。また、保存状態の良好な植物珪酸体を選んで写真を撮り、図版 1 に載せた。

表1　分析試料一覧表

地点	遺構	層位	分析No.	層相	備考
Ab区	北側トレンチ北西角	4	No.19	灰黄褐色（10YR4/2）細礫	
		5	No.18	灰黄褐色（10YR4/2）シルト	古代以前の水田耕作土
		6	No.17	灰黄褐色（10YR5/2）シルト	
		7	No.16	にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト	
Bb区	P-2	1	No.15	灰黄褐色（10YR6/2）礫・シルト	
		2	No.14	明黄褐色（10YR7/6）礫	
		3	No.13	褐灰色（10YR4/1）シルト	
		10	No.12	にぶい黄橙色（10YR7/3）シルト	
		12	No.11	灰黄褐色（10YR5/2）シルト	
		13	No.10	褐灰色（10YR4/1）シルト	弥生時代中期後葉～古墳時代終末期の水田耕作土
		30	No.9	黒褐色（10YR3/2）シルト	
		31	No.8	黒褐色（10YR3/2）礫・シルト	
Bb区	P-1	1	No.7	褐灰色（10YR4/2）シルト・礫	
		2	No.6	にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト	弥生時代中期後葉～古墳時代終末期の水田耕作土
		4	No.5	灰黄褐色（10YR4/2）シルト	
		13	No.4	にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト	
			No.3		
			No.2		
			No.1		

3．結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料 1g 当りの各プラント・オパール個数を求め（表 2）、分布図に示した（図 1）。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は、試料 1g 当りの検出個数である。

表2　試料1g当りのプラント・オパール個数

		イネ（個/g）	イネ穎破片（個/g）	ネザサ節型（個/g）	ササ属型（個/g）	他のタケ亜科（個/g）	ヨシ属（個/g）	シバ属（個/g）	キビ族（個/g）	ウシクサ族（個/g）	ポイント型珪酸体（個/g）
Ab区北側トレンチ北西角	No. 19	8,200	0	19,400	1,000	7,200	0	0	7,200	47,100	0
	No. 18	1,000	0	0	0	0	1,000	0	2,100	23,100	0
	No. 17	1,100	0	7,400	2,100	2,100	0	0	7,400	46,700	0
	No. 16	3,400	0	9,000	1,100	3,400	0	0	16,900	27,000	0
Bb区P-2	No. 15	2,200	0	20,700	0	2,200	0	0	9,800	33,700	0
	No. 14	43,000	3,400	21,500	0	9,000	3,400	3,400	39,600	114,200	3,400
	No. 13	27,800	1,100	18,200	0	2,100	0	1,100	20,300	74,900	4,300
	No. 12	15,300	0	8,200	0	1,200	0	0	27,100	53,000	0
	No. 11	9,700	1,200	12,100	2,400	9,700	3,600	1,200	18,200	86,100	1,200
	No. 10	2,500	0	13,600	3,700	3,700	3,700	0	14,800	56,900	0
	No. 9	13,400	0	26,900	1,100	9,000	2,200	0	21,300	86,200	0
	No. 8	2,100	1,000	8,200	0	2,100	1,000	0	2,100	10,300	0
Bb区P-1	No. 7	5,700	0	8,000	0	2,300	2,300	0	21,800	56,200	0
	No. 6	1,200	0	8,100	0	1,200	2,300	0	12,700	46,300	0
	No. 5	8,500	2,400	13,400	1,200	8,500	1,200	0	19,500	79,100	0
	No. 4	3,600	0	3,600	0	2,400	1,200	0	14,500	41,200	0
	No. 3	4,500	0	5,700	0	2,300	0	0	5,700	32,900	0
	No. 2	1,200	0	13,000	0	3,500	0	0	8,300	17,700	2,400
	No. 1	3,500	0	30,200	0	2,300	1,200	0	25,500	63,800	0

検鏡の結果、19 試料からイネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ササ属型機動細胞珪酸体、他のタケ亜科機動細胞珪酸体、ヨシ属機動細胞珪酸体、シバ属機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の 8 種類の機動細胞珪酸体の産出が確認できた。このうち、産出が目立つのがイネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体である。イネ機動細胞珪酸体は全ての試料から産出しており、1,000 個～43,000 個である。特に分析 No. 14 では 43,000 個と最も高い値を示す。また、分析 No. 5, 8, 11, 13, 14 ではイネ機動細胞珪酸体と共にイネ穎破片の産出も見られた。ネザサ節型機動細胞珪酸体は分析 No. 18 では産出していないが、それ以外の試料から産出が見られ、3,600～30,200 個である。キビ族機動細胞珪酸体とウシクサ族機動細胞珪酸体は全ての試料で産出が見られ、キビ族機動細胞珪酸体が 2,100 個～39,600 個、ウシクサ族機動細胞珪酸体が 10,300 個～114,200 個の産出量である。

4. 考察

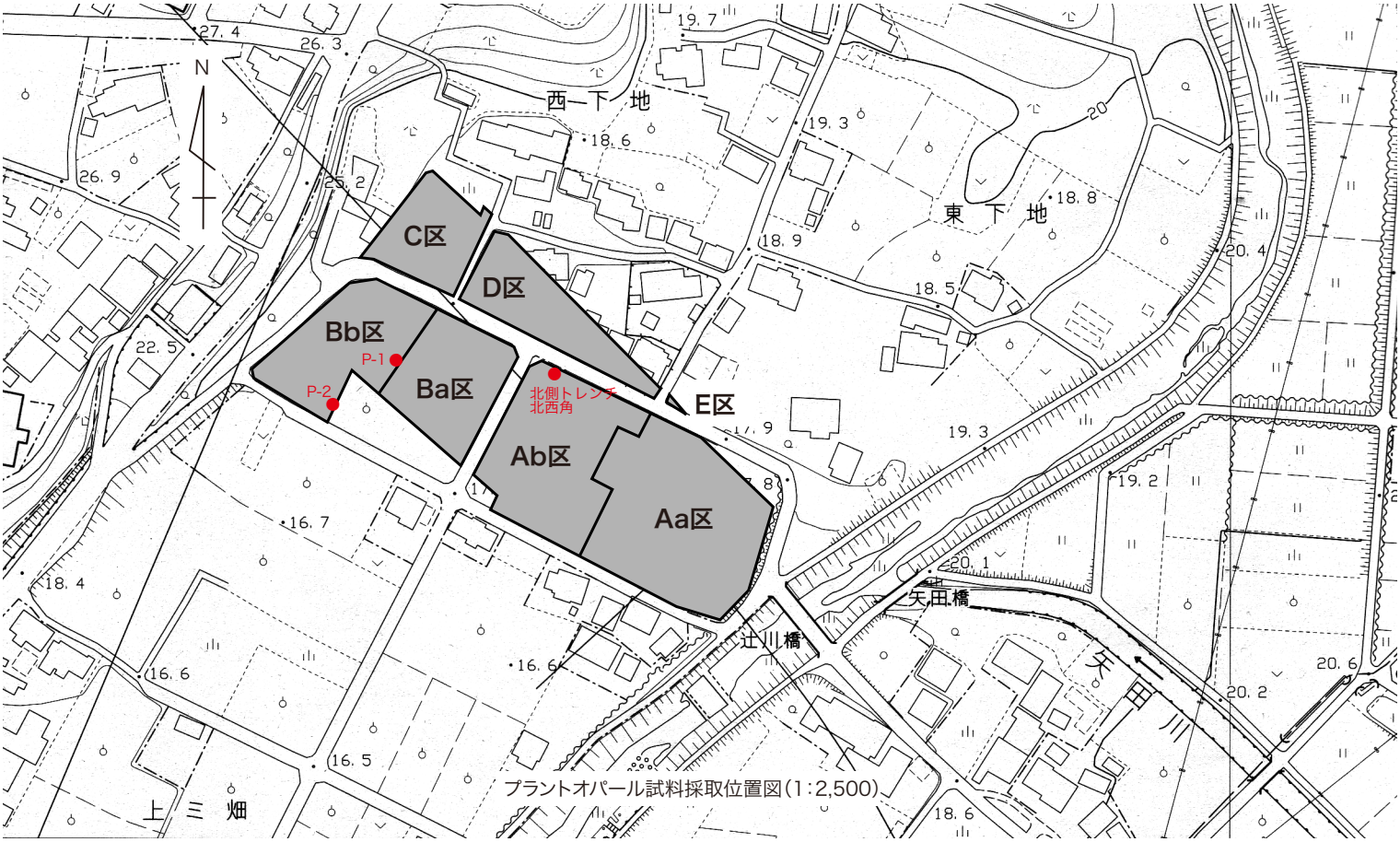
まず、イネ機動細胞珪酸体に注目すると、いずれの地点においても水田耕作土と想定される試料以外からも産出が確認できた。イネ機動細胞珪酸体の産出量については、試料 1g 当り 5,000 個以上検出された地点の分布範囲と、実際の発掘調査で検出された水田址の分布がよく対応する結果が得られており（藤原, 1984）、試料 1g 当り 5,000 個が水田土壌か否かを判断する目安とされている。この目安に照らし合わせてみても、イネ機動細胞珪酸体の産出量は試料によって様々であり、特に水田耕作土に限って多く産出しているような状況はない。分析 No. 14 の例のように、水田とは思われない細～中礫主体の層で多く産出しており、イネ機動細胞珪酸体の供給については、水田稲作によるものの他に、何らかの営力によってもたらされた可能性なども考えられる。

その他の分類群では、ネザサ節型機動細胞珪酸体やキビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の産出が目立つ。ネザサ節型機動細胞珪酸体については、遺跡周辺の陽のあたる明るい場所に生育していたネザサ節のササ類から供給されたと思われる。ウシクサ族機動細胞珪酸体については、遺跡周辺の湿地的環境に生育する種（オギなど）や遺跡周辺の乾燥的環境に生育する種（ススキやチガヤなど）由来の珪酸体が含まれている可能性がある。また、キビ族機動細胞珪酸体については、栽培

種P 野生種の両方に由来する機動細胞珪酸体が含まれている可能性があるが、機動細胞珪酸体の形態で種を区別するのは難しい。稲作が行われていた耕作層という点b 考慮すると、水田耕作土とされている．1 区の分析 No. 6 や No. 96 No. 106 -1 区の分析 No. 18 には、稲作にともなう雑草類（タイヌビエなど）由来の機動細胞珪酸体が含まれている可能性が考えられる7

引用文献

藤原宏志（1984）プラント・オパール分析法とその応用－先史時代の水田址探査－．考古学ジャーナル，227，%-7



プラントオパール試料採取位置図（1：2,500）

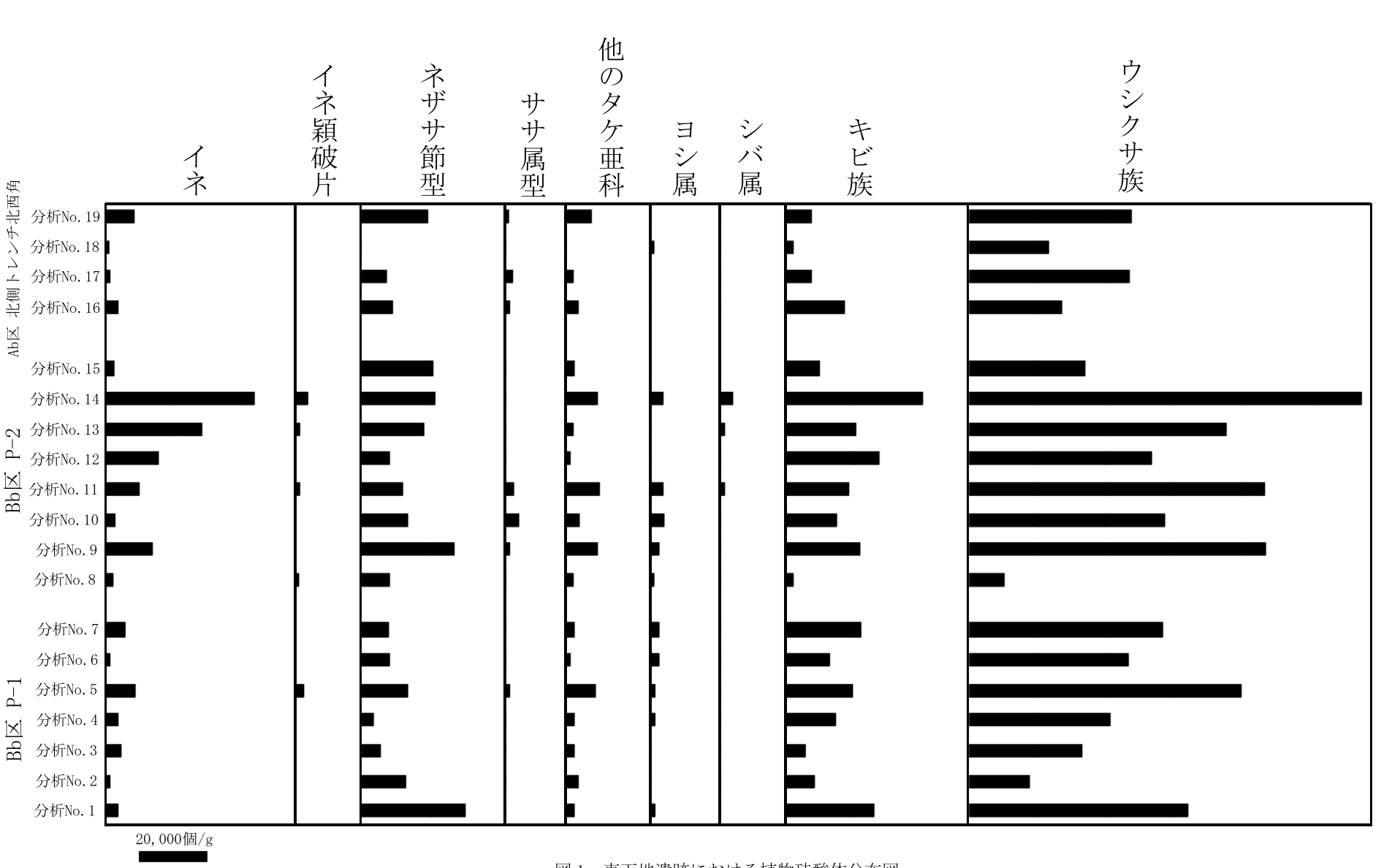
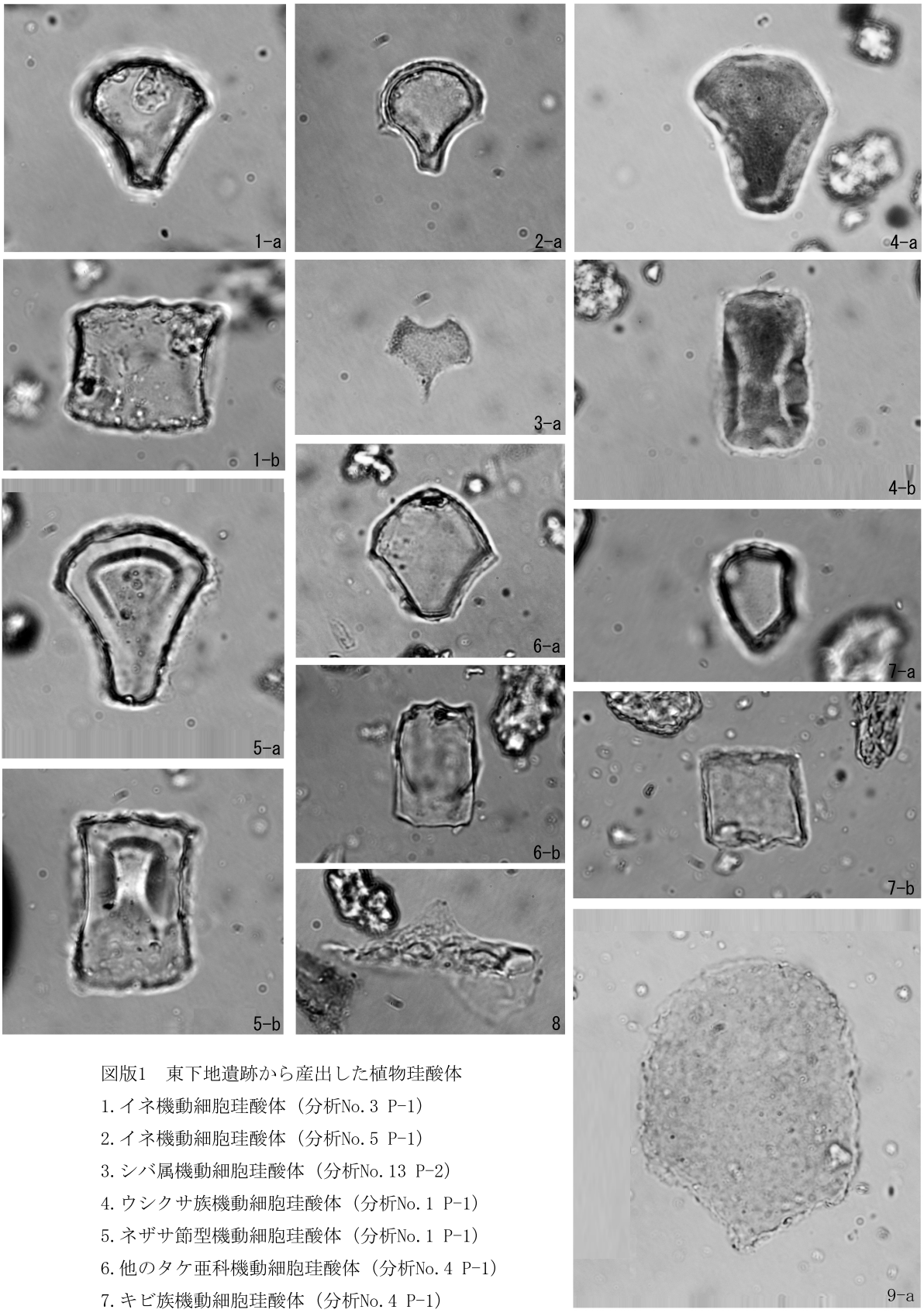


図１　東下地遺跡における植物珪酸体分布図



図版1　東下地遺跡から産出した植物珪酸体

1.イネ機動細胞珪酸体（分析No.3 P-1）

2.イネ機動細胞珪酸体（分析No.5 P-1）

3.シバ属機動細胞珪酸体（分析No.13 P-2）

4.ウシクサ族機動細胞珪酸体（分析No.1 P-1）

5.ネザサ節型機動細胞珪酸体（分析No.1 P-1）

6.他のタケ亜科機動細胞珪酸体（分析No.4 P-1）

7.キビ族機動細胞珪酸体（分析No.4 P-1）

8.イネ穎破片（分析No.13 P-2）

9.ヨシ属機動細胞珪酸体（分析No.1 P-1）

a:断面　b:側面